

# 綿貫伊勢遺跡

— 本文編 —

国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

群馬県高崎土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

綿貫伊勢遺跡

— 本文編 —

国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一三  
群馬県高崎土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 綿貫伊勢遺跡

— 本文編 —

国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

群馬県高崎土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





綿貫伊勢遺跡（写真中央右の発掘区）、綿貫牛道遺跡（同中央の発掘区）、綿貫原北遺跡（同中央左の発掘区）の空中写真（デジタルモザイク写真）。

写真上は東南流する井野川、写真左の南北に縦貫する道路は前橋長潁線バイパス。そして写真右隅、遺跡南東の古墳は「綿貫観音山古墳」である。



2区1号土器埋設遺構土器出土状態



2区2号土器埋設遺構土器出土状態



2区1号窯全景



2区2号井戸全景



593B4



608B1



612B30



612B29



601B5



619B1



612B28



598B3



608B3



608B5



612B31



608B4



608B2



593B3



563B1



632B2

## 序

東毛広域幹線道路は、群馬県域の東毛と県央とを直結する新たな動脈として期待され、その整備は「はばたけ群馬・県土整備プラン」の主要な事業として、推進されてきました。国道354号のバイパス建設は、この東毛広域幹線道路の中核と位置づけられています。

本書で報告いたします綿貫伊勢遺跡は、高崎駅東口に直結する計画路線域の高崎市綿貫町に所在し、この国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴い発掘調査された遺跡です。

調査は、群馬県高崎土木事務所から委託を受け、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成19・20・21年度に実施しました。その結果、住居約300軒に及ぶ古墳時代前期から平安時代の集落、14世紀から16世紀にわたる中世屋敷など、様々な遺構と遺物が発見されました。この地域には史跡観音山古墳があり、鎌倉時代からは中世武士綿貫氏の活躍が知られていました。この度の成果は、先に刊行いたしました『綿貫牛道遺跡』・『綿貫原北遺跡』とともに、地域史解明に寄与するものと考えております。

最後に、発掘調査の実施から本書の刊行にいたるまで、群馬県高崎土木事務所、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には終始ご協力を賜りました。上梓にあたり、皆様方に心から感謝申し上げます。

平成25年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理 事 長 須 田 榮 一



## 例 言

1. 本書は国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴い発掘調査し、社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業として整理作業を行った「綿貫伊勢遺跡」の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 遺跡は高崎市綿貫町1726-2・1727-1・1727-2・1737-1・1737-2・1738・1739・1740-4番地(以上1区)、1728-2・1729-1・1736-1・1736-2番地(以上2区)、1735番地(以上3区)に所在する。
3. 事業主体は群馬県西部県民局高崎土木事務所である。
4. 発掘調査の主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月に公益財団法人に組織改正)である。
5. 調査履行期間は平成19年12月1日～平成20年3月31日、平成20年3月31日～同年6月30日、平成20年5月15日～平成21年3月31日、平成21年3月31日～同年11月30日である(調査期間は平成20年1月4日～同年3月31日、平成20年4月1日～平成21年3月31日、平成21年4月1日～同年8月31日である)。
6. 発掘調査体制は次のとおりである(職名は当時)。

平成19年度 2区  
発掘調査担当 洞口正史(主任専門員(総括))、飯森康広(専門員(主幹))、真下裕章(主任調査研究員)  
遺跡掘削請負工事 技研測量設計株式会社  
委託 地上測量:技研測量設計株式会社 空中写真撮影:技研測量設計株式会社  
平成20年度 1・2・3区  
発掘調査担当 岩崎泰一(主任専門員(総括))、谷藤保彦(主任専門員(総括))、洞口正史(主任専門員(総括))、笹沢弘紀(調査研究員)  
遺跡掘削請負工事 技研測量設計株式会社  
委託 地上測量:株式会社横田調査設計 空中写真撮影:株式会社シン技術コンサル  
平成21年度 1区  
発掘調査担当 菊池実(上席専門員)、山田精一(主任調査研究員)  
遺跡掘削請負工事 スナガ環境測設株式会社  
委託 地上測量・空中写真撮影:株式会社シン技術コンサル
7. 整理事業の期間と体制は次のとおりである(職名は当時)。

整理履行期間 平成22年4月1日～平成25年3月31日(整理期間 平成22年4月1日～平成25年3月31日)  
整理担当 菊池 実(上席専門員)・飯森康広(専門員(総括))  
遺物写真撮影:佐藤元彦(補佐) 保存処理:関 邦一(補佐)
8. 本書作成の担当者は次のとおりである。

編集 菊池 実・飯森康広、デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)  
本文執筆 菊池 実(第1～3章、第4章第1節1、同第2節、第6章第1～3項)、飯森康広(第3章第2節7・8、第4章第1節2、同第3・4節、第6章第4・5項)。なお、第5章は鑑定分析報告書(第1・2項:橋崎修一郎(生物考古学研究所)、第3・4項:株式会社火山考古学研究所、第5・6項:株式会社バレオ・ラボ)を再編集した。  
遺物観察 石器・石造物:岩崎泰一(上席専門員) 縄文土器:谷藤保彦(上席専門員) 土師器・須恵器:神谷佳明(上席専門員) 中近世陶磁器・土器:大西雅広(上席専門員) 石材鑑定:飯島静男(群馬地質研究会) 出土人骨鑑定:橋崎修一郎(生物考古学研究所)
9. 発掘調査および報告書作成に際しては、群馬県教育委員会・高崎市教育委員会をはじめ、関係機関ならびに多くの方々のご協力、ご指導をいただきました。記して感謝いたします。
10. 綿貫伊勢遺跡の出土遺物と調査・整理の諸資料(遺構図・遺物実測図・写真類・各種 台帳類)は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

# 凡例

1. 遺構平面は世界測地系(測量法改正2002年4月1日)を用いて測量した。本文中に使用した方位は全て国家座標北を表している。真北との偏差は、調査区中央付近で、東偏0度26分39秒である。
2. 遺構断面実測図、等高線に記した数値は標高を表し、単位はmを使用した。
3. 遺構名称は1区・2区・3区の各区で遺構種類ごとに通し番号をつけ、番号・遺構種類名で呼称した。また本文中では1区・2区・3区に分けて報告する。

4. 遺構・遺物実測図の縮尺は原則として以下のとおりである。






遺構 住居・竪穴状遺構-1:60、カマド-1:30、掘立柱建物-1:80、土坑-1:30、1:60、

ピット-1:80、溝-1:40、1:60、1:80、1:100、1:200

遺物 土器-1:3、1:4、1:6 石器・石製品-1:1、1:3、鉄製品-1:2

5. 本書の図版に使用したスクリーンパターンは次のことを表示している。なお、2種類が重なる場合、スクリーンパターンを重ねてある。

硬化面  焼土  灰  炭化物  粘土  赤色塗彩  漆  灰釉 

黒色処理  燻  砂目粘土  磨滅  煤 

6. 住居の床面積は、デジタルプランメーターにより住居の壁の内側を3回計測した平均値である。住居の方位はカマドを持つ壁に直交する壁を主軸線とした。遺構の計測値で全体を計測できないものについては、現存の値を記載し〔 〕に、推定で全体がわかるものについては〔 〕に表示した。

7. 掘立柱建物の柱穴は、平面測量時の底面標高測点を原則として中心とし、その心々距離を計測した。各辺の長さの計測も同様とし、その平均を乗じて面積を算出した。なお、下屋及び庇を持つ場合も、同様に算出し加えた。下屋と庇の分類は、民家建築への移行を意識し、1mを境に狭い方を下屋、広い方を庇と表現した。また、調査区域外に延びるなど、建物が収束しない場合、m以上、m以上と記載した。

主軸方位は棟方向を計測し、桁側二辺の方位を数値幅として、～によって示した。桁側長(桁行)を平均し、これを柱間を除いて、桁行平均柱間を算出し、柱穴の偏りを判断する基準とした。規格については、中世のものに関して、梁間1間型か梁間2間型かに着目し、梁間○間型の桁行○間と示した。ただし、正方形・方形のものは棟方向が不明のため、南北○間×東西○間とした。それ以外については、通例に従い桁行・梁間の順で桁行○×梁間○間と記載することとした。柱穴は新たにP 1から順に時計回りで付番し、調査時に呼称されたピット番号はそのまま残し計測表に付記し、非掲載遺物との照合に配慮した。

8. 遺構名称は原則調査段階のものを踏襲し、欠番もそのままとした。また、やむを得ず整理段階で付番し直した場合も元番号を欠番とし、改称後の遺構本文中に旧名称を明記した。なお、欠番は以下のとおりである。

1区 住居21・78・79・81・97・176・190・195

2区 住居5・19・84 / 掘立柱建物 1 / 土坑12・22・24・28・33・35・71 / 竪1 / ピット34・3845・75・76・91・128・145・182・188・190・295・585・588・603・700～704・710・713 / 溝5～7

9. 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。

・土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に基づいている。

・胎土表記中の細砂・粗砂・礫については、径2mm以上を礫、径2～0.2mmを粗砂、径0.2mm以下を細砂とした。

・計測値の口：口径、胴：胴径、底：底径、高：器高、台：高台径を示す。単位はcmである。

- ・金属器観察表の計測値に( )がついているものは残存部分での値である。
- ・石斧刃部側の摩耗痕については縦位定規線で、着柄部と想定される部分の摩耗痕については横位定規線で図示した。
- ・磨石等礫石器類に用いた縦位・横位定規線は摩耗範囲を示す。その他の斜位定規線は線条痕の走行を示す。

10. 陶磁器の分類・掲載は以下に拠った。

- ・「在地系土器」は、従来「軟質陶器」、「土師質土器」と呼称された焼き物である。
- ・中世片口鉢は、使用痕からすると「すり鉢」と呼ぶべきであるが、従来の呼称に従った。また、破片の場合すり目の有無が不明であることから、残存部のすり目の有無にかかわらず「片口鉢」とした。
- ・片口鉢と内耳鍋の使用痕：器表が摩滅して下部の胎土が露出した範囲を実線、摩滅度合いが少なく平滑となった範囲を破線で表した。なお、二次的な使用痕である底部外面周縁の摩滅は図示していない。
- ・中世在地系土器胎土は、以下により A・B 2 種類に分類した。
  - A：透明鉱物、黒色鉱物、片岩細片含む。透明鉱物と片岩由来の雲母など多くを含む。
  - B：透明鉱物と黒色鉱物含む。片岩含まない。
- ・中世在地系の片口鉢と内耳鍋は、星野守弘「軟質陶器」『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市 平成8年による。
  - 内耳鍋 I 期：14世紀後半頃 II 期：14世紀末～15世紀前半 III 期：15世紀中頃 IV 期：15世紀後半頃 V 期：16世紀前半
  - 片口鉢 I 期：14世紀前半頃 II 期：14世紀中頃 III 期：14世紀後半頃 IV 期：15世紀前半頃 V 期：15世紀後半頃 VI 期：15世紀後半から16世紀
- ・中世在地系の皿は、木津博明「検出された遺構と遺物について」『上野国分僧寺・尼寺中間地域1』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986による。
- ・肥前陶磁器は『九州陶磁の編年-九州近世陶磁学会10周年記念-』九州近世陶磁学会 2000による。
- ・12～13世紀の中国磁器は、横田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集 4』九州歴史資料館 1978による。白磁の分類は森田勉「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究 No.2』貿易陶磁研究会 1982による。

11. 土器に関する分類上の大小は以下による。

- ・灰軸陶器：大型品(壺類)、小型品(碗・杯・皿類)
- ・須恵器：大型品(壺・甕類・羽釜・瓶類)、中型品(高杯・盤類・甕)、小型品(碗・杯・皿類)
- ・土師器：大型品(壺・甕類・土釜)、中型品(高杯類・古式土師小型丸底壺など)、小型品(碗・杯類・手捏ね)

12. 本書で使用した浅間山及び榛名山噴火による降下火砕物等の呼称については以下の表記をともに使用する。原則、一次堆積の場合はテフラ名(As-B など)を使用し、埋没土に含まれる場合は軽石名として、F P などを使用した。

浅間A軽石：As-A (1783年) 浅間Bテフラ：As-B (1108年) 榛名山二ツ岳軽石：Hr-PP (6世紀中葉)

榛名山二ツ岳火山灰：Hr-FA (6世紀初頭) 浅間C軽石：As-C (3世紀終末～4世紀初頭)

浅間板鼻黄色軽石：As-YP 浅間板鼻褐色軽石：As-BP

13. 本書に掲載した地図は下記のものを使用した。

国土地理院 地形図1:25,000「高崎」(平成14年5月1日発行)

国土地理院 地勢図1:200,000図「宇都宮」(平成18年4月1日発行)「長野」(平成10年2月1日発行)

高崎市 1:2,500全図(昭和54年測量)

第一軍管地方迅速測図『倉賀野駅』(明治18年測図)

# 目次

口絵	1・2	4 窯	655
序		5 井戸	655
例言		6 ビット	662
凡例		7 土器埋設遺構	671
目次		8 墓	673
挿図目次		9 火葬跡	673
表目次		10 集石遺構	675
		11 溝	675
		12 1号屋敷(中世)	684
		13 遺構外出土遺物	734
第1章 発掘調査に至る経緯	1	第4節 3区の遺構と遺物	
第2章 発掘調査の方法と経過		1 竪穴住居	764
第1節 発掘調査の方法		2 掘立柱建物	767
1 グリッドの設定	4	3 土坑	773
2 調査区の設定	4	4 井戸	775
3 遺構の調査	4	5 ビット	778
第2節 調査の経過	4	6 墓	781
第3節 整理作業の方法	10	7 溝	781
第3章 遺跡の立地と周辺の遺跡		8 遺構外出土遺物	785
第1節 遺跡の立地	11	第5章 鑑定分析・自然科学分析	
第2節 周辺の遺跡	14	第1項 出土人骨鑑定分析	790
第4章 発掘調査の記録		第2項 出土獣骨鑑定分析	793
第1節 遺跡の概要		第3項 2区のテフラ分析	794
1 遺構の概要	23	第4項 2区の植物珪酸体分析	797
2 基本土層	24	第5項 出土木材の樹種同定	800
第2節 1区の遺構と遺物		第6項 出土した大型植物遺体同定	806
(1) 竪穴住居	28	第6章 まとめと考察	
(2) 土坑	346	第1項 縄文時代	819
(3) 井戸	374	第2項 古墳時代～平安時代の集落変遷	819
(4) ビット	385	第3項 石器類	826
(5) 溝	413	第4項 中世	830
(6) 遺構外出土遺物	427	第5項 近世	838
第3節 2区の遺構と遺物		報告書抄録	
1 竪穴住居	485		
2 掘立柱建物	633		
3 土坑	643		





第1820区	1区143号住居(1)	204
第1830区	1区143号住居(2)	205
第1840区	1区166号住居	206
第1850区	1区17号住居	207
第1860区	1区148・149号住居(1)	208
第1870区	1区148・149号住居(2)	209
第1880区	1区150号住居(1)	210
第1890区	1区150号住居(2)	211
第1900区	1区151号住居	212
第1910区	1区152号住居(1)	213
第1920区	1区153号住居(1)	214
第1930区	1区153号住居(2)	215
第1940区	1区154・159号住居(1)	216
第1950区	1区154・159号住居(2)	217
第1960区	1区155号住居(1)	219
第1970区	1区155号住居(2)	220
第1980区	1区156・157・187号住居(1)	221
第1990区	1区156・157・187号住居(2)	222
第2000区	1区158号住居	223
第2010区	1区159号住居	224
第2020区	1区160号住居	225
第2030区	1区161号住居(1)	226
第2040区	1区161号住居(2)	227
第2050区	1区162・163号住居(1)	228
第2060区	1区162・163号住居(2)	229
第2070区	1区162・163号住居(3)	230
第2080区	1区164号住居	231
第2090区	1区165号住居	232
第2100区	1区166号住居	234
第2110区	1区167・194号住居	235
第2120区	1区169・170号住居	236
第2130区	1区171号住居	237
第2140区	1区172・173号住居	239
第2150区	1区173・204号住居	240
第2160区	1区177号住居(1)	241
第2170区	1区177号住居(2)	242
第2180区	1区178・201号住居	243
第2190区	1区179号住居(1)	245
第2200区	1区179号住居(2)	246
第2210区	1区180・202号住居	248
第2220区	1区181・182号住居(1)	249
第2230区	1区181・182号住居(2)	250
第2240区	1区181・182号住居(3)	251
第2250区	1区183号住居(1)	252
第2260区	1区183号住居(2)	253
第2270区	1区184・185号住居(1)	254
第2280区	1区184・185号住居(2)	255
第2290区	1区186号住居(1)	256
第2300区	1区186号住居(2)	257
第2310区	1区188・189号住居(1)	258
第2320区	1区186号住居(1)	260
第2330区	1区190号住居(2)	261
第2340区	1区197・199号住居(1)	262
第2350区	1区197・199号住居(2)	263
第2360区	1区197・199号住居(3)	264
第2370区	1区200・201・205号住居	265
第2380区	1区1・5・7号住居出仕土壌物	267
第2390区	1区7・8号住居出仕土壌物	268
第2400区	1区8・12・14・15号住居出仕土壌物	269
第2410区	1区15・18号住居出仕土壌物	270
第2420区	1区17・18号住居出仕土壌物	271
第2430区	1区18・20号住居出仕土壌物	272
第2440区	1区22・23号住居出仕土壌物	273
第2450区	1区24・25・30・35号住居出仕土壌物	274
第2460区	1区36・38号住居出仕土壌物	275
第2470区	1区38号住居出仕土壌物	276
第2480区	1区38号住居出仕土壌物	277
第2490区	1区39・41号住居出仕土壌物	278
第2500区	1区42・44・46号住居出仕土壌物	279
第2510区	1区46・50号住居出仕土壌物	280
第2520区	1区51・52号住居出仕土壌物	281
第2530区	1区52・53号住居出仕土壌物	282
第2540区	1区54号住居出仕土壌物	283
第2550区	1区55・56号住居出仕土壌物	284
第2560区	1区57・61号住居出仕土壌物	285
第2570区	1区62号住居出仕土壌物	286
第2580区	1区62・65・66号住居出仕土壌物	287
第2590区	1区66・68・70・72・75号住居出仕土壌物	288
第2600区	1区71・73号住居出仕土壌物	289
第2610区	1区74・76号住居出仕土壌物	290
第2620区	1区77・80・83号住居出仕土壌物	291
第2630区	1区82・84・86号住居出仕土壌物	292
第2640区	1区86・87号住居出仕土壌物	293
第2650区	1区88・90号住居出仕土壌物	294
第2660区	1区90・91号住居出仕土壌物	295
第2670区	1区91号住居出仕土壌物	296
第2680区	1区91号住居出仕土壌物	297
第2690区	1区91号住居出仕土壌物	298
第2700区	1区91号住居出仕土壌物	299
第2710区	1区91号住居出仕土壌物	300
第2720区	1区92・93号住居出仕土壌物	301
第2730区	1区93・95号住居出仕土壌物	302
第2740区	1区95・96号住居出仕土壌物	303
第2750区	1区96号住居出仕土壌物	304

第2760区	1区98・99号住居出仕土壌物	305
第2770区	1区100号住居出仕土壌物	306
第2780区	1区101・102号住居出仕土壌物	307
第2790区	1区103・104号住居出仕土壌物	308
第2800区	1区105・106・107号住居出仕土壌物	309
第2810区	1区111号住居出仕土壌物	310
第2820区	1区111号住居出仕土壌物	311
第2830区	1区111・114・115・117・119号住居出仕土壌物	312
第2840区	1区118号住居出仕土壌物	313
第2850区	1区118・120・122号住居出仕土壌物	314
第2860区	1区121・125・126号住居出仕土壌物	315
第2870区	1区127号住居出仕土壌物	316
第2880区	1区129・130号住居出仕土壌物	317
第2890区	1区132号住居出仕土壌物	318
第2900区	1区133・136号住居出仕土壌物	319
第2910区	1区136・137号住居出仕土壌物	320
第2920区	1区138号住居出仕土壌物	321
第2930区	1区138号住居出仕土壌物	322
第2940区	1区138・140号住居出仕土壌物	323
第2950区	1区141・143号住居出仕土壌物	324
第2960区	1区143・145号住居出仕土壌物	325
第2970区	1区145・146号住居出仕土壌物	326
第2980区	1区146・148号住居出仕土壌物	327
第2990区	1区148・149号住居出仕土壌物	328
第3000区	1区150・151号住居出仕土壌物	329
第3010区	1区152号住居出仕土壌物	330
第3020区	1区153・155号住居出仕土壌物	331
第3030区	1区155号住居出仕土壌物	332
第3040区	1区156・160号住居出仕土壌物	333
第3050区	1区161号住居出仕土壌物	334
第3060区	1区162・164・166・168号住居出仕土壌物	335
第3070区	1区169・171・172号住居出仕土壌物	336
第3080区	1区177・181号住居出仕土壌物	337
第3090区	1区181号住居出仕土壌物	338
第3100区	1区181・183号住居出仕土壌物	339
第3110区	1区183・184号住居出仕土壌物	340
第3120区	1区184・186号住居出仕土壌物	341
第3130区	1区186・188・189号住居出仕土壌物	342
第3140区	1区191・193・194・196・198・200・202号住居出仕土壌物	343
第3150区	1区195・197号住居出仕土壌物	344
第3160区	1区198号住居出仕土壌物	345
第3170区	1区1土・1号分団	346
第3180区	1区1・10号土	348
第3190区	1区11・18号土	350
第3200区	1区19・21号土	352
第3210区	1区20・41号土	353
第3220区	1区40・42・50号土	356
第3230区	1区51・30号土	357
第3240区	1区60・30号土	358
第3250区	1区71・10号土	359
第3260区	1区82・94号土	363
第3270区	1区95・96・101・108号土	365
第3280区	1区109・113・116・122号土	367
第3290区	1区122・125・138号土	369
第3300区	1区130・40・142・152号土	370
第3310区	1区153・167号土	373
第3320区	1区168・171・174号土	375
第3330区	1区1・5号分団	376
第3340区	1区1号分団(井戸)	377
第3350区	1区1・4・7・15・18・20・26・30・43号土	378
第3360区	1区46・48・50・51・69・70・72・81号土	379
第3370区	1区92・94・102・104・107号土	380
第3380区	1区109・113・119・120・126・143号土	381
第3390区	1区2号分団出仕土壌物	382
第3400区	1区2号分団出仕土壌物	383
第3410区	1区3・5号分団	384
第3420区	1区3号分団(井戸)	385
第3430区	1区1・20・25・44・55・55号土	386
第3440区	1区24・31・57号土	387
第3450区	1区93・106号土	393
第3460区	1区107・120号土	394
第3470区	1区122・135号土	395
第3480区	1区129・283号土	396
第3490区	1区154・172号土	397
第3500区	1区173・178・180・192号土	398
第3510区	1区193・210号土	399
第3520区	1区211・237号土	400
第3530区	1区249・283号土	401
第3540区	1区254・271号土	402
第3550区	1区272・291号土	403
第3560区	1区292・311号土	404
第3570区	1区312・325・325・339号土	405
第3580区	1区330・347・349・351・359号土	406
第3590区	1区361・380・382・384号土	407
第3600区	1区383・419号土	408
第3610区	1区411・423・425・429号土	409
第3620区	1区428・483号土	410
第3630区	1区5・6・17・21・23・32・34・45・67号土	411
第3640区	1区78・84・118・178・261・277・354・366・367・387・421号土	412
第3650区	1区1号分団	415
第3660区	1区1・3号土	415
第3670区	1区4・5・8・12号土	417
第3680区	1区5・7・18・19号土	419

第3690号	1区9～11・13～17・20・21号溝	420
第3700号	1区2号溝	421
第3710号	1区23～26・29～31号溝	422
第3720号	1区27・28号溝	423
第3730号	1区1・2号溝	424
第3740号	1区5・8～10・13・17号溝出土遺物	425
第3750号	1区19・22・23・27・30号溝出土遺物	426
第3760号	遺構内出土遺物(1)	427
第3770号	遺構内出土遺物(2)	428
第3780号	遺構内出土遺物(3)	429
第3790号	2区1・2号住居出土遺物	430
第3800号	2区3号住居	486
第3810号	2区4号住居	487
第3820号	2区4号住居出土遺物	488
第3830号	2区6号住居出土遺物	488
第3840号	2区6号住居	489
第3850号	2区7号住居出土遺物	490
第3860号	2区7号住居カマド	491
第3870号	2区8号住居出土遺物	492
第3880号	2区9号住居出土遺物	493
第3890号	2区9号住居カマド	494
第3900号	2区10号住居	496
第3910号	2区11号住居	497
第3920号	2区10号住居出土遺物	498
第3930号	2区11号住居出土遺物	498
第3940号	2区12号住居	499
第3950号	2区12・13号住居出土遺物	500
第3960号	2区13号住居	501
第3970号	2区14号住居出土遺物	502
第3980号	2区15号住居出土遺物	503
第3990号	2区16号住居出土遺物(1)	504
第4000号	2区16号住居カマド出土遺物(2)	505
第4010号	2区16号住居出土遺物(3)	506
第4020号	2区17号住居	508
第4030号	2区17号住居カマド出土遺物	509
第4040号	2区18号住居	510
第4050号	2区20号住居出土遺物	511
第4060号	2区21号住居出土遺物	512
第4070号	2区22号住居出土遺物	513
第4080号	2区23号住居	514
第4090号	2区24号住居	515
第4100号	2区25・28号住居出土遺物	515
第4110号	2区26号住居	517
第4120号	2区27号住居	518
第4130号	2区28・27・29・30号住居出土遺物	519
第4140号	2区29・30号住居	520
第4150号	2区29・30号住居(2)	521
第4160号	2区31号住居出土遺物	522
第4170号	2区32・33号住居出土遺物	523
第4180号	2区34号住居	525
第4190号	2区35号住居	526
第4200号	2区34～37号住居出土遺物	527
第4210号	2区36号住居	529
第4220号	2区37号住居	530
第4230号	2区38号住居出土遺物	531
第4240号	2区36号住居	532
第4250号	2区39号住居出土遺物(1)	533
第4260号	2区39号住居出土遺物(2)	534
第4270号	2区40号住居出土遺物	535
第4280号	2区41号住居	538
第4290号	2区42号住居出土遺物	537
第4300号	2区43号住居カマド出土遺物(1)	538
第4310号	2区43号住居出土遺物(2)	539
第4320号	2区44号住居カマド出土遺物	540
第4330号	2区44・52号住居	541
第4340号	2区44・45・46号住居出土遺物	542
第4350号	2区45号住居	544
第4360号	2区46号住居	545
第4370号	2区47号住居出土遺物	547
第4380号	2区48号住居	548
第4390号	2区48号住居方出土遺物	549
第4400号	2区49号住居	550
第4410号	2区48号住居出土遺物	551
第4420号	2区50号住居出土遺物	552
第4430号	2区51号住居出土遺物	553
第4440号	2区53号住居出土遺物	555
第4450号	2区54・56号住居	556
第4460号	2区54・56号住居方出土遺物	557
第4470号	2区55号住居	558
第4480号	2区55号住居カマド出土遺物(1)	559
第4490号	2区55号住居出土遺物(2)	560
第4500号	2区55号住居出土遺物(3)	561
第4510号	2区57・58号住居出土遺物	563
第4520号	2区59号住居	564
第4530号	2区59号住居カマド	565
第4540号	2区59号住居出土遺物	566
第4550号	2区60号住居カマド	567
第4560号	2区60号住居	568
第4570号	2区60号住居出土遺物	569
第4580号	2区61号住居出土遺物	570
第4590号	2区62号住居出土遺物	571
第4600号	2区62号住居方	572
第4610号	2区62号住居出土遺物(1)	573
第4620号	2区62号住居出土遺物(2)	574

第4630号	2区63号住居	575
第4640号	2区63号住居カマド	577
第4650号	2区63号住居方出土遺物	578
第4660号	2区63号住居出土遺物(1)	579
第4670号	2区63号住居出土遺物(2)	580
第4680号	2区63号住居出土遺物(3)	581
第4690号	2区66・67・68号住居出土遺物	582
第4700号	2区66号住居カマド	583
第4710号	2区68号住居	583
第4720号	2区68号住居出土遺物(1)	584
第4730号	2区68号住居出土遺物(2)	585
第4740号	2区68号住居出土遺物(3)	586
第4750号	2区69号住居	587
第4760号	2区69号住居出土遺物	588
第4770号	2区70号住居出土遺物(1)	589
第4780号	2区70号住居出土遺物(2)	590
第4790号	2区71号住居	591
第4800号	2区71号住居出土遺物	592
第4810号	2区72号住居	593
第4820号	2区73・74号住居	596
第4830号	2区73号住居出土遺物	596
第4840号	2区75号住居	596
第4850号	2区75号住居出土遺物	596
第4860号	2区76号住居	597
第4870号	2区77号住居	598
第4880号	2区78号住居	599
第4890号	2区78号住居カマド出土遺物	600
第4900号	2区79号住居	601
第4910号	2区79号住居カマド	602
第4920号	2区79号住居出土遺物	603
第4930号	2区80～82・85号住居	604
第4940号	2区80～82・85号住居カマド出土遺物	605
第4950号	2区86号住居出土遺物	607
第4960号	2区87・88号住居	608
第4970号	2区87号住居カマド出土遺物(1)	609
第4980号	2区87号住居出土遺物(2)	610
第4990号	2区88号住居カマド出土遺物	611
第5000号	2区89号住居出土遺物(1)	612
第5010号	2区89号住居出土遺物(2)	613
第5020号	2区90号住居カマド	614
第5030号	2区91号住居出土遺物	615
第5040号	2区92・93号住居	616
第5050号	2区90・91号住居方出土遺物	618
第5060号	2区92号住居	618
第5070号	2区92号住居出土遺物	619
第5080号	2区93号住居出土遺物	620
第5090号	2区93号住居カマド	621
第5100号	2区94・95号住居出土遺物	622
第5110号	2区95号住居出土遺物	623
第5120号	2区96号住居出土遺物(1)	624
第5130号	2区96号住居出土遺物(2)	625
第5140号	2区97号住居	626
第5150号	2区97号住居カマド	627
第5160号	2区98号住居出土遺物(1)	627
第5170号	2区98号住居出土遺物(2)	628
第5180号	2区99号住居	629
第5190号	2区99号住居出土遺物	630
第5200号	2区100号住居方出土遺物	630
第5210号	2区100号住居出土遺物(1)	631
第5220号	2区100号住居出土遺物(2)	632
第5230号	2区2号竪立柱建物	634
第5240号	2区4号竪立柱建物	634
第5250号	2区5号竪立柱建物	635
第5260号	2区6号竪立柱建物	638
第5270号	2区7号竪立柱建物	640
第5280号	2区8号竪立柱建物	640
第5290号	2区9号竪立柱建物	641
第5300号	2区10号竪立柱建物	641
第5310号	2区10号竪立柱建物	641
第5320号	2区25～27・30・43・53・54・57～59号土坑	644
第5330号	2区61～63号土坑	645
第5340号	2区土坑出土遺物	645
第5350号	2区64・72～78号土坑	646
第5360号	2区77～85・97号土坑	647
第5370号	2区86～96・98号土坑	650
第5380号	2区99～112号土坑	654
第5390号	2区1号塚	656
第5400号	2区2号井戸出土遺物(1)	657
第5410号	2区2号井戸出土遺物(2)	657
第5420号	2区4号井戸出土遺物	658
第5430号	2区6～9号井戸	660
第5440号	2区6号井戸出土遺物	660
第5450号	2区井戸出土遺物(2)	660
第5460号	2区南辺ピット群(1)	662
第5470号	2区南辺ピット群(2)と40号ピット出土遺物	663
第5480号	2区56号ピット出土遺物	664
第5490号	2区南辺ピット群(3)と10号ピット出土遺物	666
第5500号	2区南辺ピット群(4)と68号ピット出土遺物	666
第5510号	2区550・566号ピット出土遺物	667
第5520号	2区南辺ピット群(5)	669
第5530号	2区南辺ピット群(6)出土遺物	669
第5540号	2区1～3号土塚埋没遺構と1号土塚埋没遺構出土遺物	671
第5550号	2区2・3号土塚埋没遺構出土遺物	672
第5560号	2区2・3号塚出土遺物	674

第5579区	2区1号火葬跡および出土遺物	674
第5580区	2区東石塚跡の上出土遺物	675
第5590区	2区3-8-10号墳	676
第5600区	2区11-12-14号墳	678
第5610区	2区13-14-1号塚跡および出土遺物	679
第5620区	2区17-19号墳と18号溝跡出土遺物	680
第5630区	2区15-16号溝跡出土遺物(1)	681
第5640区	2区15-16号溝跡出土遺物(2)	682
第5650区	2区17号溝跡出土遺物(1)	682
第5660区	2区17号溝跡出土遺物(2)	682
第5670区	2区1号瓦敷内側立石建物分布図	685
第5680区	2区11号竪立石建物出土遺物	686
第5690区	2区12号竪立石建物	688
第5700区	2区13号竪立石建物	689
第5710区	2区14号竪立石建物	690
第5720区	2区15号竪立石建物出土遺物	690
第5730区	2区16号竪立石建物出土遺物	692
第5740区	2区17号竪立石建物	692
第5750区	2区18号竪立石建物	694
第5760区	2区19号竪立石建物	694
第5770区	2区20号竪立石建物	696
第5780区	2区21号竪立石建物出土遺物	696
第5790区	2区22号竪立石建物	698
第5800区	2区23号竪立石建物	698
第5810区	2区24号竪立石建物	699
第5820区	2区25号竪立石建物	699
第5830区	2区26号竪立石建物	701
第5840区	2区27号竪立石建物	701
第5850区	2区28号竪立石建物	703
第5860区	2区29号竪立石建物	703
第5870区	2区1号柱穴跡	704
第5880区	2区1号埋穴遺構跡出土遺物	705
第5890区	2区1号瓦敷内土坑分布図	707
第5900区	2区1-10・20・31・32号土坑	708
第5910区	2区11-13-16-18-21-29-34号土坑	710
第5920区	2区30-38-42-44-45-56号土坑	713
第5930区	2区出土土遺物	717
第5940区	2区赤-32・55号土坑	716
第5950区	2区1号地下式土坑出土遺物	715
第5960区	2区1-3-5号井戸と3号井戸出土遺物	717
第5970区	2区瓦敷内ピット	717
第5980区	2区瓦敷内ピット1断面図(1)とピット出土遺物(1)	720
第5990区	2区瓦敷内ピット1断面図(2)とピット出土遺物(2)	721
第6000区	2区瓦敷内ピット2	723
第6010区	2区瓦敷内ピット2断面図(1)とピット出土遺物(2)	724
第6020区	2区瓦敷内ピット3	725
第6030区	2区瓦敷内ピット出土遺物(3)	726
第6040区	2区瓦敷内ピット3とピット出土遺物(4)	728
第6050区	2区1号集石遺構	729
第6060区	2区1-4号溝と4号溝跡出土遺物	730
第6070区	2区2号溝跡	731
第6080区	2区2号溝跡出土遺物(1)	732
第6090区	2区2号溝跡出土遺物(2)	733
第6100区	2区2号溝跡出土遺物(3)	734
第6110区	2区瓦敷外出土遺物(1)	735
第6120区	2区瓦敷外出土遺物(2)	736
第6130区	3区1号住居出土遺物	764
第6140区	3区2号住居	765
第6150区	3区3号住居	766
第6160区	3区瓦敷外建物分布図	767
第6170区	3区1号竪立石建物	768
第6180区	3区2号竪立石建物出土遺物	769
第6190区	3区3号竪立石建物出土遺物	771
第6200区	3区4号竪立石建物	771
第6210区	3区5号竪立石建物	772
第6220区	3区1-13号土坑	774
第6230区	3区出土土遺物	775
第6240区	3区1号井戸出土遺物(1)	776
第6250区	3区1号井戸出土遺物(2)	777
第6260区	3区ピット跡	778
第6270区	3区ピット跡	779
第6280区	3区ピット断面図	780
第6290区	3区ピット	780
第6300区	3区1号竪立土遺物	781
第6310区	3区1-5-A・B号溝と4号溝跡出土遺物	782
第6320区	3区1号溝跡出土遺物(1)	783
第6330区	3区1号溝跡出土遺物(2)	784
第6340区	3区2号溝跡出土遺物	784
第6350区	3区瓦敷外出土遺物	785
第6360区	榊原伊勢遺跡2区1号火葬跡出土火葬人骨出土部位図	790
第6370区	榊原伊勢遺跡1区95号住居出土部面出土部位図	793
第6380区	2区深埋トレンチの断面図	795
第6390区	2区深埋トレンチの断面図縮小タイプ図	796
第6400区	2区深埋トレンチにおける植物体分析結果	798
第6410区	植物性遺体(アクト・オーバー)の顕微鏡写真	799
第6420区	榊原伊勢遺跡出土木材の光学・走査電子顕微鏡写真(1)	803
第6430区	榊原伊勢遺跡出土木材の光学・走査電子顕微鏡写真(2)	804
第6440区	榊原伊勢遺跡出土木材の光学・走査電子顕微鏡写真(3)	805
第6450区	榊原伊勢遺跡から出土した大型植物遺体(1)	817
第6460区	榊原伊勢遺跡から出土した大型植物遺体(2)	818
第6470区	1区住居一(電)1	822
第6480区	1区住居一(電)2	822
第6490区	2区住居一(電)	822
第6500区	年代別住居分布図(1)	823

第6510区	年代別住居分布図(2)	824
第6520区	年代別住居分布図(3)	825
第6530区	2区1号塚跡略図	830
第6540区	遺構跡出土中遺物付年代図	830
第6550区	遺構跡付年代図(主要部)	835
第6560区	遺構跡付年代図(内・下層)用和物(縮小写真)	835
第6570区	在来系土器発掘略図	837

## 表目次

第1表	榊原遺跡一覧表	18-19
第2表	遺構跡一覧	24
第3表	1区ピット計測表	387-390
第4表	1区出土遺物調査表	430-484
第5表	2区17号瓦敷外建物計測表	508
第6表	2区55号住居瓦敷外建物計測表	567
第7表	2区60号住居瓦敷外建物計測表	567
第8表	2区62号住居瓦敷外建物計測表	619
第9表	2区25号竪立石建物計測表	636
第10表	2区18号竪立石建物計測表	636
第11表	2区45号竪立石建物計測表	638
第12表	2区55号竪立石建物計測表	637
第13表	2区65号竪立石建物計測表	637
第14表	2区74号竪立石建物計測表	637
第15表	2区85号竪立石建物計測表	642
第16表	2区95号竪立石建物計測表	642
第17表	2区105号竪立石建物計測表	642
第18表	2区ピット部・ピット計測表	667-668
第19表	2区1号瓦敷内・3区住居一(電)	684
第20表	2区111号竪立石建物計測表	687
第21表	2区125号竪立石建物計測表	689
第22表	2区135号竪立石建物計測表	689
第23表	2区145号竪立石建物計測表	689
第24表	2区155号竪立石建物計測表	691
第25表	2区165号竪立石建物計測表	693
第26表	2区175号竪立石建物計測表	693
第27表	2区185号竪立石建物計測表	695
第28表	2区195号竪立石建物計測表	695
第29表	2区205号竪立石建物計測表	697
第30表	2区215号竪立石建物計測表	697
第31表	2区225号竪立石建物計測表	700
第32表	2区235号竪立石建物計測表	700
第33表	2区245号竪立石建物計測表	700
第34表	2区255号竪立石建物計測表	700
第35表	2区265号竪立石建物計測表	702
第36表	2区275号竪立石建物計測表	702
第37表	2区285号竪立石建物計測表	704
第38表	2区295号竪立石建物計測表	704
第39表	2区1号柱穴計測表	705
第40表	2区1号瓦敷内ピット1計測表	722
第41表	2区1号瓦敷内ピット2計測表	728-727
第42表	2区1号瓦敷内ピット3計測表	727
第43表	2区出土遺物調査表	737-763
第44表	3区1号竪立石建物計測表	768
第45表	3区2号竪立石建物計測表	769
第46表	3区3号竪立石建物計測表	770
第47表	3区4号竪立石建物計測表	770
第48表	3区5号竪立石建物計測表	772
第49表	3区ピット計測表(1)	778
第50表	3区ピット計測表(2)	780
第51表	2区出土遺物調査表	786-789
第52表	榊原伊勢遺跡2区2号出土人骨96号計測表及び比較表	791
第53表	榊原伊勢遺跡3区1号瓦敷出土人骨97号計測表及び比較表	792
第54表	榊原伊勢遺跡出土人骨まとめ	793
第55表	榊原伊勢遺跡出土土器まとめ	794
第56表	2区深埋トレンチにおけるテラコッタ製出分析結果	795
第57表	2区深埋トレンチにおける植物体分析結果	796
第58表	2区深埋トレンチにおける磁器体分析結果	796
第59表	榊原伊勢遺跡2区における植物体分析結果	798
第60表	榊原伊勢遺跡出土木材の樹種判定結果	802
第61表	顕微鏡の写像結果(写像内注釈あり)	812
第62表	遺構跡の大型植物遺体(括弧内注釈あり)	813
第63表	瓦敷外建物表及びグラフ(1)	827
第64表	瓦敷外建物表及びグラフ(2)	828
第65表	瓦敷外建物表及びグラフ(3)	829
第66表	植物体調査表	833
第67表	古銅・銅器調査結果表	836
第68表	土器・中陶器調査結果表(区域別表)	836

## 第1章 発掘調査に至る経緯

綿貫伊勢遺跡は高崎市綿貫町地内に所在する。高崎市の東南約5.4km、関越自動車道高崎インターチェンジ出口から南南東約3.8kmの位置にある。当遺跡は国道354号高崎玉村バイパス道路改築事業に伴って、平成19年度から21年度にわたって発掘調査された。

国道354号高崎玉村バイパスは、高崎駅と県東部の諸都市を結ぶ東毛広域幹線道路(高崎市一色栗原板倉町まで総延長58.6km)の一部を形成する全長5.3kmのバイパスである。起点は高崎市綿貫町の国道354号(綿貫町北交差点)から終点は佐波郡玉村町大字福島郡群馬県道40号藤岡大胡線(バイパス)までの区間である(第1図)。起点から佐波郡玉村町与六分までは平成23年6月12日に開通し、玉村町与六分(玉村町道)を介して群馬県道24号高崎伊勢崎線と接続する)から終点まではそれ以前に開通している。また関越自動車道との交差点ではスマートICが建設中であり、平成25年度の完成を目指している。

この高崎玉村バイパスの整備は、平成5年度から着手されている。玉村町内の計画路線における埋蔵文化財発掘調査は、県教育委員会、県土木部、中部県民局伊勢崎土木事務所による協議を経て、平成8年度から当事業団への委託が開始された。

高崎工区は西部県民局高崎土木事務所の所管事業で、

前橋長藩線から玉村町境まで、井野川右岸の高崎市綿貫町と同左岸の高崎市下滝町・下斎田町の約2kmの区間である。平成16年度と19年度の県教育委員会の試掘調査によって、当該地区には古墳時代から平安時代を主とする集落跡が濃密に存在することが明らかになっていた。

### 平成19年度

高崎市綿貫町原北地内の調査については、平成19年11月16日付で高崎土木事務所から県教育委員会文化課に発掘調査の依頼が出された。これをうけて、平成19年11月20日付で県教育委員会から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査の依頼があった。平成19年11月30日には西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に発掘調査の委託契約が締結された。

発掘調査の調査期間は平成20年1月4日から3月31日までの契約で、綿貫原北遺跡1区が調査された。調査の進展に伴い平成20年2月29日付で一部変更契約が締結された。3月からは来年度事務所用地の確保のために当遺跡2区の東端部も調査を行っている。あわせて表面積2,268㎡(延べ4,854㎡)が調査された。



第1図 国道354号高崎玉村バイパス路線図(1:60,000)

## 平成20年度

平成20年3月25日付で県教育委員会から、3月26日付で高崎土木事務所から「平成19年度国道354号高崎玉村バイパス道路改築事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査(分割2号)」の依頼があった。平成19年度繰越予算により発掘調査を実施するもので、調査は平成20年4月のみの1ヶ月間である。平成20年3月31日付で西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に発掘調査の委託契約が締結された。4月8日には調査期間を5月31日までとする変更委託契約が締結された。当遺跡2区200㎡、綿貫原北遺跡1区468㎡の計668㎡が調査された。さらに平成20年5月7日付で県教育委員会から、5月9日付で高崎土木事務所から「平成20年度国道354号高崎玉村バイパス道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」の依頼があった。そして平成20年5月15日付で西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に発掘調査の受委託契約が締結された。調査期間は平成20年5月16日～平成21年1月31日である。当遺跡1区～3区、綿貫原北遺跡1区～3区、綿貫牛道遺跡1・2区の3遺跡の発掘調査が実施されることになった。この間、6月18日から7月4日まで下流地区・綿貫地区をあわせて、県教育委員会文化財保護課による試掘調査が行われた。

平成20年9月10日には「平成20年度国道354号高崎玉村バイパス道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査(分割2号)」と「平成20年度国道354号高崎玉村バイパス地域自立活性化交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」の委託契約が西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に締結された。前者の調査対象地は高崎市下滝町(下滝高井前遺跡)、下齋田町(下齋田重土築師遺跡)、綿貫地内であり、調査期間は平成20年10月1日～平成21年1月31日である。後者は高崎市下滝町(下滝高井前遺跡)、下齋田町地内(下齋田重土築師遺跡)で、調査期間は平成21年2月1日～3月31日である。その後、5月15日付と9月10日付(分割2号)で高崎土木事務所と受委託契約を交わした事業について、いずれも調査期間を2ヶ月延長して平成21年3月31日までとする変更契約が締結された。

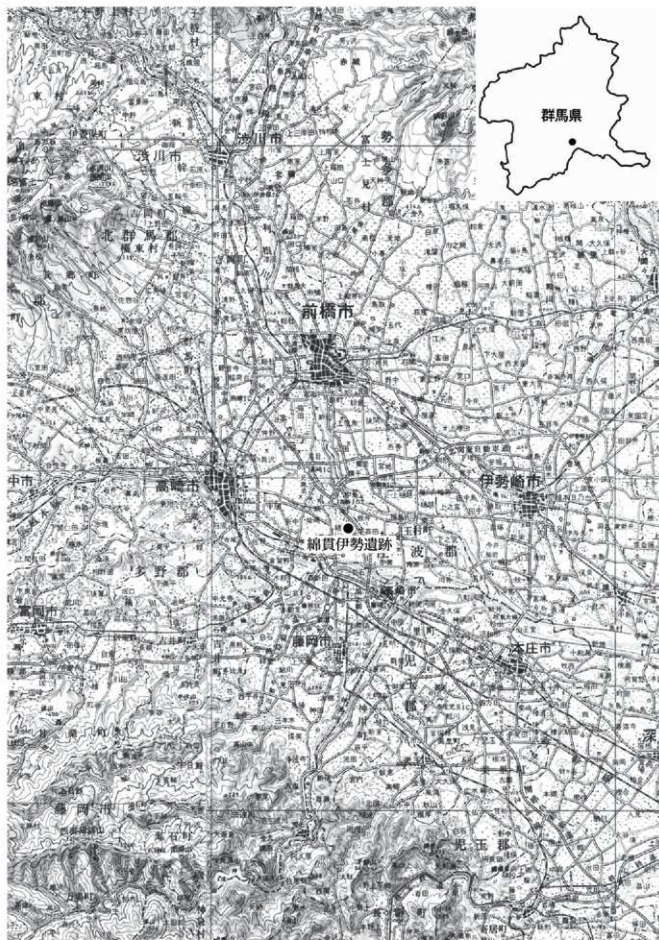
綿貫地区においては、当遺跡5,735㎡、綿貫原北遺跡5,624㎡、綿貫牛道遺跡6,427㎡の計17,786㎡が調査され

ている。

## 平成21年度

平成21年3月18日付けで群馬県教育委員会から、3月24日付けで高崎土木事務所から、平成20年度国道354号高崎玉村バイパス道路改築事業(分割3号)に伴う埋蔵文化財の発掘調査の委託依頼がなされた。当遺跡と綿貫牛道遺跡あわせて3500㎡が対象である。平成21年3月31日付けで、群馬県西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間で、「埋蔵文化財発掘調査・整理委託契約」が締結された。7月13日、高崎土木事務所の依頼を受け、群馬県教育委員会から綿貫牛道遺跡1940㎡の発掘調査の依頼がなされた。9月3日付けで、群馬県西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間で、「変更委託契約書」が締結された。

このように、平成19年度に当遺跡と綿貫原北遺跡の調査を開始し、平成20年度は当遺跡と綿貫原北遺跡、綿貫牛道遺跡、そして井野川左岸の下滝高井前遺跡、下齋田重土築師遺跡の調査、平成21年度も引き続いて、当遺跡と綿貫牛道遺跡、綿貫原北遺跡の調査と、下滝高井前遺跡、下齋田重土築師遺跡がそれぞれ実施された。



第2図 遺跡位置図 (国土地理院地勢図1:200,000「宇都宮」(平成18年4月1日発行)「長野」(平成10年2月1日発行)使用)



## 第2章 調査の方法と経過

### 第1節 発掘調査の方法

#### 1 グリッドの設定

国道354号高崎玉村バイパスに伴う埋蔵文化財の発掘調査においては、平成8年度の調査開始以来採用しているグリッドの設定方法を当遺跡でも踏襲している。

グリッドの設定は国家座標にもとづき玉村町全域および高崎市内の該当地域を網羅するように、南東隅の座標  $X=30,000$ ・ $Y=-60,000$ を起点とする10km四方の区画を設定し、これを「地区」と呼称した。

次にこの「地区」を1km四方に分割して、南東隅から北方向に1～100の番号を付け「区」（大グリッド）とした。さらに、この「区」を100m四方に分割し、同様に1～100の番号を付け「中グリッド」とした。綿貫伊勢遺跡1区から3区は「86区」「87区」「96区」「97区」（中グリッド）に該当している（第4図）。

この「中グリッド」を、さらに5m四方に分割して「小グリッド」を設定した。一つのグリッドの大きさは5m×5mとなる。「小グリッド」には南東隅を起点として、西方向にアラビア数字を「1～20」、北方向にアルファベット「A～T」を付した。発掘調査の実施にあたっては、この「小グリッド」を基本としている。

本報告書で記載するグリッドは、地区・区の表記は省略して基本的に「中グリッド」と「小グリッド」を組み合わせて表記する。たとえば1区11号住居の場合は2つのグリッドにまたがるため、その記載方法は「87A-13・14」となる。

#### 2 調査区の設定

発掘調査にあたっては、基準とする区画やグリッドとは別に、任意の調査区に区分している。

綿貫伊勢遺跡は、字境によって西に綿貫牛道遺跡が隣接している。調査区は北西から南東に約128～150m、幅約75～80mある。このために遺跡中央を東西方向に走る高崎市道を境界として北側を1区、南側を2区・3

区として調査区を設定した（第3・4図）。1区の調査対象面積は4,581㎡、2区の調査対象面積は4,485㎡、3区の調査対象面積は277㎡の総計9,343㎡である。

#### 3 遺構の調査

表土については重機によって掘削した。その後、人力による遺構確認作業を行い、遺構平面の確認後、埋没土層の確認用ベルトを任意に設定して移植ゴテなどで掘り下げた。遺構の掘削も人力によった。

遺構番号は調査年や調査担当者の変更があることから、遺跡全体の通し番号ではなくて、調査区ごとに1から通し番号を付けた。

遺構測量は、平面図については電子平板によるデジタル測量を、断面図については手実測で行っている。住居・掘立柱建物、土坑などの平面図は1:20を基本とし、溝や高については1:40とし、土層断面図は1:20で作成した。

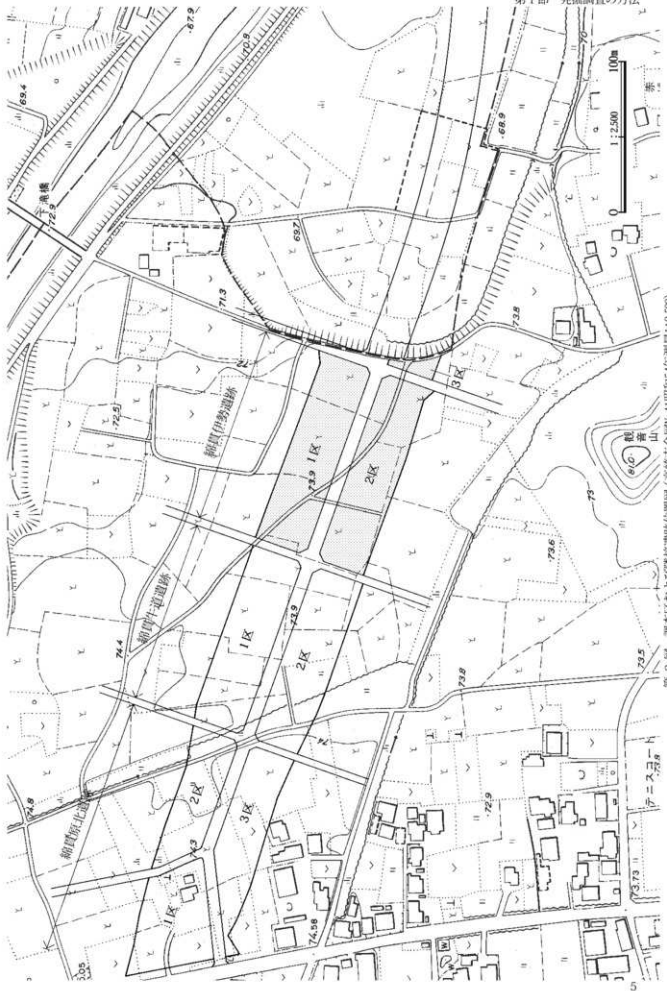
遺構写真の撮影には、6×7cm判モノクロフィルムを使用、カラー写真はデジタルカメラを使用してハードディスク及びDVDによるデータの記録保存をはかった。調査区の全景写真については、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施した。

### 第2節 調査の経過

綿貫伊勢遺跡1区から3区の調査については、綿貫原北遺跡・綿貫牛道遺跡の調査と併行しながら実施している。

綿貫伊勢遺跡の調査は2区から着手、担当は洞口正史で平成20(2008)年3月3日から3月31日まで実施した。引き続いて4月1日から洞口正史と笹澤弘紀の2名で1区から3区の調査と綿貫牛道遺跡1区・2区も担当して、平成21(2009)年3月31日まで実施した。この間、綿貫伊勢遺跡2区と3区、綿貫牛道遺跡2区の調査を終了している。ただし綿貫伊勢遺跡1区については1,323㎡の調査で、85号住居まで調査を終了した段階であった。その後、1区の残り3,258㎡の調査と綿貫牛道遺跡1区残り





第3図 調査区および隣接道路位置図(高崎市全国w41調査54年調査1:2,500)

デニスコート

柳川山

100m

1:2,500

0

100m

100m

100m

100m

100m

100m

100m

100m

100m

100m

100m

100m

## 第2章 調査の方法と経過

2,182㎡の調査については、4月1日から菊池実と山田精一の2名で実施、同年8月31日をもって綿貫伊勢遺跡1区の調査と綿貫牛道遺跡1区の調査を全て終了した。以下、綿貫伊勢遺跡の調査日誌抄を記す。

### 平成19(2007)年度

- 3月3日 2区の事務所用地、調査区の確認を行う。
- 5日 事務所用地の表土掘削を開始する。
- 7日 2区表土掘削と遺構確認作業を行う。
- 12日 遺構確認作業の継続と概念図の作成を行う。
- 13日 土坑・ピットの調査を行う。
- 17日 土坑・ピット・溝の掘削と図面の作成、写真撮影を行う。
- 18日 住居・土坑・ピット・溝の調査を継続する。
- 25日 引き続き住居・土坑・ピット・溝の調査を継続する。
- 27日 ハイライザーによる遺構写真撮影を実施する。
- 28日 本日をもって平成19年度調査を終了する。

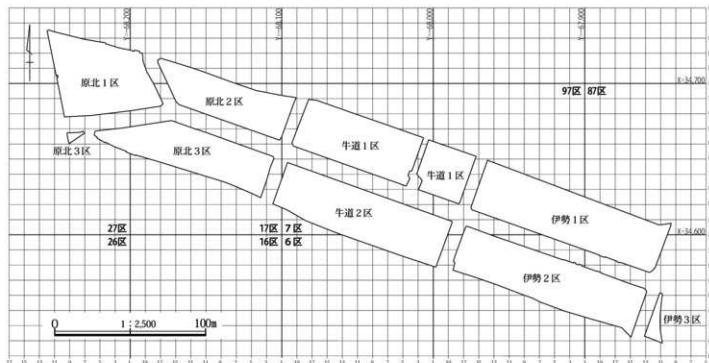
※ ※ ※

### 平成20(2008)年度

- 4月14日 平成20年度の調査担当者は洞口正史と笹澤弘紀の2名である。2区の継続調査から開始す

る。

- 15日 2区4・6～9号住居の調査、24号土坑とピットの調査を行う。
- 17日 新たに10号住居の調査を開始する。
- 21日 県教委文化財保護課職員2名来跡。6～13号住居の調査継続、24～27号土坑・ピット・溝の調査を行う。
- 25日 6・7・9・10号住居のカマド写真と14号住居の全景写真撮影を実施する。
- 30日 引き続き住居調査と遺物取り上げを実施する。
- 5月7日 高崎市教委職員7名来跡。1・3・11～13・16・17号住居、1号掘立柱建物跡の調査を行う。
- 9日 16・17号住居の遺物出土状況の写真撮影を実施する。
- 12日 11～13号住居、19号住居の写真撮影、2・4号溝の調査を実施する。
- 15日 原潭ボーリングによる1・2号井戸の掘削。高崎市立高南中学校の職場体験打合せ。
- 19日 6・9・15・16・21号住居、29・30号土坑、2号井戸、5号溝の調査を継続する。高崎市立並榎中学校生徒の職場体験始まる(23日ま



第4図 グリッド設定図

- で)。
- 23日 7・11・15・16・19・20号住居の掘り方調査、86～91号ピットの調査を行う。
- 26日 本日から高崎市立高南中学校生徒の職場体験が始まる(30日まで)。
- 27日 15～18・20・22～24号住居、96～116号ピットの調査を実施する。
- 6月4日 16・27号住居のカマド、122～139号ピットの調査と写真撮影を実施する。
- 6日 16・22・23号住居の掘り方調査、126～141・153～157号ピットの図面を作成する。
- 10日 高崎市立新町中学校の職場体験打合せ。
- 16日 26・29・30号住居のカマド、31～33・35・36号住居の調査を継続する。
- 20日 35・36号住居、46～48号土坑、337～383号ピットの調査と写真撮影を実施する。
- 23日 本日から新町中学校生徒7名による職場体験が始まる(27日まで)。
- 25日 東京都目黒区内の小学校3クラスの児童が見学。
- 7月1日 24・25・29・30号住居の掘り方、土坑、ピット、溝の調査を継続する。
- 10日 29～33号住居の掘り方、40～46号住居の調査を行う。
- 14日 43～45号住居のカマド、24・29・30・32・33号住居のピット調査、写真撮影を行う。
- 16日 24・29・30・38・39～41号住居の掘り方調査、43～46号住居のカマド、48～50号住居の調査を行う。485～495号ピットの全景写真撮影。
- 22日 42～47・50号住居の掘り方調査、496～514号ピットの図面を作成する。
- 29日 これまでに住居65軒、土坑63基、ピット551基、溝8条を検出する。
- 31日 43・46号住居カマド、48・49号住居のピット、55・56号住居の調査、542～557号ピットの全景写真を撮影する。
- 8月1日 43・46・48・49・51・53・54・56・57・59号住居の写真撮影を行う。
- 6日 60・61号住居の写真撮影、62・63号住居の調査を行う。
- 11日 空掘を実施、その後9～12号溝の撮影を行う。
- 19日 52～54・56号住居の掘り方、55号住居カマド、57・60・63号住居の調査を行う。
- 22日 3区の調査準備を始める。
- 26日 3区の表土剥ぎを開始。杭打ち作業。
- 27日 2区は住居、墓坑の調査継続、3区は遺構確認作業を実施する。
- 9月1日 2区は62号住居の掘り方調査、3区では3軒の住居を検出する。
- 8日 1区の杭打ち作業、3区2号住居、ピット群などを調査する。
- 9日 1区の表土掘削を開始する。3区は3号住居、土坑群・ピット群、1・2号溝を調査する。
- 11日 1区は表土掘削と遺構確認作業、3区は1・2号住居、1～3号溝、10～12号土坑などの調査を行う。
- 16日 1区は表土剥ぎと遺構確認作業の継続、3区は1～3号住居、79～81号ピットの写真撮



1区調査風景



2区調査風景

## 第2章 調査の方法と経過

影を行う。

19日 1区は遺構確認作業と1～3号土坑の調査。  
3区は1号溝の掘削を行う。

24日 1区ではこれまでに住居5軒を検出。3区は引き続き1号溝の調査を行う。

26日 3区の調査を終了する。1区は住居調査のためにベルトを設定する。

30日 1区で25号住居までを検出する。

10月1日 県立高崎東高校生2名見学。

6日 1区は住居調査を継続。そして2区の調査を再開、59・60・63号住居の調査を行う。

8日 1区8・11・17・18・22・24・25号住居の調査、2区59・60・63号住居の調査を行う。

14日 1区17・32号住居遺物出土状況の写真撮影、2区60・63号住居の写真撮影、残り調査区の表土掘削を開始する。

16日 1区は各住居の調査継続。2区は表土掘削と60・63号住居のカマド調査を行う。

20日 1区は各住居の掘り方調査の継続。2区は表土掘削の継続と遺構確認作業を行う。あわせて縄貫牛道遺跡2区の表土掘削と遺構確認作業も行う。

31日 1区7・15・20・22・30・40・41号住居の調査。11月5日 1区15・20・35・38号住居の写真撮影。2区は中断していた遺構調査を再開する。

11日 空撮を実施する。

16日 バス見学会で40名来跡。

21日 1区概念図の作成準備。2区67・70・73・76・78・79号住居、671～675号ピットの調

査を行う。

27日 1区38号住居のカマド調査。2区72・79号住居、84・87・97号土坑、671～673・675号ピットの写真撮影を行う。

12月1日 本日より笹澤にかわって谷藤保彦が調査担当になる。

7日 現地説明会の開催、155名の見学者があった。

9日 2区70・92・96・97号住居、2号溝、9号井戸の調査を行う。

15日 2区68・69号住居の写真撮影、70・74・89号住居の調査、684～692号ピットの図面作成。

18日 ラジコンヘリによる空撮を実施する。

25日 2区65～68・75・76・78・97・99号住居、79・86～88・94・105・106号土坑、644～697・700～702号ピット、14～17号溝の調査を行う。

平成21(2009)年

1月7日 本日より谷藤にかわって岩崎一が調査担当になる。2区の住居・土坑・ピット・溝の調査を継続する。

13日 2区65・68・73～76・78・88・89・91・100号住居、107・108号土坑、706・707号ピットの写真撮影を行う。

19日 1区38・39号住居の写真撮影。2区80～82・84・89・92～94・99号住居の調査を行う。

26日 1区42・44～47号住居の調査。2区85・87・89・93号住居の図面作成。

29日 1区49・50号住居、24・25・27号土坑の調査。2区86・87・95号住居の写真撮影を行う。

2月2日 高崎市教委文化財保護課の職員来跡。



2区調査風景



3区調査風景

- 6日 1区35・39・44・48・51号住居の調査。2区8・9号井戸の調査を行う。
- 13日 1区55・56・58～60号住居の調査。2区は埋め戻し作業を開始する。
- 17日 1区55・58・90号住居の掘り方と33～38号土坑の全景写真を行う。62～64・66号住居の図面を作成する。
- 24日 1区63・66～68号住居の掘り方、1・2号井戸の調査を行う。
- 3月3日 午前中に空撮。午後から住居の調査を再開する。
- 9日 1区54・56・57・61～65・69・70・74号住居の調査を行う。
- 11日 引き続き1区33・53・56・64・65・70・73・74号住居の調査を行う。
- 17日 1区64・70・73～80号住居の調査を継続する。
- 23日 1区73・78・80号住居の調査を行う。
- 24日 本日をもって平成20年度の調査を終了する。
- ※ ※ ※
- 平成21(2009)年度**
- 4月1日 平成21年度の調査担当者は、菊池実と山田精一の2名である。
- 2日 現場代理人との打合せを行う。
- 8日 昨年度調査の継続、まず綿貫牛道遺跡1区の調査から開始する(以後、牛道遺跡1区の調査経過は除外する)。
- 17日 1区の遺構確認作業を行う。
- 24日 1区86～90号住居、60～70号土坑までを確認する。
- 28日 1区96号住居までを確認する。82・86・87・90・92・93号住居の調査、71～74号土坑の図面作成、22・23号溝の写真撮影を実施する。
- 5月1日 1区82・83号住居の遺物出土状況と87号住居のカマド全景の写真撮影を行う。
- 12日 引き続き住居の調査と土坑・ピットの全景写真撮影を行う。
- 18日 1区90～93・100～105号住居の調査を行う。
- 25日 1区93・99・100・103～105・108号住居の調査を継続する。本日より高崎市立高南中学校生徒の職場体験が始まる。
- 27日 県広報による取材が行われる。
- 29日 本日で高崎市立高南中学校生徒の職場体験が終了する。
- 6月3日 1区88・94・95・100・105・110号住居の掘り方、116・117・119～124号住居の調査を行う。土坑群・ビット群の掘り下げも続行。
- 9日 1区87・91・94～96・98・99号住居の遺物取り上げ、127・128・130～132号住居の図面作成。138号住居までを検出する。
- 17日 本日から高崎市立新町中学校生徒による職場体験が始まる。昨日までに148号住居までを検出する。
- 23日 1区129・132・143・147号住居の掘り方調査、152・154・156号住居の掘り下げ、107・108号土坑の全景写真撮影を行う。
- 30日 1区127・139・158～160・162・165号住居の掘り方調査、23・28号溝の写真撮影を行う。本日までで168号住居までを検出。
- 7月3日 1区82・83・89・104・106・107号住居の写真撮影、127・139・158～165・167～170号住居の掘り下げを継続する。
- 7日 引き続き住居の調査を行う。
- 10日 1区161～163号住居遺物出土状況の写真撮影、5号井戸の図面を作成する。
- 17日 1区184～186号住居を検出する。
- 28日 1区192号住居までを検出する。引き続き各住居の図面作成・写真撮影・遺物取り上げを実施する。
- 30日 1区195号住居までを検出する。
- 8月5日 本日までで1区201号住居までを検出する。
- 11日 1区181・196号住居の図面作成、200・203号住居、169号土坑の写真撮影を行う。
- 19日 各住居の調査継続と60～173号土坑、93～387号ビット、22～30号溝などの調査を行う。
- 25日 1区106・197・198・200・203号住居の図面作成、土坑・ビット群の全景写真を撮影する。
- 26日 下滝高井前遺跡への引越し準備を始める。
- 31日 本日をもって綿貫伊勢遺跡の調査を終了する。

### 第3節 整理作業の方法

報告書作成のための整理作業は、平成22(2010)年4月1日から平成25(2013)年3月31日まで、綿貫牛道遺跡・綿貫原北遺跡とともに実施した。

出土遺物については調査終了時まで、洗浄され遺跡略号、調査区、調査面、遺構名・グリッド名、遺物No.が注記されている。

整理作業においては、遺物を種別・器種別に分類した。そして縄文土器、土師器・須恵器、陶磁器、石器・石製品等のそれぞれについて、接合・復元・写真撮影・実測・トレース作業を実施した。これについては、接合復元班、縄文実測班、石器專業班、実測班、トレース班、写真室がそれぞれに対応した。遺物の実測は手作業で実施したが、その一部については長焦点デジタルカメラと三次元計測システムで測定して素図を作成、最終確認は手作業で行い図化した。これらのトレースも手作業で行い、作成したものをスキャンしてデジタルデータ化して報告書掲載図とした。古銭、金属製品については当事業団保存処理室で錆落としの作業を実施後、実測を行った。

遺構図については平面図と断面図の照合・修正とレイアウト作業を編集班で行い、デジタルトレースをデジタル專業班が行い報告書掲載図とした。

遺構写真については報告書に掲載する写真の選定とレイアウトを編集班で行い、調査時に撮影したネガフィルムのスキャンと版下作成作業をデジタル專業班が実施した。遺物写真撮影は当事業団写真室でデジタルカメラを用いて行い、編集班のレイアウトをもとにデジタル專業班が加工・編集し、図版作成を実施した。

併行して本文・表・土層注記等の原稿執筆を行った。報告書の出稿にあたっては原稿、挿図、写真のいずれもデジタルデータ化を行った。

その後、校正作業を経て、平成25(2013)年3月に『綿貫伊勢遺跡』として発掘調査報告書(本報告)の刊行を行った。

報告書に掲載資料については、管理台帳作成後、取納作業を行ったが、掲載されなかった遺物については出土地区・遺構ごとに分類して取納作業を行った。

### 第3章 遺跡の立地と周辺の遺跡

#### 第1節 遺跡の立地

綿貫伊勢遺跡の所在する高崎市は関東平野の北西縁にあり、平成の大合併によって市域西端は長野県北佐久郡軽井沢町、東端は埼玉県児玉郡上里町に接している。市街地から赤城山・榛名山・妙義山の上毛三山を望むことができる、群馬県西部のいわゆる西毛地区に位置している。市内には、利根川・烏川・碓氷川など、大きな一級河川が流れ、遺跡地のすぐ東側を井野川が南東流して烏川に合流している(第2・6図)。

高崎市域(平成の大合併前)の地形は、市域西部にひろがる高さがほぼそろい浸食が進んで急傾斜の斜面とやせ尾根の連なる岩野谷(観音山)丘陵、榛名山南面の裾野にひろがる相馬ヶ原扇状地と丘陵縁辺部の扇状地、東縁を広瀬川そして西縁を烏川までの連続した比較的平坦な高崎・前橋台地、段丘と谷底平野からなる井野川低地帯、烏川・碓氷川流域の氾濫原に区分される。

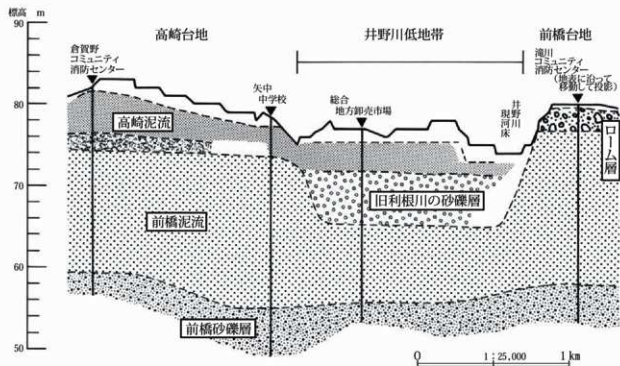
以下、『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』(平成

15(2003年)と群馬県『土地分類基本調査 高崎』(平成4(1993年))の内容を参考として記述する。

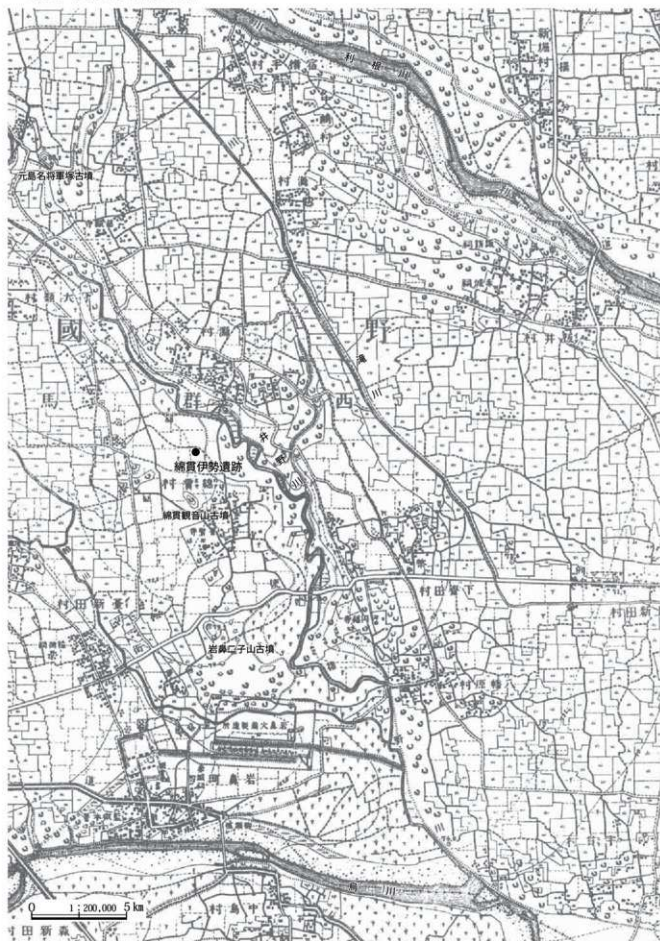
前橋台地の中央付近を流れる井野川流域には、井野川低地帯がひろがっている。この低地帯を境にして、前橋台地の西縁を特に高崎台地と呼ぶ場合もある。高崎・前橋台地は、およそ2.1万年前、浅間山の噴火に伴う大規模な山体崩落によって流れ下った前橋泥流と呼ばれる堆積物によってその土台が形成されている。

高崎市域で前橋台地に属する地域は、市域の東縁にあたる八幡原町から新保田中町に至る地域、すなわち、井野川の流域にひろがる低地帯の東側から利根川の流路までの地域である。台地の土台を形成する前橋泥流の上位にはローム層や小河川・湿地の堆積物が重なっている(第7図)。

一方、高崎台地では前橋泥流の上に高崎泥流が堆積している。この泥流の下に浅間板鼻黄色軽石(As-YP)が認められることから、およそ1.1万年前の堆積と考えられている。その発生原因は榛名山南西麓から秋間丘陵付近で起きた大きな地震が関係している可能性が指摘されて

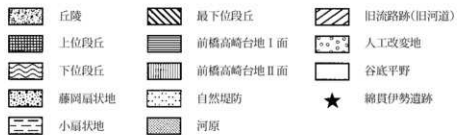
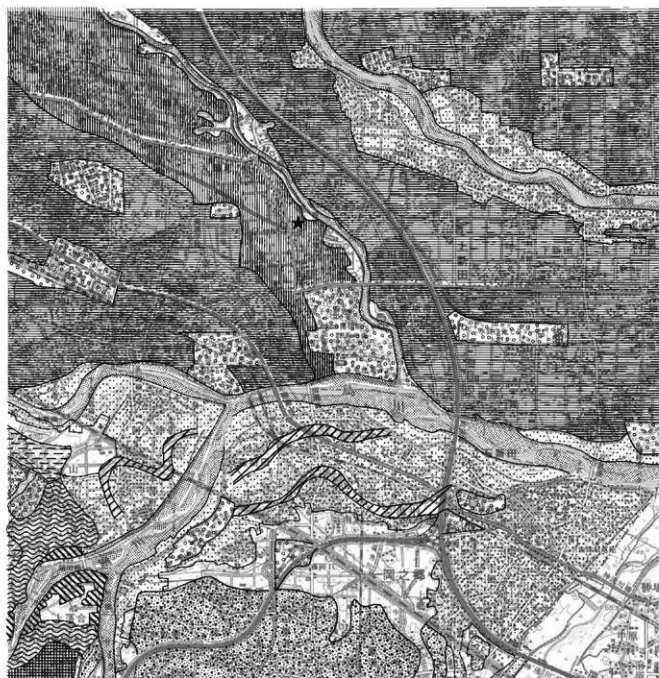


第5図 井野川低地帯の地下断面図(『新編高崎市史通史編1』p.90の図30を一部改変)



第6図 明治時代前半の周辺地形図(第一軍管地方迅速測図「會賀野駅」(明治18年測量)を使用)





第7図 遺跡周辺地形分類図(群馬県「土地分類基本調査 高崎」(1993年)による)

### 第3章 遺跡の立地と周辺の遺跡

いる。台地の上は比較的平坦で洪水などの災害に遭いつらいことから、古墳時代にはすでに水田の開発が行われている。

高崎台地と前橋台地を区切る井野川低地帯は、両台地より一段低く幅600～700mで帯状に分布する。段丘崖は、岩鼻～栗崎付近で比高10m前後、柴崎付近で5～3mと北西へ比高を減少し、南大類付近で不鮮明になる。この低地帯は前橋泥流堆積後の比較的早い時期に、昔の「利根川」によって形成された地形である。この旧利根川の流路に、およそ1.7万年前の「陣場岩なだれ」による堆積物が流れ込み、榛名山の裾野からやや遠い井野川下流域を除いてその姿を消してしまった。その後、埋め立てを免れた現在の井野川低地帯の中は、砂層やシルト層を堆積させる小河川と湿地が広くひろがる環境がつけられた。そして1.1万年前に、高崎泥流がこの低地帯にも流れ込み、埋め立てが進んだのである。この低地帯の地形をさらに詳細にみると、何段かの段丘面に区分することができる。これらの段丘のうち、当遺跡や綿貫観音山古墳がの段丘は、最も高位にあり広く連続している。この井野川の高位段丘には、高崎台地の面と同じく高崎泥流が堆積している(第5図)。

当遺跡は井野川低地帯の標高約74mに立地している。第7図の分類に従うと前橋高崎台地Ⅱ面に該当する。調査時に行った土層の観察から得られた基本土層は第10図に示し、第4章第1節2で詳述してある。

## 第2節 周辺の遺跡

現在の高崎市は、平成18(2006)年に高崎市と群馬郡下の群馬町・箕郷町・榛名町・倉渕村、多野郡新町との合併、さらに平成21(2009)年に多野郡吉井町との合併で誕生した新市である。

遺跡の所在する高崎市綿貫町は、市東部の「岩鼻地区」にある。井野川下流右岸に位置し、対岸は高崎市の「滝川地区」になる。

明治22(1889)年の町村制施行により、周辺6村(岩鼻町、綿貫村、台新田村、栗崎村、東中里村、矢中村)が合併し西群馬郡岩鼻村が成立する(第6図)。明治29(1896)年に西群馬郡と片岡郡の統合により群馬郡に属した岩鼻村は、戦後の昭和32(1957)年、高崎市と群馬村

へ分割編入される。この時に綿貫と栗崎は群馬村に編入された。そして昭和40(1965)年、群馬村は高崎市へ編入され現在に至っている。

第8図は高崎市の「岩鼻地区」と「滝川地区」を主体に「大類地区」と「京ヶ島地区」の一部、関越自動車道の東に位置する玉村町西端にかけて形成された遺跡の分布図である。遺跡番号の1が当遺跡であり、8までが国道354号高崎玉村バイパス建設に伴って調査された遺跡である。また9～15は県道前橋長湊線と北関東自動車道建設関連の高崎市所在遺跡になる。16～23は関越自動車道関連の遺跡、96～99は北関東自動車道建設関連の前橋市所在の遺跡、100～102は県道前橋長湊線建設関連の前橋市所在の遺跡になる。このように遺跡地周辺は大規模な発掘調査が継続的に行われている。

以下、当遺跡周辺の歴史的環境を時代を追って記述する。なお、文中の遺跡名の後ろに付く〔〕番号は第8図の遺跡番号に対応している。

### 1 旧石器時代

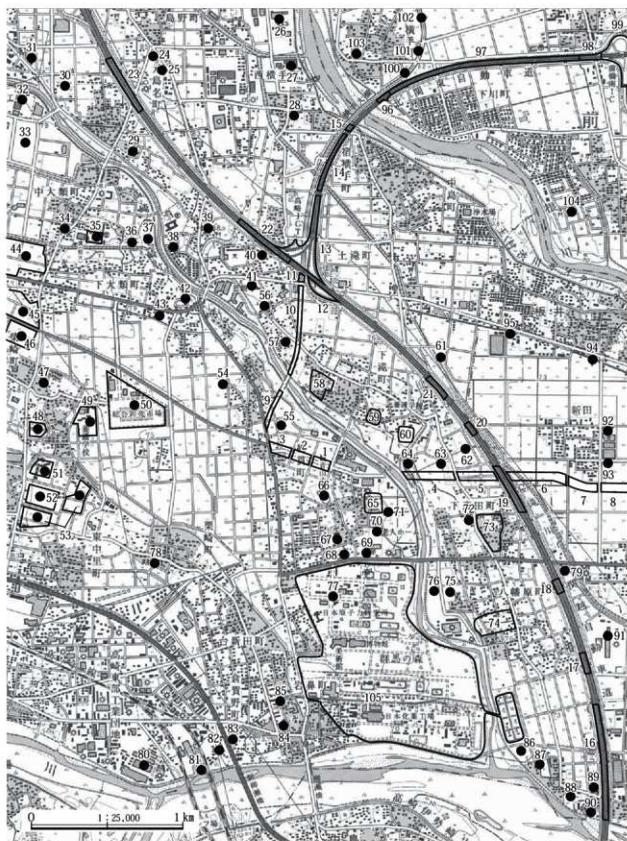
当遺跡では旧石器時代の遺物は検出されていないが、遺跡から南1.8kmの烏川左岸段丘上に立地している岩鼻坂上北遺跡〔84〕から槍先形尖頭器1点が出土している。

### 2 縄文時代

当遺跡では1～3区において前期から後期にかけての土器片・土偶、石鏃・打製石斧などが出土しているが、遺構は検出されていない。

遺跡周辺の井野川右岸段丘上にあつては、隣接する綿貫牛道遺跡〔2〕や綿貫原北遺跡〔3〕から前期と中期の土器片、打製石斧などの石器、南東約550mに位置する綿貫堀米前Ⅱ遺跡〔70〕からも中期後半の土器片、綿貫小林前遺跡〔9〕では打製石斧が出土している。北西約1.3kmの下大類蟹沢遺跡〔42〕からは石鏃やスクレイパーが出土している。いずれも遺構外からの出土である。

一方、井野川左岸段丘上では、遺跡対岸の下流高井前遺跡〔4・63〕から前期諸磯b式期の住居1軒と土器片、続く下畚田重土築師遺跡〔5〕からも同時期の土器片が出土している。当遺跡から南東2.2kmに位置する八幡原A遺跡〔17〕からも諸磯b式期と思われる住居1軒が検出されている。八幡原稲荷遺跡〔91〕からは前期後半と中期の



第8図 周辺遺跡の分布図

### 第3章 遺跡の立地と周辺の遺跡

土器片、下流梅崎遺跡〔60〕からは縄文時代の可能性のある土坑1基と剥片が出土している。下斎田・滝川A遺跡〔19〕では中期後半加曾利E式の土器片が出土した土坑1基と前期黒浜式、諸磯式の土器片が出土している。滝川C遺跡〔21〕では前期黒浜式の土器が一括出土している。下滝天水遺跡〔10〕からは陥穴と考えられる土坑と早期から中期にかけての土器片、上滝遺跡〔22〕では前期から後期に至る土器片と石鏝が出土している。元島名B遺跡〔23〕は遺構外から中期後半の摩耗した土器片1点のみであった。玉村町域の上新田新田西遺跡〔6〕でも前期と中期の土器片と石鏝など、上新田中道東遺跡〔8〕からは中期後半から後期前半の土器片と石鏝28点、有舌尖頭器4点などが出土している。利根川右岸の前橋台地上では宿横手三波川遺跡〔14〕から石鏝など9点が出土している。

このように当遺跡周辺の遺跡分布を見てみると、井野川下流域左岸段丘上に縄文時代の住居が構築されるのは前期の諸磯B式期からと判断される。そして当遺跡の周辺でも前期になって縄文人の活動の痕跡が認められるものの集落が営まれるほどではなかったようだ。

### 3 弥生時代

当遺跡からは弥生時代の遺構と遺物は検出されていない。

井野川下流域の当遺跡周辺における弥生時代遺跡の分布は縄文時代と同様に希薄である。

しかし遺跡地の北西約3kmの井野川中流右岸では、万相寺遺跡〔32〕や高崎情報団地1遺跡〔33〕から後期樽式土器を伴う住居や方形周溝墓、左岸でも元島名遺跡〔30〕や鈴ノ宮遺跡〔31〕のように後期の集落や方形周溝墓が検出され、さらに当遺跡の北約2.6kmの利根川右岸の西横手遺跡群〔27〕からも樽式土器片が検出されている。このように弥生時代後期になって井野川中流域には集落や墓域が形成されていることがわかる。

なお、井野川と烏川との合流点に近く、両河川の左岸台地上の縁辺部にある八幡原宮遺跡〔88〕からは、弥生時代中期後半から末に属する土器片が採集されている。

### 4 古墳時代

当遺跡からは、古墳時代前期と後期の住居が検出されている。

前期の遺跡は弥生時代の遺跡が希薄であった井野川下流域で急激に増加する。古式土師器を伴う、この時期の集落を井野川右岸と左岸で見つめよう。

当遺跡の所在する井野川右岸には、綿貫牛道遺跡〔2〕で住居5軒、綿貫原北遺跡〔3〕3軒、綿貫小林前遺跡〔9〕では住居44軒と方形周溝墓1基、井戸と溝が検出されている。このうちの1軒からは銅鏝が出土した。綿貫遺跡〔55〕では住居6軒と方形周溝墓2基・溝数条、綿貫堀米前II遺跡〔70〕では住居3軒と土坑1基、不動山東遺跡〔69〕では住居2軒が検出されている。また、当遺跡の西北西約1.2kmの下大類遺跡〔50〕からは住居、隣接する西の斐崎熊野前遺跡〔49〕では河川跡(埋没土の中位にAs-Cが堆積)から大量の土器とともに石製勾玉・管玉、ガラス製小玉などが出土している。さらにその南西約500mの高崎台地上に位置する矢中村東(A・B・C)遺跡〔51～53〕では14基の周溝墓が検出されている。あわせて一つの墓域として考えることができる。

一方、井野川左岸では当遺跡から北600m、綿貫小林前遺跡の対岸に位置する下滝天水遺跡〔10〕から住居25軒(その可能性を含めて)が検出されている。下滝高井前遺跡〔4〕では住居・土坑・溝、下滝梅崎遺跡〔60〕からは住居2軒と方形周溝墓1基、下斎田・滝川A遺跡〔19〕で住居3軒・方形周溝墓1基・土坑4基である。滝川C遺跡〔21〕では住居の検出はなくて土坑と溝、同じく上滝社宮司東遺跡〔61〕も土坑だけの検出であった。上滝遺跡〔22〕では住居3軒・土坑7基・溝1条、元島名下河原遺跡〔38〕からは大溝1条が検出されている。井野川中流域の左右兩岸では元島名遺跡〔30〕から住居3軒・円形周溝墓7基と方形周溝墓、鈴ノ宮遺跡〔31〕は住居55軒・方形周溝墓4基・土坑1基、高崎情報団地遺跡〔33〕は住居と方形周溝墓、そして大量の遺物が出土した溝が検出されている。

当遺跡の南東約2.5kmに位置する玉村町下郷遺跡〔16〕からは、住居3軒・土坑10基・溝1条・方形周溝墓27基・円形周溝墓2基などが検出されている。なお、外周に溝をもつ窪穴住居(周溝をもつ建物)は、前橋市の横手早稲田遺跡〔100〕5軒、横手湯田遺跡〔97〕7軒、玉村町の上新田中道東遺跡〔8〕2軒、上之手八王子遺跡5軒、上之手石塚遺跡で1軒検出されている。

当遺跡の北北西1.5km、井野川左岸に位置する4世紀前半築造の元島名將軍塚古墳〔39〕は、墳丘長91～96m

の前方後墳である。埋葬施設は粘土椀で小型仿製鏡や石剣が出土、墳丘裾部からは底部穿孔の二重口緑壺が出土した。井野川右岸の古墳としては、当遺跡の北西方向1.7kmの位置に4世紀後半の築造と考えられている柴崎蟹沢古墳(47)がある。この古墳には正始元年銘のある三角縁神獸鏡など4面の銅鏡が副葬されていた。

4世紀初頭の浅間山C軽石(As-C)が降下する前後の時期に、当遺跡周辺一帯を含む高崎市東部から前橋市南部や玉村町にかけての低湿地であった地域では大規模な開発が進められ、水田が広がられていった。As-C混土上・下面で水田が検出されているのは、下流天水遺跡(10)・上流榎町北遺跡(13)・宿横手三波川遺跡(14)である。

前期の遺跡に比べて中期の遺跡は数少ない。右岸の不動山東遺跡(69)では格子目印目文をもつ韓式系土器の裏が出土した5世紀代の住居1軒が検出されている。岩鼻二子山古墳(77)や不動山古墳(68)の築造の背景に渡来人、渡来系文物との関わりが考えられる。左岸の下流天水遺跡(10)からは一辺約35mの方形区画になる溝が検出されたが、この溝は5世紀の豪族居館に伴う溝と推定されている。元鳥名下河原遺跡(38)では住居5軒が検出された。

井野川下流域の右岸段丘上には綿貫古墳群が形成されている。『上毛古墳綜覧』作成時に4基の前方後円墳(南から岩鼻二子山古墳、不動山古墳、普賢寺裏古墳、綿貫観音山古墳)と17基の円墳の合計21基が確認された。しかし、現在の「群馬の森」一帯にあった、陸軍岩鼻火薬製造所の建設(明治13年)やその後の敷地拡張に伴い、多くの古墳が壊されていったものと思われる。実際はさらに多くの古墳が段丘上一帯に築造されていたものであろう。

当遺跡の南東約450mに位置する普賢寺裏古墳(67)は、墳丘長約80mの前方後円墳である。埋葬施設は竪穴系と考えられること、また墳丘形状から5世紀前半の築造が推定されている。現在の日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所敷地内には、5世紀前半から中頃の築造と考えられている、墳丘長約115mの前方後円墳・岩鼻二子山古墳(77)が南方向に前方部を向けて築造されていた。後円部から2基の舟形石棺が出土した。副葬品は五神四獣鏡、鉄製武器・農耕具、石製模造品などが出土している。この古墳は岩鼻火薬製造所の敷地拡張にとも

なって大正から昭和初期には壊されてしまった。5世紀中葉築造の不動山古墳(68)は墳丘長94mで、太田天神山古墳と相似形の築造企画を有する前方後円墳である。主体部には舟形石棺が用いられている。烏川との合流地点付近の河岸段丘上には若宮八幡北古墳(86)が築造されている。墳丘長46.3mの帆立貝式古墳で造り出し部を有する。埋葬主体部は舟形石棺で5世紀後半の築造と考えられている。この古墳の南側、烏川段丘上には若宮・八幡原古墳群が形成されている。

後期の遺跡は、右岸で綿貫牛道遺跡(2)や綿貫原北遺跡(3)、綿貫小林前遺跡(9)では住居10軒弱、不動山東遺跡(69)から住居1軒、綿貫堀米前II遺跡(70)では34軒の住居が検出されている。下大類蟹沢遺跡(42)からは住居28軒・溝6条・古墳1基が検出されている。左岸では下流高井前遺跡(4)で集落、下流赤城遺跡(64)から住居5軒、元鳥名下河原遺跡(38)では住居13軒と末期の住居6軒、上流遺跡(22)では住居3軒・土坑4基・溝2条が検出された。八幡原稲荷遺跡(91)からは6世紀後半から7世紀後半に属する住居23軒が検出されている。

当遺跡の南東約100mに位置する綿貫観音山古墳(66)は、6世紀後半の築造で綿貫古墳群最後の前方後円墳と考えられている。墳丘長97.5mで二段築成、二重の周堀が巡る。様名山二ツ岳噴出の角閃石安山岩を積み上げた大型横穴式石室が構築されている。墳丘には円筒埴輪や形象埴輪が樹立され、副葬品には鏡、装身具、武器・武具、馬具、銅製水瓶、須恵器などがある。

左岸では慈恩寺(41)裏境内付近から南東800mにわたり古墳の分布が見られる。6世紀後半の築造で墳丘長47m、複室構造の横穴式石室を有する下流2号墳(前山古墳)[56]や直径40mの御伊勢山古墳(57)などがある。

6世紀初頭の様名山二ツ岳降下火山灰層(Hr-FA)下水田は多くの遺跡で確認されている。下流天水遺跡(10)・上流榎町北遺跡(11)・上流五反畑遺跡(12)・上流榎町北遺跡(13)・宿横手三波川遺跡(14)・西横手遺跡群(15)・西横手遺跡群I・II(27・26)・上流齊田北遺跡(62)、利根川左岸では横手南川端遺跡(96)・横手早稲田遺跡(100)・横手湯田遺跡(97)・横手宮田遺跡(101)・亀里平塚遺跡(102)などである。さらには6世紀中葉の様名山二ツ岳降下軽石層(Hr-FP)下水田が利根川流域で確認されている。右岸側で宿横手三波川遺跡(14)・西横手

第3章 遺跡の立地と周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	○集落・溝等 ●墳墓 城館凸 □水田・畠 △遺物のみ							参考文献
			縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	近現代	
1	綿貫伊勢遺跡	高崎市綿貫町	△	△	○	○	○	●	●	本報告書
2	綿貫牛道遺跡	高崎市綿貫町	△		○					図：「綿貫牛道遺跡」2012
3	綿貫原北遺跡	高崎市綿貫町			○			○	●	図：「綿貫原北遺跡」2013
4	下滝高井前	高崎市下滝町	○		○		○	○		図：「年報27」2008「年報28」2009
5	下斎田重土築師遺跡	高崎市下斎田町			○		○	○		図：「下斎田重土築師遺跡」2010
6	上新田新田西遺跡	玉村町上新田			○					図：「上新田新田西遺跡・上新田赤塚遺跡」2009
7	上新田赤塚遺跡	玉村町上新田			○					
8	上新田中道東遺跡	玉村町上新田			○					図：「年報24」2005
9	綿貫小林前遺跡	高崎市綿貫町			○					図：「綿貫小林前遺跡」2006
10	下滝天水道跡	高崎市下滝町	△		○	○	○			図：「下滝天水道跡」2004
11	上滝桜町北遺跡	高崎市上滝町			○					
12	上滝五反畑遺跡	高崎市上滝町			○	○	○	○		図：「上滝五反畑遺跡」1997
13	上滝桜町北遺跡	高崎市上滝町			○	○	○	○		図：「上滝桜町北遺跡」2002
14	宿横手三波川遺跡	高崎市宿横手町		○	○	○	○	○	○	図：「宿横手三波川遺跡」2001
15	西横手遺跡群	高崎市宿横手町			○	○	○	○		図：「西横手遺跡群」2001
16	下郷遺跡	玉村町八幡原			○	●				群馬県教育委員会「下郷」1980
17	八幡原A遺跡	高崎市八幡原町	○				○	○		
18	八幡原B遺跡	高崎市八幡原町			△	△	○	○	○	図：「八幡原A・B遺跡 上滝 元島名A遺跡」1981
19	下斎田・滝川A遺跡	高崎市斎田町			○	●		○		
20	滝川B遺跡	高崎市上滝町								図：「下斎田・滝川A遺跡 滝川B・C遺跡」1987
21	滝川C遺跡	高崎市上滝町								
22	上滝遺跡	高崎市上滝町	△		○	○	○	○		図：「八幡原A・B遺跡 上滝 元島名A遺跡」1981
23	元島名遺跡	高崎市元島名町	△		△	△				図：「元島名遺跡・吹屋遺跡」1982
24	島野塚遺跡群	高崎市島野町					○			「新編高崎市史 資料編3中世」1996
25	元島名諏訪北遺跡	高崎市元島名町				□				高崎市教育委員会「高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書」1992
26	西横手遺跡群(Ⅱ)	高崎市萩原町				□				高崎市教育委員会「西横手遺跡群(Ⅱ)」1989
27	西横手遺跡群(Ⅰ)	高崎市西横手町		△		●				高崎市教育委員会「西横手遺跡群(Ⅰ)」1989
28	甲斐元在館宮内塔	高崎市西横手町						●		高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998
29	元島名内出	高崎市元島名町	△	△						「新編高崎市史 資料編3中世」1996
30	元島名遺跡	高崎市元島名町		○	●	●				高崎市教育委員会「元島名遺跡」1979
31	跡ノ宮遺跡	高崎市矢中町		○	●	●				高崎市教育委員会「跡ノ宮遺跡」1978
32	万相寺遺跡	高崎市宿大願町			○	○	○	○		高崎市教育委員会「万相寺遺跡」1985
33	高崎情報団地	高崎市中大願町・宿大願町	△	○	●	○	●	○	□	高崎市遺跡調査会「高崎情報団地遺跡」1997
34	中大願金井遺跡	高崎市中大願町	△		○	○				住居・土坑。市教委：1989
35	中大願金井分遺跡	高崎市中大願町			○	○				住居。市教委：1992
36	陣原屋敷	高崎市中大願町					○			「新編高崎市史 資料編3中世」1996
37	中大願騎具遺跡	高崎市中大願町			○	○				高崎市教育委員会「高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書」1989
38	元島名下河原遺跡	高崎市元島名町				●				「新編高崎市史 資料編2」2000
39	元島名拜塚古墳	高崎市元島名町			●					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998
40	上滝B遺跡	高崎市上滝町			○	□		○		図：「上滝桜町北遺跡・上滝B遺跡」2002
41	慈恩寺	高崎市下滝町								「新編高崎市史 資料編3中世」1996
42	下大願蟹沢遺跡	高崎市下大願町			○	●				高崎市教育委員会「下大願蟹沢遺跡」1993
43	下大願・中道下遺跡	高崎市下大願町								高崎市教育委員会「下大願・中道下遺跡」2010
44	観音・旭・富士塚・集人・吹手・峯岸	高崎市柴崎町	△			●	○	○	△	高崎市教育委員会「柴崎遺跡群V」1989
45	東京・富士塚・富士塚前部	高崎市柴崎町					□			高崎市教育委員会「柴崎遺跡群Ⅱ」1985
46	村岡・富士塚前A遺跡	高崎市柴崎町					□			高崎市教育委員会「柴崎遺跡群Ⅰ」1984
47	柴崎蟹沢古墳	高崎市柴崎町			●					「新編高崎市史 資料編」1999
48	砂内	高崎市柴崎町			●					高崎市教育委員会「矢中遺跡群Ⅱ」1986
49	柴崎熊野前遺跡	高崎市柴崎町			○	○	○	○	○	図：「柴崎熊野前遺跡」1998
50	下大願遺跡	高崎市下大願町			○	○				高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998
51	矢中村東A遺跡	高崎市矢中町			●					高崎市教育委員会「矢中遺跡群Ⅲ」1984
52	矢中村東B遺跡	高崎市矢中町			●	□				高崎市教育委員会「矢中遺跡群Ⅳ」1985
53	矢中村東C遺跡	高崎市矢中町						○		高崎市教育委員会「矢中遺跡群Ⅴ」1988
54	桶筒山古墳	高崎市綿貫町			○					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998
55	綿貫遺跡	高崎市綿貫町			○	●	○	○		高崎市教育委員会「綿貫遺跡」1985
56	前山古墳	高崎市下滝町			○	●				高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998
57	御伊勢山古墳	高崎市下滝町			○	●				高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998
58	下滝館	高崎市下滝町						凸		「新編高崎市史 資料編3中世」1996
59	下滝屋敷	高崎市下滝町						凸		群馬県教育委員会「群馬県の中世城館跡」1988
60	下滝梅崎遺跡	高崎市下滝町	○		○	●	○	○		高崎市教育委員会「高崎市内小規模埋蔵文化財緊急発掘調査報告書」1995

## 第2節 周辺の遺跡

番号	遺跡名	所在地	○集落・溝等 ●墳墓 城館凸 □水田・畠 △遺物のみ							参考文献	
			縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	近現代		
61	上滝社宮司東遺跡	高崎市上滝町			○	○					
62	上滝番田北遺跡	高崎市上滝町			□	□				高崎市遺跡調査会「上滝社宮司東・番田北遺跡 下滝高井井・赤城遺跡」1990	
63	下滝高井前遺跡	高崎市下滝町	△	△	△	△					
64	下滝赤城遺跡	高崎市下滝町			○	○					
65	飯米屋敷	高崎市総貫町					○	△			『新編高崎市史 資料編3中世』1996
66	総貫親善山古墳	高崎市総貫町			●						高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998
67	普賢寺裏古墳	高崎市総貫町			●					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998	
68	不動山古墳	高崎市総貫町			●					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998	
69	不動山東遺跡	高崎市総貫町			○	○				不動山東遺跡調査会「不動山東遺跡」1986	
70	総貫飯米前Ⅱ遺跡	高崎市総貫町	△		○	○	●			高崎市遺跡調査会「総貫飯米前Ⅱ遺跡」2000	
71	文安の宝塔	高崎市総貫町					●			『新編高崎市史 資料編3中世』1996	
72	天神山古墳	高崎市下斎田町			●					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998	
73	下斎田城	高崎市下斎田町					△	△		『新編高崎市史 資料編3中世』1996	
74	八幡原船	高崎市八幡原町					△	△		『新編高崎市史 資料編3中世』1996	
75	灰塚屋敷	高崎市八幡原町					△	△		『新編高崎市史 資料編3中世』1996	
76	八幡原灰塚Ⅱ遺跡	高崎市八幡原町			○●	○	○			高崎市教育委員会「岩鼻坂上北遺跡 八幡原灰塚Ⅱ遺跡 飯塚新田西・雁田遺跡 高崎市内水田遺跡一覽」1994	
77	岩鼻二子山古墳	高崎市総貫町			●					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998	
78	飯五山古墳	高崎市栄崎町			●					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998	
79	八幡原大鼻遺跡	高崎市八幡原町					□			高崎市遺跡調査会「八幡原大鼻遺跡・稲荷遺跡」1984	
80	倉賀野東古墳群 大道南群	高崎市倉賀野町			●					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998	
81	むじな山古墳	高崎市倉賀野町			●					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998	
82	弁天山古墳	高崎市倉賀野町			●					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998	
83	乙大志寺遺跡	高崎市倉賀野町			●					高崎市教育委員会「高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書」1991	
84	岩鼻坂上北遺跡	高崎市岩鼻町	△		●		○			高崎市教育委員会「岩鼻坂上北遺跡 八幡原灰塚Ⅱ遺跡 飯塚新田西・雁田遺跡 高崎市内水田遺跡一覽」1994	
85	岩鼻の岩	高崎市岩鼻町					△	△		『新編高崎市史 資料編3中世』1996	
86	若宮八幡北古墳	高崎市八幡原町			●					高崎市教育委員会「高崎市遺跡分布図」1998	
87	若宮館	高崎市八幡原町					△	△		『新編高崎市史 資料編3中世』1996	
88	八幡原若宮遺跡	高崎市八幡原町			○●	○	○			高崎市教育委員会「高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書」17、2003	
89	天神塚古墳	玉村町八幡原			●					玉村町教育委員会「玉村町の遺跡」1992	
90	天神塚Ⅱ遺跡	玉村町八幡原			●					玉村町教育委員会「角洲伊勢山遺跡・角洲伊勢山Ⅳ遺跡・下郷Ⅱ遺跡・天神塚Ⅱ遺跡・八幡原赤塚遺跡・薬師遺跡」2002	
91	八幡原稲荷遺跡	高崎市八幡町	△		○	○	□			『新編高崎市史 資料編3中世』2000	
92	中道西遺跡	玉村町上新田					□			玉村町教育委員会「中道西遺跡(第1次・第2次調査)」1996	
93	中道西Ⅱ遺跡	玉村町上新田			○	○	○	○		玉村町教育委員会「中道東遺跡 中道西Ⅱ遺跡 鞍馬東遺跡(第2次調査)・中道東Ⅱ遺跡・中道東Ⅰ遺跡(第2次調査)」2008	
94	八反田遺跡	玉村町板井					□			玉村町教育委員会「玉村町の遺跡」1992	
95	天神前遺跡	玉村町板井					○	□		玉村町教育委員会「天神前遺跡・大明神遺跡・北小路遺跡」2002	
96	横手南川端遺跡	前橋市横手町			○	○	○	○	○	同「横手南川端遺跡 横手岡田遺跡」2002	
97	横手岡田遺跡	前橋市横手町	△	△	○	○	○	○	○		
98	中村遺跡	前橋市錦光路町	△		○	○	○	○	●	同「中村遺跡 西田遺跡」2002	
99	西田遺跡	前橋市錦光路町		○	○	○	○	○	○		
100	横手早稲田遺跡	前橋市横手町			○	○	○	○	○	同「亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡」2001	
101	横手宮田遺跡	前橋市横手町			○	○	○	○	○		
102	亀里平塚遺跡	前橋市亀里町			○	○	○	○	●		
103	浅間神社古墳	前橋市横手町			●					群馬県遺跡台帳 群馬県教育委員会「群馬県の中世城館跡」1988	
104	新聖城	前橋市新聖町									
105	陸軍岩鼻火薬製造所	高崎市総貫町・岩鼻町							☆	「陸軍岩鼻火薬製造所の歴史」2007	
106	八街北園・八街北区遺跡	玉村町下新田			○	○	○	○		玉村町教育委員会「原原敷田遺跡、八街北園・八街北区遺跡」2010	
107	福島曲戸遺跡				○	○	○	○	○	同「福島曲戸遺跡、上福島遺跡」2002	
108	上福島中町遺跡	玉村町上福島			○	○	○	○	○	同「上福島中町遺跡」2003	
109	羅漢町遺跡	高崎市羅漢町					○	○	●	同「羅漢町遺跡」2011	

### 第3章 遺跡の立地と周辺の遺跡

遺跡群[15]、左岸側で横手早稲田遺跡[100]・横手湯田遺跡[97]である。

## 5 奈良・平安時代

当遺跡からは7世紀から10世紀代の住居が検出されている。

平安時代に編み込まれた『和名類聚抄』によると、上野国には碓氷・片岡・甘栗・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑菜の14郡があった。この中で、高崎市域と考えられる郷名には、片岡郡の若田・高栗・佐没・長野、群馬郡の長野・井出・小野・上郊・鳥名、多胡郡の山宗、那波郡の鞘田などがある。若田郷は高崎市若田町から八幡町、長野郷は高崎市上、中、下豊岡町一帯、鳥名郷は4世紀代の元島名将軍塚古墳のある高崎市元島町、鳥野町、京目町一帯、山宗郷は高崎市山名町一帯である。また鞘田郷については、佐波郡玉村町斎田から高崎市上滝町、下滝町、下斎田町、岩鼻町、八幡原町を含む地域が考えられている。

奈良・平安時代の遺跡は古墳時代後期と同様の分布を示す。当遺跡周辺で見よう。井野川右岸では綿貫遺跡[55]から住居多数と土壇状遺構、溝が検出されている。土壇状遺構は9世紀後半から10世紀前半代までに築造されたと考えられる瓦葺建物である。綿貫小林前遺跡[9]では大集落、不動山東遺跡[69]は住居2軒、下大類蟹沢遺跡[42]は住居72軒・溝17条である。左岸では下滝天水遺跡[10]や下滝高井前遺跡[4]で大集落、元島名下河原遺跡[38]で住居20軒、上滝遺跡[22]は住居2軒、下斎田・滝川A遺跡[19]は住居9軒と土坑、八幡原灰塚II遺跡[76]は住居1軒である。

天仁元(1108)年に降下した浅間B軽石層(As-B)下の水田が検出されている。下斎田重土薬師遺跡[5]・上滝斎田北遺跡[62]・下滝天水遺跡[10]・上滝榎町北III遺跡[11]・上滝五反畑遺跡[12]・上滝榎町北遺跡[13]・宿横手三波川遺跡[14]・西横手遺跡群I[15・27]・高崎情報団地I遺跡[33]・柴崎遺跡群の東原・富士塚・富士塚前B遺跡[45]と村間・富士塚前A[46]・矢中村東・矢中村東B遺跡[51・52]・八幡原大鼻遺跡[79]などである。

## 6 中世

当遺跡では14世紀前半から16世紀にわたる中世屋敷が

6か所検出されている。出土遺物に高級品は少ないが、中小領主層に関係する遺跡と考えられる。

当地域では鎌倉御家人として綿貫氏の存在が知られる。また、井野川を挟んだ東岸の高崎市八幡原町周辺は、上野国奉行人安達氏が基盤とした地域と言われ、伝屋敷跡として八幡原館(74)がある。安達氏は、弘安8年(1285)霜月騒動により滅亡し、影響下にあった玉村氏も没落したと言われるが、綿貫氏は勢力を保ち、正慶2年(1333)に河内国(大阪府)で楠木正成を討伐した際に作成された「楠木合戦注文」に、「綿貫三郎入道跡」、「綿貫二郎右衛門入道跡」の名が見える。また、西遷御家人としても、鎌倉時代から一族の活躍が知られる。

南北朝時代となり、上野国武士は上州白旗一揆として結束を固め、綿貫氏も構成員となっている。永享12年(1440)に幕府方が茨城県結城城を攻めた結城合戦では、一揆勢として参陣し、「綿貫越後守」、「綿貫多利房丸、同名亀房九代」が首級を上げている。文安6年(1449)「掃部寮領上野国綿貫庄」の年貢は、10年間納入免除となっていた(康富記)。時期が一致するため、一説に綿貫氏の結城合戦での活躍に対する論功行賞であったとも言われる。その際、期限終了に伴う年貢納入の申し立ては、上杉氏被官木部氏が行っており、同荘園の代官であった可能性が高い。峰岸純夫氏によれば、掃部寮は朝廷の設営を取り仕切っており、「掃部寮領はそのための資材供給地で、綿貫庄は何時の頃か(おそらく保の成立する十一～十二世紀に)掃部寮領綿貫保として成立し、自生する藁草や藁(藁)などを豊・蘆・藁などの原料として貢納し」、「十五世紀の時点では、すでにこのような特産物の貢納はなくなり、一般的な荘園に転化していた」が、「依然として政府直轄地として宮内省掃部寮が管轄していた」(峰岸2000)と述べている。なお、当遺跡の南東約600mには、「文安の宝塔」(71)が建立されている。これは文安4年(1447)4月に、2基同時に建立されたもので、高さ90cmと立派である。堀籠屋敷(65)に隣接する墓地内にあり、堀籠氏との関連も想定できるが、結城合戦から7年後であることから、綿貫氏との関係も思い起こされる。その後、綿貫氏は史料上確認できなくなり、勢力的に衰えたものと推測できる。

綿貫氏の存亡と直接関わったものか不明だが、15世紀後半に当地域周辺で大きな争乱があった。古河公方足利



成氏と関東管領上杉氏が争った享徳の乱(1545～1582)である。成氏は、文明9年(1477)に上野国へ侵攻し、数ヶ月にわたり滝・烏名(高崎市)に張陣している。その中心は下滝館(58)に比定される。周辺には下野勢ら8000人余の軍勢が陣を張ったという。同年12月、成氏軍は西方の和田(高崎市)へ進軍したため、当地域を横断したことがわかる。この争乱では、上杉家宰職を勤めた白井長尾景信の子景春が上杉氏に敵対したため、上州一揆勢力でも動揺が生じている。一揆旗本の長野為業は長尾景春方であった。綿貫氏の去就は明らかでないが、成氏の侵攻に際して、おそらく与したがったと考えられる。いずれにしろ、この頃から衰退していくことと無関係とは考え難い。

綿貫地域に関係する武士として、ほかに小林氏がいる。小林氏は高山御厨(藤岡市)地頭であったが、観応3年(1352)「上野国綿貫保内 綿貫四郎次郎並同妻跡」を足利尊氏から与えられている。おそらく綿貫氏は、観応の擾乱(せうらん)に関係して一時的に没落したものと推測されている。なお、小林氏は綿貫を所領として伝えており、永禄10年(1567)武田信玄に対して、所領として申請したが、中栗須(藤岡市)ほか100貫文を替え地として与えられ、領有は認められていない。また、地名として残る字小林との関係は不明である。武田氏領国時代、南方に隣接する岩鼻町には、岩鼻の砦(85)が置かれ、烏川方面への押さえとすが、破却が検討されている。岩鼻陣屋が比定地とされているが、根拠に乏しく詳細は不明である。

当遺跡の南東約400mには堀米屋敷(65)が知られている。ここに居住していた堀米家は、武田家臣高坂弾正の三男で堀米氏の養子となり、以後四代にわたり綿貫村の堀米に居住と記している(「高崎近郷村々百姓由緒書」)。武田氏から本庄市内(埼玉県)で15貫文を与えられており、その後綿貫内に土着したようである。

以上のとおり、当地域は綿貫氏をはじめとする武士勢力が深く関係した地域であったが、堀米屋敷を除けば、関係する城館遺構は知られていない。綿貫小林前遺跡調査の折、地域の情報をもとに編者が周辺を踏査した結果、字曲師の集落に環濠屋敷群が存在し、一部堀跡が残存する状況を確認した。範囲も広いが、やはり綿貫氏に関係する城館と考えるには、証左に欠けている。こうした状況下で、城館・屋敷遺構に関する発掘調査成果への期待

度は高いと思われる。

当遺跡の西に隣接する綿貫牛道遺跡(2)では、市道を挟んで1・2区にまたがる中世屋敷が発見されている。屋敷の規模は南北約39m、東西約25mで、1/3町規模に相当する。平面形は南北に長い長方形である。区画溝は四周せず、東辺と西辺が大きく開口している。こうした形態が当該期の特徴として注目される。内部では建物23棟が検出され、主軸方位の違いから5群に分類され、5時期以上の変遷が捉えられている。時期は、14世紀半ばから15世紀半ば頃と考えられ、廃絶に際して人為的な埋め戻しも想定される。出土遺物には中国産陶磁器は少ないが、瀬戸美濃系の古瀬戸陶器がやや多く出土する。なかでも、ほぼ完形の天目茶碗(15世紀前半)の出土は、特筆される。

綿貫牛道遺跡の西に隣接する綿貫原北遺跡(3)では、14～16世紀にわたる中世屋敷5か所が発見された。1区北端の1号屋敷は、南西端部分の調査となるが、一辺50mを超える屋敷と見られる。区画溝は食い違い、内堀に相当するものもあるため、複郭構造と推定される。ピットも検出されたが、建物として復元できる数量ではない。周辺の屋敷の中では、最終まで残っている。ほかに見つかった屋敷4か所では、2区1号屋敷が一辺約34.5mで建物21棟が建ち、6時期程度の変遷が想定される。また、3区の屋敷2か所は零細で、建物敷地は10m規模であり、面積で20mを超える建物はほとんどない。

綿貫原北遺跡の西側に接して、北東方向に延びる綿貫小林前遺跡(9)では、P東区、P北区にかけて二重の溝に囲まれた屋敷の一角が調査されている。調査範囲では南北規模約22m以上であり、外堀は東方調査区域外へ直線的に延びている。存続時期は出土遺物から14～15世紀代に位置づけられる。建物は1棟のみ復元される。また、O東区で調査された溝跡3は、綿貫原北遺跡1区6号溝と同一とみられる。中世前期と推定されているが、遺物は出土していない。綿貫原北遺跡も含めると、長さ90m以上となり、長大な区画溝と考えられる。

井野川を挟んだ東岸の下滝高井前遺跡(4)3区でも、中世屋敷1か所と区画遺構が見つかっている。中世屋敷は一辺50m規模を有している。周辺には下斉田城(73)など良好に残る屋敷遺構が点在しており、これらと対比される遺構として重要なものである。足利成氏に関わる滝

### 第3章 遺跡の立地と周辺の遺跡

の陣への配慮も必要となる。

井野川を挟んだ北岸の下滝天水遺跡(10)では、下流館(58)の外堀に推定される溝2条が調査された。A1区4・5溝であり、調査前は完全に埋没していたが、わずかな地形変化から堀跡に推定されていた。調査の結果、出土遺物はほとんど近世で、中世の遺物はわずかであった。現存する堀が水堀として機能している状況下では、発掘調査された溝も当然近世まで残存し使用されていたと判断される。遺構としての存続期間の問題は、課題として残されている。

以上の状況により、当地域は中世屋敷が集中して調査されていることがわかり、こうした成果を総合的にとらえる視点も必要となろう。

#### 引用文献

峰岸純夫 2000「掃部寮領綿貫庄について」『新編高崎市史通史編2中世しおり』

## 7 近世

当遺跡は、近世において綿貫村に属している。当初は高崎藩領であったが、正徳元年(1711)から幕府領となった。南方約1kmには、日光例幣使街道が東西方向に走り、旅人の往来もあった。宿場は倉賀野宿と玉村宿があり、当地域は中間に位置するが、村域の南限を通過するため、影響はあまりないと見られる。当遺跡では、近世の陶磁器を伴う土坑、溝がわずかにあり、桶を埋設したと思われる土坑も、この時期と考えられる。

西方に位置する綿貫原北遺跡では、17世紀代に始まる居住域が3か所調査された。主な遺構は桶を埋設した土坑と、境界となる溝であった。また、天明3年(1783)の浅間山噴火に関連して、降下した灰を処理した灰掻き穴や溝、天地返しに伴う復旧溝群が検出された。特筆される事例として、17世紀後半に営まれた火葬跡があり、やや離れた近世墓群では、鉄製鍋を被せた鉢盛り葬が発見されている。

## 8 近代

当遺跡の南1.5km、現在の日本化薬株式会社高崎工場の敷地内に、明治13(1880)年陸軍の火薬製造所(当時の正式名称は東京砲兵工廠岩鼻火薬製造所) [105]の建設がはじまった。その後、明治38(1905)年、大正7(1918)

年、大正末年から昭和初年、昭和13(1938)年から14年、17(1942)年に敷地拡張が行われている。

この製造所の建設から度重なる敷地拡張によって、綿貫古墳群を構成する前方後円墳の岩鼻二子山古墳や円墳多数が壊されていった。出土遺物の一部は東京国立博物館に収蔵されている。

1945年まで存続した製造所は、現在の日本原子力研究開発機構・群馬の森・日本化薬の敷地を含む広大な面積があった。製造所跡は文化庁の近代化遺産総合調査や近代の遺跡調査(詳細調査)の対象となっている。

## 第4章 発掘調査の記録

### 第1節 遺跡の概要

#### 1 遺構の概要

##### (1) 1区

遺跡の調査時、竪穴住居205軒、土坑174基、井戸6基、ピット437基、溝31条が検出されている。その後の整理作業によって、竪穴住居は197軒、土坑166基、井戸7基、ピット437基、溝31条になった。

遺構の構築年代は古墳時代前期の4世紀代から近世にわたると思われるが、土坑やピットなどの多くはその時期を確定できないものも数多い。

竪穴住居は調査区西に隣接する綿貫牛道遺跡からの集落を構成するものである。古墳時代前期の住居は綿貫牛道遺跡で5軒検出されているが、綿貫伊勢遺跡1区からは42軒、同2区からは13軒の計55軒が検出されたことになる。そしてこの集落の西限に綿貫牛道遺跡1区・2区の北西から南東(N-24～29°-W)にほぼ直線的に約90m走行する4世紀代の溝が検出されている。4世紀代に属すると思われる土坑は10基である。しかし、この中で6基の土坑が住居に付属する可能性がでてきた。

古墳時代前期以降に属すると思われる土坑は40基であった。

6世紀代の竪穴住居は36軒、7世紀代36軒、8世紀代19軒、9世紀代16軒、10世紀代21軒、11世紀代1軒となっている。時期不明な住居も25軒ある。奈良～平安時代に属すると思われる土坑は計28基である。井戸は平安時代から中世にかけて構築されたものであろう。

中世に属する遺構は、土坑2基、井戸2基、溝3条である。

縄文時代の遺構は検出されていない。出土した遺物は遺構外として掲載した。縄文時代前期花積下層式から後期堀之内式にかけての土器片が出土している。

##### (2) 2区

縄文時代の遺構は検出されず、遺構外出土遺物として前期から後期の土器12点と石器3点を掲載した。非掲載遺物を含めると、2区では前期前半(花積下層式期～黒浜・有尾式期)の土器が26点と多く、中期が多い1区の状況とやや異なっている。

古墳時代の住居は43軒検出され、別に時期を確定できない住居が19軒ある。調査区全体に広く分布するが、西端でやや散漫となり、隣接する綿貫牛道遺跡2区では1軒程度となる。西側に位置する2・4号掘立柱建物は、棟持ち柱の状況と主軸方位から、同時期と考えられる。また、これら掘立柱建物のやや北側では、土師器壺を埋設した遺構が3基発見された。1号土師器埋設遺構には蓋として壺が入れ子状に合わされており、土師棺墓である可能性が高い。時期は古墳時代前期に比定される。2区17号溝は、北西～南東軸で走向する広域な溝であり、集落の西限とほぼ重なっている。綿貫牛道遺跡の1区9号溝、2区19号溝と同一で、集落との関係も一致する。この状況は、平安時代の集落まで受け継がれたと見られる。

飛鳥～平安時代の住居は、35軒検出された。調査区全体に広く分布するが、10～20m程度の間隔を置いて、集中部分が点在している。調査区中央の掘立柱建物も、ほとんど同時期と思われる。1号屋敷内に所在する2号井戸は石組みであり、出土遺物から9世紀第3四半期に比定される。綿貫原北遺跡1区でも、同様な形態の井戸1基が検出され、9世紀後半に比定されている。調査区北西端で検出された1号窯は、強く被熱しており、土器類は出土していないが、類例から土器を焼成した窯跡と推定される。

中世では、東側に1号屋敷が発見された。一辺50mを超える規模を持ち、内部で19棟の掘立柱建物が確認できた。14世紀後半頃から遺構が発生し、16世紀前半頃まで継続している。1号屋敷の西側でも遺構は散漫に広がり、中央を南北に走向する15・16号溝は、大きな区画を意識した溝である。また、西端の18号溝は、北側を区画する

もので、西側の綿貫牛道遺跡と合わせて、一辺40m規模の区画を形成する。周辺は墓域的な要素が強いが、18号溝と重なる101号土坑ほか2基も火葬跡と思われる。

近世の遺物を伴う遺構は、2号集石遺構と8号溝である。また、調査区全体に分散して、桶を埋設したと考えられる土坑6基が検出されており、形態から近世以降と考えられる。

### (3) 3区

縄文時代の遺構は検出されず、遺構外出土遺物として中期・後期の土器2点と石鏃1点を掲載した。非掲載遺物を含めると、3区では中期後半(加曾利E式期)が18点と多く、2区の出土量よりも多い。ただし、出土地は中世の溝が大部分を占める。溝が多量の礫によって人為的に埋没している点からも、周辺から集められたもので、

3区の状況を反映している可能性は低い。

古墳時代に比定される遺構は見つかっていない。

飛鳥～平安時代では、住居2軒が検出され、時期不明の1軒も同時期と思われる。調査区が狭いことに加え、中世の溝によって壊されるため、住居全体が調査できたものはなかった。

中世では、2区1号屋敷の東辺と思われる1号溝を主体に溝5条が検出された。調査区の南側は、調査区が若干広がるため、同時期の遺構が集中していた。掘立柱建物5棟、土坑13基、井戸1基、土坑墓1基を検出したが、掘立柱建物はすべて重複しており、最低でも5時期にわたっている。ただし、3棟の主軸方位が2区1号屋敷の方位と著しく異なるため、時期が異なると考えられる。

近世遺物を伴うものは、土坑1基とビット1基のみである。

第2表 遺構数一覧

調査区・時期	住居	掘立柱建物	柱穴例	竪穴状遺構	土坑	地下式土坑	竈	井戸	ビット	土器埋設	墓	火葬跡	集石	溝
1区	197				166			7	437					31
2区	97	9		61			1	6	176	3	2	1	2	14
中世屋敷内		19	1	1	41	1		3	325				1	3
3区	3	5		15				1	62		1			6
合計	297	33	1	1	283	1	1	17	1000	3	3	1	3	54

## 2 基本土層

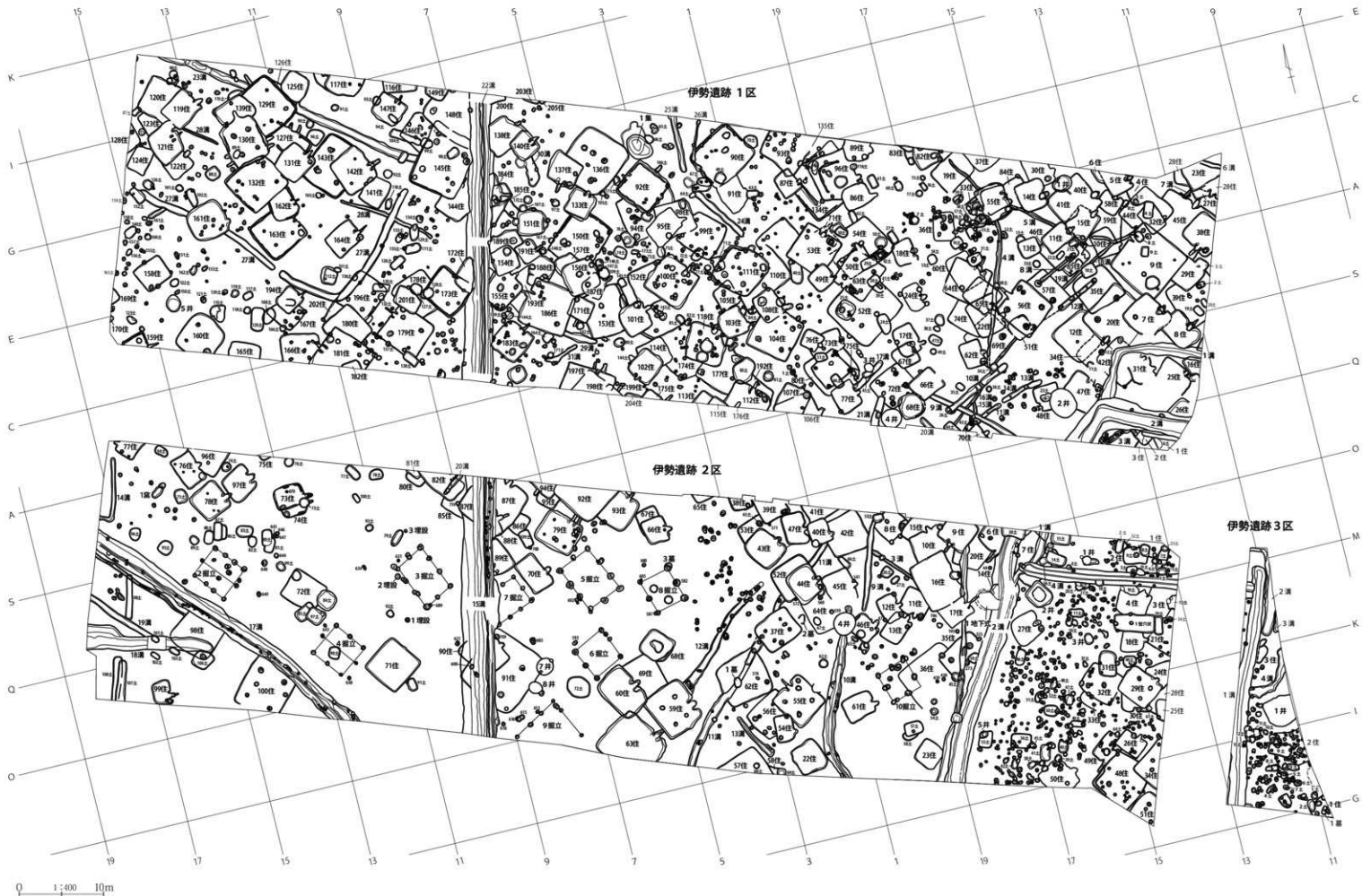
東方から当遺跡、綿貫牛道遺跡、綿貫原北遺跡は、東方を流れる井野川の旧河道上端部を起点に総延長2.2kmを超える連続した遺跡である。これらの遺跡は全体として井野川低地帯に位置するが、井野川沿岸に広がる微高地を横断する状況であり、西端は粕川に向かう低湿な地形への変換点に位置する。したがって、煩雑となるが、3つの遺跡をあわせて、ここで扱う。

当遺跡の基本土層は、2区北壁と中央深掘断面(第5章第3項テフラ分析参照)を、3区は1号井戸断面を参考に基本土層を作成している。3区は、ほ場整備などによって著しく削平され、表土の下にVI層が露呈し遺構確認となった。綿貫牛道遺跡は2区20号溝北壁を基礎としたもので、浅間A軽石や水田耕作土が見られるなど多彩である。この状況は綿貫牛道遺跡西端から綿貫原北遺跡東端部分で、局所的に見られる状況を示し、台地全体の傾向ではない。綿貫原北遺跡では、1区西端が低地へ向かう変換点の土層堆積である。1区中央から東側は微

高地となる。このため、1区西側は81号溝西壁を、1区東側は南壁と1区3号井戸断面を使用し、やや細かく基本土層を作成した。

遺跡周辺は全体として南東方向に緩やかに傾斜するため、基本土層中の各層位も南東方向に下降する傾向にある。I層は表土であり、白色軽石(As-A)を少量含んでいる。遺跡全体として、ほ場整備による改変を受ける。I層の厚さのばらつきは、この影響を受けており、I層である造成盛土を含んだ部分もある。II層は元來遺跡全体に堆積すると思われるが、綿貫牛道遺跡東側から当遺跡については、ほ場整備により除去されている。

As-Bも遺跡全体に確認され、基本土層中に見られない調査区でも、遺構埋没土中に確認できる。一次堆積は綿貫原北遺跡1区西側で面的に確認できるが、厚さは数cm程度である。また、この部分に位置する1区84号溝断面では、赤褐色の火山灰層を確認することもできる。この周辺は粕川へ向かって下降しており、以西ではAs-B直下の水田も想定される。上下に堆積する灰褐色～黒褐色土であるIII・IV層は、低湿な状況に伴うもので、分布



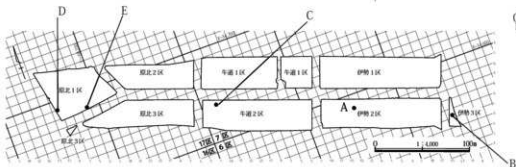
第9図 總貫伊勢遺跡全体図(1:400)

範囲もこの周辺に限定される。

綿貫原北遺跡1区東側から当遺跡までの微高地において、このⅢ・Ⅳ層に相当するのがⅤ層である。漸的にローム層となるⅤb層が西側に広がり、綿貫牛道遺跡から当遺跡1・2区では比較的安定した暗褐色土を呈するⅤa層があり、FPを含む白色軽石が混じる。

ここで問題となるのが、綿貫牛道遺跡西端から綿貫原北遺跡東端部分で、局所的に見られる状況を示し、綿貫牛道遺跡2区として図示したとおり、造成盛土Ⅰ層下にⅡ層がやや厚くあり、切土は受けていない。ほ場整備施工以前は南北に帯状に続く低地であったらしい。Ⅱ層下面には天明3年に降下した軽石を天地返ししたと思われるU字形の白色軽石(As-A)集中部分(1層)が確認できる。下層では幅の広い溝が検出された。結果としてこの範囲が帯状の低地として、後代まで地形に反映することとなる。Ⅱ層下位には水平に堆積する暗褐色土(2層)があり、水田耕作土の可能性が想定されている。一見小谷地状を呈するが、Ⅵ層以下は平坦である。

Ⅵ層は明黄褐色ロームであるが、Ⅶ層の影響もあり彩度に乏しい。Ⅶ層は砂礫を多く含んだ、にぶい黄橙色～明黄褐色砂質土で、井野川泥流堆積層である。遺跡全体に厚く堆積しており、当遺跡2・3区の調査により、厚さ約3.5mが確認される。Ⅷ層は黒色土で低温な状況が復元され、Ⅸ層砂層を挟んで、浅間板敷黄色軽石が下位に堆積する。



#### 基本土層

- I 灰褐色砂質土 As-A少量を含む。現耕作土  
 I' 灰褐色砂質土 As-A多量、ローム大ブロック多量を含む。ほ場整備造成盛土。  
 II 灰褐色砂質土 As-A少量を含む。  
 1 A s-A充填土(灰掻き溝)  
 2 暗褐色土 ややシルト質。水田耕作土の可能性。  
 III 黒褐色～暗褐色砂質土 As-Bを多量に含む。  
 As-B  
 IV 灰褐色～黒褐色土 やや粘質。黄色粒・小礫少量に含む。

- Va 暗褐色土 白色軽石(FP軽石を含む)を含む。  
 Vb 暗褐色～褐色土 ローム漸移層。黒褐色土をモザイク状に含む。  
 VI 明黄褐色ローム 汚れた感じ。  
 VII にぶい黄橙～明黄褐色砂質土 井野川泥流堆積層。中小砂礫を多量に含む。よく締まる。鉄分凝集斑文目立つ。  
 VIII 黒色土  
 IX 桃灰褐色砂  
 As-Y P  
 X 灰色砂

第10図 基本土層

## 第2節 1区の遺構と遺物

1区からは調査の段階で205軒の住居が検出されている。区の全域にわたっての検出であるが、とりわけ東側で密集している。綿貫牛道1区検出の住居群と、また伊勢2区検出の住居群と各時期において同一集落を構成するものである。

個々の住居番号は調査区ごとに付けた番号をそのまま使用しているが、整理作業の過程を経て欠番となったものもある。21・78・79・81・97・176・190・195号の8軒の住居である。

その結果、1区では197軒の住居となった。古墳時代前期4世紀代の住居は42(+1)軒、6世紀代の住居は36軒、7世紀代の住居は36軒、8世紀代の住居は19軒、9世紀代の住居16軒、10世紀代の住居21軒、11世紀代の住居1軒、時期不明25軒となる。

### (1) 竪穴住居

#### 1号住居(第11・238図、P.L. 2)

**位置** 86P-12グリッド、3号住居、6号土坑、2号溝と重複している。6号土坑と2号溝に壊されている。

**形状** 調査区外に延びていることと土坑や溝に壊されているために全容は不明である。 **主軸方位** 不明。

**規模** 不明。

**床面** ほぼ平坦。部分的に硬化面と炭化物・焼土の分布が認められた。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

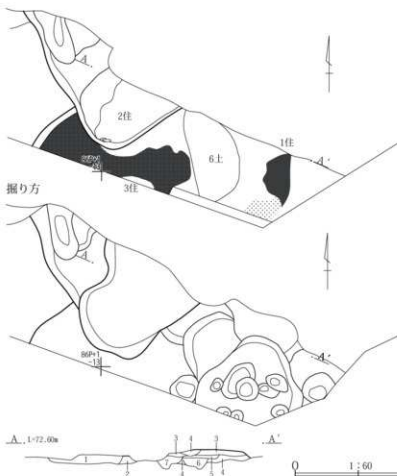
**柱穴** 明瞭な柱穴を検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 床面での検出のために確認できていない。3～7層は掘り方充填土である。1層は2号住居の掘り方充填土、2層は3号住居の掘り方充填土になる。

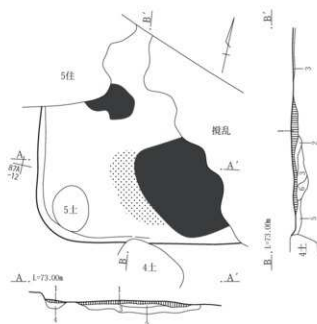
**掘り方** 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは15～31cmを測る。

**遺物** 土器の出土量は非常に少なかった。土師器の杯が



- 1 暗褐色土 ややしりやや粘性あり。ローム小ブロック微量、焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 しりやや粘性あり。焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 ややしり強くや粘性強い。炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック微量を含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土 しり強く粘性強い。ロームブロック多量を含む。
- 6 暗褐色土 ややしりやや粘性弱い。灰ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量含む。
- 7 暗褐色土 ややしり弱くや粘性あり。ローム粒子含む。

第11図 1区1～3号住居



- 1 暗褐色土 堅くしまりやや粘性あり。扁平なロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 堅くしまりやや粘性あり。扇状の灰、焼土小ブロック・ローム小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム小ブロック・焼土粒子少量含む。

第12図 1区4号住居

掘り方から出土している。

時期 9世紀前半に比定される。

#### 2号住居(第11・238図、P.L. 2)

位置 86P-12・13グリッド、3号住居、2号溝と重複している。2号溝に壊されている。

形状 部分的な検出のために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位 不明。

規模 現状での長辺(北西～南東)2.4m、短辺(北東～南西)1.4m、残存壁高11cm～24cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

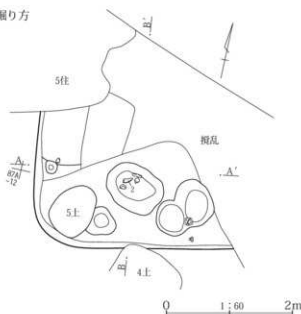
周溝 検出できなかった。

埋没土 床面での検出のために確認できていない。1層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に掘り下げている。掘り方の深さは6～14cmを測る。

遺物 土器の出土量は非常に少ない。覆土中から土師器の杯、須恵器の瓶が出土している。

掘り方



- 4 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性強い。ローム粒子含む。
- 6 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性強い。ロームブロック多量、焼土粒子少量含む。

時期 9世紀前半に比定される。

#### 3号住居(第11・238図、P.L. 2)

位置 86P-12・13グリッド、1・2号住居、6号土坑と重複している。6号土坑に壊されている。

形状 全容は不明である。主軸方位 不明。

規模 不明。

床面 ほぼ全面的に硬化面と炭化物・焼土の堆積が認められた。

カマド 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 床面での検出のために確認することはできなかった。2層は掘り方充填土である。

掘り方 深さ12cmを測る。

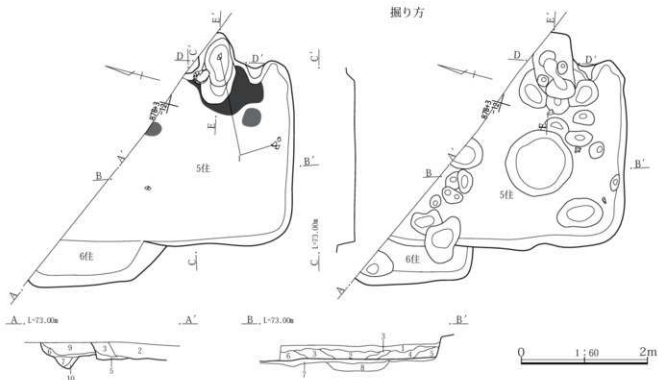
遺物 土器の出土量は非常に少なかった。覆土中から須恵器の杯が出土している。

時期 10世紀代に比定される。

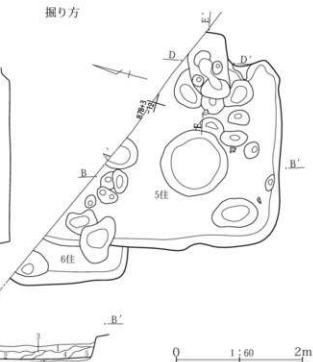
#### 4号住居(第12・238図、P.L. 2)

位置 87A-B-11グリッド、5・4号住居と重複している。

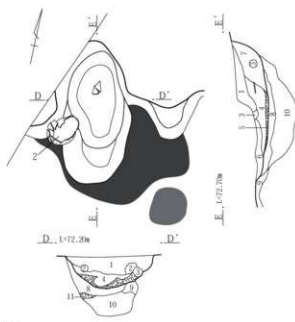




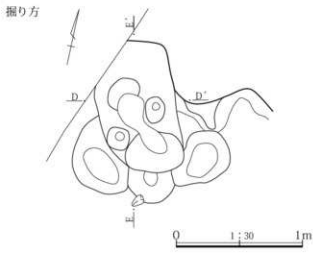
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子・ローム粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子多量、ローム粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子やや多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子少量、ローム小ブロック含む。
- 5 褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子微量に含む。



- 6 暗褐色土 ややしまり弱く粘性強い、ローム粒子少量、焼土小ブロック・黒色灰ブロック含む。
- 7 暗褐色土 堅くしまる。褐色土ごく多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 8 にぶい黄褐色土 しまり粘性強い、暗褐色土ブロックごく多量、焼土粒子少量含む。
- 9 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い、ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 10 暗褐色土+ローム小ブロック



- カマド
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土小ブロック多量、炭化物粒子含む。
  - 2 焼土ブロック
  - 3 ロームブロック



- 4 焼土ブロック 暗褐色土ブロック・黒色灰ブロック含む。
- 5 黒色灰 暗褐色土ブロック・焼土ブロック・ロームブロック含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土粒子少量、焼土ブロック・炭化物粒子含む。
- 7 焼土小ブロック+灰-黒色灰。
- 8 褐色土+灰
- 9 褐色土
- 10 褐色土 焼土大ブロック・灰ブロック多量に含む。
- 11 灰

第13図 1区5・6号住居

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** 不明。

**規模** 現状では東西3.1m、南北3.48m、残存壁高は5～13cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。部分的に硬化面と焼土・炭化物の分布が認められる。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 床面での検出のために確認できなかった。1層は貼床になるものと思われる。2～6層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 深さ2～15cmを測る。

**遺物** 土器片が少量出土。8世紀前半の土師器の盤、掘り方から須恵器の蓋、10世紀前半の羽釜が出土している。

**時期** 5号住居との重複関係を考えると8世紀前半に比定されるものと思われる。

5号住居(第13・238図、P.L. 2・261)

**位置** 87B-11・12グリッド、4・6・58号住居と重複している。6・58号住居を壊している。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸長方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-75°-E

**規模** 現状での面積7.76㎡、現状での長辺(南北)3.45m、短辺(東西)2.88m、残存壁高は25～37cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面が認められる。

**カマド** 東壁の中央から南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ114cm、焚き口部の幅45cm、袖を含めた幅は110cmである。袖部分から土師器の甕が出土している。1～7層はカマド覆土、8～11層は掘り方覆土である。2層は焼土ブロックになる。カマド前面に炭化物と焼土の分布が認められる。掘り方調査時に袖部分から検出された落ち込みは、袖石の抜き取り痕の可能性がある。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～6層は住居覆土、7層は掘り方充填土である。

**掘り方** 全体的に掘り下げているが浅い。深さ3～10cmである。住居中央部付近から土坑が検出された。長径107cm・短径105cm・深さ13cmのほぼ円形を呈する。

**遺物** 土器の出土は少ない。土師器の杯、カマドの袖に使用された甕が出土している。

**時期** 出土遺物から8世紀第3四半期に比定される。

6号住居(第13図、P.L. 2)

**位置** 87B-12グリッド、5号住居に壊されている。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明である。

**主軸方位** 不明。

**規模** 不明。現状では南北1.88m、東西0.69m、残存壁高25cm～28cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。セクションA-A'の6・9層は住居の覆土、2・10層は掘り方調査時に検出されたピット覆土である。

**掘り方** 部分的に掘り下げているが浅い。

**遺物** ほとんど出土していない。

**時期** 不明。

7号住居(第14・15・238・239図、P.L. 3・4・261)

**位置** 86R・5-11・12グリッド、8・9・20号住居と重複している。9・20号住居を壊し、8号住居に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。 **主軸方位** N-61°-E

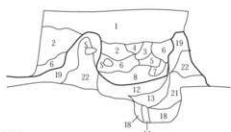
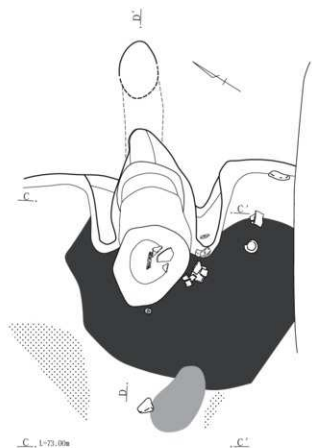
**規模** 面積18.21㎡、長辺(北西～南東)4.52m、短辺(北東～南西)4.25m、残存壁高15～54cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。部分的に硬化面が認められる。

**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ210cm、焚き口部幅56cm、袖を含めた幅は110cmである。カマド前面には炭化物と焼土の分布が認められた。2～10・20層はカマド覆土、19・22層は袖、12～18・21層



第14図 1区7号住居(1)

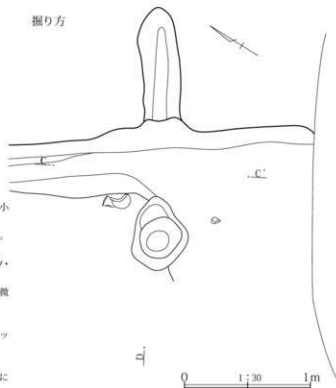


## カマド

- 1 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
- 2 褐色土 しまり粘性あり。炭化物・灰多量、ローム小ブロック・焼土小ブロックやや多量に含む。
- 3 暗オリーブ褐色土 しまり粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子少量含む。
- 4 褐色土 しまり粘性あり。焼土小ブロックやや多量に含む。
- 5 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。焼土小ブロック少量、灰ブロック・炭化物粒子含む。
- 6 暗褐色土 しまり強く粘性強い。ローム小ブロック・焼土小ブロック微量、炭化物粒子含む。
- 7 焼土ブロック+灰
- 8 褐色土 しまり粘性あり。炭化物粒子・灰ブロック多量、ローム小ブロック・焼土小ブロックやや多量に含む。
- 9 ロームブロック
- 10 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。焼土大ブロック・焼土粒子多量に含む。
- 11 黄褐色土 焼土小ブロック含む。
- 12 褐色土 黄褐色土多量、焼土小ブロック少量、灰小ブロック微量に含む。
- 13 褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。ロームブロックやや多量、灰小ブロック・焼土粒子含む。
- 14 黄褐色土
- 15 暗褐色土+ローム
- 16 褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、焼土ブロック少量含む。

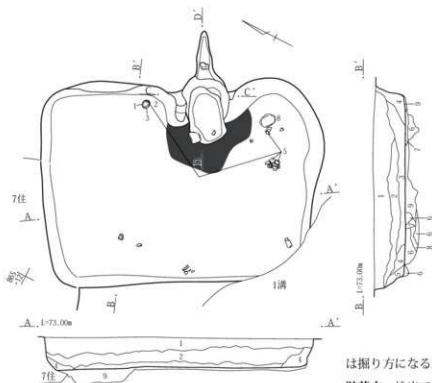


## 掘り方



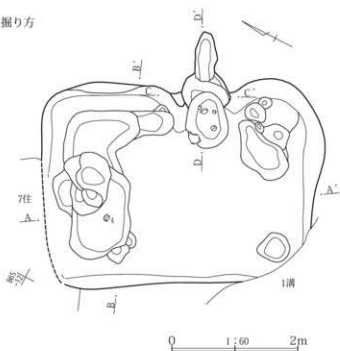
- 17 暗褐色土 しまり強くやや粘性弱い。灰小ブロックやや多量、焼土小ブロック微量に含む。
- 18 にぶい黄褐色土 ややしまりやや粘性あり。ロームブロック含む。
- 19 ロームブロック
- 20 焼土化したローム
- 21 褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量含む。
- 22 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ロームブロックごく多量、焼土小ブロック少量含む。

第15図 1区7号住居(2)



- 1 暗褐色土 ローム粒子や多量、ローム小ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック微量、褐色土含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム大ブロック少量含む。
- 5 褐色土 暗褐色土含む。
- 6 黒褐色土ブロック+ローム大ブロック
- 7 黒褐色土 ローム小ブロックや多量に含む。
- 8 黒褐色土 ローム大ブロックや多量に含む。
- 9 褐色土 黒褐色土含む。

掘り方



第16図 1区8号住居(1)

は掘り方になる。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～9層は住居覆土、10～15層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に掘り下げているが浅い。深さ1～23cmを測る。土坑とピットが検出された。土坑は長径89cm・短径77cm・深さ17cm、P1は長径47cm・短径40cm・深さ23cm、P3は長径48cm・短径42cm・深さ32cmである。

遺物 カマド周辺や南壁下から土師器の杯が出土。この他、土師器の高杯・甕、須恵器の盤・瓶、紡錘車、鎌、掘り方から円筒埴輪が出土している。この他、縄文土器片(加曾利E式)3点が出土。

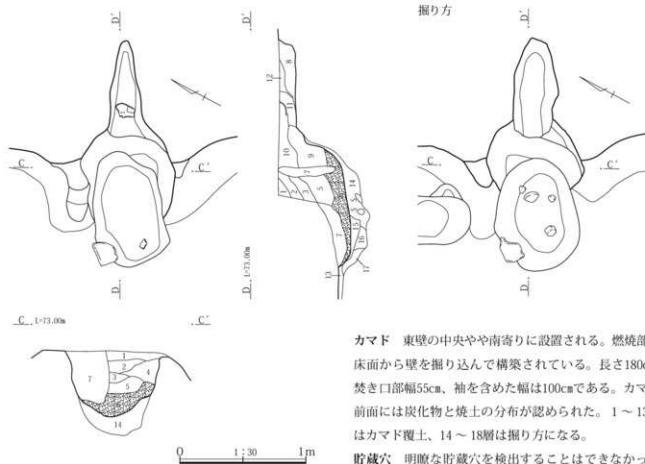
時期 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

8号住居(第16・17・239・240図、P.L.4・261)

位置 86R・S-11グリッド、7・39号住居、1号溝と重複している。7・39住居を壊し、1号溝に壊されている。

形状 隅丸長方形を呈する。主軸方位 N-61°-E  
規模 面積13.6㎡、長辺(北西～南東)4.5m、短辺(北東～南西)3.26m、残存壁高30～48cmを測る。

床面 平坦である。硬化面は認められなかった。



## カマド

- 1 暗褐色土 堅くしまる。やや砂質。ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。ロームブロックやや多量、炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性あり。焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム小ブロックやや多量、黒褐色土小ブロック微量を含む。
- 5 黄褐色土 しまり粘性あり。天井崩落上。下位焼土化。
- 6 灰 焼土小ブロック・ロームブロック含む。
- 7 灰褐色土 堅くしまる。焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子少量、ローム粒子含む。
- 9 明褐色土+焼土ブロック しまり粘性弱い。天井崩落上。
- 10 褐色土 ややしまり粘性弱い。暗褐色土ブロック含む。
- 11 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。焼土ブロックごく多量を含む。
- 12 暗褐色土 しまり粘性強い。焼土粒子多量を含む。
- 13 褐色土 堅くしまりやや粘性強い。灰・ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。床。
- 14 褐色土 しまりやや粘性強あり。焼土ブロックやや多量、灰ブロック含む。
- 15 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ロームブロック少量、焼土小ブロック微量を含む。
- 16 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム小ブロック・灰ブロック少量、焼土小ブロック微量、炭化物粒子含む。
- 17 褐色土 堅くしまりやや粘性あり。黄褐色土ブロックごく多量、焼土小ブロック少量、炭化物粒子含む。

第17図 1区8号住居(2)

## 掘り方

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ180cm、焚き口部幅55cm、袖を含めた幅は100cmである。カマド前面には炭化物と焼土の分布が認められた。1～13層はカマド覆土、14～18層は掘り方になる。

貯蔵穴 明瞭な貯蔵穴を検出することはできなかったが、掘り方調査時に検出された床面南東隅の不正形の落ち込みが貯蔵穴になる可能性がある。長径106cm・短径87cm・深さ13cmを測る。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居覆土、6～9層は掘り方充填土である。

掘り方 ほぼ全面的に掘り下げているが浅い。部分的に住居西部分がやや深くなっている。深さ4～21cmを測る。

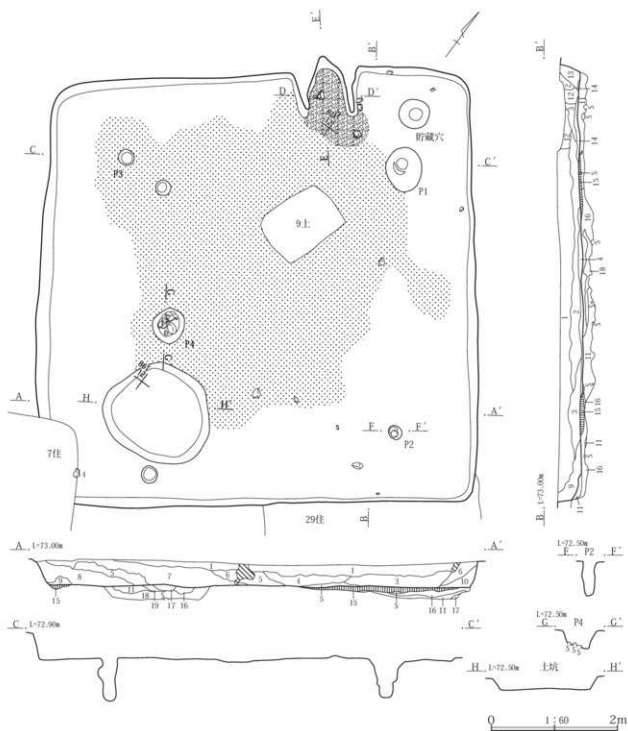
遺物 土器の出土量は少ない。カマドに近接して土師器の杯と砥石、覆土から須恵器の鏝、刀子が出土している。その他、縄文土器片(黒浜・有尾式)1点が出土。

時期 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

9号住居(第18・19・240図、P.L. 4・5・261)

位置 865・T-11・12、87A-11・12グリッド、7・29・32・44・45号住居と重複している。7・32号住居に壊され、29・44・45号住居を壊している。

形状 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-35°-W

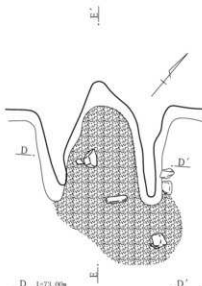
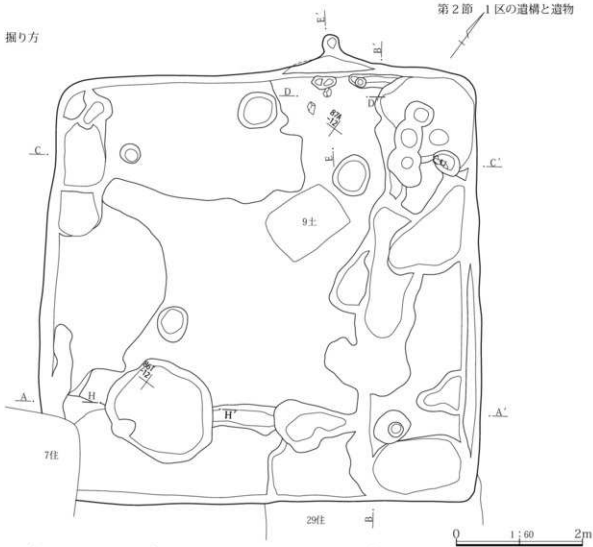


- 1 暗褐色土 しまり強くやや砂質、小礫多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子やや多量を含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックやや多量を含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック少量を含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 7 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。ローム小ブロック多量を含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロック多量、黒褐色土ブロック含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒子含む。

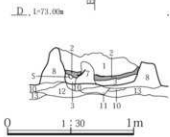
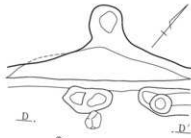
- 10 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。ロームブロック微量を含む。
- 11 暗褐色土 ローム粒子多量を含む。
- 12 暗褐色土 ローム大ブロック多量を含む。
- 13 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。焼土粒子微量、炭化物粒子含む。
- 14 暗褐色土 しまり強く粘性強い。焼土粒子・炭化物粒子少量含む。
- 15 暗褐色土+ローム 粘床。
- 16 暗褐色土+ロームブロック
- 17 褐色土
- 18 黒褐色土+ローム
- 19 黒褐色土 ローム粒子少量含む。

第18図 1区9号住居(1)

掘り方



掘り方



カマド

- 1 褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・焼土小ブロック多量、炭化物粒子含む。
- 2 焼土 ロームブロック含む。
- 3 褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物片・焼土粒子含む。下位灰・焼土面。
- 4 焼土ブロック 堅く締まる。
- 5 褐色土 しまり粘性強い。焼土小ブロック微量を含む。

- 6 暗褐色土 しまり粘性強い。ローム小ブロックやや多量、灰色粘土小ブロックやや多量、炭化物粒子含む。

- 7 軟質礫岩 小礫・Y Pを含む。支脚。
- 8 黄褐色土 袖。
- 9 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
- 10 暗褐色土+ローム
- 11 暗褐色土 ローム粒子多量を含む。
- 12 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 13 暗褐色土 ロームブロック多量を含む。
- 14 暗褐色土 ローム粒子・焼土小ブロック少量含む。
- 15 暗褐色土 ローム粒子含む。

第19図 1区9号住居(2)



**規模** 面積46.18㎡、長辺(北西～南東)6.92m、短辺(北東～南西)6.69m、残存壁高は8～44cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。カマドの前面から主柱穴に囲まれた範囲に硬化面が認められた。土坑1基が検出されている。長径166cm・短径160cm・深さ20cmを測る。

**カマド** 北壁の中央からやや東寄りに設置される。燃焼部は床面を掘り込んで構築されている。長さ145cm、幅58cm、袖を含めた幅は96cmである。支脚に礫が使用されている。カマド前面には灰の分布が認められた。1～6層はカマド覆土、7層としたのは礫による支脚である。8層は袖、10～16層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 床面の北東隅に位置している。長径47cm・短径45cm、深さ37cmの円形を呈する。

**柱穴** ピット4基が検出された。P1・P2・P3は主柱穴になる。P1は長径70cm・短径57cm・深さ60cm、P2は長径24cm・短径20cm・深さ54cm、P3は長径25cm・短径21cm・深さ60cmを測る。P1-P2間距離4.2m、P1-P2間距離は4.4mである。P4は長径54cm・短径50cm・深さ29cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～14層は住居の覆土、15層は貼土、16～19層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 主柱穴の外周がやや掘り下げられている。深さ3～18cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** 土器がわずかに出土。土師器の杯・甕、石製模造品の白玉がカマドから出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式)4点が出土。

**時期** 出土遺物から6世紀後半に比定される。

#### 10号住居(第20・240図、P.L. 6・261)

**位置** 86T-12、87A-12・13グリッド、59号住居と重複し、9・15住居と接している。59号住居を壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-81°-E

**規模** 面積9.12㎡、長辺(南北)3.28m、短辺(東西)2.73m、残存壁高は4～13cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。カマド前面から床中央部にかけて硬化面が認められる。

**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ94cm、幅53cmである。カマド前面には焼土と炭化物の分布が認められ

た。1～8層はカマド覆土、9～11層は掘り方になる。**貯蔵穴** 床面の南東隅に位置している。長径56cm・短径50cm、深さ22cmの楕円形を呈する。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居の覆土、4～6層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 部分的に掘り下げが行われている。深さ3～20cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** 貯蔵穴周辺から土師器の杯、須恵器の杯が、覆土から砥石が出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式)2点が出土。

**時期** 出土遺物から9世紀第1四半期に比定される。

#### 11号住居(第21・240図、P.L. 6・261)

**位置** 87A-13・14グリッド、15・46号住居と重複し、41住居と接している。46号住居を壊している。また、5号溝に壊されている。

**形状** 隅丸長方形を呈する。主軸方位 N-62°-E  
**規模** 面積8.49㎡、長辺(北東～南西)3.5m、短辺(北西～南東)2.4m、残存壁高は28～41cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。カマド前面から床中央部にかけて硬化面が認められる。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ116cm、幅70cm、袖を含めた幅は90cmである。1～7層はカマド覆土、7層は灰層である。8～12層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅に位置している。長径96cm・短径67cm、深さ4cmの楕円形を呈する。

**柱穴** 検出できなかった。

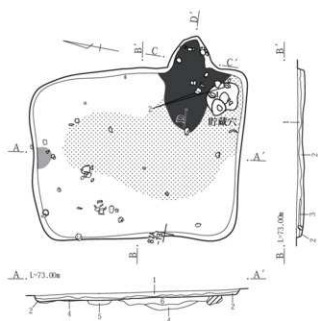
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～10層は住居の覆土、12層は掘り方充填土になる。11層は住居よりも新しい5号溝の覆土になるものと思われる。

**掘り方** 全体的に掘り下げが行われている。深さ6～15cmほどである。

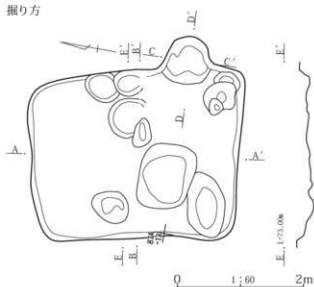
**遺物** 床面の北西隅から土師器の鉢が出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

**時期** 出土遺物から7世紀第4四半期に比定される。

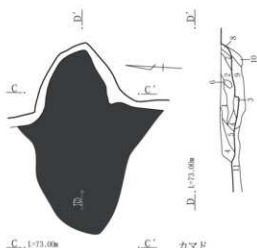


- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロック含む。

掘り方



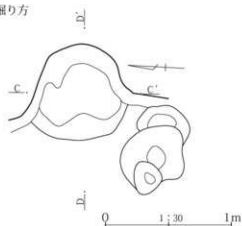
- 3 暗褐色土 しまり強く粘性強い。ローム粒子・ローム小ブロック多量、焼土粒子少量含む。
- 4 暗褐色土 堅くしまり粘性あり。焼土粒子含む。
- 5 にふい黄褐色土 しまり強く粘性強い。
- 6 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム粒子含む。



カマド

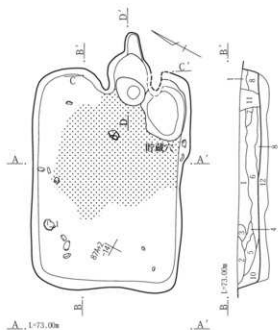
- 1 灰褐色土 焼土大ブロック少量含む。
- 2 灰褐色土 焼土大ブロック多量、灰ブロック少量含む。
- 3 灰褐色土 焼土小ブロック・ローム小ブロックやや多量に含む。
- 4 灰褐色土 ローム粒子少量含む。
- 5 灰褐色土 灰大ブロック少量含む。
- 6 焼土ブロック

掘り方

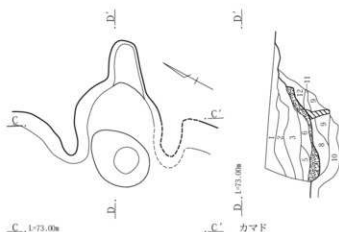


- 7 灰褐色土 灰小ブロック多量、焼土小ブロック少量含む。
- 8 褐色土 ローム粒子少量含む。
- 9 灰褐色土 ローム小ブロックごく多量に含む。
- 10 灰褐色土 ローム大ブロック多量、焼土大ブロックやや多量に含む。
- 11 黒褐色土 ローム小ブロックやや多量、炭化物少量含む。

第20図 1区10号住居



- 1 暗褐色土 やや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや砂質。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロックごく多量に含む。
- 4 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子少量、炭化物粒子含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。

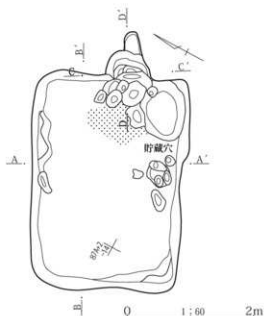


カマド

- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム小ブロックごく多量、焼土粒子少量、炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまり強く粘性強い。ロームブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。焼土小ブロック・ローム粒子多量に含む。
- 4 ロームブロック 焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。焼土ブロック・炭化物粒子多量に含む。
- 6 褐色土 下位に焼土ブロック多量に含む。
- 7 灰
- 8 黒～灰色土 焼土ブロック・炭化物片含む。
- 9 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック多量に含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 11 黄褐色土 しまり強く粘性強い。
- 12 暗褐色土 灰大ブロック多量、焼土大ブロック少量含む。
- 13 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム小ブロック少量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 14 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 15 暗褐色土 強くしまりやや粘性強い。ロームブロックやや多量に含む。

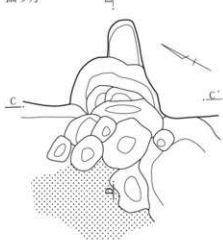
第21図 1区11号住居

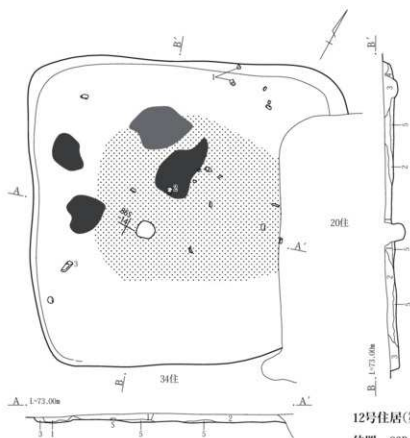
掘り方



- 6 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロックやや多量に含む。
- 7 ロームブロック
- 8 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量、ローム小ブロック含む。
- 9 暗褐色土 ややしまり強く粘性あり。ローム粒子・焼土粒子少量含む。
- 10 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロック多量に含む。
- 11 灰褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。(5溝ブロック)
- 12 灰褐色土 ローム大ブロック多量に含む。下半は褐色土となる。

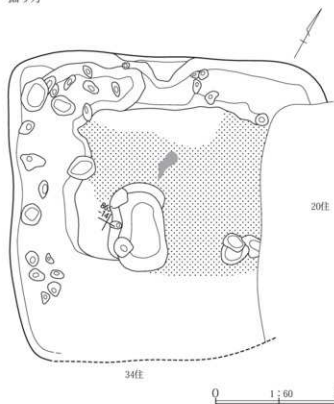
掘り方





- 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
- 3 褐色土 ローム粒子少量含む。
- 4 褐色土 暗褐色土大ブロック多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム大ブロック多量に含む。

掘り方



第22図 1区12号住居

12号住居(第22・240図、P.L. 7・262)

位置 86R・S-13・14グリッド、20・34号住居と重複している。20・34号住居に壊されている。

形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-26°-W

規模 面積19.89㎡、長辺(北東～南西) 5.05m、短辺(北西～南東) 4.9m、残存壁高は10～24cmを測る。

床面 やや凹凸がある。床中央部に硬化面が認められる。

如 床面に3箇所の焼土と炭化物の分布、1箇所は炭化物だけの分布が認められた。このうち床面中央部に近い1箇所の焼土と炭化物の部分が如に該当するものと思われる。掘り方調査の段階にも焼土の堆積が確認できたからである。床面での分布範囲は、長さ108cm、幅55cmである。

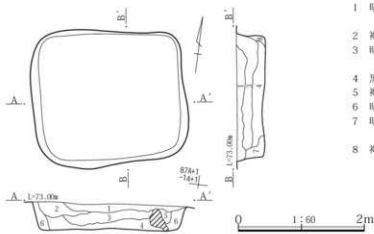
貯蔵穴 明瞭な貯蔵穴を検出することはできなかった。

柱穴 掘り方調査時に主柱穴3基を検出できた。P1は長径20cm・短径19cm・深さ10cm、P2は長径35cm・短径32cm・深さ11cm、P3は長径27cm・短径14cm・深さ15cmを測る。いずれのピットも小規模である。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土になる。ただし3層のあり方は不自然である。

掘り方 主柱穴に囲まれた硬化面を除いた周囲が掘り込



第23図 1区13号住居

まれている。深さ10～15cmほどである。

**遺物** 北壁下から埴、床面中央部から小壺、西壁寄りから砥石が出土している。この他、縄文土器片(諸磯b1点・中期4点・時期不明2点)7点が出土。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

#### 13号住居(第23図、P.L.6)

**位置** 87A-14グリッド、46号住居と重複し、壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-82°-E

**規模** 面積4.9㎡、長辺(東西)2.45m、短辺(南北)2.06m、残存壁高は37～45cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。

**炉・カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～8層は住居覆土になる。

**掘り方** 検出できなかった。

**遺物** ほとんど出土していない。

**時期** 不明。

#### 14号住居(第24・240図、P.L.8・262)

**位置** 87B-13・14グリッド、30・41・84号住居と重複している。41号住居を壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-84°-E

**規模** 面積11.48㎡、長辺(南北)3.5m、短辺(東西)3.45m、残存壁高は32cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。カマド前前から床面中央部にか

- 1 暗褐色土 やや粘性あり、ローム小ブロックやや多量、ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 褐色土 ややしまりやや粘性強い、ロームブロックやや多量を含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い、ローム小ブロック多量、黒褐色土小ブロック少量含む。
- 4 黒褐色土+暗褐色土+ロームブロック
- 5 褐色土 しまり弱くやや粘性弱い。
- 6 暗褐色土 ややしまり弱く粘性強い、ロームごく多量を含む。
- 7 暗褐色土 ややしまり弱く粘性強い、黒褐色土小ブロック多量、ローム小ブロックやや多量を含む。
- 8 褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い、ローム粒子多量、黄色軽石含む。

けて硬化面が認められる。

**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ126cm、幅73cm、袖を含めた幅は95cmである。1～8層はカマド覆土、4層は天井の崩落土、5層は灰と焼土、6層は焼土になる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅から検出されたP1が貯蔵穴になるものと思われる。長径75cm・短径63cm、深さ18cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～8層は住居覆土、9～11層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に浅く掘り下げられている。深さ3～15cmほどである。P2が検出された。長径35cm・短径25cm・深さ22cmを測る。覆土は1層(3層)である。

**遺物** 少量の土器片が出土。西壁寄りから須恵器の蓋、覆土から椀が出土している。この他、時期不明の縄文土器片4点が出土。巡方が覆土から出土。

**時期** 出土遺物から8世紀第4四半期に比定される。

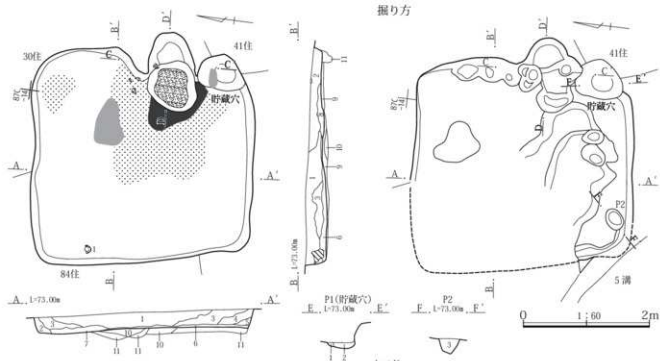
#### 15号住居(第25・240・241図、P.L.8・262)

**位置** 87A-12・13グリッド、11・40・41・59号住居と重複し、10号住居と接している。40・59号住居を壊している。

**形状** 隅丸長方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-48°-E

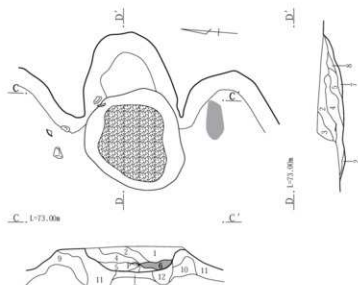
**規模** 面積10.74㎡、長辺(北東～南西)3.72m、短辺(北西～南東)3.17m、残存壁高は16～24cmを測る。



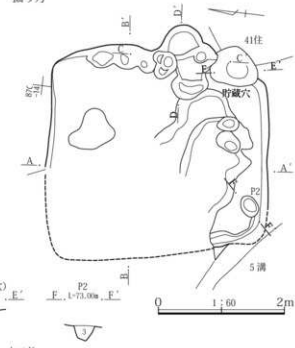
- 1 暗褐色土 しまり粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 しまり強く粘性強い。ロームブロックごく多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり粘性あり。ロームブロック・黄色軽石含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ロームブロックやや多量を含む。
- 6 暗褐色土 堅くしまり粘性あり。扁平なロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 7 褐色土 しまる。
- 8 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。焼土ブロック・炭化物多量を含む。
- 9 褐色土 堅くしまり粘性強い。暗褐色土ごく多量を含む。
- 10 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム小ブロック少量含む。
- 11 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ロームブロックごく多量を含む。

貯蔵穴・ピット

- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。ロームブロック含む。
- 3 黒褐色土 ややしまり粘性あり。ローム小ブロック少量含む。



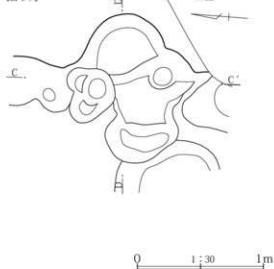
掘り方



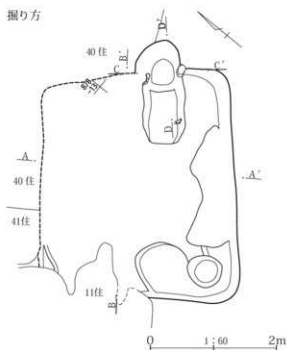
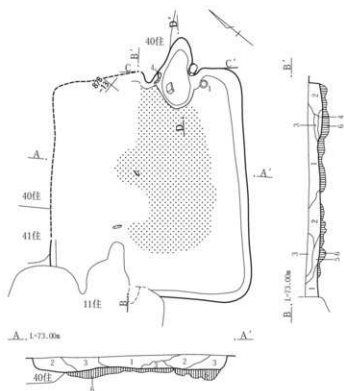
カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 褐色土 ややしまり粘性あり。焼土ブロック・ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロック多量を含む。
- 4 にぶい黄褐色土 ローム・焼土小ブロック含む。天井。
- 5 灰+焼土
- 6 焼土ブロック
- 7 焼土と黒色灰の編状堆積
- 8 暗褐色土 灰色灰・焼土ブロック多量、ローム粒子やや多量を含む。
- 9 黒褐色土 しまり粘性弱い。ロームブロック多量、焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 10 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。黒褐色土ブロック少量、白色軽石含む。
- 11 暗褐色土+明褐色土 堅くしまりやや粘性強い。焼土小ブロック多量、黒褐色土少量含む。
- 12 黒褐色土 堅くしまり粘性強い。焼土小ブロック・ローム小ブロック含む。

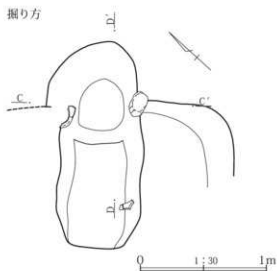
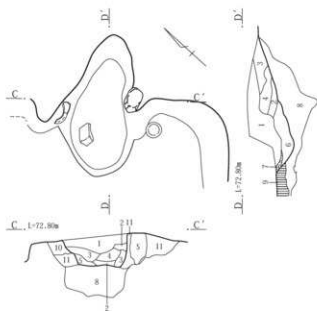
掘り方



第24図 1区14号住居

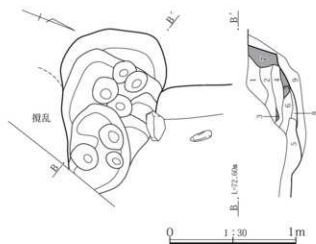
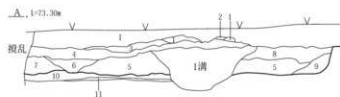
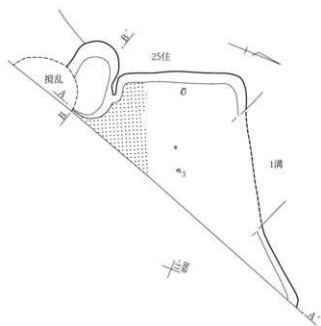


- 1 黒褐色土 ローム小ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロック・炭化物少量含む。
- 4 暗褐色土 繊維状にローム多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム大ブロック多量に含む。
- 6 暗褐色土+ローム 貼床。



- カマド
- 1 灰褐色土 ローム小ブロック少量含む。
  - 2 灰褐色土 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量含む。
  - 3 灰褐色土 焼土小ブロック・灰小ブロック少量含む。
  - 4 灰褐色土+焼土大ブロック+ローム大ブロック
  - 5 灰褐色土 灰小ブロック少量含む。
  - 6 灰褐色土 ローム大ブロックごく多量に含む。
  - 7 灰
  - 8 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒子含む。
  - 9 暗褐色土+ローム 貼床。
  - 10 暗褐色土 焼土粒子含む。
  - 11 暗褐色土+ロームブロック

第25図 1区15号住居

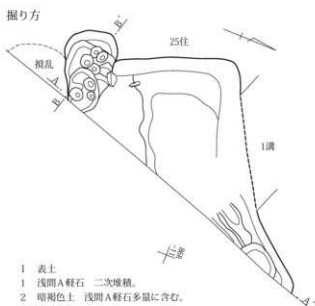


第26図 1区16号住居

**床面** やや凹凸がある。カマド前から床面中央部にかけて硬化面が認められる。

**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置される。床燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ113cm、幅60cmである。袖に礫と土器片が使用されている。1～7層はカマド覆土、7層は灰になる。9層は住居の貼床、8・10・11層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 掘り方調査時に検出された南西隅の土坑が貯蔵穴になる可能性がある。長径56cm・短径51cm、深さ22cm



- 1 表土
- 2 浅間A軽石 二次堆積。
- 3 暗褐色土 浅間A軽石多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
- 5 暗褐色土 ややしまり粘性あり。炭化物粒子やや多量、ローム小ブロック・焼土粒子含む。
- 6 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック多量、焼土粒子含む。
- 7 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、焼土小ブロック含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子やや多量に含む。
- 9 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 10 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子少量含む。
- 11 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ロームブロック含む。

0 1:60 2m

## カマド

- 1 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。焼土ブロックやや多量、炭化物片含む。
- 2 暗褐色土 灰色灰ごく多量に含む。下位焼土ブロック。
- 3 焼土ブロック
- 4 灰色灰+焼土小ブロック 炭化物片含む。
- 5 灰色灰と黒褐色土の互層 焼土ブロック・ロームブロック含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや粘性弱い。焼土小ブロック多量に含む。
- 7 焼土ブロック 灰多量に含む。
- 8 暗褐色土 ややしまり粘性あり。焼土ブロックごく多量、灰ブロック少量含む。
- 9 暗褐色土 しまり弱くやや粘性弱い。焼土ブロックごく多量、ローム小ブロック・灰ブロック少量含む。

の楕円形を呈する。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土、6層は貼床になる。

**掘り方** 全体的に浅く掘り下げられている。深さ4～16cmほどである。

**遺物** カマドからわずかに出土。土師器の杯、裏、覆土から須恵器の蓋、掘り方から土師が出土している。この



他、縄文土器片(加曾利E式1点・時期不明2点)3点が出土。

**時期** 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

16号住居(第26・241図、P.L. 8・262)

**位置** 860・R-11グリッド、25号住居、1号溝と重複している。25号住居を壊し、1号溝に壊されている。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明である。

**主軸方位** N-121°-W

**規模** 現状での面積は6.03㎡、現状での長辺(北東-南西)3.2m、短辺(北西-南東)2.52m、残存壁高は22~45cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。カマド前面に硬化面が認められる。

**カマド** 西壁に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ123cm、幅55cmである。袖に礫が使用されている。1~8層はカマド覆土、3・7層は焼土主体の層になる。9層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。5~9層は住居覆土、10・11層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に浅く掘り下げられている。深さ5~16cmほどである。

**遺物** 土師器の杯がカマドから出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀第4四半期に比定される。

17号住居(第27・241・242図、P.L. 9・10・262)

**位置** 865・T-17・18グリッド、67号住居と重複している。67号住居を壊している。

**形状** 隅丸長方形を呈する。 **主軸方位** N-77°-E

**規模** 面積9.62㎡、長辺(南北)3.63m、短辺(東西)2.69m、残存壁高は12~24cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。床面中央部から北側にかけて硬化面が認められる。

**カマド** 住居南東隅に設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ188cm、幅55cm、袖を含めた幅は100cmである。袖と支脚には礫が使用されている。1~3層はカマド覆土、4~6層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 掘り方調査時に検出された。床面の南東隅に位置している。長径36cm・短径34cm、深さ14cmの円形を呈する。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1~7層は住居覆土、8・10層は貼土の可能性がある。9・10層は床下土坑とピットの覆土になる。

**掘り方** 土坑とピットが検出されている。土坑は長径67cm・短径60cm、深さ15cmの楕円形を呈する。P1は長径58cm・短径52cm・深さ14cm、P2は長径36cm・短径32cm・深さ28cmである。

**遺物** カマドから羽釜が出土。甕も出土している。この他、縄文土器片(後期初頭)1点が出土。

**時期** 出土遺物から10世紀後半に比定される。

18号住居(第28・241~243図、P.L.10・262)

**位置** 87A・B-17グリッド、54号住居と重複している。54号住居の一部を壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。 **主軸方位** N-76°-E

**規模** 面積6.95㎡、長辺(南北)2.9m、短辺(東西)2.5m、残存壁高は5~13cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。カマド前面から床中央部にかけて硬化面が認められる。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ84cm、幅52cm、袖を含めた幅は100cmである。袖に礫が使用されている。カマド内とその周辺からは多量の土器片が出土している。1・2層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

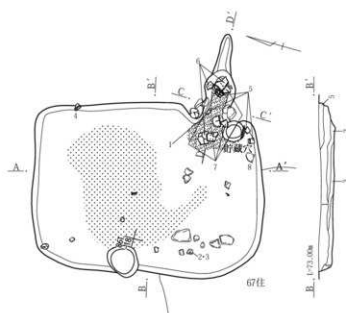
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1~4層は住居覆土、5~7層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に浅く掘り下げられている。深さ3~7cmである。土坑が検出されている。長径80cm・短径70cm、深さ17cmの楕円形を呈する。

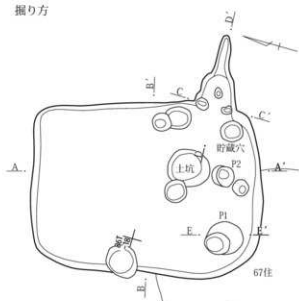
**遺物** カマドとその周辺から須恵器の皿、土師器の甕がまとまって出土。この他、杯や椀も出土している。

**時期** 出土遺物から9世紀第4四半期に比定される。

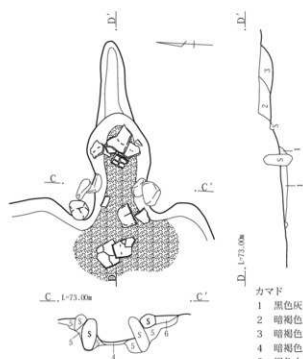


- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム粒子やや多量、焼土粒子・炭化物粒子微量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。炭化物粒子・焼土粒子・ローム粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。黒色灰多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 4 暗褐色土 やや粘性あり。ローム粒子含む。
- 5 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム粒子多量に含む。

掘り方



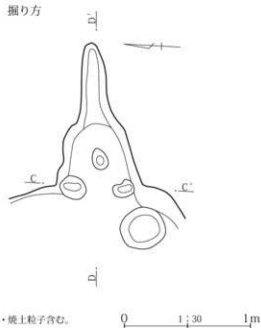
- 6 黄褐色土
- 7 暗褐色土 ややしまり弱く粘性弱い。炭化物粒子微量、焼土粒子含む。
- 8 暗褐色土
- 9 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 10 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
- 11 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。炭化物粒子少量、ローム小ブロック含む。



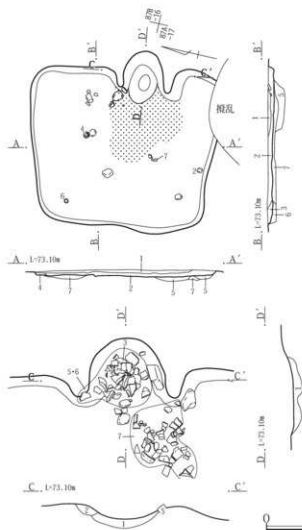
カマド

- 1 黒色灰 焼土多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒子含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子多量に含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒子含む。
- 5 褐色土
- 6 褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。

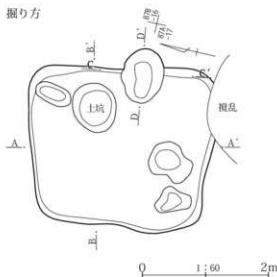
掘り方



第27図 1区17号住居



第28図 1区18号住居



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 ローム大ブロックやや多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム大ブロック多量に含む。
- 4 褐色土
- 5 暗褐色土 ローム粒子やや多量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム大ブロック・黒褐色土ブロックごく多量に含む。
- 7 にぶい黄褐色土 暗褐色土ブロック多量に含む。

カマド

- 1 黒褐色土 しまり強くやや粘性強い。焼土小ブロック・ローム粒子・炭化物粒子含む。
- 2 黒褐色土 ややしまり粘性あり。焼土粒子・ローム粒子含む。

19号住居(第29・243図、P.L.11・263)

位置 87C-15・16グリッド、37・82号住居と接している。

形状 隅丸長方形を呈する。主軸方位 N-62°-E

規模 面積15.05㎡、長辺(北東～南西)4.33m、短辺(北西～南東)3.42m、残存壁高は3～24cmを測る。

床面 やや凹凸がある。床面中央部を中心に硬化面が認められる。また焼土と炭化物の分布が南壁に近接して認められた。

竈 南壁に近接して検出された焼土・炭化物の範囲が竈になる可能性もある。その分布範囲は長径39cm・短径36cmである。掘り込みはほとんど確認することはできなかった。

貯蔵穴 掘り方調査時に床面の南西隅から検出された。長径50cm・短径48cm・深さ41cmである。覆土は2層に分かれた。

柱穴 床面調査時には検出できなかった。しかし掘り方調査時に柱穴になる可能性のビット3基を検出した。P1は長径37cm・短径35cm・深さ14cm、P2は長径不明・短径35cm・深さ12cm、P3は長径48cm・短径38cm・深さ28cmである。

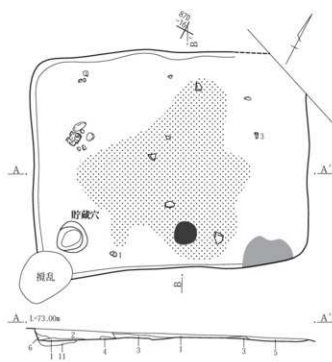
周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～9層は住居覆土、10・11層は掘り方充填土になる。

掘り方 南壁下から西壁下にかけて浅い掘り込みが行われている。

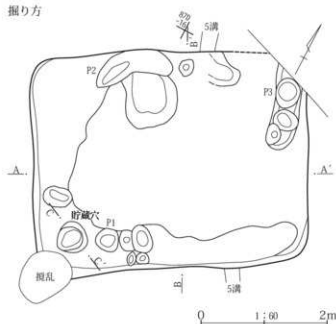
遺物 床直上からわずかに出土しているだけである。土師器の杯、高杯、壺、甕が出土している。その他、縄文土器片(黒浜・有尾式1点・加曾利E式2点)3点が出土。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。



- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ロームブロック少量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 3 褐色土 しまり強く粘性強い。ローム粒子・ローム小ブロックやや多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ロームブロック・焼土粒子含む。下位に焼土・炭化物。
- 5 暗褐色土 しまり強く粘性強い。ロームブロックやや多量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 7 暗褐色土 しまり強く粘性強い。ロームブロック多量に含む。
- 8 褐色土
- 9 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒子・黒色灰含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや粘性強い。
- 11 暗褐色土 焼土粒子・ローム粒子含む。

掘り方



第29図 1区19号住居

20号住居(第30・31・243図、P.L.11・263)

位置 86R～T-12、86R・S-13グリッド、7・12・34・35号住居、1号溝と重複している。12・34・35号住居を壊し、7号住居、1号溝に壊されている。

形状 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-124°-W

規模 現状での面積は37.76㎡、長辺(北東～南西)6.3m、短辺(北西～南東)6.13m、残存壁高は41cmを測る。

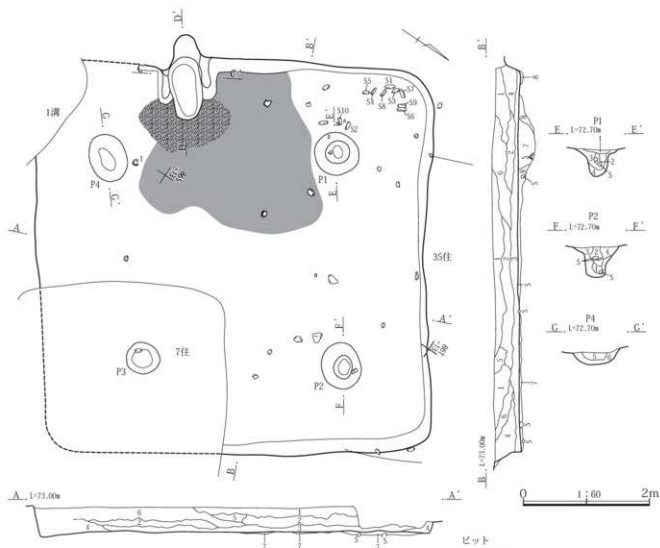
床面 ほぼ平坦である。全体的に硬化は認められない。カマド 西壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面を掘り込んで構築されている。長さ133cm、焚き口の幅50cm、袖を含めた幅は93cmである。カマド前から北側にかけて焼土の分布が認められた。1～5層はカマド覆土、3～5層にかけて焼土と灰を多量に含む。10・11層はカマドの袖、6～9層は掘り方になる。

貯蔵穴 床面に明瞭な貯蔵穴は検出できなかった。

柱穴 P1～P4の4基のビットが主柱穴になる。P1は長径69cm・短径67cm・深さ42cm、P2は長径72cm・短径61cm・深さ48cm、P3は長径53cm・短径51cm・深さ44cm、P4は長径76cm・短径58cm・深さ20cmを測る。P1-P2間距離3.4m、P2-P3間距離3.2m、P3-P4間距離3.25m、P4-P1間距離3.65mである。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～6層は住居の覆土、7・8層は掘り方充覆土になる。



- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色土 ローム小ブロック少量含む。    | 5 暗褐色土 褐色土大ブロックごく多量に含む。 |
| 2 黒褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。 | 6 黒褐色土 ローム大ブロック少量含む。    |
| 3 黒褐色土 ローム大ブロックやや多量に含む。 | 7 暗褐色土+ロームブロック          |
| 4 暗褐色土 ローム粒子微量に含む。      | 8 黒褐色土+ロームブロック          |

ピット

- |                       |
|-----------------------|
| 1 暗褐色土                |
| 2 暗褐色土 ローム粒子或少小ブロック   |
| 3 にぶい黄褐色土 暗褐色土多量に含む。  |
| 4 褐色土 ロームブロック多量に含む。   |
| 5 黒褐色土 ローム小ブロック少量含む。  |
| 6 黒褐色土 ローム大ブロック多量に含む。 |

第30図 1区20号住居(1)

**掘り方** 部分的に掘り込まれているが浅い。土坑2基を検出した。土坑1は長径125cm・短径112cm・深さ18cm、土坑2は長径98cm・短径90cm・深さ21cmを測る。

**遺物** 土師器の杯、蓋、鉢、須恵器の杯、甕が出土している。(2)～(6)・(8)の7世紀前半、(1)の7世紀第3四半期、(7)の8世紀後半の時期に属している。床面の北西コーナーからP1周辺でS1～S10のこも編み石10点がまとまって出土している。その他、縄文土器片(黒浜・有尾式2点・加曾利E式5点)7点が出土。

**時期** 出土遺物から7世紀代に比定される。

22号住居(第32・33・244図、P.L.12・263)

**位置** 86S・T-15・16グリッド、56・65・69・74号住居、4号溝と重複している。56・65・69・74号住居を壊し、4号溝に填されている。

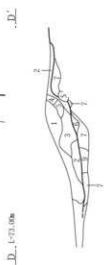
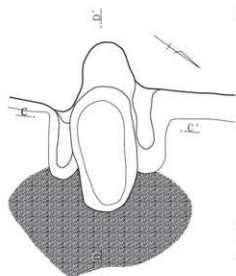
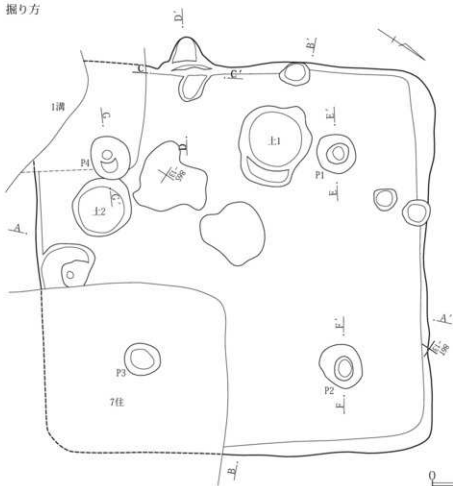
**形状** 隅丸方形を呈する。 **主軸方位** N-77°-E

**規模** 面積15.56㎡、長辺(北西～南東)4.48m、短辺(北東～南西)3.34m、残存壁高は7～18cmを測る。

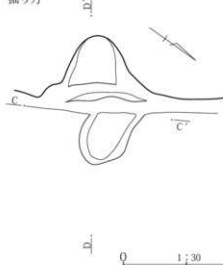
**床面** ほぼ平坦である。カマド前面から床面中央部、西壁下に硬化面が認められる。

**カマド** 東壁の中央から南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ97cm、焚き口の幅

掘り方



掘り方



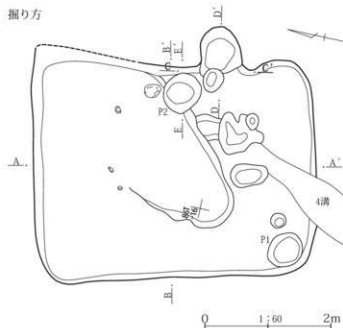
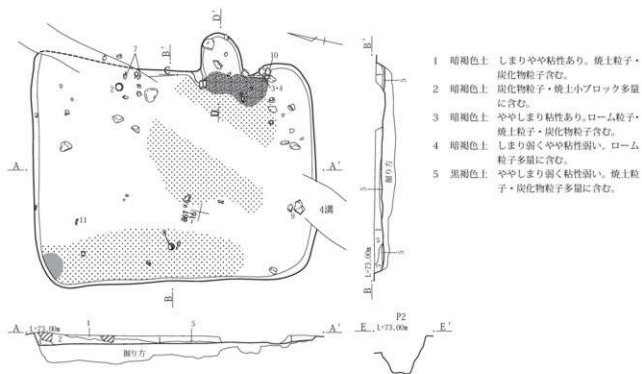
C., 1-73.00m



カマド

- |   |      |  |    |           |
|---|------|--|----|-----------|
| 1 | 暗褐色土 | しまりやや粘性あり。焼土小ブロック                      | 5  | 焼土ブロック+灰  |
| 2 | 褐色土  | しまり弱くやや粘性あり。炭化物粒子含む。                   | 6  | 暗褐色土      |
| 3 | 暗褐色土 | しまり弱くやや粘性あり。黒色灰多量。焼土小ブロック・ロームブロック少量含む。 | 7  | 暗褐色土      |
| 4 | 暗褐色土 | 焼土大ブロック。黒色灰多量に含む。                      | 8  | 暗褐色土+黄褐色土 |
|   |      |  | 9  | 黒褐色土      |
|   |      |  | 10 | にぶい黄褐色土   |
|   |      |  | 11 | 黒褐色土      |
- 6 焼土粒子・ローム粒子多量に含む。  
7 ローム粒子ごく多量。焼土粒子多量に含む。  
8 焼土大ブロック・ローム小ブロック多量に含む。  
11 ローム小ブロック多量に含む。

第31図 1区20号住居(2)



第32図 1区22号住居(1)

55cm、袖を含めた幅は90cmである。支脚の礎が残されている。カマド前面に灰と焼土の分布が認められた。1～6層はカマド覆土、6層は灰。7～9層は掘り方になる。**貯蔵穴** 床面から明瞭な貯蔵穴は検出できなかったが、掘り方調査時に土坑2基を検出した。P1は長径58cm・短径52cm・深さ24cm、P2は長径63cm・短径55cm・深さ

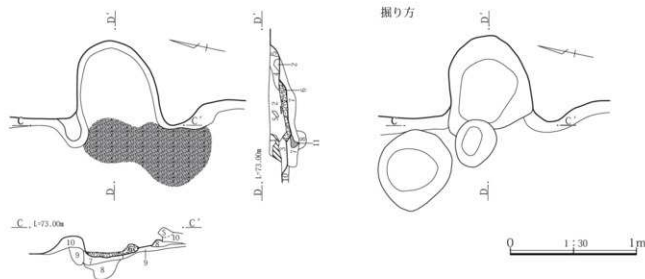
34cmを測る。いずれも貯蔵穴になる可能性がある。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ4～30cm



## カマド

- 1 黒褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い。焼土粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子少量、炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱く粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・黒色灰含む。
- 5 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック少量含む。

- 6 黒色灰+炭化物 焼土小ブロック含む。
- 7 褐色土+暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。
- 8 黒褐色土 褐色土大ブロック多量、焼土粒子やや多量に含む。
- 9 黄褐色土+暗褐色土
- 10 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子少量含む。
- 11 焼土

第33図 1区22号住居(2)

を測る。

**遺物** カマド周辺から羽釜、須恵器の杯が出土。その他、土師器の杯、須恵器の椀、甕が出土している。(1・2)の土師器杯は7世紀後半、それ以外は10世紀第3四半期に属する。時期不明の縄文土器片2点が出土。

**時期** 出土遺物から10世紀第3四半期に比定される。

## 23号住居(第34・35・244図、P.L.12・263)

**位置** 87A・B-9・10グリッド、27・28号住居、6号溝と重複している。27・28号住居を壊し、6号溝に壊されている。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積は12.5㎡、現状での長辺(北東～南西)5.28m、短辺(北西～南東)2.78m、残存壁高は20～31cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。南西隅に部分的に硬化面が認められる。その東側に炭化物と焼土の分布が認められる。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 床面に明瞭な貯蔵穴は検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3・7・8層は住居覆土になる。10～12層は掘り方充墳土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ2～21cmを測る。掘り方調査時に土坑1基を検出した。長径70cm・短径63cm・深さ14cmを測る。

**遺物** 覆土中から土師器の杯、小型甕、甕、須恵器の椀が出土している。南壁下からこも編み石がまとまって出土している。その他、時期不明の縄文土器片2点が出土。

**時期** 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

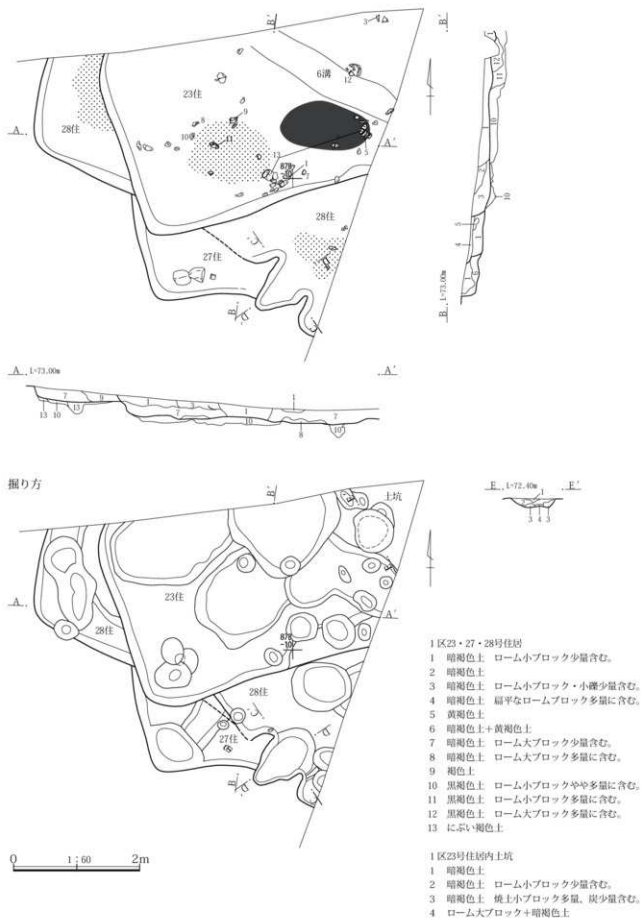
## 27号住居(第34・35図、P.L.13)

**位置** 87A-10グリッド、23・28号住居と重複している。23・28号住居に壊されている。

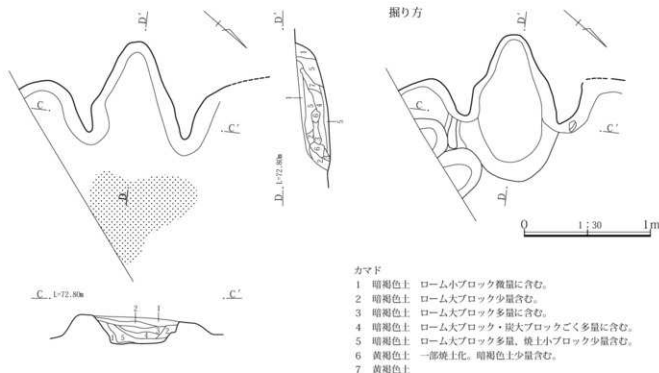
**形状** 重複しているために全容は不明である。

**主軸方位** 不明。





第34図 1区23・27・28号住居(1)



第35図 1区23・27・28号住居(2)

**規模** 現状での面積は1.78㎡、現状での長辺(南北) 1.75m、短辺(東西) 1.7m、残存壁高は22cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・6層は住居覆土になる。

**掘り方** 部分的に掘り下げられている。

**遺物** 床面の南西隅から礎が出土している。

**時期** 不明。

#### 28号住居(第34・35図、P.L.13・14)

**位置** 87A-9・10、87B-10グリッド、23・27号住居と重複している。27号住居を壊し、23号住居に壊されている。

**形状** 調査区外に延びていることと重複しているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-152°-W

**規模** 現状での面積は5.16㎡、現状での長辺(北西～南東) 6m、短辺(北東～南西) 2.7m、残存壁高は16～21cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。カマド前面に硬化面が認められる。

**カマド** 西壁に設置される。燃燒部は壁を掘り込んで構築されている。長さ115cm、焚き口の幅50cm、袖を含めた幅は110cmである。1～7層はカマド覆土になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。7・9層は住居覆土、10・13層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ3～18cmを測る。

**遺物** カマド周辺からわずかに出土している。

**時期** 不明。明瞭な時期を確定できない。

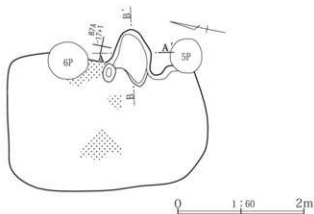
#### 24号住居(第36・245図、P.L.13)

**位置** 86T-17、87A-17グリッド、52号住居に近接している。

**形状** 遺構確認面がすでに住居の床面であったために推定であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-77°-E

**規模** 推定であるが、面積6.34㎡、長辺(南北) 3.16m、



第36図 1区24号住居



カマド

- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 2 焼上ブロック
- 3 焼土
- 4 暗褐色土 強くしまり粘性強い、ロームブロック含む。

短辺(東西) 2.05m、残存壁高は確認できなかった。

床面 部分的に検出された。

カマド 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ90cm、焚き口の幅50cm、袖を含めた幅は100cmである。1～4層はカマド覆土になる。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 検出できなかった。

掘り方 検出できなかった。

遺物 覆土から須恵器の椀が出土している。

時期 出土遺物から9世紀後半に比定される。

25号住居(第37・245図、P.L.13・263)

位置 86Q・R-11・12グリッド、16号住居と重複し、壊されている。

形状 掘乱によって住居西南部を壊されているために内容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-49°-E

規模 現状での面積は11.8㎡、長辺(北西～南東)4.05m、短辺(北東～南西)2.96m、残存壁高は5cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。北東隅に焼土と炭化物の分布が認められた。

カマド 東壁の中央から南寄りに設置される。燃焼部は床面を掘り込んで構築されている。長さ65cm、焚き口の幅30cm、袖を含めた幅は70cmである。1・2層はカマド覆土、3～5層は掘り方になる。

貯蔵穴 床面に明瞭な貯蔵穴は検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 確認面から床面までは非常に浅かったために明瞭ではない。1～6層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ4～30cmを測る。

遺物 カマド周辺と掘り方から少量出土。土師器の杯が出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式1点・称名寺式1点)2点が出土。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

26号住居(第38図、P.L.13)

位置 86P・Q-11・12グリッド、2号溝に壊されている。

形状 内容は不明である。主軸方位 不明。

規模 現状での面積は3.65㎡、現状での長辺(北東～南西)2.39m、短辺(北西～南東)2.02m、残存壁高は20～25cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

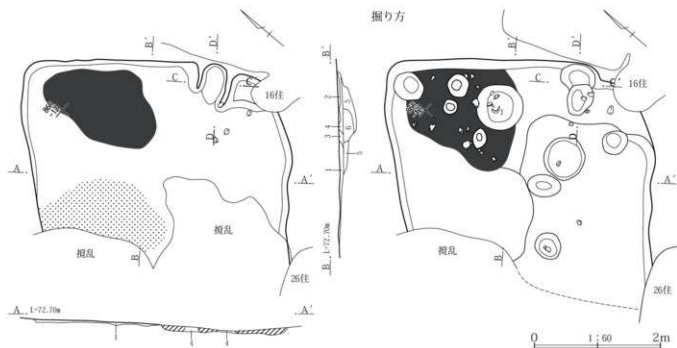
埋没土 確認できていない。

掘り方 検出できなかった。

遺物 土器片は出土していない。

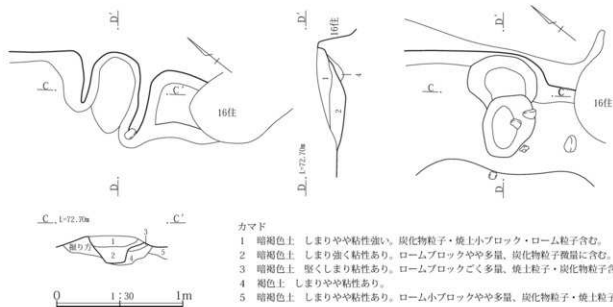
時期 不明。2号溝よりも古い。

第2節 1区の遺構と遺物



- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物粒子微量を含む。床。
- 2 黒褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子やや多量を含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや粘性あり。ローム粒子少量、焼土小ブロック含む。

- 4 暗褐色土 ややしまり粘性あり。ローム小ブロックやや多量を含む。
- 5 黄褐色土 堅くしまり粘性あり。暗褐色土・焼土小ブロック含む。
- 6 暗褐色土 堅くしまり粘性あり。ロームブロック多量、炭化物粒子含む。

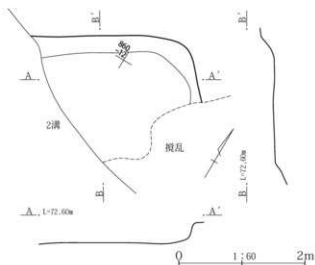


カマド

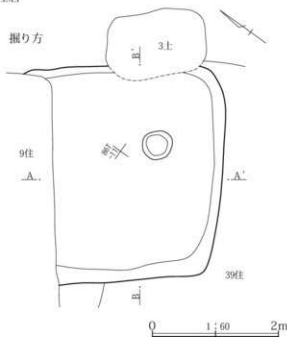
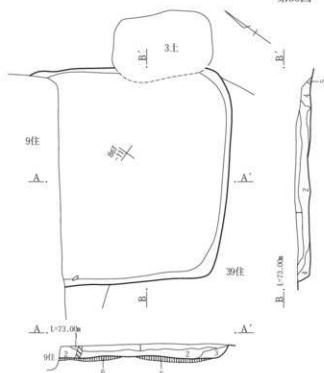
- 1 暗褐色土 しまりやや粘性強い。炭化物粒子・焼土小ブロック・ローム粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまり強く粘性あり。ロームブロックやや多量、炭化物粒子微量を含む。
- 3 暗褐色土 堅くしまり粘性あり。ロームブロックごく多量、焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 4 褐色土 しまりやや粘性あり。
- 5 暗褐色土 しまりやや粘性あり。ローム小ブロックやや多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。

第37図 1区25号住居

第4章 発掘調査の記録



第38図 1区26号住居



- 1 暗褐色土 しまり強くやや砂質。ローム粒子・ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや砂質。ローム小ブロック微量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 3 暗褐色土 ややしまる。ローム小ブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム小ブロック含む。
- 5 褐色土 ややしまる。
- 6 暗褐色土 堅くしまり粘性強い。床。

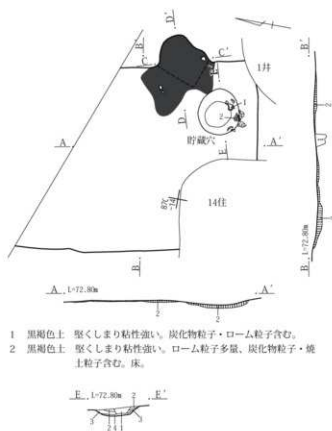
第39図 1区29号住居

29号住居(第39図、P.L.14)

**位置** 86S・T-10・11グリッド、9・39号住居、3号土坑と重複している。39号住居を壊し、9号住居、3号土坑に壊されている。

**形状** 重複しているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。 **主軸方位** N-54°-E

**規模** 現状での面積は9.1㎡、現状での長辺(北東～南西)3.45m、短辺(北西～南東)3.2m、残存壁高は18



- 1 黒褐色土 堅くしまり粘性強い。炭化物粒子・ローム粒子含む。
- 2 黒褐色土 堅くしまり粘性強い。ローム粒子多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。床。

## 貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子少量含む。下に黒色灰あり。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック微量を含む。
- 4 黄褐色土 編状に堅くしまる。

第40図 1区30号住居

～22cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土、

6層は貼床になる。

**掘り方** 部分的に掘り下げられているが浅い。深さ3～7cmを測る。

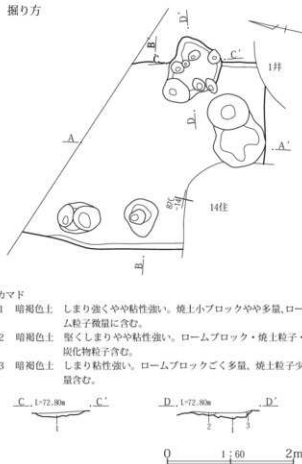
**遺物** ほとんど出土していない。

**時期** 不明。

30号住居(第40・245図、P.L.14・263)

**位置** 87B・C-13・14グリッド、14号住居、1号井戸と

## 掘り方



## カマド

- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。焼土小ブロックやや多量、ローム粒子微量を含む。
- 2 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 3 暗褐色土 しまり粘性強い。ロームブロックごく多量、焼土粒子少量含む。

重複している。1号井戸に壊されている。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸長方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-80°-E

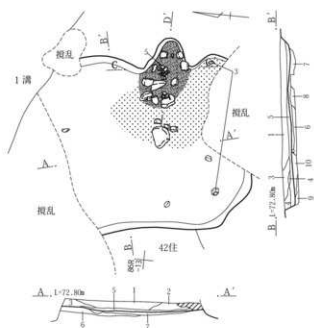
**規模** 現状での面積は7.53、長辺(南北)3.14m、短辺(東西)2.91m、壁高をほとんど確認することはできなかった。

**床面** やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

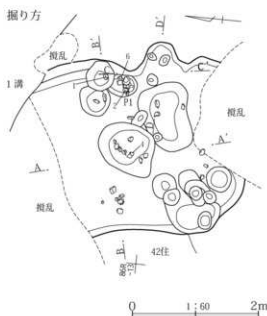
**カマド** 東壁の中央からやや南よりに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ100cm、焚き口部の幅80cmである。1～3層はカマド掘り方である。カマド前面に炭化物と焼土の堆積が認められる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅、カマドに近接して検出された。長径73cm・短径67cm・深さ12cmのほぼ楕円形を呈する。

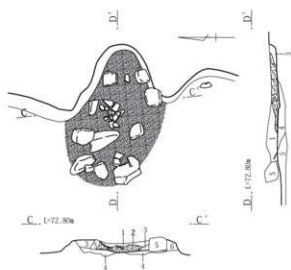
第4章 発掘調査の記録



- 1 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム粒子・ローム小ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム粒子少量含む。
- 5 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子少量含む。

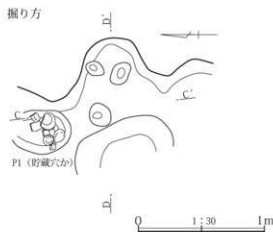


- 6 暗褐色土+黄褐色土 堅くしまり粘性強い。
- 7 暗褐色土 堅くしまりやや粘性あり。ロームブロック多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 8 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。炭化物粒子・焼土粒子やや多量、ロームブロック少量含む。
- 9 黒褐色土 しまり強くやや粘性弱い。ローム粒子含む。
- 10 暗褐色土 堅くしまり粘性弱い。ローム粒子多量に含む。

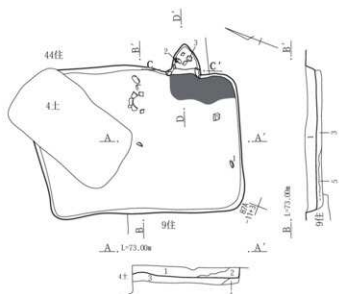


カマド

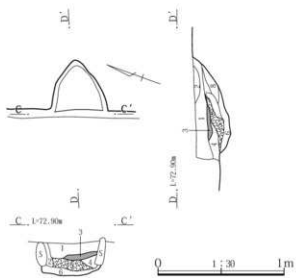
- 1 暗褐色土 しまりやや砂質。炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 灰 ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。焼土粒子・ローム粒子多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ロームブロック多量、炭化物粒子・焼土粒子少量、青黒色灰含む。
- 5 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ローム粒子ごく多量、白色軽石多量、青黒色灰含む。
- 6 褐色土 堅くしまり粘性あり。



第41図 1区31号住居



- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。焼土粒子少量、炭化物粒子・ローム粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり粘性弱い。ローム粒子少量、小礫含む。
- 3 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量を含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロックごく多量に含む。
- 5 暗褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロックやや多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。

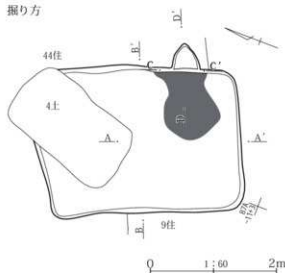


## カマド

- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土
- 3 焼土ブロック しまりやや粘性強い。暗褐色土ごく多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い。焼土粒子・黒色灰ブロック含む。
- 5 黒色灰 焼土小ブロック含む。
- 6 黒褐色土 しまり粘性あり。焼土粒子少量含む。
- 7 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・灰ブロック含む。
- 8 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子含む。

第42図 1区32号住居

## 掘り方



覆土は4層に分かれた。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 ほとんど検出することはできなかった。2層は貼床になる。

掘り方 部分的に掘り下げられている。深さは6cm以内を測る。

遺物 貯蔵穴周辺から土器が出土。小型壺、須恵器の杯と椀が出土している。

時期 出土遺物から10世紀第1四半期に比定されるか。

## 31号住居(第41・245図、P.L.15・263)

位置 86Q・R-12グリッド、42号住居と重複している。

42号住居を壊しているが、攪乱によって壊されている。

形状 攪乱によって一部壊されているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-84°-E

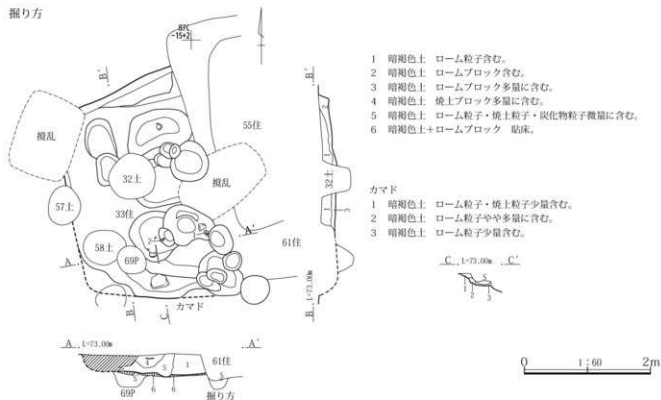
規模 現状での面積は7.95㎡、現状での長辺(南北)3m、短辺(東西)2.74m、残存壁高は13~17cmを測る。

床面 やや凹凸がある。カマド前面に硬化面が認められる。

カマド 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ112cm、焚き口の幅53cm、袖を含めた幅は85cmである。袖に櫓が使用されている。1~3層はカマド覆土、2層は灰。4~6層は掘り方になる。



掘り方



第43図 1区33号住居

**貯蔵穴** 掘り方調査時検出のカマド北に接したピットが貯蔵穴になる可能性がある。長径54cm・短径34cm・深さ21cmの楕円形を呈する。遺物が出土している。

**柱穴** 検出できなかった。

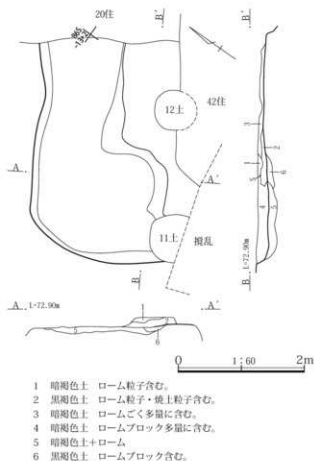
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土になる。6～10層は掘り方充填土である。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが狭い。深さ4～9cmを測る。

**遺物** カマドを中心に土器や礫が出土。須恵器の杯、椀、甕から摂、土釜が出土している。

**時期** 出土遺物から10世紀後半代に比定される。



第44図 1区34号住居

32号住居(第42・245図、P.L.15・263)

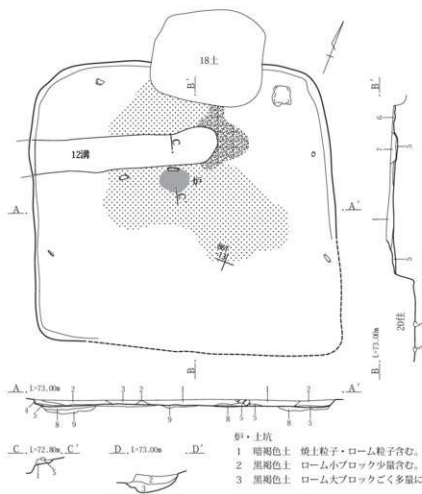
**位置** 87A-11グリッド、9・44・45号住居、4号土坑と重複している。9・44・45号住居を壊し、4号土坑に壊されている。

**形状** 隅丸長方形を呈する。主軸方位 N-68°-E

**規模** 面積7.62、長辺(北西～南東)3.28m、短辺(北東～南西)2.33m、残存壁高は15cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

第2節 1区の遺構と遺物



- 1 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ロームブロック多量、炭化物粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 堅くしまりやや砂質。ローム小ブロック少量、白色軽石含む。
- 3 暗褐色土 堅くしまりやや砂質。ローム小ブロック少量、炭化物粒子・焼土粒子・白色軽石含む。
- 4 暗褐色土 堅くしまる。ローム粒子、腐状堆積に含む。
- 5 黒褐色土 しまり強くやや粘性強い。ローム小ブロック含む。
- 6 褐色土 しまり強く粘性強い。ローム粒子・焼土粒子含む。
- 7 暗褐色土 堅くしまりやや粘性強い。ロームブロック少量含む。
- 8 暗褐色土 堅くしまりやや粘性弱い。褐色土小ブロック、白色軽石含む。
- 9 暗褐色土+ロームブロック しまり強くやや粘性強い。

掘り方



**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築され、長さ50cm、焚き口部の幅40cm、袖を含めた幅は55cmを測る。両袖には礫が配置されている。カマド前面に炭化物の分布が認められる。1～5層はカマド覆土で、3層は焼土、5層は灰になる。6～8層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

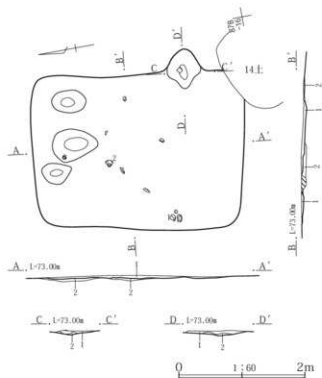
**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土、3～5層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全面的に掘り下げられている。深さ7～13cmを測る。

**遺物** カマドから須恵器の椀が出土。須恵器の杯は南壁寄りから出土している。

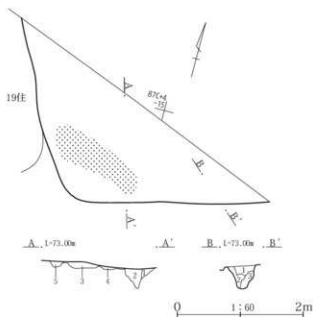
**時期** 出土遺物から10世紀中頃に比定される。

第45図 1区35号住居



- 1 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック含む。
- 2 黒褐色土 ややしまりやや粘性あり、ロームブロックやや多量を含む。

第46図 1区36号住居



- P1
- 1 暗褐色土 ややしまり強く粘性強い、ローム小ブロック含む。
  - 2 暗褐色土 ローム小ブロック少量含む。
  - 3 暗褐色土 ロームブロックごく多量を含む。

第47図 1区37号住居

33号住居(第43・245図、P.L.16・263)

位置 87B-15グリッド、55・61号住居、土坑多数と重複している。

形状 重複が激しいために全容は不明である。主軸方位 不明。

規模 現状での面積は7㎡、長辺(北西～南東)3.53m、現状での短辺(北東～南西)2.15m、残存壁高は7～10cmを測る。

床面 やや凹凸がある。部分的に貼床が認められる。

カマド 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 明瞭な柱穴を検出することはできなかった。

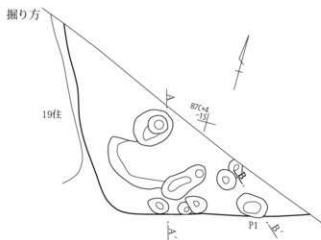
周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土、6層は貼床になる。

掘り方 部分的に掘り下げている。深さ2～5cmを測る。

遺物 内外面に墨書のある土師器の杯、覆土から須恵器の椀が出土している。

時期 出土遺物から9世紀後半に比定される。



- 1 褐色土 しまり強く粘性強い、ロームブロックやや多量、焼土小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性強い、ロームブロックやや多量を含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性強い、ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。
- 4 暗褐色土 堅くしまり粘性強い、ローム粒子・ローム小ブロック少量含む。編状堆積。
- 5 褐色土 ややしまり強く粘性強い。

## 34号住居(第44・245図、P.L.16)

**位置** 86R・S-13、86R-14グリッド、12・20・42号住居と重複している。12号住居を壊し、20・42号住居に壊されている。

**形状** 重複が激しいために全容は不明である。

**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積は8.02㎡、現状での長辺(北東～南西)3.55m、短辺(北西～南東)2.65m、残存壁高は17cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居覆土、5・6層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 部分的に掘り下げている。深さ8～13cmを測る。

**遺物** 遺物はほとんど出土していない。

**時期** 不明。

## 35号住居(第45・245図、P.L.16・263)

**位置** 86S・T-12・13グリッド、20号住居、12号溝、18号土坑と重複し、壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-21°-E

**規模** 面積21.62㎡、長辺(北東～南西)4.8m、短辺(北西～南東)4.62m、残存壁高は7～10cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。柱を中心にして床面中央部から北側にかけて硬化面が認められる。

**炉** 床面の中央部からやや北西に位置する。北端に礫1個が配置されている。長径44cm・短径41cm・深さ8cmを測る。1層は炉覆土である。

**貯蔵穴** 床面の北東隅から検出された土坑が貯蔵穴になるものと思われる。現状では長径70cm・短径57cm・深さ27cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。明瞭な柱穴を検出することはできなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～6層は住居覆土、7層は12号溝覆土、8・9層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 壁下の四周を部分的に掘り下げている。深さ3～12cmを測る。

**遺物** 土器の出土は少ない。土師器の杯、甕、鎌が出土しているが当住居に伴う物ではない。住居に伴うのはS字状口縁台付甕である。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

## 36号住居(第46・246図、P.L.17・263)

**位置** 87B-16グリッド、18号住居の北東2.3mの所に位置している。14号土坑に一部壊されている。

**形状** 隅丸長方形を呈する。主軸方位 N-97°-E

**規模** 面積は8.24㎡、長辺(南北)3.36m、短辺(東西)2.43m、壁高をほとんど確認することはできなかった。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ62cm、焚き口部の幅53cmである。1・2層はカマド覆土である。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** ほとんど確認できなかったが、1層は住居覆土、2層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 部分的に掘り下げられているが浅い。深さ2～4cmを測る。

**遺物** 土器片が散漫的に出土。須恵器の杯と椀が出土している。その他、縄文土器片(中期中葉)1点が出土。

**時期** 出土遺物から9世紀第4四半期に比定される。

## 37号住居(第47図、P.L.17)

**位置** 87C-14・15グリッド、19号住居と接している。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明である。

**主軸方位** 不明。(N-28°-W)

**規模** 現状での面積4.83㎡、現状での長辺(北東～南東)3.05m、短辺(北西～南東)3m、壁高をほとんど確認することはできなかった。

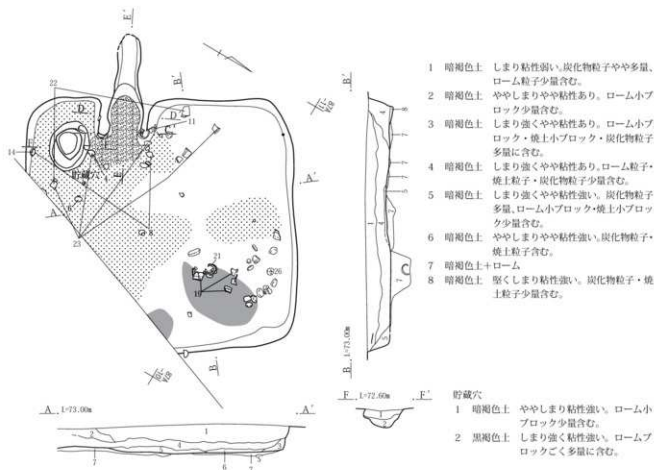
**床面** 南西隅から部分的に検出できた。

**カマド** 検出できなかった。

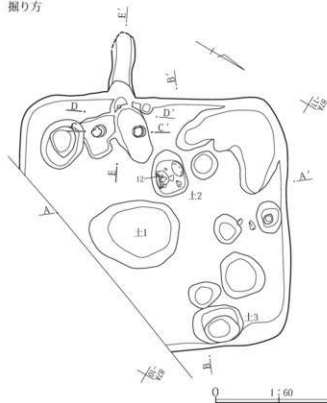
**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。



掘り方



埋没土 検出できなかった。1・3～5層は住居掘り方充填土、2層はビット覆土になる。

掘り方 部分的に掘り下げられているが浅い。深さ2～10cmを測る。掘り方調査時にビット1基が検出された。長径50cm・短径33cm・深さ36cm、覆土は3層に分かれた。

遺物 土器片の出土はほとんどなかった。

時期 不明。

38号住居(第48・49・246～248図、P.L.17・18・264～266)

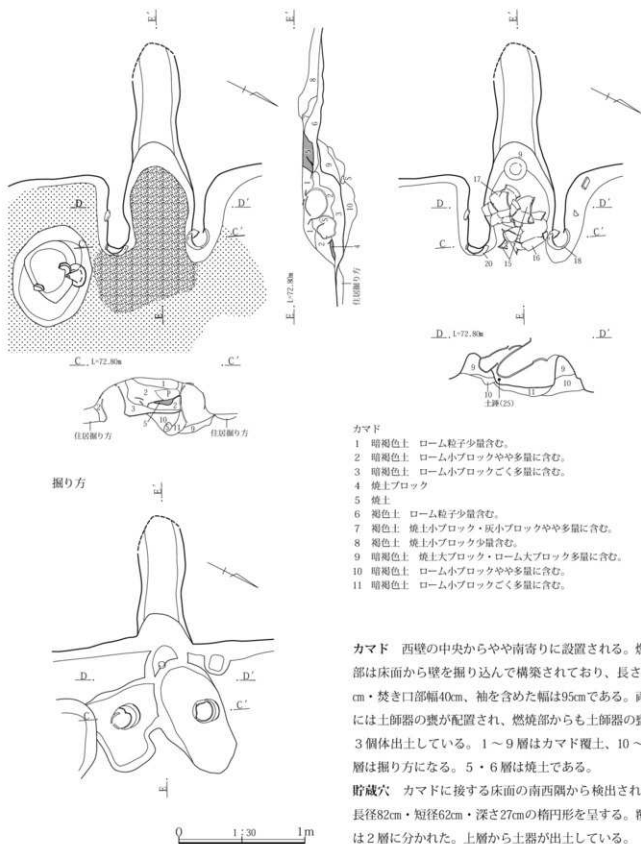
位置 86T-10、87A-10グリッド、45号住居と重複している。45号住居を壊している。

形状 調査区外に延びているために一部不明であるが、隅丸方形を呈する。主軸方位 N-122°-W

規模 現状での面積は13.72㎡、長辺(北西～南東)4.26m、短辺(北東～南西)4.05m、残存壁高は34～40cmを測る。

床面 やや凹凸がある。住居南部分を主体に硬化面が認められる。

第48図 1区38号住居(1)



第49図 1区38号住居(2)

## カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム小ブロックごく多量に含む。
- 4 焼上ブロック
- 5 焼土
- 6 褐色土 ローム粒子少量含む。
- 7 褐色土 焼上小ブロック・灰小ブロックやや多量に含む。
- 8 褐色土 焼上小ブロック少量含む。
- 9 暗褐色土 焼上大ブロック・ローム大ブロック多量に含む。
- 10 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量に含む。
- 11 暗褐色土 ローム小ブロックごく多量に含む。

**カマド** 西壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ202cm・焚き口部幅40cm、袖を含めた幅は95cmである。両袖には土師器の裏が配置され、燃焼部からも土師器の裏が3個体出土している。1～9層はカマド覆土、10～12層は掘り方になる。5・6層は焼土である。

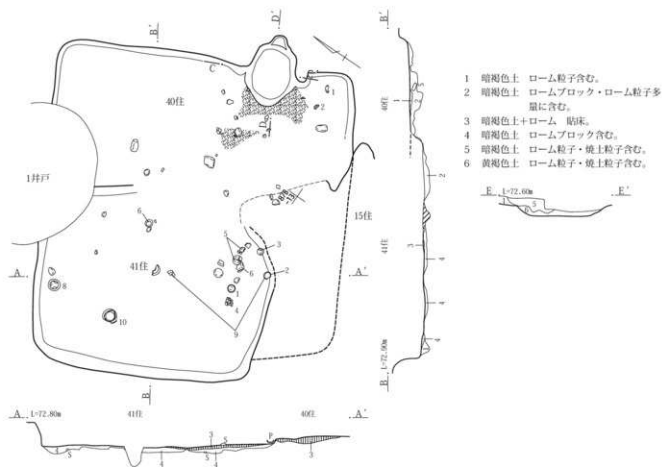
**貯蔵穴** カマドに接する床面の南西隅から検出された。長径82cm・短径62cm・深さ27cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。上層から土器が出土している。

**柱穴** 検出できなかった。

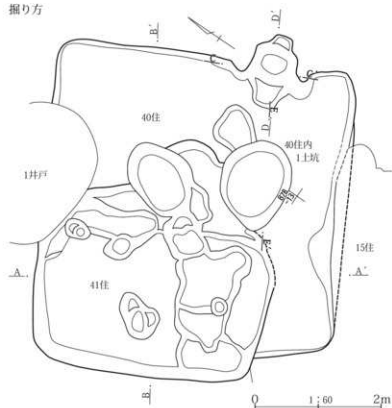
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～7層は住居覆土になる。8・9層は掘り方充填土である。





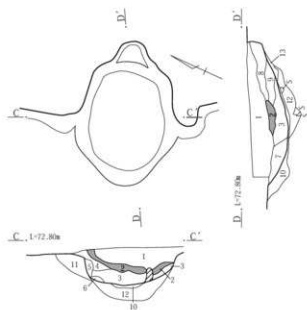
掘り方



第51図 1区40・41号住居(1)



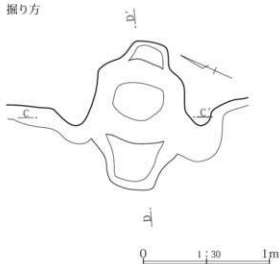
第4章 発掘調査の記録



カマド

- 1 暗褐色土 しまり強く粘性強い。焼土小ブロック・炭化物粒子多量、ロームブロックやや多量を含む。
- 2 焼土
- 3 褐色土 ややしりやや粘性あり。焼土ブロック多量、炭化物粒子を含む。
- 4 焼土ブロック 暗褐色土・ロームやや多量を含む。
- 5 暗褐色土 しまり強くやや粘性あり。ロームブロックやや多量、焼土小ブロック少量含む。
- 6 黄褐色土

掘り方



- 7 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。黒色灰多量、焼土小ブロック・炭化物含む。
- 8 極暗褐色土 しまり強くやや粘性弱い。焼土小ブロック多量、黒褐色土小ブロック含む。
- 9 褐色土 しまり強く粘性強い。焼土小ブロック含む。
- 10 暗褐色土+ローム
- 11 暗褐色土 黄色軽石・焼土粒子含む。
- 12 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒子含む。
- 13 暗褐色土 焼土粒子含む。

第52図 1区40・41号住居(2)

**掘り方** 全体的に掘り下げは浅い。土坑3基が検出された。土坑1は長径143cm・短径108cm・深さ19cm、土坑2は長径73cm・短径53cm・深さ31cm、土坑3は長径80cm・短径58cm・深さ41cmを測る。土坑2と3からは土器が出土している。

**遺物** カマドと貯蔵穴、土坑、北壁に近接した覆土中から土器や礫が出土。土師器の甕(18・20)はカマド袖として使用。さらに3個体の甕(15~17)と土鍾(25)がカマド内から出土。覆土中から土師器の杯、高杯、台付甕、須恵器の杯、蓋、甕、石製品が出土している。この他、縄文土器片(加曾利E式1点・時期不明1点)2点が出土。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

39号住居(第50・249図、P.L.18・19・266)

**位置** 86R・S-10・11グリッド、8・29号住居、2・19・20号土坑と重複し、壊されている。

**形状** 重複と調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-22°-W

**規模** 現状での面積は17.77㎡、長辺・短辺ともに5.6m、残存壁高は4~15cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。枡を中心に床面中央部にかけて硬化面が認められる。

**枡** 床面の中央部からやや北西に位置する。北端に礫1個が配置されている。長径42cm・短径31cm・深さ4cmを測る。1~3層は枡覆土、4層は焼土である。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** ビット1基が検出された。長径53cm・短径50cm・深さ42cmを測る。覆土は4層に分かれた。

**周溝** 検出できなかった。

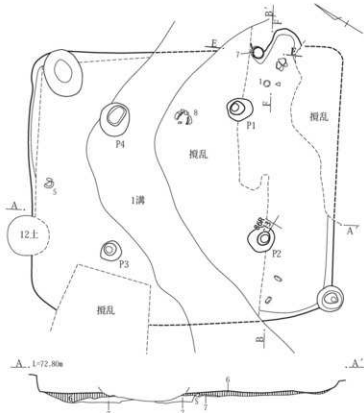
**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土、3~8層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 床面中央部はほとんど掘り下げずに壁下の四周を掘り下げている。深さ4~20cmを測る。

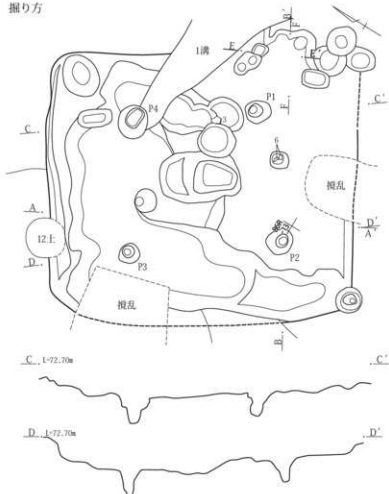
**遺物** 床面上から散漫的に出土。S字状口縁台付甕、小型壺、杯が出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

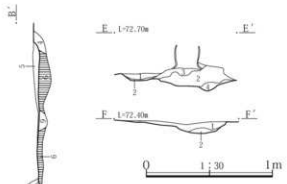
第2節 1区の遺構と遺物



掘り方



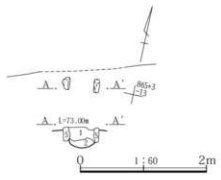
第53図 1区42号住居



- 1 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子多量に含む。
- 6 暗褐色土+ローム 陥床。
- 7 黄褐色土
- 8 暗褐色土 堅くしまる。焼土含む。陥床。
- 9 暗褐色土 焼土粒子含む。

カマド

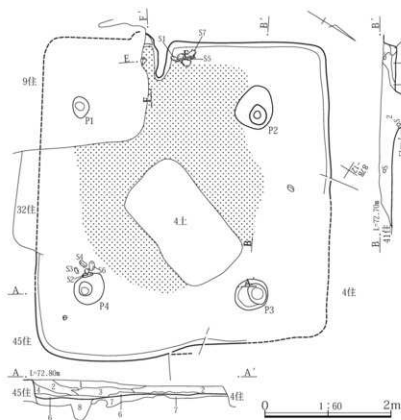
- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック・焼土含む。



- 1 暗褐色土 ローム小ブロックやや多量、焼土大ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム大ブロックやや多量に含む。

第54図 1区43号住居





- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒子含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 5 褐色土
- 6 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 7 暗褐色土+ローム
- 8 暗褐色土+ローム 黒褐色土含む。

40号住居(第51・52・249図、P.L.19・20・266)

位置 87B-12・13グリッド、15・41・59号住居、1号井戸と重複している。59号住居を壊し、15号住居と1号井戸に壊されている。  
形状 重複関係のために一部不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-60°-E

規模 現状での面積は13.85㎡、長辺(北西～南東)4.79m、現状での短辺(北東～南西)4.5m、残存壁高は11～20cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。

カマド 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ126cm・焚き口幅82cm、袖を含めた幅は120cmである。1～9層はカマド覆土、2層は焼土である。10～13層は掘り方になる。カマド前面に灰の分布が認められた。

貯蔵穴 検出できなかった。

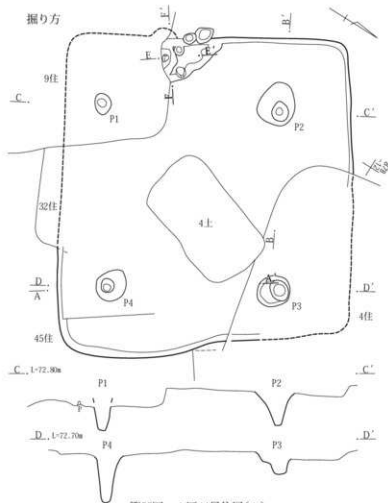
柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

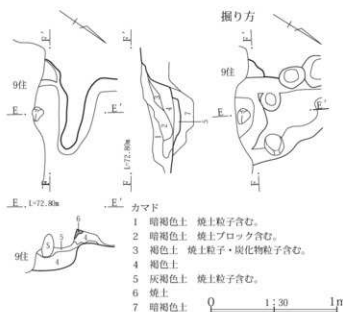
埋没土 掘り方充填土のみを検出した。40号住居の1・2層が掘り方充填土、3層は貼床になる。

掘り方 掘り下げは浅く深さ5～20cmである。土坑1基が検出された。長径141cm・短径111cm・深さ26cmを測る。覆土は2層(5・6層)に分かれた。

遺物 土器の出土量は少ない。土師器の杯、盤、壺、須恵器の杯が出土している。(2)の土師器杯は7世紀前半、(1・3・4)は8世紀第1四半期、(5)は8世紀中頃に属する。



第55図 1区44号住居(1)



第56図 1区44号住居(2)

この他、縄文土器片(堀之内1式)1点が出土。

**時期** 出土遺物から8世紀代に比定されるものと思われる。場合によっては41号住居と同一の住居になる可能性もある。

#### 41号住居(第51・52・249図、P.L.20・266)

**位置** 87A・B-13グリッド、14・15・40号住居、1号井戸と重複している。1号井戸に壊されている。

**形状** 重複しているために一部不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。 **主軸方位** N-60°-E

**規模** 現状での面積は10.54㎡、長辺(北西～南東)3.75m、短辺(北東～南西)2.95m、残存壁高は20～45cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。

**カマド** 検出できなかったが、東壁のほぼ中央に設置されていたものと思われる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 掘り方充填土のみを検出した。41号住1・2・4・5層は掘り方充填土で3層は貼床になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げは浅いが住居南半分がやや掘り下げられている。深さ6～12cmである。

**遺物** 南壁周辺からややまとまって土器が出土。土師器の杯、盤、甕が出土している。この他、縄文土器片(黒浜・有尾式1点・加曾利E式2点)3点が出土。

**時期** 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。40号住居と同一住居になるか。

#### 42号住居(第53・250図、P.L.20・266)

**位置** 86Q・R-12・13グリッド、20・34号住居、1号溝と重複している。20・34号住居を壊し、1号溝に壊されている。

**形状** 重複しているために一部不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。 **主軸方位** N-60°-E

**規模** 現状での面積は21.1㎡、長辺(北西～南東)4.8m、現状での短辺(北東～南西)4.25m、残存壁高は15～31cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁の南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ77cm・焚き口幅55cm、袖を含めた幅は現状で80cmである。袖に土師器の甕が使用されている。1～4層はカマド覆土になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** P1～P4の4基のビットが主柱穴になるものと思われる。P1は長径40cm・短径36cm・深さ37cm、P2は長径43cm・短径40cm・深さ47cm、P3は長径35cm・短径31cm・深さ42cm、P4は長径53cm・短径47cm・深さ43cmを測る。P1-P2間距離2.15m、P2-P3間距離2.45m、P3-P4間距離2.1m、P4-P1間距離1.9mである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土、6・8層は貼床、7・9層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げは浅いが、住居北側はやや深くなっている。深さ5～21cmである。

**遺物** カマド周辺から出土しているが量は少ない。土師器の杯、盤、甕(カマド右袖)、須恵器の椀、甕が出土している。この他、時期不明の縄文土器片1点が出土。

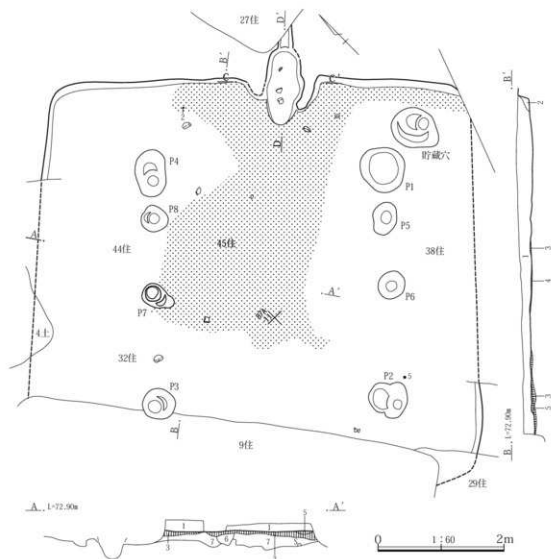
**時期** 出土遺物から7世紀第4四半期に比定される。

#### 43号住居(第54図)

**位置** 86S-13グリッド、20号住居の覆土中から検出された。調査段階では住居と把握しているが詳細は不明。

**形状** カマドだけの検出のために詳細は不明である。

**主軸方位** 不明。



- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 褐色土
- 3 黒褐色土+ローム土 貼床。
- 4 ローム+焼土 貼床。
- 5 褐色土+ローム 貼床。
- 6 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 7 暗褐色土 焼土粒子多量に含む。

第57図 1区45号住居(1)

規模 不明。

床面 不明。

カマド 現状での幅40cm、袖を含めた幅は56cmである。袖に礫が使用されている。1・2層はカマド覆土になる。

貯蔵穴 不明。

柱穴 不明。

周溝 不明。

埋没土 不明。

掘り方 不明。

遺物 なし。

時期 不明。

44号住居(第55・56・250図、P.L.21)

位置 87A・B-11、87A-12グリッド、4・9・32・45・59号住居、4号土坑と重複している。45・59号住居を壊し、4・32号住居、4号土坑に壊されている。

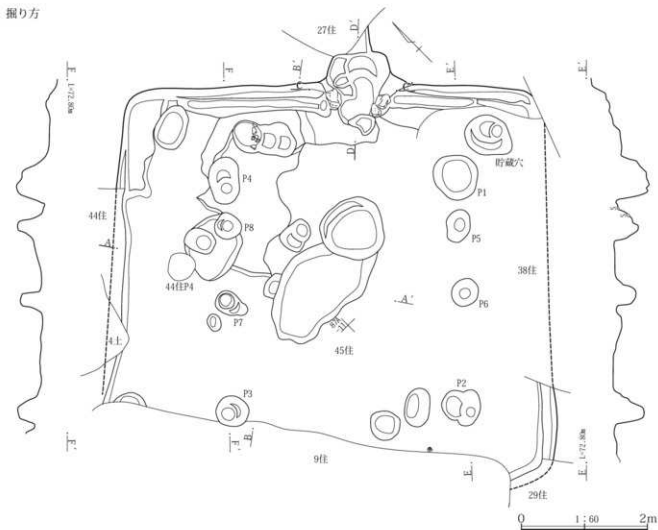
形状 重複関係が複雑なために部分的に不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-135°-W

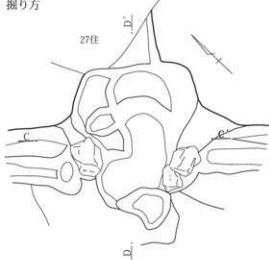
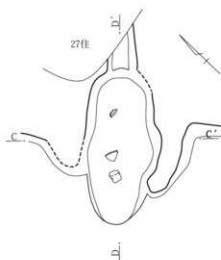
規模 現状での面積は22.72㎡、長辺(北東～南西)4.8m、現状での短辺(北西～南東)4.65m、残存壁高は19～32cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。主柱穴に囲まれた床に硬化面が

掘り方



掘り方



カマド

- |                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。  | 7 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量含む。     |
| 2 暗褐色土 灰少量、ロームブロック含む。 | 8 暗褐色土+ローム                 |
| 3 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。    | 9 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。         |
| 4 暗褐色土 ローム粒子含む。       | 10 暗褐色土 焼土粒子多量に含む。         |
| 5 褐色土 焼土ブロック多量に含む。    | 11 黄褐色土                    |
| 6 焼土                  | 12 褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。 |
|                       | 13 暗褐色土+ロームブロック            |
|                       | 14 暗褐色土 ローム粒子を含む。          |

第58図 1区45号住居(2)

認められた。

**カマド** 西壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面を掘り込んで構築されている。長さ88cm、現状での焚き口幅10cm、袖を含めた幅は50cmである。支脚の礫が残されていた。1～6層はカマド覆土、7層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

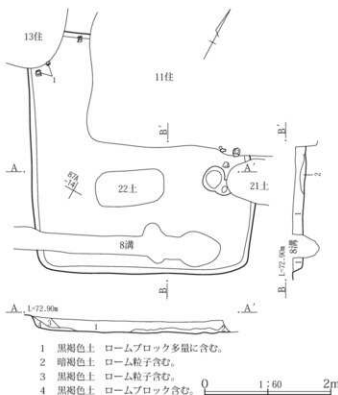
**柱穴** P1～P4の4基のビットが主柱穴になる。P1は長径35cm・短径26cm・深さ37cm、P2は長径68cm・短径57cm・深さ52cm、P3は長径55cm・短径48cm・深さ32cm、P4は長径55cm・短径45cm・深さ74cmを測る。P1-P2間距離2.82m、P2-P3間距離2.82m、P3-P4間距離2.75m、P4-P1間距離2.95mである。  
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～6層は住居の覆土、7層は掘り方充填土、8層はビット覆土になる。

**掘り方** 掘り込みは浅く深さ2～12cmを測る。

**遺物** カマド袖周辺から土師器の杯が出土。P4周辺からも編み石4点、カマド周辺から3点の計7点も出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。



第59図 1区46号住居

45号住居(第57・58・250図、P.L.22・266)

**位置** 86T-10・11、87A-10・11グリッド、9・32・38・44号住居と重複している。すべての住居に壊されている。

**形状** 重複が激しいために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。 **主軸方位** N-45°-E

**規模** 現状での面積は38.24㎡、現状での長辺(北西～南東)7.2m、短辺(北東～南西)6.3m、残存壁高は5～21cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。カマドの前面から床面中央部にかけて硬化面が認められた。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ160cm、幅47cm、袖を含めた幅は80cmである。袖には礫が使用されている。1～3・5層はカマド覆土、6層は焼土、7～12層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅に位置している。長径78cm・短径63cm、深さ63cmの楕円形を呈する。

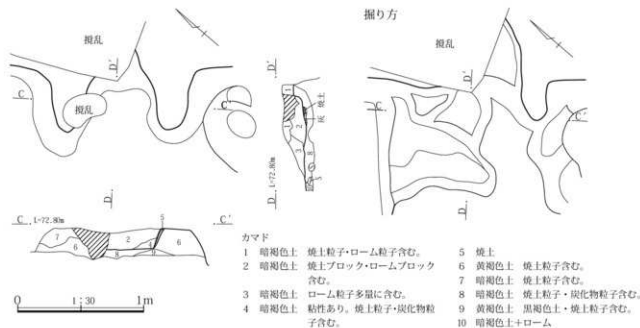
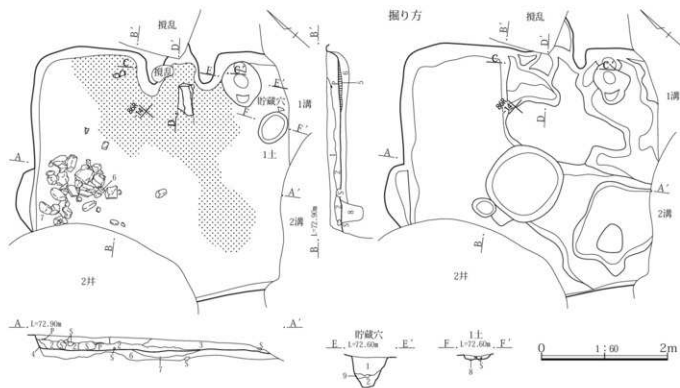
**柱穴** ビット8基が検出された。このうちのP1～P4は主柱穴になるものと思われる。P1は長径75cm・短径68cm・深さ48cm、P2は長径60cm・短径59cm・深さ49cm、P3は長径53cm・短径48cm・深さ40cm、P4は長径74cm・短径48cm・深さ36cmを測る。P1-P2間距離3.75m、P2-P3間距離は3.8m、P3-P4間距離3.8m、P4-P1間距離は3.7mである。さらにP1-P2間とP3-P4間にはほぼ同位置にビット2基ずつ存在する。P5は長径54cm・短径40cm・深さ37cm、P6は長径44cm・短径41cm・深さ35cm、P7は長径52cm・短径37cm・深さ37cm、P8は長径43cm・短径40cm・深さ40cmを測る。

**周溝** 掘り方調査時に東壁を中心に部分的に検出されたが、本来は床面を全周していた可能性が高い。幅10～22cm、深さ10cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土、3～5層は貼土、6・7層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 主柱穴の外周がやや掘り下げられている。深さ8～25cmほどであり、凹凸が認められる。

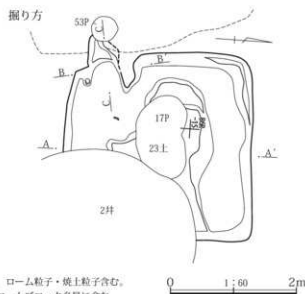
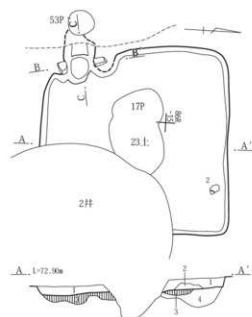
**遺物** カマド内と床直上から散漫的に出土。土師器の杯、土製勾玉(覆土から)、白玉2点、有孔円盤が出土している。この他、縄文土器片(黒浜・有尾土1点・後期前葉1点)



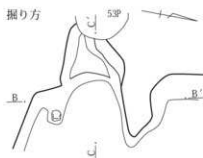
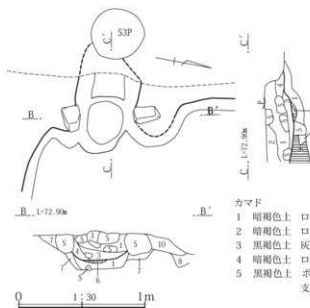
第60図 1区47号住居



第4章 発掘調査の記録



- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
- 2 褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子多量に含む。貼床。
- 4 暗褐色土 ローム粒子含む。



カマド

- |        |                 |                |               |
|--------|-----------------|----------------|---------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒子・焼土粒子含む。   | 6 灰            | 下位に薄いロームあり。   |
| 2 暗褐色土 | ロームブロック・焼土粒子含む。 | 7 暗褐色土+ロームブロック |               |
| 3 黒褐色土 | 灰多量に含む。         | 8 黒褐色土+ロームブロック |               |
| 4 暗褐色土 | ローム粒子多量に含む。     | 9 暗褐色土+ローム     | 貼床。           |
| 5 黒褐色土 | ボソボソする。焼土粒子含む。  | 10 暗褐色土        | ロームブロック多量に含む。 |
- 支脚置き跡。

第61図 1区48号住居

2点が出土。

時期 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

46号住居(第59・250・251図、P.L.23・266)

位置 86T・87A-13・14グリッド、11・13・85号住居、21・22号土坑、8号溝と重複している。85号住居を壊し、11・13号住居、21・22号土坑、8号溝に壊されている。

形状 重複が激しいために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。主軸方位 不明。

規模 現状での面積は8.76㎡、長辺(北西～南東)3.74m、短辺(北東～南西)3.52m、残存壁高は5～22cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

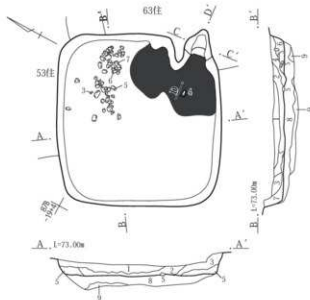
周溝 検出できなかった。

埋没土 1・2層は人為的埋土の可能性が考えられる。

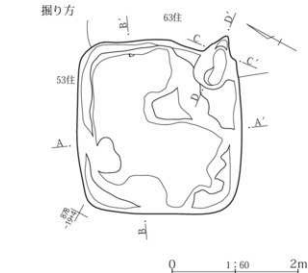
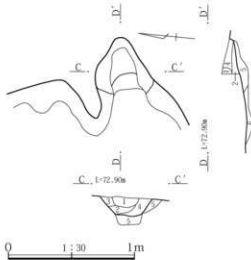
掘り方 検出できなかった。

遺物 少量の土器片が出土。S字状口縁台付甕、甕、木葉痕のある土器の底部が出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式)3点が出土。

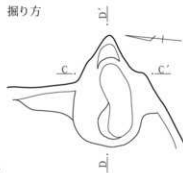
時期 出土遺物から4世紀代に比定される。



- 1 暗褐色土 ややしまり強くやや粘性強い、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物粒子やや多量に含む。
- 3 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性強い、ローム粒子少量、炭化物粒子・焼土粒子含む。



- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子含む。
- 5 暗褐色土 やや粘性強い、ローム小ブロック含む。
- 6 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い、ローム粒子含む。
- 7 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い、焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム小ブロック含む。
- 8 暗褐色土+ローム
- 9 暗褐色土 ロームごく多量に含む。



## カマド

- 1 黄褐色土ブロック 下位焼土化、天井。
- 2 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。黒色炭・炭化物多量、焼土小ブロックやや多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱くやや粘性あり。焼土粒子多量に含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性弱い、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 6 褐色土

第62図 1区49号住居

## 47号住居(第60・251図、P.L.23・267)

位置 860・R-13・14グリッド、2号井戸、1・2号溝と重複し、一部を壊されている。

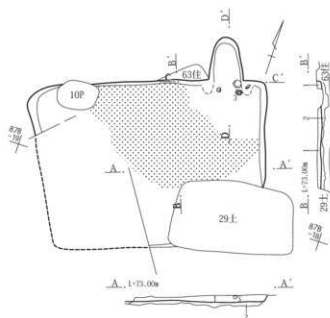
形状 重複関係によって部分的に不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-56°-E

規模 現状での面積は12.91㎡、現状での長辺(北西～南東)3.95m、短辺(北東～南西)3.95m、残存壁高は12～30cmを測る。

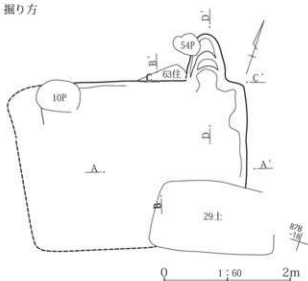
床面 やや凹凸がある。カマド周辺に硬化面が認められ

る。

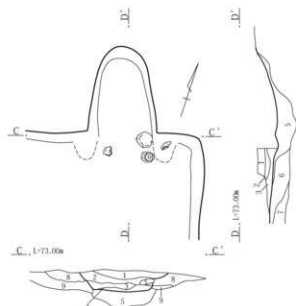
カマド 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面を掘り込んで構築されている。現状での長さ110cm、焚き口幅55cm、袖を含めた幅は130cmである。焚き口部に礫が残されていたが、カマド構築材と思われる。1～5層はカマド覆土、6・7層は袖、8～10層は掘り方になる。貯蔵穴 床面の南東隅、カマドに接している。長径73cm・短径59cm・深さ47cmを測る。覆土は3層に分かれた。柱穴 検出できなかった。



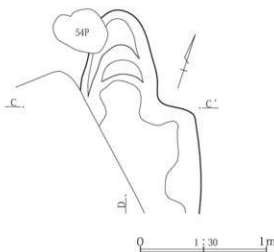
掘り方



- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり、ローム小ブロック少量、炭化物粒子・焼土小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子含む。



掘り方



カマド

- 1 暗褐色土 ややしまり粘性あり。焼土小ブロック・炭化物粒子含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱い。焼土小ブロック含む。
- 3 黒褐色土+黒色灰 焼土小ブロック含む。
- 4 暗褐色土 ややしまり粘性あり。扁平なロームブロック・焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土+ロームブロック
- 6 暗褐色土
- 7 黒褐色土 ローム粒子含む。
- 8 暗褐色土 ややしまりやや粘性弱い。焼土粒子・ローム粒子・炭化物粒子少量含む。
- 9 暗褐色土 ややしまりやや粘性強い。ローム小ブロックやや多量に含む。

第63図 1区50号住居

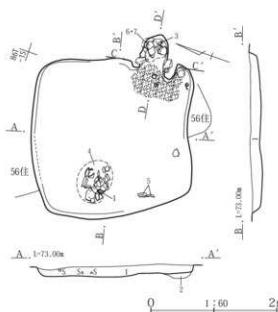
周溝 検出できなかった。

埋没土 1～3層は人為的な埋土になる。貯蔵穴の覆土も同様である。5層は貼床、6・7層は掘り方充填土、8層は土坑とビット覆土になる。

掘り方 全体的に掘り下げているが、住居南部分で凹凸がややある。深さ8～17cmを測る。

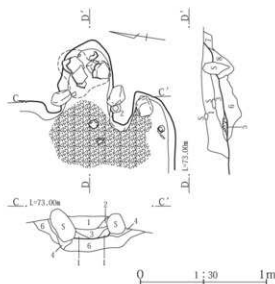
遺物 住居北西部から礫がまとまって出土している。この礫は2号井戸に伴う可能性がある。土師器の杯(貯蔵穴)、皿、高杯、甕、壺、磨石が出土している。(2)は混入で9世紀後半～10世紀前半に属する。その他、時期不明の縄文土器片1点が出土。

時期 出土遺物から7世紀前半代に比定される。



- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。  
2 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。

第64図 1区51号住居



カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。 4 黒褐色粘質土  
2 暗褐色土 ローム粒子・焼土 5 暗褐色土 ローム粒子少量含む。  
粒子含む。 6 灰  
3 暗褐色土 炭化物粒子少量、 7 暗褐色土 焼土粒子多量に含む。  
ローム粒子含む。 8 暗褐色粘質土 ローム粒子含む。支脚  
埋込。

## 48号住居(第61・251図、P.L.23・24)

位置 86Q・R-14・15グリッド、23号土坑、17号ピット、2号井戸によって壊されている。

形状 部分的に不明であるが、方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-90°-W

規模 現状での面積は6.18㎡、長辺(南北)2.99m、短辺(東西)2.96m、残存壁高は13cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 西壁の南隅に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。現状での長さ90cm、焚き口幅60cm、袖を含めた幅は90cmである。袖に礫が残されていた。1～4層はカマド覆土、5層は支脚の抜き取り跡、6層は灰、7・10層は掘り方、9層は住居の貼床になる。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土、3層は貼床、4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げているが、中央部はやや掘り下げが浅い。深さ5～28cmを測る。

遺物 土器片がわずかに出土。土師器の鉢と裏が出土している。

時期 出土遺物から8世紀前半代に比定される。

## 49号住居(第62・251図、P.L.24・267)

位置 87A・B-19グリッド、53・63号住居と重複している。53・63号住居を壊している。

形状 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-64°-E

規模 面積6.72㎡、長辺(北東～南西)2.74m、短辺(北西～南東)2.63m、残存壁高は20～32cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁の南隅に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。現状での長さ90cm、焚き口幅40cm、袖を含めた幅は70cmである。カマド前面には炭化物と焼土が分布している。1層はカマド天井の崩落土、2～4層はカマド覆土、5・6層は掘り方になる。

貯蔵穴 検出できなかった。

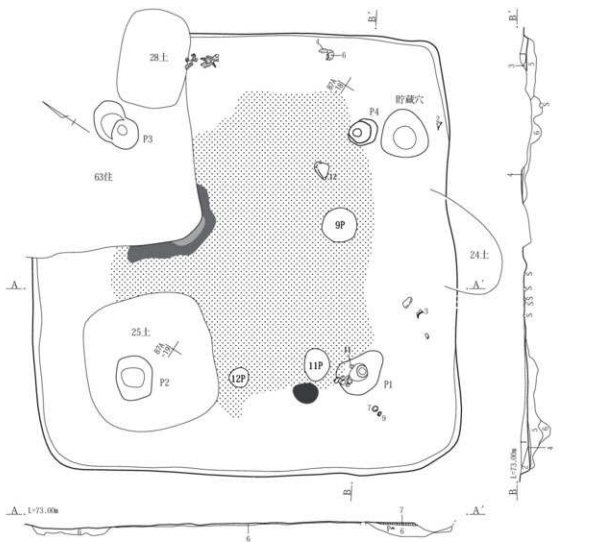
柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～7層は住居覆土、8・9層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さ5～20cmを測る。

遺物 住居の北側から椀形二ツ岳軽石を石材とするこも編み石43点がまとまって出土。また砥石も出土している。



- 1 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや粘性強い。炭化物粒子含む。
- 4 暗褐色土とローム互層 堅くしまる。縮状に堆積。
- 5 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 7 暗褐色土+ローム 貼床。

第52図 1区52号住居(1)

土器片は少量で土師器の杯が出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

50号住居(第63・251図, P.L.24)

**位置** 87A・B-18グリッド、54・63号住居、29号土坑と重複している。54・63号住居を壊し、29号土坑に壊されている。

**形状** 部分的に不明であるが長方形を呈する。 **主軸方位** N-20°-W

**規模** 現状での面積は9.7㎡、長辺(北東~南西)3.79m、

短辺(北西~南東)2.66m、残存壁高は7~11cmを測る。

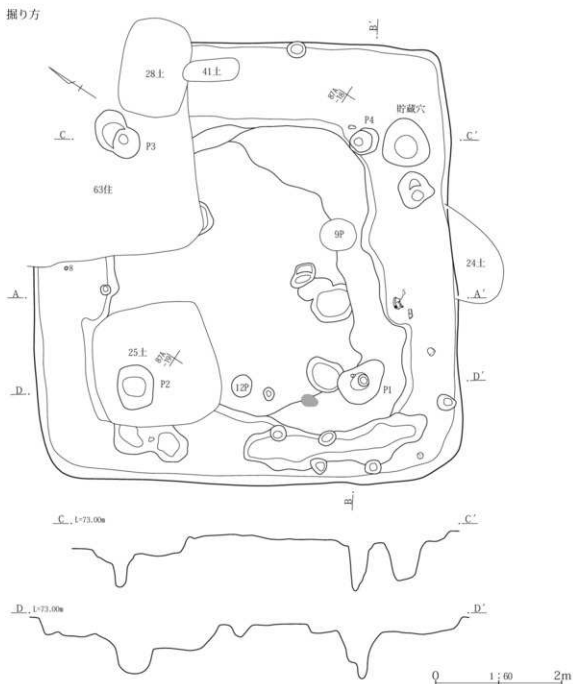
**床面** やや凹凸がある。床面中央部から北壁にかけて硬化面が認められる。

**カマド** 北壁の東隅に設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ125cm、焚き口幅50cm、袖を含めた幅は80cmである。1~4層はカマド覆土、5~9層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。



第66図 1区52号住居(2)

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1層は住居覆土、2層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げているが浅い。深さ4～8cmを測る。

**遺物** カマド周辺からわずかに出土。須恵器の杯、椀が出土している。

**時期** 出土遺物から10世紀前半代に比定される。

51号住居(第64・252図、P.L.24・267)

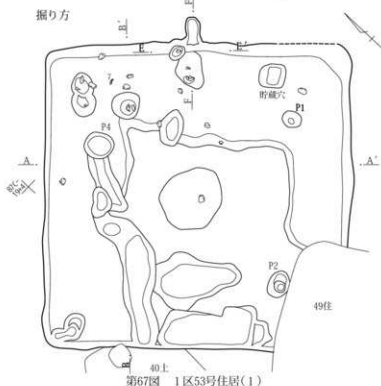
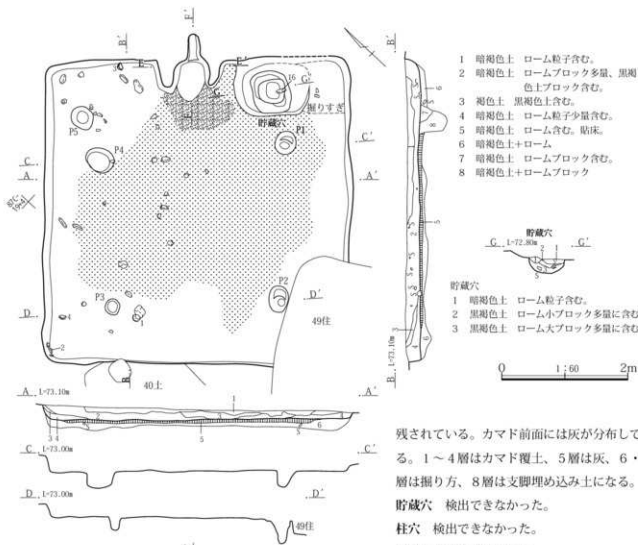
**位置** 86S-14・15グリッド、56号住居と重複している。56号住居を壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-71°-E

**規模** 面積6.06㎡、長辺(北東～南西)2.53m、短辺(北西～南東)2.5m、残存壁高は10cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ88cm、焚き口幅40cm、袖を含めた幅は65cmである。袖石2個と支脚が



残されている。カマド前面には灰が分布している。1～4層はカマド覆土、5層は灰、6・7層は掘り方、8層は支脚埋め込み土になる。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1層は住居覆土、2層は掘り方充填土になる。

掘り方 部分的に掘り下げられている。

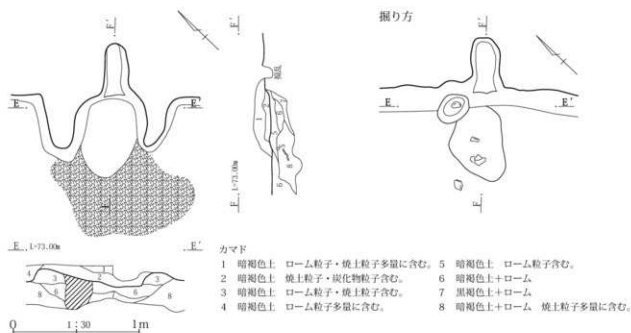
遺物 カマドから(6・7)の羽釜、(2・3)の須恵器杯が出土。西壁に近接して(1・4・5)の土師器杯と甕が出土している。これらは7世紀第4四半期の遺物である。混入と思われる。その他、縄文土器片(黒浜・有尾式)1点が出土。  
 時期 出土遺物から10世紀第2四半期に比定される。

52号住居(第65・66・252・253図、P.L.25・267)

位置 86T・87A-17～19グリッド、63号住居、24・25・28号土坑と重複し、壊されている。

形状 隅丸方形を呈する。

主軸方位 N-58°-E



第68図 1区53号住居(2)

**規模** 現状での面積は37.82㎡、長辺(北東～南西) 6.98m、短辺(北西～南東) 6.75m、残存壁高は8～14cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。主柱穴に囲まれた床面中央部にかけて硬化面が認められる。

**基** 床面の中央部からやや北に位置する。63号住居によって壊されているが、現状では長径51cm・短径20cm・深さ6cmを測る。周辺に焼土・炭化物が分布している。

**貯蔵穴** 床面の南東隅でP4に近接して検出された土坑が貯蔵穴になるものと思われる。長径78cm・短径75cm・深さ60cmの楕円形を呈する。

**柱穴** P1～P4は主柱穴になるものと思われる。P1は長径81cm・短径60cm・深さ87cm、P2は長径70cm・短径58cm・深さ79cm、P3は長径50cm・短径42cm・深さ87cm、P4は長径50cm・短径40cm・深さ91cmを測る。いずれのビットも深い。P1～P2間距離3.65m、P2～P3間距離は3.9m、P3～P4間距離3.85m、P4～P1間距離は3.8mである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、4～6層は掘り方充填土、7層は貼床なる。

**掘り方** 主柱穴の外周から壁下を主体的に掘り下げている。深さ10～20cmを測る。

**遺物** 床面から土器が散発的に出土。器台、S字状口縁

台付甕、壺、手捏ね土器はP1に近接した床直上、破石も出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

53号住居(第67・68・253図、P.L.26・267)

**位置** 87B-18～20、87C-19グリッド、49・54・71・88号住居、40号土坑と重複している。54・88号住居を壊し、49号住居に壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-46°-E

**規模** 面積21.92㎡、長辺(北西～南東) 4.9m、短辺(北東～南西) 4.81m、残存壁高は10～23cmを測る。

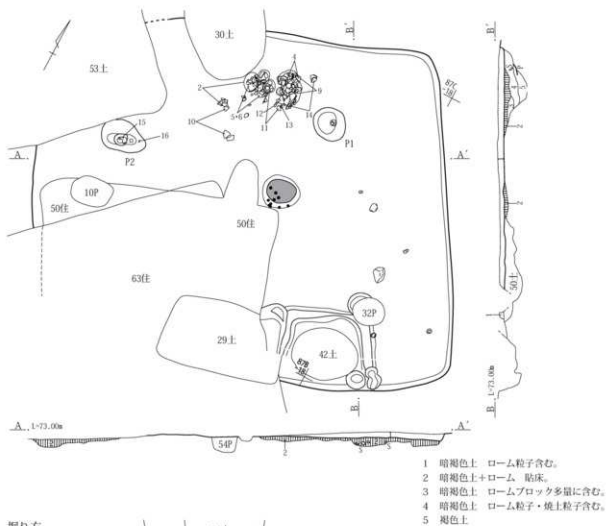
**床面** やや凹凸がある。カマドの前部から主柱穴に囲まれた範囲に硬化面が認められた。

**カマド** 北壁の中央からやや北寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ105cm、幅45cm、袖を含めた幅は95cmである。カマド前面には灰の分布が認められた。1・2層はカマド覆土、3層は袖、5～8層は掘り方になる。

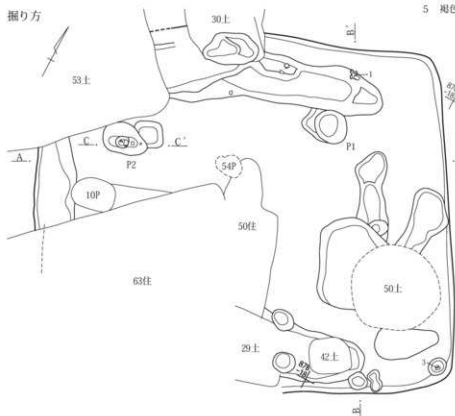
**貯蔵穴** 床面の南東隅に位置している。長径67cm・短径57cm、深さ23cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれた。

**柱穴** ビット5基が検出された。P1～P4は主柱穴になる。P1は長径38cm・短径33cm・深さ25cm、P2は長径41cm・短径31cm・深さ38cm、P3は長径24cm・短径

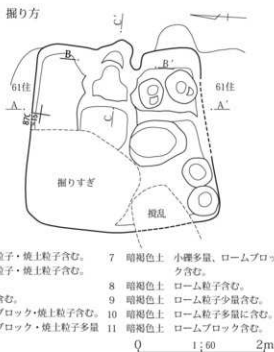




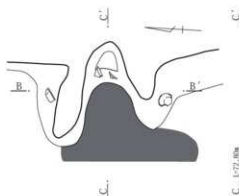
掘り方



第69図 1区54号住居



- |        |                    |         |                 |
|--------|--------------------|---------|-----------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒子・焼土粒子含む。      | 7 暗褐色土  | 小礫多量、ロームブロック含む。 |
| 2 暗灰色土 | ローム粒子・焼土粒子含む。      | 8 暗褐色土  | ローム粒子含む。        |
| 3 灰    |                    | 9 暗褐色土  | ローム粒子少量含む。      |
| 4 暗褐色土 | 灰少量含む。             | 10 暗褐色土 | ローム粒子少量含む。      |
| 5 暗褐色土 | ロームブロック・焼土粒子含む。    | 11 暗褐色土 | ロームブロック含む。      |
| 6 暗褐色土 | ロームブロック・焼土粒子多量を含む。 |         |                 |



- カマド
- |         |                    |         |               |
|---------|--------------------|---------|---------------|
| 1 褐色粘質土 |                    | 6 黄褐色土  |               |
| 2 暗褐色土  | 焼土ブロック多量を含む。       | 7 暗褐色土  | 焼土大ブロック多量を含む。 |
| 3 暗褐色土  | 焼土粒子・灰多量を含む。下位灰。   | 8 暗褐色土  | ローム粒子少量含む。    |
| 4 暗褐色土  | ロームブロック多量を含む。      | 9 暗褐色土  | 焼土粒子・灰多量を含む。  |
| 5 暗褐色土  | ロームブロック・焼土粒子多量を含む。 | 10 暗褐色土 | 焼土粒子多量を含む。    |
|         |                    | 11 黒褐色土 |               |

第70図 1区55号住居

23cm・深さ20cm、P 4は長径46cm・短径38cm・深さ25cmを測る。P 1-P 2間距離2.5m、P 2-P 3間距離2.7m、P 3-P 4間距離2.3m、P 4-P 1間距離は2.95mである。P 5は長径36cm・短径34cm・深さ28cmを測る。  
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1~4層は住居の覆土、5層は貼床、6層は掘り方充填土になる。7・8層はビット覆土になる。

**掘り方** 主柱穴の外周がやや掘り下げられている。深さ

3~18cmほどであり、凹凸が認められる。

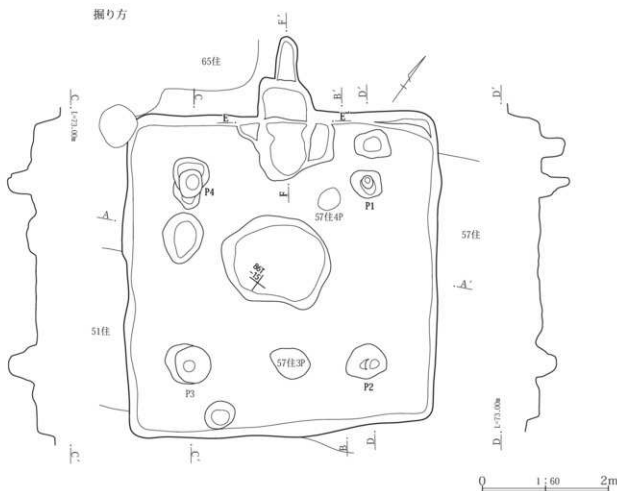
**遺物** 覆土中から土師器の杯、小型甕、貯蔵穴からは礫石が出土している。(14)の須恵器は混入である。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

54号住居(第69・254図、P.L.27・268)

**位置** 87B-17~19、87C-18グリッド、50・53・63号住居、29・30・50号土坑と重複している。いずれの遺構からも壊されている。





第72図 1区56号住居(2)

**規模** 面積は8.05㎡、長辺(南北)3.05m、短辺(東西)2.88m、残存壁高は40cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ80cm、幅50cm、袖を含めた幅は100cmである。1～5層はカマド覆土、6層は袖、7～10層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 明瞭な貯蔵穴を検出することはできなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1層は5号溝の覆土になるものと思われる。2～7層は住居覆土、8～11層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体が掘り下げられている。深さ12～29cmほどである。

**遺物** 覆土中から須恵器の杯と椀、土鏝、鏝が出土している。その他、縄文土器片(黒浜・有尾式1点・加曾利

E式2点)3点が出土。

**時期** 出土遺物から10世紀第1四半期に比定される。

56号住居(第71～73・255図、P.L.29・267)

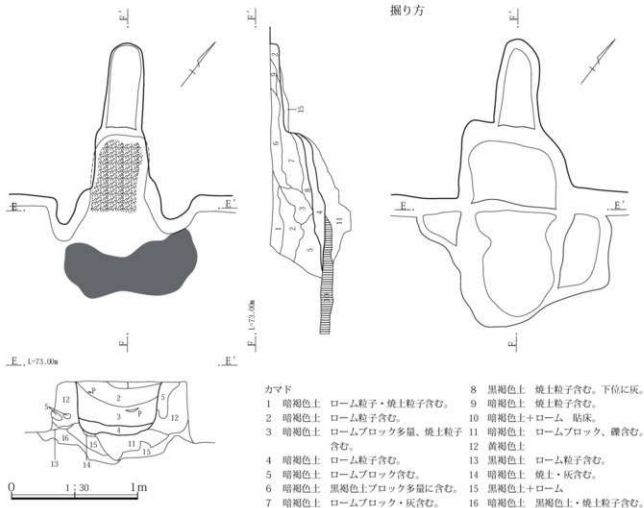
**位置** 86S・T-14・15グリッド、22・51・57号住居と重複している。57号住居を壊し、22・51号住居に壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-37°-W

**規模** 面積25.44㎡、長辺(北西～南東)5.15m、短辺(北東～南西)5.08m、残存壁高は21～41cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。カマドの前年から主柱穴に囲まれた範囲に硬化面が認められる。

**カマド** 北壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ197cm、幅65cm、袖を含めた幅は115cmである。カマド前面には炭化物の分布が認められた。1～8層はカマド覆土、9層は貼床、11層は袖、10・12～14層は掘り方になる。



第73図 1区56号住居(3)

**貯蔵穴** 床面の北東隅に位置している。長径38cm・短径24cm、深さ50cmの楕円形を呈する。覆土は4層に分かれた。

**柱穴** P1～P4までのビット4基が検出された。主柱穴になる。P1は長径67cm・短径65cm・深さ84cm、P2は長径82cm・短径75cm・深さ52cm、P3は長径65cm・短径49cm・深さ45cm、P4は長径38cm・短径30cm・深さ35cmを測る。P1～P2間、P2～P3間、P3～P4間距離はいずれも2.9m、P4～P1間距離は2.8mである。南壁の中央から西寄りに検出されたビットは、長径43cm・短径41cm・深さ22cmを測る。出入口にかかわる施設跡であろうか。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～6層は住居覆土、7層は貼床、8・9層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ5～

18cmほどであり、凹凸が認められる。床面下中央部に楕円形の落ち込みが検出された。長径175cm・短径138cm・深さ21cmを測る。

**遺物** 覆土中から散漫的に土器が出土。土師器の杯、鉢、甕、巖石、石製模造品の碧玉はカマドから出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

57号住居(第74・75・256図、P.L.30)

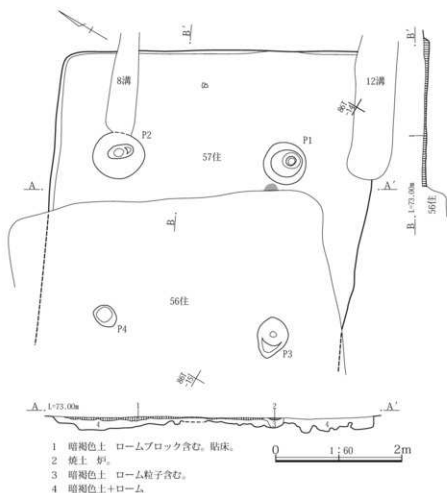
**位置** 86T-13、86S・T-14グリッド、56号住居、8・12号溝と重複し、壊されている。

**形状** 全容は不明であるが方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-65°-E

**規模** 現状での面積は24.06㎡、現状での長辺(北西～南東)5.1m、短辺(北東～南西)4.88m、残存壁高は部分的に3～9cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面はみとめられなかった。



第74図 1区57号住居(1)

が P1 に近接して検出された焼土が珪になるものと思われる。現状では長さ23cm、幅11cmである。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** P1～P4までのビット4基が検出された。主柱穴になる。P1は長径67cm・短径65cm・深さ84cm、P2は長径82cm・短径75cm・深さ52cm、P3は長径65cm・短径49cm・深さ45cm、P4は長径38cm・短径30cm・深さ35cmを測る。P1-P2間距離2.75m、P1-P3間距離2.75m、P3-P4間距離は2.7m、P2-P4間距離は2.55mである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** ほとんど検出できなかった。1層は貼床になる。3・4層は掘り方充填土である。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。住居中央部は浅く、主柱穴の外周がやや深い。深さ5～20cmほどである。

**遺物** 床直上から土器片がわずかに出土。高坏、小型甕

が出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

58号住居(第76・77・256図、P.L.30)

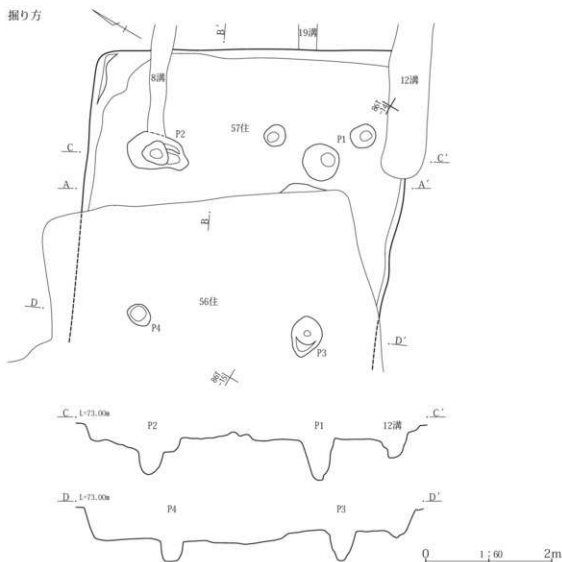
**位置** 87A・B-12グリッド、5・40・59号住居と重複している。59号住居を壊し、5・40号住居に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-48°-E

**規模** 現状での面積は5.76㎡、長辺(北西～南東)2.74m、短辺(北東～南西)2.35m、残存壁高は9～23cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。床面中央部に硬化面が認められる。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ65cm、焚き口部の幅50cm、袖を含めた幅は90cmを測る。1～5層はカマド覆土である。8層は袖、9層は貼床、6・7・10層は掘り方になる。



第75図 1区57号住居(2)

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1層は住居覆土、6層は貼床、7～9層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全面的に掘り下げられている。深さ10～20cmを測る。

**遺物** 覆土中から土器の出土は非常に少ない。土師器の杯が出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式)2点が出土。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

59号住居(第76・77・256図、P.L.30・31・268)

**位置** 87A-12・13グリッド、10・15・40・44・58号住居と重複し、壊されている。

**形状** 重複関係が激しいために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。主軸方位 不明。

**規模** 現状での面積は12.46㎡、現状での長辺(東西)4.3m以上、短辺(南北)4.05m以上、残存壁高は4cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。部分的に硬化面が認められる。

**跡** 掘り方調査時にその痕跡が検出された。長径55cm・短径42cmの範囲で一部赤化していた。

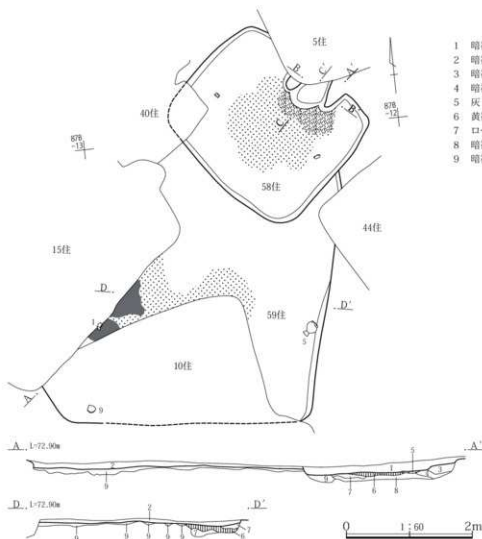
**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。明瞭な主柱穴を検出することはできなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。2層は住居覆土、7・9層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 東壁下がやや掘り下げられている。深さ2～20cmを測る。



第76図 1区58・59号住居(1)

**遺物** 東壁直下からS字状口縁台付甕が出土、高環、器台、壺も出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

60号住居(第78・256図、P.L.31)

**位置** 86T・87A-15・16グリッド、64・65号住居、31号土坑と重複している。64号住居を壊し、31号土坑に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-18°-E

**規模** 面積13.42㎡、長辺(北西～南東)4.34m、短辺(北東～南西)3.16m、残存壁高は3～8cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。カマド前面から床面中央部にかけて硬化面が認められる。

**カマド** 東壁の中央から南寄りに設置される。燃焼部は

壁を掘り込んで構築されている。長さ80cm、焚き口の幅38cm、袖を含めた幅は70cmである。袖石2個と支脚が残されている。カマド前面に灰の分布が認められた。1～4層はカマド覆土、5～7層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 確認できなかった。

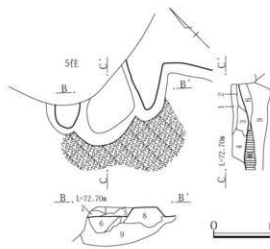
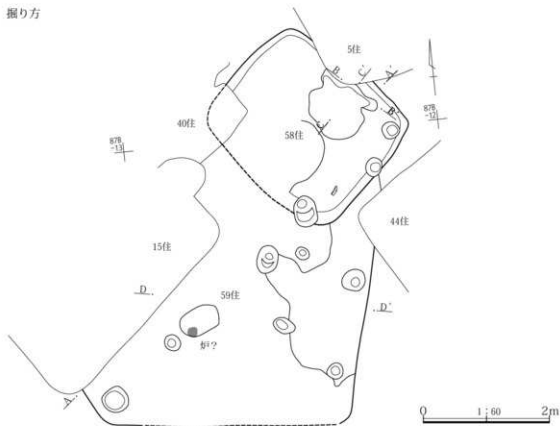
**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ2～6cmを測る。

**遺物** カマドから須恵器の蓋が出土。床直上から須恵器の椀が出土している。その他、縄文土器片(諸磯c式)1点が出土。

**時期** 出土遺物から9世紀代に比定されるものと思われる。



掘り方



- 1 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 焼土ブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土+褐色土 ロームブロック多量に含む。下位に灰。
- 5 暗褐色土 焼土大ブロック少量、ローム粒子含む。
- 6 暗褐色土 焼土粒子含む。
- 7 黒褐色土 ローム粒子含む。
- 8 暗褐色土 焼土粒子・ローム粒子含む。
- 9 暗褐色土+ローム
- 10 黄褐色土 灰床。

第77図 1区58・59号住居(2)

61号住居(第79・80・256図、P.L.32)

**位置** 87B・C-14・15グリッド、33・55・84号住居と重複している。33・84号住居を壊し、55号住居に壊されている。

**形状** 重複関係のために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-80°-E

**規模** 面積は13.98㎡、長辺(北西~南東)4.25m、短辺(北東~南西)3.25m、残存壁高は20~39cmを測る。

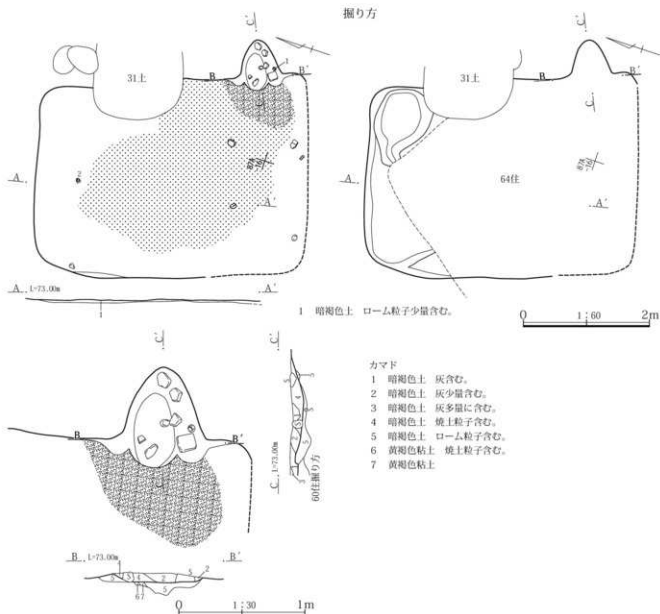
**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。現状の長さ58cm、焚き口幅60cmである。支脚の礎が残されていた。1~8層はカマド覆土、3層は灰、9~11層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅、カマドに接して検出された。長径68cm・短径65cm・深さ18cmの楕円形を呈する。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。



第78図 1区60号住居

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土、6層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ3～14cmほどである。

**遺物** 貯蔵穴から須恵器の杯、覆土から須恵器の椀が出土している。

**時期** 出土遺物から9世紀後半代に比定される。

62号住居(第81・257・258図、P.L.32・269)

**位置** 86S-16グリッド、69号住居と重複している。69

号住居を壊している。

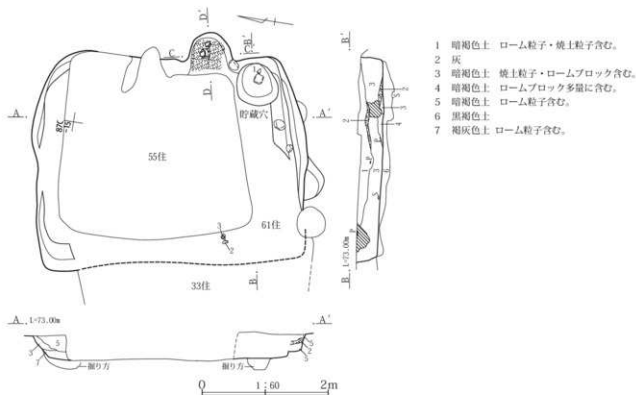
**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-82°-E

**規模** 面積7.97㎡、長辺(南北)3.25m、短辺(東西)2.57m、残存壁高は7～14cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ72cm、焚き口の幅50cm、袖を含めた幅は80cmである。1～5層はカマド覆土、2層は灰。7・10層は袖、6・8・9層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅から検出された。長径72cm・短径



第79図 1区61号住居(1)

50cm・深さ80cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、4層は貼床、5・6層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に浅く掘り下げられている。深さ2～10cmを測る。掘り方調査時に土坑1基を検出した。長径56cm・短径42cm・深さ24cmを測る。土器が出土している。

**遺物** カマドと貯蔵穴を主体に土器が出土。土師器の小型甕、台付甕、甕、須恵器の皿、椀、甕、羽釜、甕、鉄製の紡錘車は覆土から出土している。

**時期** 出土遺物から10世紀第1四半期に比定される。

63号住居(第82・83・258図、P.L.32・268)

**位置** 87A-17～19、87B-18グリッド、49・50・52・54号住居、28・29・39土坑と重複している。52・54号住居を壊し、50号住居、28・29・39土坑に壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-130°-W

**規模** 面積22.17㎡、長辺(北東～南西)4.95m、短辺(北西～南東)4.58m、残存壁高は10～27cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。カマドの前面から中央部にかけて硬化面が認められた。

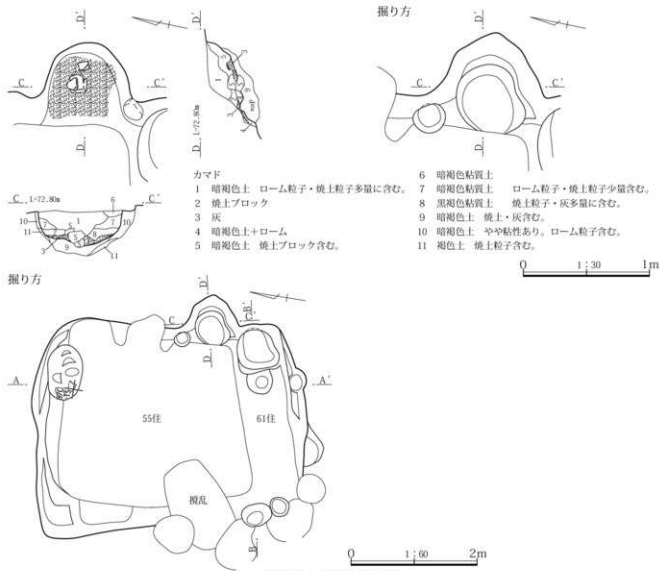
**カマド** 西壁の中央からやや北寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ217cm、幅50cm、袖を含めた幅は80cmである。カマド前面には灰の分布が認められた。1～3・10・11層はカマド覆土、8・9層は袖、4～7層は掘り方になる。

**貯蔵穴** カマド南東に接して構築されている。長径65cm・短径55cm、深さ49cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれた。貯蔵穴を取り囲む方形の高まりが認められる。

**柱穴** P1～P4のビット4基が検出された。主柱穴になる。P1は長径66cm・短径50cm・深さ36cm、P2は長径52cm・短径43cm・深さ22cm、P3は長径49cm・短径45cm・深さ36cm、P4は長径45cm・短径43cm・深さ20cmを測る。P1-P2間距離2.55m、P2-P3間距離2.7m、P3-P4間距離2.65m、P4-P1間距離は2.6mである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土、6層は貼床、7・8層は掘り方充填土になる。



第80図 1区61号住居(2)

**掘り方** 主柱穴の外周がやや掘り下げられている。深さ3～17cmほどであり、凹凸が認められる。住居のほぼ中央部から土坑が検出された。長径110cm・短径95cm・深さ12cmを測る。

**遺物** 床面の中央部から貯蔵穴周辺にかけて遺物が出土。土師器の杯、高環、甕、壺が出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

64号住居(第84・85・258図、P.L.33・269)

**位置** 86T・87A-15・16グリッド、22・60・65・74号住居、31号土坑と重複している。74号住居を壊し、22・60号住居、31号土坑に壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-37°-E

**規模** 面積22.68㎡、長辺(北西～南東)4.78m、短辺(北

東～南西)4.53m、残存壁高は12～30cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。中央部から北方向にかけて硬化面が認められる。

**カマド** 北壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ238cm、幅75cm、袖を含めた幅は105cmである。袖に礎が使用され、支脚としての高環が残されていた。カマド前面には炭化物の分布が認められた。1～13層はカマド覆土、14～23層は掘り方になる。

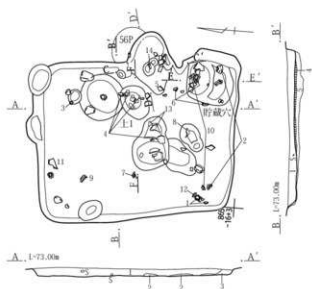
**貯蔵穴** 床面の北東隅、カマドに接して構築されている。長径55cm・短径48cm、深さ29cmの楕円形を呈する。

**柱穴** 検出できなかった。

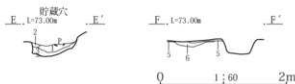
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居の覆

第4章 発掘調査の記録

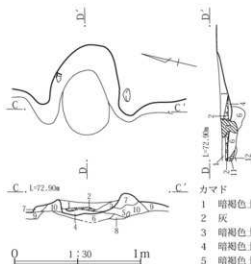


- 1 暗褐色土 ややしり粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ややしり。焼土粒子微量、炭化物粒子・黒色灰含む。
- 3 暗褐色土 ややしり弱くやや粘性あり。ローム小ブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を縞状に含む。貼床。
- 5 暗褐色土+ローム
- 6 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子含む。



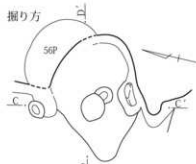
貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒子含む。



カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 2 灰
- 3 暗褐色土 灰・ローム粒子含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。



掘り方

- 6 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 8 黄褐色土 暗褐色土含む。
- 9 暗褐色土+ローム
- 10 暗褐色土 礫・ロームブロック含む。
- 11 暗褐色土 焼土・ローム含む。貼床。
- 12 暗褐色土

第81図 1区62号住居

土、5層は貼床、6～9層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ8～38cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** カマド周辺からわずかに出土。土師器の杯、高坏はカマドの支脚、甗、石製模造品の管玉と砥石が出土している。その他、時期不明の縄文土器片2点出土。

**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

65号住居(第86・258図、P.L.34・269)

**位置** 86T-15・16・87A-15グリッド、22・60・64号住居、48号土坑と重複している。64号住居壊し、22号住居、48号土坑に壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-144°-E

**規模** 面積12.35㎡、長辺(北西～南東)3.8m、短辺(北東～南西)3.33m、残存壁高は10～38cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。カマド前面から床面中央部にかけて硬化面が認められる。

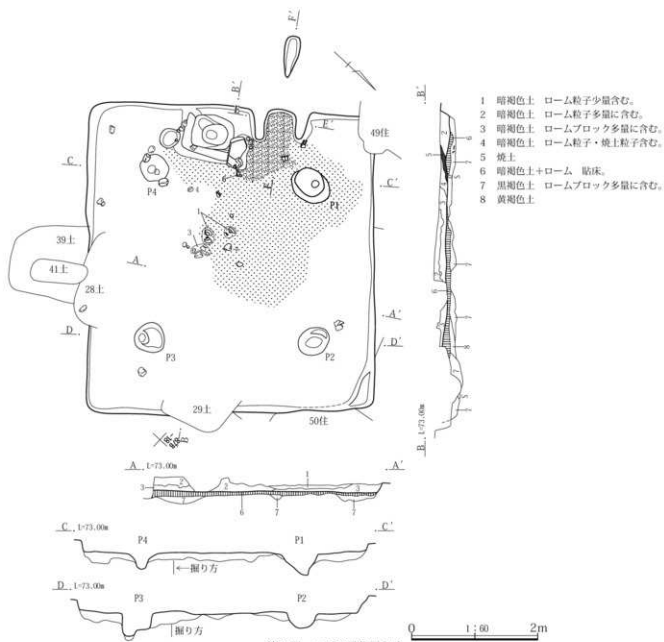
**カマド** 南壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ135cm、焚き口の幅70cmである。1～6層はカマド覆土、7～9層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～7層は住居覆土、8層は掘り方充填土になる。



**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ3～18cmを測る。

**遺物** 覆土中から少量の遺物が出土。須恵器の杯が出土している。その他、時期不明の縄文土器片1点が出土。

**時期** 出土遺物から7世紀代後半に比定される。

66号住居(第87・259図、P.L.35・269)

**位置** 86R・S-17・18グリッド、68・72号住居と重複している。68・72号住居を壊している。また攪乱によって一部壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-59°-E

**規模** 面積9.71㎡、長辺(北東～南西)3.45m、短辺(北西～南東)2.85m、残存壁高は25～36cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。中央部に硬化面が認められる。

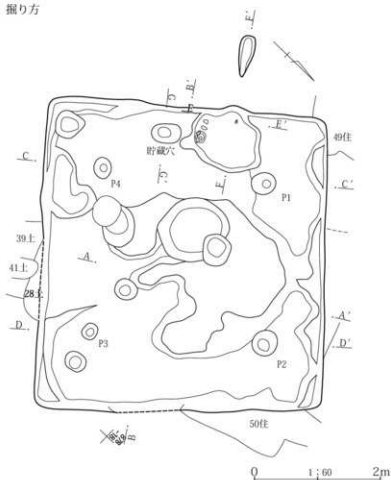
**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 床面の調査段階では検出できなかったが、掘り方調査時に3基のビットを検出した。柱穴になるものと思われる。P1は長径39cm・短径36cm・深さ56cm、P2は長径30cm・短径30cm・深さ32cm、P3は長径30cm・短径29cm・深さ26cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

掘り方

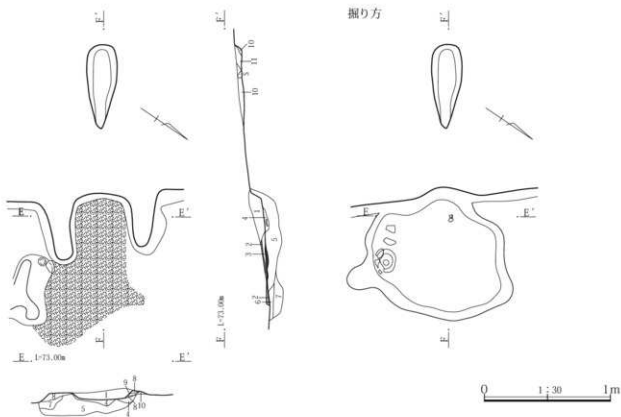


貯蔵穴

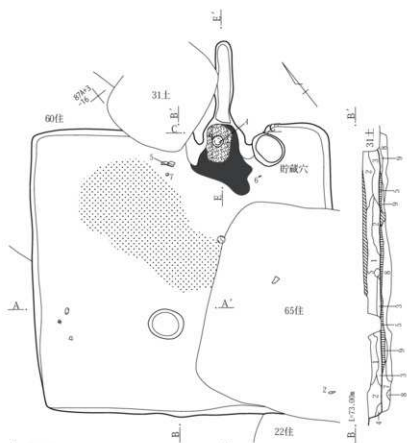
- 1 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック含む。

カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子多量、灰含む。
- 2 焼土+灰
- 3 暗褐色土 灰含む。
- 4 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム多量、焼土粒子含む。
- 6 暗褐色土+ローム 灰床。
- 7 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 8 褐色土
- 9 黒褐色土 焼土粒子含む。
- 10 暗褐色土 焼土粒子含む。
- 11 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。



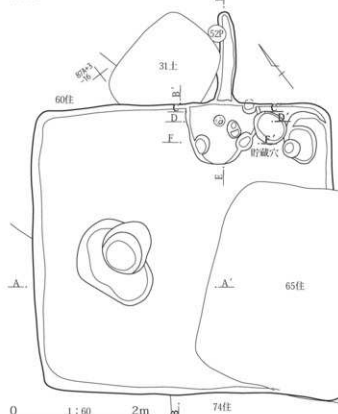
第83図 1区63号住居(2)



- 1 暗褐色土 ローム粒子多量を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 4 黄褐色土
- 5 暗褐色土+ローム 貼床。
- 6 黄褐色土 暗褐色土含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 8 暗褐色土 ロームごく多量を含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。



掘り方



第84図 1区64号住居(1)

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居覆土、5～7層は貼床、8・9層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ7～20cmを測る。

**遺物** 床面の北西隅から礫、また南西隅からこも編み石が出土。土師器の杯と甕、須恵器の蓋が出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀後半代に比定される。

**67号住居**(第88図、P.L.36)

**位置** 86S-17・18グリッド、17・72号住居と重複している。72号住居を壊し、17号住居に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-18°-E

**規模** 面積6.75㎡、長辺(北東～南西)2.75m、短辺(北西～南東)2.63m、残存壁高は10～29cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

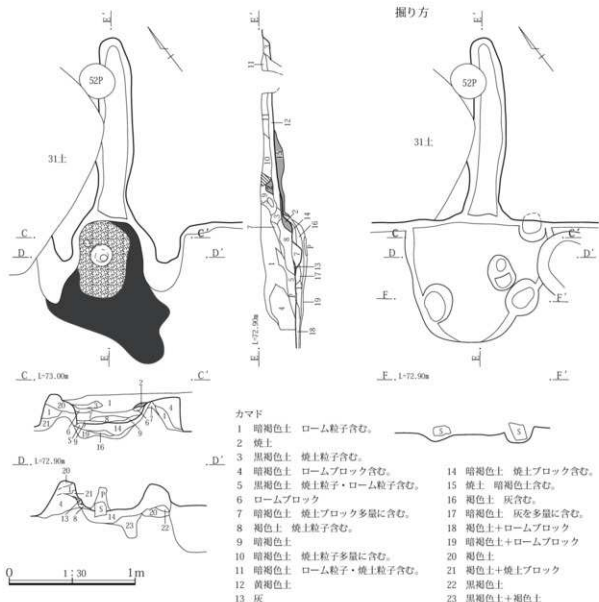
**カマド・炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。





第85図 1区64号住居(2)

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～6層は住居覆土、7層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 南壁下から西壁下にかけて掘り下げられているが浅い。深さ3～8cmを測る。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 不明。

68号住居(第89・259図、P.L.35)

**位置** 86R-17・18グリッド、66・72号住居と重複している。72号住居を壊し、66号住居に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位不明。

**規模** 面積7.58㎡、長辺(東西)3.06m、短辺(南北)2.95m、残存壁高は20～37cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。

**カマド・炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

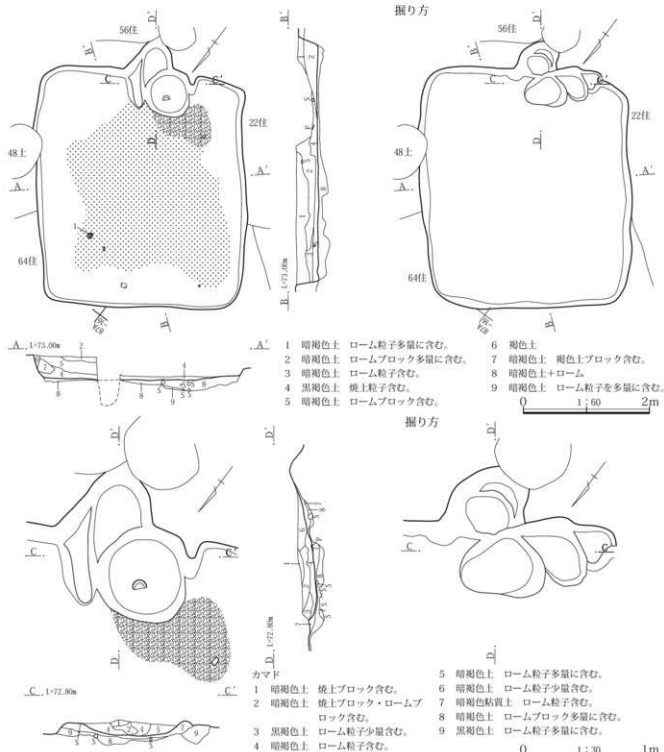
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～7層は住居覆土になる。

**掘り方** 確認できなかった。

**遺物** 覆土中から土師器の杯、甕が出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。



第86図 1区65号住居

69号住居(第90・258図、P.L.37)

**位置** 86S・T-15・16グリッド、22・51・56・62・74号住居、16号溝と重複し、22・51・56・62号住居、16号溝に壊されている。

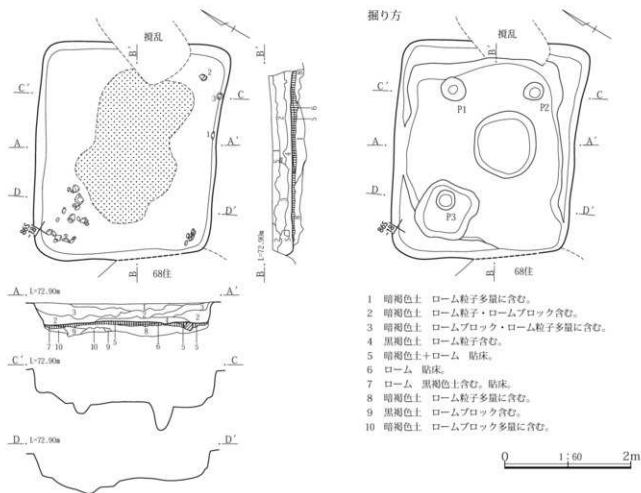
**形状** 重複関係が激しいために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。主軸方位 不明。

**規模** 現状での面積11.47㎡、現状での長辺(北西～南東)4.5m、短辺(北東～南西)4.3m、残存壁高は4cmを測る。

**床面** 貼床でやや凹凸がある。中央部にかけて硬化面が認められる。

**炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。



第87図 1区66号住居

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 検出できなかった。

**掘り方** 全体的に浅い掘り下げが行われている。深さ3～10cmを測る。

**遺物** 遺物はほとんど出土していない。S字状口縁台付甕の台部が出土している。

**時期** 明瞭ではないが4世紀代に比定されるものと思われる。

70号住居(第91・259図、P.L.38・269)

**位置** 86Q-16グリッドに位置している。43号土坑に壊されている。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-57°-E

**規模** 面積2.17㎡、現状での長辺(北西～南東)2.27m、短辺(北東～南西)1.88m、残存壁高は26cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁に設置される。燃燒部は壁を掘り込んで構築されている。長さ83cm、焚き口の幅55cm、袖を含めた幅は80cmである。袖に礫が使用されている。カマド前面に灰の分布が認められた。カマド天井部と袖に礫が多用されている。1層は住居覆土、2・3層はカマド覆土、4・10層は掘り方、5層は貼床、6・8・9・11層は袖になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

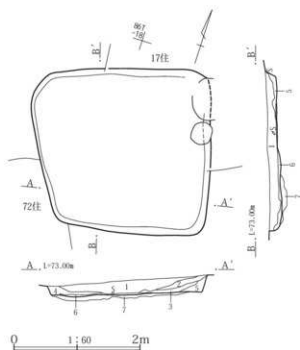
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、4層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ3～10cmを測る。

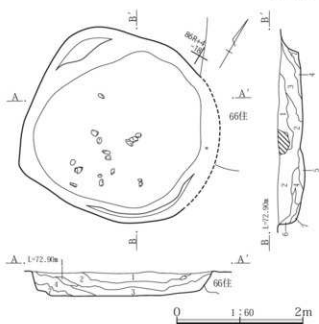
**遺物** カマドから須恵器の杯、羽釜が出土。その他、土師器の甕、須恵器の椀が出土している。

**時期** 出土遺物から10世紀前半代に比定される。



- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。  
 2 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。  
 3 黒褐色土 ローム粒子少量含む。  
 4 暗褐色土 ロームブロック含む。  
 5 暗褐色土 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量含む。  
 6 暗褐色土+ローム  
 7 暗褐色土+褐色土 ローム粒子含む。

第88図 1区67号住居



- 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量含む。  
 2 暗褐色土+ローム大ブロック  
 3 暗褐色土 ローム大ブロック少量含む。  
 4 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。  
 5 暗褐色土 ローム粒子含む。  
 6 黒褐色土 ローム粒子含む。  
 7 黄褐色土

第89図 1区68号住居

71号住居(第92・260図、P.L.38・269)

位置 87B・C-18、87C-19グリッド、53・54号住居と重複している。53・54号住居を壊している。

形状 重複しているために全容は不明であるが、隅丸方

形を呈するものか。主軸方位 N-57°-E

規模 現状での面積5.72㎡、現状での長辺(北西～南東)3.15m、短辺(北東～南西)1.93m、残存壁高はほとんど確認できなかった。

床面 部分的に検出された。硬化面は認められなかった。  
 カマド 東壁の北隅に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ135cm、幅26cmである。1～4層はカマド覆土になる。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 確認できなかった。

掘り方 確認できなかった。

遺物 カマド周辺から出土。土師器の甕、須恵器の椀、甗が出土している。

時期 出土遺物から10世紀第1四半期に比定される。

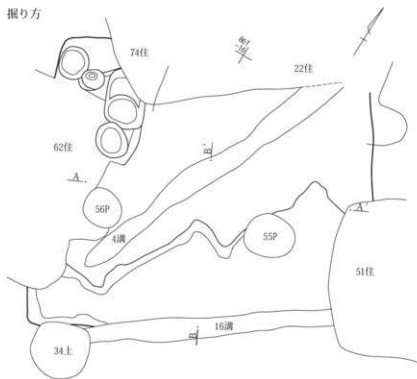
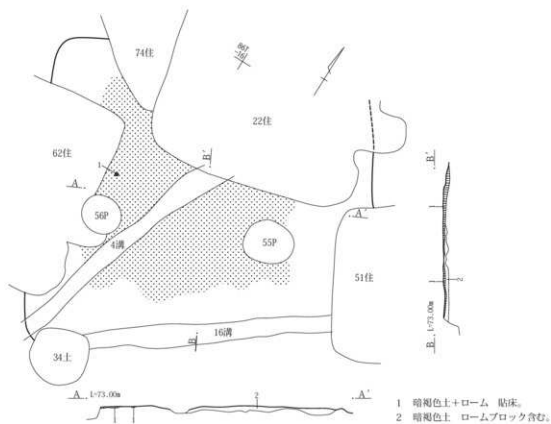
72号住居(第93・259図、P.L.38・269)

位置 86S-17、86R・S-18グリッド、66～68号住居、21号溝と重複し、壊されている。

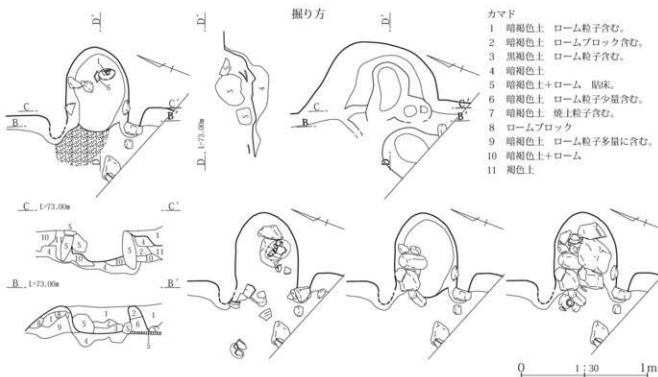
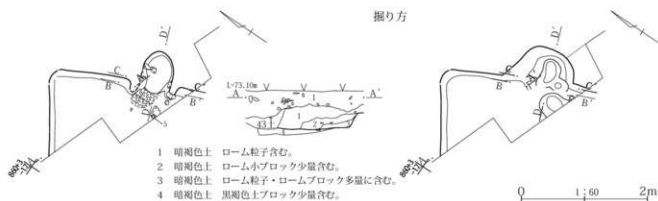
形状 方形を呈する。主軸方位 N-27°-W

規模 推定面積は13.82㎡、長辺(北東～南西)4.59m、短辺(北西～南東)4.28m、残存壁高は2～14cmを測る。

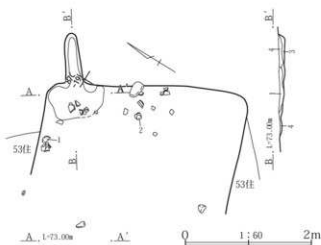
床面 ほぼ平坦である。炉の東から北にかけて灰の分布



第90図 1区69号住居



第91図 1区70号住居



第92図 1区71号住居

が認められた。硬化面は認められなかった。

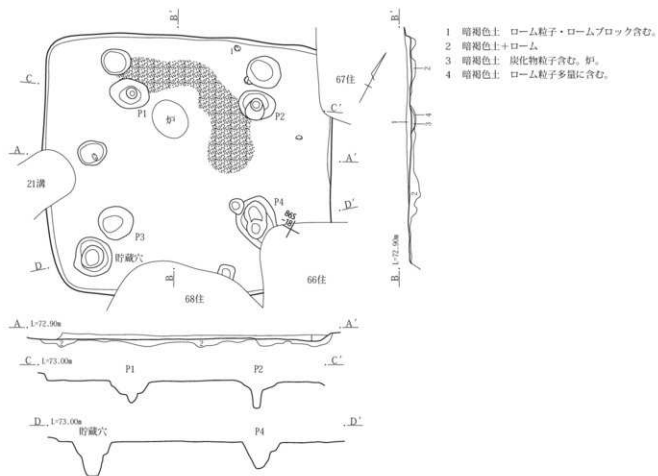
如 床面の中央部からやや西、P 1 に近接する。長径 54cm・短径52cm・深さ6cmを測る。

貯蔵穴 床面の南隅でP 3 に近接して検出された土坑が、貯蔵穴になるものと思われる。長径64cm・短径63cm・深さ34cmの楕円形を呈する。

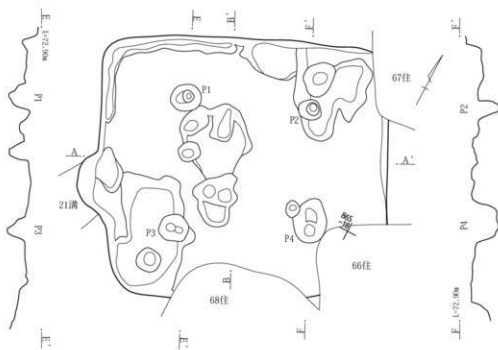
柱穴 P 1～P 4 の4基は主柱穴になるものと思われる。P 1 は長径63cm・短径46cm・深さ34cm、P 2 は長径59cm・短径47cm・深さ44cm、P 3 は長径55cm・短径53cm・深さ41cm、P 4 は長径82cm・短径63cm・深さ43cmを測る。いずれのピットも深い。P 1～P 2 間距離2m、P 2～P 4 間距離は2m、P 1～P 3 間距離2.1m、P 3～P 4 間距離は2.25mである。

周囲 掘り方調査時に北壁から西壁下の一部、住居北西

第4章 発掘調査の記録

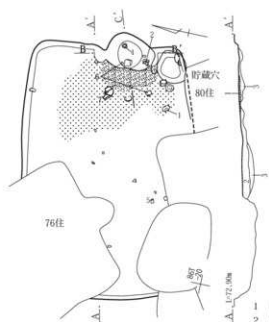


掘り方

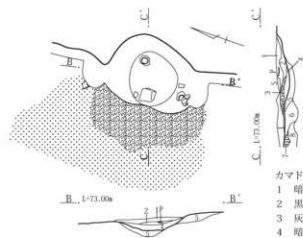
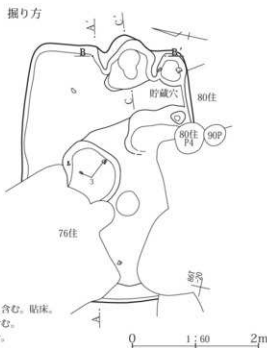


0 1:60 2m

第93図 1区72号住居

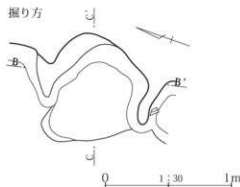


- 1 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。貼床。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 3 褐色土 ロームブロック含む。



カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 2 黒褐色土 黒色灰多量に含む。
- 3 灰
- 4 暗褐色土 ローム小ブロック含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック含む。



- 6 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 7 暗褐色土+ローム 貼床。
- 8 黄褐色土

第94図 1区73号住居

隅で検出された。幅10～18cm、深さ1～7cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1層は住居覆土、2層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り込みは浅い。深さ3～13cmを測る。

**遺物** 床面から散漫的に出土。埴は北壁下、器台、S字状口縁台付甕、壺が出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

73号住居(第94・260図、P.L.39・269)

**位置** 86T-19・20グリッド、76・80号住居と重複している。80号住居を壊し、76号住居に壊されている。

**形状** 隅丸長方形を呈する。主軸方位 N-77°-E

**規模** 現状での面積は6.56㎡、長辺(北東～南西)4.15m、短辺(北西～南東)2.46m、残存壁高は6～12cmを測る。

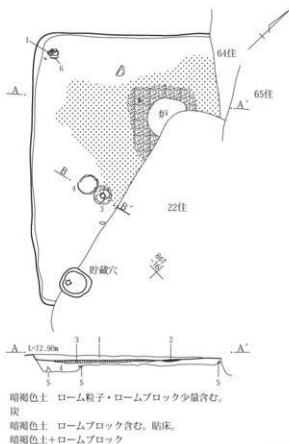
**床面** やや凹凸がある。カマド前面に硬化面が認められる。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ90cm、焚き口の幅70cm、袖を含めた幅は100cmである。カマド前面には灰が分布している。1～4層はカマド覆土、5・6・8層は掘り方、7層は住居の貼床になる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅に構築されている。長径50cm・短径47cm・深さ17cmを測る。

**柱穴** 検出できなかった。





第95図 1区74号住居

周溝 検出できなかった。

埋没土 ほとんど確認できなかった。1層は貼土、2・3層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ3～18cmを測る。

遺物 カマド周辺や床直上から散漫的に出土。土師器の小型甕、甕、須恵器の杯、椀、釘が出土している。

時期 出土遺物から9世紀第4四半期に比定される。

74号住居(第95・261図、P.L.40・270)

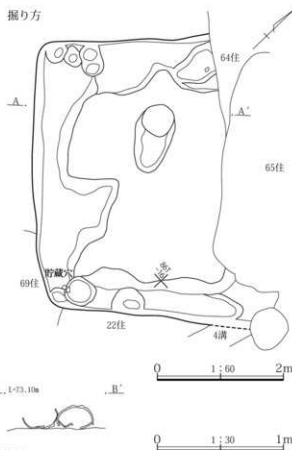
位置 86S・T-16グリッド、22・64・65・69号住居と重複している。22・64・65号住居に壊されている。

形状 重複のために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-46°-W

規模 現状での推定面積は7.63㎡、長辺(北西～南東)4.32m、現状の短辺(北東～南西)2.9m、残存壁高は3～10cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。炉を中心に硬化面が認められる。

炉 床面の中央部からやや北西に位置する。長径52cm・短径50cm・深さ13cmを測る。周囲に灰の分布が認められ



第96図 1区75号住居

る。

貯蔵穴 掘り方調査時に床面の南隅で検出された土坑が貯蔵穴になるものと思われる。長径47cm・短径45cm・深さ41cmの楕円形を呈する。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1層は住居覆土、2層は炉覆土、3層は貼土、4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられているが壁に沿ってやや深くなっている。深さ3～13cmを測る。

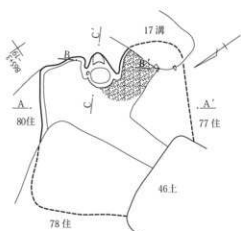
遺物 床直上から2個体の壺が出土。その他、器台、S字状口縁台付甕が出土している。縄文土器片(黒浜・有尾式1点・加曾利E式1点)2点が出土。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。

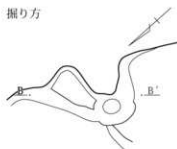
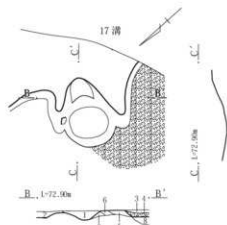
75号住居(第96・259図、P.L.41)

位置 86S-19グリッド、77・80号住居、46号土坑、17号溝と重複している。77・80号住居を壊し、46号土坑、17号溝に壊されている。

形状 重複関係のために全容は不明であるが、隅丸長方



- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。  
 2 暗褐色土+ローム  
 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック  
 多量に含む。  
 4 黒褐色土 ロームブロック多量に含む。  
 5 暗褐色土 ローム粒子・大礫含む。



第96図 1区75号住居

形を呈するものと思われる。主軸方位 N-125°-E  
**規模** 現状での面積は5.25㎡、長辺(北西～南東)2.47m、短辺(北東～南西)2.35m、残存壁高は4～13cmを測る。  
**床面** 部分的な検出であるが、ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁の中央からやや北よりに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ55cm、焚き口幅40cm、袖を含めた幅は65cmである。カマド前から南側にかけて灰が分布している。1層はカマド覆土になる。

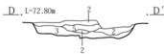
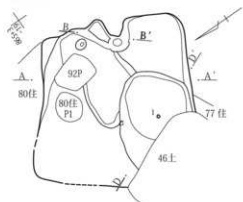
**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** ほとんど確認できなかった。1層は住居覆土、2～4層は掘り方充填土になる。

掘り方



カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。  
 2 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。  
 3 暗褐色土 ローム粒子・灰含む。  
 4 暗褐色土 灰多量に含む。  
 5 褐色土  
 6 暗褐色土  
 7 褐色土 焼土粒子含む。  
 8 暗褐色土 ロームブロック含む。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ15～27cmを測る。

**遺物** 覆土中から少量の土器片が出土。須恵器の椀が出土している。ただし80号住居の出土遺物は当住居に伴うものと考えられる。縄文後期の土偶も出土。

**時期** 出土遺物から10世紀前半代に比定されるものと思われる。

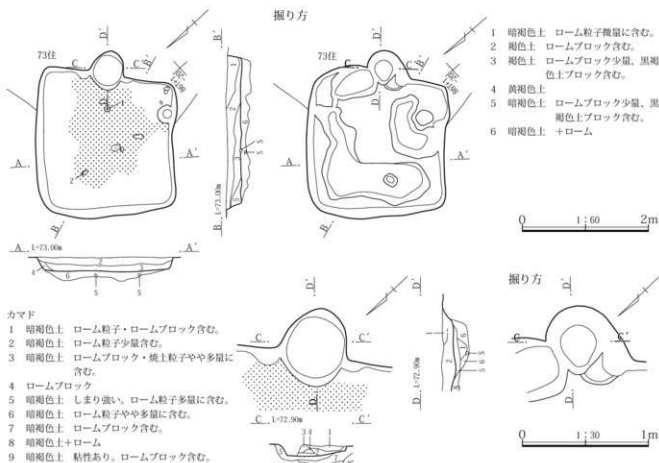
76号住居(第97・261図、P.L.42)

**位置** 86T-19・20グリッド、73号住居と重複し、壊している。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-132°-E

**規模** 面積4.99㎡、長辺(北西～南東)2.35m、短辺(北東～南西)2.17m、残存壁高は7～25cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。カマド前から床面中央にかけ



第97図 1区76号住居

て硬化面が認められる。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ62cm、焚き口の幅52cmである。1～4層はカマド覆土、5～8層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土、6層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ5～14cmを測る。

**遺物** 覆土中から散漫的に出土。須恵器の椀と甕が出土している。

**時期** 出土遺物から10世紀代に比定される。

77号住居(第98・262図、P.L.42・270)

**位置** 86R・S-19グリッド、75・80号住居、46号土坑、17号溝と重複している。80号住居を壊し、75号住居、46

号土坑、17号溝に壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-72°-E

**規模** 面積9.38㎡、長辺(北西～南東)3.25m、短辺(北東～南西)2.9m、残存壁高は8～15cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。カマドの前年から床面中央部にかけて硬化面が認められる。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ70cm、幅40cm、袖を含めた幅は70cmである。支脚の礎が残されていた。1～4層はカマド覆土、8・9層は袖、5～7層は掘り方になる。

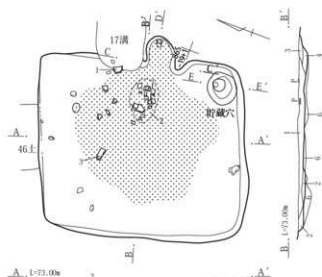
**貯蔵穴** 床面の南東隅に位置している。長径53cm・短径46cm、深さ42cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居の覆土、6層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ2～



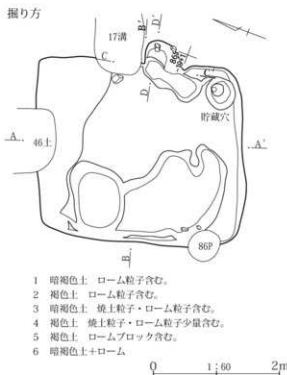
- 貯蔵穴
- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。
  - 2 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
  - 3 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。



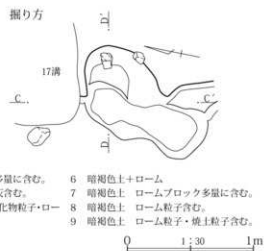
カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量に含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・灰含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子含む。
- 4 灰
- 5 暗褐色土 灰含む。
- 6 暗褐色土+ローム
- 7 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。

第98図 1区77号住居



- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 2 褐色土 ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・ローム粒子含む。
- 4 褐色土 焼土粒子・ローム粒子少量含む。
- 5 褐色土 ロームブロック含む。
- 6 暗褐色土+ローム



10cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** カマド前面から土師器の甕が出土。須恵器の杯、平瓦が出土している。その他、時期不明の縄文土器片1点が出土。

**時期** 出土遺物から9世紀後半に比定される。

80号住居(第99・262図、P.L.42・43・270)

**位置** 86S・T-19・20グリッド、73・75・77号住居、46・51号土坑と重複し、壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-25°-W

**規模** 現状の推定面積は25.9m、長辺(北東～南西)5.35

m、短辺(北西～南東)5.02m、残存壁高は7～14cmを測る。

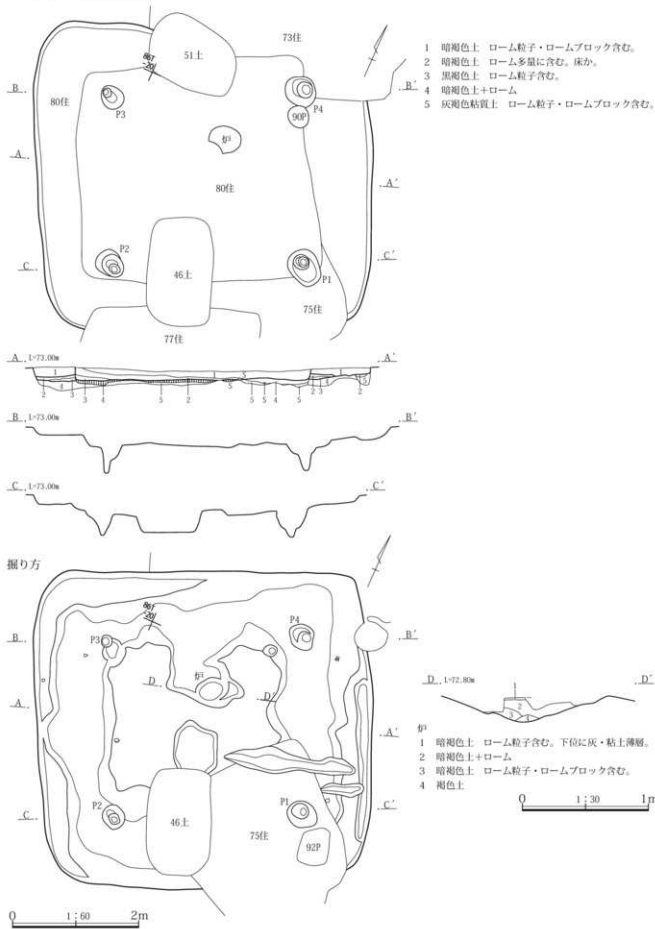
**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**炉** 床面の中央部からやや北東に位置する。長径48cm・短径35cm・深さ3cmを測る。

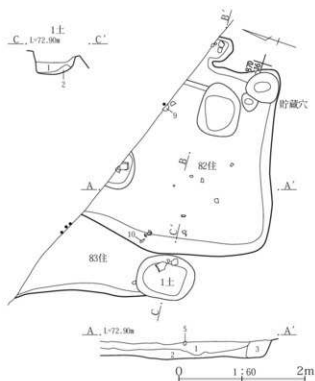
**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** P1～P4の4基のビットは主柱穴になるものと思われる。P1は長径60cm・短径48cm・深さ45cm、P2は長径48cm・短径37cm・深さ40cm、P3は長径40cm・短径33cm・深さ46cm、P4は長径52cm・短径47cm・深さ35cmを測る。P1～P2間距離3m、P2～P3間距離

第4章 発掘調査の記録

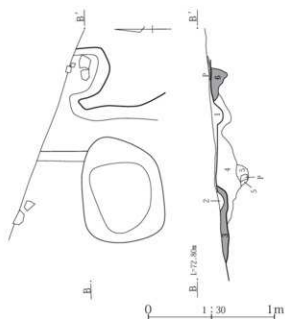


第99図 1区80号住居



82号住居

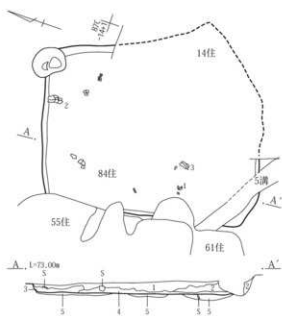
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり。ローム粒子を多量に、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、炭化物を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。



82号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、灰を多量に、焼土粒子を含む。
- 2 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。灰、焼土粒子を多量に含む。
- 3 赤褐色土 やや硬くしまり。焼土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、焼土粒子、炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土ブロック、炭化物粒子を少量含む。
- 6 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを多量に、ローム粒子、炭化物粒子を含む。

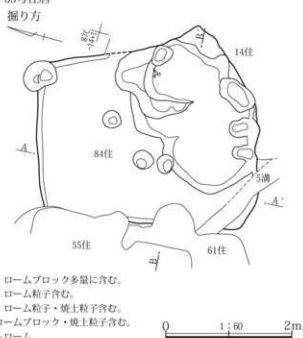
第100図 1区82・83号住居



第101図 1区84号住居

2.8m、P3-P4間距離3.15m、P4-P1間距離は2.75mである。

周溝 掘り方調査時に東壁下の一部で検出された。幅7



- 1 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。
- 4 褐色土 ロームブロック・焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土+ローム

～20cm、深さ18cmを測る。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、4層は掘り方充填土、5層は周溝覆土になるものと思わ

れる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。主柱穴の外周をやや深く掘り下げている。深さ4～15cmを測る。

**遺物** 覆土から散漫的に出土。土師器の台付甕、須恵器の椀、羽釜、鎌が出土しているが、これらの遺物は当住居に伴うものではなくて75号住居に伴うものであろう。

**時期** 4世紀代に比定されるものと思われる。

82号住居(第100・263図、P.L.44・270)

**位置** 87D-15、87C-D-16グリッド、83号住居と重複し、19号住居に接している。83号住居を壊している。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-82°-E

**規模** 現状での面積は6.62㎡、長辺(北東～南西)2.97m、現状での短辺(北西～南東)2.65m、残存壁高は7～27cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ147cmを測る。1～3層はカマド覆土、4～6層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅から検出された。長径52cm・短径50cm・深さ17cmを測る。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土になる。

**掘り方** ほとんど検出することはできなかった。

**遺物** カマドや覆土中から土器が出土。土師器の杯、甕、須恵器の杯、椀が出土している。

**時期** 出土遺物から9世紀第4四半期に比定される。

83号住居(第100・262図、P.L.44)

**位置** 87D-16グリッド、82号住居と重複し、壊されている。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明である。

**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積は2.24㎡である。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。土坑1基が検出された。長径90cm・短径71cm・深さ37cmを

測る。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** ほとんど確認することはできなかった。

**掘り方** ほとんど確認することはできなかった。

**遺物** 土坑からわずかに出土。須恵器の甕が出土している。

**時期** 明瞭ではないが、9世紀後半代に比定されると思われる。

84号住居(第101・263図、P.L.45)

**位置** 87B-C-14グリッド、14・55・61号住居と重複し、壊されている。

**形状** 重複関係のために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**規模** 現状での面積は9.2㎡、長辺(北西～南東)3.45m、短辺(北東～南西)2.75m、残存壁高は13～30cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

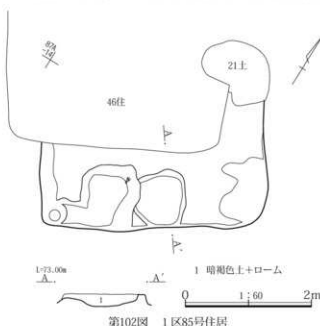
**カマド・炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

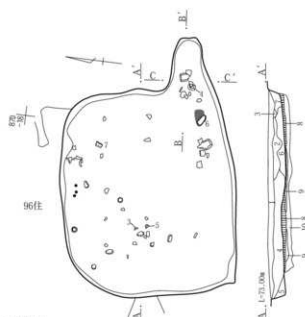
**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられるが、1層は人為的埋没の可能性もある。1～4層は住居覆土、5層は掘り方充



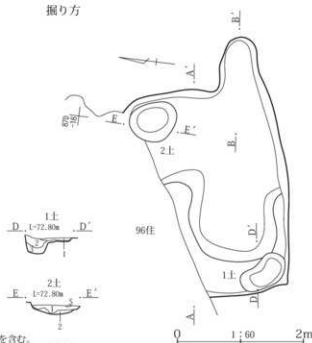
第102図 1区85号住居



86号住居

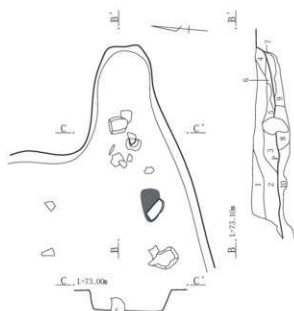
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、灰を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色の軽石、焼土粒子、炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。鼠床。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを少量含む。
- 10 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

掘り方



1土坑

- 1 黄褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。
  - 2 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
  - 3 黒褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 2土坑
- 1 茶褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
  - 2 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。灰を多量にローム粒子を少量含む。

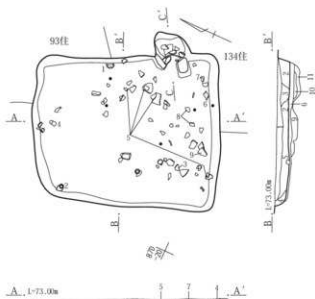


カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、灰を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、白色軽石を含む。
- 6 赤褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土を多量に含む。
- 7 褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子を多量に炭化物を含む。
- 8 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 9 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。灰を多量に、ローム粒子、焼土粒子を含む。

第103図 1区86号住居





87号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックをやや多く含む。
- 5 黄褐色土 硬くしまる。ロームと暗褐色土の混土。貼床。



第104図 1区87号住居

填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ3～10cmほどである。

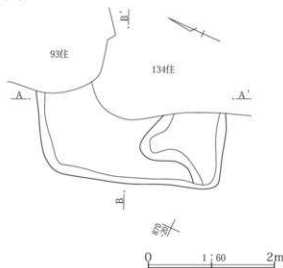
**遺物** 覆土中から散発的に出土。土師器の台付甕の脚部、甕が出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式1点・時期不明1点)2点が出土。

**時期** 出土遺物から9世紀第2四半期に比定される。

85号住居(第102図、P.L.45)

**位置** 86T・87A-13グリッド、46号住居、21土坑と重複し、壊されている。

掘り方



- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子、炭化物を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 9 暗褐色土 やや硬い。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。
- 10 黄白色土 やや硬くしまる。暗褐色土を少量含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子を多量に含む。
- 12 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土、焼土ブロックを含む。

カマド

- 1 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体で焼土ブロックを含む。
- 2 焼土層
- 3 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体の層。カマド構築材。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土ブロック、白色軽石を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。白色軽石を少量含む。
- 9 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土ブロックを少量含む。
- 10 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ロームブロックと暗褐色土の混土。

**形状** 重複関係のために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。主軸方位 不明。

**規模** 現状での面積5.03㎡、現状での長辺(北東～南西)3.57m、短辺(北西～南東)2.17m、残存壁高は3～18cmを測る。

**床面** ほとんど検出できなかった。

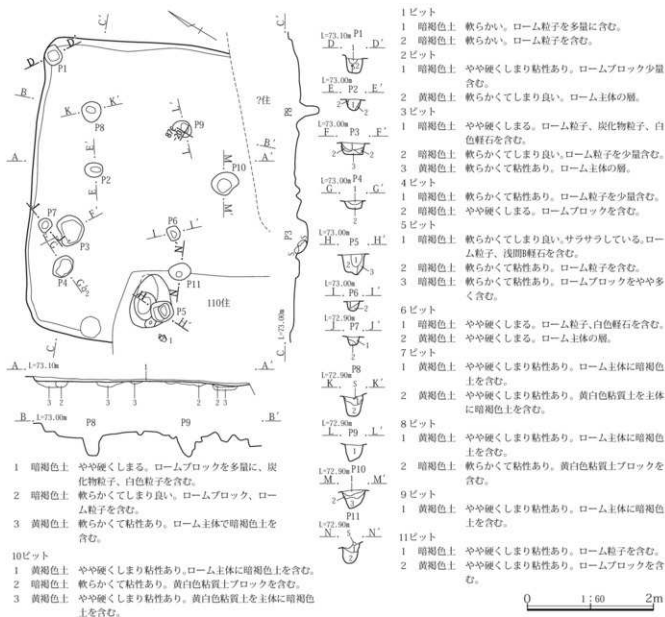
**竈** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 確認できなかった。



**掘り方** 部分的に掘り下げられている。

**遺物** 台付甕の脚部1点が掘り方から出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

86号住居(第103・263・264図、P.L.46・54・80・270)

**位置** 87C-17・18グリッド、96・134号住居と重複し、壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-83°-E

**規模** 面積は8.8m<sup>2</sup>、長辺(東西)3.32m、短辺(南北)2.76m、残存壁高は12~30cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁の南隅に設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ100cm・焚き口部の幅70cm・

深さ14cmを測る。1~7層はカマド覆土、8層は支脚の礎を固定させるための充填土、9・10層は掘り方充填土になる。

**貯蔵穴** 床面の北東隅から検出された土坑2が貯蔵穴になるものと考えられたが、その検出位置から判断するとこの土坑は96号住居の貯蔵穴になる可能性が大となった。このために当住居の貯蔵穴は検出されていない。

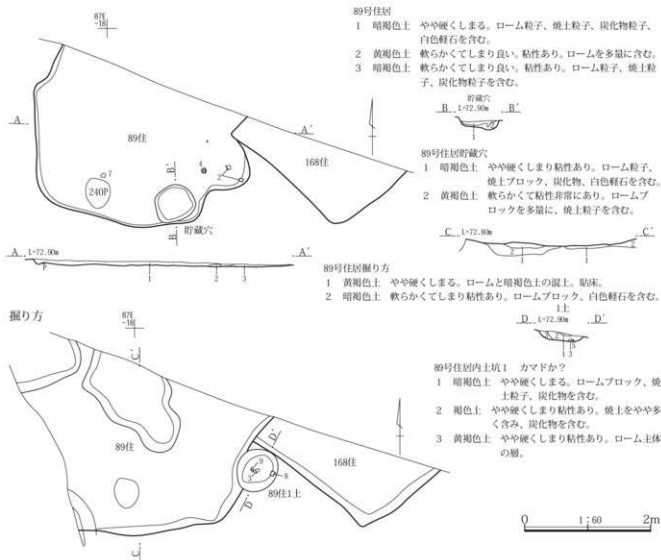
**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土である。1~7層は住居土、8層は貼床、9・10層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ5~15cmを測る。床面の南西隅から土坑1基が検出された。長径

第4章 発掘調査の記録



第106図 1区89・168号住居

80cm・短径43cm・深さ27cmの楕円形を呈する。覆土は1層である。

**遺物** カマドとその周辺の覆土中から、須恵器の椀と羽釜、このほか土師器の鉢、須恵器の杯、椀が出土している。(1)の土師器鉢は混入と思われる。

**時期** 出土遺物から10世紀第2四半期に比定される。

87号住居(第104・264図、P.L.47・80・270)

**位置** 87C・D-19グリッド、93・134号住居と重複し、93・134号住居を壊している。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-67°-E

**規模** 面積は7.08㎡、長辺(北西～南東)2.97m、短辺(北東～南西)2.35m、残存壁高は13～23cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁中央から南寄りに設置される。燃焼部は壁

を掘り込んで構築されている。長さ80cm・焚き口部の幅20cm・深さ16cmを測る。須恵器の裏口縁部が出土している。1～8層はカマド覆土、2層は焼土、9・10層は掘り方充墳土になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

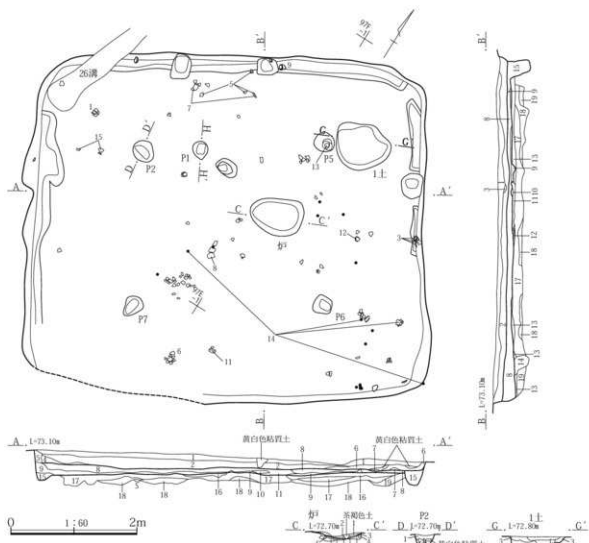
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土である。1～4層は住居覆土、5層は貼床、6～12層は掘り方充墳土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ3～23cmを測る。

**遺物** カマドから須恵器の裏、覆土中や床直上から須恵器の椀、甕が出土している。(4)のS字状口縁台付甕の台部は134号住居の遺物になるものである。

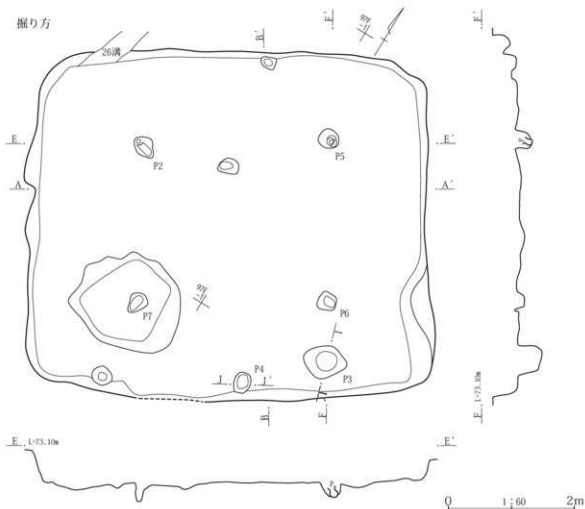
**時期** 出土遺物から9世紀代に比定される。



- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を多量に含む。
  - 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
  - 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。炭化物を多量に含む。
  - 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
  - 5 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを多量に含む。
  - 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含む。
  - 7 黒褐色土 軟らかい。灰、炭化物を含む。
  - 8 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。粘床。
  - 9 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
  - 10 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。
  - 11 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
  - 12 灰
  - 13 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームと暗褐色土の混上。
  - 14 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
  - 15 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
  - 16 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを主体に、暗褐色土を含む。
  - 17 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混上。
  - 18 黒褐色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を少量含む。
  - 19 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。(掘り方ク土)
- 住居内土坑1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
  - 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石、炭化物粒子を含む。
  - 3 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体で暗褐色土を含む。
  - 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。

- ピット 1
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。
  - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- ピット 2
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
  - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- ピット 3
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を含む。
  - 2 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土と暗褐色土の混上。
- ピット 4
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。
  - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。
- H-H' 1-1, 1-72.6m
- I-I' 1-1, 1-72.6m
- J-J' 1-1, 1-72.70m
- K-K' 1-1, 1-72.8m
- L-L' 1-1, 1-72.90m
- M-M' 1-1, 1-72.90m
- N-N' 1-1, 1-72.90m
- O-O' 1-1, 1-72.90m
- P-P' 1-1, 1-72.90m
- Q-Q' 1-1, 1-72.90m
- R-R' 1-1, 1-72.90m
- S-S' 1-1, 1-72.90m
- T-T' 1-1, 1-72.90m
- U-U' 1-1, 1-72.90m
- V-V' 1-1, 1-72.90m
- W-W' 1-1, 1-72.90m
- X-X' 1-1, 1-72.90m
- Y-Y' 1-1, 1-72.90m
- Z-Z' 1-1, 1-72.90m
- が<sup>1</sup>
- 1 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームを主体に焼土を含む。
  - 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。灰を多量に炭化物、焼土粒子を含む。
  - 3 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土主体の層。
  - 4 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体の層。(掘り方ク土)
  - 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロックを含む。(掘り方ク土)

第107図 1区90号住居(1)



第108図 1区90号住居(2)

88号住居(第105・265図、P.L.48・49)

位置 87B・C-19・20グリッド、53・110号住居と重複している。53号住居に壊されている。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-63°-E

規模 面積は14.78㎡、長辺(北東～南西)4.77m、短辺(北西～南東)3.82m、残存壁高は4～14cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

貯蔵穴 明確な貯蔵穴は検出できなかったが、P3・P5・P10のいずれかが、その位置関係から貯蔵穴になる可能性がある。P3は長径45cm・短径38cm・深さ16cm、P5は長径35cm・短径33cm・深さ32cm、P10は長径44cm・短径36cm・深さ26cmを測る。

柱穴 ビットは総計11基検出されたが、このうちP4・P8・P9・P11の4基が柱穴になるものと思われる。

る。P4は長径38cm・短径29cm・深さ13cm、P8は長径33cm・短径30cm・深さ31cm、P9は長径30cm・短径25cm・深さ22cm、P11は長径35cm・短径25cm・深さ31cmを測る。P4-P8間距離2.5m、P8-P9間距離は1.5m、P9-P11間距離2.3m、P11-P4間距離は1.9mである。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1層は住居覆土、2～3層は掘り方充填土になる。

掘り方 部分的に掘り下げられている。深さ3～10cmを測る。

遺物 床直上からS字状口縁台付裏や裏の底部片が出土している。ただし(1)のS字状口縁台付裏は110号住居に伴う可能性もある。その他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。

## 89号住居(第106・265図、P.L.49・270)

**位置** 87D-17・18グリッド、135・168号住居と重複し、135・168号住居を壊している。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-90°-E

**規模** 現状での面積は6.95㎡、長辺(東西)3.38m、現状での短辺(南北)2.48m、残存壁高は1~12cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ70cm・幅63cm・深さ17cmを測る。1~3層はカマド覆土になる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅から検出された。長径62cm・短径57cm・深さ17cmを測る。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** ほとんど確認できなかった。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ3~20cmを測る。

**遺物** カマド周辺から須臾器の皿、椀、土師器の甕が出土している。(10)の土師器の器台や(11)の甕は134・135号住居に伴うものであろう。(1)の土師器杯は7世紀代の遺物である。敲石も出土している。

**時期** 出土遺物から9世紀第4四半期に比定される。

## 168号住居(第106・306図、P.L.105)

**位置** 87D-17グリッド、89号住居と重複し、壊されている。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明である。  
**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での長辺(北西~南東)2.5m、現状での短辺(北東~南西)1.4m、残存壁高は確認できなかった。

**床面** やや凹凸がある。

**カマド** 検出できなかった。硬化面は確認できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** ほとんど確認できなかった。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ7~9cmを測る。

**遺物** 少量の土器片が出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

## 90号住居(第107・108・265・266図、P.L.49・50・271)

**位置** 87D-E-20,97D-E-1グリッド、91号住居と重複し、壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。**主軸方位** N-30°-E

**規模** 現状での面積は34.03㎡、長辺(北東~南西)6.23m、短辺(北西~南東)5.5m、残存壁高は11~18cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的にやや硬化が認められる。

**貯蔵穴** 床面の中央部からやや東に位置する。長径85cm・短径58cm・深さ7cmを測る。焼土・灰を含んでいる。

**貯蔵穴** 床面の南東でP6に近接して検出されたP3が貯蔵穴になるものと思われる。長径57cm・短径50cm・深さ30cmの楕円形を呈する。

**柱穴** P2・P5~P7は主柱穴になるものと思われる。P2は長径40cm・短径30cm・深さ25cm、P5は長径33cm・短径30cm・深さ30cm、P6は長径30cm・短径28cm・深さ20cm、P7は長径36cm・短径30cm・深さ27cmを測る。P5内から土器が出土している。P2-P5間の距離3m、P5-P6間距離2.55m、P6-P7間距離3m、P7-P2間距離は2.5mである。北壁の中央部分から検出されたビット2基はその位置関係から対になるものと思われる。

**周溝** 東壁下の北半分から北壁下、西壁下にかけて検出された。幅6~21cm、深さ3~6cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1~7層は住居覆土、8層は貼床なる。9~19層は掘り方充填土になると思われるが、9層下にもう一面床が存在していた可能性がある。

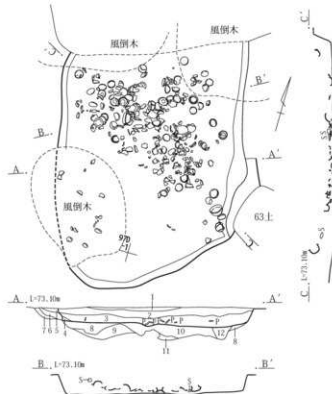
**掘り方** 全体的に掘り下げている。深さ13~34cmを測る。

**遺物** 覆土中や床直上から土器が出土している。土師器の埴は東壁下、高杯は北壁周辺、(13)の台付甕はP5内からの出土である。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

## 91号住居(第109・110・266~271図、P.L.51・271~274)

**位置** 87C-D-20,97C-D-1グリッド、90号住居と重複し、



第109図 1区91号住居

壊している

**形状** 風倒木のために不明瞭であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-17°-W

**規模** 面積は10.39㎡、現状での長辺(南北)3.2m、短辺(東西)2.8m、残存壁高は18~30cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と思われる。1~7層は住居覆土、8~11層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ18~26cmを測る。

**遺物** 覆土中から多量に土器と礫が出土。完形やほぼ完形の土師器杯で86個体以上が一括廃棄された状態で出土している。その他、鉢、高杯、甕は9個体、須恵器の蓋、砥石などが出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

92号住居(第111~113・272図、P.L.51・274・275)

**位置** 97D・E-2・3グリッド、94号住居と重複し、壊し

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色軽石を多量に、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に、白色軽石を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくしまり良い。粘性あり。ロームを含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。白色軽石、ローム粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石は上層より少ない。
- 7 暗褐色土 軟らかくしまり良い。ロームブロックを含む。
- 8 黄褐色土 やや硬い。ロームブロックと暗褐色土の混上。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックをやや多く含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、灰、炭土粒子を含む。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロックを含む。

0 1:60 2m

ている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-35°-W

**規模** 面積は23.76㎡、長辺・短辺ともに4.9m、残存壁高は35cmを測る。

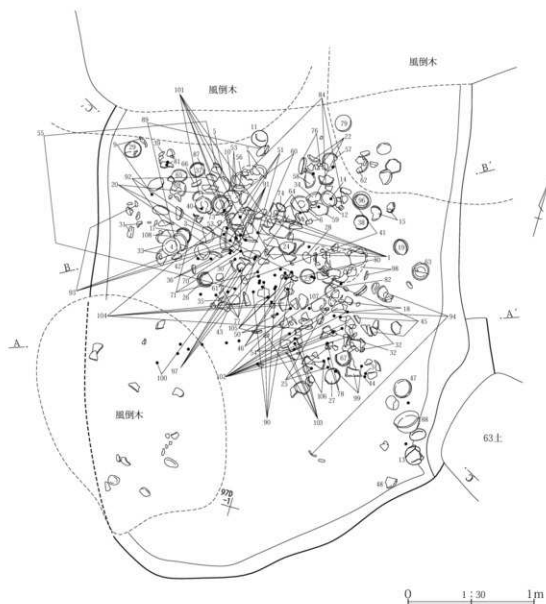
**床面** ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

**カマド** 北壁の中央からやや西寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ85cm・焚き口部の幅50cm・袖を含めた幅108cm・深さ20cmを測る。1~8層はカマド覆土、3層は焼土、4・8層は灰になる。9~11層は掘り方充填土になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 主柱穴4基が検出された。P1は長径28cm・短径25cm・深さ18cm、P10は長径30cm・短径26cm・深さ35cm、P8は長径20cm・短径18cm・深さ30cm、P9は長径23cm・短径21cm・深さ30cmを測る。P1-P10間の距離は2.43m、P10-P8間の距離2.62m、P8-P9間の距離2.32m、P9-P1間の距離2.5mである。南壁のほぼ中央から検出されたP4とP5は住居出入口の施設になる可能性がある。P4は長径26cm・短径25cm・深さ22cm、P5は長径32cm・短径26cm・深さ25cmである。

**周溝** 床面の出入口部から東隅で途切れているが、全周



第110図 1区91号住居遺物出土状況

していたものと思われる。幅8～25cm、深さ2～15cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土である。1～9層は住居覆土、10層は貼床、11～13層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ10～21cmを測る。

**遺物** 覆土上層、とくに北東部分から土器や礫がまとまって出土している。こも編み石16点のうち5点はP10周辺からまとまって出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式3点・時期不明3点)6点が出土。また、馬歯も出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

**94号住居**(第111～113・273図、P.L.52・275)

**位置** 97D-2グリッド、97C・D-3、92・95・98号住居と重複し、壊されている。

**形状** 方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-101°-W

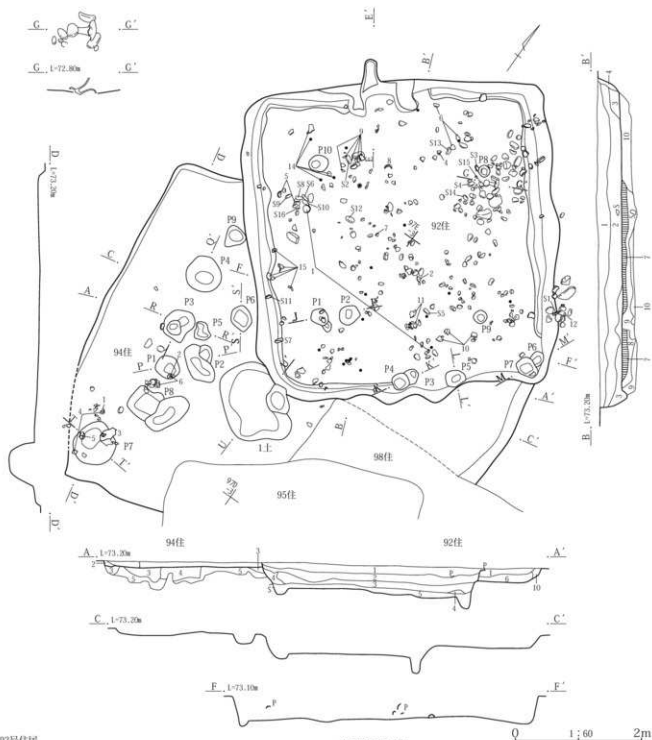
**規模** 面積は15.53㎡、長辺(東西)6.6m、短辺(南北)5.38m、残存壁高は8～20cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**跡** 検出できなかった。床面に明瞭な焼土の堆積は認められなかった。

**貯蔵穴** 床面の南西隅から検出されたP7が貯蔵穴になるものと思われる。長径70cm・短径65cm・深さ40cmを測る。覆土は4層に分かれた。





92号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を多量を含む。
- 4 黄褐色土 軟らかくして粘性非常にあり。ローム主体の層。

94号住居

- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。

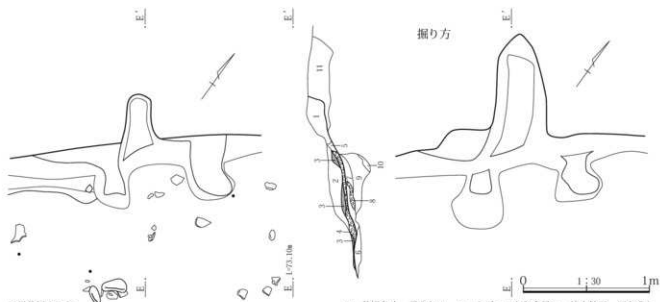
92号住居周り方

- 7 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームと暗褐色土の混土。貼床。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 9 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層。
- 10 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層。上層よりも暗い色調。

94号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 茶褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム主体の層。
- 3 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ロームブロック、白色粒子を含む。
- 4 黄褐色土 軟らかくしてしまり良い。ロームと暗褐色土の混土。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層。暗褐色土を少量含む。

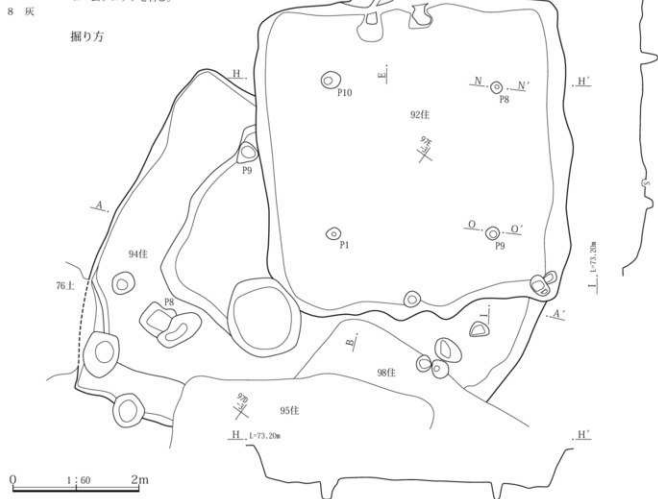
第111図 1区92・94号住居(1)



92号住居カマド

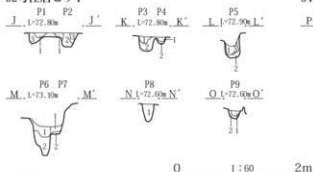
- 1 暗褐色土 やや硬い。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を多量に焼土粒子を含む。
- 3 焼土
- 4 灰 焼土ブロックを含む。
- 5 黄褐色土 軟らかくしまり良い。ローム主体で、焼土粒子を少量含む。
- 6 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体で灰を含む。
- 7 赤褐色土 軟らかくしまり良い。粘性あり。焼土ブロックを多量に、灰、ロームブロックを含む。

- 9 黄褐色土 柔らかい。ロームブロックを多量に、焼土粒子、灰を含む。
- 10 暗褐色土 軟らかい。灰を含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくしまり良い。ロームブロック、焼土粒子を含む。



第112図 1区92・94号住居(2)

92号住居ビット



92号住居

1・2ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。  
 2 暗褐色土 やや硬くしまり良い。ロームブロック、炭化物粒子、白色軽石を含む。  
 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に、焼土粒子を含む。

3ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。  
 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを多量に含む。

4ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。  
 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

5ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。  
 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

6ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。  
 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを多量に含む。

7ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。  
 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

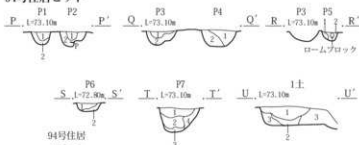
8ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。

9ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。  
 2 黄白色粘質土層 暗褐色土を少量含む。

94号住居ビット



94号住居

1ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。  
 2 黄褐色土 軟らかい。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

2ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。  
 2 黄褐色土 軟らかい。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

3ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。  
 2 黄褐色土 軟らかい。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

4ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。  
 2 黄褐色土 軟らかい。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

5ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。  
 2 黄褐色土 軟らかい。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

6ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。  
 2 黄褐色土 軟らかい。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

7ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。  
 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。

8ピット

- 3 黒褐色土 非常に軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。

9ピット

- 4 暗褐色土 やや硬くしまり、粘性あり。ロームブロックを含む。

10ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。  
 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

11ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを少量含む。  
 2 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。明るい色調。

12ピット

- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。

第113図 1区92・94号住居(3)

**柱穴** 掘り方調査時に主柱穴2基が検出された。P 8は長径75cm・短径42cm・深さ45cm、P 9は長径36cm・短径32cm・深さ23cmを測る。P 8-P 9間の距離は3mである。P 11は長径37cm・短径35cm・深さ20cm、P 2は長径67cm・短径35cm・深さ21cm、P 3は長径50cm・短径45cm・深さ15cm、P 4は長径58cm・短径56cm・深さ15cm、P 5は長径30cm・短径20cm・深さ12cm、P 6は長径36cm・短径33cm・深さ10cmである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土である。1・2層は住居覆土、3～5層は掘り方充填土になる。

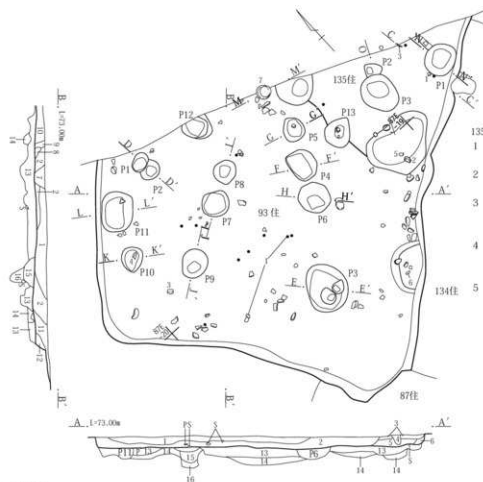
**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ15～35cmを測る。主柱穴に囲まれた範囲はあまり掘り下げられずに周囲を掘り下げている。

**遺物** 床直上から土器片が出土。とりわけP 7周辺からS字状口縁台付甕や埴が出土している。(7・8)は覆土中からの出土であり混入と思われる。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

93号住居(第114・115・272・273図、P L.51・52・80・275)

**位置** 87D・E-19、87E-20グリッド、90号住居の東に接している。



## 135号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 黒褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、炭化物粒子を含む。
- 5 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。

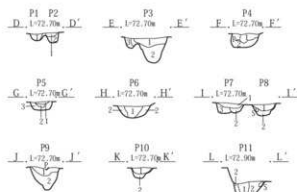
## 93住遺物出土状況



0 1:30 1m

## 93号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、10 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。1層より多量人物少ない。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 4 茶褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームをやや多く含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を少量含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 9 茶褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームを主体に、炭化物を含む。
- 10 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくして粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子を含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくして粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 15 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 16 黄褐色土 軟らかくして粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。



## 93号住居

## 1ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2ピット
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 3ピット
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを多量に、暗褐色土を少量含む。
- 4ピット
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

0 1:60 2m

第114図 1区93・135号住居(1)

#### 第4章 発掘調査の記録

##### 5ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 灰 焼土ブロックを含む。
- 3 灰褐色土 軟らかくしまり良い。灰を多量に焼土ブロックを含む。

##### 6ピット

- 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

##### 7ピット

- 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。

##### 8ピット

- 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

##### 9ピット

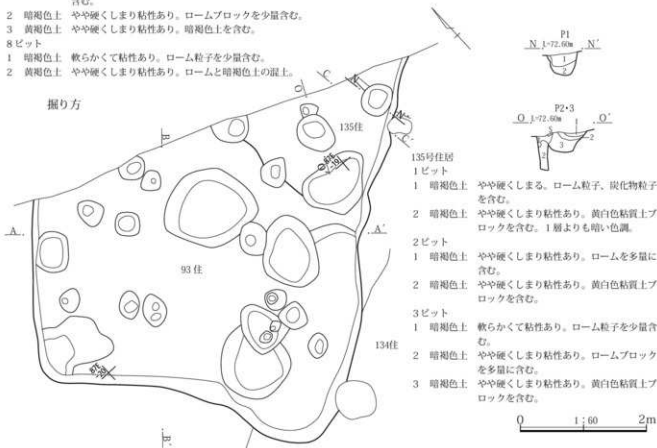
- 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

##### 10ピット

- 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

##### 11ピット

- 1 暗褐色土 非常に軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。



第115図 1区93・135号住居(2)

**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-50°-E

**規模** 現状での面積は23.17㎡、長辺(北西～南東)5.2m、現状での短辺(北東～南西)5m、残存壁高は15～20cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

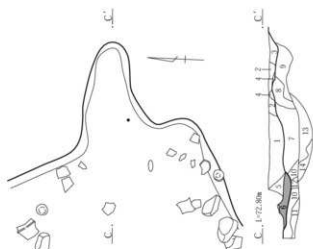
**カマド** 調査区の北壁から土師器の裏が伏せられた状態で出土した。この箇所がカマドになる可能性がある。土師器の裏は袖として使用されたものと思われる。北壁にカマドが設定されたことになる。

**貯蔵穴** 135号住居のP3とした土坑が貯蔵穴になる可能性がある。同住居のP2によって壊されていることもその判断材料になる。長径64cm・短径53cm・深さ32cmを測る。

**柱穴** 主柱穴4基が検出された。P3は長径79cm・短径65cm・深さ40cm、P9は長径47cm・短径40cm・深さ31cm、P12は長径50cm・短径42cm・深さ31cm、P13は長径47cm・短径41cmを測る。P3-P9間の距離2.15m、P9-P12間の距離2.25m、P12-P13間の距離2.25m、P13-P3間の距離は2.6mである。

これ以外のピットは次のとおりである。P1は長径32cm・短径22cm・深さ9cm、P2は長径33cm・短径23cm・深さ18cm、P4は長径50cm・短径42cm・深さ20cm、P5は長径40cm・短径33cm・深さ13cm、P6は長径51cm・短径48cm・深さ22cm、P7は長径43cm・短径43cm・深さ14cm、P8は長径37cm・短径35cm・深さ19cm、P10は長径40cm・短径33cm・深さ9cm、P11は長径64cm・短径49cm・深さ25cmである。

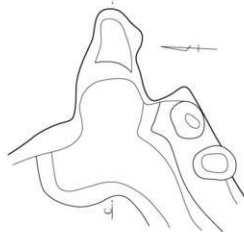




95号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石、炭化物粒子を含む。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子を多量に含む。
- 4 赤褐色土 軟らかくしてしまり良い。焼土を多量に含む。
- 5 褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量に、ローム粒子を含む。
- 6 灰
- 7 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくして粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子を含む。

掘り方



- 9 黄褐色土 軟らかくして粘性あり。ローム主体の層。
- 10 暗褐色土 やや硬くして粘性あり。ロームブロックを含む。
- 11 黄褐色土 軟らかくして粘性あり。黄白色粘質土を主体に、暗褐色土を含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくして粘性あり。焼土ブロック、炭化物を含む。
- 13 褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 14 黄褐色土 軟らかくして粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、炭化物を含む。

第117図 1区95・98号住居(2)

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～12層は住居覆土、13・14層は掘り方充填土になる。15・16層はピットの覆土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さ8～26cmを測る。

遺物 カマド袖に(7)の土師器甕が使用されている。また東壁の中央付近からこも編み石が出土している。この他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

時期 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

135号住居(第114・115・200図、P.L.80)

位置 87E-18・19グリッド、93号住居と重複し、壊されている。

形状 調査区外に延びているために全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 不明。残存壁高は13cmを測る。

床面 やや凹凸がある。

炉 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 ピット2基を検出した。P1は長径54cm・短径48

cm・深さ35cm、P2は長径28cm・短径19cm・深さ58cmである。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1層は住居覆土、2層は貼床、3～5層は掘り方充填土になる。

掘り方 浅く掘り下げられている。深さ7～15cmを測る。

遺物 覆土中からわずかに出土している。S字状口縁台付甕の台部はP1に近接して出土している。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。

95号住居(第116・117・273・274図、P.L.53～55・276)

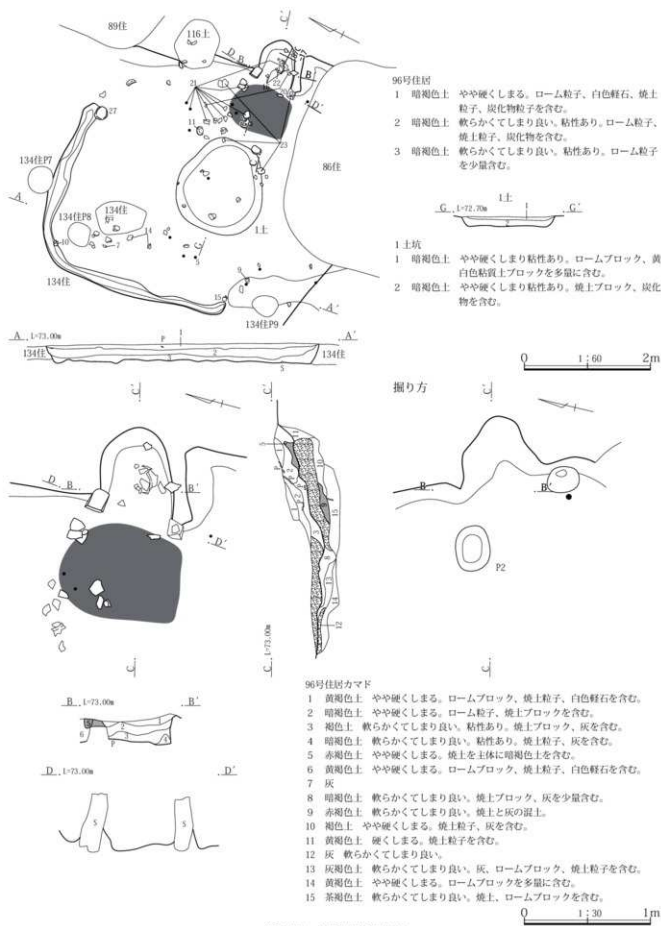
位置 97C-D-2・3グリッド、94・98号住居と重複し、壊している。

形状 長方形を呈する。主軸方位 N-64°-E

規模 面積は11.64㎡、長辺(北東～南西)4m、短辺(北西～南東)2.9m、残存壁高は28～40cmを測る。

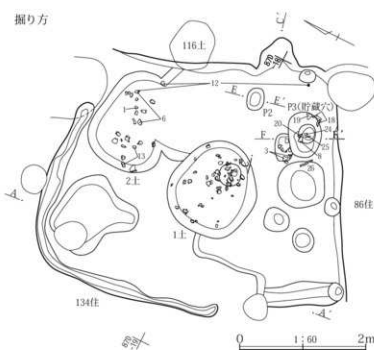
床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁の中央から南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ100cm・焚き口部の幅50cm・深さ12cmを測る。1～6層はカマド覆土、6





掘り方



第119図 1区96号住居(2)



96号住居

2ピット

- 1 暗褐色土 軟らかい。灰、炭化物粒子、焼土粒子、ローム粒子を含む。
  - 2 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3ピット(貯蔵穴)
- 1 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ローム粒子、灰、焼土粒子を含む。
  - 2 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
  - 3 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

層は灰になる。7～14層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 南壁直下のほぼ中央から土坑が検出された。

貯蔵穴になるものと思われる。長径65cm・短径60cm・深さ7cmを測る。覆土は3層に分かれた。

**柱穴** 掘り方調査時にピット2基が検出された。P1は長径33cm・短径30cm・深さ16cm、P2は長径25cm・短径23cm・深さ16cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土である。1～3層は住居覆土、4～7層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ6～18cmを測る。

**遺物** カマドの南西から須恵器の杯、灰軸陶器が出土、また羽釜はやや分散的に、土鍾、巡方も出土している。その他、縄文土器片(称名寺式)2点が出土。

**時期** 出土遺物から10世紀第1四半期に比定される。

98号住居(第116・117・276図、P L.54・55・276)

**位置** 97C・D-2グリッド、94・95・99号住居と重複している。94・99号住居を壊し、95号住居に壊されている。

**形状** 重複関係のために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-90°-E

**規模** 現状での面積は9.08㎡、現状では長辺(東西)4.15

m、短辺(南北)3.9m、残存壁高は20～25cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 床面北東隅から検出された土坑が貯蔵穴になるものと思われる。長径108cm・短径78cm・深さ22cmを測る。覆土は3層に分かれた。

**柱穴** 明瞭な柱穴は検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土である。1～3層は住居覆土、4・5層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ10～20cmを測る。

**遺物** 北壁に近接した覆土中から土師器の杯、甕が出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半に比定される。

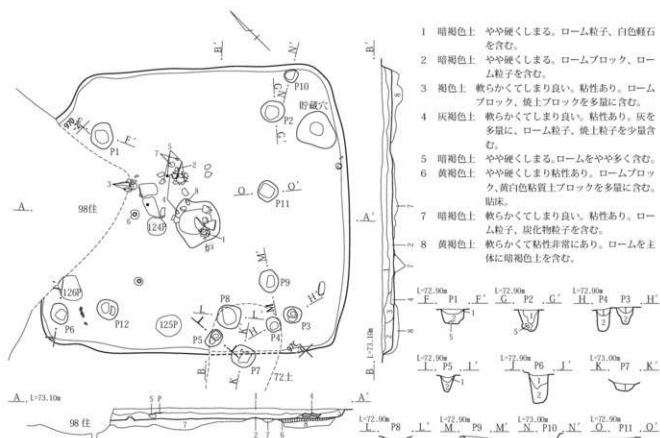
96号住居(第118・119・274・275図、P L.54・80・276)

**位置** 87C・D-18グリッド、86・134号住居と重複している。134号住居を壊し、86号住居に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-74°-E

**規模** 現状での面積は14.99㎡、長辺(南北)4.5m、短辺(東西)4m、残存壁高は18～30cmを測る。



## 1ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。

## 2ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。

## 3ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまりサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。ローム粒子を少量含む。

## 4ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。粘性あり。ロームブロックを含む。

## 5ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまりサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。ローム粒子を少量含む。

## 6ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を多量に白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

## 7ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。

## 8ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

## 9ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい粘性あり。ロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくして粘性あり。ローム主体の層。

## 10ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。粘性あり。ローム粒子を含む。

## 11ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくして粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

第120図 1区99号住居(1)

0 1:60 2m

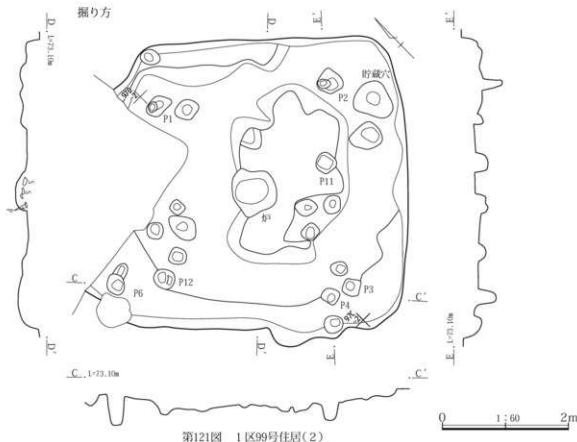
**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。床面の中央部から土坑が検出された。長径147cm・短径140cm・深さ15cmを測る。覆土は2層に分かれた。

**カマド** 東壁の中央から南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ60cm・焚き口部の幅50cm・深さ30cmを測る。袖土2個が残されている。カマド前面に灰が堆積していた。1～4層はカマド覆土、7・12層は灰、5・9層は焼土主体の層になる。10・11・14・15層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 掘り方調査時に検出された土坑(P3)が貯蔵穴になるものと思われる。長径70cm・短径50cm・深さ25cmを測る。覆土は3層に分かれた。遺物が出土している。

**柱穴** 明瞭な主柱穴は検出できなかった。カマド前面の灰を除去後にP2を検出した。長径36cm・短径25cm・深さ14cmを測る。

**周溝** 西壁から北壁にかけて検出された。幅9～30cm、深さ1～10cmを測る。南壁と東壁については明瞭ではなかった。



第121図 1区99号住居(2)

**埋没土** 自然埋没土である。1～3層は住居覆土になる。

**掘り方** 部分的に掘り下げられている。

**遺物** カマドや貯蔵穴周辺から土師器の甕と須恵器の蓋、北壁寄りから土師器の杯、須恵器の椀が出土している。この他、刀子、釘が出土している。この他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

**時期** 出土遺物から9世紀第3四半期に比定される。

99号住居(第120・121・276図、P.L.55・56・276)

**位置** 97C・D-1・2グリッド、98号住居と重複し、壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-48°-E

**規模** 面積は18.86㎡、長辺(北西～南東)4.8m、短辺(北東～南西)4.5m、残存壁高は12～16cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**灰** 床面のほぼ中央から検出された土坑が灰になる可能性が高い。長径70cm・短径68cm・深さ15cmを測る。礫が配置されている。

**貯蔵穴** 掘り方検出時に床面の南東隅から検出された土坑が貯蔵穴になる可能性がある。長径63cm・短径55cm・

深さcmを測る。

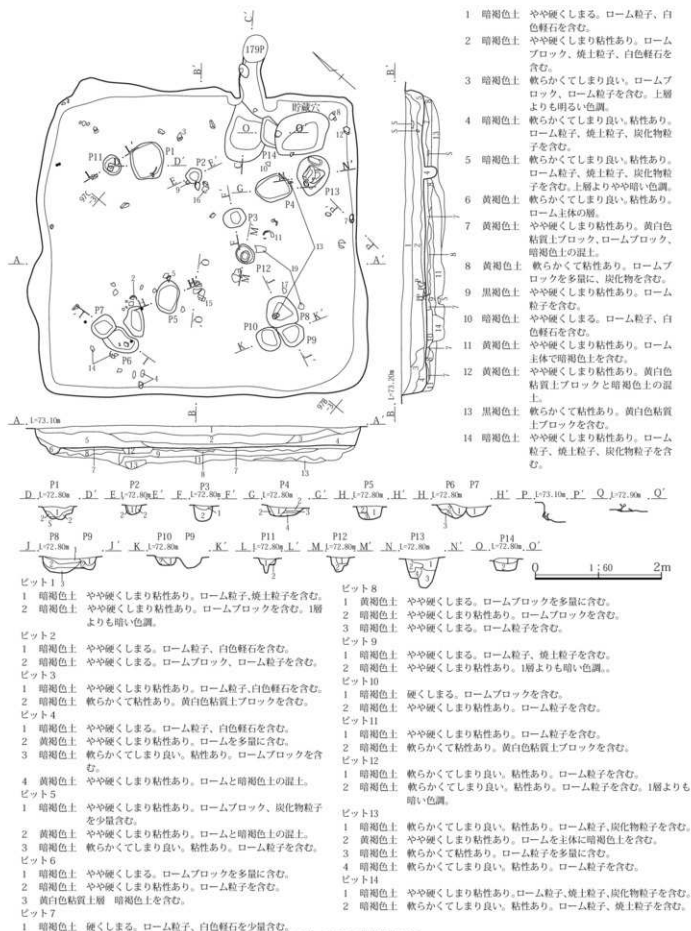
**柱穴** 主柱穴4基が検出された。P1は長径42cm・短径34cm・深さ25cm、P2は長径39cm・短径33cm・深さ33cm、P4は長径24cm・短径22cm・深さ34cm、P12は長径35cm・短径30cm・深さ26cmを測る。P1-P2間の距離は2.7m、P2-P4間距離3.35m、P4-P12間距離2.7m、P12-P1間距離は2.7mである。P3は長径30cm・短径26cm・深さ25cm、P5は長径30cm・短径23cm・深さ25cm、P6は長径35cm・短径28cm・深さ46cm、P7は長径38cm・短径33cm・深さ12cm、P8は長径37cm・短径37cm・深さ22cm、P9は長径36cm・短径30cm・深さ23cm、P10は長径22cm・短径20cm・深さ10cm、P11は長径32cm・短径31cm・深さ19cmである。

**周溝** 検出できなかった。

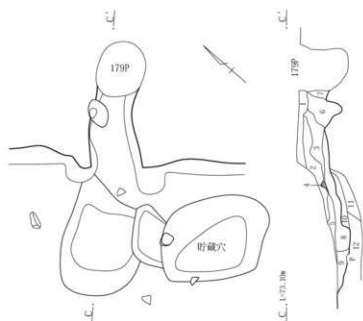
**埋没土** 自然埋没土である。1～5層は住居覆土、6層は貼床、7・8層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ7～16cmを測る。

**遺物** 覆土中から出土している土器は平安時代の遺物(9世紀第4四半期)と思われる。住居は4世紀代に比定

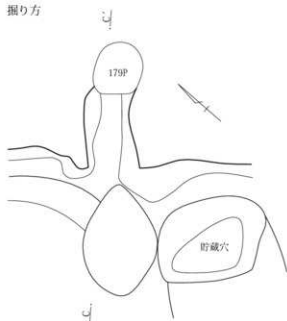


第122図 1区100号住居(1)



- 1 暗褐色土 やや硬くしめる。焼土ブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 赤褐色土 やや硬くしめる。焼土ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 軟らかい。焼土ブロック、灰を含む。
- 4 焼土
- 5 灰褐色土 軟らかくしてしまり良い。灰を多量に、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。焼土粒子をやや多く含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、灰を含む。

掘り方

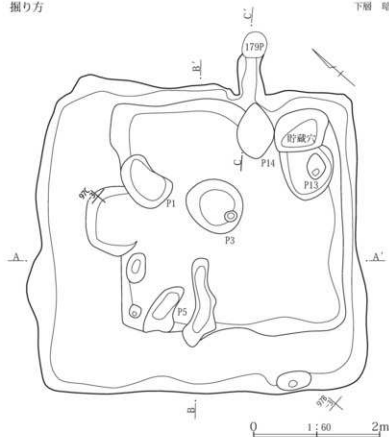


- 9 褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、灰をやや多く含む。
- 10 黄褐色土 軟らかくして粘性あり。ローム主体で暗褐色土、炭化物粒子を含む。
- 11 黄褐色土 軟らかくしてしまり良い。ロームを多量に、焼土、炭化物を含む。
- 12 褐色土 軟らかくして粘性非常にあり。ロームを多量に焼土ブロック、炭化物を含む。

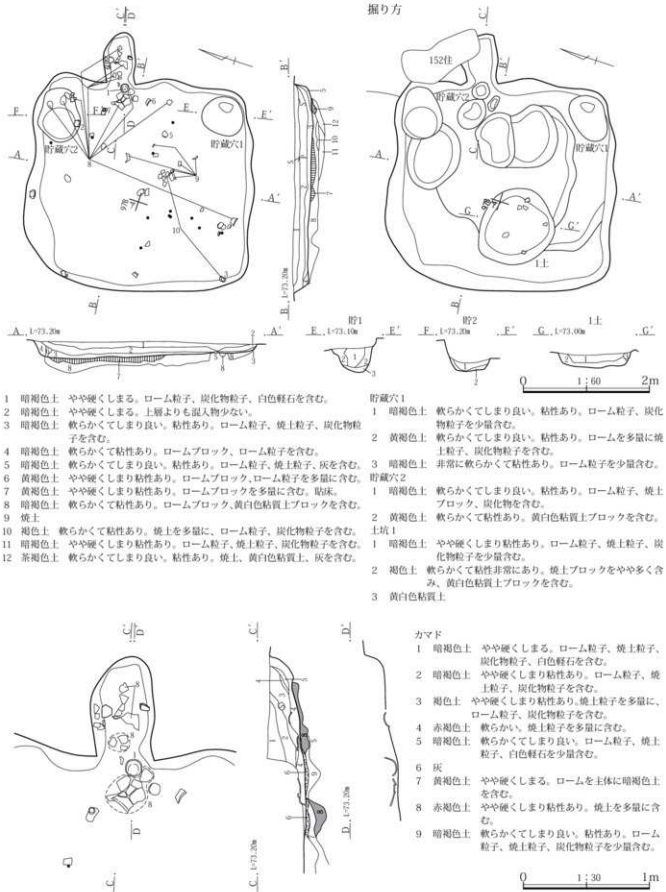
179号ビット

- 上層 暗褐色土 やや硬くしめる。ローム粒子、白色軽石を含む。  
 下層 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。

掘り方



第123図 1区100号住居(2)



第124図 1区101号住居

されることから、覆土中に何らかの落ち込みがあったものと考えられる。この他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

**時期** 4世紀代に比定される。

**100号住居(第122・123・277図、P.L.56・277)**

**位置** 97B-C-2・3グリッド、152号住居と重複している。152号住居を壊している。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-49°-E

**規模** 面積24.95㎡、長辺(北西から南東)5.4m、短辺(北東から南西)4.84m、残存壁高21~40cmを測る。

**床面** 全体的にはほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ167cm・焚き口部幅40cm、袖を含めた幅は80cmである。1~9層はカマド覆土、4層は焼土になる。10~12層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅から検出された。長径80cm・短径65cm・深さ38cmの楕円形を呈する。

**柱穴** 主柱穴になると思われるのは、P1・P6・P9・P13の4基である。P1は長径58cm・短径53cm・深さ14cm、P6は長径58cm・短径38cm・深さ12cm、P9は長径46cm・短径38cm・深さ21cm、P13は長径64cm・短径50cm・深さ48cmである。P1-P6間の距離は2.9m、P6-P9間の距離2.8m、P9-P13間の距離2.6m、P13-P1間の距離は2.7mである。

その他のピットの規模は次のようである。ただし、P11・P7・P10・P4のあり方から立て替えの可能性も否定できない。P2は長径25cm・短径24cm・深さ14cm、P3は長径36cm・短径30cm・深さ25cm、P4は長径58cm・短径42cm・深さ16cm、P5は長径52cm・短径35cm・深さ20cm、P7は長径38cm・短径32cm・深さ13cm、P8は長径55cm・短径50cm・深さ26cm、P10は長径38cm・短径35cm・深さ15cm、P11は長径33cm・短径28cm・深さ10cm、P12は長径33cm・短径27cm・深さ21cm、P14は長径54cm・短径38cm・深さ22cmである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1~6層が住居覆土、7層は貼床になるものと思われる。8~11・13・14層

は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げているが、主柱穴に囲まれた範囲がやや深い。深さ12~25cmである。

**遺物** 覆土中や床面直上から土師器の杯、高杯、甕、須恵器の甕、白玉が出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

**101号住居(第124・278図、P.L.57・277)**

**位置** 97A-B-3・4グリッド、152・153号住居と重複し、壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-73°-E

**規模** 面11.62積㎡、長辺(南北)3.6m、短辺(東西)3.36m、残存壁高12~27cmを測る。

**床面** 全体的にはほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁の中央からやや北寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ90cm・焚き口部幅45cmである。1~5層はカマド覆土、6層は灰になる。7~9層は掘り方になる。8層は焼土を多量に含んでいる。カマド前面から奥にかけて土器が出土している。

**貯蔵穴** 2箇所検出された。貯蔵穴1は床面の南東隅から検出された。長径65cm・短径60cm・深さ43cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれた。貯蔵穴2は床面の北東隅から検出された。長径85cm・短径68cm・深さ22cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。

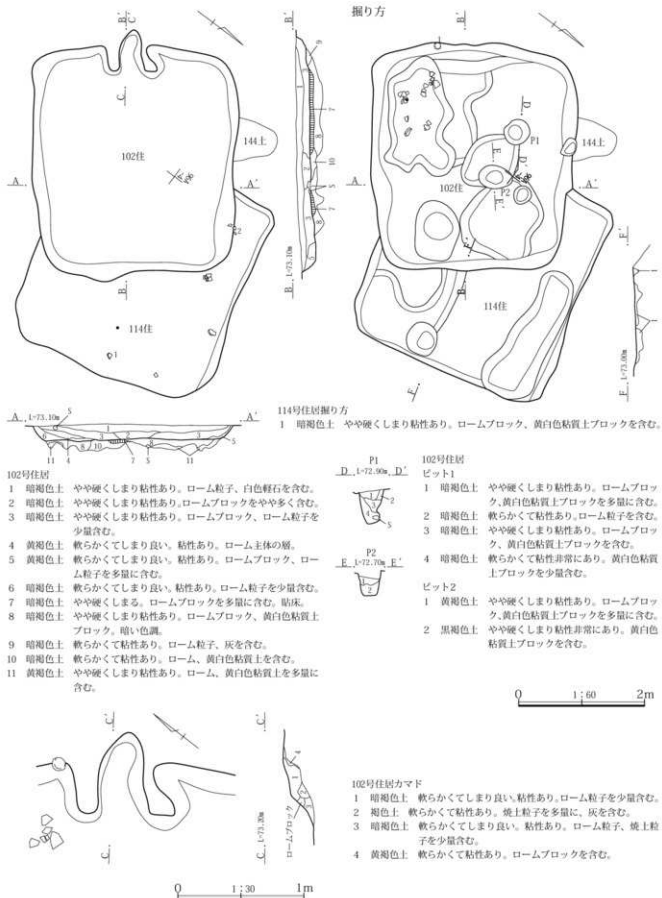
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1~6層が住居覆土、7層は貼床に、9層の焼土はカマドに伴うもの、8・10~12層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げている。深さ10~20cmである。土坑1基が検出された。長径124cm・短径113cm・深さ26cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれた。土器片が出土している。

**遺物** カマド内と貯蔵穴周辺、覆土中から須恵器の碗、土師器の甕が出土している。この他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

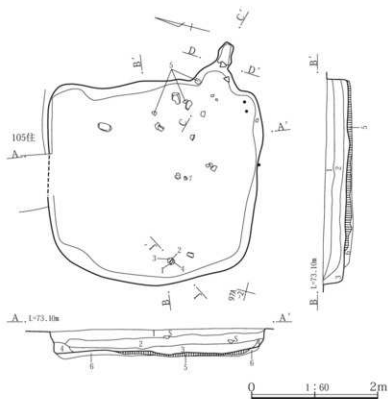
**時期** 出土遺物から10世紀第1四半期に比定される。



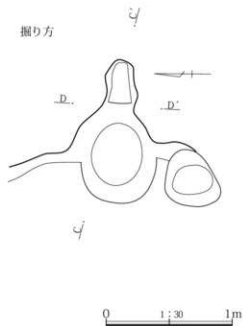
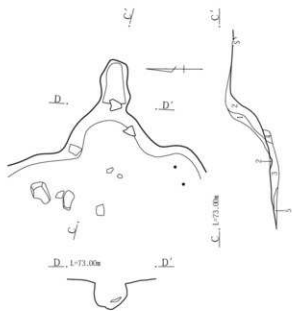
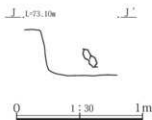
第125図 1区102・114号住居



第4章 発掘調査の記録



- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。粘床。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。

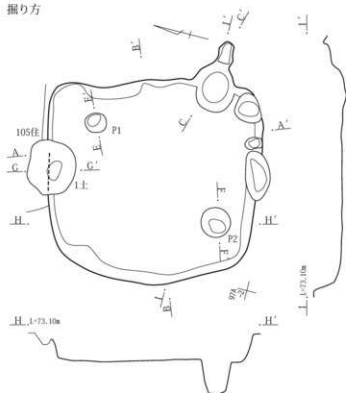


カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量に含む。
- 3 褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 4 赤褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、炭化物を含む。
- 5 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。灰を多量に、焼土粒子を少量含む。

第126図 1区103号住居(1)

掘り方



第127図 1区103号住居(2)

102号住居(第125・278図、P L.58・67・68・277)

位置 96T・97A-3・4グリッド、114号住居、144号土坑と重複している。114号住居を壊している。

形状 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-130°-W  
規模 面積㎡、長辺(北東~南西) 3.75m、短辺(北西~南東) 3.29m、残存壁高15~22cmを測る。

床面 やや凸凹がある。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 西壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ80cm、焚き口部幅30cm、袖を含めた幅は100cmである。1~4層はカマド覆土である。

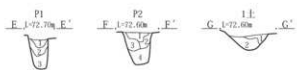
貯蔵穴 検出できなかった。床面に明瞭な貯蔵穴を確認することはできなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1~6層は住居覆土、7層は貼床、8~11層は掘り方充填土になる。

掘り方 床面の南西部が全体的に掘り下げられている。掘り方の深さは4~15cmを測る。ビット2基を検出した。P1は長径40cm・短径36cm・深さ50cm、覆土は4層に分かれた。P2は長径54cm・短径37cm・深さ38cm、覆土は



ビット1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 非常に軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 非常に軟らかく粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。

ビット2

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
  - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。
  - 3 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
  - 4 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 土坑1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
  - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

0 1:60 2m

2層に分かれた。

遺物 覆土中と掘り方調査時に土器が出土している。

(1)の土師器杯はカマドに近接して出土している。この他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

時期 出土遺物から8世紀前半代に比定される。

114号住居(第125・283図、P L.67・68・279)

位置 96T-3、97A-3・4グリッド、102号住居と重複し、壊されている。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-100°-W

規模 面積㎡、長辺(東西) 3.4m、短辺(南北) 3.3m、残存壁高は西壁で約10cmを測り、東壁は確認できなかった。

床面 ほぼ平坦であり硬化していない。

カマド 検出できなかった。西壁を除いた壁にはカマドの痕跡は確認できなかったことから、西壁に設置されていたと思われる。102号住居によって壊されたのであろう。

貯蔵穴 検出できなかった。床面に明瞭な貯蔵穴を確認することはできなかった。

柱穴 明瞭な柱穴を確認することはできなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** ほとんど確認することはできなかった。1層は掘り方充墳土になる。

**掘り方** 床面の北側と南側で掘り込まれている。掘り方の深さは4～10cmを測る。

**遺物** ほとんど遺物は出土していない。

**時期** 不明。

103号住居(第126・127・279図、P.L.59・278)

**位置** 97A-1・2グリッド、105号住居と重複している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-80°-E

**規模** 面積10.13㎡、長辺(北東～南西)3.2m、短辺(北西～南東)2.93m、残存壁高29～35cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

**カマド** 東壁の中央から南寄り、南東隅に近接して設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ78cm・焚き口部幅60cmである。1・2層はカマド覆土、3～5層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 掘り方調査時に床面の南東隅から検出された土坑が貯蔵穴になるものと思われる。長径46cm・短径41cm・深さ8cmの楕円形を呈する。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層が住居覆土、5層は貼床に、6層は掘り方充墳土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ4～10cmである。ビット2基が検出された。P1は長径34cm・短径31cm・深さ46cm、覆土は3層に分かれた。P2は長径48cm・短径46cm・深さ52cm、覆土は4層に分かれた。いずれのビットも深い。土坑1基も検出されたが、これは直接には住居に伴わないものと思われる。

**遺物** 土師器の甕がカマド周辺の覆土から、また西壁下近くからは小皿4個体がまとまって、また砥石も出土している。

**時期** 出土遺物から11世紀初頭に比定される。

104号住居(第128・129・279図、P.L.60・63・278)

**位置** 86T・87A-20、96T・97A-1グリッド、103・108号住居と重複し、壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-49°-W

**規模** 現状での面積24.8㎡、長辺(北東～南西)5.4m、短辺(北西～南東)5.35m、残存壁高17～26cmを測る。

**床面** 全体的にほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

**カマド** 北壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ60cm・焚き口部幅70cmである。1～4層はカマド覆土になる。

**貯蔵穴** 明瞭な貯蔵穴を検出することはできなかったが、P6とした遺構が貯蔵穴になる可能性がある。長径43cm・短径40cm・深さ13cmを測る。覆土は3層に分かれた。

**柱穴** P1～P4の4基が主柱穴になる。P1は長径50cm・短径49cm・深さ53cm、P2は長径60cm・短径54cm・深さ55cm、P3は長径58cm・短径44cm・深さ37cm、P4は長径60cm・短径56cm・深さ68cmである。P1-P2間の距離は3.3m、P2-P3間の距離2.95m、P3-P4間の距離3.1m、P4-P1間の距離は2.75mである。

その他のビットの規模は次のようである。P5は長径28cm・短径25cm・深さ27cmで、主柱穴に囲まれたほぼ中央に位置している。P7は長径35cm・短径23cm・深さ12cmである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層が住居覆土、5・6層は掘り方充墳土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ3～23cmを測る。

**遺物** 住居北西部の覆土中から土器片や鏝が多量に、また床直上からも出土している。土鍾1点も出土している。この他、縄文土器片(加曾利E式3点・時期不明1点)4点が出土。

**時期** 出土遺物から6世紀後半に比定される。

105号住居(第130・280図、P.L.59・61・278)

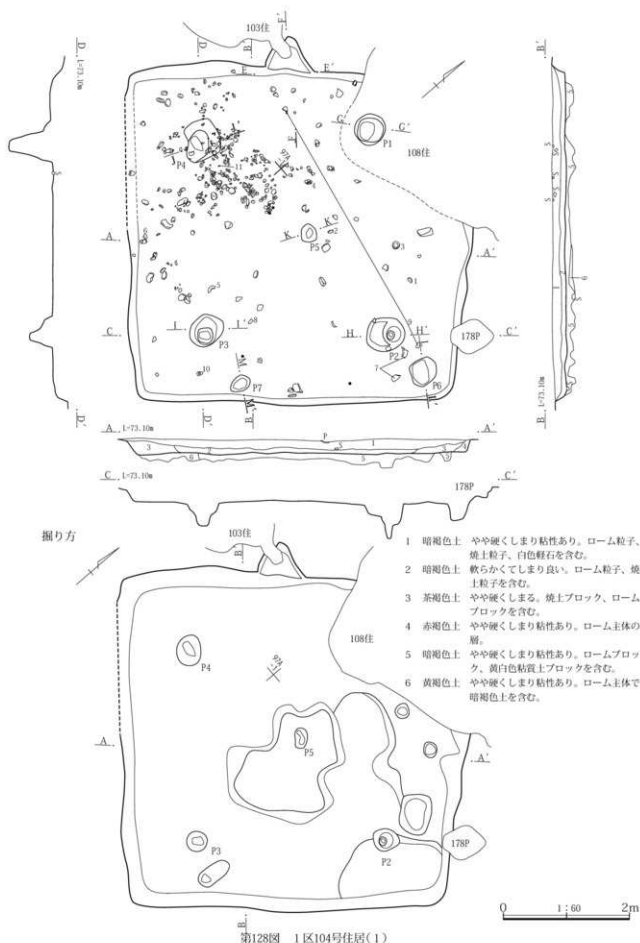
**位置** 97A・8-1グリッド、103・111号住居と重複している。111号住居を壊し、103号住居に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-70°-E

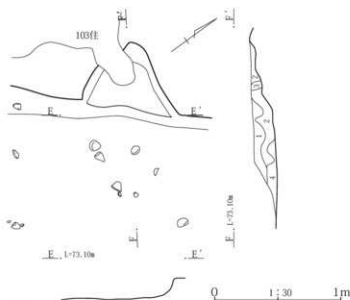
**規模** 長辺(南北)3.8m、短辺(東西)2.53m、残存壁高20cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。



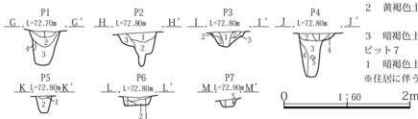
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしまり良い。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 茶褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ロームブロックを含む。
- 4 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 6 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。

第4章 発掘調査の記録



カマド

- 1 赤褐色土 硬くしまる。焼土粒子を多量に、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子を含む。



第129図 1区104号住居(2)

**カマド** 東壁の中央から南寄り、南東隅に近接して設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ64cm・焚き口部幅60cm、袖を含めた幅は84cmである。1～6層はカマド覆土、5層は焼土、7～11層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 掘り方調査時に床面の南東隅から検出された土坑が貯蔵穴になるものと思われる。長径64cm・短径44cm・深さ24cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。土器片が出土している。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～7層が住居覆土、8～12層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ5～23cmを測る。

**遺物** 覆土や床直上から須恵器の椀、灰軸陶器の皿が出

ビット1

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 4 黄褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。

ビット2・3

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。

ビット4

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混上。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 4 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

ビット5

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。

ビット6

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。

ビット7

- 1 暗褐色土 やや硬くしまりサラサラしている。浅間軽石を含む。幸住居に伴うものではない。

土している。また耳皿はカマド内と北壁に近接して出土している。鎌や刀子も出土している。

**時期** 出土遺物から10世紀第1四半期に比定される。

106号住居(第131・132・280図、P.L.61・62・278)

**位置** 86R・S-20、96S-1グリッド、107号住居と重複している。

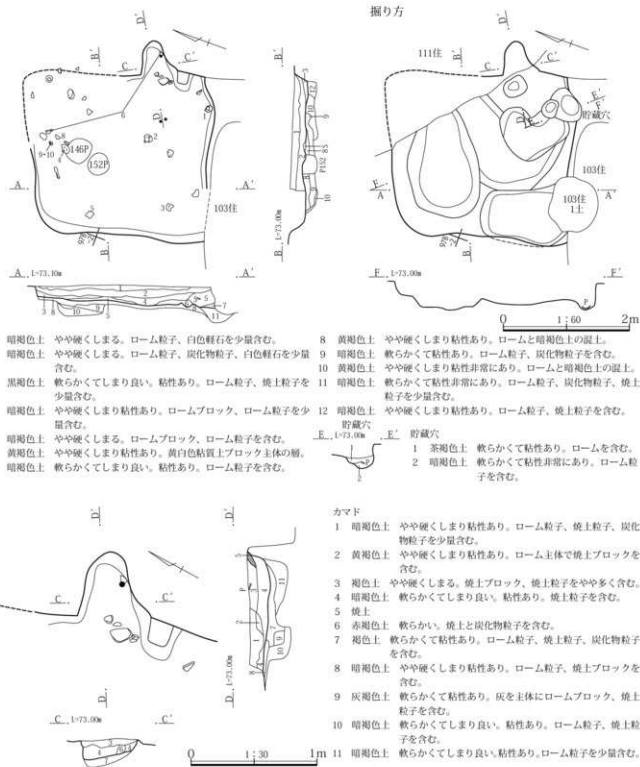
**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-75°-E

**規模** 現状での長辺(東西)4.8m、短辺(南北)3.1m、残存壁高は調査区の南壁で20cm～35cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁に設置される。壁を掘り込んで構築されている。長さ100cm、焚き口部幅55cmで3個の鎌が出土している。このうち燃焼部の中央にある鎌1個が支脚にな



第130図 1区105号住居

るものと思われる。1～3層はカマド覆土になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。調査区外に存在しているものと思われる。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

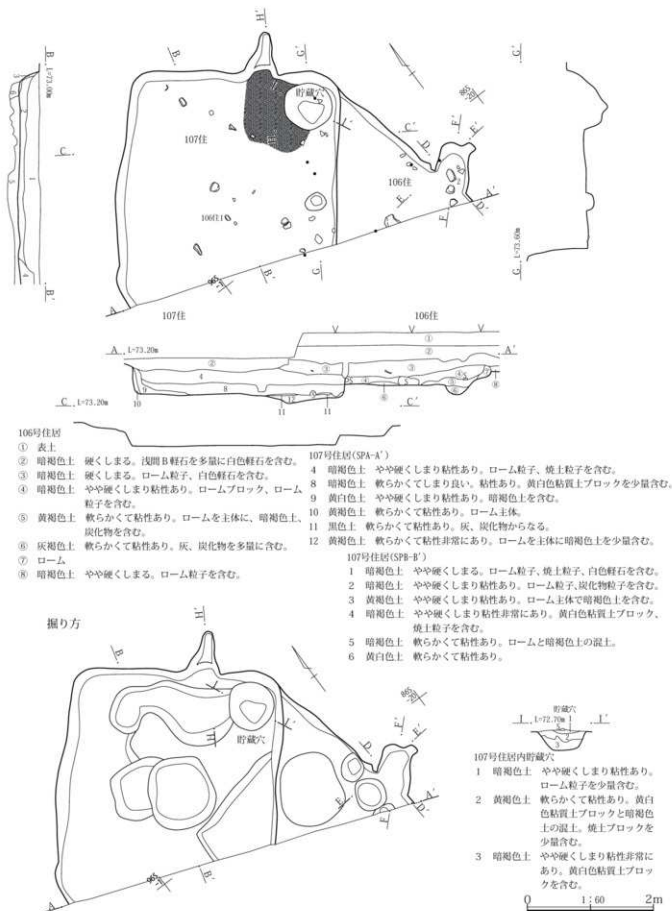
**埋没土** 自然埋没土と考えられる。④～⑦層は住居覆土

になる。107号住居との関係がはっきりしない部分もある。

**掘り方** 検出できなかった。

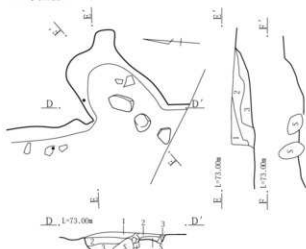
**遺物** 覆土中から土器片はほとんど出土していない。葎石とカマドから砥石が出土している。

**時期** 不明。



第131図 1区106・107号住居(1)

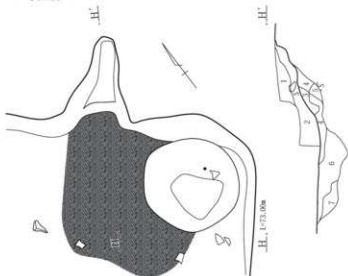
106号住居カマド



106号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土ブロック、白色軽石を含む。

107号住居カマド



107号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量にローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム、焼土を多量に含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム、焼土ブロック、灰を含む。
- 5 褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に炭化物粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。



第132図 1区106・107号住居(2)

## 107号住居(第131・132・280図、P.L.62・278)

**位置** 86R・S-20、96S-1グリッド、106号住居と重複している。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-39°-E

**規模** 現状での面積11.53㎡、現状での長辺(北東～南西)2.85～3.65m、短辺(北西～南東)3.5m、残存壁高は23～24cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

**カマド** 北壁の中央やや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ90cm、焚き口部の幅40cmである。1～2層はカマド覆土、3～7層は掘り方である。2層に焼土ブロックが多量に含まれていた。カマド前面に長さ110cm・幅103cmにわたり灰が分布している。

**貯蔵穴** 床面の北東隅から検出された。長径80cm・短径73cm・深さ32cmのほぼ円形を呈する。覆土は3層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。セクションA-A' 4・8～10層は住居覆土、11層は貼床、12層は掘り方充填土である。セクションB-B''では1～4層が住居覆土、5・6層が掘り方充填土になる。

**掘り方** カマドの前面と住居中央部、東壁下でやや掘り下げている。掘り方の深さは5～13cmを測る。

**遺物** 覆土中から土師器の杯が出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀前半に比定される。

## 108号住居(第133・134・280図、P.L.63・64)

**位置** 87A-20、97A-1グリッド、104・109・110号住居と重複している。いずれの住居も壊している。

**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。

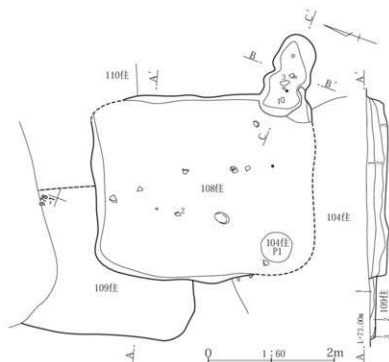
**主軸方位** N-71°-E

**規模** 面積は10.52㎡、長辺(北西～南東)3.45m、短辺(北東～南西)2.92m、残存壁高は27cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 床面の南東隅に設置される。燃焼部は壁を掘り



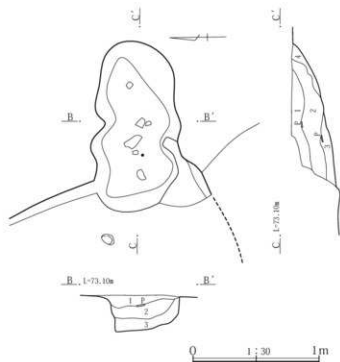


108号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。

109号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層。



108号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックをやや多く、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 3 褐色土 やや硬くしまる。焼土をやや多く含む。灰を含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームをやや多く含む。

第133図 1区108・109号住居(1)

込んで構築されている。長さ136cm・焚き口部の幅60cmを測る。1～3層はカマド覆土になる。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～3層は住居覆土、4～7層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ3～21cmを測る。土坑が1基検出された。長径116cm・短径95cm・深さ23cmを測る。覆土は2層に分かれた。

遺物 カマド内から土師器の杯と甕、覆土中から須恵器の杯が出土している。前者は8世紀前半、後者は9世紀後半の遺物である。

時期 出土遺物から8世紀前半代に比定される。

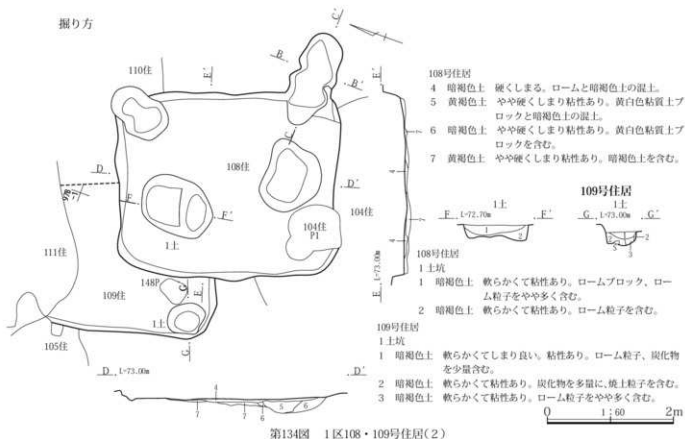
109号住居(第133・134図、P.L.64)

位置 87A-20、97A-1グリッド、108・110・111号住居と重複し、壊されている。ただし110号住居との関係は不明である。

形状 全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位 不明。

規模 現状での長辺(南北)2.5m、短辺(東西)2.3m、残存壁高は8cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。



カマド 検出できなかった。

貯蔵穴 床面の南西隅から検出された土坑が貯蔵穴になるものと思われる。長径58cm・短径55cm・深さ23cmを測る。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～3層は住居覆土になる。

掘り方 検出できなかった。

遺物 覆土中から遺物の出土はほとんどなかった。

時期 不明。

110号住居(第135～137・280図、P.L.49)

位置 87A・B-20グリッド、88・108・109・111号住居と重複している。88号住居を壊し、108・111号住居に壊されている。

形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-27°-E

規模 現状での面積は11.68㎡、長辺(北西～南東)4.6m、短辺(北東～南西)4.35m、残存壁高はほとんど認められなかった。

床面 やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

炬 検出できなかった。

貯蔵穴 明瞭な貯蔵穴を検出することはできなかったが、床面の南東隅から検出されたP3が貯蔵穴になる可能性がある。長径32cm・短径31cm・深さ32cmを測る。

柱穴 主柱穴3基が検出された。P1は長径64cm・短径47cm・深さ33cm、P2は長径36cm・短径34cm・深さ44cm、P4は長径59cm・短径41cm・深さ45cmを測る。P1-P2間の距離2.5m、P2-P4間の距離2.1mである。P3は長径34cm・短径31cm・深さ32cm、P5は長径37cm・短径33cm、P6は長径102cm・短径57cm・深さ6cm、P7は長径49cm・短径40cm・深さ48cmである。

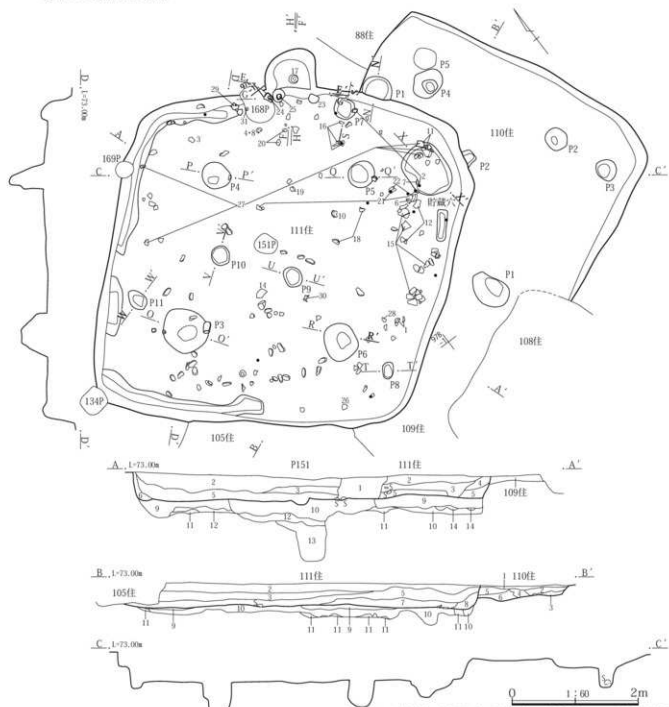
周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土であると思われる。1層は住居覆土、2～6層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さ10～18cmを測る。主柱穴に囲まれた範囲が全体的に掘り残されている。

遺物 P3内からS字状口縁台付裏の上部が出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式)3点が出土。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。



110号住居

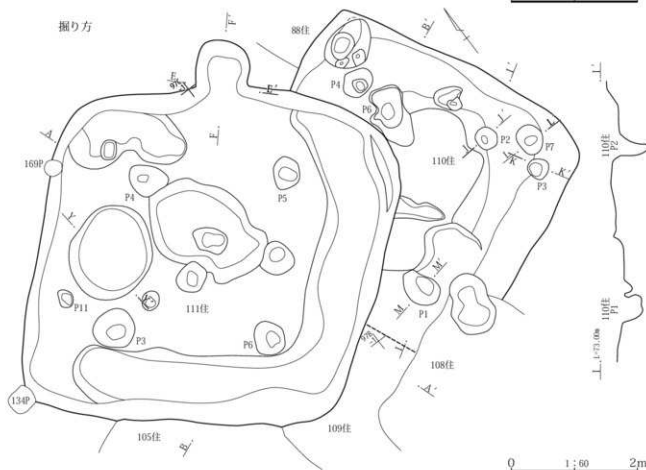
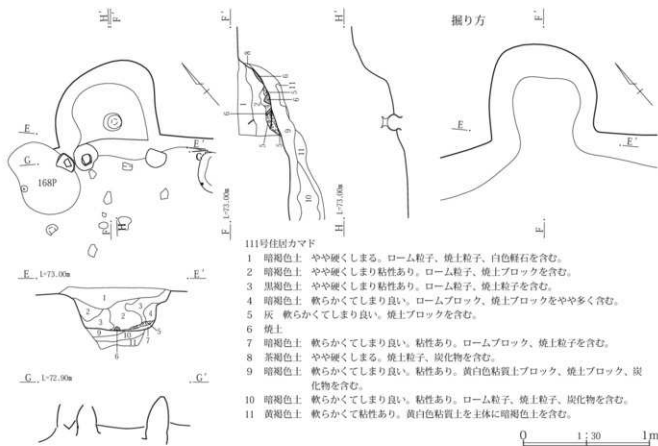
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 4 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームを多量に含む。
- 5 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。

111号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黒色土、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり。ロームブロック、ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を多量に、炭化物粒子を含む。
- 6 褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混み。炭化物を含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。炭化物を含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。
- 12 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物を含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 14 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを少量含む。

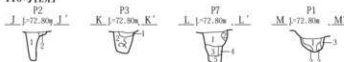
第135図 1区110・111号住居(1)



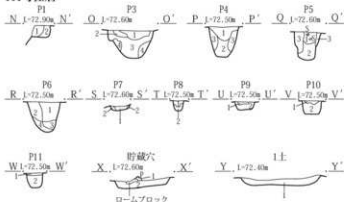
第136図 1区110・111号住居(2)

第4章 発掘調査の記録

110号住居



111号住居



111号住居

- 1 ビット  
1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 3 ビット  
1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。  
2 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。  
3 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量を含む。  
4 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を少量含む。
- 4 ビット  
1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量を含む。明るい色調。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。ローム粒子を含む。  
3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 5 ビット  
1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを少量含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を少量含む。暗い色調。  
3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量を含む。明るい色調。
- 6 ビット  
1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を含む。  
2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量を含む。  
3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。

110号住居

- 2 ビット  
1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を多量を含む。  
3 ビット  
1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を多量を含む。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 7 ビット  
1 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。  
2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。  
3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。  
4 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。  
5 黒褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 1 ビット  
1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ローム粒子を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ローム粒子を含む。  
3 黄白色粘質土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。



- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。

7 ビット

- 1 暗褐色土 軟らかい。灰を多量に、焼土、炭化物を含む。  
2 黄褐色土 軟らかい。ローム主体の層。

8 ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。  
2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ローム粒子を含む。

9 ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を少量含む。  
2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量を含む。

10 ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を少量含む。  
2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量を含む。

11 ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり。ローム土を少量含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。

1 土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量を含む。

第137図 1区110・111号住居(3)

111号住居(第135～137・281～283図、P.L.64・65・278・279)

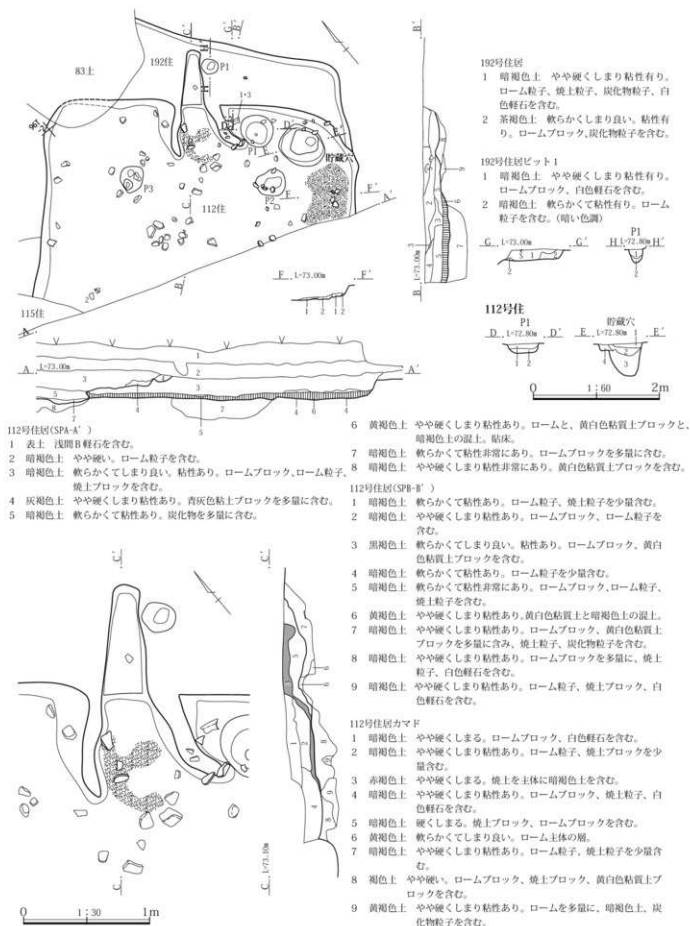
位置 87B-20、97A-C-1グリッド、105・109・110号住居と重複している。109・110号住居を壊し、105号住居によって壊されている。

形状 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-47°-E

規模 面積27.7㎡、現状での長辺(北西～南東)5.6m、短辺(北東～南西)5.2m、残存壁高18～49cmを測る。

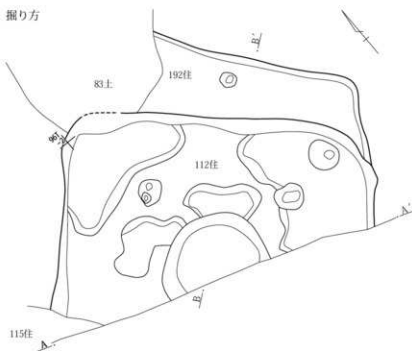
床面 全体的にほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁の中央からやや北寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ76cm・焚き口部幅70cm、袖を含めた幅は90cmである。袖に土師器の裏が伏せられた状態で出土している。1～8層はカマド覆土、5層は灰、6層は焼土になる。9～11層は掘り方になる。



第138図 1区112・192号住居(1)

掘り方



112号住居ピット1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土ブロック、灰を含む。
- 2 黄暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土、焼土粒子を含む。

112号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土ブロック、ロームブロック、炭化物を含む。

0 1:60 2m

第139図 1区112・192号住居(2)

**貯蔵穴** 床面の南東隅から検出された。長径85cm・短径66cm・深さ20cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** P3～P6の4基が主柱穴になる。P3は長径75cm・短径66cm・深さ43cm、P4は長径46cm・短径43cm・深さ54cm、P5は長径44cm・短径41cm・深さ44cm、P6は長径58cm・短径51cm・深さ45cmである。P3～P4間の距離は2.5m、P4～P5間の距離2.35m、P5～P6間の距離2.65m、P6～P3間の距離は2.5mである。

その他のピットの規模は次のようである。P1は長径47cm・短径34cm・深さ20cm、P2は長径25cm・短径16cm・深さ10cm、P7は長径36cm・短径34cm・深さ8cm、P8は長径24cm・短径17cm・深さ16cm、P9は長径34cm・短径28cm・深さ20cm、P10は長径32cm・短径29cm・深さ20cm、P11は長径34cm・短径25cm・深さ25cmである。

**周溝** 東壁から北壁、南壁下から部分的に検出された。幅13～22cm、深さ2～11cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。2～8層が住居覆土、9～12層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、床面の中央部と南壁から西壁下がやや深い。深さ12～25cmである。土坑1基が検出された。長径51cm・短径43cm・深さ4cmの楕円形を呈する。覆土は1層である。

**遺物** 覆土中と床直上から土器や礫が出土している。カ

マド内からは(17)の土器の台付裏が支脚として逆位で出土、袖として(23～25)の裏が使用されている。紡錘車1点がカマドに近接して、貯蔵穴周辺からは土器の杯や裏が出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀第3四半期に比定される。

112号住居(第138・130・280図、P.L.66・67・108・117・279)

**位置** 965-1・2グリッド、115・192号住、83号土坑と重複している。192号住居を壊し、115号住居と83号土坑によって壊されている。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

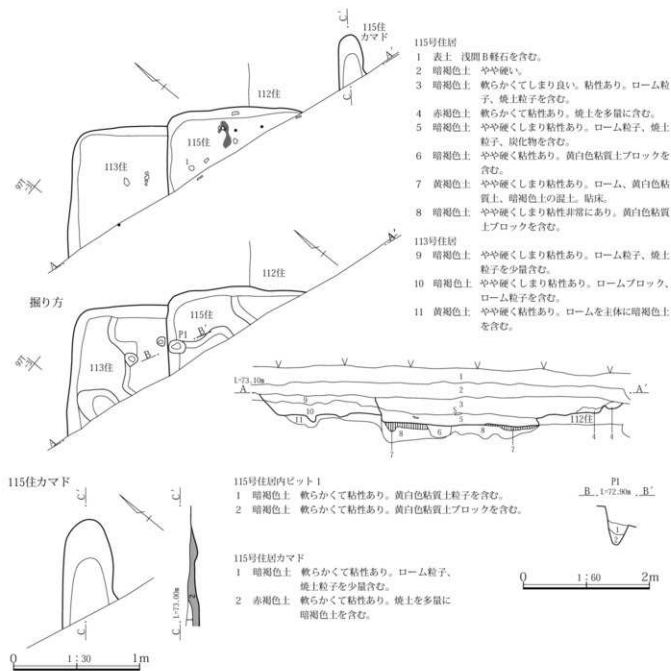
**主軸方位** N-38°-E

**規模** 現状での面積12.83㎡、現状での長辺(北西～南東)4.92m、袖辺(北東～南西)3.25m、残存壁高20～25cmを測る。

**床面** 貼床ではほぼ平坦である。貯蔵穴の南床面で粘土の分布が認められた。

**カマド** 北壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面を掘り込んで構築されており、長さ175cm・焚き口部幅80cm、袖を含めた幅は110cmである。1～5層はカマド覆土、6～9層は掘り方になる。3層は焼土主体の層である。

**貯蔵穴** 床面の北東隅から検出された。長径71cm・短径62cm・深さ52cmの楕円形を呈する。覆土は4層に分かれた。



第140図 1区113・115号住居

**柱穴** ビット3基検出された。このうちP2とP3が柱穴になるものと思われる。P2は長径46cm・短径41cm・深さ25cm、P3は長径43cm・短径36cm・深さ25cm、P2-P3間の距離は2.3mである。P1は長径54cm・短径49cm・深さ20cmである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。セクションA-A'の3～5層、同じくB-B'の1～5層が住居の覆土、6層は貼床になる。7～9層は掘り方充填土である。

**掘り方** 床面の隅と中央部を10～34cmほど掘り下げら

れている。

**遺物** 覆土中と直床上から遺物が出土。カマド周辺から土師器の杯と甕が出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

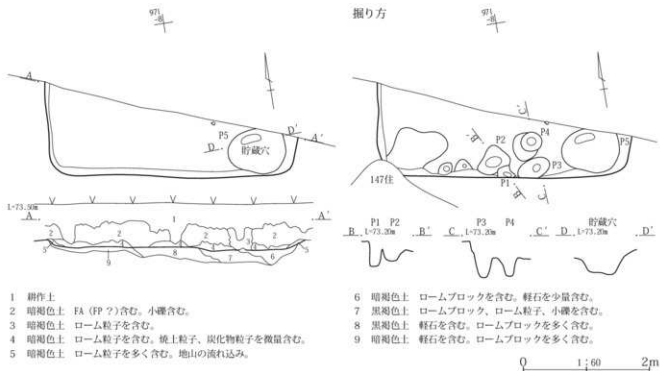
192号住居(第138・139図、P.L.117)

**位置** 96S・T-1グリッド、112号住居、83号土坑と重複し、壊されている。

**形状** 全容は不明である。主軸方位 不明。

**規模** 現状での長辺(北西～南東)3.53m、短辺(北東～





第141図 1区116号住居

- 1 耕作土
- 2 暗褐色土 FA (FP ?) 含む。小礫含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子を含む。焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。地山の流れ込み。

- 6 暗褐色土 ロームブロックを含む。軽石を少量含む。
- 7 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子、小礫を含む。
- 8 黒褐色土 軽石を含む。ロームブロックを多く含む。
- 9 暗褐色土 軽石を含む。ロームブロックを多く含む。

南西) 1.08m、残存壁高をほとんど確認できなかった。  
 床面 ほぼ平坦である。全体的に硬化面はあまり認められなかった。  
 カマド 検出できなかった。  
 貯蔵穴 検出できなかった。  
 柱穴 ビット1基検出した。P1は長径26cm・短径24cm・深さ20cmを測る。柱穴にはならない。  
 周溝 検出できなかった。  
 埋没土 確認できなかった。  
 掘り方 ほとんど検出できなかった。  
 遺物 遺物の出土はほとんどなかった。  
 時期 不明。

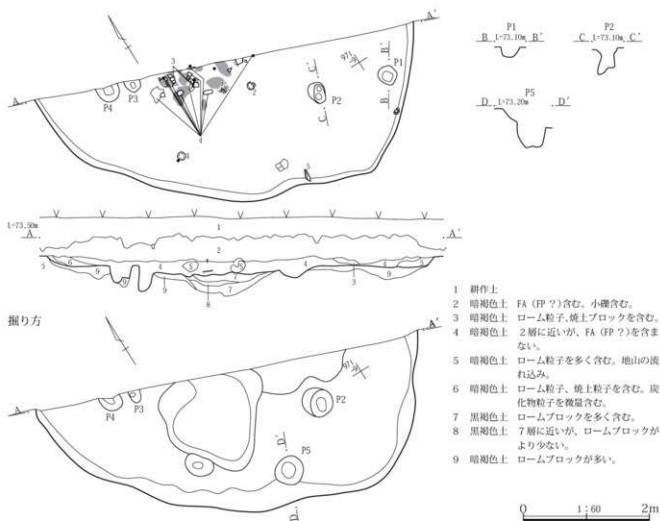
てしまったものと思われる。  
 貯蔵穴 検出できなかった。  
 柱穴 検出できなかった。  
 周溝 検出できなかった。  
 埋没土 自然埋没土と考えられる。9・10層は住居の覆土、11層は掘り方充填土である。  
 掘り方 全面掘り下げられ凹凸がある。深さ5～15cmを測る。  
 遺物 覆土中から少量の土器片が出土している。その他、時期不明の縄文土器片1点が出土。  
 時期 不明。

113号住居(第140図、P.L.67)

位置 96S-2・3グリッド、115号住居と重複し、壊されている。  
 形状 調査区外に延びていることと重複しているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。  
 主軸方位 不明。  
 規模 現状での長辺(北東～南西) 1.83m、短辺(北西～南東) 1.53m、残存壁高は調査区南壁で32cmを測る。  
 床面 やや凹凸が認められる。硬化面は認められない。  
 カマド 検出できなかった。115号住居によって壊され

115号住居(第140・283図、P.L.67・279)

位置 96S-2グリッド、112・113号住居と重複し、壊している。  
 形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。  
 主軸方位 N-48°-W  
 規模 現状での長辺(北西～南東) 3.3m、短辺(北東～南西) 1.1m、残存壁高38cmを測る。  
 床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。  
 カマド 112号住居覆土中に構築されている。当初176号住居として調査を進めたが、115号住居カマドと判明。



第142図 1区117号住居

176号住居は欠番となった。現状での長さ76cm、幅39cmを測る。覆土は2層に分かれ、第2層は焼土主体の層である。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 長径26cm・短径20cm・深さ25cmのビット1基が検出されているが、柱穴になるかは不明である。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。3～5層は住居覆土、6層はビット覆土、7層は貼床、8層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全面掘り下げられて凹凸が認められる。深さ5～25cmを測る。

**遺物** 覆土中から少量の土器片が出土している。

**時期** 出土遺物から8世紀前半代に比定される。

116号住居(第141図、P L. 69)

**位置** 97H-7・8グリッド、147号住居と接している。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明である

が、方形を呈するものと思われる。主軸方位 不明。

**規模** 現状での面積3.95㎡、現状で長辺(東西)4m、短辺(南北)1.45m、残存壁高10cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 検出できなかったが、貯蔵穴の位置から考えると東カマドであった可能性が考えられる。

**貯蔵穴** 掘り方調査時に床面南東隅から検出された。長径90cm、現状での短径66cm、深さ40cmを測る。

**柱穴** 掘り方調査時に4基のビットを検出した。P 1は長径21cm・短径20cm・深さ28cm、P 2は長径48cm・短径35cm・深さ20cm、P 3は長径54cm・短径32cm・深さ35cm、P 4は長径33cm・短径29cm・深さ30cmである。柱穴になるかどうかは不明である。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。4・5層は住居覆土、6～9層は掘り方充填土である。

**掘り方** ほぼ全面的に掘り下げられている。深さ5～

23cmを測る。

**遺物** 覆土中から少量の土器片が出土している。

**時期** 不明。

117号住居(第142・283図、P.L.69・279)

**位置** 97H・1-8・9 グリッド、125号住居の東約80cmの所に位置している。

**形状** 調査区外に延びているために不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。 **主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積10.73㎡、長辺(北西から南東)5.76m、短辺(北東から南西)2.38m、残存壁高10～14cmを測る。

**床面** やや凹凸が認められる。硬化面は認められなかった。床面に焼土の分布が認められた。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 床面からビット4基が検出された。このうちのP2とP4が柱穴に該当するものと思われる。P2は長径35cm・短径27cm・深さ45cm、P4は長径35cm・短径25cm・深さ27cmを測る。P2-P4間の距離は3.4mを測る。P1は長径30cm・短径27cm・深さ16cm、P3は長径25cm・短径20cm・深さ33cmである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。3～6層は住居覆土、7～9層は掘り方充填土である。

**掘り方** 全面的に掘り下げられて凹凸があり、P2とP4間が深く掘り込まれている。掘り方の深さは10cm～36cmを測る。また南壁下からビット1基が検出された。P5は長径45cm・短径43cm・深さ40cmである。

**遺物** P3付近、焼土の分布とともに土師器の杯と甕がややまとまって出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半に比定される。

118号住居(第143～145・284・285図、P.L.67・70・108・280)

**位置** 96T-2、97A-1・2グリッド、103・174号住居と重複している。174号住居を壊し、103号住居によって壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。 **主軸方位** N-28°-E

**規模** 面積19.63㎡、長辺(北西～南東)4.73m、短辺(北東～南西)4.36m、残存壁高33cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面を掘り込んで構築されており、長さ133cm・幅68cmである。袖に土師器の甕が伏せた状態で使用されている。1～7層はカマド覆土、2層は焼土、3層には灰を多量に含んでいる。8・9層は掘り方充填土になる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅から検出されたP7が貯蔵穴になるものと思われる。長径47cm・短径32cm・深さ24cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** P2・P5・P8・P6の4基が主柱穴になる。P2は長径49cm・短径45cm・深さ31cm、P5は長径56cm・短径44cm・深さ45cm、P8は長径38cm・短径33cm・深さ28cm、P6は長径53cm・短径43cm・深さ30cmである。P2-P5間、P5-P8間、P8-P6間、P6-P2間の距離はいずれも210cmである。その他のビットの規模は次のようである。P1は長径36cm・短径25cm・深さ21cm、P3は長径25cm・短径24cm・深さ17cm、P4は長径38cm・短径36cm・深さ42cm、P9は整理作業の過程で177号住居のビットになることが判明した。P10は長径25cm・短径24cm・深さ21cm、P11は長径50cm・短径39cm・深さ33cmである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～6層が住居覆土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げは浅い。床面の中央部と西壁下から土坑が検出された。土坑1は長径175cm・短径159cm・深さ22cm、土坑2は長径136cm・短径129cm・深さ26cmの楕円形を呈する。覆土は1層である。

**遺物** 覆土中や床直上からややまとまって土器が出土している。カマドからは袖や構築材として土師器の甕(14・16・17)が、住居中央部からも土師器の杯や甕が出土している。この他、縄文土器片(諸磯c式1点・加曾利E式5点)6点が出土。

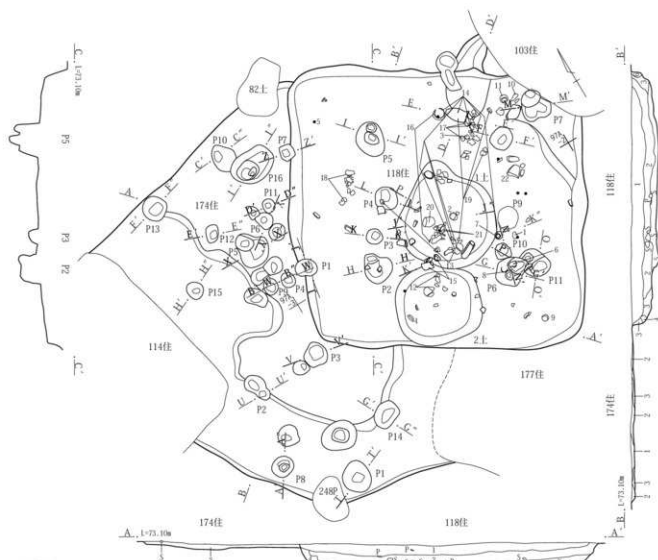
**時期** 出土遺物から7世紀後半に比定される。

174号住居(第143～145・307図、P.L.67)

**位置** 96T-2・3、97A-2・3グリッド、114・118・177号住居と重複している。114・118号住居に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** 不明。

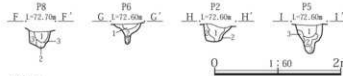


118号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 4 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。

174号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。



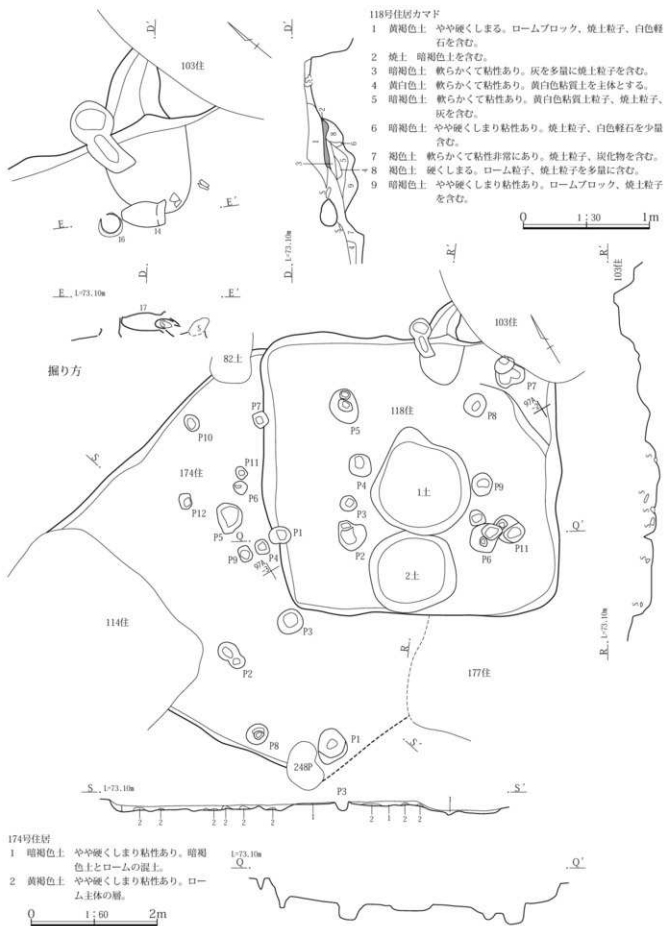
2ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 2 黄白色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。



第143図 1区118・174号住居(1)

第4章 発掘調査の記録



第144図 1区118・174号住居(2)

## 118号住居



## 118号住居

## 1ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。

## 3ピット

- 1 暗褐色土 硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。

## 4ピット

- 1 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。  
3 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを主体とする。  
4 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。

## 7ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。



## 10ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。

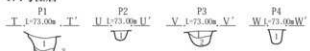
## 11ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。  
3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

## 1土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。

## 174号住居



## 174号住居

## 1ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

## 2黄褐色土

軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

## 3暗褐色土

- やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

## 2ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ロームブロック、浅間B軽石を含む。  
3ピット

## 1暗褐色土

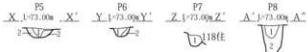
やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。

## 2黄褐色土

- 軟らかくて粘性あり。ローム主体で、暗褐色土、炭化物を含む。

## 4ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ロームブロック、浅間B軽石を含む。



## 5ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。  
2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で、暗褐色土、炭化物を含む。

## 6ピット

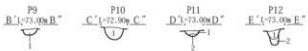
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。  
2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で、暗褐色土、炭化物を含む。

## 7ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ロームブロック、浅間B軽石を含む。

## 8ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。



## 9ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。

## 10ピット

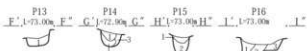
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。

## 11ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。  
2 黄褐色土 軟らかい。ロームを含む。

## 12ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。  
2 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。



## 13ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。

## 14ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。  
3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを多量に含む。

## 15ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。  
2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。

## 16ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を含む。  
3 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム主体の層。

0 1:60 2m

**規模** 現状での面積16.65㎡、長辺(北西から南東)約6m、短辺(北東から南西)約5.5m、残存壁高5cmを測る。

**床面** やや凹凸が認められる。

**炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 明瞭な貯蔵穴を検出できなかった。

**柱穴** 床面からビット16基が検出された。このうちのP1とP8が深くてしっかりとしたビットである。他のビットは浅く柱穴になるものか判然としない。P1は長径50cm・短径45cm・深さ63cm、P2は長径48cm・短径30cm・深さ14cm、P3は長径38cm・短径37cm・深さ21cm、P4は長径25cm・短径22cm・深さ20cm、P5は長径58cm・短径52cm・深さ17cm、P6は長径27cm・短径24cm・深さ14cm、P7は長径25cm・短径23cm・深さ21cm、P8は長径35cm・短径32cm、P9は長径27cm・短径23cm・深さ9cm、P10は長径42cm・短径37cm・深さ22cm、P11は長径23cm・短径20cm・深さ8cm、P12は長径28cm・短径20cm・深さ24cm、P13は長径38cm・短径37cm・深さ22cm、P14は長径44cm・短径35cm・深さ22cm、P15は長径27cm・短径25cm・深さ32cm、P16は長径72cm・短径52cm・深さ36cmである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 覆土はほとんど検出できなかった。1・2層は掘り方充填土である。

**掘り方** 全面的に掘り下げて凹凸があるが浅い。深さ6～10cmを測る。

**遺物** 覆土中からはほとんど遺物は出土していない。

**時期** 明確な時期は不明であるが、4世紀代に比定されるものと思われる。

119号住居(第146～148・283図、P.L.71～73・280)

**位置** 97H-13、97I-12・13グリッド、120号住居と重複し壊し、121・123号住居と接している。120号住居を壊している。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-55°-E

**規模** 面積13.14㎡、長辺(北東～南西)3.86m、短辺(北西～南東)3.79m、残存壁高は20～23cmを測る。

**床面** やや凹凸が認められる。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁の中央から南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ140cm、焚き口部

の幅45cm、袖を含めた幅は85cmである。燃焼部の中央にある礎1個が支脚になるものと思われる。カマド前面には灰の分布が認められた。1～3・8～13層はカマド覆土、4～7層は袖に、14～17層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられるが1・2層はやや不自然な堆積をしている。3～5層は自然埋没土である。6・7層は掘り方充填土である。

**掘り方** 全面的に掘り下げて凹凸がある。掘り方の深さは5～13cmを測る。

**遺物** カマドの周辺から土師器の杯と鉢、床中央部から土錘が出土している。(5)の壺は覆土中からの出土である。

**時期** 出土遺物から7世紀後半代に比定される。

120号住居(第146～148・285図、P.L.71～73)

**位置** 97I-13・14、97J-13グリッド、119・121・123号住居と重複している。123号住居を壊し、119号住居に壊されている。

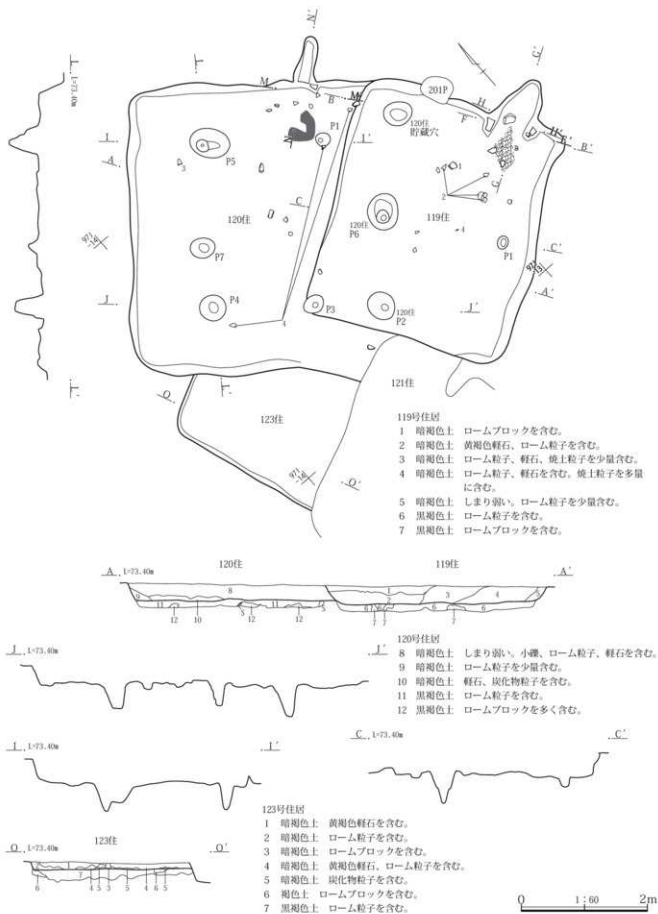
**形状** 重複しているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-40°-E

**規模** 確認できた長辺(北東～南西)4.67m、短辺(北西～南東)4.5m以上、残存壁高は27cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的面に硬化は認められない。カマド 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ82cm、焚き口部の幅35～84cmである。カマド前面には灰の分布が認められた。1～7・9～12層はカマド覆土、13層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 掘り方調査時に検出された。床面の南東隅に位置しているものと思われる。長径45cm・短径38cm、掘り方からの深さ13cmの楕円形を呈する。

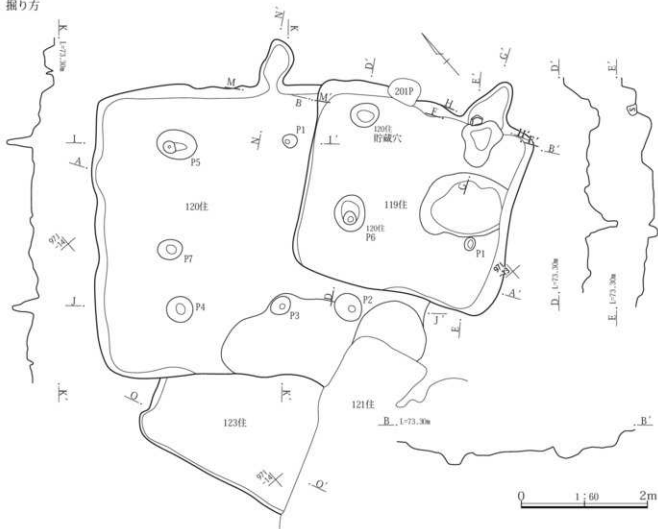
**柱穴** 掘り方調査時にビット7基が検出された。P1は長径23cm・短径21cm・深さ40cm、P2は長径47cm・短径41cm・深さ47cm、P3は長径34cm・短径27cm・深さ41cm、P4は長径42cm・短径41cm・深さ35cm、P5は長径64cm・短径46cm・深さ43cm、P6は長径58cm・短径48cm・深さ45cm、P7は長径40cm・短径33cm・深さ15cm



第146図 1区119・120・123号住居(1)



掘り方



第147図 1区119・120・123号住居(2)

である。貯蔵穴の南にも1基存在したものと思われるが、検出することはできなかった。119号住居によって壊されたものであろう。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。8～14層は住居の覆土、11・12層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられていて深さ7～10cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** 覆土中や床直上から土師器の高杯や甕が出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

123号住居(第146～148図、P.L.71・73・74)

**位置** 97H・1-13・14グリッド、120・121号住居と重複し、壊されている。

**形状** 重複しているために全容は不明であるが、方形を

呈するものと思われる。主軸方位 不明。

**規模** 現状での長辺(南北)2.52m、短辺(東西)2.15m、残存壁高は12cmを測る。

**床面** 平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居の覆土、6・7層は掘り方充填土である。

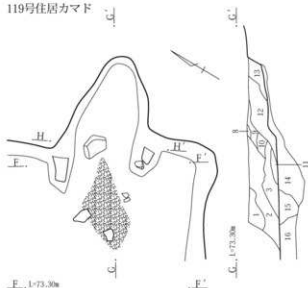
**掘り方** 全体的に掘り下げられ凹凸がある。深さ7cm～20cmである。

**遺物** 覆土中から少量の土器片が出土している。

**時期** 明確ではないが、住居の形状や掘り込みの浅さから4世紀代に比定されるものと思われる。

121a・121b号住居(第149・150・286図、P.L.71～74・281)

119号住居カマド



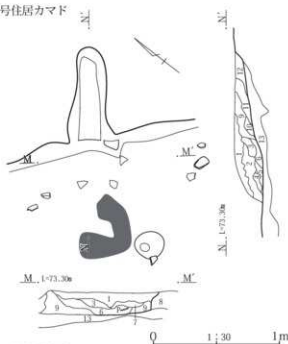
120号住居カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を多く含む。
- 5 暗褐色土 炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色土 炭化物粒子を多く含む。
- 7 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を多く含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 9 暗褐色土 灰を含む。
- 10 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、灰を含む。
- 11 暗褐色土 小礫と焼土粒子を微量含む。
- 12 暗褐色土 焼土粒子を含む。ローム粒子を少量含む。
- 13 褐色土 粘性強い。

119号住居カマド

- 1 暗褐色土 軽粒を微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、軽石を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子を含む。焼土粒子を微量含む。
- 5 暗褐色土 しまり強い。
- 6 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 7 暗褐色土 焼土粒子を多く、炭化物粒子を含む。
- 8 暗褐色土 白色粘土を含む。
- 9 暗褐色土 白色粘土を多く、焼土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土 焼土粒子、灰を含む。
- 11 暗褐色土 焼土ブロックを含む。
- 12 暗褐色土 炭化物粒子、焼土粒子、焼土ブロックを含む。
- 13 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を微量含む。
- 14 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を含む。軽石を微量含む。
- 15 褐色土 しまり強い。小礫を少量含む。
- 16 暗褐色土 ロームブロックをマダラ状を含む。
- 17 暗褐色土 ロームブロックをマダラ状に、炭化物粒子を含む。

120号住居カマド



第148図 1区119・120・123号住居(3)

**位置** 97H-13・14、97I-13グリッド、122・123号住居と重複し、壊している。発掘当初121号住居は1軒の住居として調査が進められたが、整理作業の過程で2軒の重複が考えられるようになった。住居内側にもう1軒存在したようである。このために内側の住居を121a号住居、外側の住居を121b号住居として記述する。

**形状** 121a住居—一部不明な部分もあるが掘り方から判断すると隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-90°-E

121b住居—121a住居によって壊されているものと思われる。全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。**主軸方位** N-90°-E

**規模** 121a住居—現状での長辺(南北)2.86m、短辺(東西)2.7m、残存壁高は30cmを測る。121b住居—現状での長辺(東西)3.67m、短辺(南北)3.2m、残存壁高は24cmを測る。

**床面** 121a住居—ほぼ平坦である。

121b住居—やや凹凸が認められる。

**カマド** 121a住居—東壁の中央やや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されているものと思われる。現状では袖の存在と燃焼部に焼土が堆積している。長さ67cm、焚き口部の幅25cm、袖を含めた幅は80cmである。5~7層はカマド覆土、11層は掘り方になる。

121b住居—東壁の中央北寄りに設置される。焼燃部は壁を掘り込んで構築されているものと思われる。現状での長さ110cm、焚き口部の幅30cmである。1～4・8～10層はカマド覆土、12～14層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 121a住居—検出できなかった。

121b住居—検出できなかった。

**柱穴** 121a住居—検出できなかった。

121b住居—検出できなかった。

**周溝** 121a住居—検出できなかった。

121b住居—検出できなかった。

**埋没土** 121a住居—自然埋没土と考えられる。1・2層は住居の覆土、4～6層は掘り方充填土である。

121b住居—自然埋没土と考えられる。1～3層は住居の覆土、4・5層は掘り方充填土である。

**掘り方** 121a住居—全体的に掘り込まれているが、北壁周辺がやや深い。掘り方の深さは5～27cmを測る。

121b住居—全体的に掘り込まれているが、掘り込みは浅い。掘り方の深さは6cmを測る。

**遺物** 121a住居—出土量は少ないが、カマド周辺や床直上から出土している。

121b住居—南壁寄りの覆土中や床直上から出土している。

**時期** 121a住居—出土遺物から7世紀後半代に比定される。

121b住居—不明。

122号住居(第149・150・285図、P.L.73・74)

**位置** 97G・H-13グリッド、121号住居と重複し、壊されている。

**形状** 重複しているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積は6.36㎡、現状での長辺(東西)3.13m、短辺(南北)2m、残存壁高は7cmを測る。

**床面** 平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 確認面から床面まで浅いために全容は不明であるが自然埋没土と考えられる。7層は住居の覆土、8～10層は掘り方充填土である。

**掘り方** 全体的に掘り下げられ凹凸がある。深さ7cm～20cmである。ビット3基が検出された。P1は長径31cm・短径25cm・深さ13cm、P2は長径25cm・短径24cm・深さ21cm、P3は長径45cm・短径27cm・深さ33cmを測る。

**遺物** 遺物はほとんど出土していない。わずかに土師器の杯が認められる。

**時期** 4世紀代もしくは7世紀後半代になる可能性もある。

124号住居(第151・285図、P.L.75)

**位置** 97H-14グリッド、121号住居と重複している。121号住居に一部壊されている。

**形状** 隅丸長方形を呈する。**主軸方位** N-40°-E

**規模** 面積は6.96㎡、長辺(北東から南西)3.07m、短辺(北西から南東)2.32m、残存壁高は2～5cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド・炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 確認面から床面まで浅いために全容は不明であるが自然埋没土と考えられる。1層は住居の覆土、2・3層は掘り方充填土である。

**掘り方** 全体的に掘り下げられ凹凸がある。深さ3cm～45cmである。ビット1基が南西隅から検出された。P1は長径40cm・短径38cm・深さ43cmを測る。

**遺物** 覆土中から土師器の杯が出土している。

**時期** 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

125号住居(第152・286図、P.L.75～77・281)

**位置** 97H・I-10グリッド、126・129号住居と重複している。126号住居に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。**主軸方位** N-44°-W

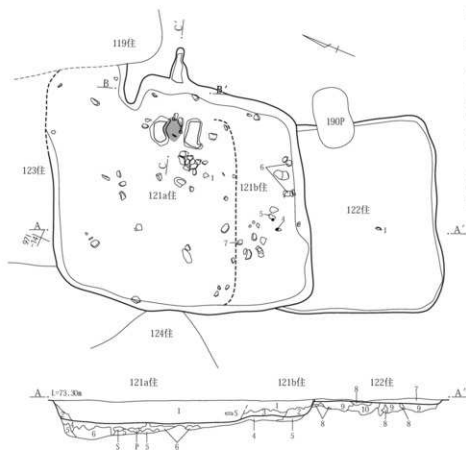
**規模** 現状での面積は8.65㎡、長辺(北東から南西)3.19m、短辺(北西から南東)3.14m、残存壁高は22～29cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

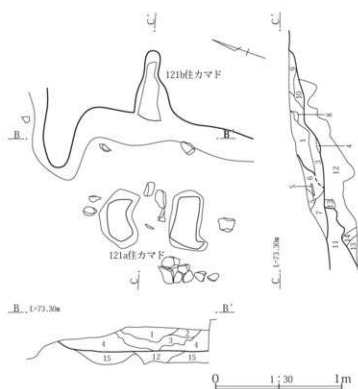
**カマド・炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

第2節 1区の遺構と遺物



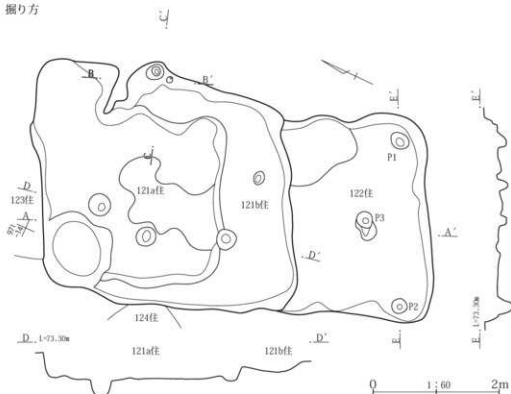
- 121号住居
- 1 暗褐色土 白色軽石、小礫を含む。
  - 2 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む。
  - 3 暗褐色土 白色軽石、炭化物粒子を含む。
  - 4 黒褐色土 ローム粒子を含む。
  - 5 褐色土 ロームブロックを含む。
  - 6 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 122号住居
- 7 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子を多く含む。
  - 8 褐色土 ロームブロックを含む。
  - 9 黒褐色土 ローム粒子を含む。
  - 10 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。



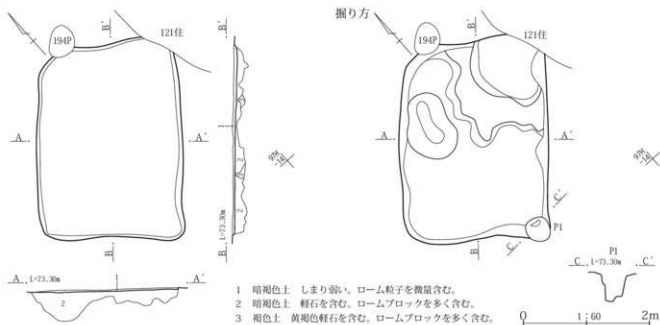
- 121号住居カマド
- 1 暗褐色土 焼土粒子多く含む。
  - 2 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
  - 3 暗褐色土 2層に焼土粒子を微量含む。
  - 4 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。
  - 5 暗褐色土 粘性あり。
  - 6 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子を含む。
  - 7 暗褐色土 ロームブロック、焼土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を多く含む。
  - 8 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
  - 9 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。
  - 10 暗褐色土 ロームブロック、炭化物粒子、焼土粒子を微量含む。
  - 11 暗褐色土 焼土ブロック多量に含む。
  - 12 暗褐色土 ローム粒子、軽石を含む。
  - 13 暗褐色土 ロームブロック含む。
  - 14 暗褐色土 12層に近いが、軽石がより少ない。
  - 15 暗褐色土 しまり弱い、ロームブロックを多く含む。

第149図 1区121a・121b・122号住居(1)

掘り方



第150図 1区121a・121b・122号住居(2)



- 1 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 軽石を含む。ロームブロックを多く含む。
- 3 相色土 黄褐色軽石を含む。ロームブロックを多く含む。

第151図 1区124号住居

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居の覆土、5・6層は掘り方充填土である。

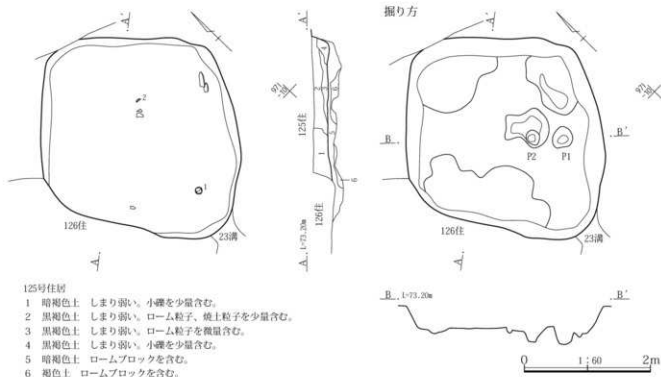
掘り方 全体的に掘り下げられ凹凸がある。深さ7cm～22cmである。ピット2基が検出された。P1は長径35cm・短径31cm・深さ21cm、P2は長径25cm・短径21cm・深さ20cmを測る。

遺物 覆土中から土器片の出土は非常に少ない。

時期 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

126号住居(第153・154・286図、P.L.77)

位置 97H・1-10グリッド、125・129号住居と重複している。土層を見る限りでは23号溝を壊していることから125・129号住居よりも新しい。



125号住居

- 1 暗褐色土 しまり弱い、小礫を少量含む。
- 2 黒褐色土 しまり弱い、ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 しまり弱い、ローム粒子を微量含む。
- 4 黒褐色土 しまり弱い、小礫を少量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 6 褐色土 ロームブロックを含む。

第152図 1区125号住居

**形状** 重複が激しいために不明である。しかし土層から判断すると住居ではなくて土坑になる可能性が高いものと思われる。 **主軸方位** 不明。

**規模** 不明。

**床面** ほぼ平坦である。

**カマド・炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。9～10層は覆土になる。

**掘り方** 確認できなかった。

**遺物** 覆土から土師器の杯が出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

129号住居(第153・154・288図、P.L.76・77)

**位置** 97H・1-10・11グリッド、126・127・130・139号住居、23号溝と重複している。126・130・139号住居、23号溝によって壊されている。

**形状** 方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-31°-W

**規模** 現状での面積は26.82㎡、確認できた長辺(北西～南東)6.22m、短辺(北東～南西)5.2m以上、残存壁高は30～38cmを測る。

**床面** 平坦である。全体的に硬化面は認められない。

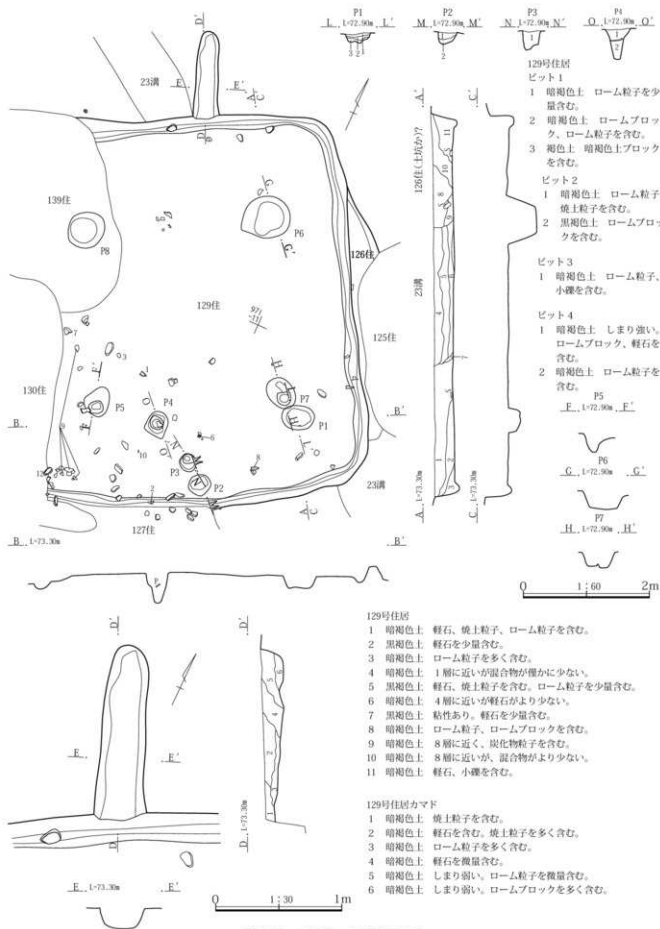
**カマド** 北壁の中央からやや東寄りに設置されているが、その主要部分は23号溝によって壊されてしまったものと思われる。壁を掘り込んで構築されている。長さ150cm、幅33cmである。1～6層はカマド覆土になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** ビット8基が検出された。P1は長径52cm・短径49cm・深さ18cm、P2は長径34cm・短径33cm・深さ20cm、P3は長径30cm・短径26cm・深さ30cm、P4は長径40cm・短径33cm・深さ47cm、P5は長径47cm・短径39cm・深さ30cm、P6は長径81cm・短径68cm・深さ24cm、P7は長径50cm・短径40cm・深さ24cm、P8は長径60cm・短径56cm・深さ12cmである。このうちP5・P6・P7・P8の4基が主柱穴になるものと思われる。P5-P7間とP8-P6の距離はいずれも3m、P5-P8間とP6-P7間の距離は同じく2.9mを測る。北側の柱穴2基の規模は南側の2基に比べて大きい。P2は出入口の施設になるか。

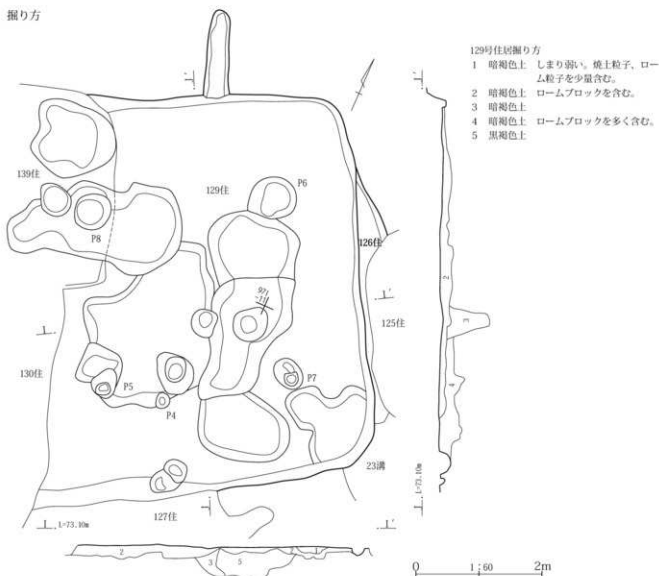
**周溝** 全周していたものと思われる。幅5～19cm、深さ5～10cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3・11層は住居覆土、4～7層は23号溝覆土、8～10層は別遺構(126号住居)の覆土になる。



第153図 1区126・129号住居(1)

掘り方



第154図 1区126・129号住居(2)

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、住居中央部で深くなっている。深さ5～52cmほどであり、凹凸が認められる。1～5層は掘り方充填土である。

**遺物** 住居の西南部の覆土中や床直上から土師器の杯や甕がややまとまって出土。土鍾も出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

127号住居(第155・156・287図、P.L.75～77・281)

**位置** 97G・H-10・11グリッド、129・130・131・132号住居と重複している。129・130・131号住居によって壊されている。

**形状** 重複が激しいために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-50°-E

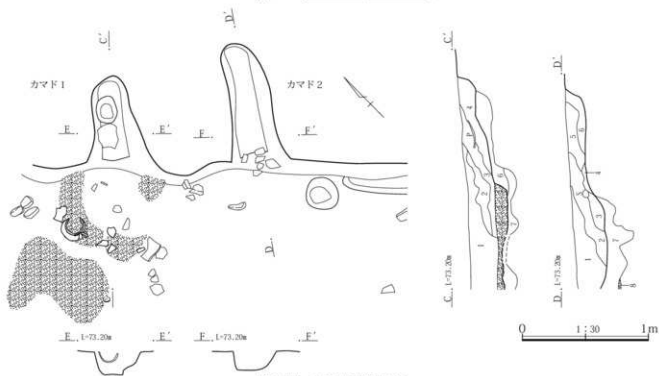
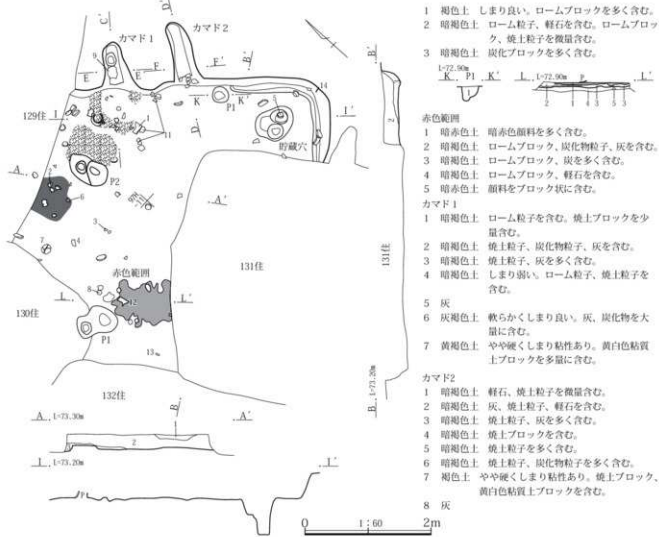
**規模** 現状での面積は12.03㎡、確認できた長辺(北東～

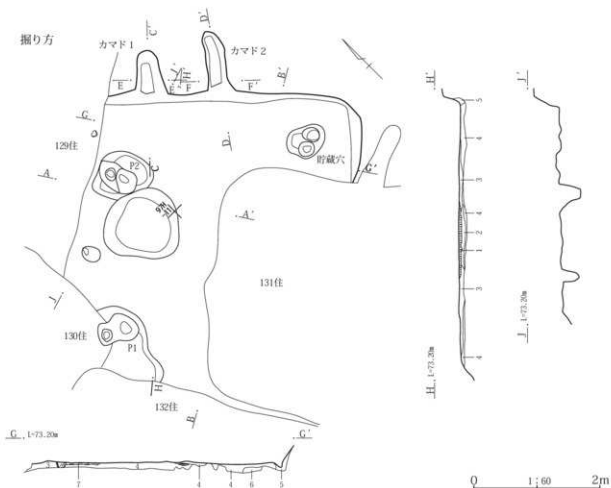
南西)4.57m、短辺(北西～南東)4.23m以上、残存壁高は25cmを測る。

**床面** 平坦である。全体的に硬化面は認められない。P1に近接して赤色の顔料と思われるものが分布していた。

**カマド** 北壁の中央に2箇所設置されているものと思われる。カマド1は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ128cm、焚き口部の幅50cmである。2～5層はカマド覆土になる。5層は灰、6・7層は掘り方になる。カマド前面に灰が堆積し、袖になると思われる甕が逆位状態で出土している。カマド2は壁を掘り込んで構築されている。長さ100cm、幅40cmである。2～6層はカマド覆土、7・8層は掘り方になる。その依存状況から判断すると、1に先行するカマドになるものと思われる。



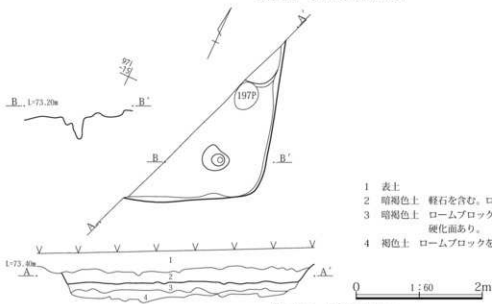




掘り方

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体とし、暗褐色土を含む。貼床。</p> <p>2 暗褐色土 硬くしまる。ロームブロックを含む。</p> <p>3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。</p> <p>4 黄褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。焼土ブロック、灰を含む。</p> | <p>5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物を少量含む。</p> <p>6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを多量に、黄白色粘質土ブロックを含む。</p> <p>7 灰</p> |
|---|---|

第156図 1区127号住居(2)



第157図 1区128号住居

- |  |
|--|
| <p>1 表土</p> <p>2 暗褐色土 軽石を含む。ローム粒子を微量含む。</p> <p>3 暗褐色土 ロームブロックを多く、小礫を含む。一部上面に硬化面あり。</p> <p>4 褐色土 ロームブロックを主体に礫を含む。</p> |
|--|

**貯蔵穴** 床面の北東隅から掘り方調査時に検出された。長径62cm・短径50cm、深さ54cmの楕円形を呈する。土器片が出土している。

**柱穴** 主柱穴になるビット2基が検出された。P1は長径52cm・短径48cm・深さ31cm、P2は長径66cm・短径37cm・深さ43cmを測る。残り2基は131号住居によって壊されてしまったものと思われる。P1-P2間の距離は2.4mを測る。

**周溝** 床面の北東隅を中心に部分的に検出された。本来はカマド部分を除いて全周していた可能性もある。幅9～15cm、深さ6cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、第Ⅱの2～7層は掘り方充填土、1層は貼床になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ6～10cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** カマド1内から(9)の土器器櫃が出土。またカマド1周辺からは土器器の杯や甕が出土している。土鍾は床面の西部分からの出土であった。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

#### 128号住居(第157図、P.L.77)

**位置** 97H・I-14グリッド、124号住居に接している。

**形状** 現道路下に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積は2.68㎡、確認できた長辺(北西～南東)2.5m、短辺(北東～南西)2.05m、残存壁高は20cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。カマド 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** ビット1基が検出された。長径41cm・短径35cm・深さ35cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。2層は住居覆土、3・4層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ16～31cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** 覆土中から少量の土器片が出土している。

**時期** 不明。

#### 130号住居(第158～160・288・289図、P.L.75～77・281)

**位置** 97C・H-11・12グリッド、127・129・132号・139号住居と重複し、壊している。

**形状** 隅丸長方形を呈する。主軸方位 N-15°-W

**規模** 面積は25.82㎡、長辺(南北)5.22m、短辺(東西)4.58m、残存壁高は42cmを測る。

**床面** 平坦である。一部に硬化面が認められる。

**カマド** カマドの痕跡も含めて5基検出されている。このうちカマド5は北壁の中央からやや東寄りに設置されている。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ154cm、焚き口部の幅70～80cmである。1～13層はカマド覆土、14・15層は掘り方になる。この前面の床面には灰や炭化物が分布している。カマド1と2は南寄りに、またカマド3と4はカマド1と2に対応するように東壁の南寄りに設置されている。カマド1はN-108°-W。長さ91cm・幅32cm・深さ22cm、1～5層がカマド覆土で焼土粒子と炭化物粒子を含んでいる。カマド2はN-94°-W。長さ57cm・幅45cm・深さ24cm、1～5層がカマド覆土で焼土粒子と炭化物粒子を含んでいる。両者の配置間隔は54cm～75cmを測る。カマド3はN-77°-E。長さ96cm・幅43cm・深さ22cm、1～5層がカマド覆土で焼土粒子を含んでいる。カマド4はN-80°-E。長さ84cm・幅43cm・深さ26cm、1～4層がカマド覆土で焼土粒子と炭化物粒子を含んでいる。両者の配置間隔は40cm～55cmを測る。

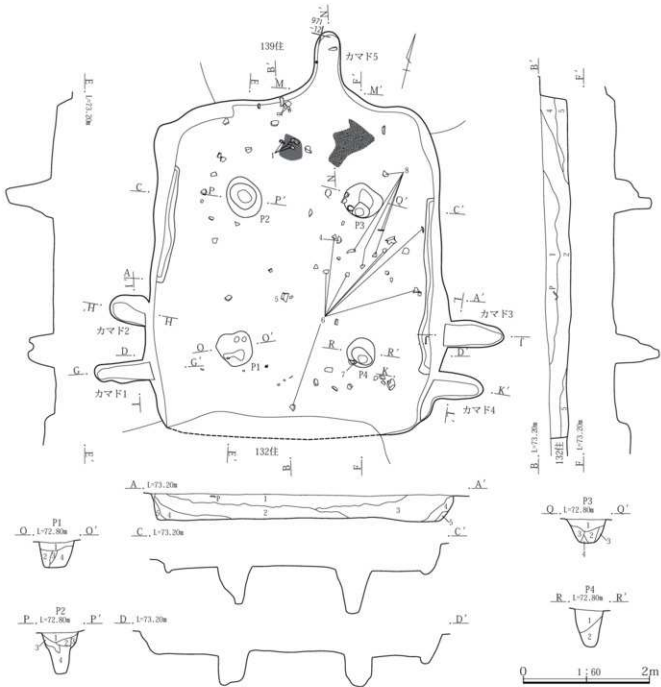
**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 床面からビット4基が検出された。P1は長径59cm・短径55cm・深さ38cm、P2は長径62cm・短径53cm・深さ64cm、P3は長径63cm・短径53cm・深さ38cm、P4は長径47cm・短径44cm・深さ62cmである。主柱穴になる。P1-P2間の距離は2.5m、P2-P3距離1.9m、P3-P4間距離2.35m、P4-P1間距離は2mを測る。

**周溝** 東壁下と西壁下で部分的に検出された。全周していたものかは判然としにくい。東壁下では長さ2.8m・幅8～16cm・深さ5～10cm、西壁下では長さ1.88m・幅8～17cm・深さ2～6cmであった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げているが、住居南部で深く



- 1 黒褐色土 しまり強い、軽石を少量含む。下層に灰層が一部みられる。
- 2 暗褐色土 軽石、炭化物粒子を含む。焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 2層に近いが混合物がより少ない。
- 4 暗褐色土 3層とほぼ同じ。
- 5 暗褐色土 粘性強い。ローム粒子、焼土粒子、軽石を含む。

ビット1

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。炭化物粒子、焼土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3 褐色土 ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック、炭化物ブロックを多量に含む。

ビット4

- 1 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。

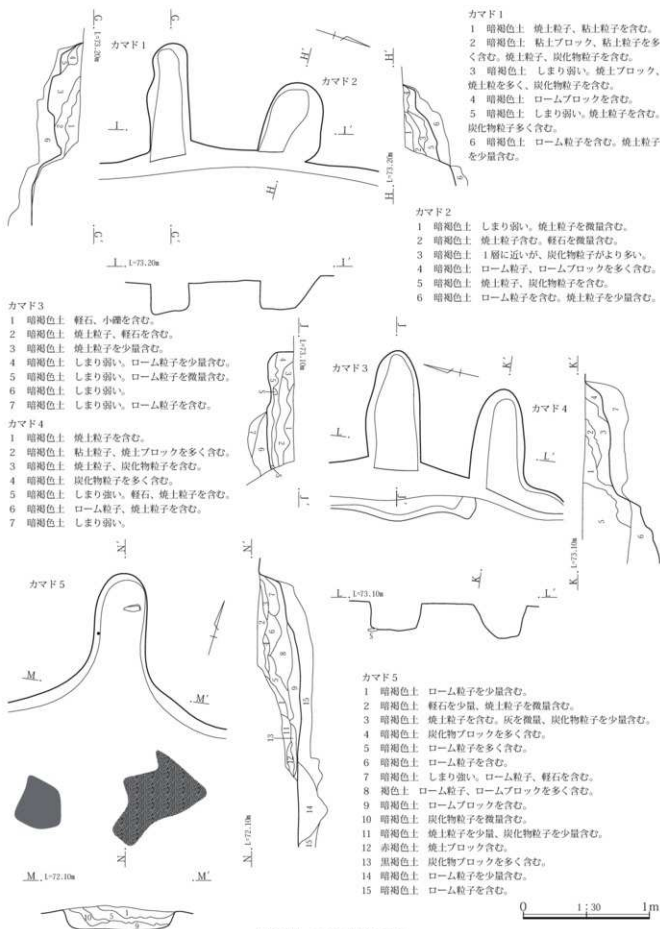
ビット2

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。暗褐色土ブロックと黄褐色土の混土。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

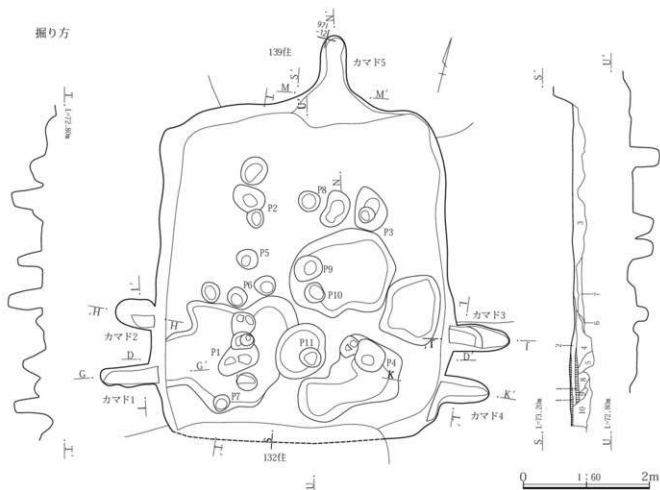
ビット3

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。暗褐色土ブロックと黄褐色土の混土。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 黄白色粘質土

第158図 1区130号住居(1)



第159図 1区130号住居(2)



## 掘り方

- 1 暗褐色土 褐色土層と暗褐色土層の互層。各層の上には硬化面あり。粘床。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、ロームブロックを含む。

5 暗褐色土 ロームブロックを含む。

6 灰褐色土 粘性強い。

7 褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。

8 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。ロームブロックを多く含む。

9 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。

10 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子、ロームブロックを含む。

第160図 1区130号住居(3)

なっている。深さ12～38cmほどであり凹凸が認められる。3～10層は掘り方充填土である。1層は硬化面になり、複数の床面が存在したようである。それは多数のピットの検出からも裏付けられる。掘り方調査時にP1とP2ライン上にP5・P6・P7が検出され、またP2・P3間とP1・P4間にP8とP11、またP5・P6に対応するようにP9・P10が配置されているなどである。それぞれのピットの規模は次のようになる。P5は長径45cm・短径42cm・深さ37cm、P6は長径30cm・短径29cm・深さ53cm、P7は長径30cm・短径25cm・深さ40cm、P8は長径35cm・短径34cm・深さ48cm、P9は長径45cm・短径39cm・深さ33cm、P10は長径34cm・短径30cm・深さ35cm、P11は長径35cm・短径30cm・深さ20cmである。またP8はP2～P3のほぼ真ん中、P11もP

1～P4間のほぼ真ん中に位置している。カマドの複数の存在とともに立て替え等が考えられる。

**遺物** 覆土中から土師器の杯や甕が出土している。刀子も出土。

**時期** 出土遺物から7世紀第4四半期に比定される。

131号住居(第161・162・289図、P.L.75・76・78・281)

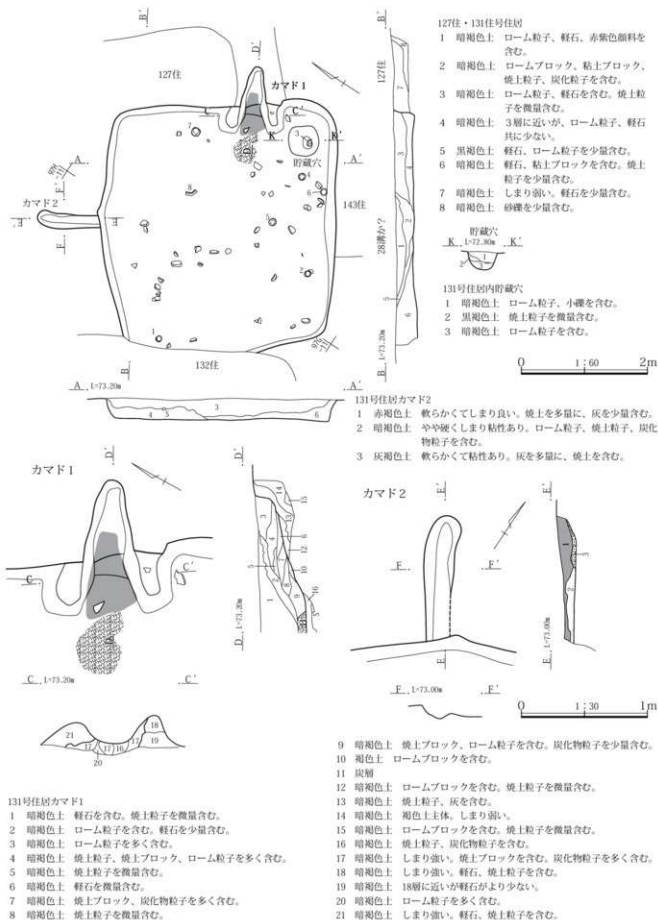
**位置** 97G-10・11グリッド、127・132・143号住居と重複し、壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-58°-E

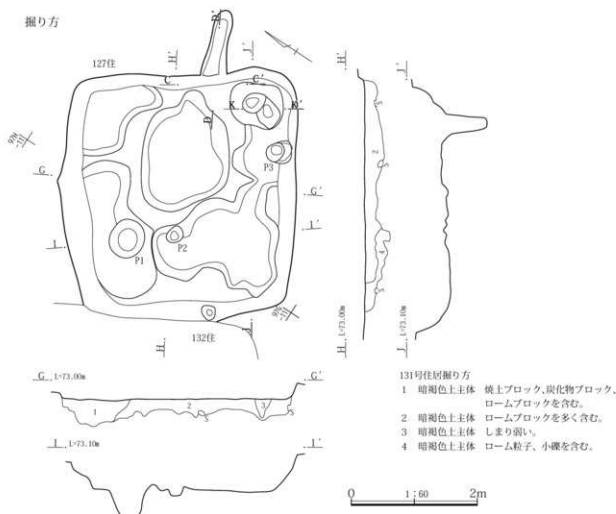
**規模** 面積は14.15㎡、長辺(北東～南西)3.88m、短辺(北西～南東)3.69m、残存壁高は35cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。一部に硬化面が認められる。

**カマド** カマドの痕跡も含めて2基検出されている。こ



第161図 1区131号住居(1)



第162図 1区131号住居(2)

のうちカマド 1 は東壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ106cm、焚き口部の幅50cm、袖を含めた幅は106cmである。2～11層はカマド覆土、12～16層は掘り方になる。この前面の床には灰が分布している。カマド 2 は北壁のほぼ中央に設置されている。長さ110cm・幅18～24cm・深さ8～14cm、1～3層がカマド覆土で焼土と灰を多量に含んでいる。

**貯蔵穴** 床面の東隅に位置している。長径48cm・短径47cm・深さ27cmの方形を呈する。覆土は3層に分かれた。柱穴 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。3・4・6層は住居覆土になる。1・2・5層はその堆積状況から見て別遺構の覆土になる。その場合、28号溝の可能性が高い。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ18～42cmほどであり凹凸が認められる。1～4層は掘り方充填土

である。掘り方調査時にビット3基を検出した。P 1 は長径61cm・短径54cm・深さ45cm、P 2 は長径28cm・短径23cm・深さ15cm、P 3 は長径40cm・短径36cm・深さ30cmである。

**遺物** 貯蔵穴やその周辺から土師器の杯、その他裏も出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀第3四半期に比定される。

132号住居(第163・164・289図、P.L.75・76・79)

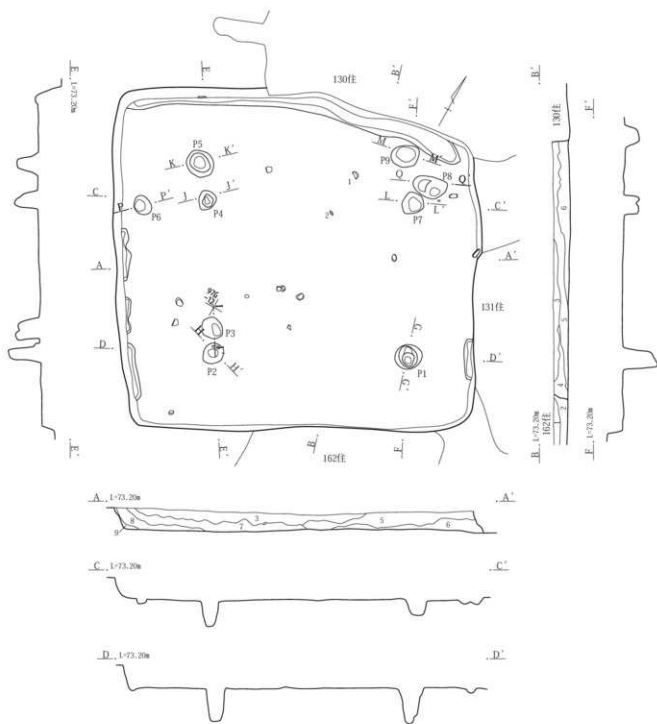
**位置** 97F・C-11・12グリッド、127・130・131・162号住居と重複し、130・131・162号住居によって壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-62°-E

**規模** 現状での面積は29.72㎡、長辺(北東～南西) 5.83m、短辺(北西～南東) 5.48m、残存壁高は22～35cmを測る。

**床面** 平坦である。一部に硬化面が認められる。

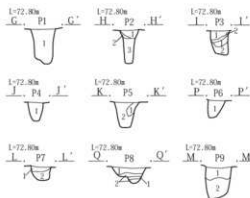




- 1 暗褐色土 軽石を含む。(162住フク土)
- 2 暗褐色土 軽石を少量、焼土粒子を微量含む。(162住フク土)
- 3 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む。
- 4 黒褐色土 軽石、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 3層に近いがよりロームブロック、ローム粒子が少ない。
- 6 黒褐色土 ロームブロックを多く、軽石、ローム粒子を含む。焼土粒子を微量含む。
- 7 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。軽石、ローム粒子を含む。焼土粒子を微量含む。
- 8 黒褐色土 軽石を少量含む。
- 9 褐色土 地山の流れ込み。

0 1:60 2m

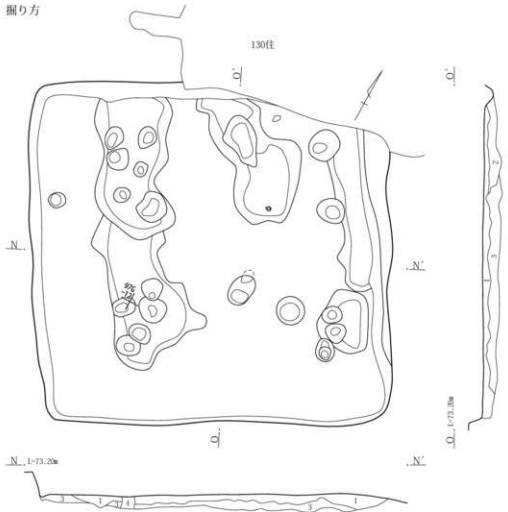
第163図 1区132号住居(1)



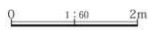
- ビット1  
1 暗褐色土 軽石を少量、ロームブロックを含む。
- ビット3  
1 暗褐色土 粘性強い。  
2 暗褐色土 粘土粒子を少量含む。
- ビット5  
1 暗褐色土 軽石を少量含む。  
2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- ビット7  
1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。  
2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- ビット9  
1 暗褐色土 軽石を少量含む。  
2 灰褐色土 粘性強い。

- ビット2  
1 暗褐色土 軽石を少量含む。  
2 灰褐色土 粘性あり。  
3 暗褐色土 1層に2層の粘土ブロック混ざる。
- ビット4  
1 暗褐色土 粘土粒子を少量含む。
- ビット6  
1 暗褐色土 軽石を少量含む。灰褐色粘土ブロック混じる。
- ビット8  
1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。  
2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

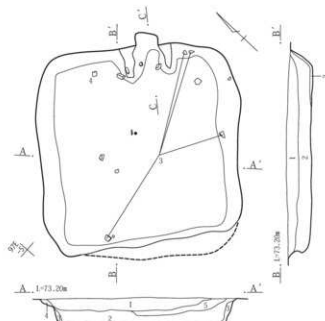
掘り方



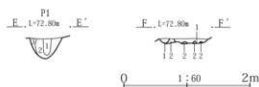
- 掘り方
- 1 黒褐色土 ロームブロック、灰褐色粘土ブロック含む。
  - 2 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
  - 3 暗褐色土 礫を含む、ロームブロックを多く含む。
  - 4 灰褐色土 粘性強い、ローム粒子を含む。



第164図 1区132号住居(2)



- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、炭化物粒子を少量含む。1層に比べて暗い色調。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまる。壁の崩れ。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。



ピット1

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームを多量に暗褐色土を少量含む。

F・F'

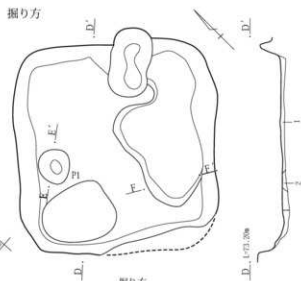
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを主体とする。

第165図 1区133号住居

カマド 検出できなかった。東壁か北壁に設置されていたものと考えられる。北東から南西に長軸があることから東壁の可能性が高い。131号住居によって壊されたものであろう。

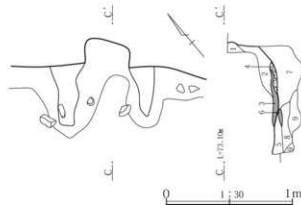
貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 床面から9基のピットが検出された。このうちP6・P8を除いたピットが柱穴になりそうである。P1は長径44cm・短径40cm・深さ55cm、P2は長径36cm・短径32cm・深さ52cm、P3は長径38cm・短径31cm・深さ



掘り方

- 1 暗褐色土 ローム粒子、小礫を含む。
- 2 褐色土 ロームブロックを含む。



カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 褐色土 軟らかい。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 3 赤褐色土 軟らかい。焼土、灰を多量に含む。
- 4 灰
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを含む。
- 6 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土を主体にロームブロックを含む。
- 7 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に。焼土ブロック、炭化物、灰を含む。
- 8 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 9 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。

38cm、P4は長径32cm・短径27cm・深さ30cm、P5は長径46cm・短径40cm・深さ38cm、P7は長径38cm・短径34cm・深さ25cm、P9は長径46cm・短径36cm・深さ51cmを測る。またP1-P2間の距離3.1m、P2-P5の距離3m、P5-P9間の距離3.3m、P9-P1間の距離は3.25mを測る。南側の柱穴P1とP2が深く、北側のP4とP7の2基は比較的浅い。

周溝 部分的に検出されている。幅9~34cm、深さ3~11cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。3～9層は住居覆土になる。1・2層は162号住居の覆土、10・11層は130号住居の覆土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、ピット周辺がやや深い。深さ13～27cmほどであり凹凸が認められる。

1～4層は掘り方充填土である。

**遺物** 覆土中から土師器や須恵器の杯が出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

#### 133号住居(第165・290図、P.L.79・281)

**位置** 97D・E-4グリッド、136・150号住居と重複し、137号住居と接している。136・150号住居を壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。 **主軸方位** N-58°-E

**規模** 面積は10.19㎡、長短辺ともに3.25m、残存壁高は35～40cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。一部に硬化面が認められる。

**カマド** 北壁のほぼ中央に設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ87cm、焚き口部の幅58cm、袖を含めた幅は90cmである。1～4層はカマド覆土、5～9層は掘り方になる。3層は焼土、4層は灰になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土になる。

**掘り方** 全体的に浅く掘り下げられている。深さ4～10cmほどであり凹凸が認められる。1・2層は掘り方充填土である。掘り方調査時にピット1基を検出した。長径55cm・短径49cm・深さ36cmを測る。覆土は3層に分かれた。

**遺物** 覆土中やカマド周辺から土師器の杯や鉢が出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀後半に比定される。

#### 134号住居(第166・167・290図、P.L.80・282)

**位置** 87C-18、87C-D-19グリッド、86・87・96号住居と重複している。86・87・96号住居によって壊されている。

**形状** 方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-65°-E

**規模** 現状での面積47.65㎡、長辺(北東～南西)7.5m、短辺(北西～南東)6.5m、残存壁高15～36cmを測る。

**床面** やや凹凸が認められる。硬化面はあまり認められなかった。

**炉** 主柱穴に囲まれた内側、P7・P8に近接した所から検出された。長径80cm・短径52cm・深さ5cmを測る。覆土は2層で焼土が堆積していた。

**貯蔵穴** 掘り方調査時に貯蔵穴の可能性のある土坑が床面の北西隅から検出された。長径66cm・短径61cm・深さ37cmの楕円形を呈する。

**柱穴** 主柱穴3基が検出された。P5は長径45cm・短径43cm・深さ54cm、P7は長径43cm・短径40cm・深さ44cm、P4は長径53cm・短径41cm・深さ30cmを測る。P4-P5間の距離は3.1m、P5-P7間距離3.4mを測る。

その他のピットの規模は次のとおりである。P1は長径57cm・短径35cm・深さ42cm、P2は長径50cm・短径36cm・深さ35cm、P3は長径28cm・短径26cm・深さ21cm、P6は長径24cm・短径21cm・深さ20cm、P9は長径42cm・短径34cm・深さ27cm、P10は長径54cm・短径52cm・深さ13cmである。

**周溝** 南壁と西壁下、北壁下で部分的に検出できた。幅15～24cm、深さ3～12cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土、3層は貼床になる。4・5層は掘り方充填土である。

**掘り方** 全体的に掘り下げられて凹凸があるが浅い。深さ5～18cmを測る。主柱穴に囲まれた部分を比較的残している。

**遺物** 覆土中や床直上から土器が出土。ほぼ完形のS字状口縁台付甕(6)は床面の南西隅から出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

#### 136号住居(第168～171・290・291図、P.L.81・282)

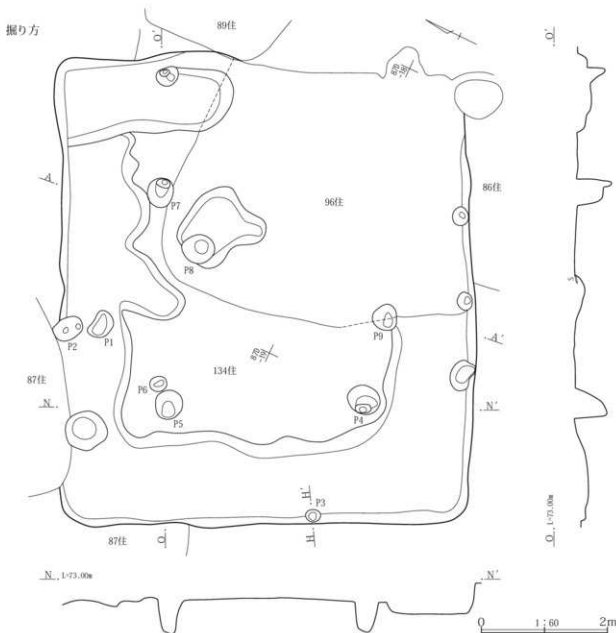
**位置** 97E・F-3・4グリッド、133・137号住居と重複し、壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。 **主軸方位** N-47°-E

**規模** 現状での面積は35.85㎡、長辺(北東～南西)6.92m、短辺(北西～南東)6.29m、残存壁高は20～26cmを



第166図 1区134号住居(1)



第167図 1区134号住居(2)

測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

P 1とP 4周辺に灰の分布が認められた。

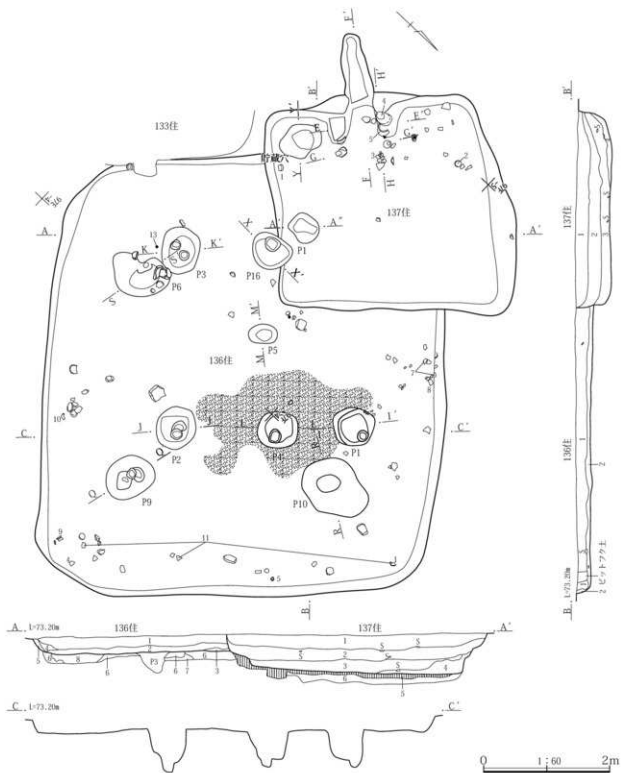
**炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 掘り方調査時に検出されたP 19が該当しそのである。床面の西隅に位置している。長径45cm・短径43cm、掘り方からの深さ45cmのほぼ円形を呈する。

**柱穴** 床面の調査時に検出されたのは、P 1～P 6の6基のピットである。P 1は長径67cm・短径63cm・深さ44cm、P 2は長径69cm・短径62cm・深さ65cm、P 3は長径75cm・短径59cm・深さ43cm、P 4は長径64cm・短径57cm・深さ42cm、P 5は長径46cm・短径31cm・深さ

21cm、P 6は長径42cm・短径32cm・深さ32cmを測る。P 1～P 2間の距離は3m、P 2～P 3間距離2.9m、そしてもう1基のピットは137号住居によって壊されてしまったものと思われる。

P 1とP 2のほぼ中間にはP 4があり、それに対応するピットはP 16になる。以上が柱穴として機能したものである。ところが掘り方調査時にP 7～P 20までの14基のピットが検出された。この中のP 9・10・P 11は主柱穴になる可能性が高くなった。P 9は長径80cm・短径64cm・深さ45cm、P 10は長径113cm・短径87cm・深さ42cm、P 11は長径97cm・短径67cm・深さ44cmである。P 9～P 10間とP 9～P 11の距離はいずれも3mを測ることから、



136号住居

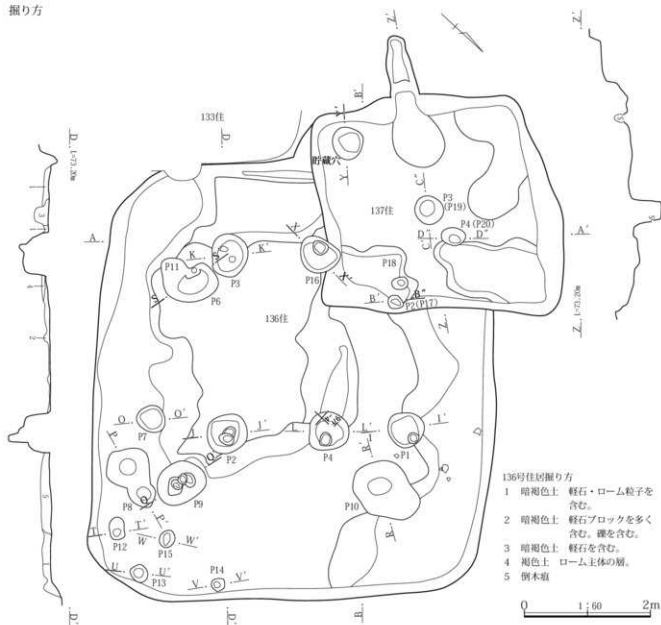
- 1 暗褐色土 やや硬くしめる。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 灰褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 やや硬くしめる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 5 黄褐色土 軟らかくして粘性あり。壁の崩れ。
- 6 暗褐色土 軽石、ローム粒子を含む。
- 7 褐色土 ローム主体の層。
- 8 暗褐色土 転石を含む。暗褐色土ブロックをマダラ状に含む。

137号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしめる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子をやや多く、白色軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくして粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくして粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。粘床。
- 6 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。

第168図 1区136・137号住居(1)

掘り方



第169図 1区136・137号住居(2)

P18としたところに支柱穴があったと思われる。137号住居に壊されてしまった、その痕跡と見ることも可能であろう。以上のことから、構築時の柱穴はP9・10・P11・P18の4基、その後改築された結果、P1～P4・P16などが構築されたものと思われるが、その前後関係が逆もまた考えられる。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土、6～8層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、柱穴から壁に向かった外周がやや掘り込まれている。柱穴に囲まれた部分の掘り込みが浅い結果となっている。深さ5～

15cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** 覆土や床直上から土器や礫が出土。西壁下中央から(8)のS字状口縁台付甕が出土。(11)の甕は北壁寄りには拡散して出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

137号住居(第168～171・291図、P.L.82・282)

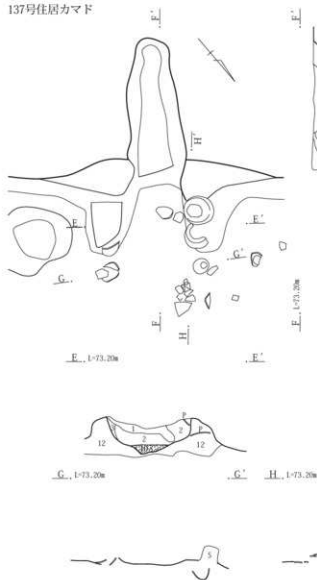
**位置** 97E・F-4・5グリッド、136号住居と重複し、壊している。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-135°-W

**規模** 面積は12.61㎡、長辺(北西～南東)3.7m、短辺(北東～南西)3.4m、残存壁高は45～61cmを測る。



137号住居カマド



137号住居カマド

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。ロームを主体に焼土粒子、炭化物を含む。
- 2 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土、ローム、炭化物を多量に含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。ロームを主体に、焼土粒子を含む。
- ※ロームはカマド構築材
- 4 黄白色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 7 茶褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくしまり良い。ローム粒子を少量含む。
- 10 灰
- 11 赤褐色土 軟らかく粘性あり。焼土、灰を多量に含む。
- 12 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロック、暗褐色土を含む。軟らかく粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子、ロームブロックを含む。
- 13 暗褐色土
- 14 焼土
- 15 灰褐色土 非常に軟らかく粘性あり。灰を多量に焼土ブロックを含む。

第170図 1区136・137号住居(3)

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。  
**カマド** 西壁の中央から南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ172cm、焚き口部の幅64cm、袖を含めた幅は110cmである。袖には土師器の裏と礎が使用されている。1～11層はカマド覆土になるが、12～15層も古いカマドの覆土になるものと思われる。10層は灰、14層は焼土になる。底面から支脚となった礎が出土している。

**貯蔵穴** 床面の南隅に位置している。長径70cm・短径52cm・深さ20cmの楕円形を呈する。

**柱穴** 床面調査時(P17)と掘り方調査時(P18～P20)に計4基のピットが検出された。これらのピットは136号住居のピットになるものと思われる。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。セクションA-A'、B-B'の1～4層は住居覆土、5層は貼床、6層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、住居四隅でやや深くなっている。深さ8～13cmほどであり、凹凸が認められる。セクションD-D'の1～5層は掘り方充填土になる。

**遺物** カマドを主体に土器が出土。カマドの袖として土師器の裏(4・5)が使用されている。

**時期** 出土遺物から7世紀後半代に比定される。

138号住居(第172～174・292～294図、P.L.83・84・283・284)

位置 97F・G-5・6グリッド、140号住居と重複し、壕



## 136号住居

## ビット1

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。

## ビット2

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。

## ビット3

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。



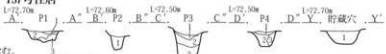
## ビット4

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。

## ビット5

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

## 137号住居



## ビット6

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。

## ビット7

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、白色粒子を含む。



## ビット8

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくしてしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。



0 1:60 2m

## ビット9

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体とする。
- 5 暗褐色土 軟らかくしてしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 6 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混上。

## ビット10

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混上。

## ビット11

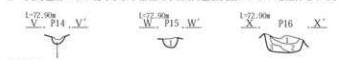
- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体とする。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混上。

## ビット12

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子を多量に含む。

## ビット13

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを主体とする。



## ビット14

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。

## ビット15

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を含む。

## ビット16

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を多量に含む。

## ビット1

- 1 臥床 硬くしまり。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に、暗褐色土を含む。

## ビット2 (P17)

- 1 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

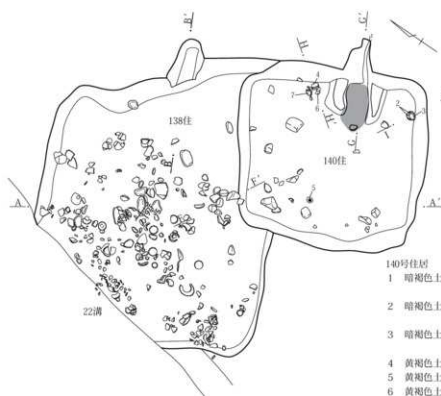
## ビット3 (P19)

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくしてしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- 4 (P20)
  - 1 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土をやや多く含む。
  - 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり粘性あり。黄白色粘質土を含む。
  - 3 黄白色土 やや硬く粘性あり。暗褐色土を少量含む。

## 貯蔵穴

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくしてしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土を含む。

第171図 1区136・137号住居(4)

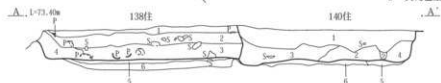


138号住居

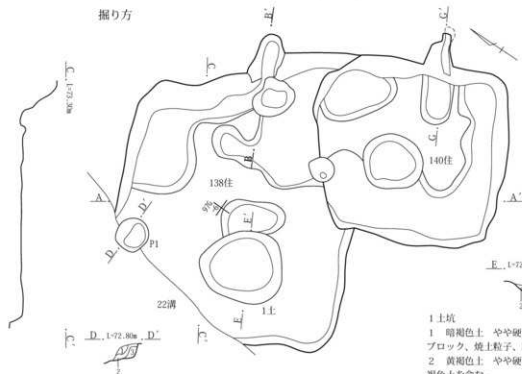
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。暗褐色土とロームの混上。
- 6 茶褐色土 やや硬くしまる。ロームを主体に暗褐色土を含む。

140号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 4 黄褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。ロームを多量に含む。
- 5 黄褐色土 やや硬い。暗褐色土を含む。
- 6 黄褐色土 やや硬い。5層よりも暗褐色土が少ない。



掘り方

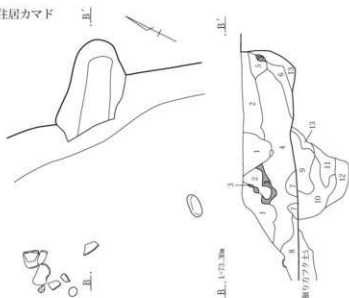


1ピット

- 1 黄白色粘質土層 硬くしまる。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、灰、炭化物を含む。
- 3 黄褐色土 硬くしまる。ローム主体の層。

第172図 1区138・140号住居(1)

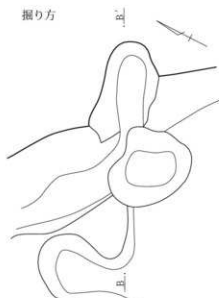
138号住居カマド



138号住居カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 3 焼土
- 4 赤褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロックを多量に、ロームブロック、炭化物、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い、粘性あり。焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、ロームを含む。
- 7 黒褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。
- 9 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体の層。
- 10 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 11 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム主体の層。

掘り方



- 12 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム主体の層。1層よりもやや暗い色調。
- 13 褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子やや多く含む。

140号住居カマド

- 1 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム、焼土ブロック、灰を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかい。ローム主体で、炭化物を少量含む。
- 3 褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、焼土ブロックを含む。
- 4 灰
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、炭化物を含む。
- 6 灰褐色土 やや硬い。灰を多量に、焼土粒子、炭化物を含む。

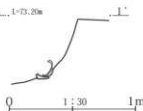
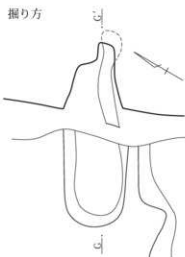
138号遺物出土状態



140号住



掘り方



第173図 1区138・140号住居(2)



第174図 1区138号住居遺物出土状況

されている。

**形状** 方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-58°-E

**規模** 現状での面積は12.65㎡、長辺(北東～南西) 4.25m、短辺(北西～南東) 3.8m、残存壁高は45cmを測る。

**床面** ほほ平坦である。全体的に硬化は認められない。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置されている。燃焼部は床

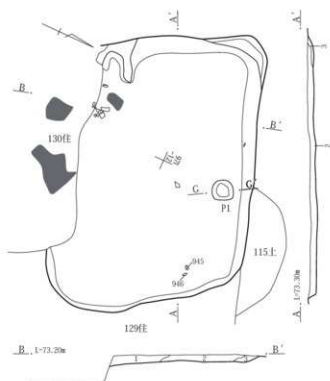
面から壁を掘り込んで構築されている。長さ130cm、幅46～68cmである。1～8層はカマド覆土、9～13層は別遺構になる可能性がある。

**貯蔵穴** 明瞭な貯蔵穴を検出することはできなかった。

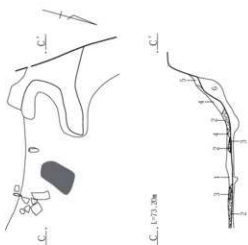
**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

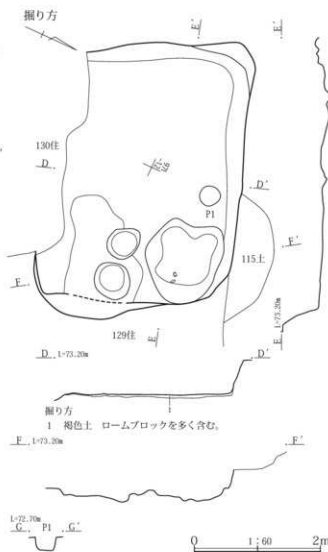
**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居覆土、



- 1 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、軽石を含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。軽石、炭化物粒子、焼土粒子ともに微量含む。



0 1:30 1m



- 掘り方
- 1 褐色土 ロームブロックを多く含む。

- カマド
- 1 褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム、焼土、灰を含む。
  - 2 灰
  - 3 焼土
  - 4 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土を主体とし、焼土を含む。カマド構築材。
  - 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
  - 6 褐色土 しまり強い。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

0 1:60 2m

第175図 1区139号住居

5層は貼床、6層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ14cmほどであり、凹凸が認められる。掘り方調査時に土坑1基とピット1基が検出された。土坑は長径132cm・短径115cm・深さ18cmの楕円形を呈する。ピットは長径52cm・短径50cm・深さ26cmの楕円形を呈する。

**遺物** 覆土上層を主体に土器や礫が一括廃棄された状態で多量に出土している。土師器の杯15個体以上、鉢4個

体、甕15個体以上、甗2個体などである。また土踵2点も出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

140号住居(第172・173・294図、P.L.83・84・285)

**位置** 97F-5グリッド、138号住居と重複し、壊している。

**形状** 方形を呈する。 **主軸方位** N-57°-E

**規模** 面積は8.25㎡、長辺(北西-南東)3m、短辺(北東-南西)2.9m、残存壁高は48～60cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。  
**カマド** 東壁のほぼ中央に設置されている。燃焼部は床面を掘り込んで構築されている。長さ146cm、焚き口部の幅36cm、袖を含めた幅は90cmである。1～6層はカマド覆土、4層は灰になる。

**貯蔵穴** 明瞭な貯蔵穴を検出することはできなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居覆土、5・6層は掘り方充墳土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが非常に浅い。深さ3～8cmほどであり、凹凸が認められる。土坑1基が検出された。長径95cm・短径86cm・深さ23cmの楕円形を呈する。

**遺物** カマド周辺や覆土中から出土。カマドに近接する東壁下からは土師器の杯や鉢がまとまって出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半に比定される。

139号住居(第175・294図、P.L.85)

**位置** 97H・1-11・12グリッド、129・130号住居、115土坑と重複している。129号住居を壊し、130号住居に壊されている。

**形状** 隅丸長方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-115°-W

**規模** 現状での面積は11.58㎡、長辺(北東-南西)4.15m、短辺(北西-南東)3.15m、残存壁高は10～53cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

**カマド** 西壁の中央から南寄りに設置されている。燃焼部は床面を掘り込んで構築されている。長さ70cm、焚き口部の幅26cm、袖を含めた幅は70cmである。1～5層はカマド覆土、6層は掘り方になる。2層は灰、3層は焼土になる。この前面の床には炭が分布している。

**貯蔵穴** 床面から明瞭な貯蔵穴を検出することはできな

かった。

**柱穴** 北壁の中央やや東寄りの床面からビット1基が検出された。長径34cm・短径32cm・深さ20cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土になる。

**掘り方** 全体的に浅く掘り下げられている。深さ3～20cmほどであり凹凸が認められる。とりわけ東壁周辺が顕著である。1層は掘り方充墳土である。

**遺物** カマド周辺と東壁に近接して少量の土器片が出土している。土鏝1点も出土。

**時期** 出土遺物から7世紀前半に比定される。

141号住居(第176～178・295図、P.L.85・285)

**位置** 97F-8・9グリッド、142号住居と重複し、壊されている。

**形状** 方形を呈する。 **主軸方位** N-45°-E

**規模** 現状での面積は8.83㎡、長辺(北東-南西)3.45m、短辺(北西-南東)2.85m、残存壁高は4～14cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。  
**炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土、3～5層は掘り方充墳土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ2～8cmほどであり、凹凸が認められる。ビット1基が検出された。長径20cm・短径18cm・深さ25cmである。

**遺物** 床面の東隅からS字状口縁付甕(2・3)、ほぼ完形のS字状口縁付甕(1)も床直上から出土している。

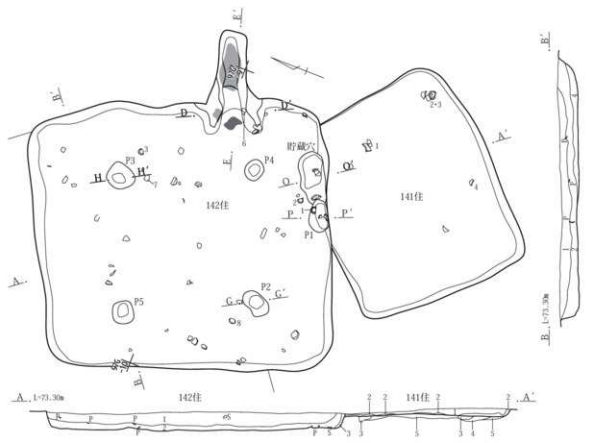
**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

142号住居(第176～178・295図、P.L.85・86・285)

**位置** 97G-8～10、97F-9グリッド、141・143号住居と重複し、壊している。

**形状** 方形を呈する。 **主軸方位** N-68°-E

**規模** 面積は19.78㎡、長辺(北西-南東)4.54m、短辺(北東-南西)4.22m、残存壁高は21～27cmを測る。



## 141号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 4 褐色土 ローム粒子を含む。
- 5 褐色土 暗褐色土ブロックを含む。

## 142号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。灰の崩れ。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を含む。

## 142号住居

- 1 黒褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を多く含む。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

## ビット2

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

## ビット3

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

## 貯蔵穴

- 1 黒褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を多く、ローム粒子を含む。

第176図 1区141・142号住居(1)

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。  
**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ175cm、焚き口部の幅40cm、袖を含めた幅は93cmである。1～6層はカマド覆土、7～17層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 南壁に接し床面の南東隅に位置している。長径83cm・短径38cm・深さ17cmの長楕円形を呈する。

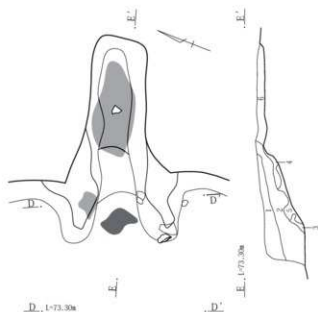
**柱穴** P2～P5の4基のビットが主柱穴になる。P2は長径48cm・短径28cm・深さ24cm、P3は長径43cm・短径38cm・深さ31cm、P4は長径33cm・短径28cm・深さ

20cm、P5は長径35cm・短径33cm・深さ16cmを測る。4基の柱の間隔はいずれも2.1mを測る。またP2に近接してP6・P7が検出された。P6は長径31cm・短径26cm・深さ28cm、P7は長径30cm・短径26cm・深さ28cmを測る。P1は南壁下に貯蔵穴に接して検出された。長径50cm・短径30cm・深さ14cmである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、セクション1-1'とJ-J'の1～5層は掘り方充填土になる。



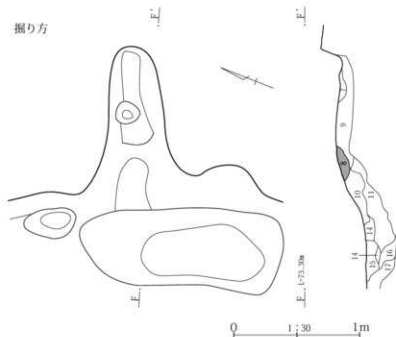


142号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 灰褐色土 軟らかくて粘性あり。灰を多量に、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 4 赤褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土を多量に、ロームを含む。
- 5 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム、焼土をやや多く含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を少量含む。
- 7 暗褐色土 焼土粒子、焼土ブロック、灰を多く含む。
- 8 焼土
- 9 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を含む。軽石を少量含む。
- 10 黒褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を多く、軽石を微量含む。
- 11 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 12 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。
- 13 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。
- 14 褐色土 ロームブロック主体。
- 15 暗褐色土 ローム粒子を含む。焼土粒子を少量含む。
- 16 褐色土 焼土粒子を含む。
- 17 褐色土 暗褐色土ブロックを含む。



掘り方



第177図 1区141・142号住居(2)

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、柱穴から壁に向かった外周がやや掘り込まれている。柱穴に囲まれた部分の掘り込みが浅い結果となっている。深さ8～23cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** 覆土中や床直上から土器が出土。貯蔵穴周辺やカマドから土師器の杯が出土している。(10)の土師器の甑は掘り方覆土からの出土であり、143号住居に伴うもの

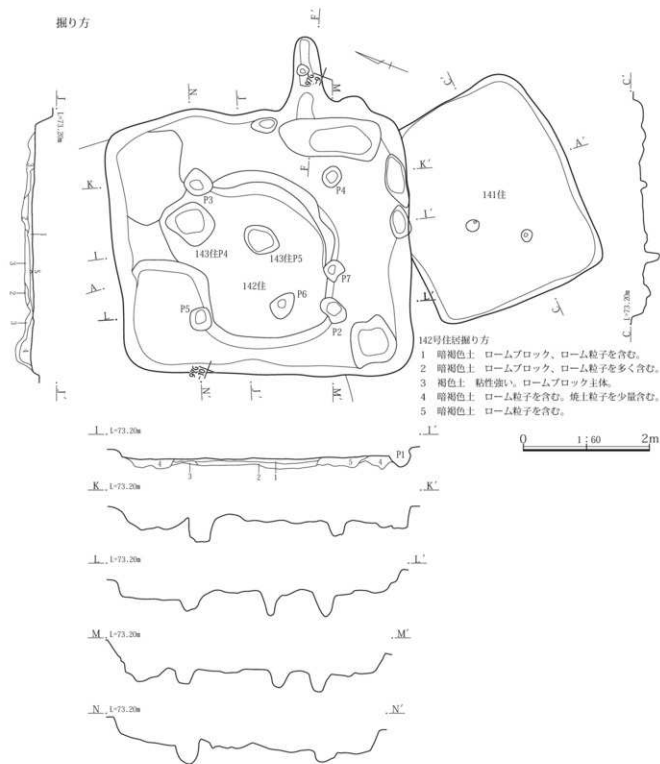
であろう。

**時期** 出土遺物から7世紀第3四半期に比定される。

**143号住居**(第179・180・295・296図、P.L.87・285)

**位置** 97F・G-9・10グリッド、131・142号住居と重複し、壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-40°-W



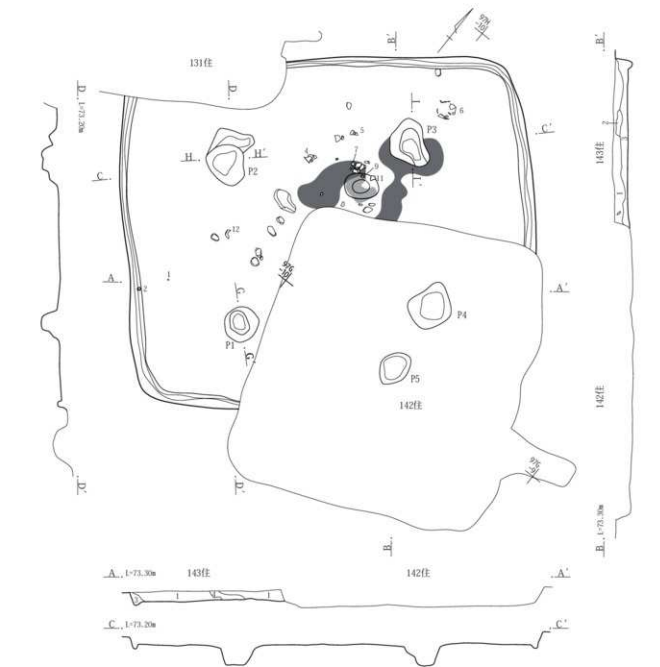
第178図 1区141・142号住居(3)

**規模** 現状での面積は21.63㎡、長辺(北東～南西) 6.58m、短辺(北西～南東)推定5.4m、残存壁高は20～30cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。  
**炉** P2とP3の内側の床面に炭の分布が認められた。やや広範囲な分布となっているが、その下からピット

が検出された。これが炉に該当する。長径54cm・短径41cm・深さ4cmを測る。覆土は1層で焼土粒子を含んでいた。

**貯蔵穴** 142号住居の掘り方面から検出されたP5が貯蔵穴になるものと思われる。長径59cm・短径44cm・深さ34cmを測る。



- ピット 1
- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
  - 2 暗褐色土 粘性強い。ロームブロックを含む。
  - 3 黒褐色土 ロームブロックを含む。



- ピット 2
- 1 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
  - 2 黒褐色土 炭化物粒子を少量含む。
  - 3 黒褐色土 焼土ブロック。炭化物粒子を多く含む。

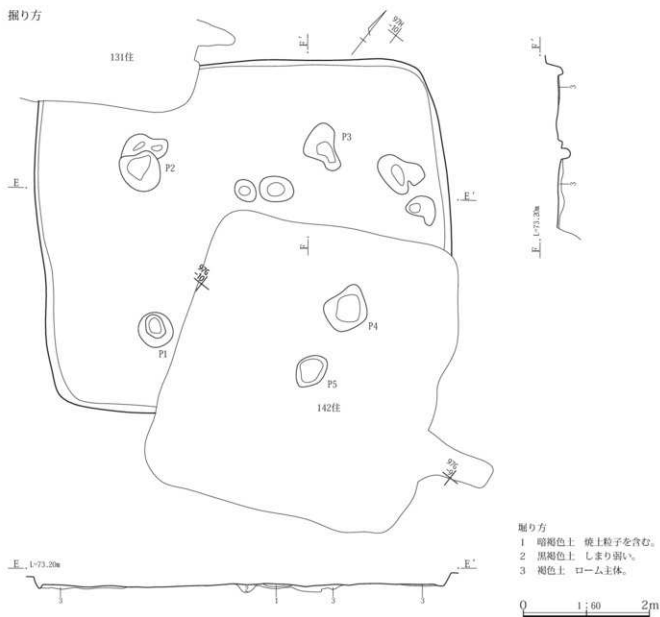


- ピット 3
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
  - 2 黒褐色土 ロームブロック含む。
  - 3 粘土ブロック

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを多量に、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。

0 1:60 2m

第179図 1区143号住居(1)



第180図 1区143号住居(2)

**柱穴** P1～P3の3基のピットと142号住居の掘り方で検出されたピット(P4)が主柱穴になる。P1は長径55cm・短径53cm・深さ26cm、P2は長径65cm・短径58cm・深さ26cm、P3は長径77cm・短径55cm・深さ29cm、P4は長径66cm・短径57cm・深さ29cmを測る。P1～P2間の距離とP3～P4間の距離は同じく2.5m、そしてP1～P4間距離とP2～P3間距離も同じく3mを測る。いずれのピットも規模は大きいが比較的浅い。

**周溝** 全周していたものと思われる。幅7～15cm、深さ3～8cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土になる。

**掘り方** 床面全体ではなくて部分的な掘り下げが認めら

れる。深さ3～9cmほどであり浅い。掘り方セクション図E-E'の1層は炉の覆土、2層は炉に近接するピットの覆土となり、掘り方充填土は3層が該当する。

**遺物** 炉を中心に土器や礫が出土。土師器のミニチュア土器2点は南壁下や近接して、S字状口縁台付甕や壺は炉の周辺から出土している。高杯も同様である。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

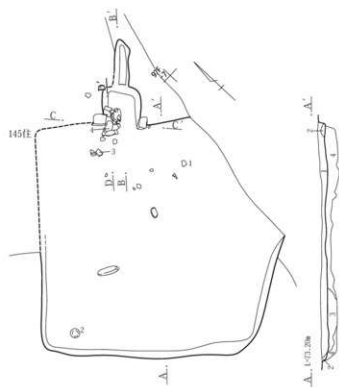
**144号住居**(第181・296図、P.L.87・285)

**位置** 97E-F-7グリッド、145号住居、22号溝と重複し

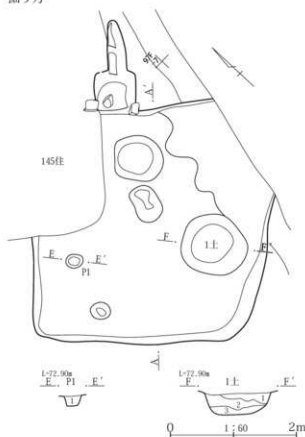
ている。145号住居を壊し、22号溝によって壊されている。

**形状** 方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-46°-E



掘り方



- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多く、粘土ブロックを含む。
- 4 褐色土 ローム主体。

ビット1

- 1 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロック多く含む。

土坑1

- 1 暗褐色土 軽石を微量含む。
- 2 黒褐色土 軽石を含む。
- 3 暗褐色土 粘性強い。ロームブロックを含む。

カマド

- 1 暗褐色土 軽石を含む。ロームブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック、軽石、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱い。焼土粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。焼土粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 しまり弱い。焼土ブロックを含む。炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 焼土ブロックを多く含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。粘土ブロックを含む。
- 10 焼土
- 11 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを含む。
- 12 暗褐色土 軽石、ローム粒子を含む。

0 1:30 1m

第181図 1区144号住居

**規模** 現状での面積は13.15㎡、長辺(北東～南西)3.74m、短辺(北西～南東)3.63m、残存壁高は2～11cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。  
**カマド** 東壁の中央からやや西寄りに設置されている。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ208cm、焚き口部の幅48cm、袖を含めた幅は85cmである。袖には石2個、支脚の石も残されていた。土器が出土している。  
 1～8層はカマド覆土、9～12層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土、3・4層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、床面中央部では掘り込みが浅くなっている。深さ6～20cmほどであり、凹凸が認められる。掘り方調査時にピット1基と土坑1基が検出された。P1は長径27cm・短径22cm・深さ15cm、土坑1は長径106cm・短径96cm・深さ34cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれた。

**遺物** カマドを主体に土器が出土。(2)の土師器の杯は床面の南西隅から、(3・4)の土師器の裏はカマドからの出土である。

**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

145号住居(第182・183・296・297図、P.L.88・286)

**位置** 97E～G-7、97F-6、97F-8グリッド、144・146・148号住居と重複し、壊されている。

**形状** 長方形を呈する。主軸方位 N-38°-E

**規模** 現状での面積は43.95㎡、長辺(北東～南西)推定7.77m、短辺(北西～南東)6.09m、残存壁高は13～36cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。  
**炉** P4の南約85cmの所から検出された。長径54cm・短径41cm・深さ4cmを測る。覆土は1層で焼土粒子を含んでいた。また炉の東約80cmの所と北西にほぼ接して炭化物の分布が見られた。

**貯蔵穴** P8とした土坑が貯蔵穴になるものと思われる。長径79cm・短径75cm・深さ51cmの楕円形を呈する。覆土は4層に分かれた。P1も貯蔵穴になる可能性がある。

。長径55cm・短径53cm・深さ33cmのほぼ円形を呈する。覆土は3層に分かれた。

**柱穴** P2・P4・P5・P7の4基のピットが主柱穴になる。P2は長径68cm・短径68cm・深さ35cm、P4は長径68cm・短径63cm・深さ35cm、P5は長径50cm・短径42cm・深さ30cm、P7は長径69cm・短径66cm・深さ37cmを測る。P2-P5間の距離とP4-P7間の距離は同じく3.7m、そしてP2-P4間距離とP5-P7間距離は3.5mを測る。いずれのピットも規模は大きいのが比較的浅い。P3は長径41cm・短径32cm・深さ15cmである。  
**周溝** 西壁と南壁下から検出されたが、本来は全周していたものと思われる。現状での幅4～12cm、深さ2～9cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～7層は住居覆土になる。

**掘り方** 床面全体ではなくて部分的な掘り下げが認められる。ほぼ主柱穴に囲まれた部分を掘り残して壁に沿って掘り下げている。深さ5～27cmほどであり浅い。掘り方セクションI-I'の1層が充填土になる。

**遺物** 床面直上やピット内から土器が出土。P4から(15)の土師器の壺、P6から(10)の土師器の小型甕、P7から(7)のS字状口縁台付甕が出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

146号住居(第184・297・298図、P.L.89・90・286)

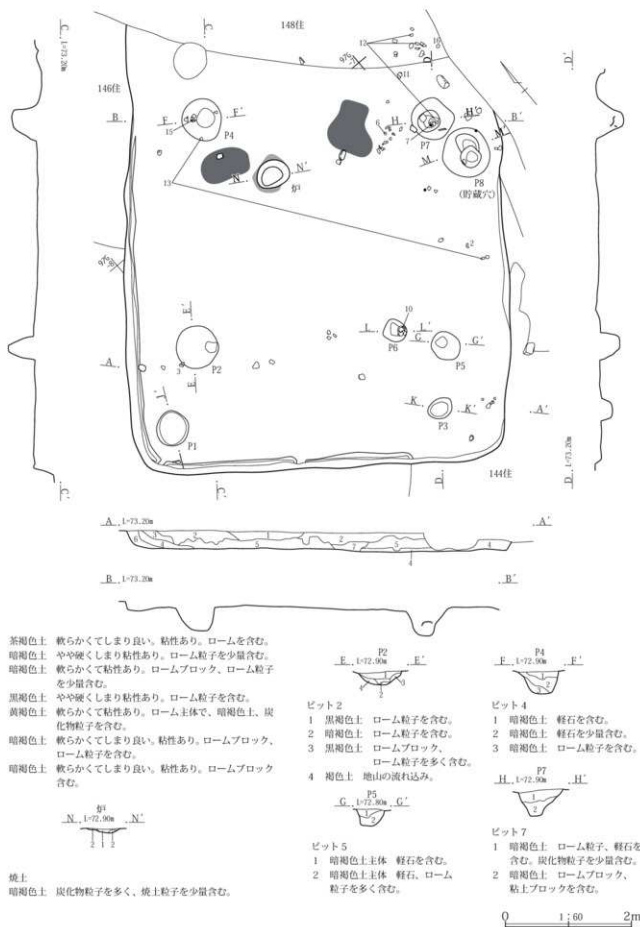
**位置** 97G-7・8グリッド、145・148号住居、104号土坑と重複している。148号住居、104号土坑によって壊され、145号住居を壊している。

**形状** 全容は不明であるが、隅丸長方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-36°-W

**規模** 現状での面積は10.56㎡、現状での長辺(北東～南西)3.74m、短辺(北西～南東)3.04m、残存壁高は11cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。  
**炉** P2とP9の内側、やや北壁寄りに設置されている。北壁から1.2m離れている。長径65cm・短径46cm・深さ4cmの楕円形を呈する。礫1個が配置されている。覆土は1層で焼土と炭化物粒子を含み、立ち上がり部分は焼けている。

**貯蔵穴** 明瞭な貯蔵穴を確認することはできなかった。



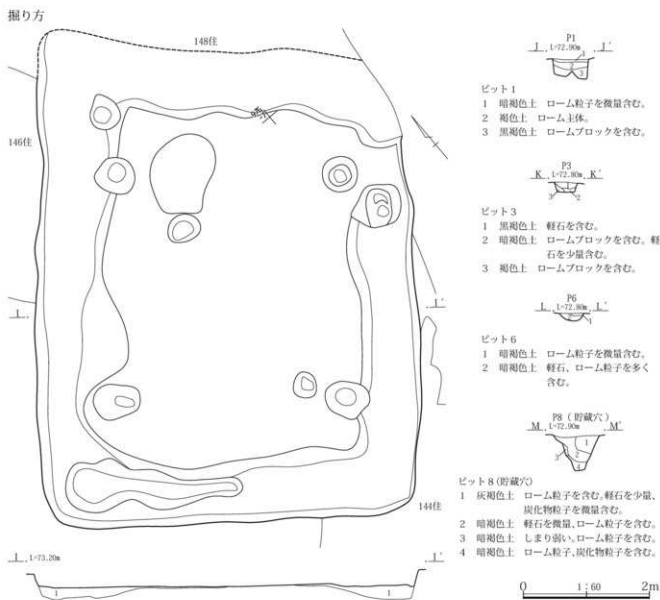
- 1 茶褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくして粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 5 黄褐色土 軟らかくして粘性あり。ローム主体で、暗褐色土、炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。

- 91
- 1 焼土
  - 2 暗褐色土 炭化物粒子を多く、焼土粒子を少量含む。

- P2
- E. 1-72.90m
- ピット 2
- 1 黒褐色土 ローム粒子を含む。
  - 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。
  - 3 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む。
  - 4 褐色土 地山の流れ込み。
- P5
- G. 1-72.90m
- ピット 5
- 1 暗褐色土主体 軽石を含む。
  - 2 暗褐色土主体 軽石、ローム粒子を多く含む。

- P4
- F. 1-72.90m
- ピット 4
- 1 暗褐色土 軽石を含む。
  - 2 暗褐色土 軽石を少量含む。
  - 3 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- P7
- H. 1-72.90m
- ピット 7
- 1 暗褐色土 ローム粒子、軽石を含む。炭化物粒子を少量含む。
  - 2 暗褐色土 ロームブロック、粘土ブロックを含む。

第182図 1区145号住居(1)



第183図 1区145号住居(2)

**柱穴** P1～P9までの9基のビットが検出された。P1は長径58cm・短径53cm・深さ39cm、P2は長径37cm・短径34cm・深さ17cm、P3は長径48cm・短径27cm・深さ14cm、P4は長径45cm・短径37cm・深さ11cm、P5は長径29cm・短径24cm・深さ11cm、P6は長径27cm・短径27cm・深さ11cm、P7は長径25cm・短径25cm・深さ18cm、P8は長径32cm・短径27cm・深さ15cm、P9は長径59cm・短径42cm・深さ12cmを測る。このうちのP1・P2・P9の3基のビットが主柱穴になるものと思われる。主柱穴間の距離はいずれも2.05mを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土になる。

**掘り方** 全体的に浅いが掘り下げが認められる。深さ3～9cmほどである。掘り方セクションB-B'の1層が該当する。2層は炉の焼土になる。

**遺物** 床直上、炉の周辺から土器が出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

147号住居(第185・298図、P.L.90・286)

**位置** 97C・H-8グリッド、116号住居と接している。

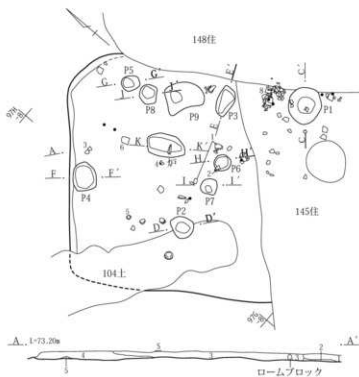
**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-49°-E

**規模** 面積10.75㎡、長辺(北西～南東)3.58m、短辺(北東～南西)推定3.25m、残存壁高は25～42cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置されている。





- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 2 茶褐色土 やや硬くしまり粘性あり。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 5 灰褐色土 軟らかくて粘性あり。灰を多量にローム粒子を含む。



ピット 1

- 1 黒褐色土 ロームブロック、炭化物粒子を少量含む。

ピット 2

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。

ピット 3

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。

ピット 4

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。

ピット 5

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

ピット 6

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

ピット 7

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

ピット 8

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

ピット 9

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

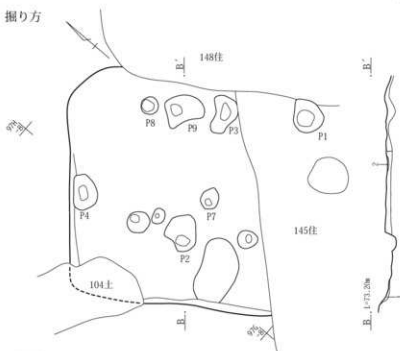
ピット 10

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

ピット 11

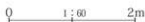
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

掘り方



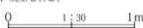
掘り方

- 1 褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 焼土

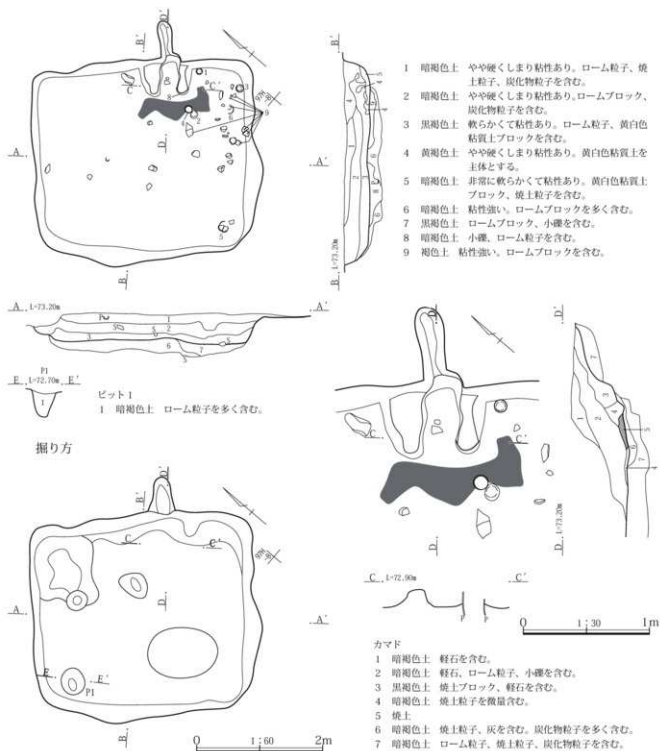


SP1

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、炭化物、焼土を含む。



第184図 1区146号住居



第185図 1区147号住居

燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ155cm、焚き口部の幅30cm、袖を含めた幅は80cmである。右袖には裏が使用されている。1～5層はカマド覆土、5層は焼土、6・7層は掘り方になる。

貯蔵穴 検出できなかった。

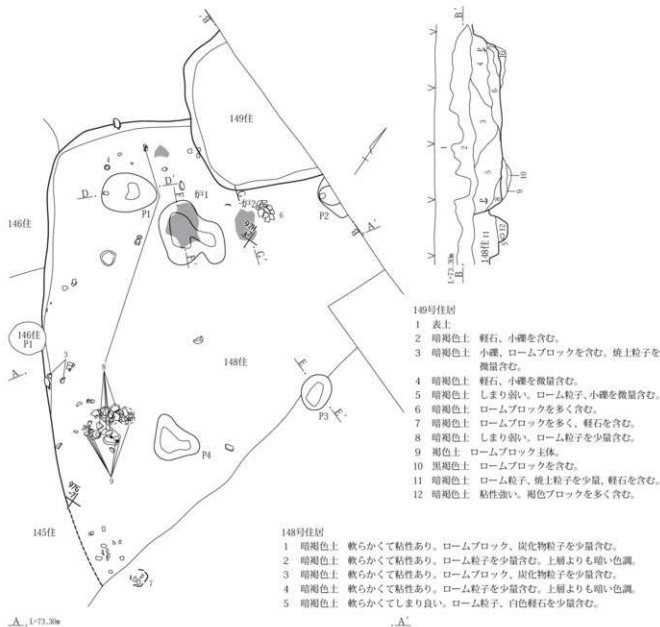
柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土になる。6～9層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さ11～20cmほどであり凹凸がある。北西隅がやや掘り下げられている。掘り方面からビット1基が検出された。長径43cm・短径37cm・深さ48cmを測る。

遺物 覆土上層とカマド周辺の床直上から土師器の杯や



第186図 1区148・149号住居(1)

裏が出土している。(8)の土師器裏はカマドの袖として使用されている。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

148号住居(第186・187・298・299図、P L. 89・90・287)

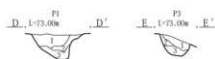
位置 97F～H-6、97G・H-7グリッド、145・146・149号住居、22号溝と重複している。145・146号住居を壊し、149号住居、22号溝によって壊されている。

形状 全容は不明であるが、隅丸長方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-40°-W

規模 現状での面積は25.56㎡、現状での長辺(北西～南東)6.6m、短辺(北東～南西)5.45m、残存壁高は9～14cmを測る。

床面 やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。

炬 2箇所検出された。いずれもP1とP2の内側に設置されている。西壁から1.22～1.5m離れている。炬1は長径100cm・短径65cm・深さ7cmの楕円形を呈する。焼土の堆積が認められた。炬2は炬1の北東約60cmの所に位置する。長径52cm・短径30cm・深さ8cmの楕円形を呈する。焼土の堆積が認められた。



148号住居ビット1

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。炭化物粒子を微量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 褐色土 ロームブロックを多く含む。

148号住居ビット3

- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。
- 2 褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 褐色土 ロームブロック、粘土ブロックを含む。



148号住居内B1

- 1 暗褐色土 焼土粒子を含む。
- 2 焼土
- 3 暗褐色土 焼土粒子を含む。ローム粒子を微量含む。



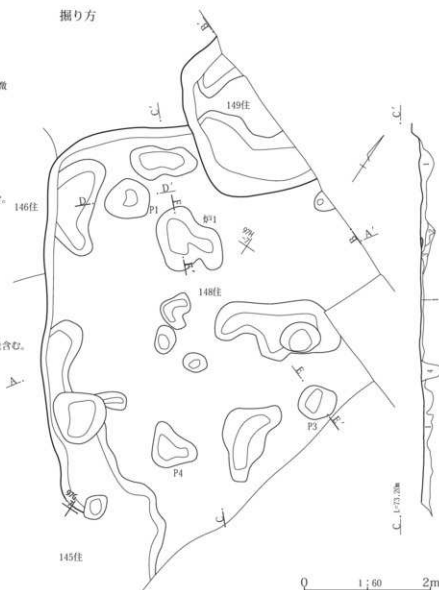
148号住居内B2

I 焼土

148号住居掘り方

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、軽石、小礫を含む。
- 2 黒褐色土 軽石を含む。
- 3 褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 4 黒褐色土 軽石を含む。

掘り方



第187図 1区148・149号住居(2)

**貯蔵穴** 明瞭な貯蔵穴を確認することはできなかった。

**柱穴** P1～P4の4基のビットが検出された。P1は長径86cm・短径60cm・深さ38cm、P2は長径70cm・現状の短径26cm・深さ17cm、P3は長径59cm・短径47cm・深さ25cm、P4は長径73cm・短径57cm・深さ23cmを測る。主柱穴になる。P1～P2～P3間の距離は同じく3.1m、P1～P4間の距離は4m、P3～P4間の距離は2.5mを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ8～20cmほどである。セクションA-A'の3～5層は掘り方充填土になる。またセクションC-C'の1～3層も掘り

方充填土である。4層はビットの覆土になる。

**遺物** 炉周辺や床直上から土器が出土。(6)の土師器甕はが2周辺から、(7)の甕は2号溝に流れ込むような状態で、(8・9)の甕は西壁に近接して、西壁下からは甕が出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

149号住居(第186・187・299図、P.L.91)

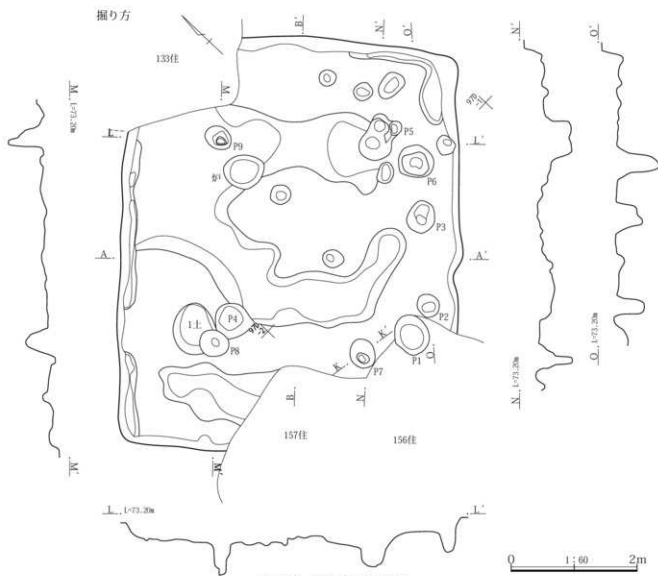
**位置** 97H-6・7グリッド、148号住居と重複し、壊している。

**形状** 全容は不明であるが隅丸方形を呈するものと思われる。**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積3.02㎡、現状での長辺(北西～南東)2.55m、短辺(北東～南西)1.5m、残存壁高は28～



第188図 1区150号住居(1)



第189図 1区150号住居(2)

43cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。3～8層は住居覆土になる。9・10層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 床面の中央部を除いて壁に沿って掘り下げられている。深さ5～15cmほどである。

**遺物** 覆土中から土師器の杯が出土。(3)のS字状口縁台付甕は148号住居の遺物が混入したものである。

**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

**150号住居(第188・189・300図、P.L.91・286)**

**位置** 97C・D-4・5グリッド、133・156・157号住居と重複し、壊されている。

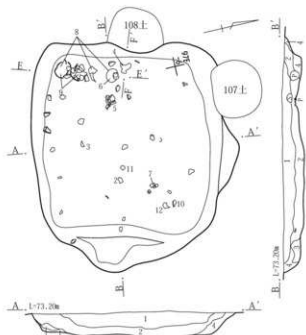
**形状** 長方形を呈する。**主軸方位** N-50°-E

**規模** 現状での面積は26.9㎡、長辺(北東～南西)6.33m、短辺(北西～南東)5.4m、残存壁高は15cmを測る。

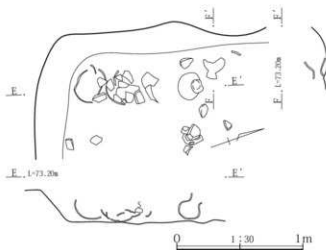
**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。**柱** 主柱穴P9に近接している。長径65cm・短径50cm・深さ5cmの楕円形を呈する。焼土・炭化物を含む。

**貯蔵穴** P5に近接して検出されたP6が貯蔵穴になるものと思われる。長径56cm・短径55cm・深さ70cmの方形を呈する。覆土は2層に分かれ、土器が出土している。

**柱穴** P5・P7～P9の4基のビットが主柱穴になる。P5は長径84cm・短径65cm・深さ36cm、P7は長



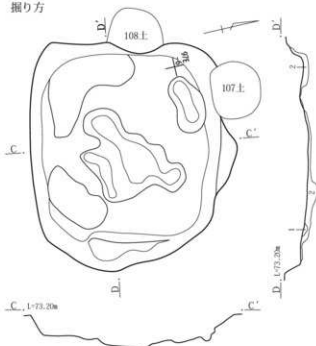
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、炭化物粒子を含む。1層よりも暗い色調。
- 3 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 4 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームをやや多く含む。



第190図 1区151号住居

径48cm・短径40cm・深さ58cm、P 8は長径48cm・短径43cm・深さ40cm、P 9は長径43cm・短径35cm・深さ56cmを測る。P 5-P 7間の距離は3.5m、P 7-P 8間の距離2.3m、P 8-P 9間の距離3.2m、P 9-P 5間の距離は2.25mである。その他のピットは次のとおりである。P 1は長径61cm・短径43cm・深さ33cm、P 2は長径32cm・短径30cm・深さ47cm、P 3は長径43cm・短径39cm・深さ45cm、P 4は長径62cm・短径55cm・深さ34cmを測る。P 2とP 3は南壁のほぼ中央部分に位置しピット

掘り方



- 掘り方
- 1 暗褐色土 ローム粒、小礫を含む。
  - 2 褐色土 ローム主体の層。小礫を含む。

0 1:60 2m

トの深さも深いことから、何らかの施設跡と思われる。

**周溝** 全周していたものと思われるが、東壁と北壁で検出されただけであった。幅12～20cm、深さ9cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と思われる。1・2層は住居覆土、3・4層は貼床になる可能性がある。5～10層は掘り方充填土になる。11・12層は掘り方で検出されたピットの覆土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられていて凹凸が激しい。深さ5～30cmほどである。

**遺物** 炉周辺や貯蔵穴、床直上から土器が出土。(4)のS字状口縁台付甕は炉周辺から、(5)のS字状口縁台付甕はP 6内から出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

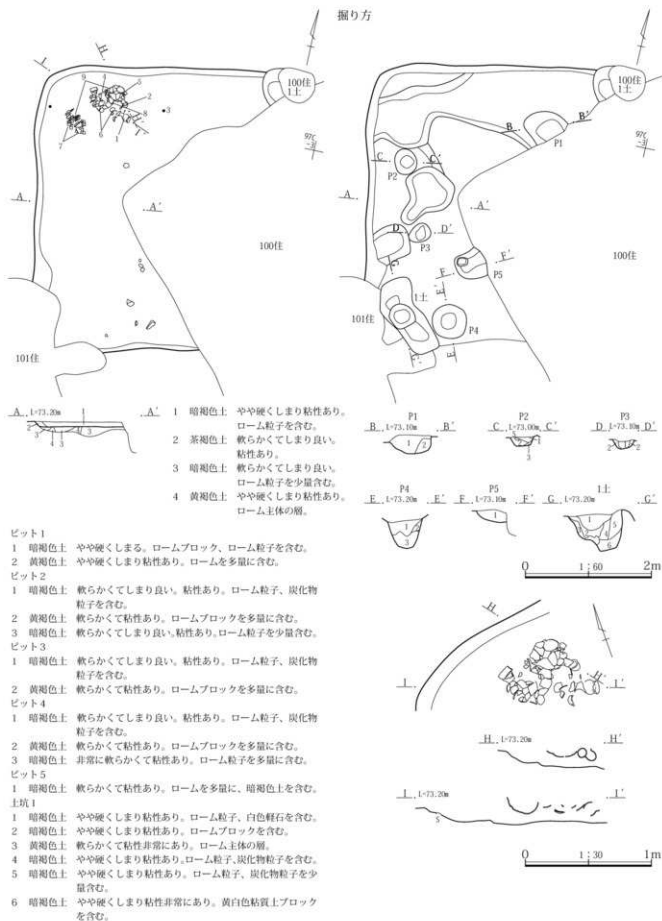
151号住居(第190・300図、P L. 92・96・287)

**位置** 97D・E-5・6グリッド、185・189号住居と接し、107・108号土坑と重複している。土坑に壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-81°-W

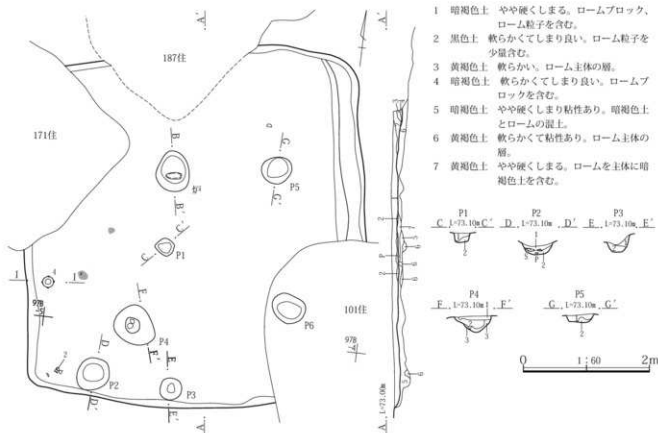
**規模** 面積9.74㎡、長辺(東西)3.63m、短辺(南北)3.2m、残存壁高は19～37cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。



第191図 1区152号住居





ビット1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。

ビット2

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。

ビット3

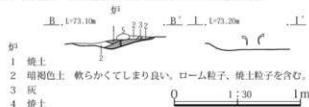
- 1 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。

ビット4

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。

ビット5

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり、粘性あり。ロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり、粘性あり。ローム主体の層。



第192図 1区153号住居(1)

竪 検出できなかった。床面に焼土の堆積は認められなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居覆土になる。セクションD-D'の1・2層は掘り方充填土になる。

掘り方 住居中央部・南東隅・南西隅の掘り下げが認められる。深さ5～15cmほどである。

遺物 床面南西隅の床直上から土器がまとめて出土。

(4・5)のS字状口縁台付甕、(6・8・9)の甕や壺が出土している。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。

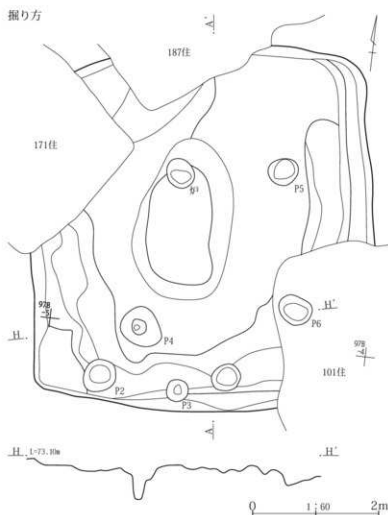
152号住居(第191・301図, P.L.92・93・288)

位置 97B・C-3グリッド、100・101号住居と重複し、壊されている。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-12°-W

規模 現状での面積は10.11㎡、長辺(南北)4.5m、現状での短辺(東西)3.7m、残存壁高は3～14cmを測る。



第193図 1区153号住居(2)

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**炉** 検出できなかった。100号住居に壊されてしまったものと思われる。

**貯蔵穴** 南壁に近接して検出されたP4が貯蔵穴になるものと思われる。長径54cm・短径48cm・深さ44cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれた。

**柱穴** 明瞭な主柱穴は検出できなかった。P1は長径58cm・短径48cm・深さ30cm、P2は長径40cm・短径35cm・深さ15cm、P3は長径36cm・短径28cm・深さ14cm、P5は長径48cm・短径48cm・深さ14cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と思われる。1・2層は住居覆土、3・4層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ6～15cmほどである。

**遺物** 床面の北西隅から土器がまとまって出土。S字状口縁台付甕を主体に、小型甕と手捏ね土器が出土してい

る。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

153号住居(第192・193・302図、P.L.94・95・289)

**位置** 97A・B-4・5グリッド、101・171・187号住居と重複し、壊されている。

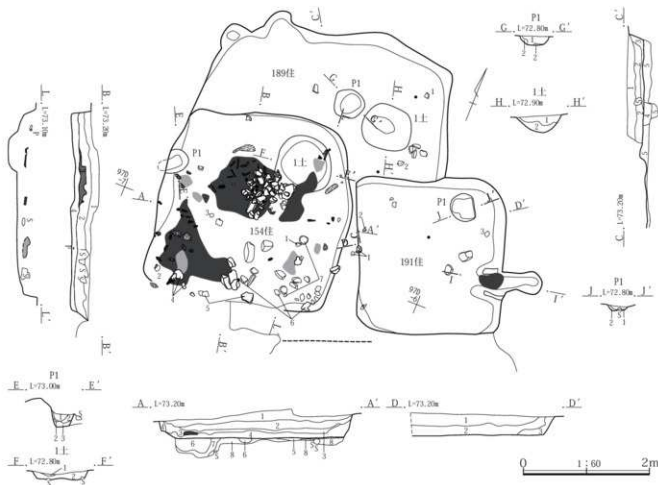
**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-7°-W

**規模** 現状での面積は21.38㎡、長辺(南北)5.75m、短辺(東西)5.45m、残存壁高は5～18cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**炉** 床面の中央から少し北よりに位置している。長径65cm・短径53cm・深さ16cmの楕円形を呈する。礫1点が配置されている。覆土は3層に分かれ、焼土・灰が堆積している。

**貯蔵穴** 南壁に近接して検出されたP2が貯蔵穴になるものと思われる。長径57cm・短径50cm・深さ17cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。



154号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含む。
- 3 炭化物層 軟らかい。暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をややく含む。
- 5 黄褐色土 硬くしまる。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 8 黄白色土 やや硬い。黄白色粘質土を主体に、暗褐色土を少量含む。

154号住居ピット1

- 1 黒褐色土 軟らかくしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土、炭化物を含む。

154号住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬く粘性あり。炭化物を多量を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかく粘性あり。暗褐色土を少量含む。

189号住居跡

- 1 暗褐色土 軟らかくしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 茶褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 黄白色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を少量含む。

189号住居ピット1

- 1 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬く粘性あり。暗褐色土を少量含む。

189号住居土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬く粘性あり。暗褐色土を少量含む。

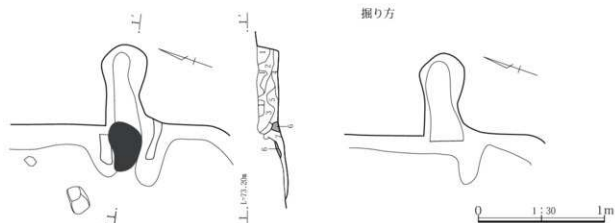
191号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームと暗褐色土の混上。

191号住居ピット1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。

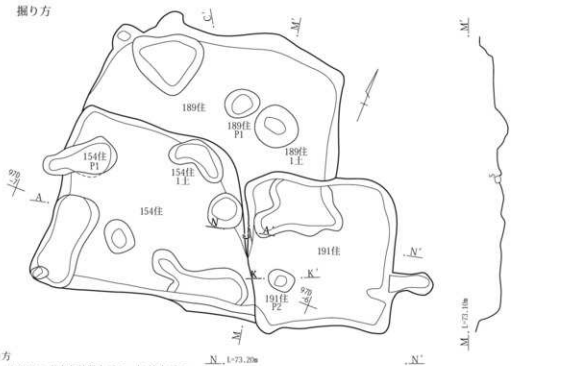
第194図 1区154・189・191号住居(1)



## 191号住居カマド

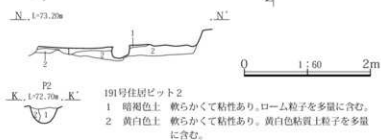
- 1 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 5 褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 6 焼土
- 7 灰褐色土 軟らかくて粘性あり。灰を多量に焼土ブロック、ロームブロックを含む。

## 掘り方



## 191号住居掘り方

- 1 暗褐色土 やや硬い、黄白色粘質土ブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 2 黄白色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を少量含む。



## 191号住居ピット2

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 2 黄白色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子を多量に含む。

第195図 1区154・189・191号住居(2)

**柱穴** P4・P5・P6が主柱穴になる。P4は長径67cm・短径58cm・深さ25cm、P5は長径49cm・短径42cm・深さ11cm、P6は長径54cm・短径44cm・深さ25cmである。もう1箇所は171号住居によって壊されてしまったものと思われる。P4-P6間の距離は2.5m、P6-P5間距離2.3mを測る。

その他のピットは次のとおりである。P1は長径28cm・短径25cm・深さ12cm、P3は長径36cm・短径35cm・深さ23cmを測る。P3は入口施設になるかもしれない。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と思われる。1～4層は住居覆土、5～7層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ5～16cmほどである。床面の中央部をやや掘り残している。

**遺物** 床直上から少量の土器が出土。(4)の壺口縁部は西壁に近接して出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

**154号住居**(第194・195・302図、P.L.95～97・115・116・289)

**位置** 97C・D-6グリッド、155・189号住居と重複し、壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-78°-E

**規模** 現状での面積は8.62㎡、長辺(南北)3.1m、短辺(東西)3.08m、残存壁高は28～35cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 床面の北東隅から検出された土坑が貯蔵穴になる可能性がある。長径98cm・短径95cm・深さ13cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。西壁下からP1を検出した。長径119cm・短径50cm・深さ15cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居覆土になる。3層は炭化物層である。5～8層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 部分的に深く掘り込まれているが、全体的に見ると浅い掘り込みである。深さ5～31cmほどである。

**遺物** 覆土中の炭化材上層から礫がまわって出土。羽

釜は南壁周辺から出土している。また、3層の炭化物層から被熱を受けている獣骨片が出土。

**時期** 出土遺物から10世紀後半代に比定される。

**189号住居**(第194・195・313図、P.L.96・116・296)

**位置** 97D-6グリッド、154・191号住居と重複し、壊されている。

**形状** 方形を呈するものと思われる。主軸方位 不明。

**規模** 長辺(南北)不明、短辺(東西)3.87m、残存壁高は15～32cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。  
**カマド**・**炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。床面から検出された土坑は長径83cm・短径74cm・深さ26cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** 明瞭な主柱穴を検出することはできなかったが、154号住居と191号住居の掘り方調査時に検出されたピットが189号住居の柱穴になるかもしれない。189号住居のP1は長径48cm・短径46cm・深さ15cm、191号住居P2は長径42cm・短径31cm・深さ23cmを測る。154号住居掘り方南西部から検出されたピットは、長径53cm・短径44cm・深さ11cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と思われる。1～3層は住居覆土、4・5層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ10～15cmほどである。

**遺物** 覆土から少量の土器が出土。土師器の杯が出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

**191号住居**(第194・195・314図、P.L.96・116・295)

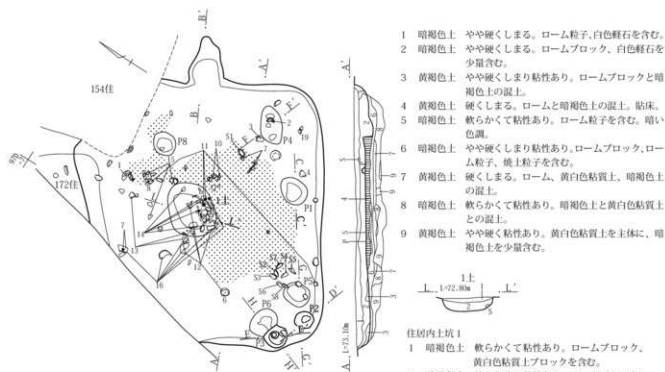
**位置** 97C・D-5・6グリッド、189号住居と重複し、壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-70°-E

**規模** 面積は5.82㎡、長辺(北西～南東)2.48m、現状での短辺(北東～南西)2.33m、残存壁高は27cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ

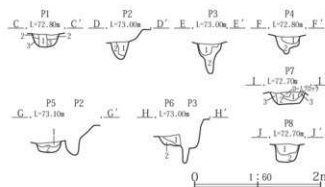


- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を少量含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックと暗褐色土の混上。
- 4 黄褐色土 硬くしまる。ロームと暗褐色土の混上。駄床。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。暗い色調。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり、ロームブロック、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 7 黄褐色土 硬くしまる。ローム、黄白色粘質土、暗褐色土の混上。
- 8 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土と黄白色粘質土との混上。
- 9 黄褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を主体に、暗褐色土を少量含む。



住居内土坑1

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。



ビット1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。

ビット2

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームと暗褐色土の混上。

ビット3

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームと暗褐色土の混上。

ビット4

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。

ビット5

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土を主体とし、暗褐色土を少量含む。

ビット6

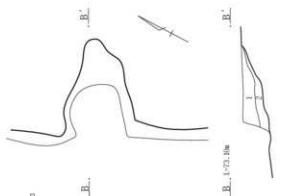
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土を主体とし、暗褐色土を少量含む。

ビット7

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 2 黄白色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混上。
- 3 黄白色土 軟らかくて粘性あり。

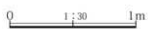
ビット8

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ロームブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。



カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、焼土粒子を含む。



第196図 1区155号住居(1)

掘り方



第197図 1区155号住居(2)

107cm、焚き口部の幅24cm、袖を含めた幅は50cmである。

1～7層はカマド覆土、6層は埴土である。

**貯蔵穴** 床面の北付近から検出されたP1が貯蔵穴になる可能性がある。長径45cm・短径38cm・深さ8cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、セクションN-N'の1・2層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ8～20cmほどであり凹凸がある。

**遺物** 覆土中から少量の土器が出土。西壁付近から土師器の杯と須恵器の杯が出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀第4四半期に比定される。

155号住居(第196・197・302・303図、P.L.96・97・115・116・289・290)

位置 97B・C-6・7グリッド、154・172号住居、22号溝

と重複している。154号住居、22号溝に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-57°-E

**規模** 面積は13.37㎡、長辺(北東～南西)4.25m、現状での短辺(北西～南東)3.98m、残存壁高は9～21cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。中央部にかけて硬化面が認められた。床面のほぼ中央部から土坑1基が検出された。長径94cm・短径73cm・深さ20cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置されている。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ78cm、焚き口部の幅32cmである。1・2層はカマド覆土である。

**貯蔵穴** 床面の南東隅付近から検出されたP4が貯蔵穴になる可能性がある。長径61cm・短径34cm・深さ26cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** 明瞭な主柱穴を検出できなかった。P1は長径48cm・短径38cm・深さ19cm、P2は長径29cm・短径27cm・深さ23cm、P3は長径49cm・短径38cm・深さ45cm、P5は長径43cm・短径34cm・深さ15cm、P6は長径47cm・短径33cm・深さ15cm、P8は長径41cm・短径37cm・深さ26cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、4層は貼土、5～9層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ5～30cmほどであり凹凸がある。掘り方調査時にP7を検出した。長径55cm・短径45cm・深さ19cmを測る。

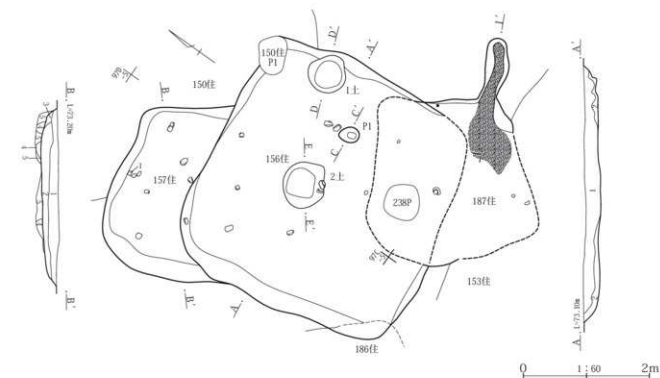
**遺物** 覆土中や床直上から土器や礫が出土。1号土坑からは土師器の甕、甕、貯蔵穴周辺からは土師器の杯、P5周辺からはこも編み石7点がまとまって出土している。土師は覆土中からの出土である。(19)の土師器の器台は193号住居の遺物になる。

**時期** 出土遺物から7世紀に比定される。

156号住居(第198・199・304図、P.L.98)

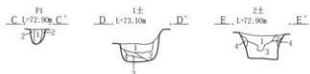
位置 97B・C-4・5グリッド、150・157・186・187号住居と重複している。150住居を壊し、186・187号住居に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-78°-E



## 156号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。



## 156号住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を多量に含む。

## 157号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを多量に含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック。
- 5 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームを主体に暗褐色土を含む。

## 157号住居掘り方

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。

## 156号住居掘り方

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

## 156号住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 黄白色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

## 156号住居内土坑2

- 1 暗褐色土 軟らかい。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。
- 4 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体とする。

第198図 1区156・157・187号住居(1)

**規模** 現状での面積は14.82㎡、長辺(東西)4.15m、短辺(南北)4m、残存壁高は15～20cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド・炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 床面の北東隅から検出された土坑1が貯蔵穴になるものと思われる。長径62cm・短径62cm・深さ26cmの楕円形を呈する。覆土は4層に分かれた。床面のほぼ中央から検出された土坑2は、長径74cm・短径65cm・深さ

41cmの楕円形を呈する。覆土は4層に分かれた。

**柱穴** 明確な主柱穴は検出できなかった。P1は長径32cm・短径24cm・深さ24cmを測る。

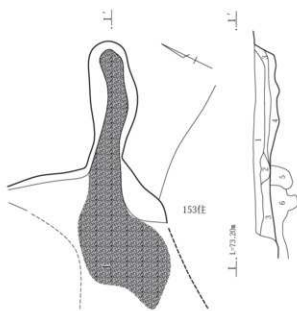
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と思われる。1・2層は住居覆土、

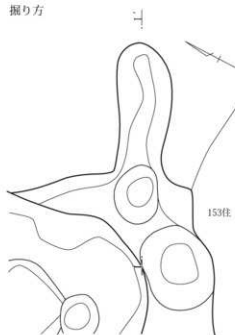
掘り方セクションF-F'の3・4層は掘り方充填土になる。1・2層は掘り方で検出されたピットの覆土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げているが比較的浅い。深さ7





掘り方

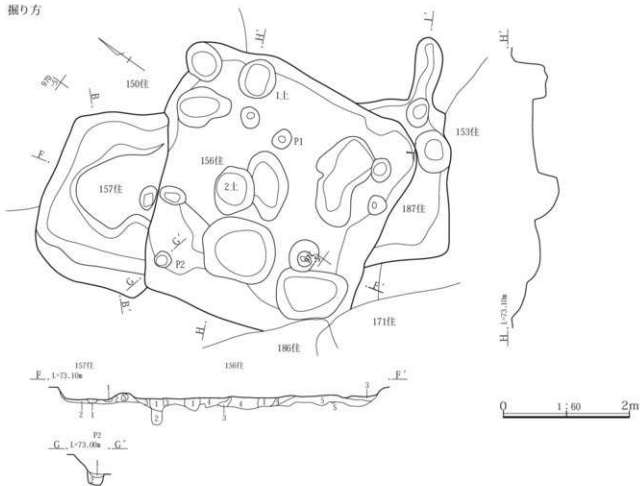


187号住居カマド

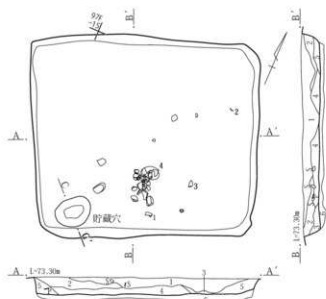
- 1 暗褐色土 硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量に、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 5 褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 6 褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを多量に、ローム粒子を含む。

0 1:30 1m

掘り方



第199図 1区156・157・187号住居(2)



- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。小礫を少量含む。  
 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。  
 3 暗褐色土 焼土粒子、炭化物ブロック多く含む。  
 4 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子、炭化物粒子を多く含む。  
 5 暗褐色土 焼土ブロック、ローム粒子、ロームブロックを含む。  
 6 暗褐色土 ローム粒子を含む。

第200号 1区158号住居

～16cmほどである。P 2 が検出された。長さ26cm・短径25cm・深さ17cmを測る。

**遺物** 覆土中から土師器の杯が出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

157号住居(第198・199・304図, P L . 98)

**位置** 97C-4・5グリッド、150・156号住居と重複している。150・156号住居を壊している。

**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積は3.44㎡、長辺(北東～南西)2.8m、短辺(北西～南東)1.17m、残存壁高は16～25cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド・炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

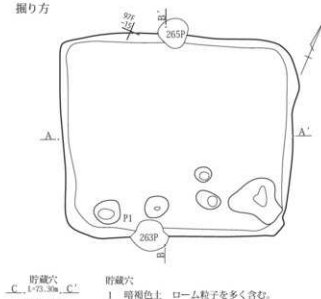
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と思われる。1・2層は住居覆土、3～5層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に浅く掘り下げられている。深さ7～13cmほどである。

**遺物** 覆土中から土師器の甕が出土している。

掘り方



- 貯蔵穴  
 1 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。  
 2 暗褐色土 軽石を少量含む。  
 3 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。  
 4 焼土  
 5 暗褐色土 炭化物粒子を多く含む。

0 1:60 2m

**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

187号住居(第198・199図, P L . 94・98)

**位置** 97B・C-4グリッド、153・156号住居と重複し、壊している。

**形状** 重複関係のために明瞭ではないが、隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-58°-E

**規模** 面積6.22㎡、現状での長辺(北東～南西)2.65m、短辺(北西～南東)2.43m、残存壁高は5～11cmを測る。

**床面** 全体的にやや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁の中央から南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ149cm・焚き口部の幅25cmである。1～4層はカマド覆土、5・6層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

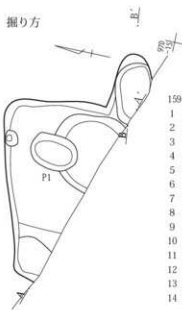
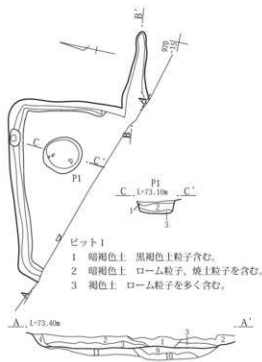
**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** ほとんど検出することはできなかったために不明である。

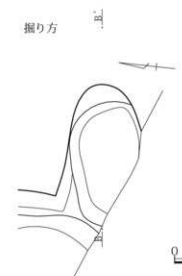
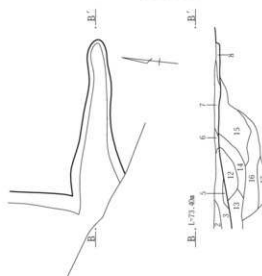
**掘り方** 部分的に掘り下げている。

**遺物** 床直上から少量の土師器片が出土している。



159号住居・カマド

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 小炭を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 しまりや強い。
- 7 暗褐色土 しまり強い、ローム粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 焼土粒子を多く含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 10 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 11 暗褐色土 ローム主体。
- 12 暗褐色土 炭化物粒子、焼土粒子を多く含む。
- 13 暗褐色土 しまり強い。
- 14 暗褐色土 ローム粒子を含む。炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 15 暗褐色土 しまり強い、ローム粒子を含む。
- 16 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 17 黒褐色土 ロームブロックを含む。



第201図 1区159号住居

時期 不明。

158号住居(第200・304図、P L. 99・290)

位置 97E・F-14、97E-15グリッド、160号住居の北西5.5mの所に位置している。

形状 方形を呈する。主軸方位 N-66°-E

規模 面積11.18㎡、長辺(北東～南西)3.57m、短辺(北西～南東)3.23m、残存壁高は30～40cmを測る。

床面 やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。

炉 検出できなかった。床面に焼土の堆積は認められなかった。

貯蔵穴 床面の南西隅から検出されたピットが貯蔵穴に

なるものと思われる。長径58cm・短径45cm・深さ27cmの楕円形を呈する。覆土は5層に分かれた。4層は焼土である。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

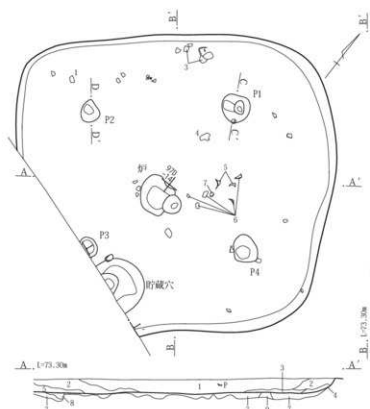
埋没土 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土になる。6層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に掘り下げが行われている。深さ5～16cmほどである。

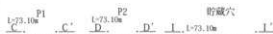
遺物 床面の南中央付近からまとまって出土。(4)の壺や(1)の杯が出土している。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。

第2節 1区の遺構と遺物



- 1 暗褐色土 軽石を少量、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 粘性やや強い。ロームブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 2層に近いがローム粒子がより多い。
- 5 暗褐色土 2層に近いが炭化物ブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土 2層に近いが、軽石、ローム粒子、小礫を少量含む。
- 7 2層に近いがローム粒子を含む。ロームブロックを少量含む。
- 8 黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 9 褐色土 ローム主体。
- 10 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。



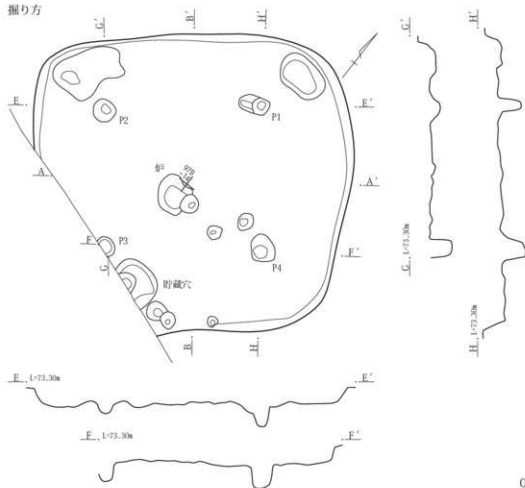
ビット 1、ビット 2

- 1 暗褐色土 軽石を微量含む。ローム粒子を含む。

貯蔵穴

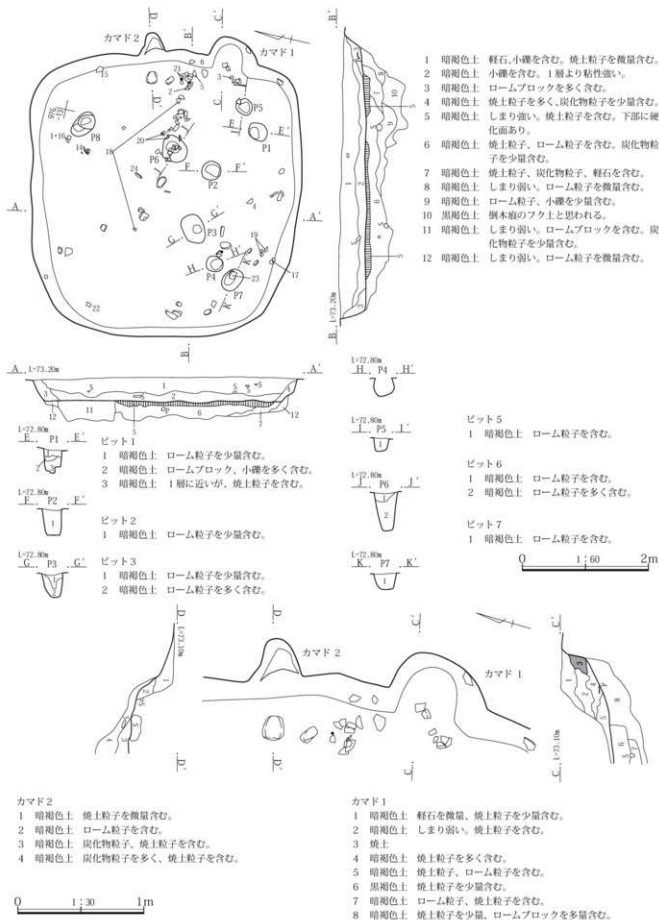
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 粘土粒子を多量、炭化物粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒子を微量含む。

掘り方



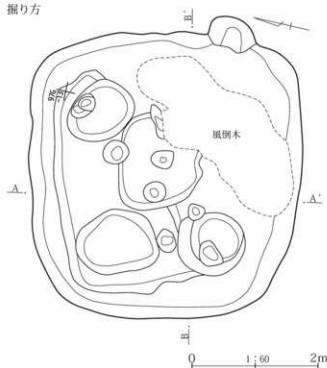
第202図 1区160号住居

0 1:60 2m



第203図 1区161号住居(1)

掘り方



第204図 1区161号住居(2)

159号住居(第201図、P.L.100)

**位置** 97D-15グリッド、160号住居の西2mの所に位置している。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-78°-E

**規模** 現状での面積は3.75㎡、長辺(東西)2.92m、現状での短辺(南北)2.02m、残存壁高は20cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。  
**カマド** 東壁に設置されている。燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ141cm、幅43cmである。覆土は住居からの通し番号を付けているために、カマド覆土は5～8層が該当する。焼土粒子を含んでいる。12～17層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 床面の北東の床付近から検出された。長径76cm・短径54cm・深さ18cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** カマド部分を除いて全周しているものと思われる。幅7～16cm、深さ2～5cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。2～4層は住居覆土になる。1層は何らかの掘り込みの痕跡と思われる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているがカマド前面でや

や深い。深さ3～20cmほどであり凹凸がある。

**遺物** 覆土中から少量の土器片が出土。(1)の須恵器蓋が出土している。

**時期** 出土遺物から8世紀前半に比定される。

160号住居(第202・304図、P.L.100・291)

**位置** 97C-D-13・14グリッド、158号住居の南東5.5mの所に位置している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-52°-E

**規模** 現状での面積は19.54㎡、長辺(北東～南西)4.98m、短辺(北西～南東)4.68m、残存壁高は16～24cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。  
**炉** 床面の中央からやや南よりに位置している。長径62cm・短径50cm・深さ15cmの楕円形を呈する。

**貯蔵穴** P3に近接して検出された。調査区外に延びているために全掘はできなかった。現状では長径88cm・短径55cm・深さ31cmを測る。覆土は4層に分かれた。3層は焼土粒子と炭化物粒子を含んでいた。

**柱穴** P1～P4の4基のピットが検出された。P1は長径49cm・短径26cm・深さ28cm、P2は長径36cm・短径34cm・深さ16cm、P3は長径34cm・現状の短径20cm・深さ34cm、P4は長径44cm・短径33cm・深さ39cmを測る。主柱穴になる。P1～P2間の距離とP3～P4間の距離は2.5m、P1～P4間の距離2.3m、P2～P3間の距離は2.2mを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～6層は住居覆土になる。7～10層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 住居中央部での掘り下げは浅く、壁下でやや深く掘り下げられている。深さ3～15cmほどである。

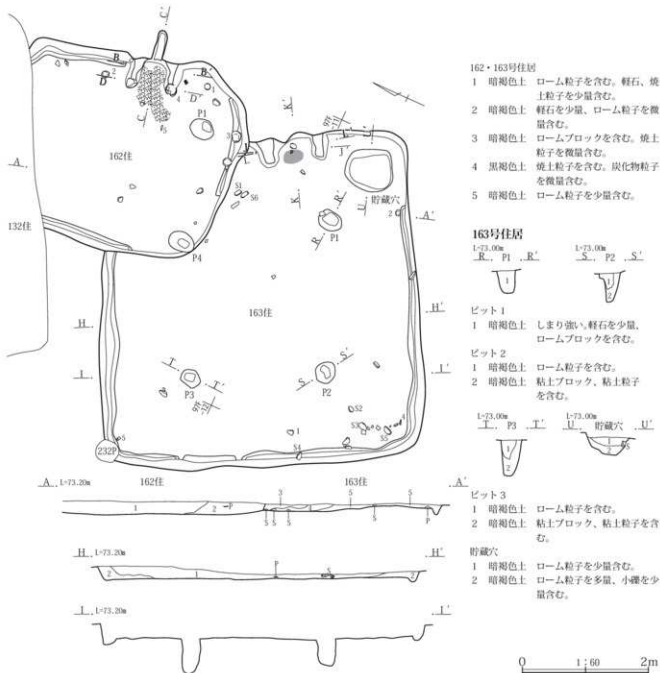
**遺物** 覆土中や床直上から土器が出土。(5)のS字状口縁台付甕、(6)の壺、(7)の底部片は炉の東から出土している。その他、縄文土器片(黒浜・有尾式)2点が出土。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

161号住居(第203・204・305図、P.L.101・290)

**位置** 97F-G-12・13グリッド、132号住居の南西2mの所に位置している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-78°-E



162・163号住居

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。軽石、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軽石を少量、ローム粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。焼土粒子を微量含む。
- 4 黒褐色土 焼土粒子を含む。炭化物粒子を微量含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

163号住居

1-73.00m R., P1, R' 1-73.00m S., P2, S'



ピット 1

- 1 暗褐色土 しまり強い。軽石を少量、ロームブロックを含む。

ピット 2

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 粘土ブロック、粘土粒子を含む。

1-73.00m P3, I, I' 1-73.00m 貯蔵穴, U, U'



ピット 3

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 粘土ブロック、粘土粒子を含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量、小礫を少量含む。



第205図 1区162・163号住居(1)

**規模** 面積17.7㎡、長辺(東西)4.55m、短辺(南北)4.24m、残存壁高は30～42cmを測る。

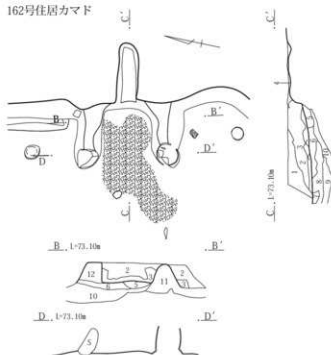
**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。  
**カマド** 2箇所検出された。カマド1は東壁の中央から南寄りに設置されている。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ53cm、焚き口部の幅60cmである。1～5層はカマド覆土、6～8層は掘り方になる。3層は焼土である。カマド2は東壁の中央からやや北寄りに設置されている。燃烧部は壁を掘り込んで構築されている。長さ47cm、幅43cmである。1・2層はカマド覆

土である。カマド1に先行するものであろう。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** P1～P8の8基のピットが検出された。このうちP1・P7・P8の3基が主柱穴になるものと思われる。P1は長径34cm・短径27cm・深さ38cm、P7は長径37cm・短径27cm・深さ22cm、P8は長径45cm・短径28cm・深さ69cmを測る。P1～P7間の距離は2.35m、P1～P8間距離は2.65mを測る。P2は長径31cm・短径30cm・深さ41cm、P3は長径49cm・短径33cm・深さ38cm、P4は長径27cm・短径24cm・深さ27cm、P5は長

162号住居カマド



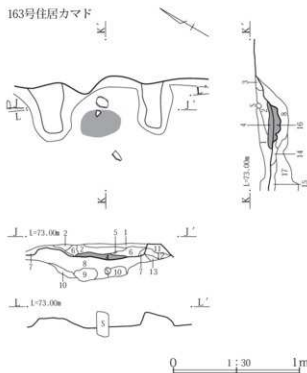
163号住居カマド

- 1 暗褐色土 炭化物粒子、焼土粒子、ローム粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子を多く、炭化物粒子を含む。
- 3 赤褐色土 焼土粒子を多く含む。
- 4 赤褐色土 焼土粒子を含む。炭化物粒子を多く含む。
- 5 焼土ブロック
- 6 黒褐色土 焼土粒子を多く、炭化物粒子を少量含む。
- 7 黒褐色土 しまり強い。粘性強い。
- 8 暗褐色土 ローム粒子を含む。焼土粒子、小礫を少量含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロック、暗褐色軽石を含む。
- 10 黒褐色土 粘性強い。軽石、ローム粒子を含む。
- 11 黒褐色土 粘性強い。軽石、粘土ブロックを含む。
- 12 灰褐色土 粘土ブロックを含む。
- 13 暗褐色土 粘性強い。軽石を含む。
- 14 黒褐色土 焼土粒子を少量含む。
- 15 褐色土 粘性強い。
- 16 焼土
- 17 暗褐色土 軽石を含む。

162号住居カマド

- 1 暗褐色土 軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軽石、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 焼土を多く含む。
- 4 褐色土 しまり強い。焼土を多く含む。
- 5 暗褐色土 炭化物粒子、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土 灰を多く、焼土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 焼土ブロックを多く含む。
- 8 暗褐色土 炭化物粒子を少量、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒子を多く、焼土粒子を微量含む。
- 10 褐色土 ローム主体。
- 11 暗褐色土 粘性強い。軽石を含む。焼土粒子を微量含む。
- 12 暗褐色土 粘性強い。

163号住居カマド



第206図 1区162・163号住居(2)

径26cm・短径24cm・深さ19cm、P 6は長さ45cm・短径38cm・深さ59cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居覆土、5層は貼床になる。6～8・11・12層は掘り方充填土になる。9・10層は倒木の覆土である。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、主柱穴に囲まれた内側がやや深くなっている。深さ8～36cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** 覆土中や床直上から遺物が出土。カマド周辺から土師器の杯や甕、床面の南西隅周辺から須恵器の杯、蓋、甕の破片が出土している。

**時期** 出土遺物から8世紀第3四半期に比定される。

162号住居(第205～207・306図、P L. 102・103・291)

**位置** 97F-11グリッド、132・163号住居と重複し、壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-77°-E

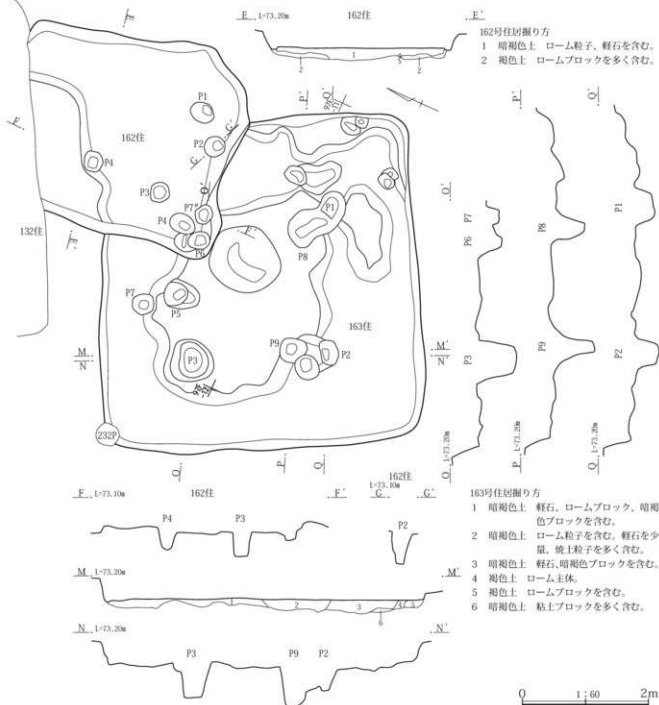
**規模** 現状での面積9.7㎡、長辺(南北)3.8m、短辺(東西)3.17m、残存壁高は5～25cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ99cm、焚き口部の幅66cm、袖を含めた幅は84cmである。向かって左側の袖には礫、右側には土師器甕が設置されている。1～4層はカマド覆土、5～10層は掘り方になる。11・12層は袖部分である。



掘り方



第207図 1区162・163号住居(3)

**貯蔵穴** P1とした遺構が貯蔵穴になる可能性がある。長径38cm・短径32cm・深さ55cmの楕円形を呈する。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

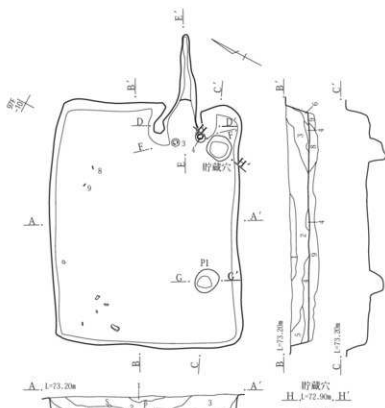
**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土になる。セクションE-E'の1・2層は掘り方充填土である。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ14～19cm

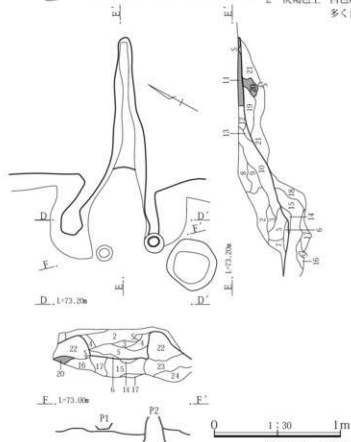
ほどである。調査時にピット3基が検出された。P2は長径33cm・短径32cm・深さ52cm、P3は長径33cm・短径32cm・深さ38cm、P4は長径33cm・短径30cm・深さ24cmを測る。

**遺物** 覆土中から少量の土器片と南壁下から土師器の杯が出土している。カマドの袖として(4)の土師器の裏が使用されている。

**時期** 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

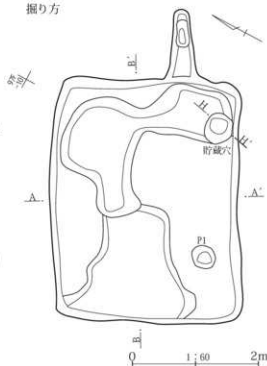


- P1  
G, I-72.90m, G  
Pिटト1  
1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。  
2 暗褐色土 ロームブロックを含む。



- 貯蔵穴  
H, I-72.90m, H  
貯蔵穴  
1 暗褐色土 軽石を微量含む。  
2 灰褐色土 白色粘土を多く含む。

掘り方



- 1 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。  
2 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒子、軽石、小礫を含む。  
3 暗褐色土 1層に近いが、1層よりしまり弱い。  
4 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を含む。  
5 暗褐色土 しまり強い。軽石を少量含む。  
6 暗褐色土 ロームブロックを含む。ローム粒子を多く含む。  
7 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子、軽石を含む。  
8 暗褐色土 ローム粒子を含む。軽石を微量含む。  
9 褐色土 暗褐色ブロックを多く含む。小礫を含む。

方マド

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。  
2 暗褐色土 焼土粒子、軽石共に少量含む。  
3 暗褐色土 ロームブロックを含む。  
4 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子を含む。  
5 暗褐色土 焼土ブロック、炭化物粒子を含む。  
6 暗褐色土 焼土粒子を微量含む。  
7 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。  
8 暗褐色土 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。  
9 褐色土 ローム主体。  
10 赤褐色土 焼土ブロック、ローム粒子を微量含む。  
11 焼土  
12 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を含む。  
13 赤褐色土 焼土ブロック。  
14 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。  
15 暗褐色土 焼土粒子を多く、灰、軽石、ローム粒子を含む。  
16 褐色土 軽石を含む。  
17 褐色土 粘性強い。ローム粒子を多く含む。  
18 暗褐色土 焼土粒子を含む。炭化物粒子、軽石を少量含む。  
19 暗褐色土 焼土粒子、軽石を少量含む。  
20 焼土  
21 暗褐色土 しまり強い。軽石を微量含む。  
22 暗褐色土 粘性強い。軽石を含む。焼土粒子を微量含む。  
23 暗褐色土 粘性強い。焼土粒子を少量含む。  
24 黒褐色土 ローム粒子を含む。

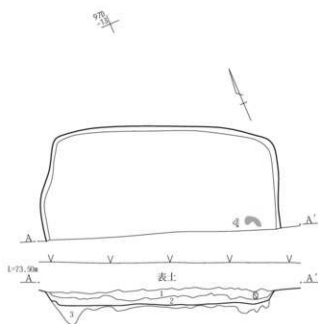
第208図 1区164号住居

163号住居(第205～207・306図、P.L.102・103・291)  
**位置** 97E・F-11・12グリッド、162号住居と重複し、壊されている。  
**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-64°-E  
**規模** 現状での面積は22.54㎡、長辺(北東～南西)5.3m、短辺(北西～南東)5m、残存壁高は15～40cmを測る。  
**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。  
**カマド** 東壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃焼部は床面を掘り込んで構築されている。長さ49cm、焚き口部の幅65cm、袖を含めた幅は102cmである。支脚の礎が残されている。1～7層はカマド覆土、4層は焼土である。8～17層は掘り方になる。  
**貯蔵穴** 床面の東隅に位置している。長径75cm・短径68cm・深さ24cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。  
**柱穴** P1～P4の4基のビットが主柱穴になる。P1は長径38cm・短径29cm・深さ37cm、P2は長径35cm・短径32cm・深さ43cm、P3は長径33cm・短径26cm・深さ54cm、P4は長径31cm・短径28cm・深さ39cmを測る。P1-P2間の距離は2.4m、P2-P3間の距離2.15m、P3-P4間の距離2.3m、P4-P1間の距離は2.35mを測る。  
**周溝** カマドと貯蔵穴周辺を除いて全周していたものと思われる。幅5～20cm、深さ1～7cmを測る。  
**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土、セクションM-Mの1～6層は掘り方充墳土になる。  
**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、主柱穴に囲まれた範囲の掘り込みはやや浅く、壁に向かった外周がやや掘り込まれている。深さ2～23cmほどであり、凹凸が認められる。  
**遺物** 覆土中や床直上から少量の遺物が出土。貯蔵穴周辺の南壁下から土師器の杯や床面の南西隅から土師器の高杯脚部が出土している。砥石も出土している。  
**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

164号住居(第208・306図、P.L.104・291)  
**位置** 97E-9・10グリッド、163号住居の南東2.2mの所に位置している。  
**形状** 長方形を呈する。主軸方位 N-61°-E  
**規模** 面積11.52㎡、長辺(北東～南西)3.87m、短辺(北

西～南東)2.98m、残存壁高は29cmを測る。  
**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。  
**カマド** 東壁の中央から南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ175cm、焚き口部の幅44cm、袖を含めた幅は86cmである。右袖には土師器の裏が据えられていた。1～13層はカマド覆土、14～21・23・24層は掘り方になる。22層は袖になる。  
**貯蔵穴** 床面の南東隅に位置している。長径40cm・短径37cm・深さ24cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。  
**柱穴** ビット1基が検出されている。長径40cm・短径34cm・深さ20cmを測る。  
**周溝** 検出できなかった。  
**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～7層は住居覆土、9層は掘り方充墳土になる。  
**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ6～23cmほどであり、凹凸が認められる。  
**遺物** カマド袖として(4)の土師器の裏が使用されている。また(3)の土師器杯も出土している。(7)の土製腕輪は覆土中、(8)の土錵は床直上、(9)の土錵もほぼ同様の出土であった。  
**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

165号住居(第209図、P.L.104)  
**位置** 97C-12・13グリッド、160号住居の南東1mの所に位置している。  
**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。  
**主軸方位** N-112°-E  
**規模** 現状での面積は6.11㎡、長辺(北西～南東)3.75m、現状での短辺(北東～南西)1.73m、残存壁高は20cmを測る。  
**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。  
**カマド** 検出できなかった。ただし東壁に近接した床面上に粘土の堆積が認められたことから、東壁に設置された可能性がある。  
**貯蔵穴** 検出できなかった。  
**柱穴** 検出できなかった。  
**周溝** 検出できなかった。



第209図 1区165号住居

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土、3層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、住居中央部の掘り下げは浅い。深さ2～30cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** 覆土中から少量の土器片が出土している。

**時期** 不明。明確な時期を確定することはできなかった。

#### 166号住居(第210・306図、P.L.104)

**位置** 97B・C-11・12グリッド、181号住居に壊されている。160号住居の南東5.5mの所に位置している。

**形状** 全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積は13.9m<sup>2</sup>、長辺(北西～南東)4.63m、現状での短辺(北東～南西)3.54m、残存壁高は35cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**炉** 主柱穴に囲まれた内側、P3に近接して位置している。長径60cm・短径60cm・深さ3cmの楕円形を呈する。礫1個が配置されている。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** P1～P4の4基のビットが検出された。P1は長径36cm・短径34cm・深さ20cm、P2は長径47cm・短径34cm・深さ45cm、P3は長径47cm・短径32cm・深さ22cm、P4は長径37cm・短径33cm・深さ39cmを測る。主

掘り方



- 1 暗褐色土 軽石を含む。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 小礫を少量含む。ロームブロック、軽石を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

0 1:60 2m

柱穴になる。P1～P2間の距離とP3～P4間の距離は1.9m、P2～P3間の距離2.2m、P1～P4間の距離は2mを測る。P5は長径53cm・短径33cm・深さ22cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。8～10層は住居覆土、11・12層は掘り方充填土になる。なお、1～7層までは181号住居の覆土になる。

**掘り方** 主柱穴に囲まれた範囲の掘り下げは浅く、その外周から壁下でやや深く掘り下げられている。深さ3～35cmほどである。

**遺物** 覆土中や床直上から遺物が出土。(1)のS字状口縁台付甕はP4周辺から、(2)の壺はP2周辺から出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

#### 167号住居(第211・306図、P.L.105・117)

**位置** 97C・D-11・12グリッド、194号住居に壊されている。

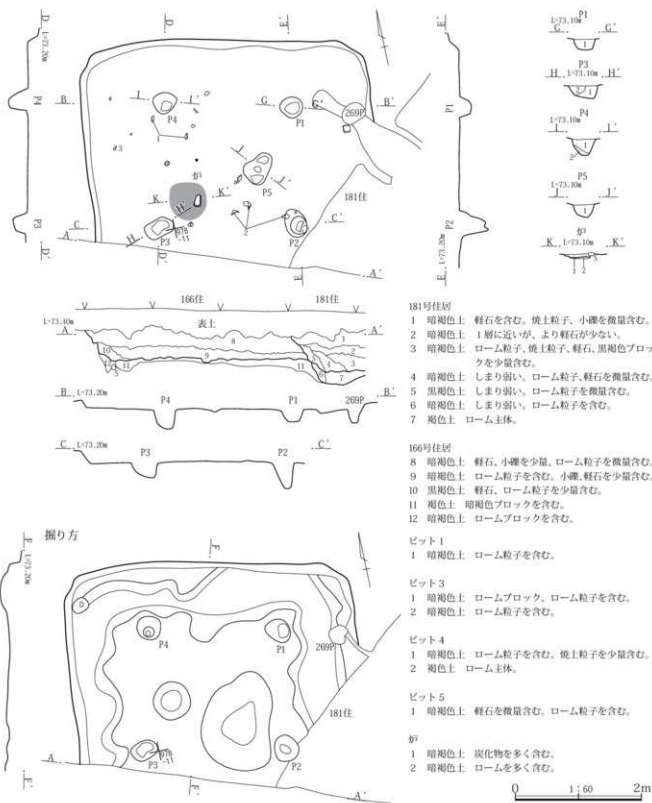
**形状** 方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-37°-W

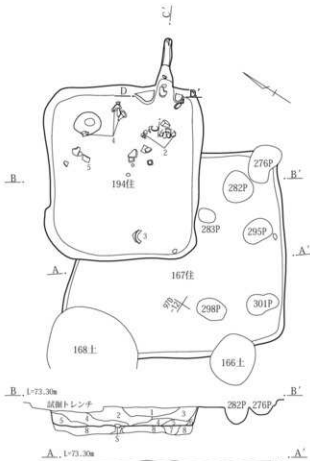
**規模** 現状での面積は7.57m<sup>2</sup>、長辺(北西～南東)3.5m、短辺(北東～南西)3.23m、残存壁高は9cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**炉** 検出できなかった。

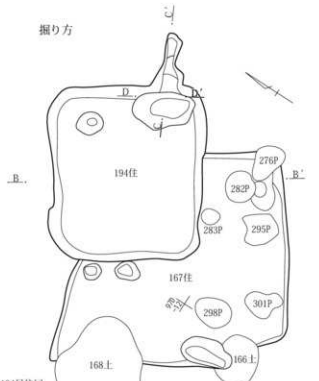


第210図 1区166号住居

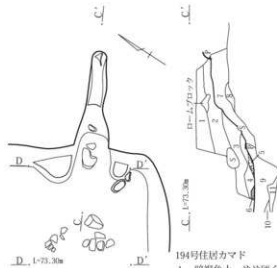


- 167号住居
- 1 暗褐色土
  - 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。
  - 3 褐色土 ロームブロックを含む。

掘り方



- 194号住居
- 1 暗褐色土 しまり弱い、ローム粒子を微量含む。
  - 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
  - 3 暗褐色土 ロームブロック、軽石を含む。
  - 4 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子、ロームブロックを含む。
  - 5 暗褐色土 しまり弱い、ローム粒子を含む。
  - 6 褐色土 ロームブロックを多く含む。
  - 7 暗褐色土 しまり強い。
  - 8 褐色土 しまり強い、小礫を含む。

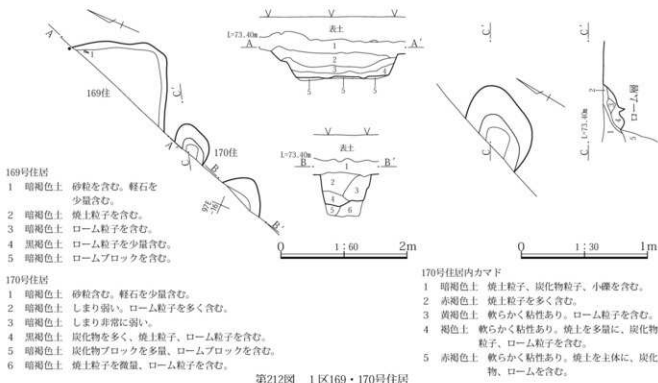


194号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしまり良い。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。暗い色調。
- 3 暗褐色土 軟らかく粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子、ロームブロックを含む。
- 4 黄褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を主体に、焼土ブロックを含む。
- 5 灰
- 6 焼土
- 7 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、軽石を少量含む。
- 8 褐色土 しまり弱い。
- 9 暗褐色土 ロームブロック、黒褐色土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土 小礫、ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 11 褐色土 ローム主体。

第211図 1区167・194号住居

第4章 発掘調査の記録



貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1・2層は住居覆土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられているが浅い。

遺物 覆土中からはほとんど遺物は出土していない。掘り方覆土から須恵器の壺が出土している。

時期 住居形態からすると4世紀代の可能性も考えられるが、判然としない。

194号住居(第211・314図、P.L.105・117・118・295)

位置 97D-11・12グリッド、167号住居と重複し、壊している。

形状 方形を呈する。主軸方位 N-56°-E

規模 面積6.65m<sup>2</sup>、長辺(北東-南西)2.76m、短辺(北西-南東)2.53m、残存壁高は38cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

カマド 東壁の中央から南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ104cm、焚き口部の幅30cm、袖を含めた幅75cmである。1~6層はカマド覆土、7~11層は掘り方になる。5層は灰、6層は焼土である。

貯蔵穴 床面の北東隅に近接して検出された。長径43cm・短径35cm・深さ17cmを測る。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。2~6層は住居覆土、7・8層は掘り方充填土になる。1層は溝の覆土になる。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さ8~15cmほどであり、やや凹凸が認められる。

遺物 覆土中や床直上から遺物が出土。カマド周辺から土師器の壺が出土している。その他、縄土土器片(黒浜・有尾式)1点が出土。

時期 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

169号住居(第212・307図、P.L.105)

位置 97E-15グリッド、170号住居に接している。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するか。主軸方位 不明。

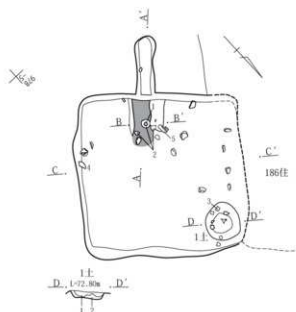
規模 現状での面積は1.06m<sup>2</sup>、北西-南東1.35m、北東-南西1.13m、残存壁高は30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

カマド・炉 検出できなかった。

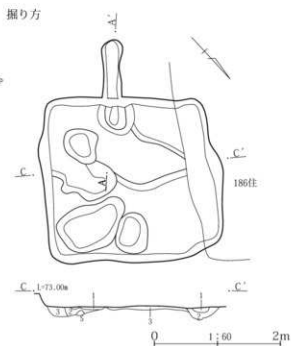
貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。



## 住居内土坑1

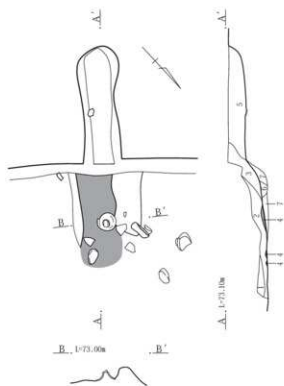
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。



## 掘り方

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体として、暗褐色土を含む。

## 掘り方



## カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、焼土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を含む。
- 4 焼土
- 5 暗褐色土 軟らかい。ロームブロックを多量に、白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。
- 7 褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を多量に含む。

第213図 1区171号住居



周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。2～4層は住居覆土、5層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられているが浅い。

遺物 覆土中や東壁下から土師器の杯が出土している。

時期 明確ではないが、6世紀後半に比定されるか。

170号住居(第212図、P.L.105)

位置 97D・E-15グリッド、169号住居に接している。

形状 調査区外に延びているために全容は不明である。

主軸方位 N-60°-E

規模 カマドの一部と住居の隅が検出されただけである。現残存壁高は41cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

カマド 東壁に設置されている。1～5層はカマド覆土になる。4・5層は焼土と炭化物を多く含んでいた。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。2～4層は住居覆土、5・6層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さ17～25cmを測る。

遺物 覆土中からわずかに土器片が出土している。

時期 不明。

171号住居(第213・307図、P.L.105・106・291)

位置 97B-4・5グリッド、153・186号住居と重複し、壊している。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-140°-W

規模 現状での面積は㎡、長辺(北西～南東)2.64m、短辺(北東～南西)2.35m、残存壁高は11～31cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

カマド 南壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃焼部は床から壁を掘り込んで構築されている。長さ156cm、焚き口部の幅28cm、袖を含めた幅は60cmである。支脚として高環が使用され、また袖石が残されていた。1～5層はカマド覆土、4層は焼土になる。6・7層は掘り方になる。

貯蔵穴 床面の北隅から検出された土坑が貯蔵穴になるものと思われる。長径61cm・短径55cm・深さ10cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居掘り方の充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられているが中央部は浅い。深さ3～20cmほどであり、やや凹凸が認められる。

遺物 覆土中や床直上、掘り方から遺物が出土。カマドの支脚として土師器高杯の脚部が使用されている。(3・4)の裏は覆土中からの出土である。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

172号住居(第214・307図、P.L.107)

位置 97C・D-6・7グリッド、173号住居、22号溝と重複している。22号溝に壊されている。

形状 全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位 不明。

規模 現状での面積は6.49㎡、長辺(北西～南東)3.92m、短辺(北東～南西)3.55m、残存壁高は24cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

カマド・炉 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。6・7層は住居覆土になる。1～5層は173号住居の覆土である。

掘り方 住居中央部での掘り下げは浅く、壁下でやや深く掘り下げられている。深さ2～12cmほどである。セクションB-B'の1・2層は掘り方充填土になる。

遺物 覆土中や床直上から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

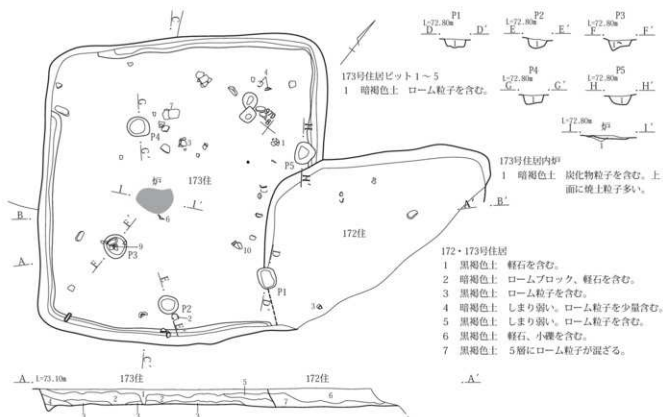
173号住居(第214・307図、P.L.107・292)

位置 97C・D-7・8グリッド、172・178号住居と重複している。178号住居を壊している。

形状 方形を呈する。主軸方位 N-38°-W

規模 現状での面積は21.67㎡、長辺(北西～南東)4.9m、

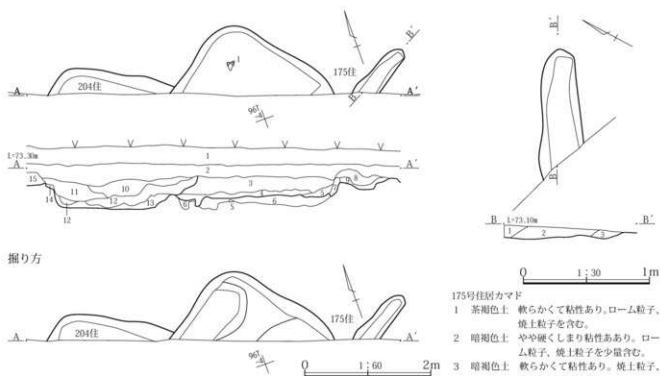
第2節 1区の遺構と遺物



掘り方



第214図 1区172・173号住居



掘り方

175号住居

- 1 表土 浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、浅間B軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。上層よりも暗い色調。
- 5 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを多量に、焼土ブロックを含む。
- 6 黄褐色土 やや硬く粘性あり。ロームと暗褐色土の混り方クセ。
- 7 黄白色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を少量含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 9 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。暗褐色土、焼土粒子を含む。

204号住居

- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。明るい色調。
- 11 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。暗い色調。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。
- 14 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を少量含む。
- 15 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。

第215図 1区175・204号住居

短辺(北東～南西)4.45m、残存壁高は25cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。部分的に貼床が認められる。全体的に硬化面は認められない。

**竈** 主柱穴に囲まれた床面の中央やや南寄りに位置している。長径57cm・短径39cm・深さ3cmの楕円形を呈する。焼土が堆積していた。なお、172号住居との重複部分にカマドが存在していた可能性も考えられる。

**貯蔵穴** 東壁下から検出されたP5が貯蔵穴になる可能性がある。長径36cm・短径29cm・深さ13cmを測る。

**柱穴** P1～P6の6基のビットが検出された。このうちP1・P3・P4・P6の4基が主柱穴になるものと思われる。P1は長径35cm・短径28cm・深さ11cm、P3は長径38cm・短径36cm・深さ17cm、P4は長径38cm・短径32cm・深さ15cm、P6は長径24cm・短径19cm・深さ

24cmを測る。P1～P3間の距離は2.5m、P3～P4間の距離は2m、P4～P6間の距離1.8m、P1～P6間の距離は2.6mを測る。

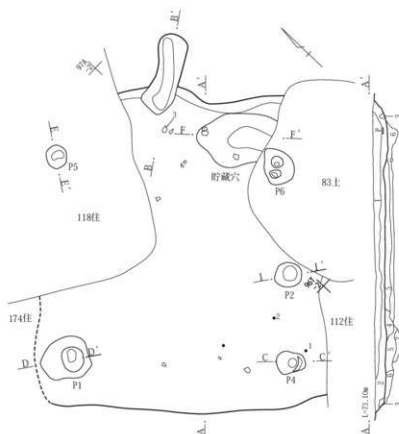
**周溝** 北西隅で途切れているが、ほぼ全周していたものと思われる。幅7～17cm、深さ1～11cmを測る。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土になる。セクションB-B'、C-C'の2・3層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ2～18cmほどである。

**遺物** 覆土中や床面直上から土師器の杯や甕が出土している。(9)の甕はP3から、(10)の甕は掘り方、(7)の蓋はP4に近接して出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。



- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを多量に含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを少量含む。(暗い色調)

## 貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土を主体とする。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物を含む。

第216図 1区177号住居(1)

175号住居(第215・307図、P L. 108・292)

位置 96S・T-3・4グリッド、204号住居と重複し、壊されている。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

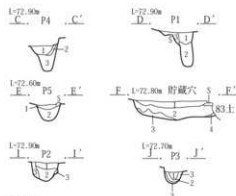
主軸方位 N-52°-E

規模 現状での面積は2.05㎡、北西～南東3m、北東～南西1.23m、残存壁高は25cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

カマド 東壁の中央からやや北寄りに設置されている。

燃焼部は床から壁を掘り込んで構築されている。長さ93cm、幅34cmである。1～5層はカマド覆土になる。



## 1ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり。ロームブロック、白色軽石を含む。

## 2ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

## 3ピット

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 2 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層。

## 4ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。

## 5ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。

0 1:60 2m

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。3・4層は住居覆土、6層は掘り方充填土になる。

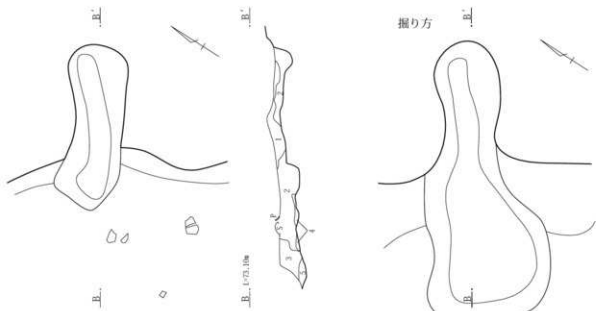
掘り方 全体的に掘り下げられている。深さ10～18cmほどであり、やや凹凸が認められる。

遺物 覆土中から土師器の杯が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

204号住居(第215図、P L. 108)

位置 96T-4グリッド、175号住居と重複し、壊されている。

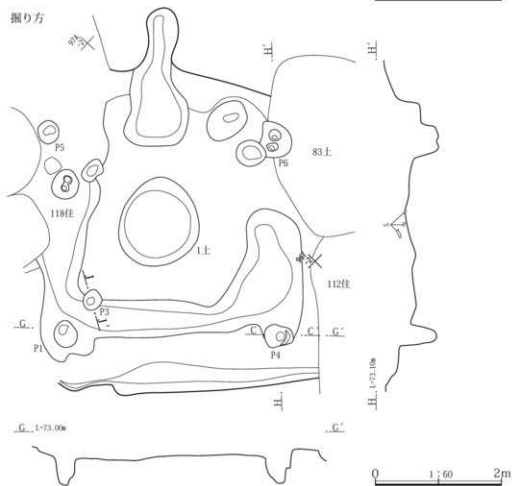


かマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子をやや多く含み、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含み、焼土粒子、炭化物粒子を含む。

- 3 褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、灰を多量に含む。
- 4 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロックを含む。

0 1:30 1m



0 1:60 2m

第217図 1区177号住居(2)

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明である。

**主軸方位** 不明。

**規模** 北西～南東2.45m、北東～南西0.4m、残存壁高は32cmを確認できた。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。10～14層は住居覆土になる。

**掘り方** 検出できなかった。

**遺物** 覆土から少量の土器片が出土している。

**時期** 不明。

#### 177号住居(第217・308図、P.L.108)

**位置** 96S-2、96T-1・2グリッド、112・118・174号住居、83号土坑と重複している。174号住居を壊し、83号土坑、112号住居に壊されている。

**形状** 方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-46°-E

**規模** 面積15.78㎡、長辺(北東～南西)5.1m、現状での短辺(北西～南東)4.6m、残存壁高は15～24cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 東壁の中央から南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ220cm、幅96cmである。1～5層はカマド覆土である。

**貯蔵穴** 床面の東隅に近接して検出された。83号土坑によって一部壊されているが、長径118cm・短径85cm・深さ33cmを測る。覆土は4層に分かれた。

**柱穴** 主柱穴4基が検出された。P1は長径78cm・短径67cm・深さ60cm、P5は長径37cm・短径33cm・深さ26cm、P6は長径60cm・短径47cm・深さ33.6cm、P4は長径46cm・短径32cm・深さ37cmを測る。P1-P5間の距離は3.1m、P5-P6間の距離3.5m、P6-P4間の距離3.15m、P4-P1間の距離は3.4mを測る。P2は長径42cm・短径38cm・深さ26cm、P3は長径33cm・短径29cm・深さ28cmであった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、

4～7層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ10～25cmほどであり、やや凹凸が認められる。

**遺物** 覆土中から少量の土器片が出土。カマド周辺から(3)の土師器甕、P4の周辺から土師器の杯が出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

#### 178号住居(第218・308図、P.L.109・292)

**位置** 97C-D-8・9グリッド、173・179・201号住居と重複し、壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。主軸方位 N-45°-W

**規模** 現状での面積は6.8㎡、長辺(北西～南東)3.14m、

短辺(北東～南西)2.49m、残存壁高は13～25cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。部分的に貼床が認められた。全体的に硬化面は認められない。

**炉** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 明瞭な貯蔵穴は検出できなかった。

**柱穴** P1～P4の4基のビットが検出された。このうちP2～P4の3基が主柱穴になるものと思われる。P2は長径50cm・短径44cm・深さ45cm、P3は長径30cm・短径23cm・深さ34cm、P4は長径52cm・短径35cm・深さ17cmを測る。P2-P3間の距離とP3-P4間の距離は3.1mを測る。残りの主柱穴は201号住居によって壊されてしまったものであろう。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 覆土をほとんど検出することはできなかった。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ11～25cmほどである。

**遺物** 床直上の北壁に近接してS字状口縁台付甕、小型の台付甕が出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

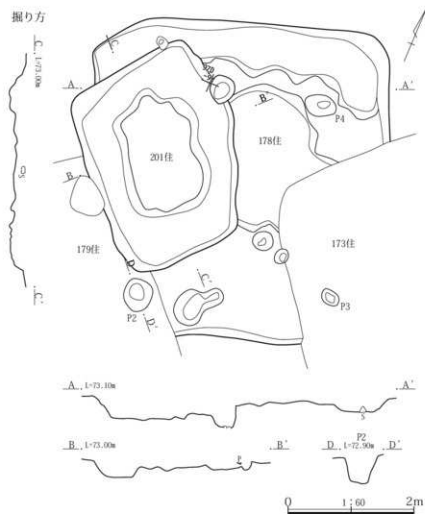
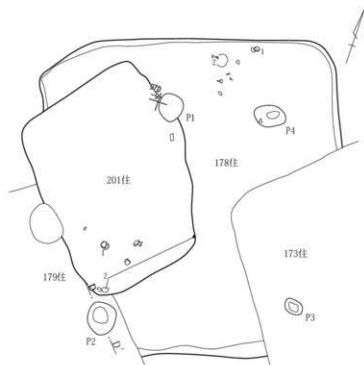
#### 201号住居(第218・314図、P.L.109・120・297)

**位置** 97C-8・9、97D-9グリッド、178・179号住居と重複し、壊している。

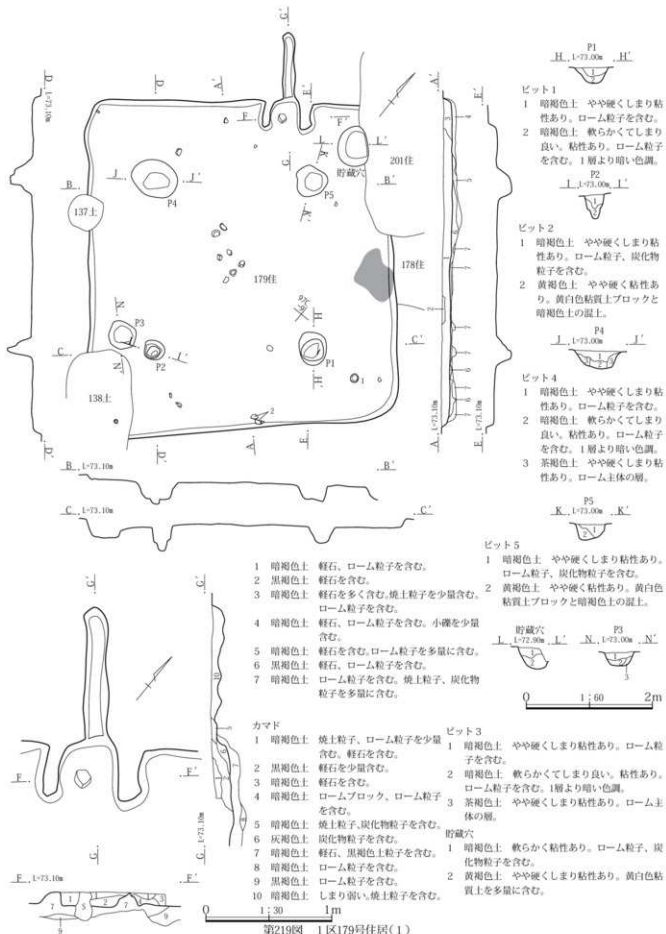
**形状** 隅丸長方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-20°-W

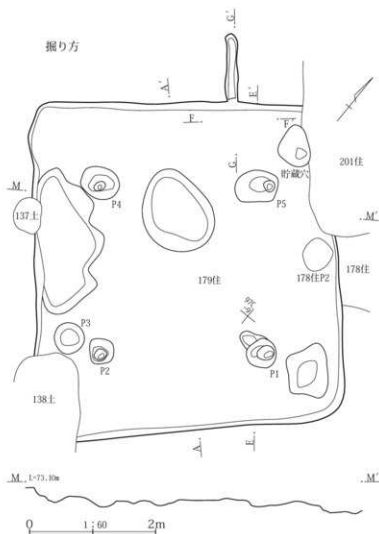
**規模** 現状での面積は16.25㎡、長辺(北西～南東)5.05m、短辺(北東～南西)4.64m、残存壁高は5～10cmを



第218図 1区178・201号住居







第220図 1区179号住居(2)

測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 覆土をほとんど検出できなかった。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、中央部でやや浅くなっている。深さ10～25cmほどである。

**遺物** 掘り方から少量の土器が出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半に比定される。

179号住居(第219・220・308図, P L.110・118・292)

**位置** 97B・C-8・9グリッド、178・201号住居と重複している。178号住居を壊し、201号住居に壊されている。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-40°-W

**規模** 現状での面積は23.65㎡、長辺(北西～南東)5.28m、短辺(北東～南西)4.86m、残存壁高は15cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 北壁の中央から南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ160cm、焚き口部の幅40cm、袖を含めた幅は90cmである。1・2・5・6・10層はカマド覆土、7～9層は掘り方になる。礎1個が据えられていた。支脚になるものであろう。

**貯蔵穴** 床面の北隅から検出された。長径64cm・短径47cm・深さ25cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** P1・P2・P4・P5の4基が主柱穴になる。P1は長径53cm・短径43cm・深さ23cm、P2は長径35cm・短径32cm・深さ37cm、P4は長径74cm・短径59cm・深さ27cm、P5は長径52cm・短径48cm・深さ25cmを測る。P1-P2間の距離とP4-P5間の距離は2.5m、P1-P5間とP2-P4間の距離は2.5mを測る。P3は長径35cm・短径32cm・深さ37cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居覆土、5～7層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ4～15cmであり、凹凸が認められる。

**遺物** 床直上から少量の土器が出土。土師器の杯が東壁の周辺から出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半に比定される。

180号住居(第221・308図, P L.111・112・118・292)

**位置** 97C-10・11グリッド、181・196・202号住居と重複している。181号住居に壊され、202号住居を壊している。

**形状** 方形を呈する。主軸方位 N-30°-W

**規模** 現状での面積は13.56㎡、長辺(北西～南東)4.59m、短辺(北東～南西)4.4m、残存壁高は6～17cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められ

ない。

カマド・炉 検出できなかった。

貯蔵穴 明瞭な貯蔵穴は検出できなかったが、掘り方調査時に検出された床面北西隅の落ち込みが貯蔵穴になる可能性がある。長径98cm・短径93cm・深さ20cmの楕円形を呈する。

柱穴 ビット1基を検出した。P1は長径46cm・短径34cm・深さ19cmを測る。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～7層は住居の覆土、8～13層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さ4～16cmほどで凹凸がある。

遺物 床直上や掘り方から少量の土器が出土。(3・4)は床面の中央からやや北よりに、(2)の壺は床面やや南寄りから出土している。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。

#### 202号住居(第221・314図、P.L.111・118・297)

位置 97C-9～11、97D-10グリッド、180・196号住居と重複している。180号住居に壊されている。

形状 全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。主軸方位 N-38°-W

規模 現状での面積は2.78㎡、長辺(北西～南東)4.78m、現状での短辺(北東～南西)2.73m、残存壁高は12cmを測る。

床面 やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。

炉 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。14層は住居の覆土、15層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さ5～17cmほどで凹凸がある。

遺物 壁に近接した床直上から土師器の小型甕が出土している。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。

#### 181号住居(第222～224・308～310図、P.L.111・112・292・293)

位置 97B・C-10・11グリッド、166・180・182号住居と重複している。166・180号住居を壊し、182号住居に壊されている。

形状 調査区外に延びているが、方形を呈するものであろう。主軸方位 N-46°-W

規模 現状での面積は23.1㎡、長辺(北西～南東)5.93m、現状での短辺(北東～南西)5.37m、残存壁高は55cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

カマド 北壁のほぼ中央に設置されているものと思われる。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ207cm、焚き口の幅45cm、袖を含めた幅は100cmである。袖の先端には礫が設置されている。また支脚の礫も残っていた。1～4層はカマド覆土、5層は掘り方になる。1層は焼土である。

貯蔵穴 カマドの北東から検出された。長径86cm・短径66cm・深さ30cmの楕円形を呈する。覆土は3層に分かれた。

柱穴 P1とP2の2基のビットが主柱穴になる。P2は長径44cm・短径39cm・深さ15cm、P1は長径54cm・短径53cm・深さ16cmを測る。P1-P2間の距離は3mを測る。P3は長径46cm・短径45cm・深さ31cm、P4は長径50cm・短径35cm・深さ35cm、P5は長径55cm・短径39cm・深さ20cmを測る。P3とP4は出入口施設になる可能性がある。

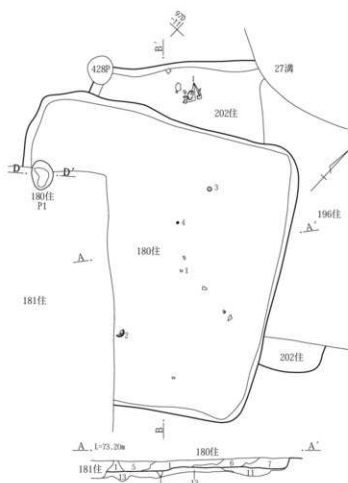
周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～5層は住居覆土、6・7層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り込みは浅いが、壁際でやや深くなる。深さ3～22cmほどであり、凹凸が認められる。

遺物 カマド周辺や貯蔵穴、P1周辺からまとめて土器が出土。カマド内から4個体の土師器杯(12・13・15・16)が出土している。カマド脇からは土師器の杯と甕(2・6・22・26)、P1内やその周辺からは埴、甕、甕(17・20・21・24)、貯蔵穴周辺からは土師器の杯が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半代に比定される。



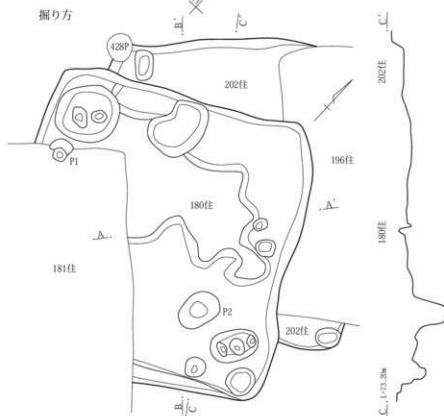
- 180号住居
- 1 黒褐色土 軽石、ローム粒子を含む。
  - 2 暗褐色土 ロームブロックを多く、軽石を含む。
  - 3 暗褐色土 軽石を含む。小礫を微量含む。
  - 4 褐色土 しまり弱い。
  - 5 暗褐色土 軽石、ロームブロックを含む。
  - 6 暗褐色土 しまり弱い。軽石を含む。ローム粒子を少量含む。
  - 7 暗褐色土 しまり弱い。小礫、軽石を含む。
  - 8 暗褐色土 軽石、ローム粒子を含む。
  - 9 暗褐色土 砂質土。軽石を含む。
  - 10 褐色土 粘性強い。ローム主体。
  - 11 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを含む。
  - 12 黒褐色土 軽石を含む。
  - 13 黒褐色土 軽石を多く、ローム粒子を含む。
- 202号住居
- 14 暗褐色土 ローム粒子、軽石を含む。
  - 15 暗褐色土 ロームブロックを微量含む。



180号住居ピット1

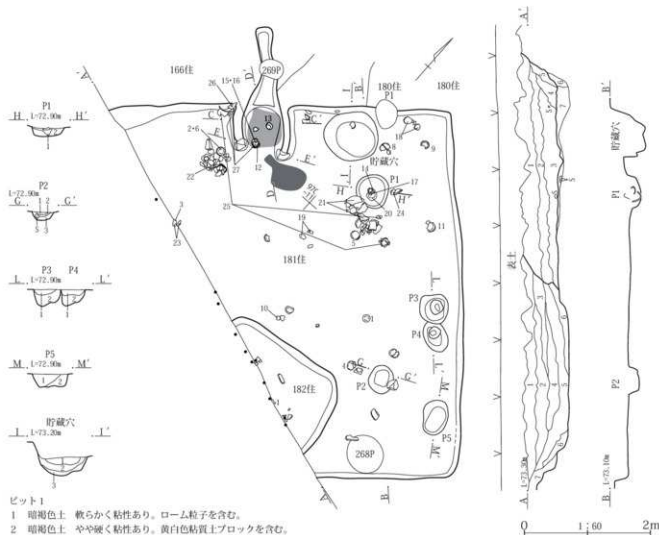
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。

掘り方



第221図 1区180・202号住居

0 1:60 2m



## ビット1

- 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

## ビット2

- 1 黄褐色土 やや硬くしめる。ローム主体に暗褐色土を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 黄白色土 やや硬く粘性あり。暗褐色土を少量含む。

## ビット3

- 1 暗褐色土 やや硬くしめる。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子を少量含む。

## ビット4

- 1 暗褐色土 やや硬くしめる。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子を少量含む。

## ビット5

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。

## 181号住居

- 1 暗褐色土 軽石を含む。焼土粒子、小礫を微量含む。
- 2 暗褐色土 1層に近いが、より軽石が少ない。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、軽石、黒褐色ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、軽石を微量含む。
- 5 黒褐色土 しまり弱い。ローム粒子を微量含む。
- 6 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。
- 7 褐色土 ローム主体。

## 貯蔵穴

- 1 暗褐色土 軟らかくしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。1層より暗い色調。
- 3 黄褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。

第222図 1区181・182号住居(1)

182号住居(第222～224・310図、P.L.111・112)

位置 97B-10グリッド、181号住居を壊している。

形状 調査区外に延びているが、隅丸方形を呈するものであろう。主軸方位 不明。

規模 現状での面積は1.53㎡、東西2.04m、現状での南北1.13m、残存壁高は50cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

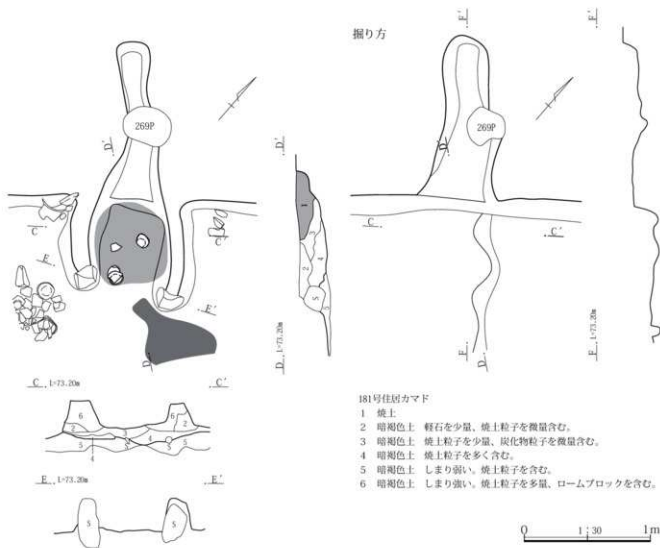
カマド 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～7層は住居覆土



第223図 1区181・182号住居(2)

になる。

**掘り方** 検出できなかった。

**遺物** 覆土中から土師器の杯が出土している。

**時期** 出土遺物から8世紀前半代に比定される。

**183号住居**(第225・226・310・311図、P.L.112・293・294)

**位置** 97A・B-6・7グリッド、186号住居と重複している。

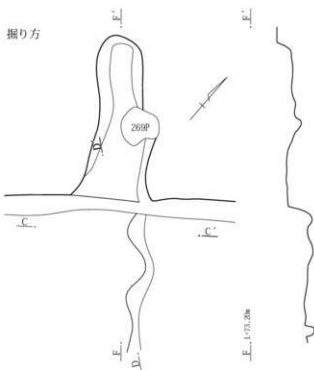
186号住居のごく一部を壊している。

**形状** 隅丸方形を呈する。 **主軸方位** N-52°-E

**規模** 面積15.62㎡、長辺(北東～南西)4.13m、短辺(北西～南東)4m、残存壁高は16～34cmを測る。

**床面** 全体的にほぼ平坦である。あまり硬化面は認められなかった。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ202cm・焚き口



181号住居カマド

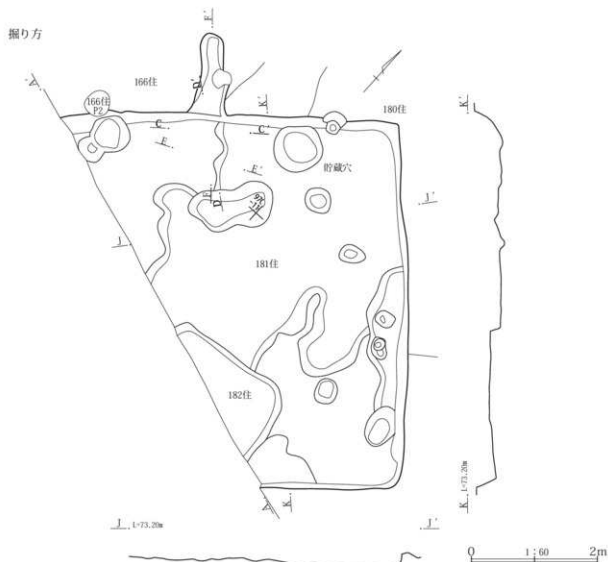
- 1 焼土
- 2 暗褐色土 軽石を少量、焼土粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒子を多く含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱い、焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 しまり強い、焼土粒子を多量、ロームブロックを含む。

部の幅48cm、袖を含めた幅は70cmである。袖に灰が使用されている。1～6層はカマド覆土、6層は焼土と灰を多量に含んでいる。7～10層は掘り方になる。

**貯蔵穴** 床面の東隅から検出された。長径60cm・短径35cm・深さ21cmの楕円形を呈する。土坑1は長径85cm・短径70cm・深さ21cmで、覆土は3層に分かれた。土器片が出土している。土坑2は長径88cm・短径61cm・深さ19cmで、覆土は4層に分かれた。

**柱穴** 床面からビット11基が検出されている。北壁下から検出されたP1とP2、P5とP6はそれぞれ対になっているようである。P1は長径35cm・短径26cm・深さ25cm、P2は長径34cm・短径25cm・深さ19cm、P5は長径33cm・短径21cm・深さ31cm、P6は長径29cm・短径23cm・深さ39cmである。

その他のビットの規模は次のようである。P3は長径



第224図 1区181・182号住居(3)

62cm・短径37cm・深さ20cm、P 4は長径23cm・短径20cm・深さ31cm、P 7は長径27cm・短径21cm・深さ29cm、P 8は長径32cm・短径31cm・深さ30cm、P 9は長径23cm・短径21cm・深さ15cm、P 10は長径25cm・短径23cm・深さ15cm、P 11は長径39cm・短径27cm・深さ29cm、P 12は長径32cm・短径25cm・深さ20cm、P 13は長径85cm・短径57cm・深さ21cmである。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～6層が住居覆土、7～10層は掘り方充墳土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げているが浅い。深さ5～19cmである。

**遺物** 床面中央部、床直上から土器がまとめて出土している。(7～9)の土師器杯、(11・12・14～18)の土師器甕である。(13)の甕はカマドの袖として使用されて

いる。

**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

**184号住居(第227・228・311・312図、P.L.112・113・294)**

**位置** 97E・F-6グリッド、185号住居、22号溝と重複している。185号住居を壊し、22号溝に壊されている。

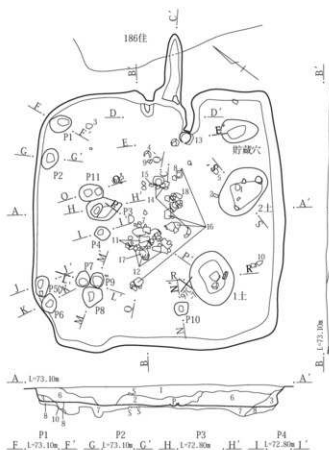
**形状** 隅丸方形を呈するものと思われる。

**主軸方位** N-110°-E

**規模** 現状での長辺(南北)3.95m、短辺(東西)1.5m、残存壁高は25cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

**カマド** 東壁の中央から南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ144cm・焚き口部の幅44cmである。1～5層はカマド覆土、3層は焼土を



- ビット1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
  - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- ビット2
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
  - 2 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- ビット3
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物を含む。
  - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。1層より暗い色調。
- ビット4
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
  - 2 黄白色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- ビット5
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
  - 2 黄褐色土 硬くしまる。ロームを主体とする。
  - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- ビット6
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
  - 2 黄白色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- ビット7
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
  - 2 黄白色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。

- 1 暗褐色土 軽石、焼土粒と小礫を少量含む。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軽石、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。ローム粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロック、小礫を含む。やや硬くしまる。暗褐色土とロームの混土。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。暗褐色土とロームの混土。
- 8 黄褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を主体に、ロームブロックを含む。
- 10 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。



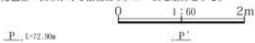
- ビット10
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
  - 2 黄白色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- ビット11
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
  - 2 暗褐色土 非常に軟らかく粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。



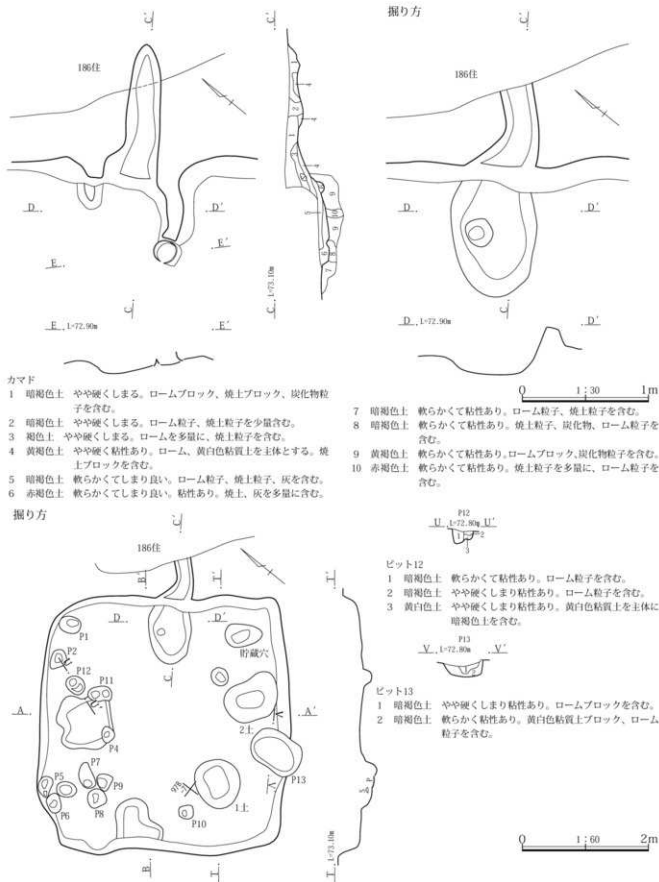
- 内土坑1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
  - 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。
  - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 内土坑2
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。
  - 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
  - 3 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
  - 4 黄白色土 軟らかく粘性あり。暗褐色土を少量含む。

- ビット8
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
  - 2 黄白色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。

- ビット9
- 1 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子を含む。
  - 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを主体とする。



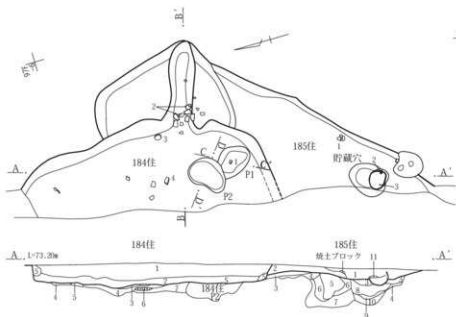
第225図 1区183号住居(1)



第226図 1区183号住居(2)



第4章 発掘調査の記録



184号住居ビット1

- 1 灰褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、炭化物、灰を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、暗褐色土を含む。

184号住居ビット2

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 軟らかく粘性あり。炭化物、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロックを含む。
- 4 黄褐色土 軟らかく粘性あり。暗褐色土を含む。

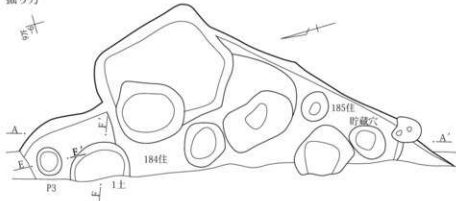
184号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土ブロックをやや多く含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームを主体に暗褐色土を少量含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームと暗褐色土の混土。筋床。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子、焼土粒子を含む。

185号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームと暗褐色土の混土。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームと暗褐色土の混土。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームと暗褐色土の混土。
- 7 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。暗い色調。
- 10 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- 11 黒褐色土 軟らかい。炭化物、白色粒子を含む。

掘り方



184号住居ビット3

- 1 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。ロームブロックを少量含む。

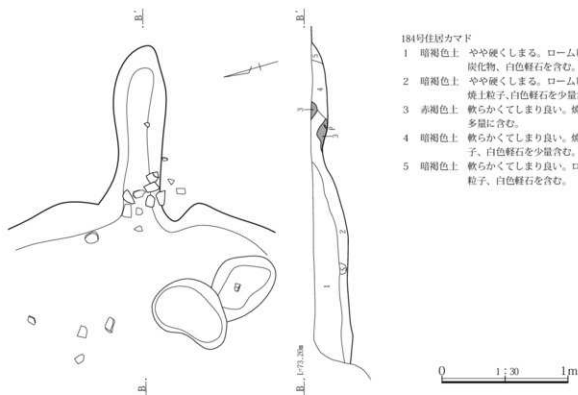


184号住居内土塊1

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。



第227図 1区184・185号住居(1)



第228図 1区184・185号住居(2)

多量に含んでいる。

**貯蔵穴** 床面の南東隅から検出されたP1が貯蔵穴になるものと思われる。長径53cm・短径44cm・深さ14cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。P2もその可能性は否定できない。長径64cm・短径45cm・深さ17cmで、覆土は4層に分かれた。いずれのピットも炭化物を含んでいる。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層が住居覆土、4～7層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ3～17cmである。ピット1基と土坑1基が検出された。P3は長径45cm・短径38cm・深さ25cmで覆土は2層に分かれた。土坑1は長径93cm・短径60cm・深さ14cmで覆土は2層に分かれた。

**遺物** 覆土中から少量の土器が出土。カマド内から土師器の裏、P1内からも土師器の裏が出土している。磨石、敲石も出土している。

**時期** 出土遺物から10世紀後半に比定される。

185号住居(第227・228・312図、P.L.113・294)

**位置** 97D・E-6グリッド、184号住居、22号溝と重複し、壊されている。

**形状** 不明。主軸方位 不明。

**規模** 現状での面積㎡、現状での長辺(北東～南西)4m、短辺(北西～南東)1.45m、残存壁高は10cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 土器が出土した土坑が貯蔵穴になるものと思われる。長径60cm・短径48cm・深さ40cmの楕円形を呈する。覆土3・4・8～10層の5層に分かれた。近接する土坑は長径92cm・短径75cm・深さ52cmで、覆土は5～7層の3層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。

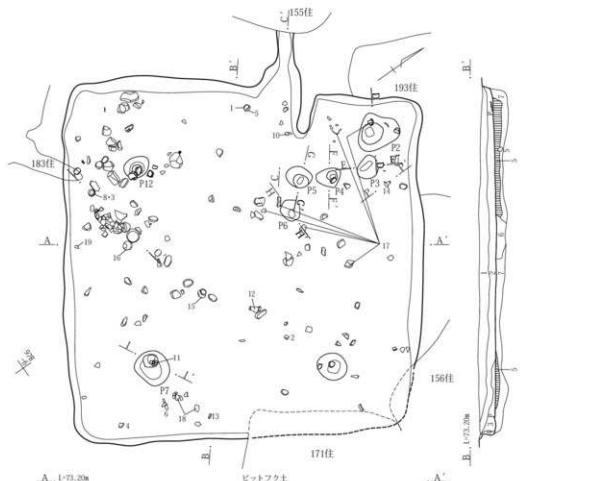
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1・2層が住居覆土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ10cmである。

**遺物** 貯蔵穴上層からS字状口縁台付裏と壺が出土している。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。



- |  |                                    |
|--|------------------------------------|
| 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。            | 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを多量に含む。      |
| 2 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。   | 5 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックと暗褐色土の混上。貼床。 |
| 3 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。上層よりも暗い色調。 | 6 暗褐色土 やや硬い。ロームを多量に含む。             |
|  | 7 黄褐色土 やや硬い。ロームを多量に暗褐色土を含む。        |



ピット2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混上。
- 4 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

ピット6

- 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ローム主体の層。

ピット7

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。

ピット3

- 1 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、炭化物を含む。 P, 1-73.10m, P', Q, 1-73.10m

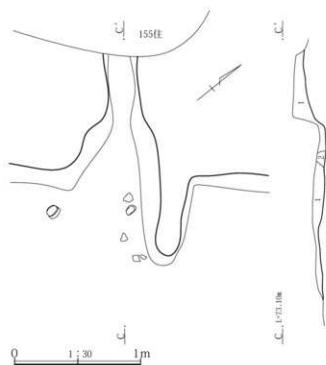
ピット4

- 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ローム主体で、暗褐色土を含む。

ピット5

- 1 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ロームと暗褐色土の混上。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。

第229図 1区186号住居(1)



カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくしまり良い、粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、灰を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームを多量に、暗褐色土を含む。

ピット9

- 1 暗褐色土 軟らかくしまり良い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくしまり良い、粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

ピット12

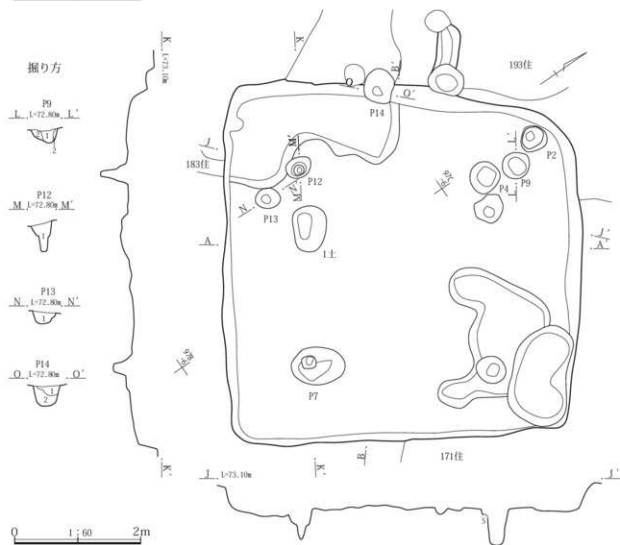
- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。炭化物粒子を微量含む。

ピット13

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。

ピット14

- 1 暗褐色土 しまり強い。軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。



掘り方

P9  
L. 1-72.80m, L'



P12  
M. 1-72.80m, M'



P13  
N. 1-72.80m, N'



P14  
O. 1-72.80m, O'



第230図 1区186号住居(2)

**186号住居**(第229・230・312・313図、P.L.96・113～115・26)  
**位置** 97B・C-5・6グリッド、155・156・171・183・193号住居と重複している。193号住居を壊し、155・171・183号住居に壊されている。

**形状** 方形を呈する。 **主軸方位** N-56°-W

**規模** 面積は31.63㎡、長辺(北西～南東)5.77m、短辺(北東～南西)5.7m、残存壁高は19～29cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 西壁の中央からやや北寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ193cm、焚き口部の幅55cm、袖を含めた幅は73cmである。1・2層はカマド覆土になる。

**貯蔵穴** 床面の北隅から検出されたP2が貯蔵穴になる。長径66cm・短径58cm・深さ44cmの楕円形を呈する。覆土は4層に分かれた。

**柱穴** P1・P4・P7・P12の4基が主柱穴になる。P1は長径49cm・短径44cm・深さ32cm、P4は長径38cm・短径32cm・深さ58cm、P7は長径56cm・短径49cm・深さ44cm、P12は長径41cm・短径33cm・深さ44cmを測る。P1-P7間の距離は2.9m、P7-P12間の距離3.1m、P12-P5間の距離3.1m、P4-P1間の距離は3mを測る。P3は長径38cm・短径32cm・深さ18cm、P5は長径41cm・短径33cm・深さ25cm、P6は長径35cm・短径31cm・深さ18cm、P9は長径46cm・短径43cm・深さ19cmを測る。P13は長径41cm・短径33cm・深さ20cm、P14は長径54cm・短径45cm・深さ30cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居覆土、5層は貼床、6・7層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ7～22cmであり、凹凸が認められる。土坑1基とピットが検出された。土坑1は長径74cm・短径52cm・深さ13cm、P9は長径46cm・短径43cm・深さ19cmを測る。P13は長径41cm・短径33cm・深さ20cm、P14は長径54cm・短径45cm・深さ30cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**遺物** 覆土中と床面直上、床面の南西隅に土器や礫がややまとまって出土。カマド周辺から土師器の杯(1・5・10)が、P3周辺から須恵器の高杯脚部(14)、東壁周辺からは土師器杯(4・6)、須恵器高杯(13)、土師器甕(18)

が出土している。また、馬歯と思われる細片も出土。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

**188号住居**(第231・313図、P.L.96・115・116・296)

**位置** 97C-5・6グリッド、186・191・193号住居と重複している。193号住居を壊し、191号住居に壊されている。

**形状** 隅丸方形を呈する。 **主軸方位** N-41°-W

**規模** 現状での面積7.79㎡、長辺(北東～南西)3.84m、短辺(北西～南東)2.78m、残存壁高は9～22cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 土坑2基が検出された。土坑1は長径76cm・短径60cm・深さ23cm、土坑2は長径66cm・短径51cm・深さ34cmを測る。いずれも覆土は2層に分かれた。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、4・5層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが、住居南東隅・北隅の掘り下げが認められる。深さ5～15cmほどである。

**遺物** 床面直上から土師器の甕が細片となった状態でまとまって出土している。この他に土師器杯も出土している。

**時期** 出土遺物から6世紀後半代に比定される。

**193号住居**(第231・314図、P.L.96・114～116)

**位置** 97C-6グリッド、155・186・188号住居と重複し、壊されている。

**形状** 不明。 **主軸方位** 不明。

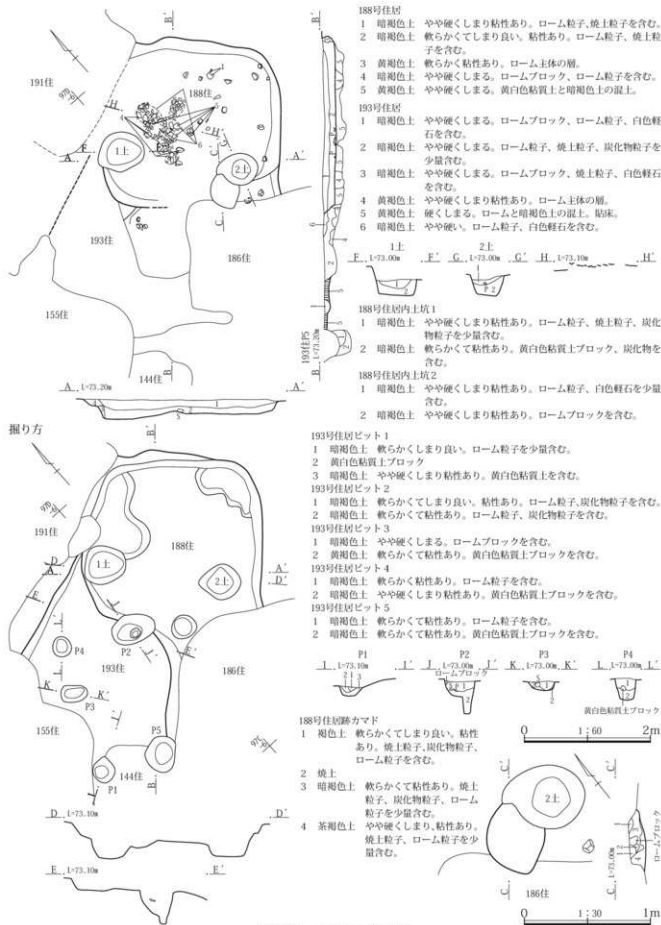
**規模** 現状での面積3.16㎡を測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

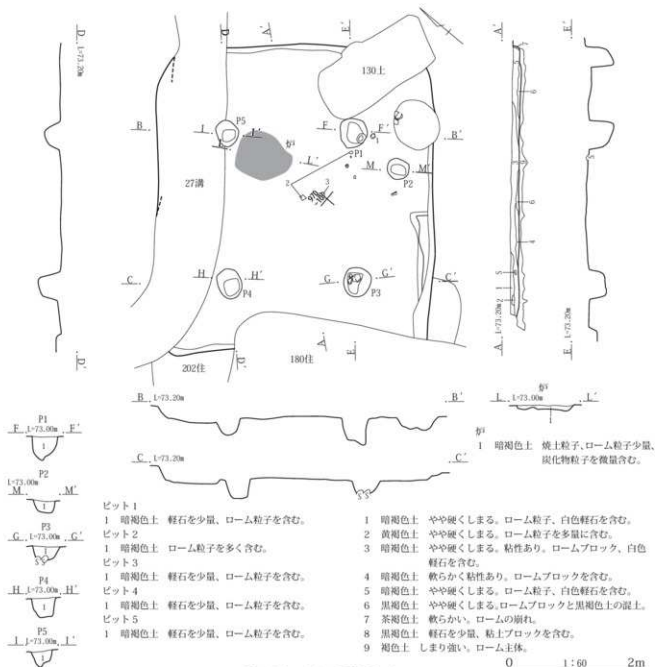
**缸** 検出できなかった。

**貯蔵穴** P5が貯蔵穴になるものと思われる。長径43cm・短径37cm・深さ26cmを測る。覆土は2層に分かれた。

**柱穴** 主柱穴になると思われるのはP2である。この他にピット3基が検出された。P1は長径46cm・短径43cm・深さ22cm、P2は長径34cm・短径33cm・深さ17cm、P3は長径46cm・短径45cm・深さ23cm、P4は長径48cm・短径37cm・深さ26cmを測る。



第231図 1区188・193号住居



周溝 検出できなかった。

埋没土 床面での検出のために確認できなかった。3・4層は掘り方充填土、5層は貼床になる。

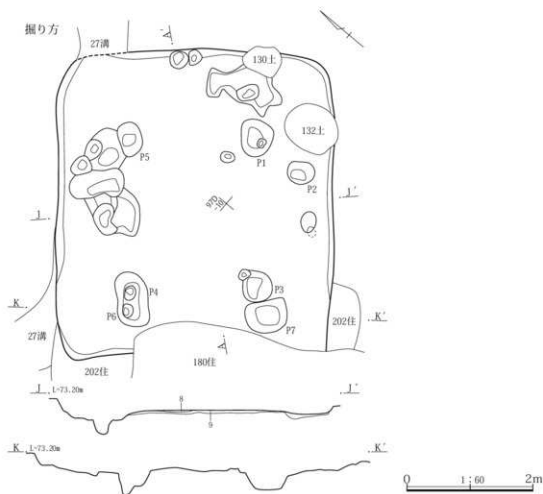
掘り方 全体的に浅く掘り下げられている。深さ5cmほどである。

遺物 遺物の出土はほとんどなかった。

時期 4世紀代に比定されるか。

196号住居(第232・233・314図、P L.118・295)

位置 97C・D-9・10グリッド、180・202号住居、27号溝と重複している。27号溝によって壊されている。



第233図 1区196号住居(2)

**柱穴** P1・P3～P5の4基のピットが支柱穴になるものと思われる。P1は長径46cm・短径43cm・深さ22cm、P3は長径46cm・短径45cm・深さ23cm、P4は長径48cm・短径37cm・深さ26cm、P5は長径43cm・短径35cm・深さ22cmを測る。P1～P3間の距離とP4～P5間の距離は2.4m、P1～P5間の距離とP3～P4間の距離は2mを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～7層は住居覆土、8・9層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ2～11cmほどである。

**遺物** 床直上やピット内から少量の遺物が出土。(1)はP1に近接して、(2・3)の鉢と高杯は葦の周辺からの出土である。

**時期** 出土遺物から4世紀代に比定される。

197号住居(第234～236・315・316図、P.L.119・298)

**位置** 96T・97A-4・5グリッド、198号住居と重複し、壊されている。

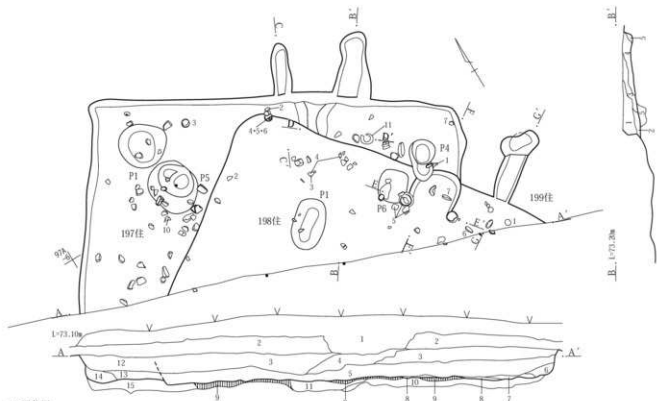
**形状** 調査区外に延びているが、方形を呈するものと思われる。**主軸方位** N-32°-E

**規模** 現状での面積は9.62㎡、北西～南東5.94m、現状では北東～南西3.36m、残存壁高は28cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。**カマド** 2基検出された。カマド2が新しい。カマド1は北壁のほぼ中央に設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ120cmである。1～4層はカマド覆土になる。カマド2はカマド1の南東65cmの所に位置する。床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ180cm、焚き口の幅55cm、袖を含めた幅は90cmである。袖の先端には土師器の掬が設置されている。

**貯蔵穴** P1とP4の2基がその床面の位置から貯蔵穴になる可能性がある。P1は長径75cm・短径70cm・深さ24cmの楕円例を呈する。P4は長径65cm・短径42cm・深さ34cmを測る。





197号住居

- 1 茶褐色土 やや硬くしめる。灰を多量に、焼土粒子を含む。
- 2 灰褐色土 やや硬くしめる。灰を多量に、焼土ブロックをやや多く含む。
- 3 赤褐色土 やや硬くしめる。焼土を主体に、ロームブロックを含む。
- 4 褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土ブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。

197・198号住居

- 1 表土 浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬い。浅間B軽石、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしめる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 4 茶褐色土 やや硬い。ロームをやや多く含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 7 褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子をやや多く、焼土粒子を含む。
- 8 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。灰を多量に、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 9 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。粘床。
- 10 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロック、灰、焼土ブロックを含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物を含む。
- 12 暗褐色土 やや硬くしめる。ローム粒子、白色粒子を含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 14 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 15 黄白色粘質土層 やや硬く粘性あり。

0 1:60 2m

第234図 1区197～199号住居(1)

**柱穴** P5とP6の2基のビットが主柱穴になる。P5は長径86cm・短径70cm・深さ55cm、P6は長径53cm・短径45cm・深さ38cmを測る。P5-P6間の距離は3.3mを測る。P2は長径37cm・短径26cm・深さ38cm、P3は長径54cm・短径45cm・深さ29cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。12～14層は住居覆土、15層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り込まれている。深さ10～19cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** 覆土中や床直上から土器や礫が出土。(11)の土師器の裏はカマド2の袖として使用されたものと思われる。

る。(2・4～6)の土師器の杯はカマド1の手前から出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀前半代に比定される。

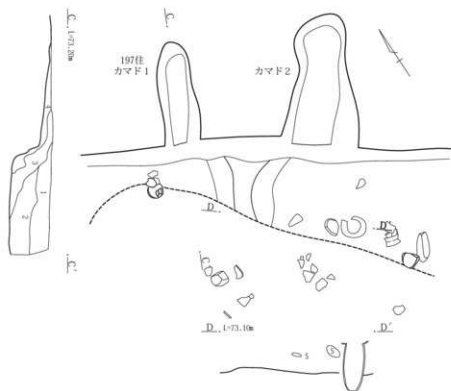
**198号住居**(第234～236・316図、P.L.119・120・296)

**位置** 96T-4・5・97A-5グリッド、197・199号住居と重複し、壊している。

**形状** 調査区外に延びているが、隅丸方形を呈するものと思われる。 **主軸方位** N-51°-E

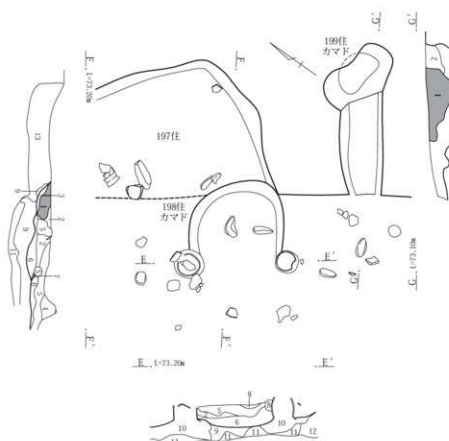
**規模** 現状での面積は8.42㎡、北西～南東4.95m、現状では北東～南西2.95m、残存壁高は40cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。粘床が認められた。全体的に硬



## 197号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土ブロック、炭化物粒子、白色輝石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、白色輝石を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土ブロックを含む。
- 4 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを多量に含む。



## 198号住居カマド

- 1 焼土 軟らかい。灰、暗褐色土を含む。
- 2 灰褐色土 灰を主体に焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。灰、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、灰を含む。
- 6 灰褐色土 やや硬くしまる。灰を主体に焼土粒子を含む。
- 7 焼土
- 8 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。
- 9 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物、ローム粒子を含む。
- 13 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子を含む。

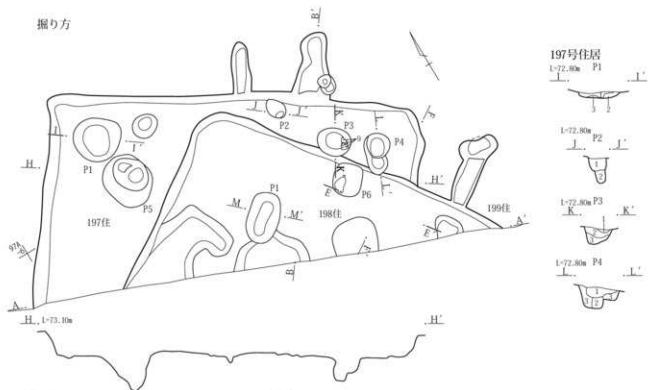
## 199号住居カマド

- 1 焼土 軟らかい。暗褐色土を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、焼土ブロックを含む。

0 1:30 1m

第235図 1区197～199号住居(2)

掘り方



197号住居

ビット 1

- 1 暗褐色土 やや硬い。ロームを多量に暗褐色土を含む。  
2 黄褐色土 やや硬く粘性あり。ローム主体の層。

ビット 2

- 1 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を少量含む。  
2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

198号住居



ビット 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。  
2 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子を含む。

ビット 3

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に焼土粒子を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。  
3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に炭化物を含む。

ビット 4

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。  
3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。



第236図 1区197～199号住居(3)

化面は認められない。

**カマド** 東壁のほぼ中央に設置されたものか。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ63cm、焚き口の幅55cmである。土師器の裏2個が袖に使用されている。1～8層はカマド覆土、9～12層は掘り方になる。13層は197号住居の覆土になる。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** P1が主柱穴になる。長径83cm・短径50cm・深さ37cmを測る。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。3～8層は住居覆土、9層は貼床、10・11層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 全体的に掘り込まれている。深さ5～15cmほどであり、凹凸が認められる。

**遺物** カマド周辺や覆土中から土器が出土。(5・6)の土師器裏はカマドの袖に使用されたものである。(7)の敲石はカマド内からの出土である。

**時期** 出土遺物から8世紀前半代に比定される。

199号住居(第234～236・314図、P.L.119)

**位置** 96T-4グリッド、198号住居と重複し、壊されている。

**形状** カマドのみの検出であるために不明である。

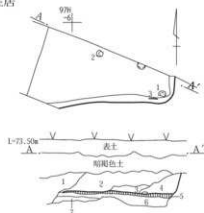
**主軸方位** N-54°-E

**規模** 不明。

**床面** 不明。

**カマド** 壁を掘り込んで構築されている。現状での長さ120cm、幅17cmである。1～3層はカマド覆土になる。

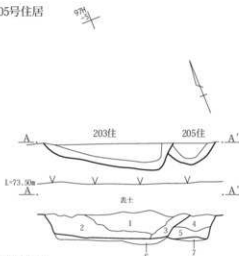
200号住居



200号住居

- 1 暗褐色土 しまり弱い。22号溝埋土。
- 2 暗褐色土 小礫、軽石を少量、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、軽石を少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子を多量、軽石を微量、焼土粒子を含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。貼床。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土と黄白色粘質土の混土。
- 7 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。

203・205号住居



203・205号住居

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。小礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 しまり弱い。
- 4 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を微量含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱い。焼土粒子を微量含む。
- 6 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム、黄白色粘質土ブロック、暗褐色土の混土。
- 7 黄褐色土 暗褐色土ブロックを多く含む。

第237図 1区200・203・205号住居

0 1:60 2m

1層は焼土である。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 不明。

**掘り方** 不明。

**遺物** わずかに土師器の杯が出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀後半に比定される。

写溝覆土になる。

**掘り方** 全体的に掘り下げられている。深さ8～16cmを測る。

**遺物** 床直上から少量の土器が出土。(1)の土師器杯は床面の南東コーナーから、刀子も出土している。(2)の須恵器は墨書土器である。

**時期** 出土遺物から9世紀後半に比定される。

200号住居(第237・314図、P.L.120・297)

**位置** 97c-5・6グリッド、22号溝に壊されている。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明である。

**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積は1.85㎡、東西2.34m、現状での南北1.24m、残存壁高は37cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。2～4層は住居覆土、5層は貼床、6・7層は掘り方充填土になる。1層は22

203号住居(第237図、P.L.120)

**位置** 97c-4・5グリッド、205号住居と重複し、壊している。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈すると思われる。主軸方位 不明。

**規模** 現状での面積は0.58㎡、北西～南東2.06m、現状での北東～南西0.41m、残存壁高は35cmを測る。

**床面** ほぼ平坦である。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居覆土、6層は掘り方充填土になる。

#### 第4章 発掘調査の記録

**掘り方** 全体的に掘り下げられているが浅い。深さ4～9cmを測る。

**遺物** 覆土中から少量の土器片が出土している。

**時期** 不明。

#### 205号住居(第237図、P.L.120)

**位置** 97G-4グリッド、203号住居と重複し、壊されている。

**形状** 調査区外に延びているために全容は不明である。

**主軸方位** 不明。

**規模** 現状での面積は0.18㎡、北西～南東0.67m、現状での北東～南西0.43m、残存壁高は35cmを測る。

**床面** やや凹凸がある。全体的に硬化面は認められない。

**カマド** 検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった。

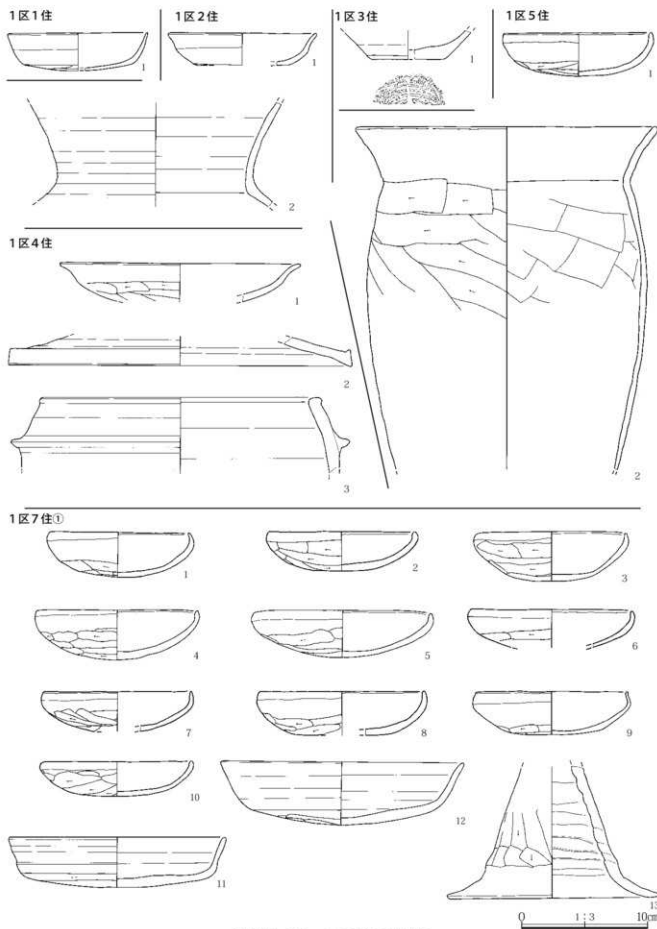
**周溝** 検出できなかった。

**埋没土** 自然埋没土と考えられる。4～5層は住居覆土、7層は掘り方充填土になる。

**掘り方** 掘り下げられているが浅い。深いところで6cmを測る。

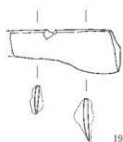
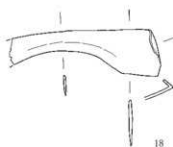
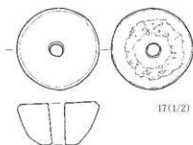
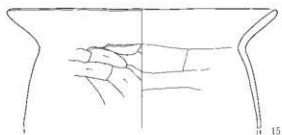
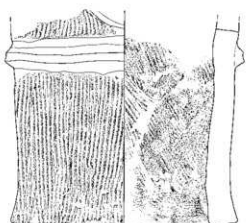
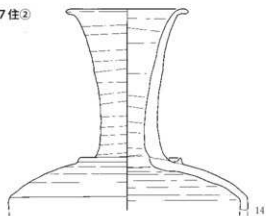
**遺物** 出土していない。

**時期** 不明。

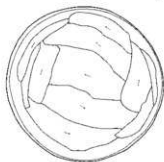
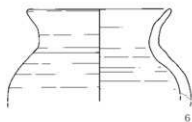


第238図 1区1～5・7号住居出土遺物

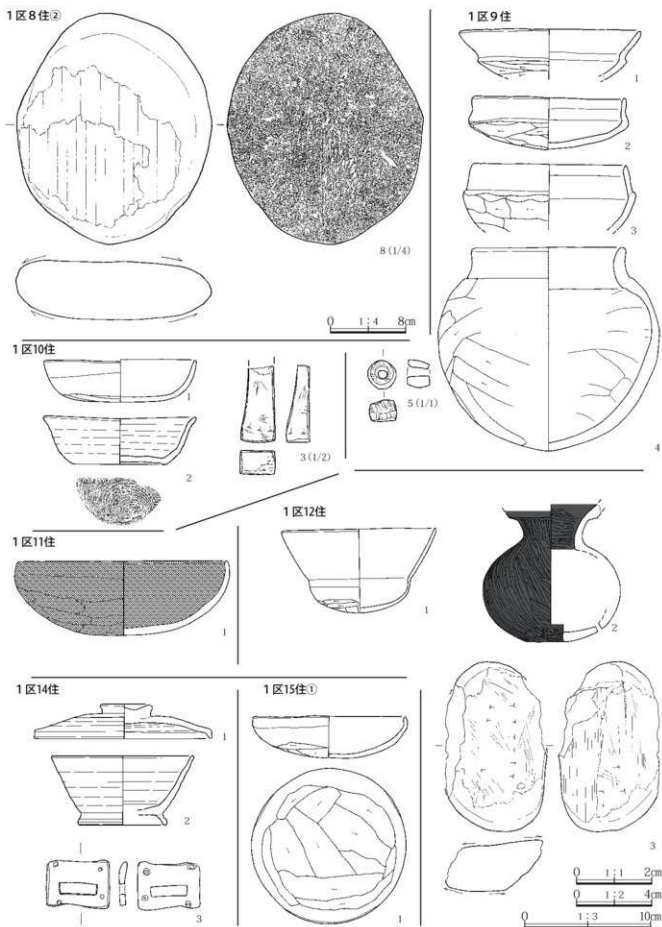
1区7住②



1区8住①



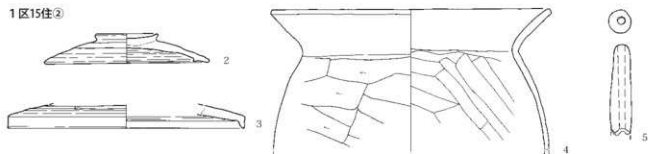
第239図 1区7・8号住居出土遺物



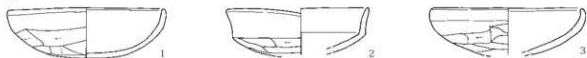
第240図 1区8～12・14・15号住居出土遺物



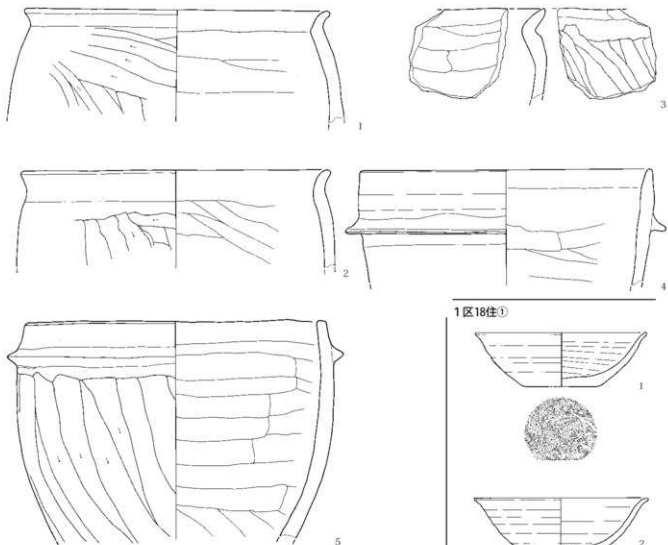
1区15住②



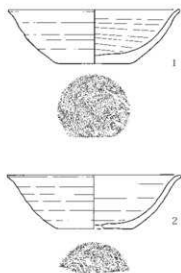
1区16住



1区17住①



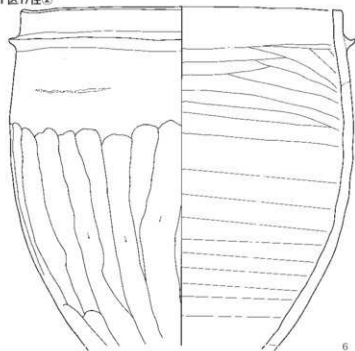
1区18住①



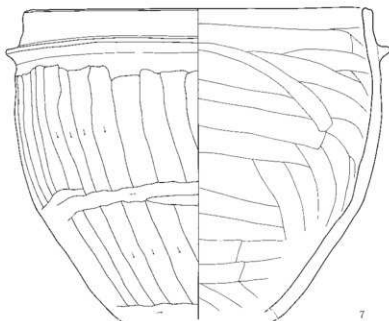
0 1:3 10cm

第241図 1区15～18号住居出土遺物

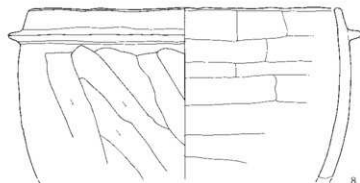
1区17住②



6



7



8

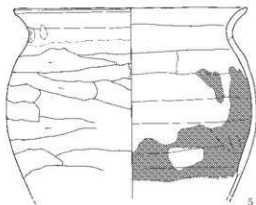
1区18住②



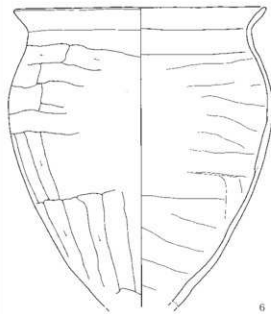
3



4



5



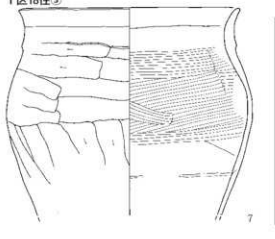
6

0 1:3 10cm

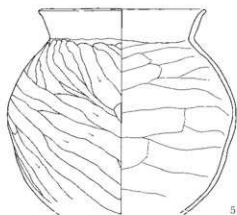
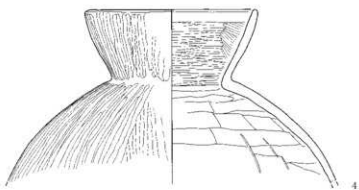
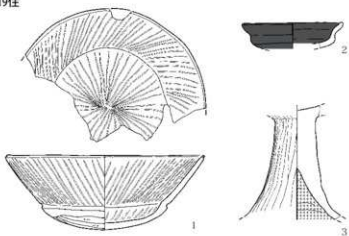
第242図 1区17・18号住居出土遺物

第4章 発掘調査の記録

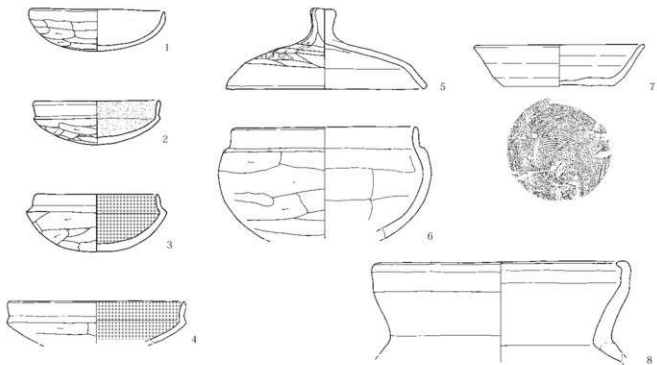
1区18住③



1区19住



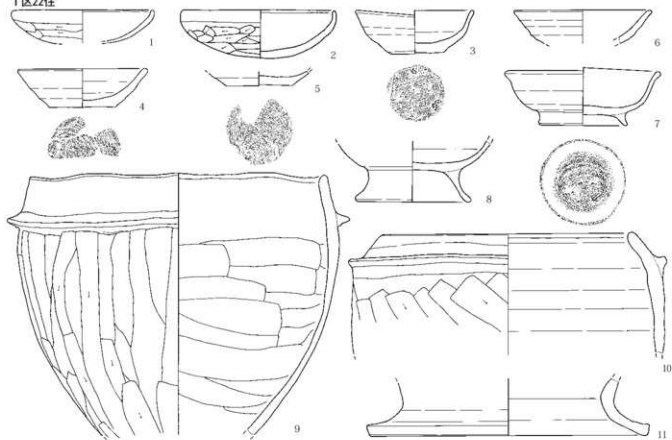
1区20住



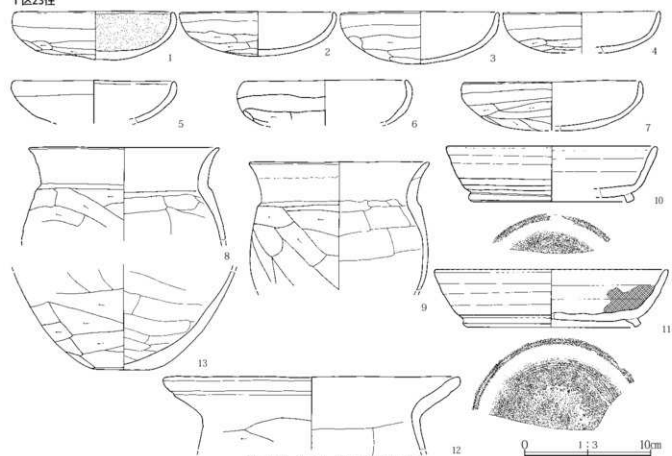
0 1:3 10cm

第243図 1区18～20号住居出土遺物

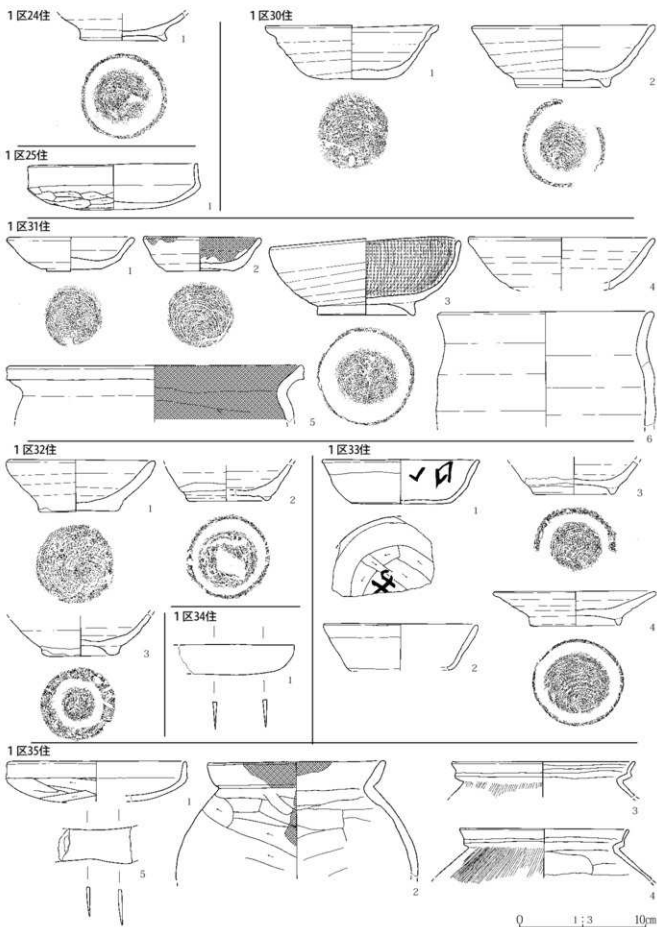
1区22住



1区23住

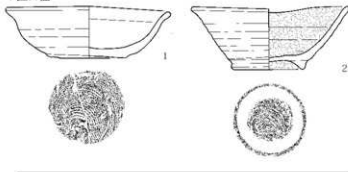


第244図 1区22・23号住居出土遺物

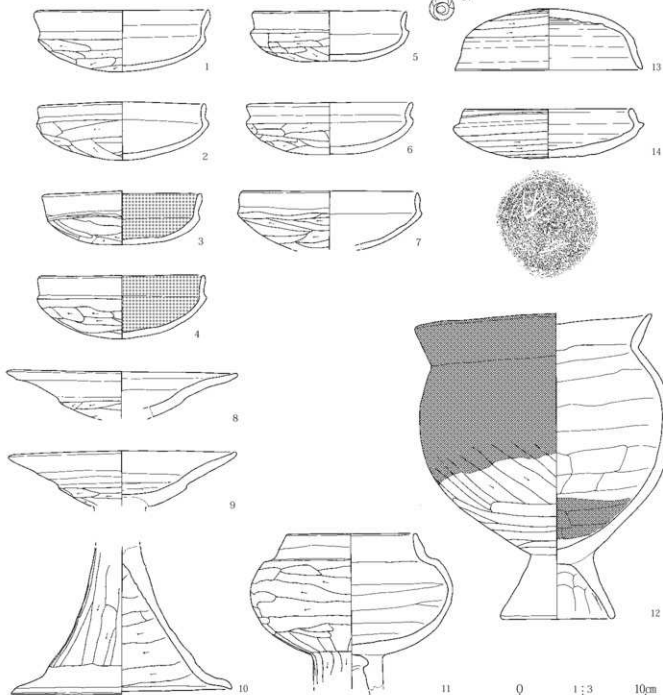
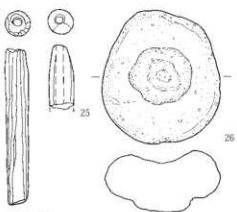


第245図 24・25・30～35号住居出土遺物

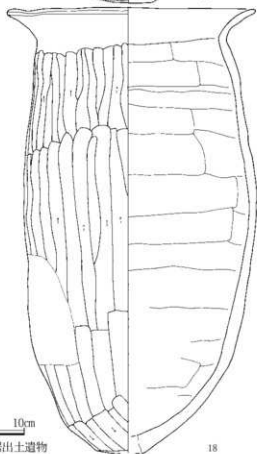
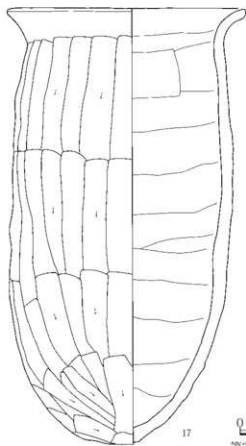
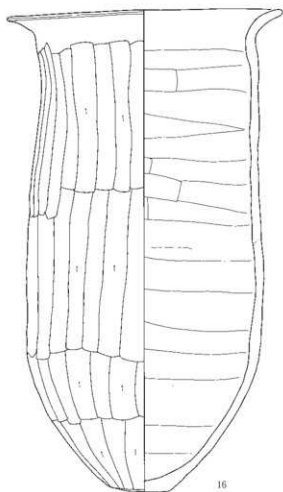
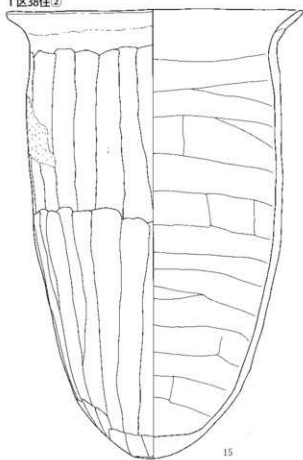
1区36住



1区38住①



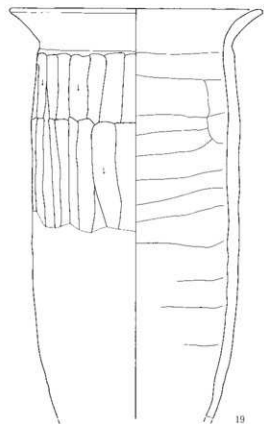
第246図 1区36・38号住居出土遺物



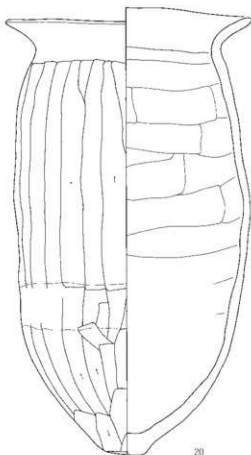
0 1:3 10cm

第247図 1区38号住居出土遺物

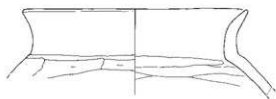
1区38住③



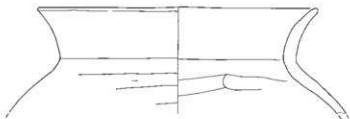
19



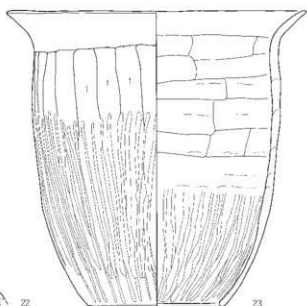
20



21



22



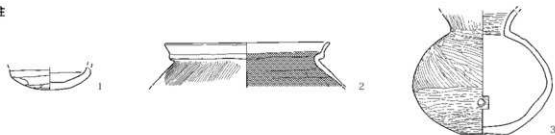
23

0 1:3 10cm

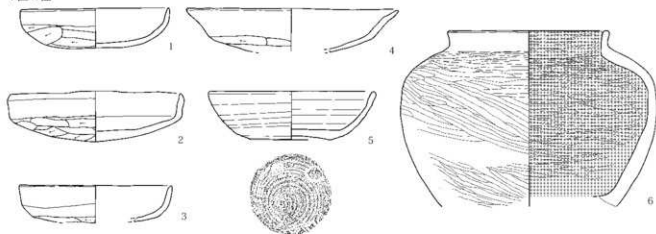
第248図 1区38号住居出土遺物



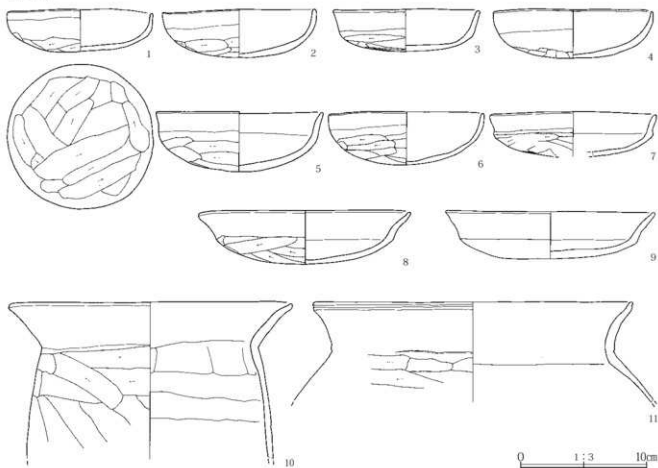
1区39住



1区40住

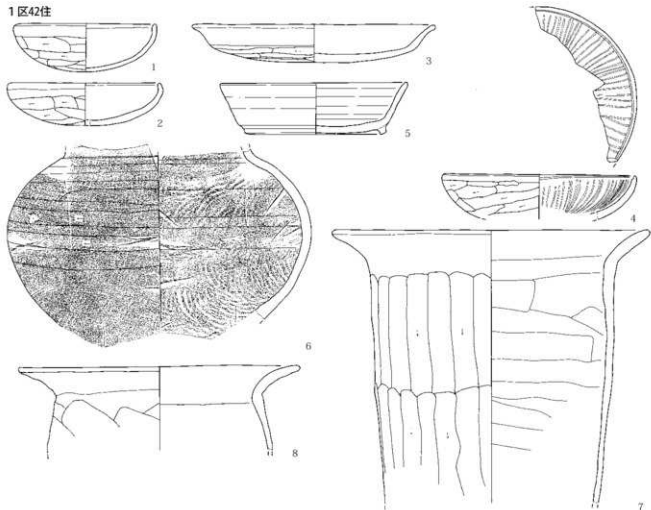


1区41住

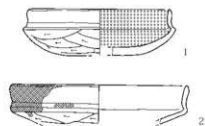


第249図 1区39～41号住居出土遺物

1区42住



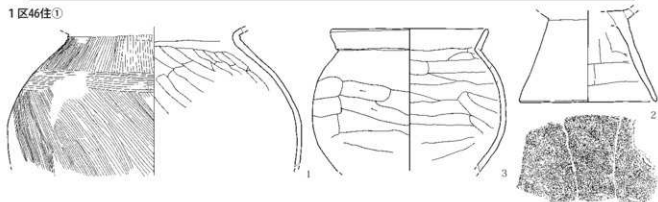
1区44住



1区45住



1区46住①



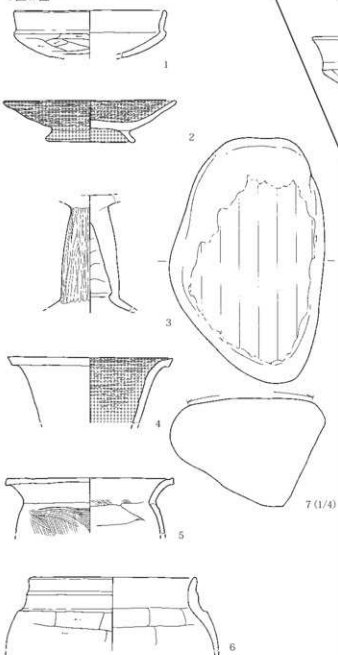
0 1:1 2cm 0 1:2 4cm 0 1:3 10cm

第250図 1区42・44～46号住居出土遺物

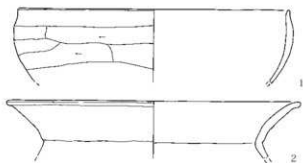
1区46住②



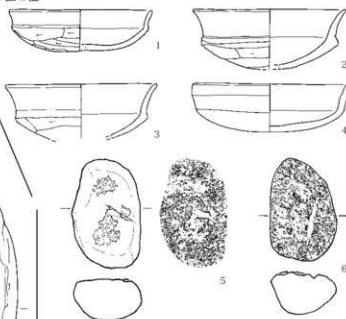
1区47住



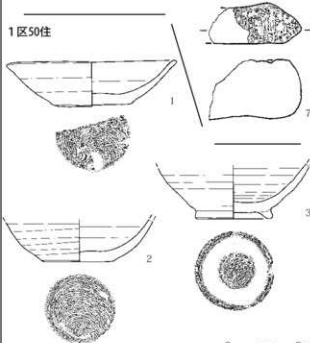
1区48住



1区49住

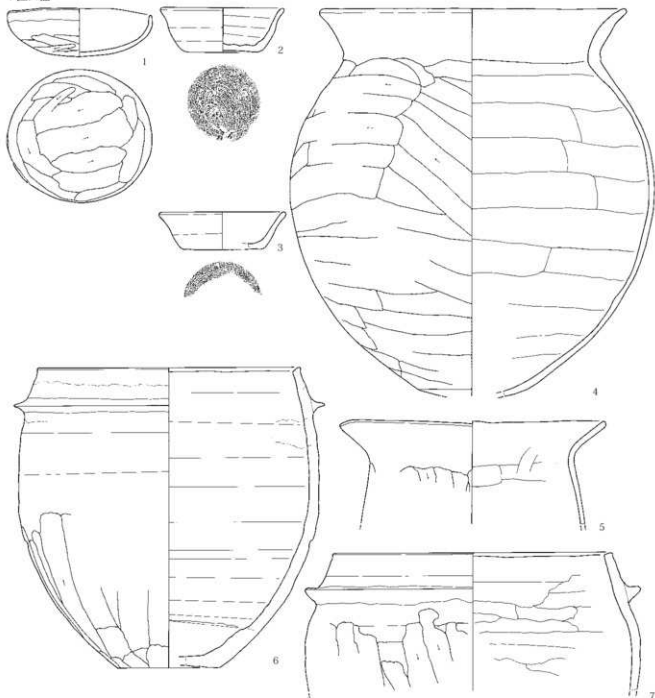


1区50住

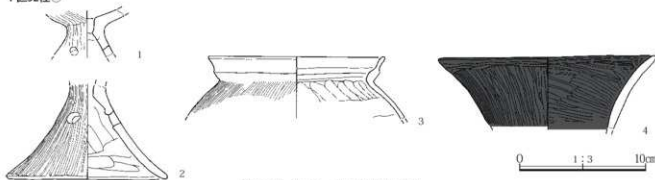


第251図 1区46～50号住居出土遺物

1区51住

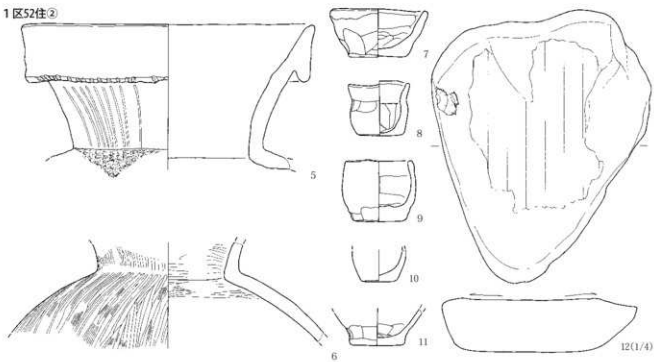


1区52住①

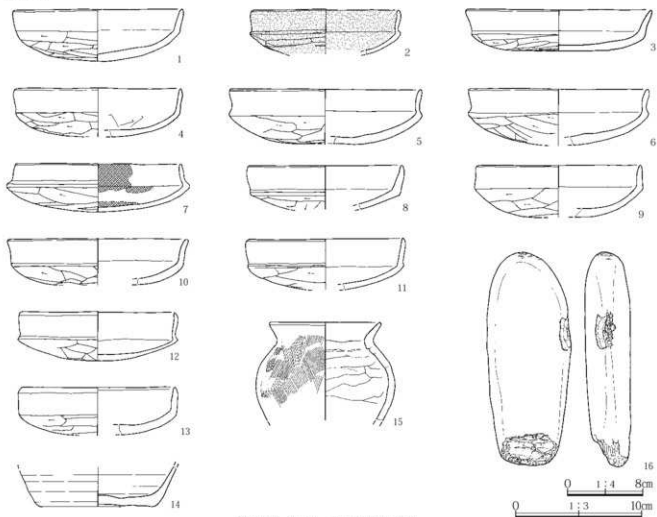


第252図 1区51・52号住居出土遺物

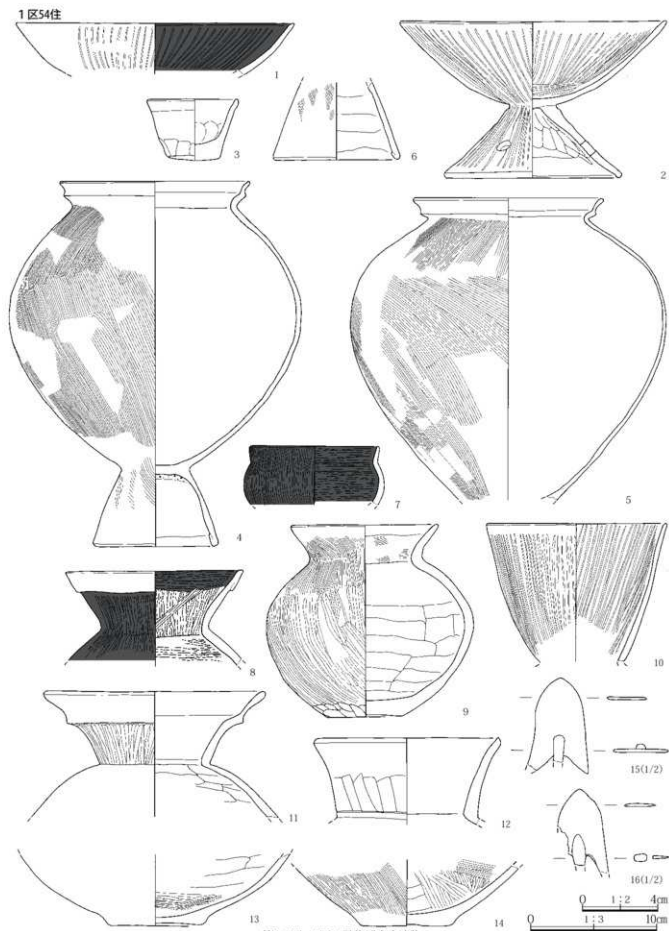
1区52住②



1区53住

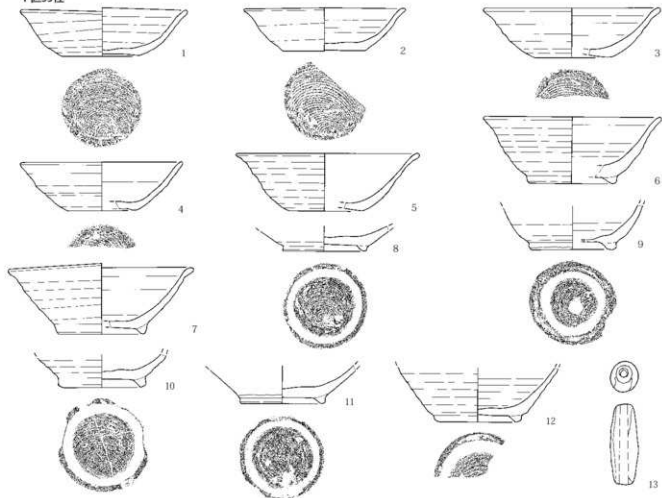


第253図 1区52・53号住居出土遺物

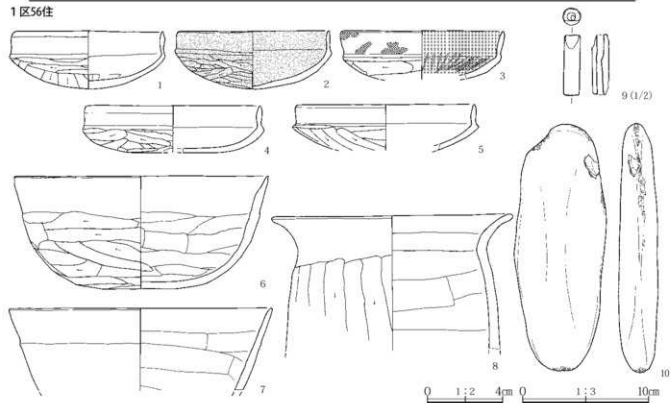


第254図 1区54号住居出土遺物

1区55住



1区56住



第255図 1区55・56号住居出土遺物

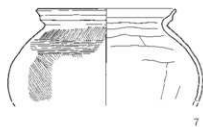
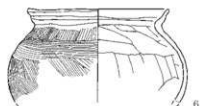
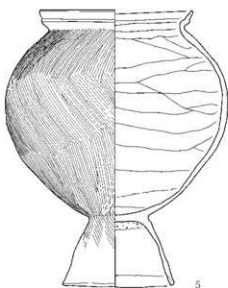
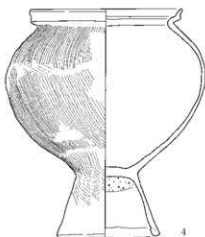
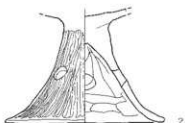
1区57住



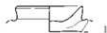
1区58住



1区59住



1区60住



1区61住

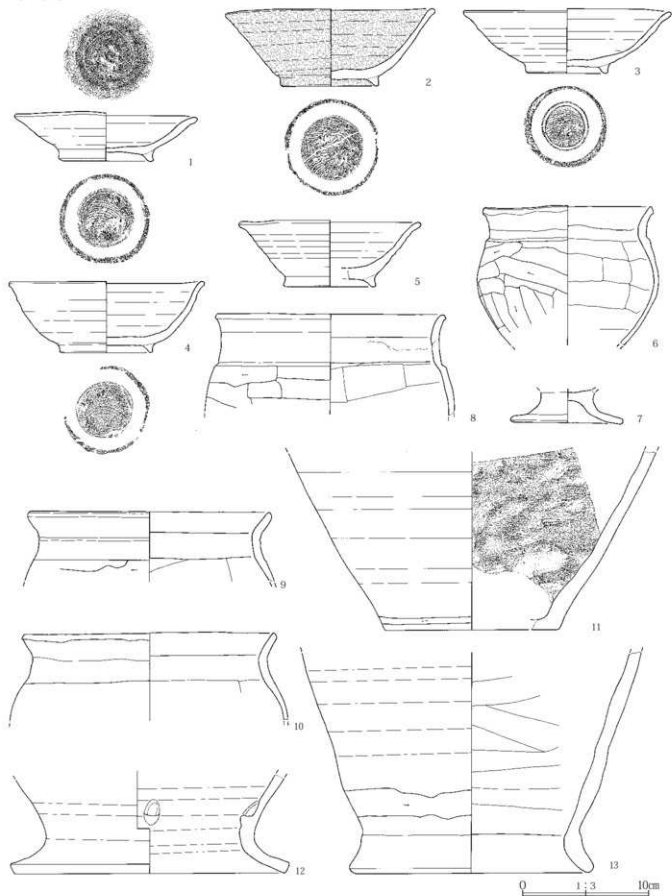


0 1:3 10cm

第256図 1区57～61号住居出土遺物

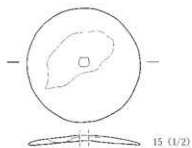
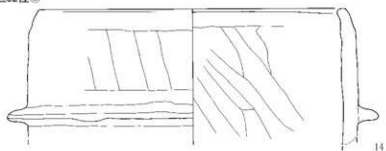


1区62住①

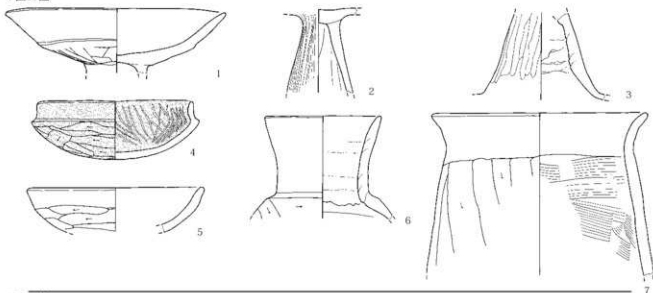


第257図 1区62住居出土遺物

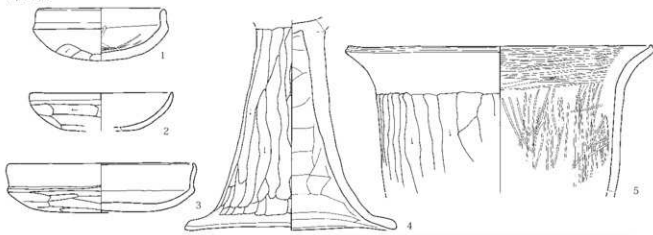
1区62住②



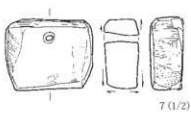
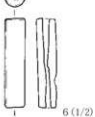
1区63住



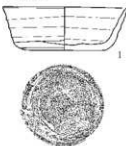
1区64住



⑥



1区65住



1区69住

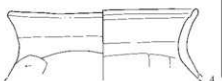
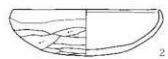


0 1:2 4cm

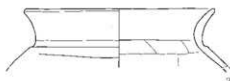
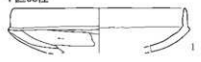
0 1:3 10cm

第258図 1区62～65・69号住居出土遺物

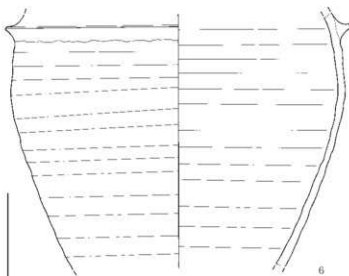
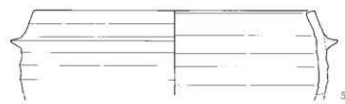
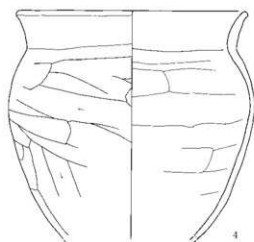
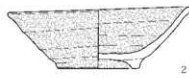
1区66住



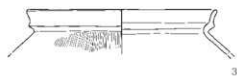
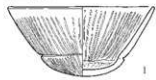
1区68住



1区70住



1区72住

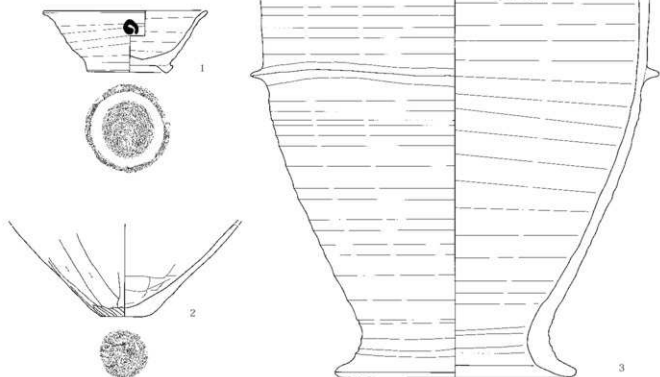


1区75住

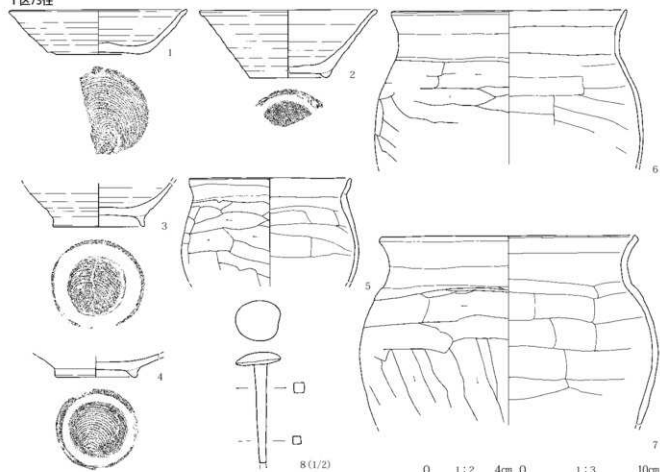


第259図 1区66・68・70・72・75号住居出土遺物

1区71住

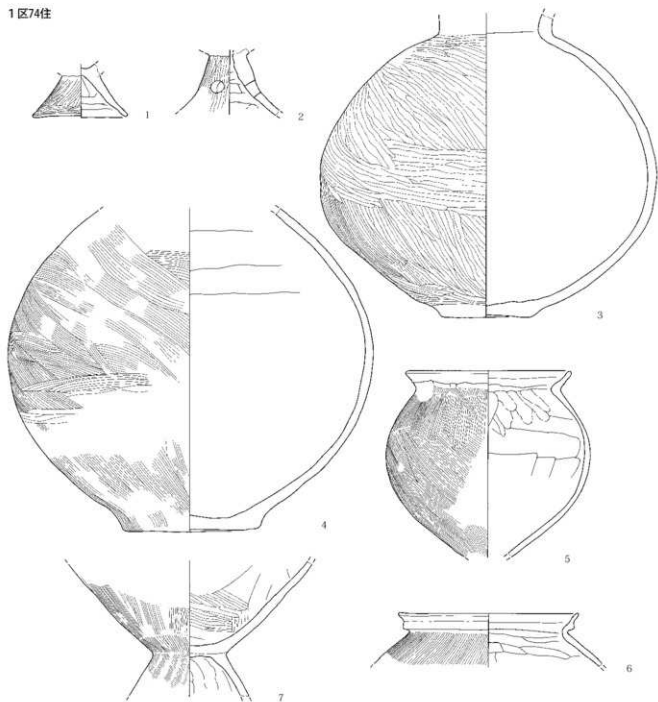


1区73住



第260図 1区71・73号住居出土遺物

1区74住

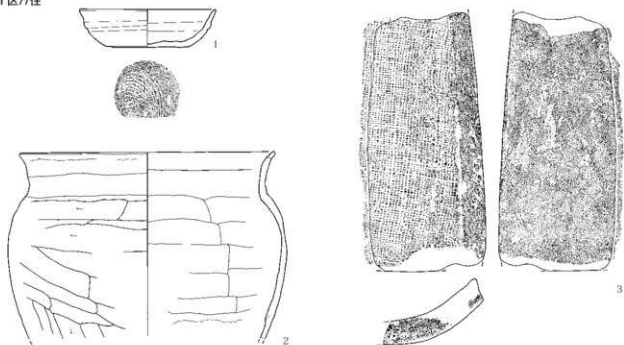


1区76住

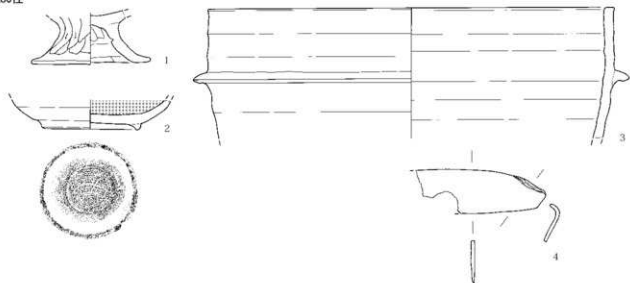


第261図 1区74・76号住居出土遺物

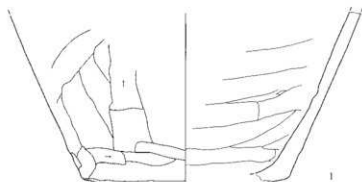
1区77住



1区80住



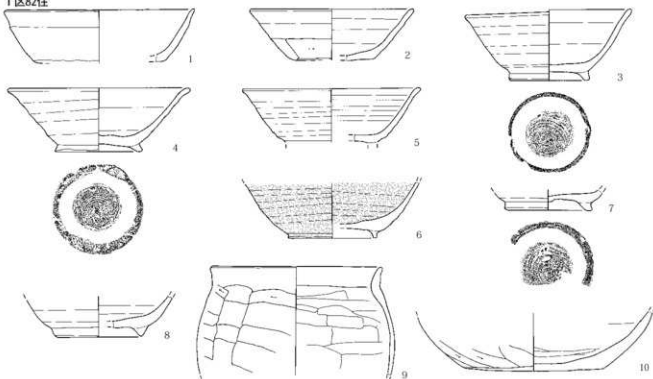
1区83住



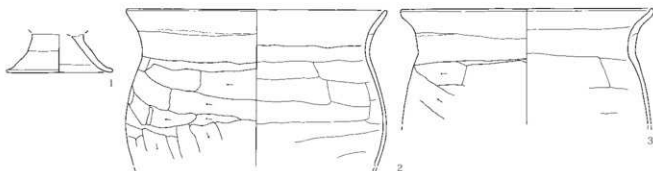
0 1:3 10cm

第262図 1区77・80・83号住居出土遺物

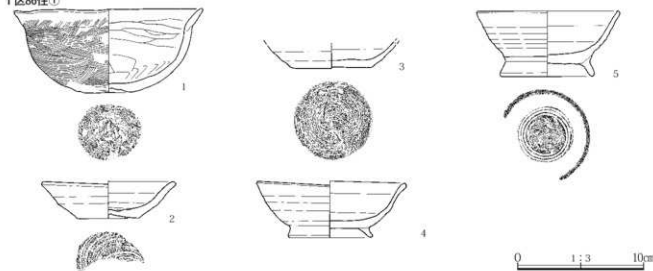
1区82住



1区84住



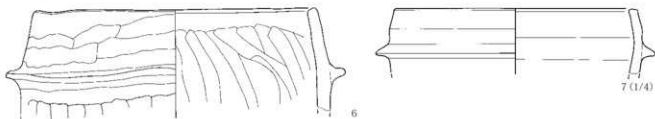
1区86住①



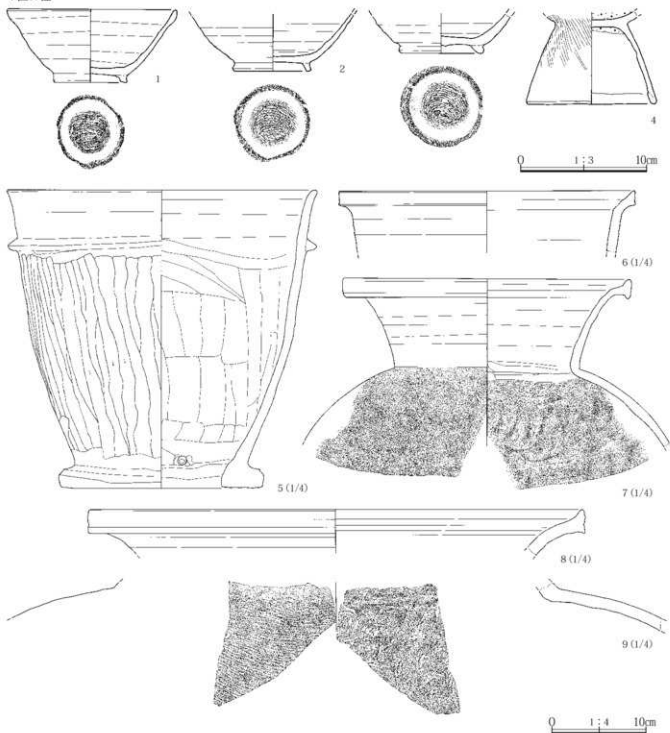
0 1:3 10cm

第263図 1区82・84・86号住居出土遺物

1区86住②



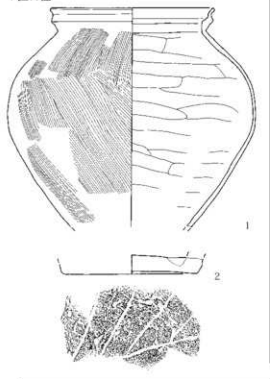
1区87住



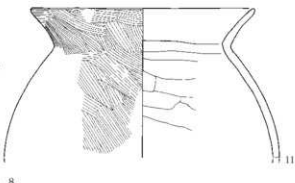
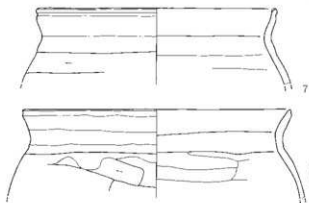
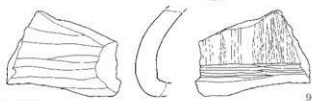
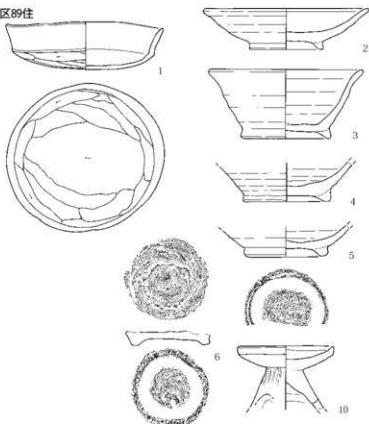
第264図 1区86・87号住居出土遺物



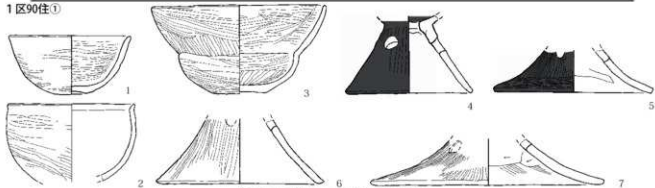
1区88住



1区89住

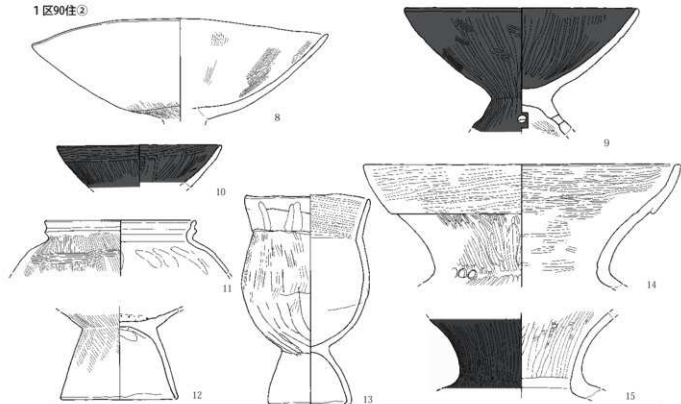


1区90住①

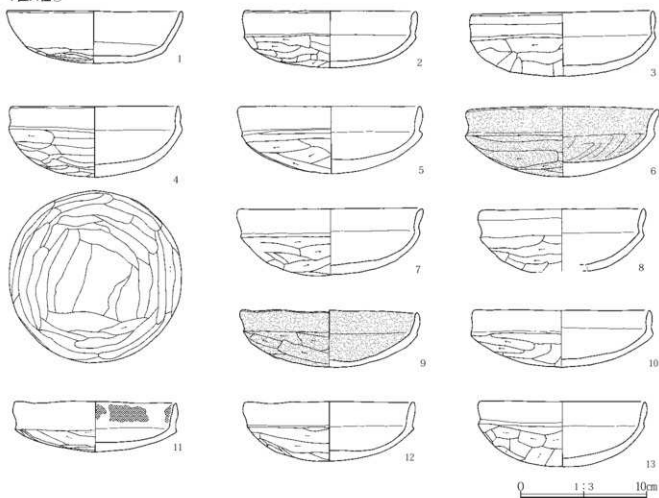


第265図 1区88～90号住居出土遺物

1区90住②

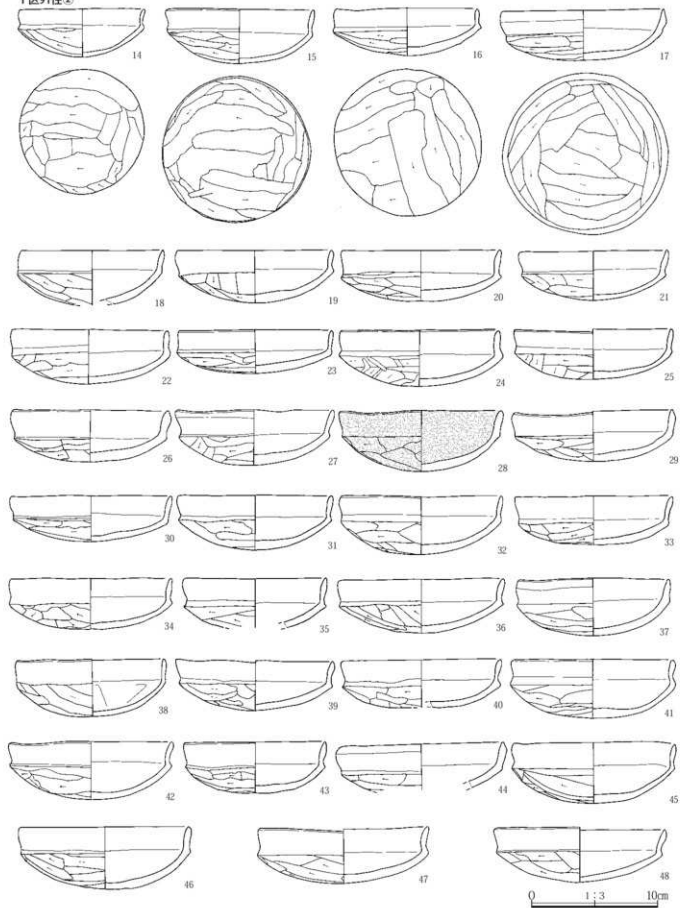


1区91住①



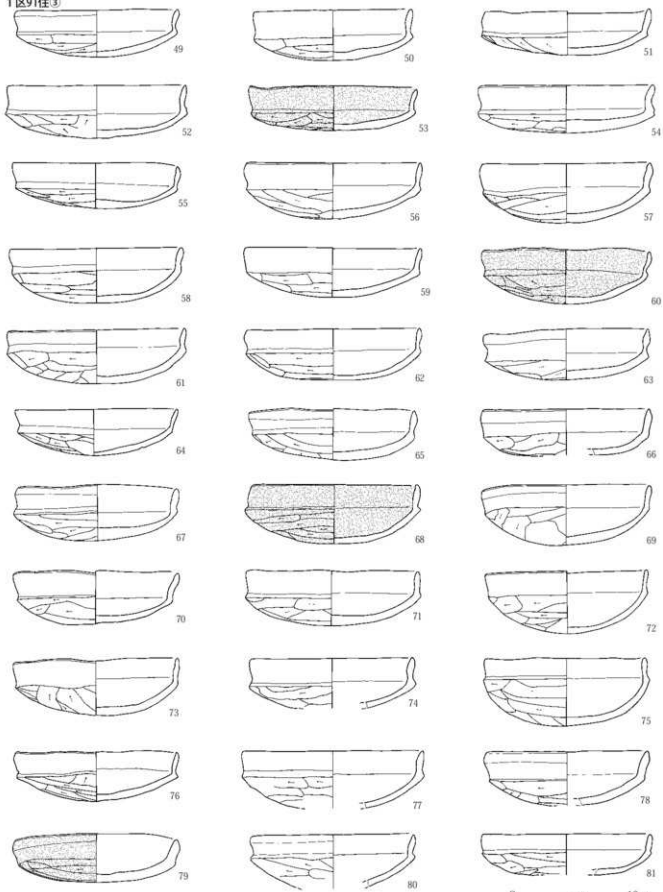
第266図 1区90・91号住居出土遺物

1区91住②



第267図 1区91住居出土遺物

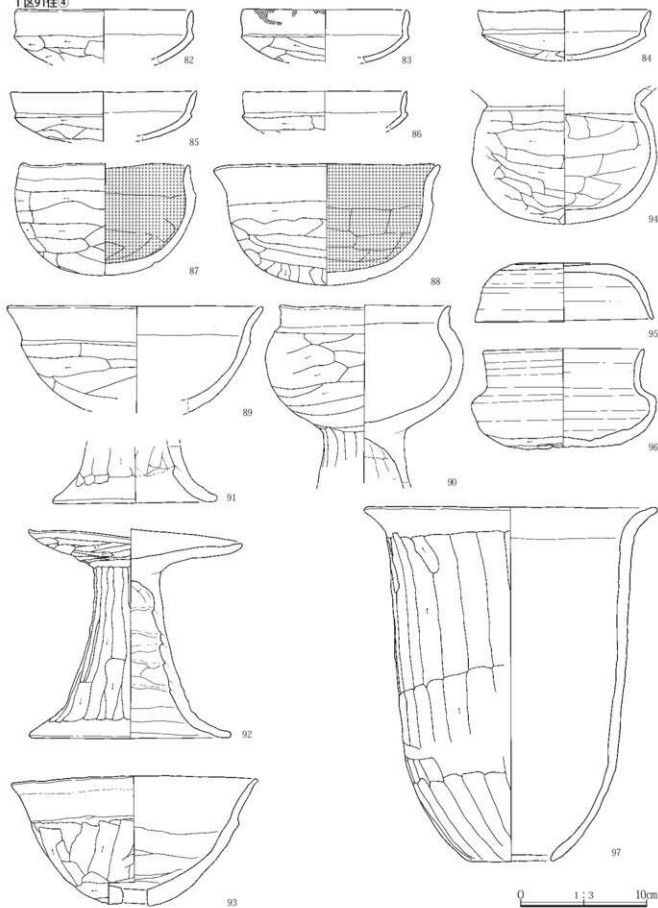
1区91住③



0 1:3 10cm

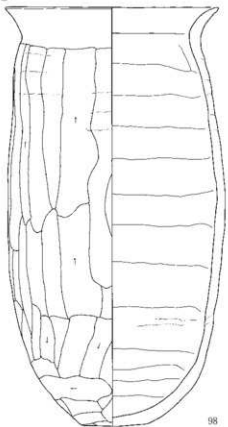
第268図 1区91住居出土遺物

1区91住④

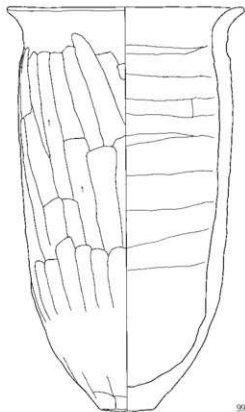


第269図 1区91住居出土遺物

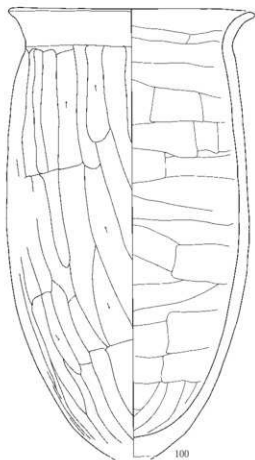
1区91住⑤



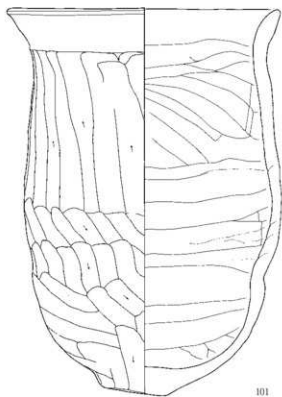
98



99



100

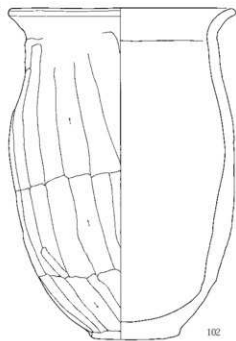


101

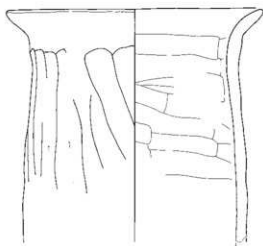
0 1:3 10cm

第270図 1区91号住居出土遺物

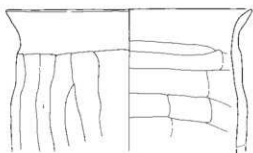
1区91住⑥



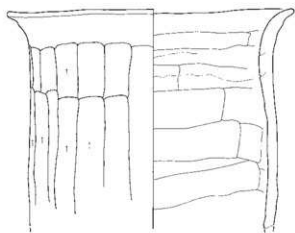
102



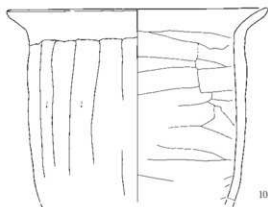
103



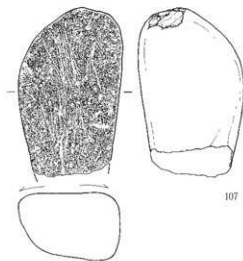
105



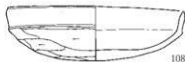
104



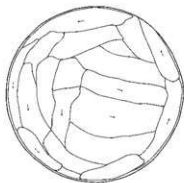
106



107



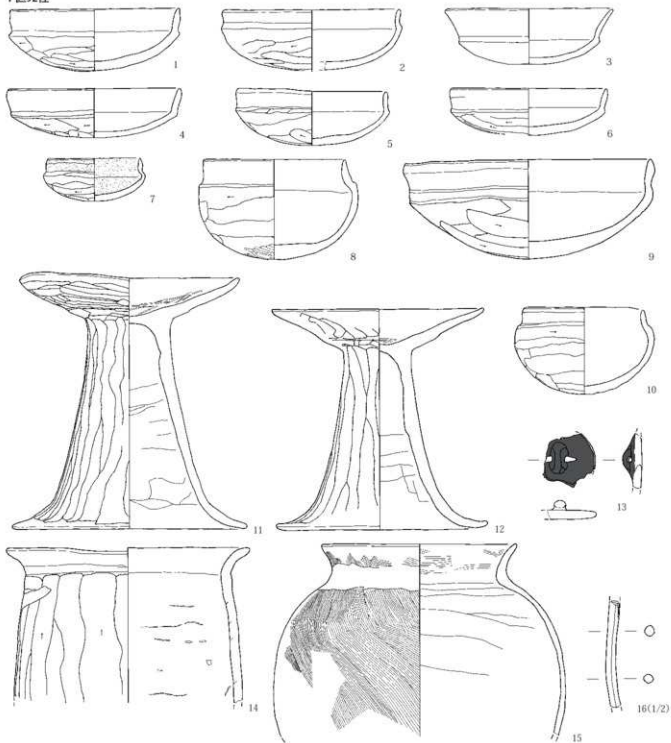
108



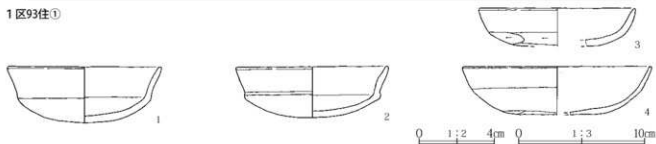
0 1:3 10cm

第271図 1区91号住居出土遺物

1区92住



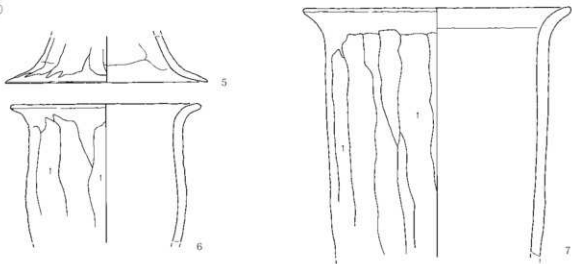
1区93住①



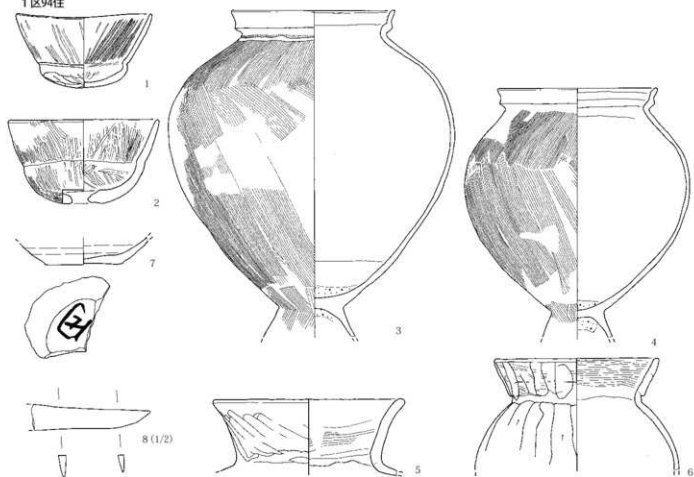
第272図 1区92・93号住居出土遺物



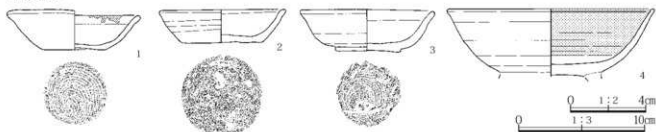
1区93住②



1区94住

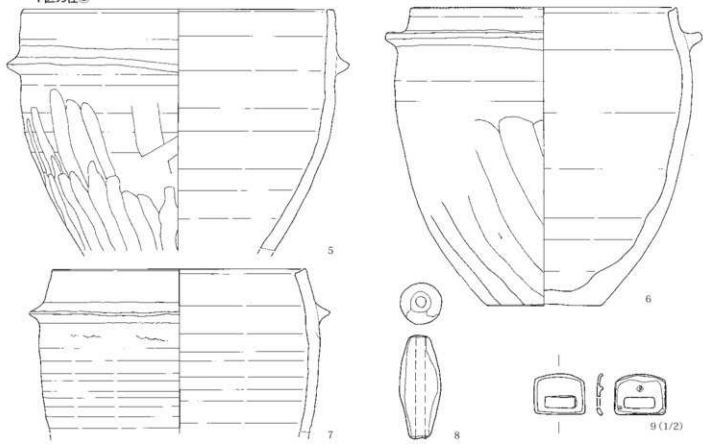


1区95住①

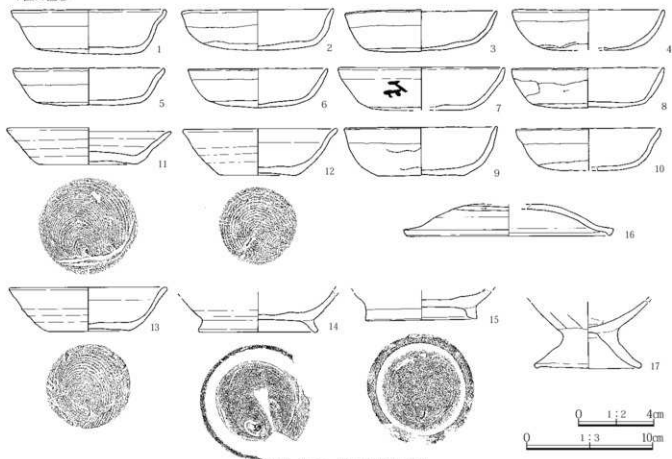


第273図 1区93～95号住居出土遺物

1区95住②



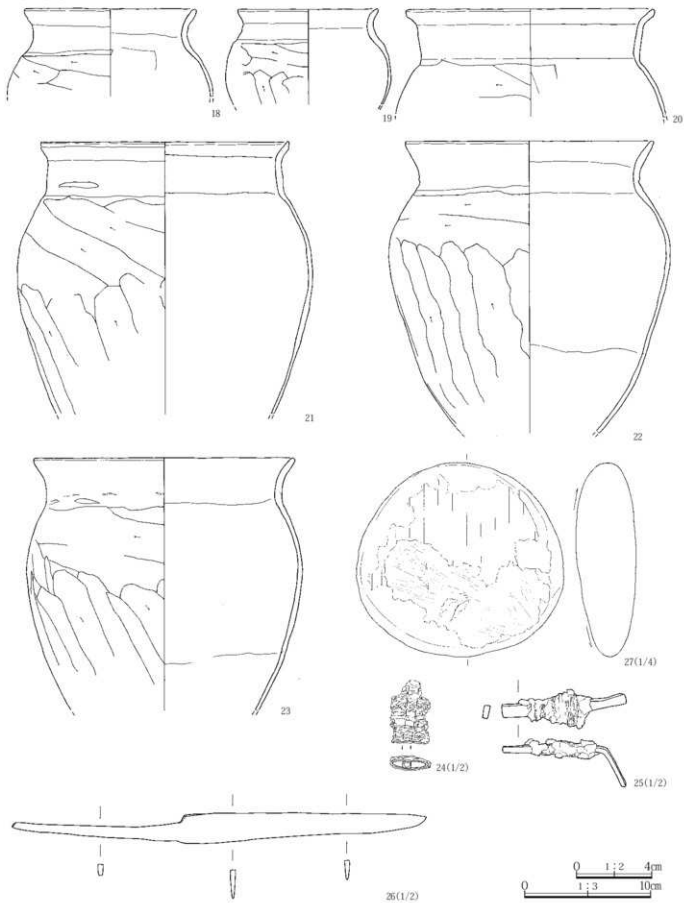
1区96住①



第274図 1区95・96号住居出土遺物

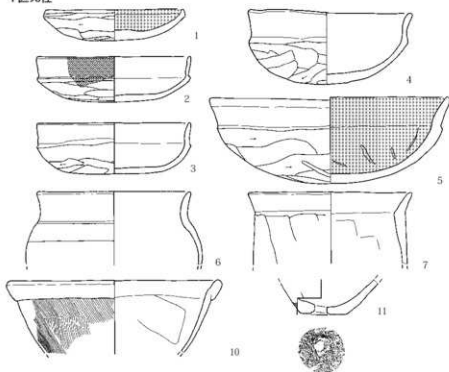


1区96住②

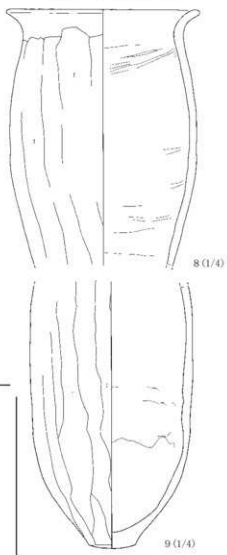


第275図 1区96号住居出土遺物

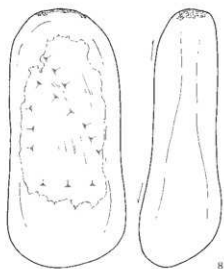
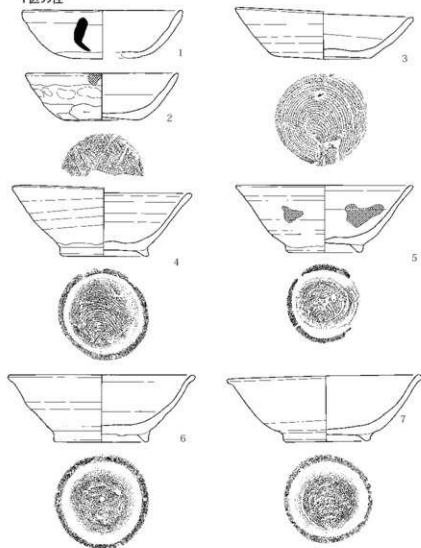
1区98住



第2節 1区の遺構と遺物



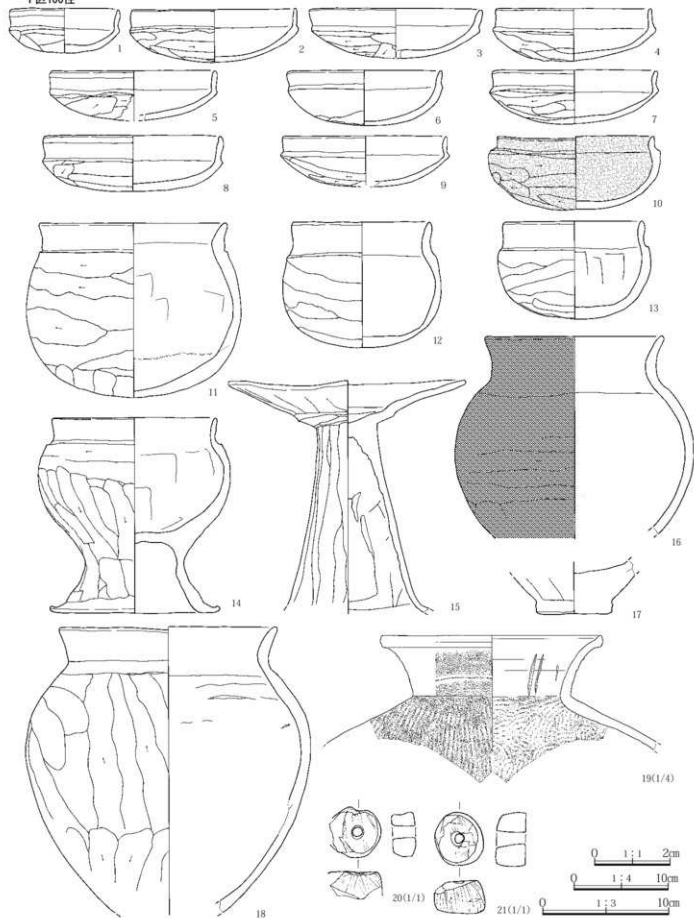
1区99住



0 1:3 10cm

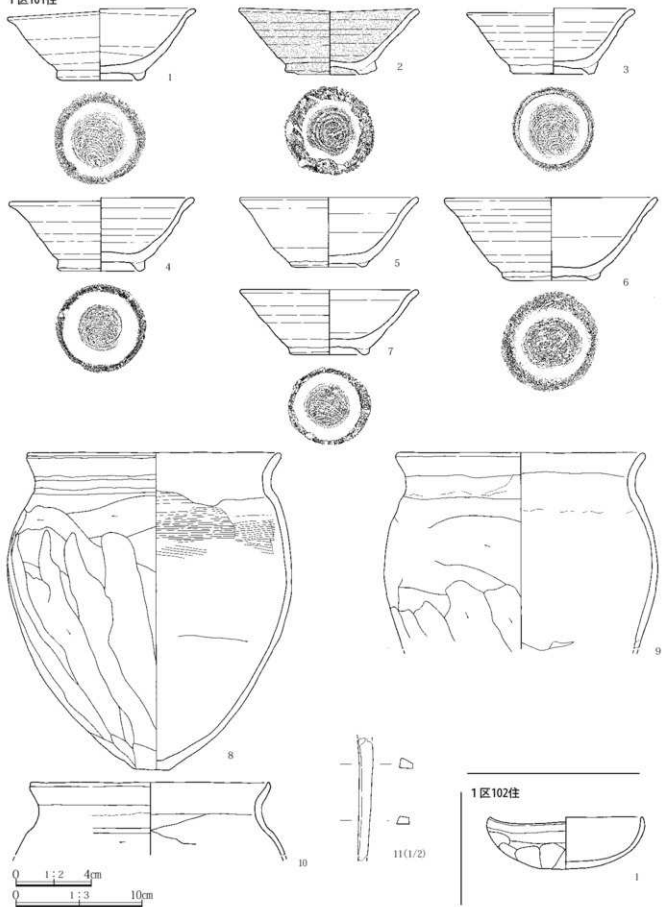
第276図 1区98・99号住居出土遺物

1区100住

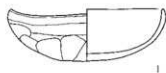


第277図 1区100号住居出土遺物

1区101住



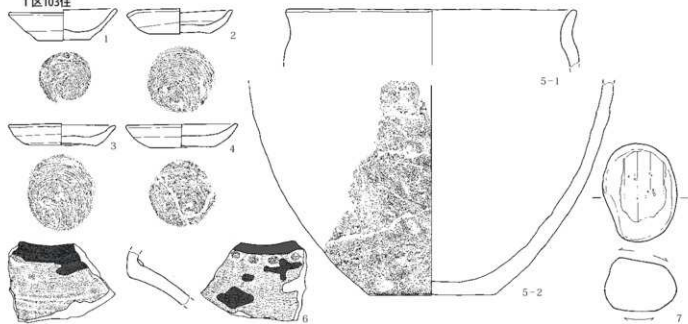
1区102住



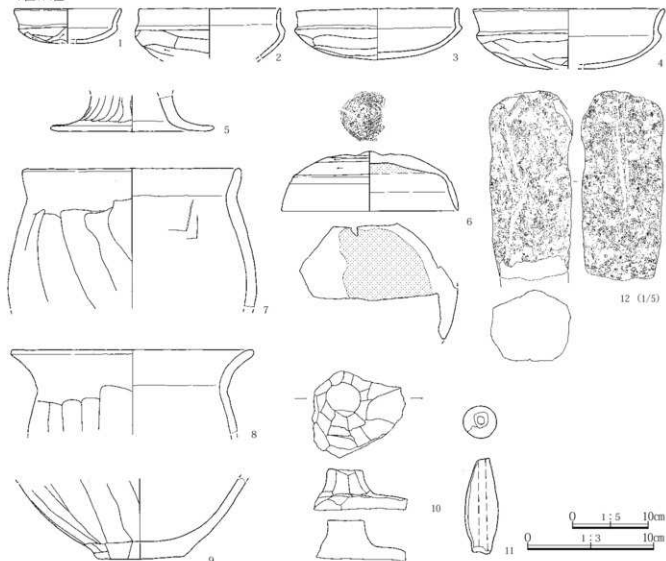
第278図 1区101・102号住居出土遺物

第4章 発掘調査の記録

1区103住

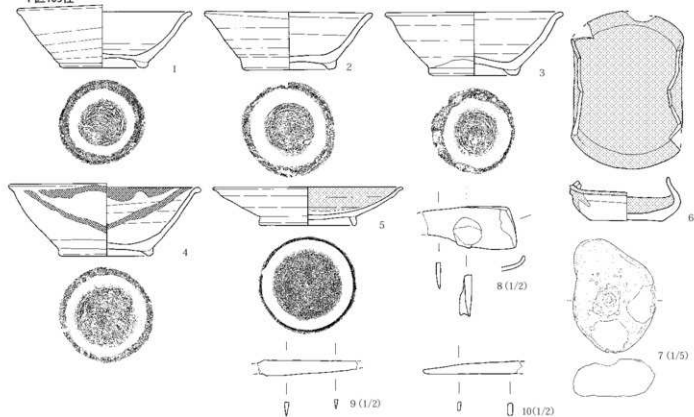


1区104住

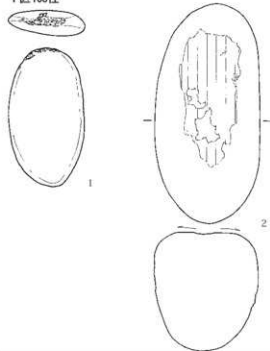


第279図 1区103・104住居出土遺物

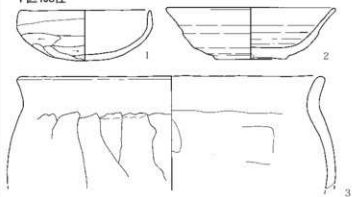
1区105住



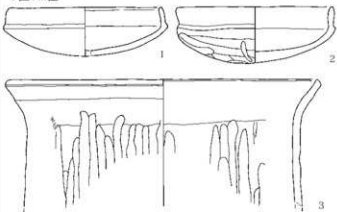
1区106住



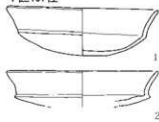
1区108住



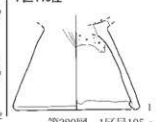
1区112住



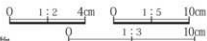
1区107住



1区110住

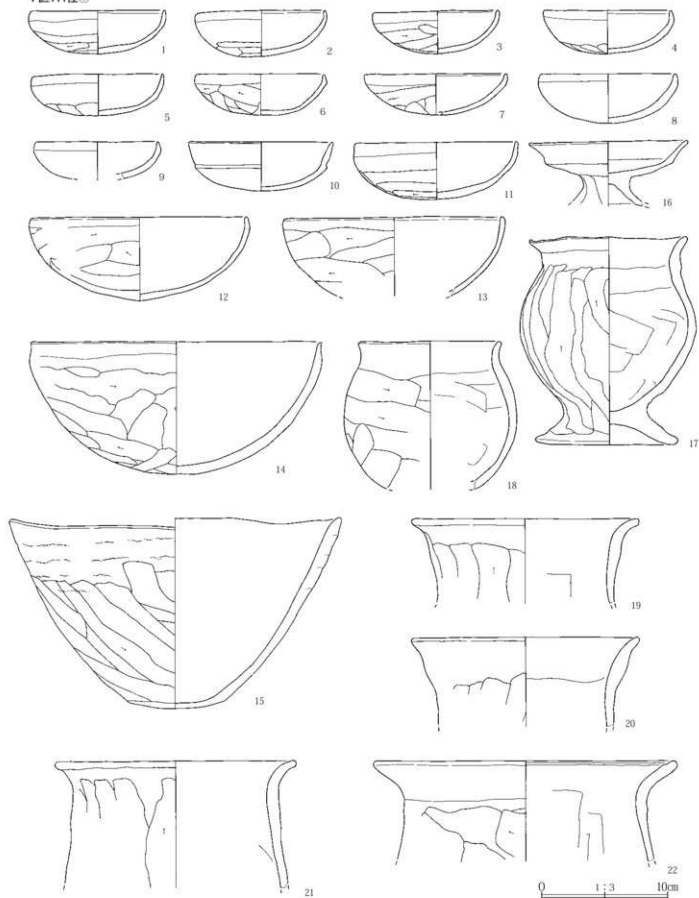


第280図 1区号105～108・110・112住居出土遺物



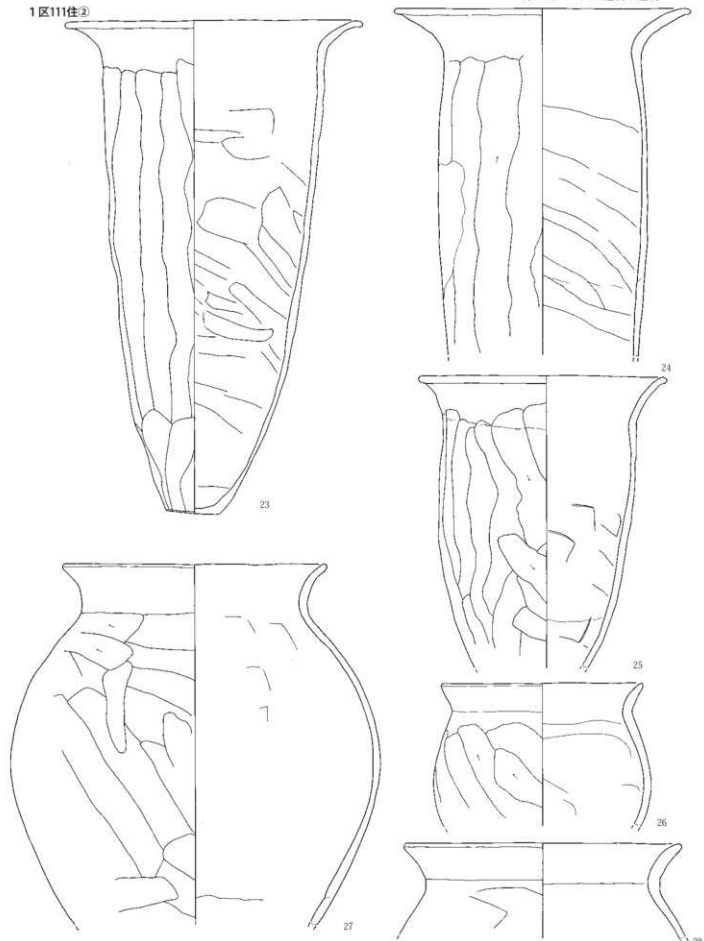


1区111住①



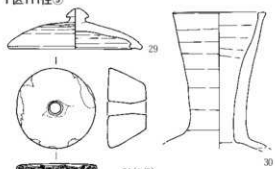
第281図 1区111号住居出土遺物

1区111住②

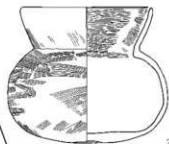


第282図 1区111号住居出土遺物

1区111住③



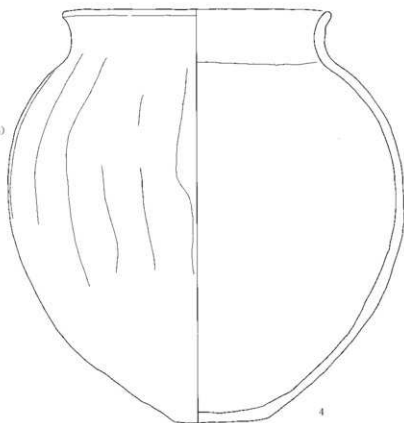
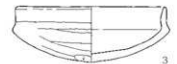
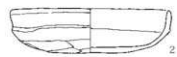
1区114住



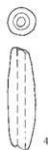
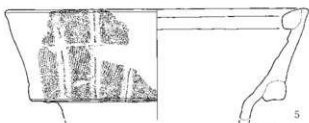
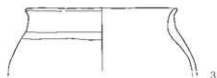
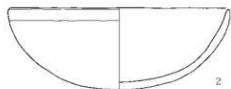
1区115住



1区117住



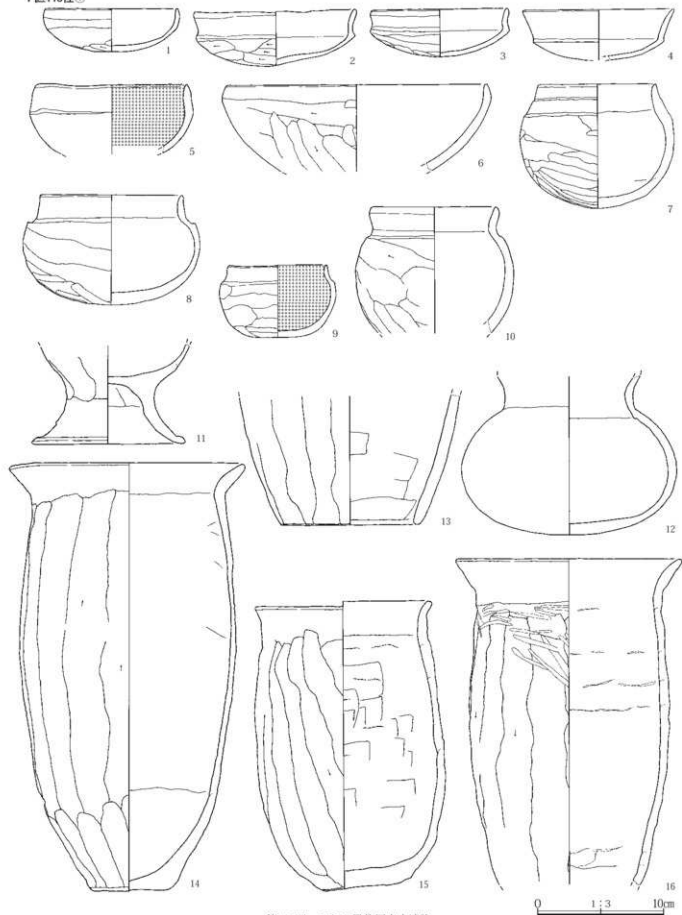
1区119住



第283図 1区111・114・115・117・119号住居出土遺物

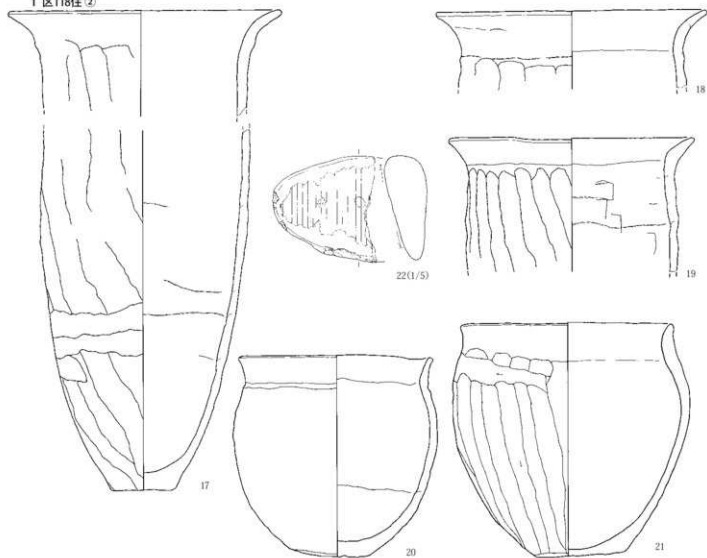
0 1:3 10cm

1区118住①

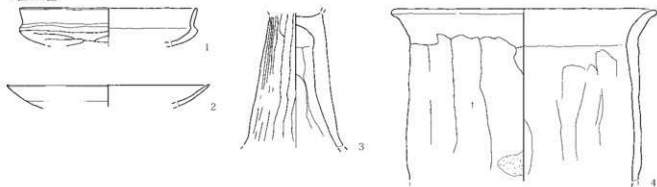


第284図 1区118号住居出土遺物

1区118住②



1区120住



1区122住

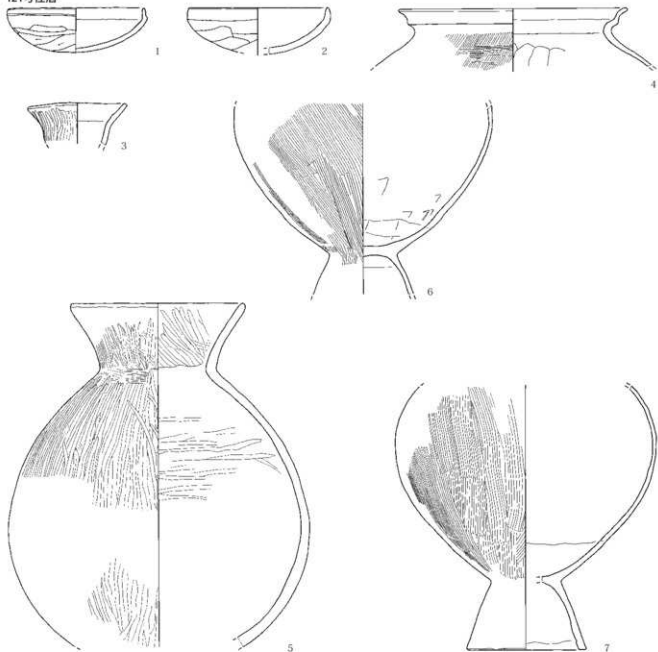


1区124住

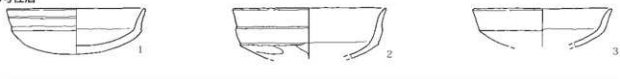


第285図 1区118・120・122・124号住居出土遺物

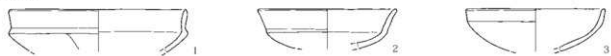
121号住居



125号住居



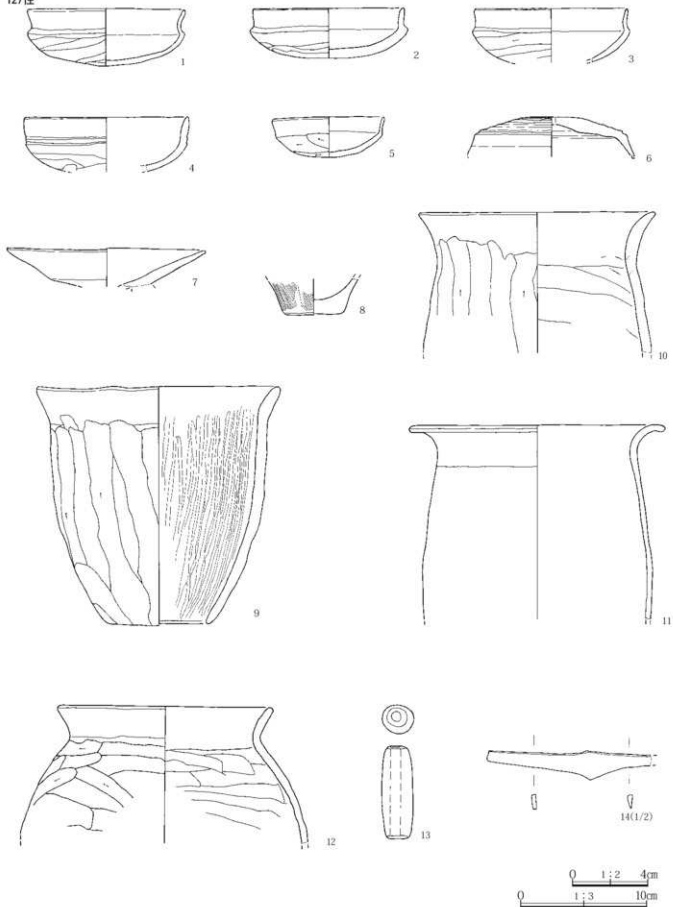
126号住居



0 1:3 10cm

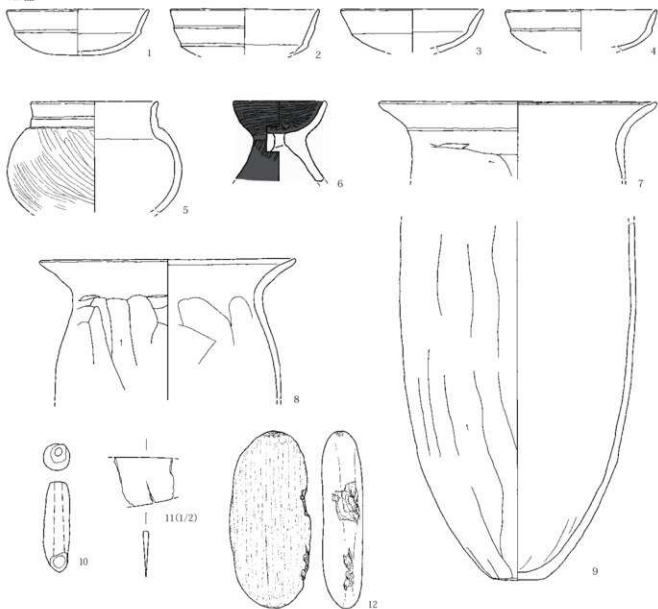
第286図 1区121・125・126号住居出土遺物

127住

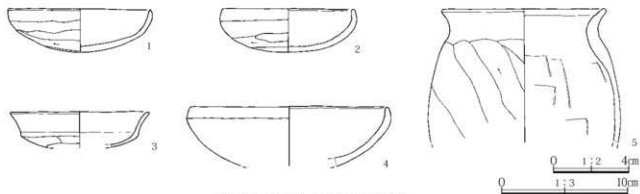


第287図 1区127号住居出土遺物

129住



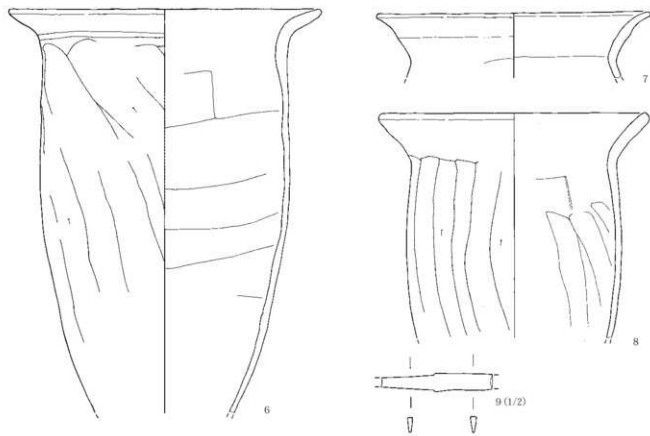
130住①



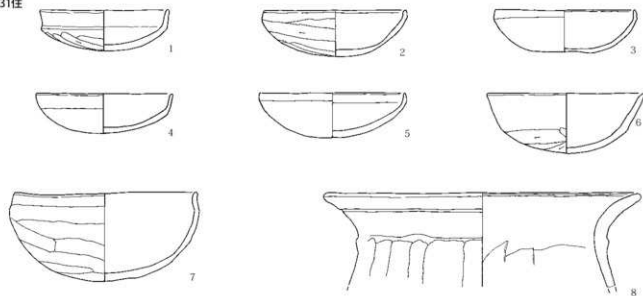
第288図 1区129・130号住居出土遺物



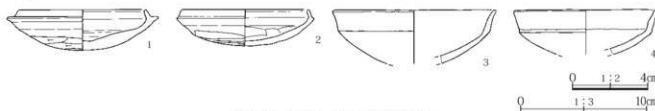
130住②



131住

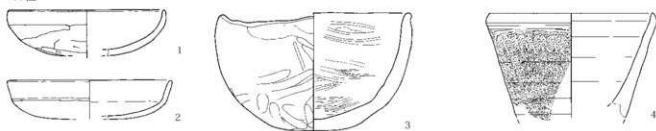


132住

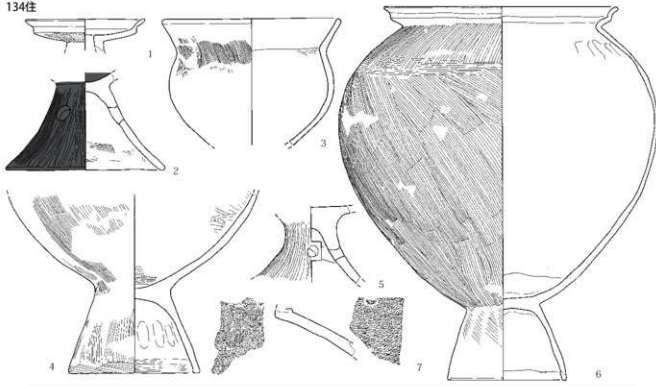


第289図 1区130～132号住居出土遺物

133住



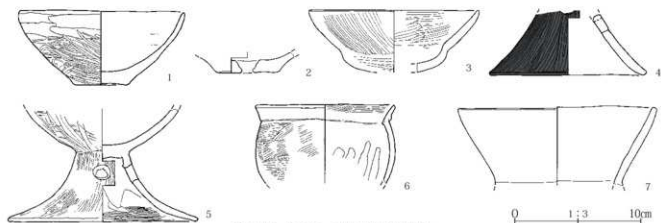
134住



135住

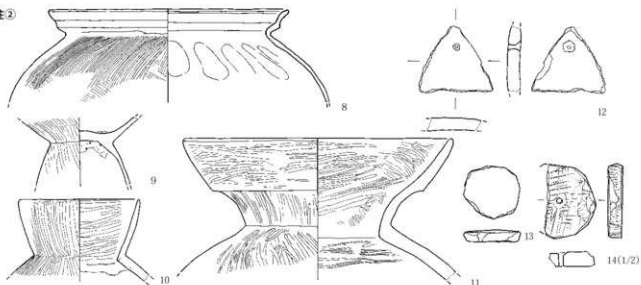


136住①

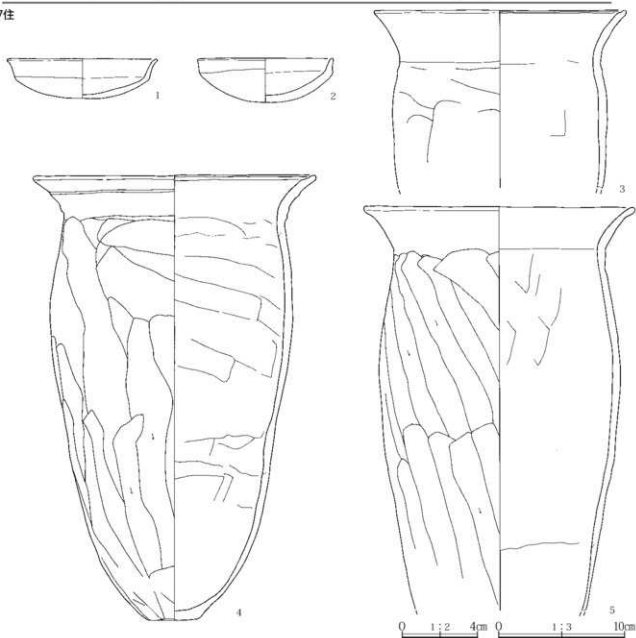


第290図 1区133～136号住居出土遺物

136住②

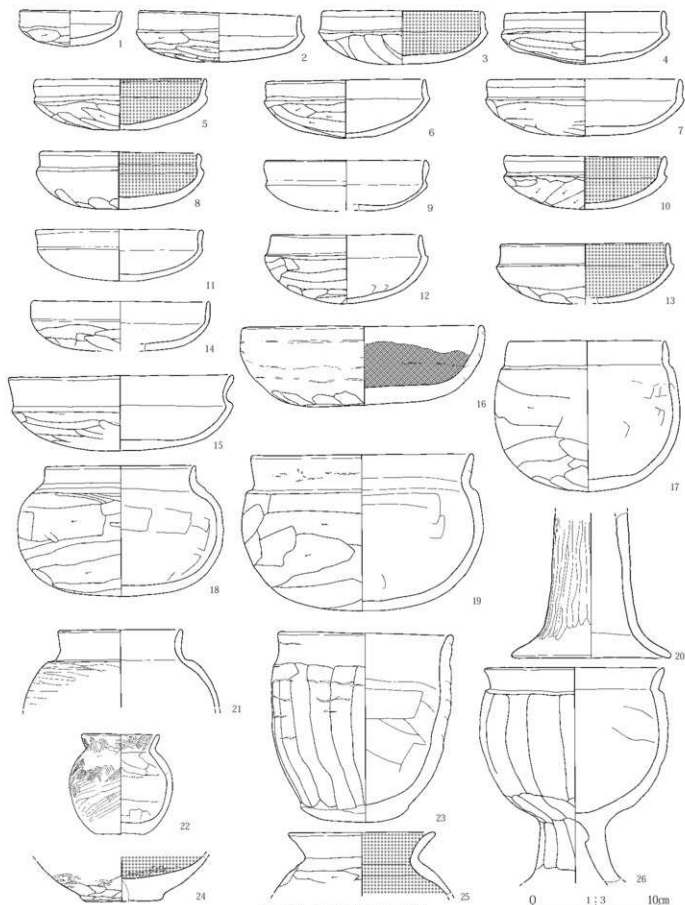


137住

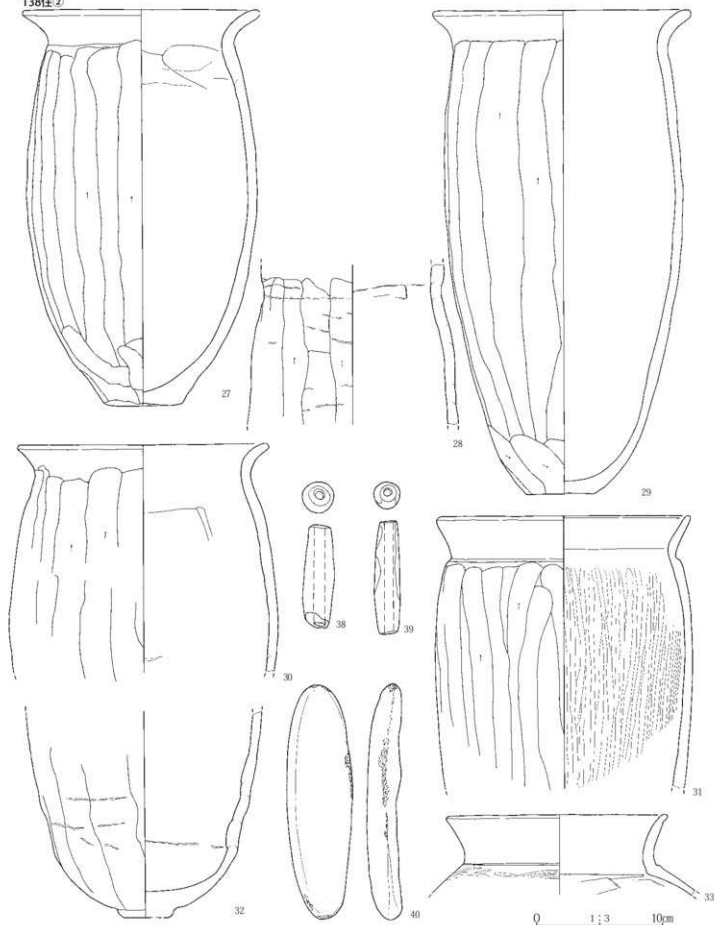


第291図 1区136・137号住居出土遺物

138住①

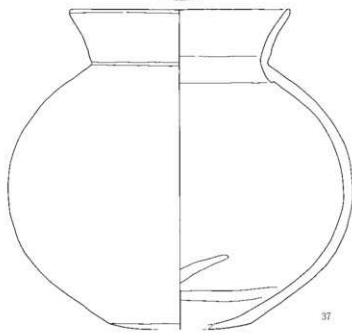
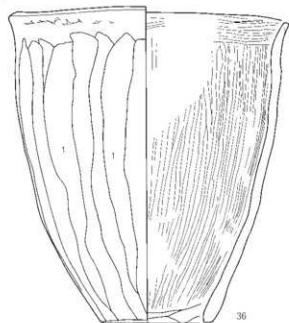
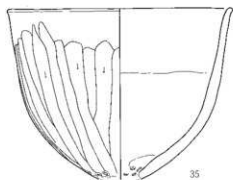
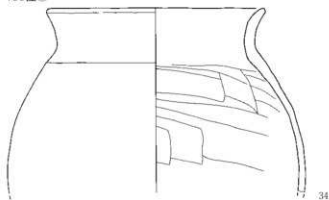


第292図 1区138号住居出土遺物

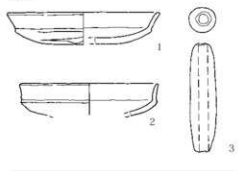


第293図 1区138号住居出土遺物

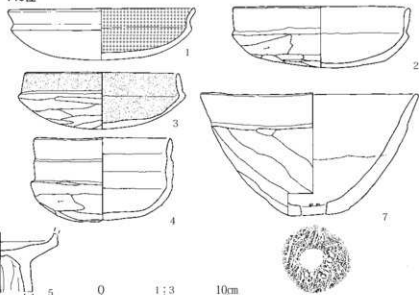
138住③



139住

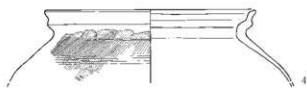
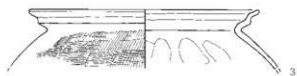
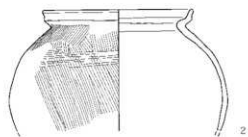
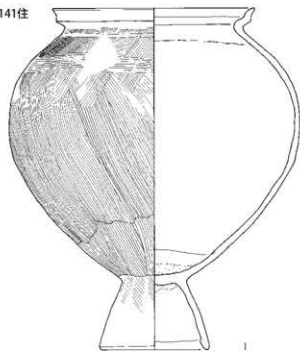


140住

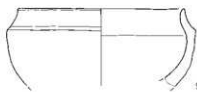
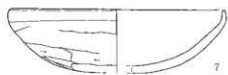
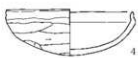
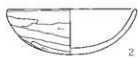


第294図 1区138～140号住居出土遺物

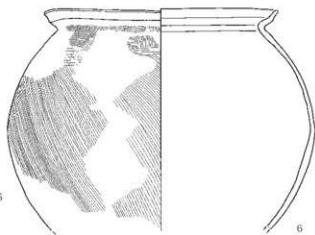
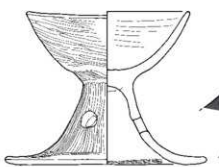
141住



142住



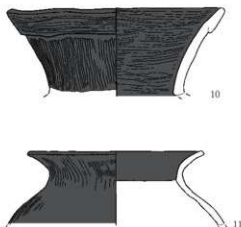
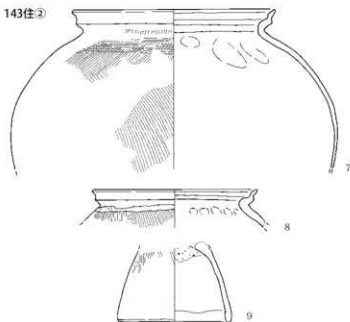
143住①



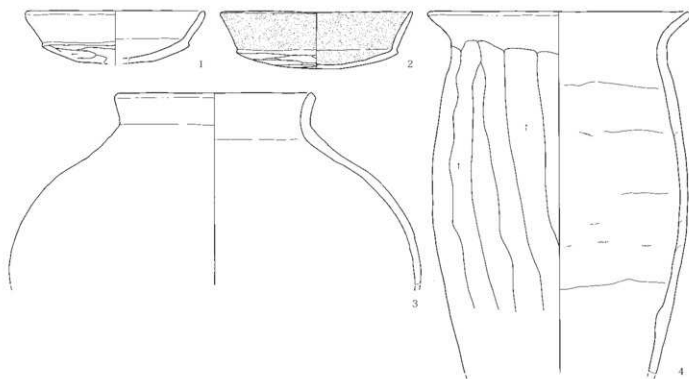
0 1:3 10cm

第295図 I区141～143号住居出土遺物

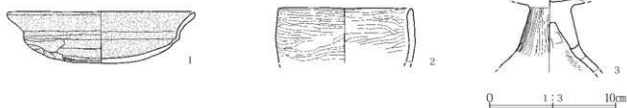
143住②



144住



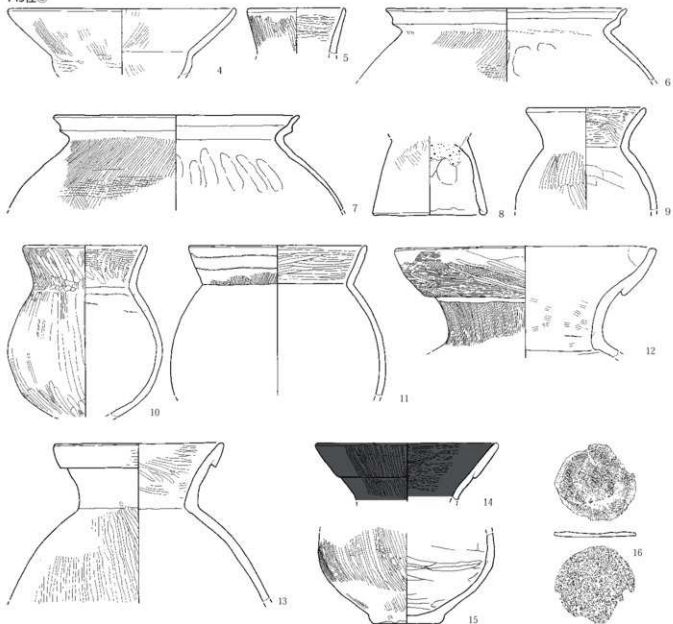
145住①



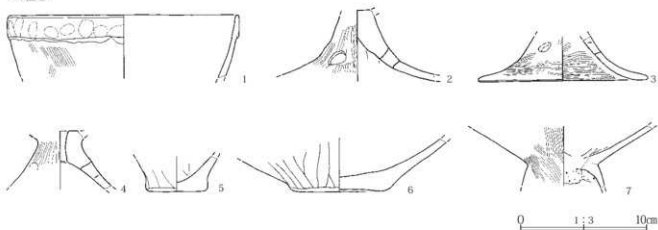
第296図 1区143～145号住居出土遺物



145住②

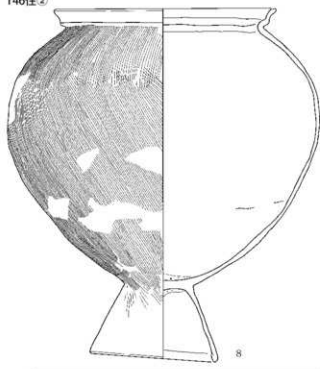


146住①

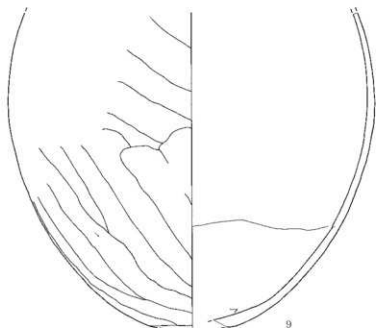
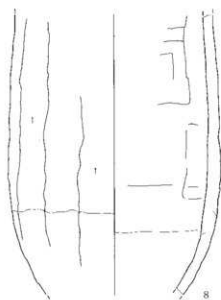
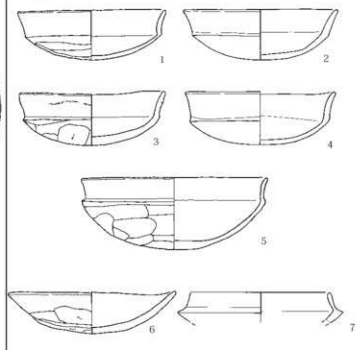


第297図 1区145・146号住居出土遺物

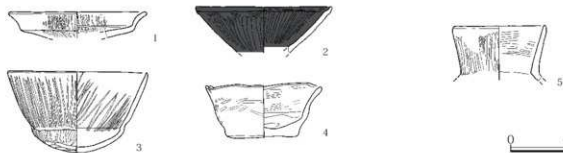
146住②



147住



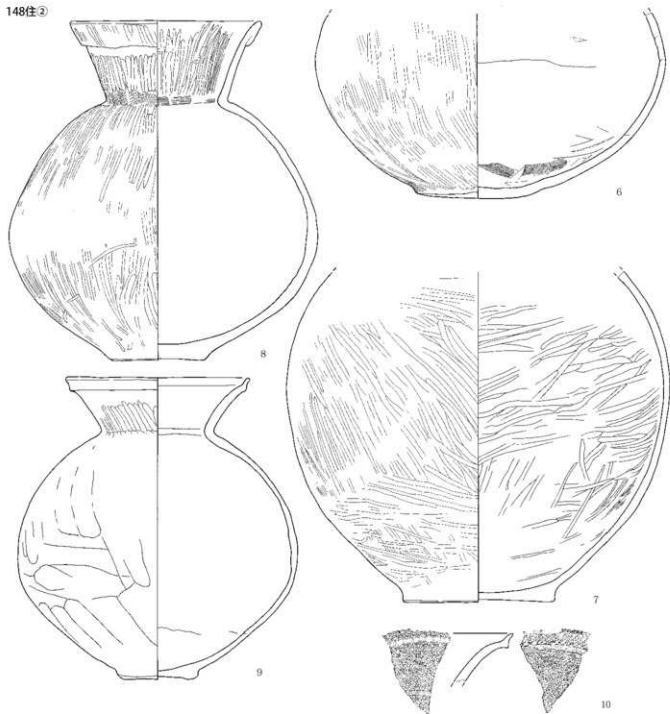
148住①



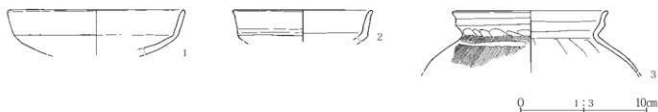
0 1:3 10cm

第298図 1区146～148号住居出土遺物

148住②

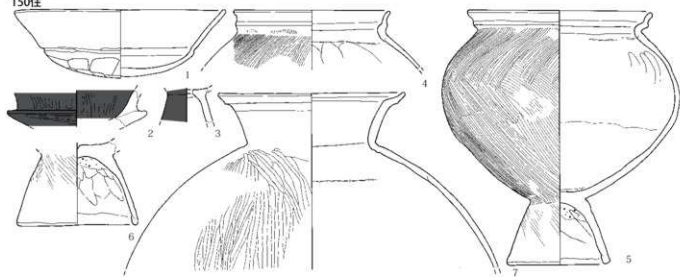


149住



第299図 1区148・149号住居出土遺物

150住

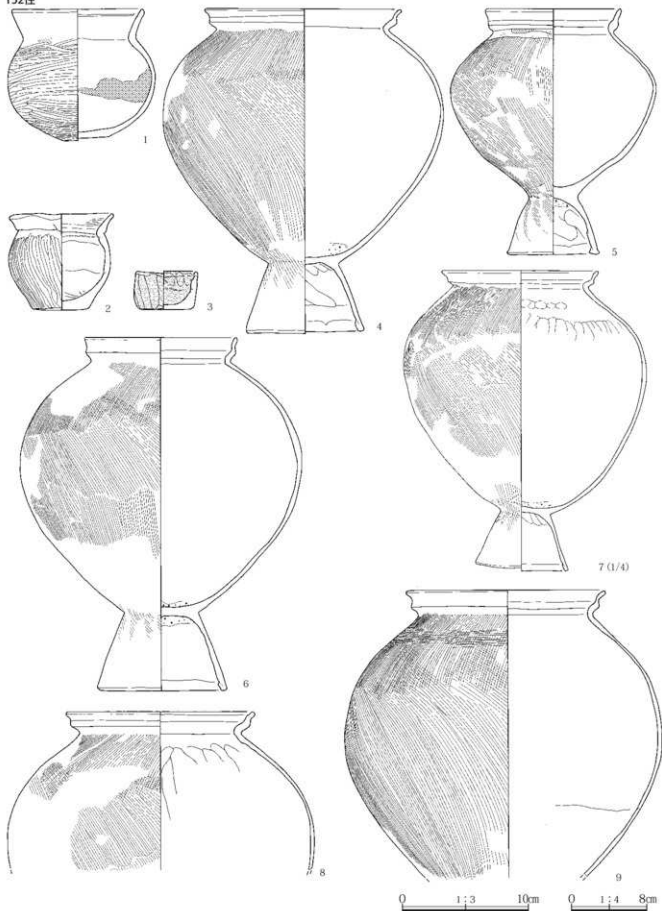


151住



第300図 1区150・151号住居出土遺物

152住

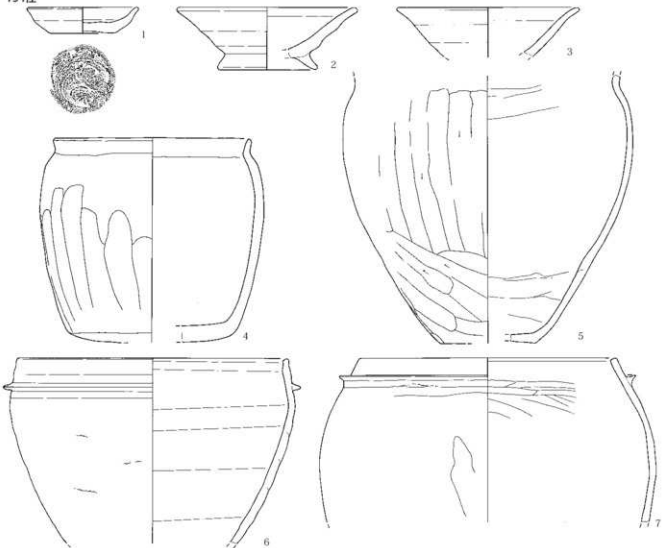


第301図 1区152号住居出土遺物

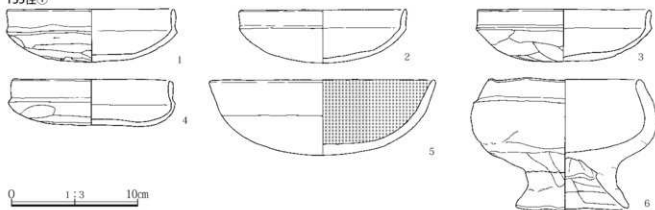
153住



154住

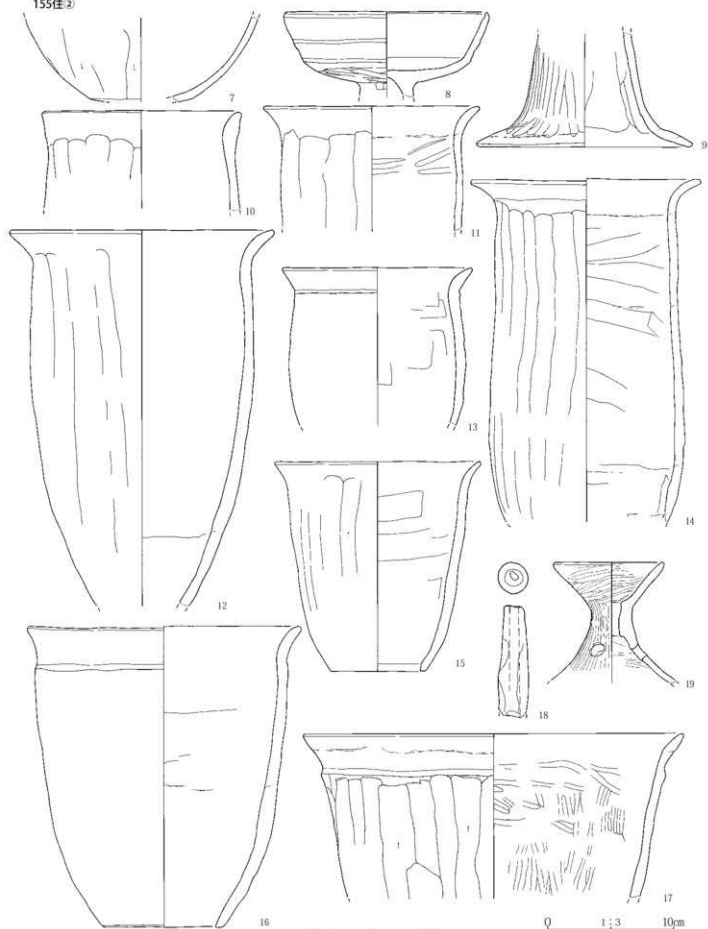


155住①



0 1:3 10cm

第302図 1区153～155号住居出土遺物



第303図 1区155号住居出土遺物

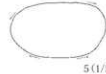
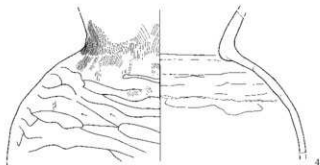
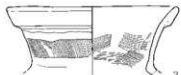
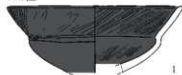
156住



157住



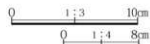
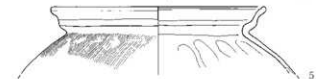
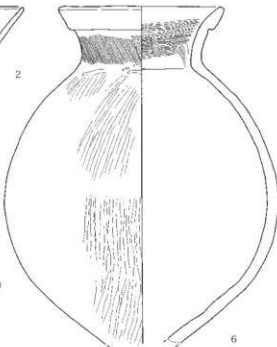
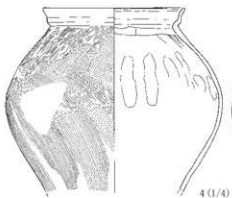
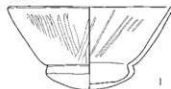
158住



159住



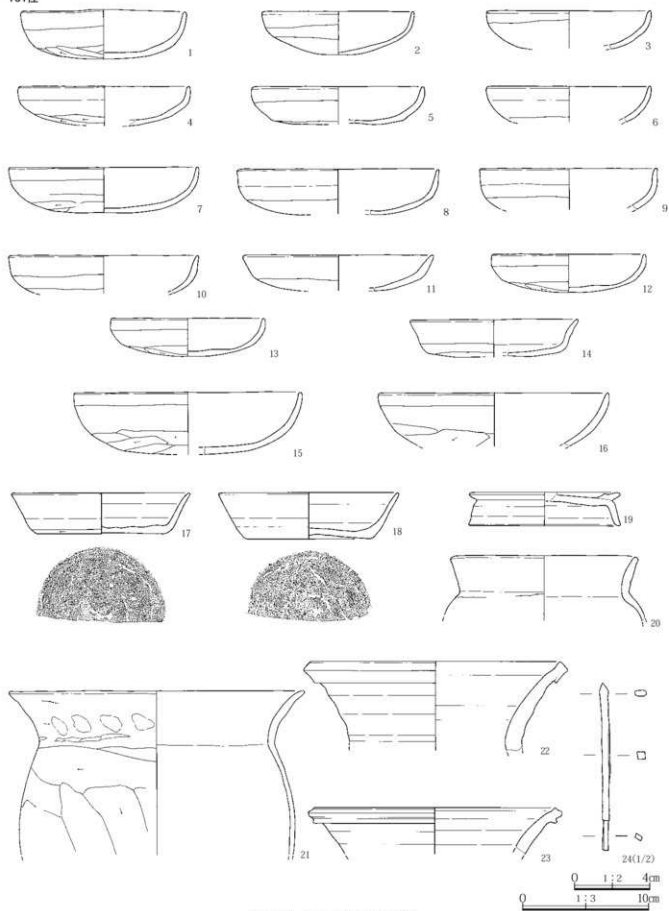
160住



第304図 1区156～160号住居出土遺物

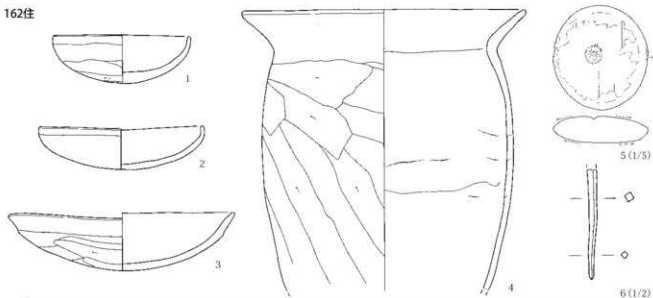


161住

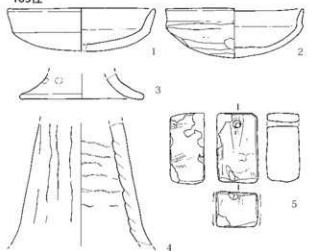


第305図 1区161号住居出土遺物

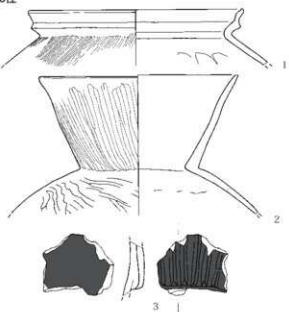
162住



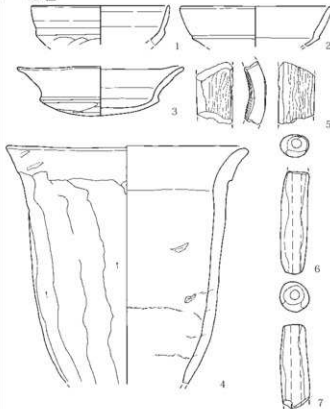
163住



166住



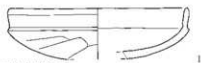
164住



167住



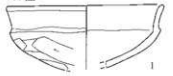
168住



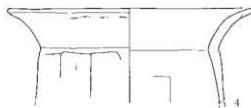
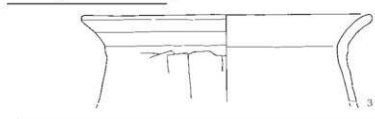
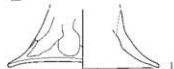
0 1:2 4cm 0 1:5 10cm 0 1:3 10cm

第306図 1区162～164・166～168号住居出土遺物

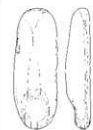
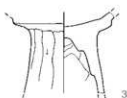
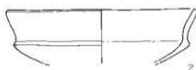
169住



171住

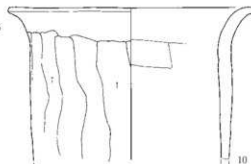
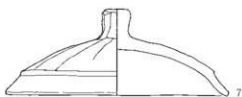
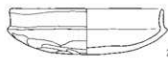
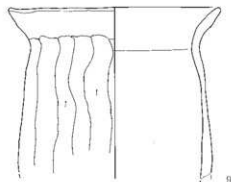
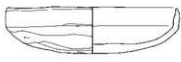


172住



5 (1/6)

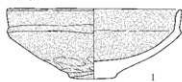
173住



174住



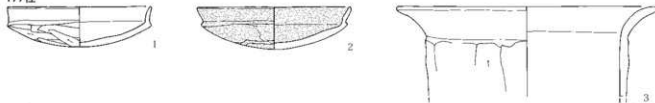
175住



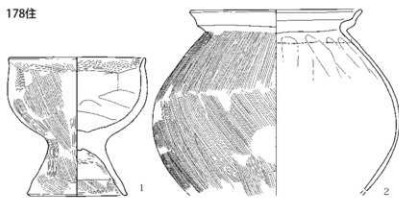
0 1:3 10cm 0 1:6 12cm

第307図 Ⅱ区169・171～175号住居出土遺物

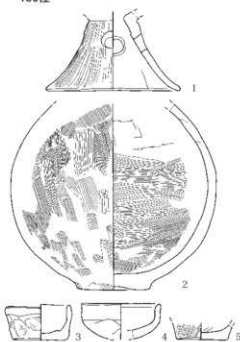
177住



178住



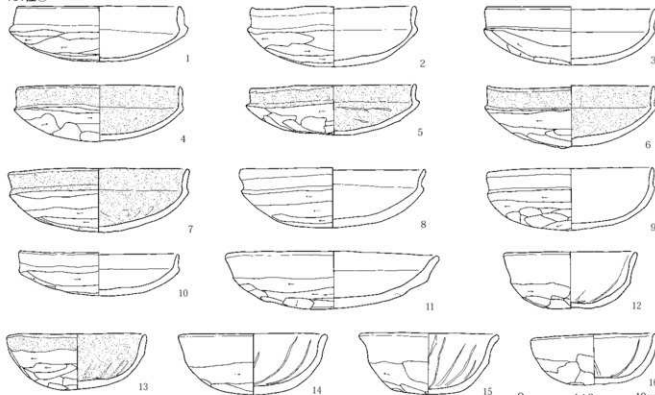
180住



179住

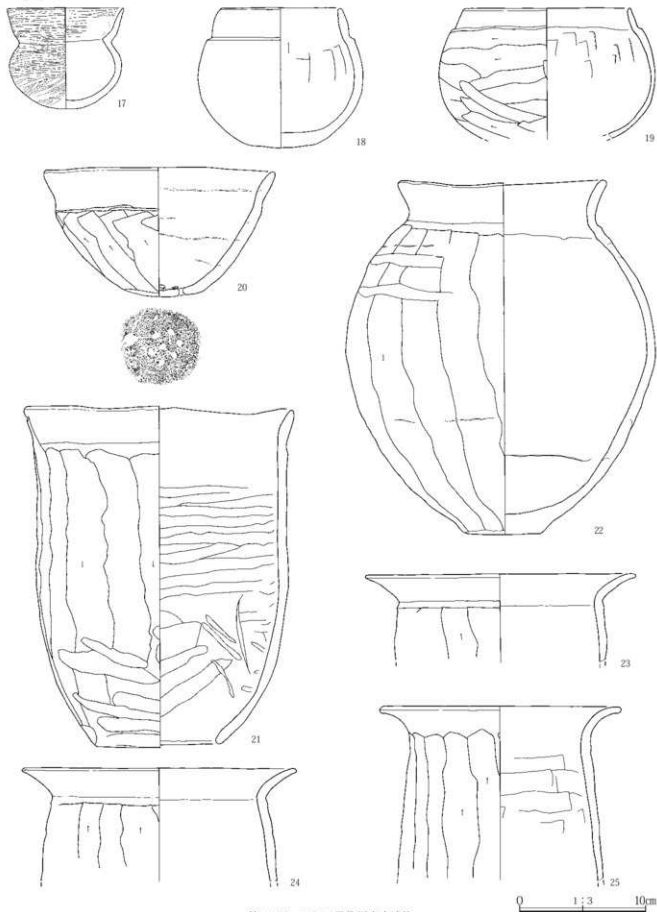


181住①

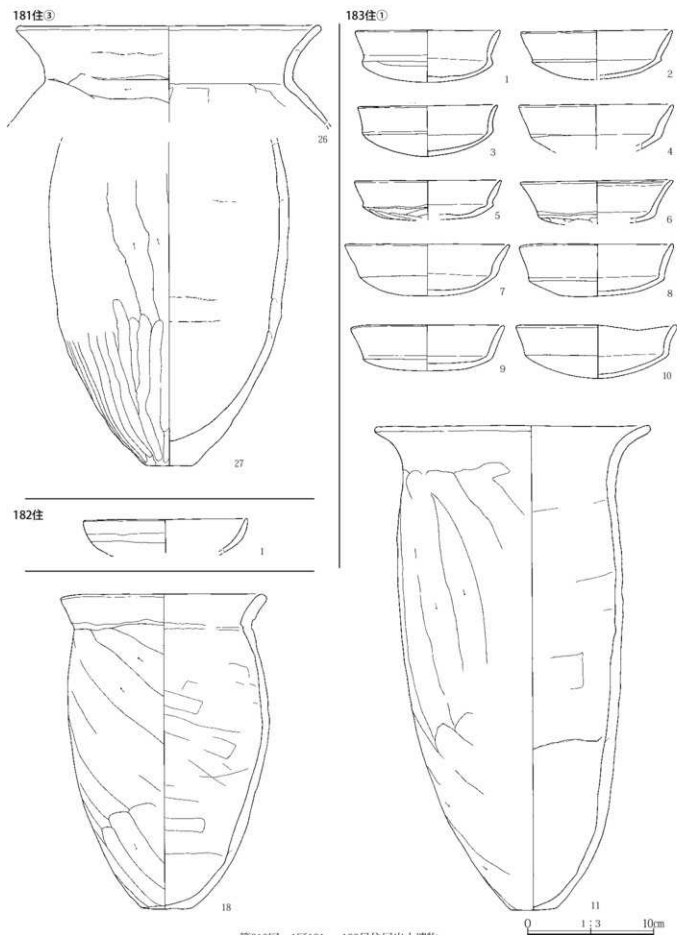


第308図 1区177～181号住居出土遺物

181住②

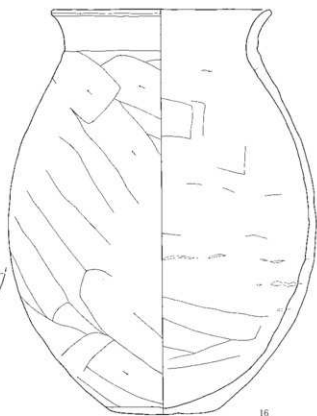
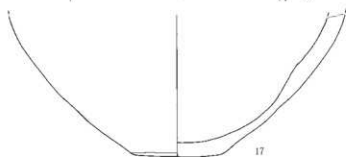
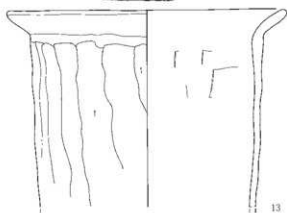
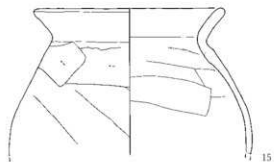
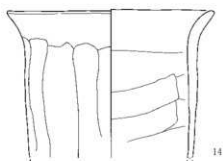
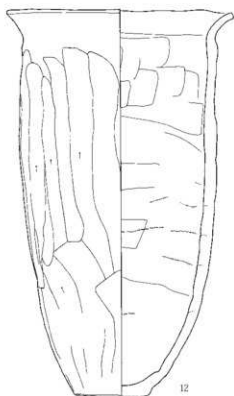


第309図 1区181号住居出土遺物

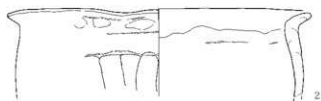


第310図 1区181～183号住居出土遺物

183住②



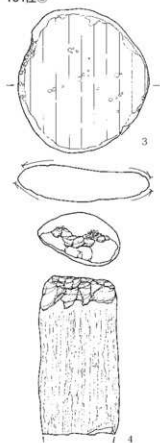
184住①



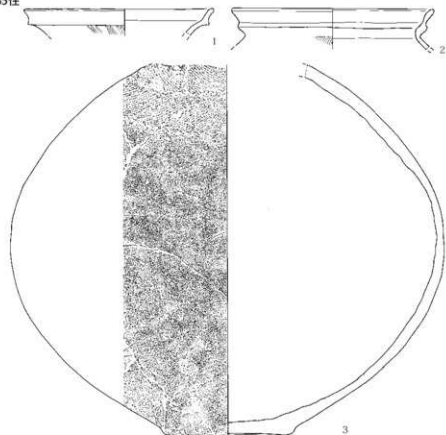
0 1:3 10cm

第311図 1区183・184号住居出土遺物

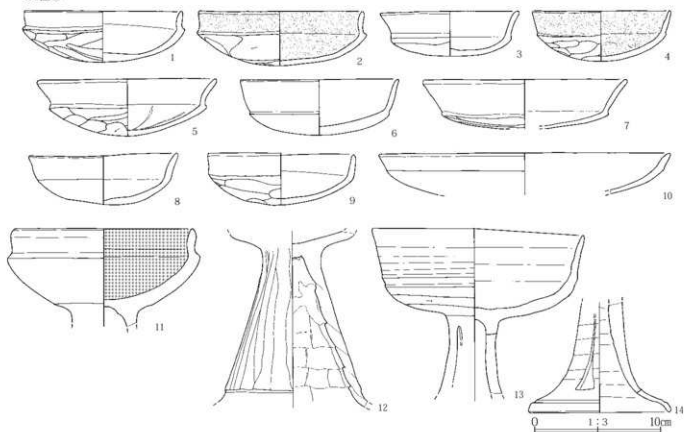
184住②



185住



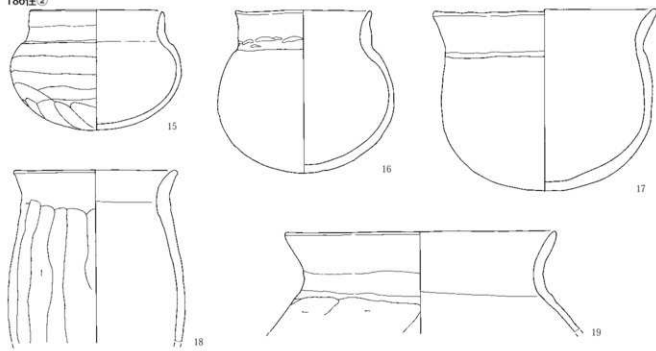
186住①



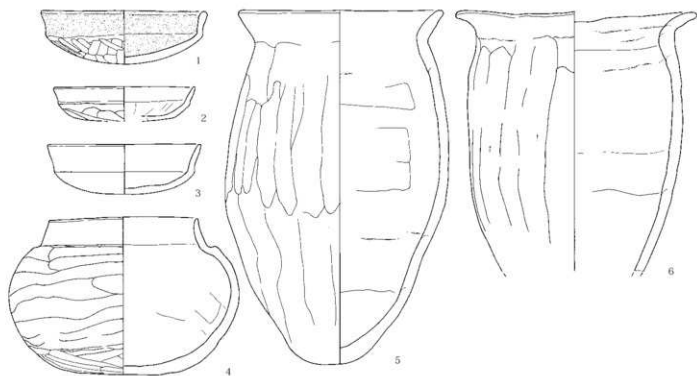
第312図 1区184～186号住居出土遺物



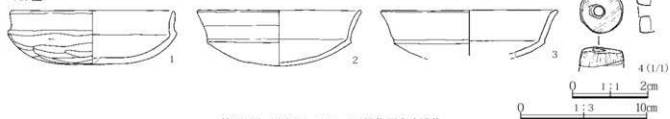
186住②



188住



189住

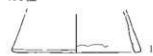


第313図 1区186・188・189号住居出土遺物

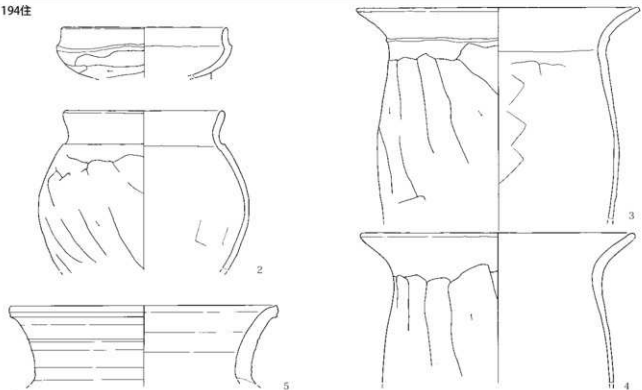
191住



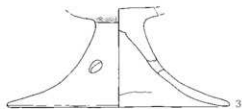
193住



194住



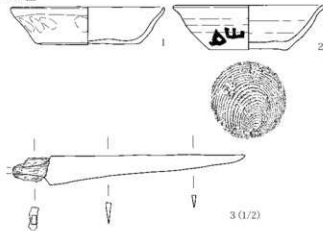
196住



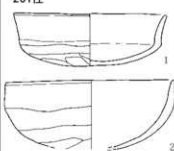
199住



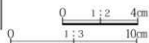
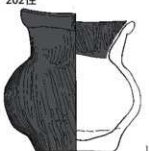
200住



201住

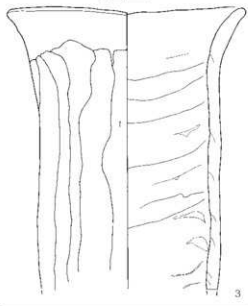
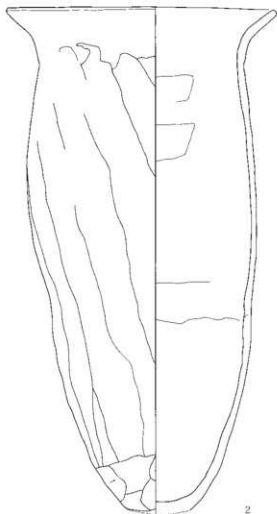
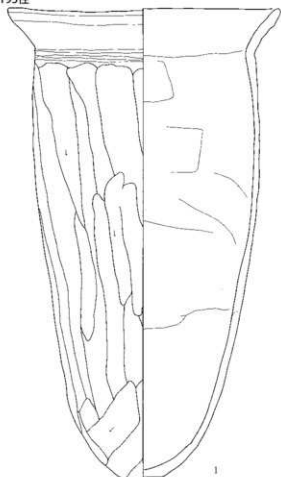


202住

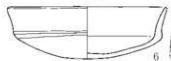
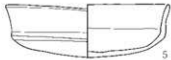
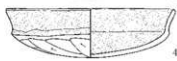
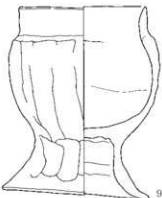
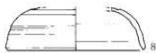
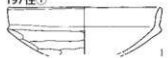


第314図 1区191・193・194・196・199・200～202号住居出土遺物

195住



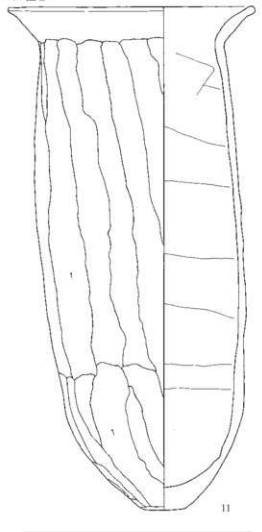
197住①



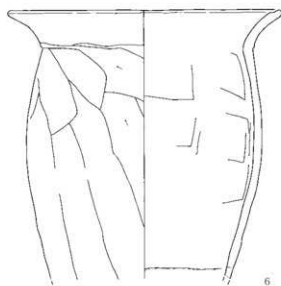
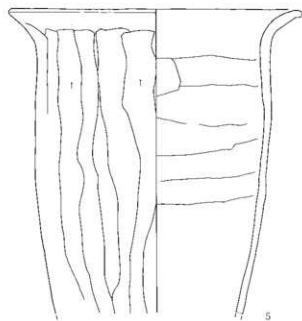
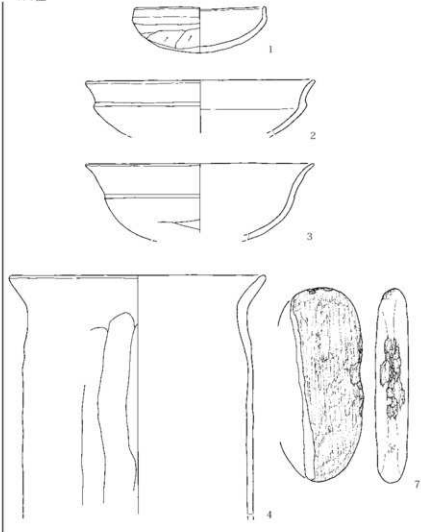
第315図 1区195・197号住居出土遺物

0 1:3 10cm<sup>10</sup>

197住②



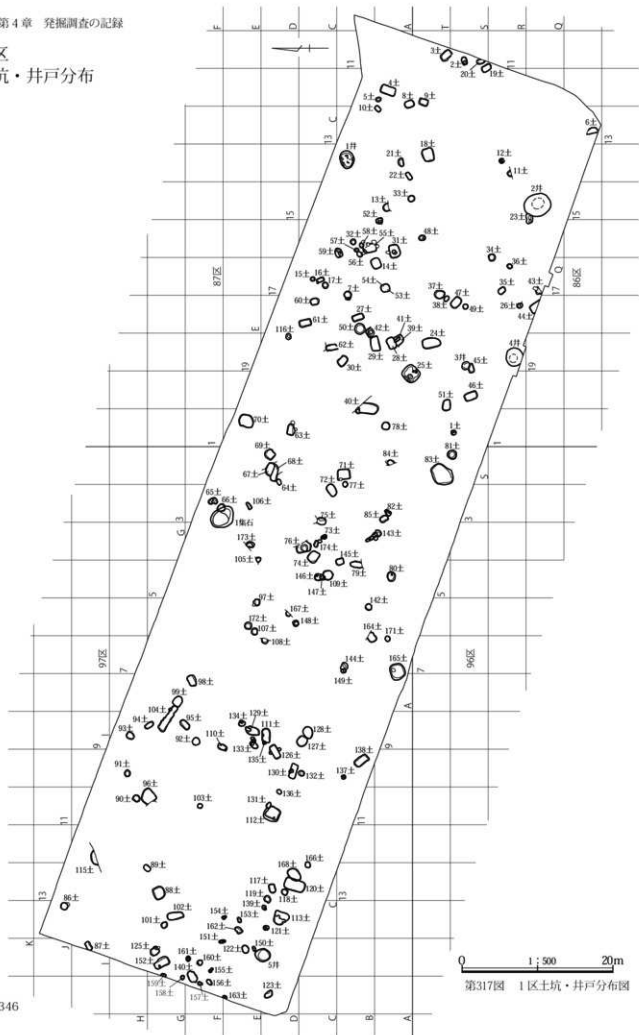
198住



0 1:3 10cm

第316図 1区197・198号住居出土遺物

1区  
土坑・井戸分布



第317图 1区土坑・井戸分布图

## (2)土坑

1区からは174基の土坑が調査時に検出されている。しかし整理の過程で、100・114・115・124・141・150・169（写真あり）・170号の各土坑が欠番となったために計166基の土坑となった。

人為的埋土が認められた土坑は、31・34・35・45・47・50号の6基、遺構確認面の上面から多量の礫が出土したのは85・173号の2基、ややまとまった遺物の出土した土坑は、7・15・18～20・26・30・46・50・51・69・70・72・81・92・94・102～104・109・113・119・120・143号の24基、埋土に浅間B軽石の混土が認められたのは63・86・89・133・134号の5基、そして焼土粒子や炭化物粒子の含まれていた土坑は49基に及んだ。

以下、番号順にその概要を記す。また井戸の事実記載後、土坑と井戸についての簡単なまとめを記す。

## 1号土坑(第318・335図)

位置 86S-20グリッド

81号土坑の東約1.7mの所に位置している。長径66cm・短径58cm・深さ33cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は1層で、やや砂質である。常滑の陶器製の破片が出土している。中世の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

## 2号土坑(第318図)

位置 86S-10グリッド

4世紀代の39号住居埋没土中に構築されている。長径105cm・短径71cm・深さ27cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

## 3号土坑(第318図、PL.121)

位置 86T-10グリッド

29号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ158cm・幅100cm・深さ28cmの隅丸長方形を呈する。底面はやや凹凸がある。土師器小片が出土している。構築時期、機能・用途は不明である。

## 4号土坑(第318・335図、PL.121)

位置 87A-11グリッド

32号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ202cm・幅108cm・深さ45cmの長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。在地系土器が出土している。構築時期、

機能・用途は不明である。

## 5号土坑(第318図、PL.121)

位置 87A-11グリッド

4・44号住居と重複している。当土坑が新しい。長径71cm・短径60cm・深さ44cmの楕円形を呈する。覆土中から礫が出土している。構築時期、機能・用途は不明である。

## 6号土坑(第318図、PL.121)

位置 86P-12グリッド

1・3号住居と重複している。当土坑が新しい。現状では長さ143cm・幅75cm・深さ13cmの不正形を呈する。埋没土は1層で、炭化物粒子と焼土ブロックを含む。礫が出土している。構築時期、機能・用途は不明である。

## 7号土坑(第318・335図、PL.121)

位置 87B-16・17グリッド

27号土坑の北東約2mのところに位置している。長径116cm・短径98cm・深さ19cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれ、やや粘質でローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を含んでいる。須恵器製の底部片が出土している。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

## 8号土坑(第318図、PL.121)

位置 87A-11・12グリッド

9号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ127cm・幅94cm・深さ14cmの隅丸方形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ロームブロック・炭化物粒子を含む。礫が出土している。構築時期、機能・用途は不明である。

## 9号土坑(第318図、PL.121)

位置 86T-11グリッド

9号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ120cm・幅90cm・深さ56cmの方形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は3層に分かれ、ロームブロック・炭化物を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

## 10号土坑(第318図、PL.121)

位置 87A-12グリッド

44号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ88cm・幅59cm・深さ20cmの隅丸方形を呈する。底面は平坦である。埋没土は1層で、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用

1号土坑



1号土坑

1 暗褐色土 やや砂質。ローム粒子と白色軽石を含む。

2号土坑



4号土坑



6号土坑

1 暗褐色土 やや粘質。締まりやや強い。炭化物粒子、焼土の円形小頂を含む。

3号土坑



B-B'  
1.73.00m



5号土坑



9号土坑



6号土坑



A-A' 1.72.50m

3住 1住

7号土坑



8号土坑



10号土坑



7号土坑

1 暗褐色土 ローム粒を含む。粘性やや弱い。締まりやや弱い。  
2 暗褐色土 やや粘質。締まりやや強い。ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。  
3 褐色土 やや粘質。やや締まっている。ローム粒子を多く、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

8号土坑

1 暗褐色土 やや締まっている。粘性やや強い。ローム小ブロック、軽石を含む。  
2 暗褐色土 やや締まっている。粘性やや弱い。ローム小ブロックをわずかに、軽石、炭化物粒子を含む。

9号土坑

1 暗褐色土 締まりやや強い。粘性やや弱い。ロームブロック、炭化物を含む。  
2 暗褐色土 締まりやや強い。粘性やや弱い。ロームブロック、黄褐色土の小ブロック、軽石、炭化物を含む。  
3 暗褐色土 締まり強い。粘性非常に弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。炭化物を少量含む。

10号土坑

1 暗褐色土 粘性やや強い。締まり強い。As-IP相当と思われる軽石、ローム粒子を含む。炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。

0 1:60 2m

第318図 1区1~10号土坑

途は不明である。

#### 11号土坑(第319図)

位置 86R-13グリッド

42号住居と重複している。当土坑が新しいが、攪乱によって一部壊されている。現状での長径77cm・短径52m・深さ39cmの楕円形を呈するものと思われる。底面はほぼ平坦である。埋没土は5層に分かれ、ロームを含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 12号土坑(第319図)

位置 86R-13グリッド

42号住居と重複している。当土坑が新しい。長径66cm・短径63cm・深さ44cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 13号土坑(第319図、PL.122)

位置 87A-14グリッド

13号住居と重複している。当土坑が古い。長径100cm・短径80cm・深さ24cmの円形を呈するものと思われる。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。土器片が出土している。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 14号土坑(第319図、PL.122)

位置 87A・B-16グリッド

36号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ142cm・幅121cm・深さ12cmの隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を含む。羽釜の小片が出土している。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 15号土坑(第319・335図、PL.122)

位置 87C-16グリッド

16号土坑に接している。また東に近接して4世紀代の19号住居が存在している。長径60cm・短径55cm・深さ29cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。S字状口縁台付甕の台部片が出土している。古墳時代前期の19号住居に伴う遺構になるのであろうか。機能・用途は不明である。

#### 16号土坑(第319図、PL.122)

位置 87C-16グリッド

15・17号土坑に接している。長さ101cm・幅55cm・深さ14cmの長方形を呈する。底面はやや凹凸がある。覆土は1層で、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 17号土坑(第319図、PL.122)

位置 87C-16グリッド

16号土坑に接している。長径83cm・短径78cm・深さ19cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は1層である。比較的新しい時期の構築と思われる。機能・用途は不明である。

#### 18号土坑(第319・335図、PL.122)

位置 86T-13グリッド

35号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ175cm・幅150cm・深さ20cmの隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は4層に分かれ、焼土粒子と炭化物粒子、灰を含んでいる。土師器壺と埴の小片が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 19号土坑(第320・335図、PL.123・298)

位置 86R・S-10・11グリッド

39号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ133cm・幅83cm・深さ31cmの隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれ、2層に炭化物を多量に含む。須恵器の椀3点が出土している。その他、縄文土器片(黒浜・有尾式)1点が出土。平安時代の構築と思われる、土坑墓になる可能性がある。

#### 20号土坑(第320・335図、PL.122)

位置 86S-10グリッド

39号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ110cm・幅64cm・深さ25cmの隅丸長方形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は5層で、ローム粒子・焼土・炭化物を含む。器台の破片、須恵器椀の底部片が出土している。平安時代の構築と思われる、土坑墓になる可能性がある。

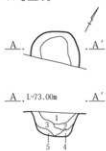
#### 21号土坑(第320図、PL.122)

位置 87A-13グリッド

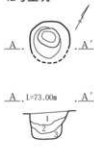
11・46・85号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ119cm・幅72m・深さ27cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は3層に分かれ、ロームと炭化物を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途



11号土坑



12号土坑



11号土坑

- 1 暗褐色土 やや粘質、やや締まっている。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや粘質、締まっている。黒褐色土、As-IP相当と思われるローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや粘質、締まり強い。黒褐色土、黄褐色・褐色ロームのブロックの混上。
- 4 暗褐色土 黒褐色土、黄褐色ロームブロックの混上。
- 5 黄褐色土 やや粘質、締まり強い。ロームの再堆積土。

12号土坑

- 1 暗褐色土 やや粘質、締まっている。褐色ローム、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや粘質、締まりやや弱い。褐色ロームを含む。

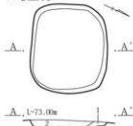
13号土坑



13号土坑

- 1 暗褐色土 粘性やや弱い、締まりやや弱い。黄褐色ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや粘質、やや締まっている。ローム粒子を含む。土器小片を含む。

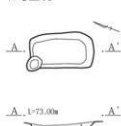
14号土坑



15号土坑



16号土坑



17号土坑



14号土坑

- 1 暗褐色土 粘性強い、締まり強い。褐色ローム、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや粘質、締まり強い。炭化物粒子、焼土粒子、ローム粒子を多く含む。

15号土坑

- 1 暗褐色土 粘性やや強い、締まり強い。ローム小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 粘性やや弱い、締まり弱い。ローム粒子を含む。

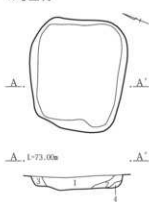
16号土坑

- 1 暗褐色土 やや粘質、やや締まっている。ローム粒子、ローム小ブロックを含む。

17号土坑

- 1 暗褐色土 やや粘質、やや締まっている。ローム粒子、焼土粒子を含む。新しそうな感じ。

18号土坑



18号土坑

- 1 暗褐色土 粘性やや弱い、締まり強い。Hr-PPと思われる白色軽石を多く含む。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 粘性やや弱い、締まり強い。Hr-PPと思われる白色軽石、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 粘性やや弱い、やや締まっている。褐色ローム粒子、As-IP、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを含む。黒色の灰を含む。

0 1:60 2m

第319図 1区11～18号土坑

は不明である。

22号土坑(第320図、PL.123)

位置 87A-13グリッド

46号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ109cm・幅57cm・深さ12cmの隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

23号土坑(第320図)

位置 86Q・R-14・15グリッド

48号住居、17号ピットと重複している。当土坑が新しい。長さ135cm・幅80cm・深さ60cmの楕円形を呈するものと思われる。確認面から底面までやや深い。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子・焼土粒子を含む。土器片と礫が出土している。構築時期、機能・用途は不明である。

24号土坑(第320図、PL.123)

位置 86T-18グリッド

52号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ244cm・幅136cm・深さ18cmの隅丸長方形を呈するものと思われる。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子・焼土粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

25号土坑(第320図、PL.123)

位置 86T・87A-18・19グリッド

52号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ215cm・幅205cm・深さ40～80cmの隅丸長方形を呈する。底面にピットが掘り込まれている。このピットは52号住居の主柱穴(7・8層)になるものである。土坑の埋没土は6層に分かれ、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

26号土坑(第320・335図)

位置 86R-17グリッド

10号溝と重複している。当土坑が古い。長径78cm・短径63cm・深さ33cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれ、ローム粒子・焼土粒子を含む。土師器壺の底部片が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

27号土坑(第320図、PL.123)

位置 87B-17グリッド

18・54号住居に接している。長さ153cm・幅82cm・深さ37cmの隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は6層に分かれ、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。遺物の出土はなかった。平安時代の構築と思われるが、構築時期、機能・用途は不明である。

28号土坑(第321図、PL.123)

位置 87A-18グリッド

39・41号土坑、63号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ157cm・幅105cm・深さ11cmの隅丸長方形を呈する。底面は平坦である。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

39号土坑(第321図、PL.125)

位置 86A-18グリッド

28・41号土坑、52号住居と重複している。28号土坑に壊され、41号土坑、52号住居を壊している。長さ124cm・幅115cm・深さ14cmの隅丸長方形を呈するものと思われる。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、炭化物・ロームブロックを含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

41号土坑(第321図、PL.125)

位置 86A-18グリッド

28・39号土坑、52号住居と重複している。28・39号土坑に壊され、52号住居を壊している。長さ90cm・幅35cm・深さ42cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。埋没土は1層で、ロームブロックを含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

29号土坑(第321図、PL.123)

位置 87A・B-18グリッド

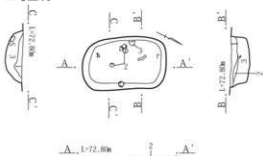
50号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ190cm・幅114cm・深さ23cmの長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は4層で、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。

30号土坑(第321・335図、PL.124)

位置 87B-18グリッド

54号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ145cm・幅98cm・深さ38cmの隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は4層に分かれ、ローム粒子を含む。須恵器の椀が出土している。その他、縄文土器片(諸磯c式1点・加曾利式2)3点が出土。平安時代の構築と思われる、土坑墓になる可能性がある。

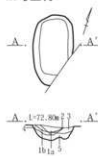
19号土坑



19号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む。  
2 暗褐色土 炭化物を多量に含む。  
3 暗褐色土 粘性強い、ローム粒子を含む。

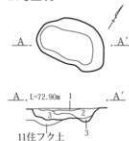
20号土坑



20号土坑

- 1a 暗褐色土 焼土を多く、炭化物少量含む。  
1b 暗褐色土 焼土粒子を極く少量含む。  
2 褐色土  
3 黄褐色土 ローム粒子を多量含む。  
4 暗褐色土 ロームブロックを含む。  
5 暗褐色土 ロームブロックを含む。

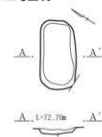
21号土坑



21号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。一部に炭化物。  
2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。  
3 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。

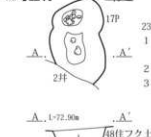
22号土坑



22号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。

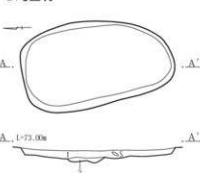
23号土坑



23号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を多量に含む。  
2 暗褐色土 ローム粒子を含む。  
3 暗褐色土 ロームブロックを含む。

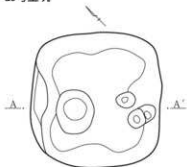
24号土坑



24号土坑

- 1 黒褐色土 やや粘質、締まりやや強い。ローム粒子、焼土粒子を含む。  
2 黒褐色土 やや粘質、締まりやや弱い。ローム粒子を含む。

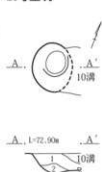
25号土坑



25号土坑

- 1 暗褐色土 やや粘質、締まっている。ローム粒子を含む。焼土粒子、炭化物粒子をやや多く含む。  
2 暗褐色土 やや粘質、やや締まっている。ロームブロックを含む。  
3 暗褐色土 やや砂質、硬く締まっている。ローム粒子、ロームブロックを含む。  
4 暗褐色土 やや粘性強い、締まっている。ロームを含む。  
5 明黄褐色土 ロームブロック(壁の崩れ)。  
6 暗褐色土 やや粘質、やや締まっている。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。  
7 暗褐色土 粘質、締まっている。ロームブロックを含む。  
8 明黄褐色土 粘質、締まっている。暗褐色土、黒褐色土を含む。

26号土坑



26号土坑

- 1 暗褐色土 やや粘質、締まりやや弱い。ローム粒子を含む。  
2 黒褐色土 やや粘質、締まっている。ローム粒子、焼土粒子を含む。

27号土坑



27号土坑

- 1 暗褐色土 やや粘質、締まりやや強い。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。  
2 暗褐色土 やや粘質、締まっている。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子をやや多く含む。  
3 暗褐色土 やや粘質、締まっている。ロームブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。  
4 暗褐色土 やや粘質やや締まっている。ロームブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。  
5 暗褐色土 粘性弱い、締まりやや弱い。ロームの崩れたブロックを多く含む。  
6 暗褐色土 粘性弱い。ローム粒子を含む。

0 1:60 2m

第320図 1区19～27号土坑

## 31号土坑(第321図、PL.124)

位置 86A-15・16グリッド

60号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ176cm・幅143cm・深さ37cmの隅丸方形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。人為的埋土である。遺物の出土はなかった。平安時代の構築か、機能・用途は不明である。

## 32号土坑(第321図、PL.124)

位置 87B-15グリッド

33号住居と重複している。当土坑が新しい。長径74cm・短径72cm・深さ12cmの円形を呈する。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。土器片が出土している。構築時期、機能・用途は不明である。

## 33号土坑(第321図、PL.124)

位置 87A-14グリッド

13・57号住居に近接している。長径88cm・短径82cm・深さ11cmのほぼ円形を呈する。確認面から底面まで浅い。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

## 34号土坑(第321図、PL.124)

位置 86R・S-15・16グリッド

10号溝と重複している。当土坑が新しい。長径92cm・短径90cm・深さ36cmのほぼ円形を呈する。埋没土は1層で、人為的埋土になる。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

## 35号土坑(第321図、PL.124)

位置 86R-16・17グリッド

10号溝に近接している。長さ107cm・幅77cm・深さ34cmの隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子を含む。2・3層は人為的埋土である。平安時代の構築か、機能・用途は不明である。

## 36号土坑(第321図、PL.124)

位置 86R-16グリッド

10号溝に近接している。長径73cm・短径64cm・深さ17cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

## 37号土坑(第321図、PL.124)

位置 86T-16・17グリッド

38号土坑の北東に接している。長径134cm・短径107cm・

深さ22cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は4層に分かれ、褐色土を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

## 38号土坑(第321図、PL.125)

位置 86T-17グリッド

37号土坑の南西に接している。長径82cm・短径58cm・深さ13cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

## 40号土坑(第322図、PL.125)

位置 87A・B-19・20グリッド

88号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ285cm・幅139cm・深さ12cmの隅丸長方形を呈するものと思われる。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

## 42号土坑(第322・335図、PL.298)

位置 87B-17・18グリッド

54号住居と重複している。当初、単独の土坑と調査を進めたが54号住居に伴う可能性もある。2段に掘り込まれていて、上面は長さ127cm・幅120cm・深さ35cmの方形を呈するものと思われる。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子を含む。手掘ね土器が出土している。4世紀代の構築で、54号住居の貯蔵穴と考えられるものである。

## 43号土坑(第322図)

位置 86Q-16・17グリッド

70号住居、11号溝と重複している。当土坑が新しい。現状では長さ91cm・幅70cm・深さ34cmの方形を呈するものと思われる。埋没土は2層に分かれ、上層に浅間A軽石を含む。この他、縄文土器片(加曾利E式1点・後期前葉1点)2点が出土。構築時期、機能・用途は不明である。

## 44号土坑(第322図、PL.125)

位置 86Q-17グリッド

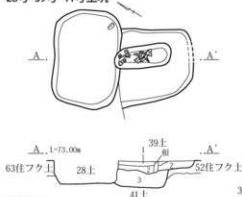
16号溝と重複している。当土坑が新しい。現状での長さ178cm・幅113cm・深さ33cmの長方形を呈するものと思われる。埋没土は5層で、ローム粒子・焼土粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。

## 45号土坑(第322図、PL.125)

位置 86S-18・19グリッド

3号井戸、17号溝と重複している。3号井戸、17号溝に

28号・39号・41号土坑



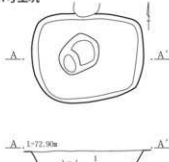
- 39号土坑  
1 暗褐色土 ローム粒子を含む。下面に炭化層。  
2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。
- 41号土坑  
3 暗褐色土 ロームブロックを含む。

30号土坑



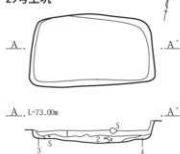
- 30号土坑  
1 暗褐色土 ローム粒子を含む。  
2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。  
3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含む。  
4 暗褐色土 ローム粒子を含む。1層より明るい。

31号土坑



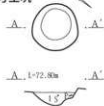
- 31号土坑  
1 暗褐色土 ローム粒子を多量に、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。一括埋上。  
2 暗褐色土 1層に相似。  
① 黒褐色土 上層からの掘り込み?根?ローム粒子を少量含む。

29号土坑



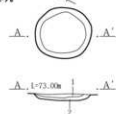
- 29号土坑  
1 暗褐色土 粘性やや弱い。やや締まっている。ローム粒子を少量、焼土粒子、炭化物粒子を含む。  
2 暗褐色土 やや締まっている。ロームブロックを含む。焼土粒子、炭化物粒子を含む。  
3 暗褐色土 粘性やや弱い。締まりやや弱い。ロームブロックを含む。  
4 黒褐色土 やや粘質。締まっている。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロック、ローム粒子を含む。

32号土坑



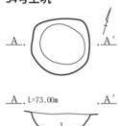
- 32号土坑  
1 暗褐色土 粘性に乏しい。ローム粒子を含む。

33号土坑



- 33号土坑  
1 暗褐色土 ローム粒子を含む。  
2 暗褐色土 1層より明るい。

34号土坑

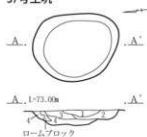


- 34号土坑  
1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。人為的埋上。

36号土坑

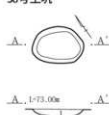


37号土坑



- 37号土坑  
1 暗褐色土 2層類似の明るい褐色土を部分的に含む。  
2 暗褐色土 均質。  
3 暗褐色土 やや明るい褐色土を含む。  
4 暗褐色土 やや明るい褐色土を含む。3層よりやや明るい。

38号土坑

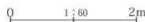


- 38号土坑  
1 暗褐色土 ローム粒子を含む。

35号土坑



- 35号土坑  
1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。  
2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む。  
3 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。  
※2・3層は人為的埋上。



第321図 1区28～39・41号土坑

壊されている。長さ117cm・幅74cm・深さ44cmの長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は4層に分かれ、ローム粒子・ロームブロックを含む。2・3層は人為的埋土の可能性がある。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 46号土坑(第322・336図、PL.125)

位置 86S-19グリッド

77・80号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ174cm・幅109cm・深さ37cmの長方形を呈する。埋没土は4層に分かれた。ロームブロック・炭化物・焼土粒子を含む。S字状口縁台付裏の口縁部片、須恵器碗の破片が出土している。平安時代の構築と思われる、土坑墓になる可能性がある。

#### 47号土坑(第322図、PL.125)

位置 86S・T-17グリッド

38号土坑の南西に近接している。長さ158cm・幅107cm・深さ29cmの隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は4層に分かれ、ロームブロック・焼土粒子を含む。2～4層は人為的埋土である。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 48号土坑(第322・336図、PL.126・298)

位置 86T-15グリッド

4号溝と重複している。当土坑が新しい。長径88cm・短径70cm・深さ64cmの楕円形を呈する。確認面から底面までやや深い。底面はほぼ平坦である。礫が出土している。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 49号土坑(第322図、PL.126)

位置 86S-17グリッド

47号土坑の南西に近接している。長径・短径ともに67cm・深さ12cmの円形を呈する。底面まで浅い。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 50号土坑(第322・336図、PL.126)

位置 87B-17・18グリッド

54号住居と重複している。当土坑が新しい。長径・短径ともに145cm・深さ44cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は6層に分かれ、上層に灰、下層にローム粒子を含む。須恵器の盤、瓶が出土している。この他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。古墳時代の構築と思われる、土坑墓になる可能性がある。

#### 51号土坑(第323・336図、PL.126)

位置 86T-19・20グリッド

80号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ151cm・幅103cm・深さ25cmの隅丸長方形を呈する。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子・炭化物・焼土粒子を含む。手捏ね土器、須恵器の杯が出土している。平安時代の構築と思われる、土坑墓になる可能性がある。

#### 52号土坑(第323図)

位置 87A-15グリッド

4号溝と重複している。当土坑が新しい。長径88cm・短径75cm・深さ43cmの楕円形を呈する。埋没土は4層に分かれ、ローム粒子を含む。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 53号土坑(第323図、PL.126)

位置 87A-16グリッド

54号土坑と重複している。当土坑が新しい。現状で幅60cm・深さ13cmである。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 54号土坑(第323図、PL.126)

位置 87A-16グリッド

53号土坑と重複している。当土坑が古い。長さ115cm・幅103cm・深さ16cmの隅丸方形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 55号土坑(第323図、PL.126)

位置 87B-15グリッド

ピットと重複している。長さ176cm・幅115cm・深さ12cmの隅丸長方形を呈する。底面は平坦である。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 56号土坑(第323図)

位置 87B-15グリッド

57号土坑と接している。長径80cm・短径61cm・深さ11cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 57号土坑(第323図)

位置 87B-15グリッド

56号土坑と接している。長径62cm・短径52cm・深さ27cmの楕円形を呈する。土坑というよりはピットになるものであろう。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は

40号土坑



40号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 1層よりやや暗いローム粒子を少し含む。

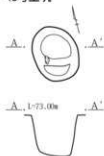
45号土坑



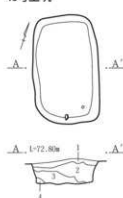
45号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。  
2層より明るい。
- 4 黒暗褐色土 ロームブロックを含む。  
※2・3層は人為的埋土?

48号土坑



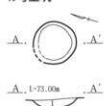
46号土坑



46号土坑

- 1 褐色土 ロームブロック、炭化物、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土

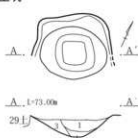
49号土坑



49号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む。

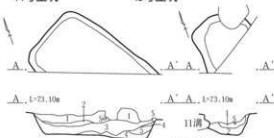
42号土坑



42号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。

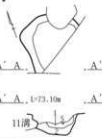
44号土坑



44号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームを多く含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒子を含む。

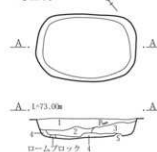
43号土坑



43号土坑

- 1 暗褐色土 As-Aを含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む。

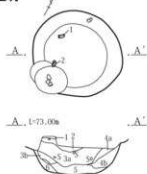
47号土坑



47号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む。
- 3 暗褐色土 2層と相似だが、ロームの割合が低い。
- 4 暗褐色土 黒褐色土、ロームブロックを含む。  
※2~4層は人為的埋土。

50号土坑



50号土坑

- 1 暗褐色土 灰を多く含む。
- 2 暗褐色土 灰を含む。
- 3a 暗褐色土 ローム粒子、小礫含む。3b層はやや暗い。
- 4a 暗褐色土 ローム粒子を含む。3層よりやや暗い。4b層は4a層より明るい。
- 5 黒褐色粘質土 ロームブロックを少量含む。
- 6 黒褐色粘質土 ローム粒子を多量含む。  
※3・4層は比較的一気に埋まる。

0 1:60 2m

不明である。

#### 58号土坑(第323図)

位置 87B-15グリッド

57号土坑の南東に近接している。長径75cm・短径55cm・深さ17cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土中に礫が出土した。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 59号土坑(第323図、PL.126)

位置 87B・C-15グリッド

19号住居の南に近接している。長径127cm・短径92cm・深さ30cmの楕円形を呈する。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 60号土坑(第324図、PL.127)

位置 87C-17グリッド

61号土坑の南東約1.7mのところに位置する。長さ119cm・幅90cm・深さ19cmの隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 61号土坑(第324図、PL.127)

位置 87C-17グリッド

86号住居の東に近接している。長さ161cm・幅90cm・深さ27cmの長方形を呈する。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子・炭化物・焼土粒子を含む。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 62号土坑(第324図、PL.127)

位置 87C-18グリッド

54号住居と86号住居に接している。現状での長さ142cm・幅76cm・深さ19cmの隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれ、炭化物粒子を含んでいる。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 63号土坑(第324図、PL.127)

位置 87D-20グリッド

91号住居と接している。長さ152cm・幅103cm・深さ32cmの隅丸方形を呈するものと思われる。埋没土は2層に分かれ、浅間B軽石を含んでいる。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 64号土坑(第324図、PL.127)

位置 97D-1グリッド

24号溝と重複している。当土坑が新しい。長さ82cm・幅

55cm・深さ11.5cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は1層でローム粒子・焼土粒子・白色軽石を含んでいる。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 65号土坑(第324図、PL.127)

位置 97F-2グリッド

66号土坑に近接している。長径117.5cm・短径71cm・深さ12～26cmの不正形を呈する。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。S字状口縁台付裹の破片が出土している。機能・用途は不明である。

#### 66号土坑(第324図)

位置 97E-F-2グリッド

1号集石(井戸)に接している。長径117cm・短径97cm・深さ10～28cmの不正形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は3層に分かれた。3層に炭化物を含んでいる。S字状口縁台付裹の破片が出土している。機能・用途は不明である。

#### 67号土坑(第324図、PL.127)

位置 97D-1グリッド

68号土坑と重複している。当土坑が新しい。長さ175cm・幅99cm・深さ25cmの隅丸長方形を呈する。埋没土は4層に分かれ、3層は炭化物主体の層であった。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 68号土坑(第324図、PL.127)

位置 97D-1グリッド

67号土坑と重複している。67号土坑に壊されている。長さ218cm・幅89cm・深さ28cmの隅丸長方形を呈するものと思われる。底面はほぼ平坦である。埋没土は5層に分かれた。ローム粒子・炭化物粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

#### 69号土坑(第324・336図、PL.127)

位置 97D-1グリッド

91号住居と重複している。長さ130cm・幅117cm・深さ40～52cmの方形を呈する。確認面から底面までやや深い。底面はやや凹凸がある。埋没土は4層に分かれた。ローム・炭化物粒子を含む。土師器高杯の脚部の破片が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

#### 70号土坑(第324・336図、PL.128)

位置 87E-20グリッド



51号土坑



51号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。  
2 黒褐色土 炭化物、焼土粒子を含む。

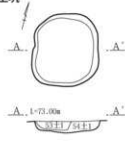
52号土坑



52号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。  
2 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。  
3a 暗褐色土 ローム粒子を含む、1層よりやや暗い。  
3b 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。  
4a 褐色土 ローム崩落土。  
4b 褐色土 ロームブロックを多量に含む。

53号・54号土坑



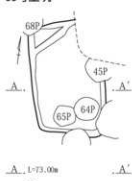
53号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒子を上層に多く含む。

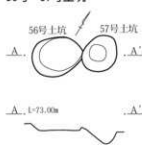
54号土坑

- 1 暗褐色土 As-YPを含む。

55号土坑



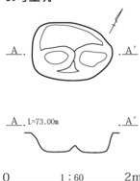
56号・57号土坑



58号土坑



59号土坑



第323図 1区51～59号土坑

90号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ197cm・幅158cm・深さ10～19cmの隅丸方形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は6層に分かれた。全体的に炭化物を含んでいる。土師器の杯が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

71号土坑(第325図、PL.128)

位置 97B-1グリッド

111号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ165cm・幅138cm・深さ9～16cmの方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は4層に分かれた。ローム粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。

72号土坑(第325・336図、PL.128)

位置 97C-2グリッド

99号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ166cm・幅112cm・深さ5～22cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は4層に分かれた。4層に焼土粒子と灰を含んでいる。手捏ね土器が出土している。これは重複している99号住居の遺物になる物であろう。構

築時期、機能・用途は不明である。

73号土坑(第325図、PL.128)

位置 97C-3グリッド

152号住居に近接している。長さ82cm・幅56cm・深さ24cmの不正形を呈する。埋没土は2層に分かれた。ロームを含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

74号土坑(第325図、PL.128)

位置 97C-3・4グリッド

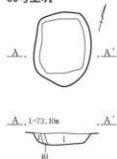
76号土坑の南西に近接している。長さ155cm・幅127cm・深さ22cmの隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は2層に分かれた。ローム粒子を含む。奈良～平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

75号土坑(第325図、PL.128)

位置 97C-2・3グリッド

95・100号住居に接している。長さ1114cm・幅94.5cm・深さ20～44cmの不正形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は3層に分かれた。古墳時代の構築か。機能・用

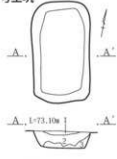
60号土坑



60号土坑

1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。

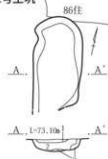
61号土坑



61号土坑

1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり悪い。ローム粒子、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。  
3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。

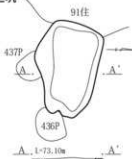
62号土坑



62号土坑

1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。  
3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。

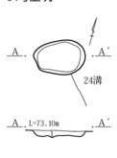
63号土坑



63号土坑

1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。サラサラしている。ローム粒子、浅黒B軽石を含む。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

64号土坑



64号土坑

1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。

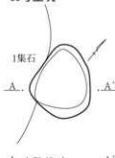
65号土坑



65号土坑

1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。

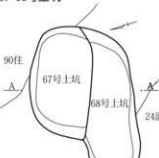
66号土坑



66号土坑

1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。  
3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、白色軽石、炭化物を含む。

67-68号土坑



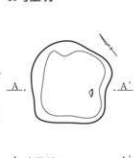
67号土坑

1 暗褐色土 やや硬くしまる。サラサラしている。白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物、白色軽石を含む。  
3 炭化物主体の層

68号土坑

1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 軟らかくしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、炭化物粒子を含む。  
3 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体の層。  
4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。  
5 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に炭化物を含む。

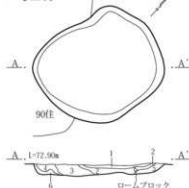
69号土坑



69号土坑

1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。  
3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体の層。  
4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。

70号土坑



70号土坑

1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。  
3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物、白色軽石を含む。暗い色調。  
4 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、炭化物、白色軽石を含む。  
5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。  
6 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームを多量に炭化物を含む。

第324図 1区60～70号土坑

0 1:60 2m

途は不明である。

76号土坑(第325図、PL.128)

位置 97C・D-3グリッド

94号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ205cm・幅137cm・深さ13～25cmの隅丸長方形を呈するものと思われる。底面は凹凸がある。埋没土は3層に分かれた。ローム粒子・炭化物粒子を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

77号土坑(第325図、PL.128)

位置 97B-1・2グリッド

99・111号住居に近接している。長径75cm・短径65cm・深さ10cmの円形を呈する。底面までの掘り込みは浅い。埋没土は2層に分かれた。ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

78号土坑(第325図)

位置 87A-20グリッド

108号住居と重複している。当土坑が新しい。長径107cm・短径103cm・深さ30cmの円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。浅間B軽石を含んでいる。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

79号土坑(第325図)

位置 97B-4グリッド

101号住居と153号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ160cm・幅80cm・深さ11.5cm長楕円形を呈する。確認面から底面までは浅い。埋没土は1層である。ローム粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。

80号土坑(第325図)

位置 97A-4グリッド

101号住居と153号住居に近接している。長径127.5cm・短径106cm・深さ13cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は1層である。奈良～平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

81号土坑(第325・336図、PL.128)

位置 96S・T-1グリッド

192号住居に近接している。長径122cm・短径117cm・深さ150cmの楕円形を呈する。確認面から底面までは円筒状に掘られ深い。埋没土は11層に分かれた。1層には浅間B混土を8層は焼土である。覆土中層からS字状口縁台付甕、高坏、壺、甕、手捏ね土器などの4世紀代の遺物が出土している。井戸になるものと思われる。4世紀

代の構築と考えて良いものであろうか。

82号土坑(第326図)

位置 97A-2グリッド

85号土坑に接している。長さ90cm・幅66cm・深さ11cmの不正形を呈する。確認面から底面までは浅い。埋没土は1層である。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

83号土坑(第326図)

位置 96S・T-1グリッド

112号住居と177号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ312cm・幅258cm・深さ20～55cmの不正形を呈する。規模が大きい。埋没土は5層に分かれた。2層は焼土、3層は灰である、比較的新しい掘り込みである。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

84号土坑(第326図、PL.128)

位置 97A-1グリッド

103号住居と重複している。当土坑が古い。長径74cm以上・短径76cm・深さ22～40cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれた。3層は焼土を多量に含んでいた。古墳時代の構築か。機能・用途は不明である。

85号土坑(第326図、PL.129)

位置 97A-2グリッド

82号土坑に接している。長さ112cm・幅79cm・深さ25cmの隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれた。ロームを含む。確認面上に礫の分布が認められた。古墳時代の構築か。173号土坑と同一機能・用途を有していたものと思われる。

86号土坑(第326図、PL.129)

位置 97J-13グリッド

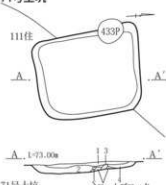
120号住居に近接している。長径94cm・短径93cm・深さ11cmのほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は1層で浅間B軽石を含む。遺物の出土はなかった。奈良～平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

87号土坑(第326図、PL.129)

位置 97I-14グリッド

120号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ120cm・幅68cm・深さ25cmの隅丸方形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は3層に分かれたが、1層はビット

71号土坑



71号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。

72号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、灰を含む。

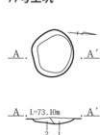
75号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。茶褐色土を主体に暗褐色土を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。暗褐色土を主体に茶褐色土を含む。
- 3 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。

76号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を多量に含む。

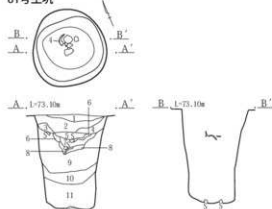
77号土坑



77号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性非断にあり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

81号土坑

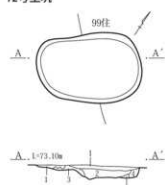


81号土坑(井戸)

- 1 暗褐色土 B混れを含む。
- 2 暗褐色土 軽石を少量含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
- 6 灰褐色土 軟らかくて粘性あり。灰、炭化物を多量に含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 8 焼土
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ロームブロックを多量に炭化物を含む。
- 10 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 11 黒褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。

0 1:60 2m

72号土坑



72号土坑

73号土坑



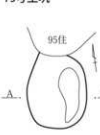
73号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。

74号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、白色軽石を少量含む。

75号土坑



75号土坑

76号土坑



76号土坑

78号土坑

- 1 暗褐色土 B混、ローム粒子、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 B混、ローム粒子、軽石を多く含む。
- 3 暗褐色土 B混、ローム粒子を微量含む。

80号土坑



80号土坑

79号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 1 黒褐色土 軽石を含む。

第325図 1区71～81号土坑

の覆土になるものと思われる。構築時期、機能・用途は不明である。

88号土坑(第326図、PL.129)

位置 97C-12グリッド

132号住居に近接している。長さ164cm・幅150cm・深さ24cmの隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は4層に分かれた。ローム粒子・焼土粒子を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

89号土坑(第326図、PL.129)

位置 97C・H-12グリッド

130号住居の覆土中に構築されている。長さ100cm・幅68cm・深さ33cmのほぼ楕円形を呈する。底面は平坦である。埋没土は3層に分かれた。1層に浅間B軽石混土を含む。平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

90号土坑(第326図、PL.129)

位置 97H-10グリッド

23号溝に接している。長径95cm・短径85cm・深さ38cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。埋没土は3層に分かれた。ローム粒子を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

91号土坑(第326図、PL.129)

位置 97H-9グリッド

117号住居に近接している。長径90cm・短径76cm・深さ24cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれた。構築時期、機能・用途は不明である。

92号土坑(第326・337図、PL.129)

位置 97F-8グリッド

141号住居に近接している。長径101cm・短径97cm・深さ11.5cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は1層である。S字状口縁台付裏の胴部片、棒状の銅製品が出土している。古墳時代前期の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

93号土坑(第326図、PL.130)

位置 97H-8グリッド

147号住居と重複している。当土坑が新しい。長径106cm・短径88cm・深さ14～22cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は2層に分かれた。ローム粒子・焼土粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。

94号土坑(第326・337図、PL.130)

位置 97C・H-8グリッド

147号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ128cm・幅63cm・深さ27～35cmの隅丸長方形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は3層に分かれた。炭化物粒子・焼土粒子を含んでいる。土師器杯の破片が出土している。土坑墓になる可能性がある。

95号土坑(第327図、PL.130)

位置 97F・G-8グリッド

23号溝と重複している。当土坑が新しい。長さ152cm・幅83cm・深さ20cmの隅丸長方形を呈する。底面は平坦である。埋没土は2層に分かれた。ローム粒子・焼土粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。

96号土坑(第327図、PL.129)

位置 97C・H-10グリッド

127号住居と重複している。当土坑が古い。長さ191cm・幅178cm・深さ16cmの方形を呈するものと思われる。底面は平坦である。埋没土は2層に分かれた。遺物の出土はなかった。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

97号土坑(第327図、PL.133)

位置 97E-5グリッド

133号住居と137号住居に近接している。長短ともに87cm・深さ17cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は2層に分かれた。遺物の出土はなかった。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

98号土坑(第327図、PL.130)

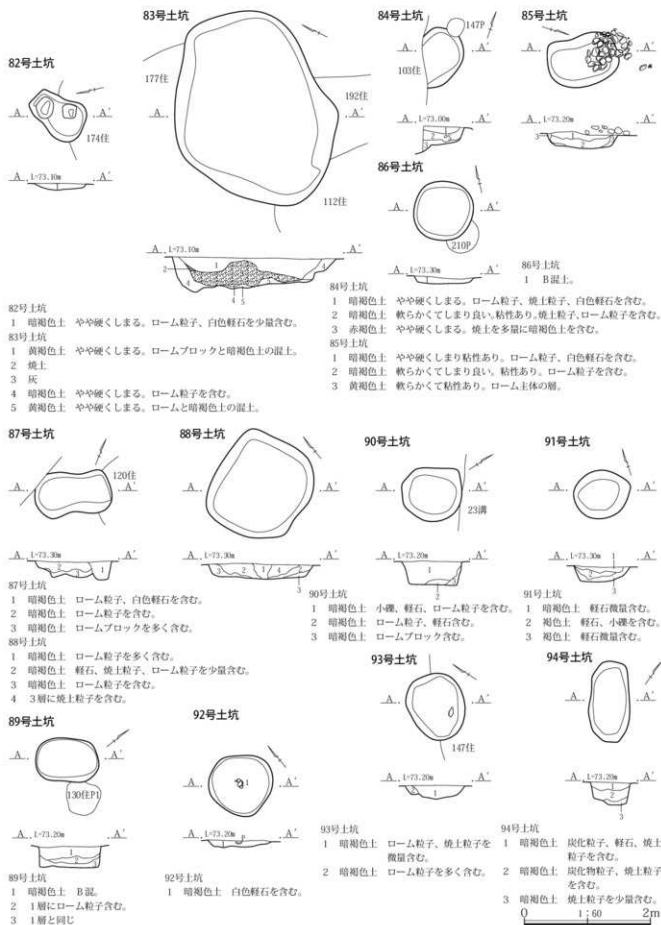
位置 97F-7グリッド

145号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ149cm・幅104cm・深さ19cmの隅丸方形を呈する。底面は平坦である。覆土は2層に分かれた。炭化物・焼土粒子を含む。礫が出土している。構築時期、機能・用途は不明である。

99号土坑(第327図、PL.130)

位置 97C-7グリッド

145・146号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ138cm・幅112cm・深さ12～18cmの方形を呈するものと思われる。底面はほぼ平坦である。埋没は2層に分かれた。焼土粒子・炭化物を含む。土師器の小片が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。



第326図 1区82～94号土坑

101号土坑(第327図、PL.130)

位置 97C-13グリッド

102号土坑に近接している。長径92cm・短径81cm・深さ10～27cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は2層に分かれた。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

102号土坑(第327・337図、PL.130)

位置 97C-13グリッド

161号住居に接している。長さ219cm・幅96cm・深さ22cmの隅丸長方形を呈する。底面は平坦である。埋没土は2層に分かれた。ローム粒子・ロームブロックを含む。S字状口縁台付甕の口縁部片が出土している。古墳時代前期の構築と思われる、土坑墓になる可能性がある。

103号土坑(第327・337図、PL.130・298)

位置 97F-10グリッド

143号住居に近接している。長径64cm・短径60cm・深さ5～12cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は1層でローム粒子を微量含む。S字状口縁台付甕、小型甕が出土している。構築時期は古墳時代前期の4世紀代と考えられる。143号住居に伴う遺構と思われる。

104号土坑(第327・337図、PL.298)

位置 97G-7・8グリッド

146号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ382cm・幅98cm・深さ20cmの長方形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は3層に分かれた。ローム粒子を含む。土師器杯の完形品1点が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

105号土坑(第327図)

位置 97E-3・4グリッド

136号住居と重複している。当土坑が新しい。長径64cm・短径62cm・深さ34cmである。埋没土は2層に分かれ、ロームを含む。遺物の出土はなかった。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

106号土坑(第327図)

位置 97E-2グリッド

92号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ100cm・幅50cm・深さ15cmの隅丸長方形を呈するものと思われる。底面はほぼ平坦である。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

107号土坑(第327・337図、PL.130)

位置 97E-5グリッド

151号住居と重複している。当土坑が新しい。長径91cm・短径79cm・深さ22cmの楕円形を呈する。底面は皿状を呈する。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。須恵器甕の口縁部片が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

108号土坑(第327図、PL.131)

位置 97D-6グリッド

151号住居と重複している。現状では長径89cm・短径72cm・深さ20cmの楕円形を呈するものと思われる。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれ、ロームを含んでいる。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

109号土坑(第328・338図、PL.131・132・298)

位置 97C-4グリッド

147号土坑と重複している。当土坑が新しい。長径138cm・短径126cm・深さ28cmのほぼ円形を呈する。底面は平坦である。埋没土は3層に分かれ、焼土粒子とローム粒子を含む。覆土中から磁石が出土している。奈良～平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

110号土坑(第328図、PL.131)

位置 97E・F-8・9グリッド

141号住居に近接している。長さ130cm・幅75cm・深さ34cmの隅丸長方形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は3層に分かれた。焼土粒子・ローム粒子を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

111号土坑(第328図)

位置 97D-8グリッド

135号土坑と重複している。長さ182cm・幅106cm・深さ14～24cmの隅丸長方形を呈する。埋没土は1層でローム粒子を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

112号土坑(第328図、PL.131)

位置 97D-10グリッド

131号土坑と重複している。当土坑が古い。長さ206cm・幅188cm・深さ47cmの隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は4層に分かれ、ロームと礫を含んでいる。1層は別遺構があった可能性がある。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。





113号土坑(第328・338図、PL.131)

位置 97D-13グリッド

160号住居に接している。長さ195cm・幅173cm・深さ7～28cmの不正形を呈する。底面は段差があることから二つの遺構があった可能性がある。埋没土の1～4層を含む土坑と5層を含む土坑である。いずれもローム粒子を含んでいる。土師器壺の口縁部片が出土している。古墳時代前期の構築と思われる、160号住居に伴う遺構になるものであろうか。

115号土坑

位置 97I-11・12グリッド

129・139号住居と重複している。長さ205cm・幅65cmである。土師器小破片が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

116号土坑(第328図)

位置 87C・D-18グリッド

96号住居と重複している。当土坑が新しい。長径79cm・短径69cm・深さ12cmの楕円形を呈する。底面は皿状を呈する。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。

117号土坑(第328図、PL.131)

位置 97D-12グリッド

118・119号土坑に近接している。長さ122cm・幅83cm・深さ24cmの隅丸方形を呈する。底面は平坦である。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子・炭化物を含む。覆土中から土器片と鏝が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

118号土坑(第328図、PL.131)

位置 97D-12グリッド

120号土坑に接している。長径81cm・短径79cm・深さ18cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

119号土坑(第328・338図、PL.131・298)

位置 97D-12・13グリッド

117・139号土坑に近接している。長径95cm・短径85cm・深さ29cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。完形の手捏ね土器が出土している。構築時期は古墳時代前期の4世紀代と考えられる。機能・用途は不明である。

120号土坑(第328・338図、PL.131)

位置 97C・D-12グリッド

168号土坑と重複している。当土坑が新しい。長さ278cm・幅152cm・深さ10cmの隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は2層に分かれ、浅間B軽石混土を含む。覆土から脚部の欠いた器台が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

121号土坑(第328図)

位置 97D-13グリッド

113号土坑に近接している。長径75cm・短径60cm・深さ7～27cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子・炭化物粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

122号土坑(第328図)

位置 97E-14グリッド

150号土坑に近接している。長径110cm・短径86cm・深さ11～17cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

123号土坑(第329図)

位置 97D-15グリッド

159号住居に近接している。長さ126cm・幅75cm・深さ19cmの隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は2層に分かれ、炭化物粒子を含む。奈良～平安時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

125号土坑(第329図)

位置 97C-14グリッド

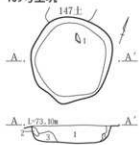
152号土坑に近接している。長さ123cm・幅99cm・深さ25cmの方形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は4層に分かれ、ロームブロックを含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

126号土坑(第329図)

位置 97D-8・9グリッド

111号土坑に近接している。長さ192cm・幅125cm・深さ12～35cmの隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層で、ローム粒子・焼土粒子を含む。ただし1層はビット覆土になる。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

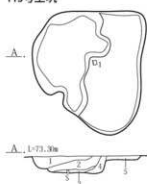
109号土坑



109号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

113号土坑



110号土坑



110号土坑

- 1 黒褐色土 焼土粒を少量、軽石を微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。

111号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。ロームブロックを多く含む。

113号土坑

- 1 暗褐色土 軽石、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軽石を含む。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱い。

116号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。

117号土坑



118号土坑



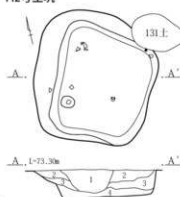
117号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 炭化物を多く含む。

118号土坑

- 1 暗褐色土 軽石、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。

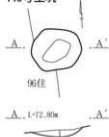
112号土坑



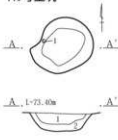
112号土坑

- 1 暗褐色土 軽石、小礫を含む。
- 2 暗褐色土 軽石を微量、ローム粒子、礫を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック、礫を含む。
- 4 2層に近いが、色調は2層より暗い。

116号土坑



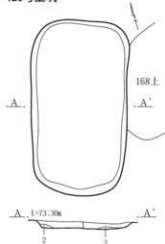
119号土坑



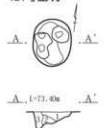
119号土坑

- 1 暗褐色土 軽石を少量、ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を含む。

120号土坑



121号土坑



122号土坑



120号土坑

- 1 B 層。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。

121号土坑

- 1 暗褐色土 しまり弱い。
- 2 暗褐色土 炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い、ロームブロックを含む。

122号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒子を微量に含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

0 1:60 2m

127号土坑(第329図、PL.132)

位置 97C・D-8グリッド

178・201号住居と重複している。当土坑が新しい。長径137cm・短径128cm・深さ23cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。構築時期、機能・用途は不明である。

128号土坑(第329・338図、PL.132)

位置 97C-8グリッド

173・178号住居と重複している。当土坑が新しい。長径161.5cm・短径128cm・深さ16～25cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。在地系土器の片口鉢の破片が出土している。中世の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

129号土坑(第329図)

位置 97E-8グリッド

28号溝と重複している。当土坑が新しい。長さ198cm・幅105cm・深さ16～42cmの隅丸長方形を呈するものと思われる。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ロームブロックを含む。構築時期、機能・用途は不明である。

130号土坑(第329図)

位置 97D-9グリッド

196号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ190cm・幅100cm・深さ8cmの隅丸長方形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は3層に分かれたが、1・2層はビットの覆土になる。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

131号土坑(第329図、PL.131)

位置 97D-10グリッド

112号土坑と重複している。当土坑が新しい。長径82cm・短径58cm・深さ8～26cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

132号土坑(第329図)

位置 97C-9グリッド

196号住居と重複している。当土坑が新しい。長径80cm・短径72cm・深さ18～30cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は4層に分かれ、焼土粒子・ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

133号土坑(第329図)

位置 97E-8グリッド

129号土坑の西に近接している。長さ120cm・幅72cm・深さ8～15cmの隅丸長方形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、浅間B軽石混土を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

134号土坑(第329図)

位置 97E-8グリッド

129号土坑の北東に近接している。長径90cm・短径80cm・深さ9～27cmの楕円形を呈する。底面に段差がある。埋没土は3層に分かれ、浅間B軽石混土を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

135号土坑(第329図)

位置 97D-8グリッド

111号土坑と重複している。当土坑が新しい。長径48cm・短径46cm・深さ36cmの楕円形を呈する。埋没土は2層に分かれ、ロームブロックを含む。構築時期、機能・用途は不明であるが、柱穴になる可能性がある。

136号土坑(第329図)

位置 97D-10グリッド

196号住居と重複している。当土坑が新しい。長径68cm・短径55cm・深さ18cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は1層で、ローム粒子・炭化物粒子を含む。覆土中から土器片が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

137号土坑(第329図)

位置 97B-9グリッド

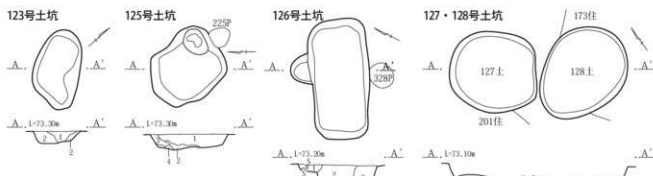
179号住居と重複している。当土坑が新しい。長径58cm・短径54cm・深さ19～29cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれた。ローム粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。土坑というよりはビットになる。

138号土坑(第329図)

位置 97B-9グリッド

179号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ196cm・幅105cm・深さ33cmの隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれた。ローム粒子を含む。礫が出土している。構築時期、機能・用途は不明である。

139号土坑(第330図、PL.131)



123号土坑

- 1 暗褐色土 軽石、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軽石を少量含む。

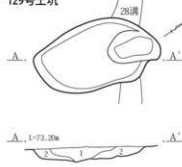
125号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量、軽石、小礫を含む。
- 2 褐色土 ロームブロックを多量、軽石を微量含む。
- 3 黒褐色土 軽石を微量含む。
- 4 褐色土 ロームブロックを多く含む。

126号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック、小礫を多く含む。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、軽石を多く含む。焼土粒子を含む。

129号土坑



129号土坑

- 1 暗褐色土 小礫多量、軽石少量、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。

130号土坑



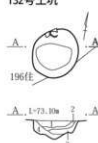
131号土坑



130号土坑

- 1 暗褐色土 B混、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 B混。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を含む。ロームブロックを多く含む。

132号土坑



133号土坑



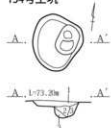
132号土坑

- 1 暗褐色土 軽石、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 粘性強い。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 粘性強い。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを既状に含む。

133号土坑

- 1 暗褐色土 B混、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

134号土坑



134号土坑

- 1 暗褐色土 B混土、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3 褐色土 ロームブロックを多く含む。

135号土坑



135号土坑

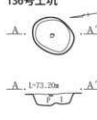
- 1 暗褐色土 軽石、ローム粒子、小礫を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

※柱穴の可能性あり。

136号土坑

- 1 暗褐色土 軽石、ローム粒子を含む。炭化物粒子を微量含む。

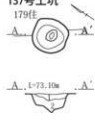
136号土坑



137号土坑

- 1 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。

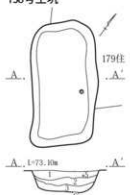
137号土坑



138号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒子を含む。

138号土坑



第329図 1区123・125～138号土坑

0 1:60 2m

位置 97D-13グリッド

119号土坑の西に近接している。長径72cm・短径53cm・深さ42cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれ、ロームブロックを含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

140号土坑(第330図)

位置 97F-14・15グリッド

157号土坑と接している。長さ170cm・幅100cm・深さ23cmの隅丸長方形を呈するものと思われる。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

142号土坑(第330図、PL.132)

位置 97B-5グリッド

171号住居に接している。長径88cm・短径84cm・深さ13cmのほぼ円形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

143号土坑(第330・338図)

位置 97A・B-3グリッド

101・152号住居に接している。長さ230cm・幅61cm・深さ88cmの隅丸長方形を呈する。確認面から底面までは深い。埋没土は4層に分かれ、ロームを含む。S字状口縁台付甕の台部が出土している。4世紀代の152号住居に伴う遺構になるのであろうか。機能・用途は不明である。

144号土坑(第330図、PL.132)

位置 97B-6グリッド

149号土坑と重複している。長径96cm・短径87cm・深さ29cmの不整形を呈する。埋没土は2層に分かれ、ロームを含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

145号土坑(第330図)

位置 97B-3・4グリッド

153号住居と接している。長さ103cm・幅84cm・深さ25cmの隅丸方形を呈する。埋没土は3層に分かれ、ロームを含む。遺物の出土はなかった。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

146号土坑(第330図、PL.132)

位置 97C-4グリッド

147号土坑と重複している。長径88cm・短径80cm・深さ10～22cmの隅丸方形を呈する。底面は凹凸がある。埋

没土は2層に分かれ、ロームを含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

147号土坑(第330図、PL.132)

位置 97C-4グリッド

109号・146号土坑と重複している。長径83cm・短径63cm・深さ33cmの楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

148号土坑(第330図)

位置 97D-5グリッド

191号住居と重複している。当土坑が新しい。長径79cm・短径77cm・深さ36cmのほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は4層に分かれ、炭化物粒子・ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

149号土坑(第330図、PL.132)

位置 97B-6グリッド

144号土坑と重複している。長径68cm・短径53cm・深さ27cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。

150号土坑(第330図)

位置 97E-14グリッド

5号井戸に接している。長径68cm・短径37cm・深さ42cmの楕円形を呈する。確認面から底面までやや深い。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

151号土坑(第330図)

位置 97E・F-14グリッド

162号土坑の北西に位置している。長径88cm・短径44cm・深さ19～40cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子・焼土粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

152号土坑(第330図)

位置 97G-14グリッド

27号溝と重複している。当土坑が新しい。長さ209cm・幅118cm・深さ8～28cmの隅丸長方形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は5層に分かれ、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。



第330図 1区139・140・142～152号土坑

153号土坑(第331図)

位置 97E-13グリッド

162号土坑の東に近接している。長径75cm・短径47cm・深さ32cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれ、ロームを含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

154号土坑(第331図)

位置 97E・F-13グリッド

153号土坑の北に位置している。長さ60cm・幅46cm・深さ20～33cmの不正形を呈する。埋没土は2層に分かれ、ロームを含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

155号土坑(第331図)

位置 97F-14グリッド

156号土坑の東約1mの所に位置している。長さ69cm・幅40cm・深さ23～30cmの不正形を呈する。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。ピット2基が連結したものであろう。

156号土坑(第331図)

位置 97F-15グリッド

157号土坑の南約50cmの所に位置している。長径88cm・短径55cm・深さ10～20cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

157号土坑(第331図)

位置 97F-15グリッド

140号土坑と接している。長径65cm・短径45cm・深さ18～25cmの不正形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。遺物は出土していない。構築時期、機能・用途は不明である。

158号土坑(第331図)

位置 97G-15グリッド

140号土坑の北約30cmの所に位置している。長径58cm・短径50cm・深さ35cmのほぼ円形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。

159号土坑(第331図)

位置 97G-14・15グリッド

152号土坑の西約70cmの所に位置している。長径68cm・短径40cm・深さ55cmの楕円形を呈する。確認面から底面

までは深い。埋没土は3層に分かれ、ロームブロックを含んでいる。構築時期、機能・用途は不明である。ピットとして考えた方がよいであろう。

160号土坑(第331図)

位置 97F-14グリッド

155号土坑の北東約1mの所に位置している。長径77cm・短径70cm・深さ11～33cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ロームを含む。構築時期、機能・用途は不明である。

161号土坑(第331図)

位置 97F-14グリッド

160号土坑の北東約80cmの所に位置している。長径70cm・短径59cm・深さ20～31cmの楕円形を呈する。埋没土は6層に分かれ、ローム粒子を含む。構築時期、機能・用途は不明である。ピットと考えて良い。

162号土坑(第331図)

位置 97E-13グリッド

153号土坑の西約50cmの所に位置している。長さ100cm・幅66cm・深さ17cmの不正形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は1層で、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

163号土坑(第331図)

位置 97E-15グリッド

156号土坑の南西約2mの所に位置している。長径58cm・短径40cm・深さ30cmの楕円形を呈するものと思われる。埋没土は3層に分かれている。構築時期、機能・用途は不明である。

164号土坑(第331図、PL.132)

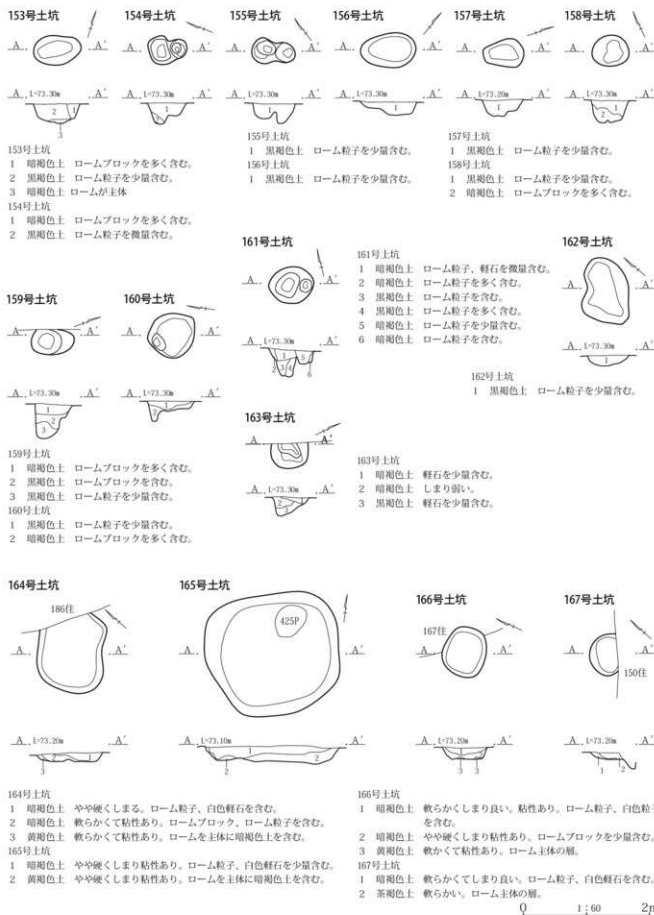
位置 97A・B-5・6グリッド

186号住居と重複している。長さ130cm・幅103cm・深さ14cmの隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は3層に分かれ、ロームを含む。構築時期、機能・用途は不明である。

165号土坑(第331図、PL.132)

位置 97A-6・7グリッド

164号土坑の南西約4mの所に位置している。長さ213cm・幅194cm・深さ17～27cmの隅丸方形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。



第331図 1区153～167号土坑



166号土坑(第331図)

位置 97C-12グリッド

167号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ78cm・幅69cm・深さ19cmの方形を呈する。底面は平坦である。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子を含む。遺物の出土はなかった。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

167号土坑(第331図)

位置 97D-5グリッド

150号住居と重複している。長さ65cm・短径45cm・深さ11cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。S字状口縁台付甕の破片が出土している。150号住居らに伴う遺構であろうか。機能・用途は不明である。

168号土坑(第332図)

位置 97C・D-12グリッド

120号土坑、167号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ200cm・短径140cm・深さ23cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。埋没土は2層に分かれ、ロームブロックを含む。構築時期、機能・用途は不明である。

171号土坑(第332図、PL.132)

位置 97A-6グリッド

31号溝と接している。長さ74cm・短径65cm・深さ14cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は2層に分かれ、ローム粒子を含む。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

172号土坑(第332図、PL.133)

位置 97E-5グリッド

107号土坑の北東に接して位置している。長さ94cm・短径93cm・深さ30cmの円形を呈する。底面はやや凹凸がある。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子を含む。土器片が出土している。古墳時代の構築と思われるが、機能・用途は不明である。

173号土坑(第332図)

位置 97E-3グリッド

136号住居と重複している。当土坑が新しい。長さ113cm・短径77cm・深さ38cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれ、ローム粒子を含む。土坑上面に多量の礫が出土している。古墳時代の構築と思われる。85号土坑と同一の規模と礫の出土を考えると機能・用途は同じ

ものと考えられる。墓坑になるのだろうか。

174号土坑(第332図)

位置 97C-3グリッド

74号土坑の東約50cmの所に位置している。長さ90cm・短径50cm・深さ25cmの楕円形を呈する。円筒状に掘り下げられている。埋没土は1層で、ロームを含む。遺物の出土はなかった。構築時期、機能・用途は不明である。

(3) 井戸

1区からは1～5号井戸、さらに調査時に1号集石とした遺構が井戸になったこと、81号土坑が井戸になったことから、総計7基の井戸が検出されている。

1号井戸(第333・338図、PL.133)

位置 87B-13グリッド

40・41号住居と重複し、壊している。長さ235cm・短径178cm・深さ220cmで楕円形を呈する。掘り方は地山井筒円筒型である。埋没土は3層までを確認できた。2・3層は浅間B軽石を多量に含んでいる。覆土中からは土師器の杯、須恵器、羽釜、在地系の土器片と礫が出土している。平安時代以降の構築と思われる。

2号井戸(第333・339・340図、PL.133・299)

位置 86Q・R-14グリッド

47・48号住居と重複し、壊している。長さ352cm・短径293cm・深さ475cmで楕円形を呈する。掘り方は地山井筒朝顔型と思われる。埋没土は6層まで確認でき、ロームを含んでいる。覆土からは土師器や須恵器、瓦片、在地系の片口鉢の破片、棒材・板材・又材・柱材、曲物側板・曲物底板、上層からは礫が多量に出土している。平安時代以降の構築と思われる。

3号井戸(第333・341図、PL.)

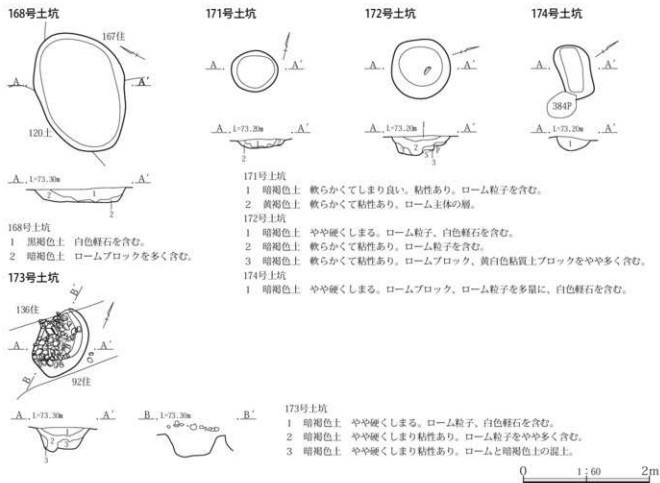
位置 86S-18グリッド

45号土坑、17号溝と重複し、壊している。長さ113cm・短径100cm・深さ210cmで楕円形を呈する。掘り方は井筒円筒型である。埋没土は3層までを確認でき、全体的に砂質である。礫と土器片が出土している。奈良～平安時代の構築と思われる。

4号井戸(第333・341図、PL.133)

位置 86R-18グリッド

68・72号住居、21号溝に接している。長さ240cm・短径223cm・深さ380cmで楕円形を呈する。掘り方は地山井筒



第332図 1区168・171～174号土坑

朝顔型と思われる。埋没土は9層までを確認でき、ローム粒子を含んでいる。覆土からは在地系の内耳鍋・片口鉢の破片が出土している。また上層から礫が出土している。中世14～15世紀の構築と思われる。

#### 5号井戸(第333・341図、PL.133)

位置 97D・E-14グリッド

150号土坑と接している。長径203cm・短径171cm・深さ135cm以上で楕円形を呈する。断面は中層からほぼ円筒状である。石囲いの井戸で多量の裏込めの礫が出土している。遺物の出土はなかった。構築時期は不明である。

#### 1号集石(井戸)(第334・341図、PL.133・300)

位置 97E・F-2・3グリッド

66号土坑と重複し、一部壊されている。長径330cm・短径250cm・深さ205cmの楕円形を呈する。断面は底面から上層に向かってラッパ状に開いている。埋没土は4層まで確認できた。1・2層に浅間B軽石を含んでいる。在地系片口鉢の破片、敲石、最上層からは多量の礫が出土

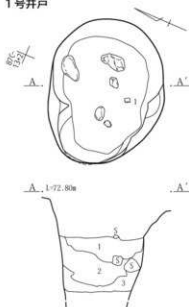
している。調査時、遺構名称を集石としたのはこれら多量の礫出土によるものである。平安時代の構築と思われる。

#### 土坑と井戸について

古墳時代前期4世紀代に属すると思われる土坑は、15・42・81・92・102・103・113・119・143・167号土坑の計10基である。しかし、この中で6基の土坑が住居に付属する可能性がでてきた。

15号土坑は同時期の19号住居に近接して存在することから同住居の付属施設に、42号土坑は52号住居の貯蔵穴になるものと思われる。103号土坑は同時期の143号住居に、113号土坑は同時期の160号住居に近接していることから、各住居の付属施設になる可能性がある。143号土坑も同時期の152号住居に近接、167号土坑も同時期の150号住居に接することから、各住居の付属施設の可能性が考えられる。

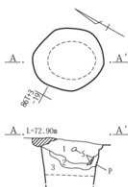
1号井戸



1号井戸

- 1 暗褐色土 ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、浅間B軽石を多量を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、浅間B軽石を含む。

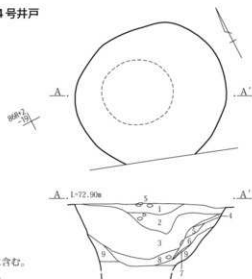
3号井戸



3号井戸

- 1 暗褐色土 砂質。しまり弱い。
- 2 暗褐色土 ロームを含む。
- 3 黒褐色土 砂質。しまり弱い。

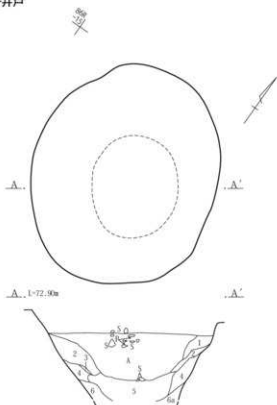
4号井戸



4号井戸

- 1 暗褐色砂質土 ローム粒子を含む。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。3層よりやや明るい。
- 6 黄褐色土 4層に相似。4層よりやや暗い。
- 7 黒褐色土 ローム粒子を含む。
- 8 暗褐色粘質土 礫を含む。
- 9 黄褐色土 ローム主体。

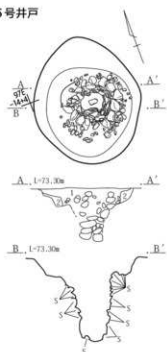
2号井戸



2号井戸

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2 褐色土 軟質ローム土に相似。
- 3 黒色土 ローム粒子を含む。
- 4 褐色土 ローム崩落土。
- 5 暗褐色土 小礫を多量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。6 a層はローム主体。

5号井戸

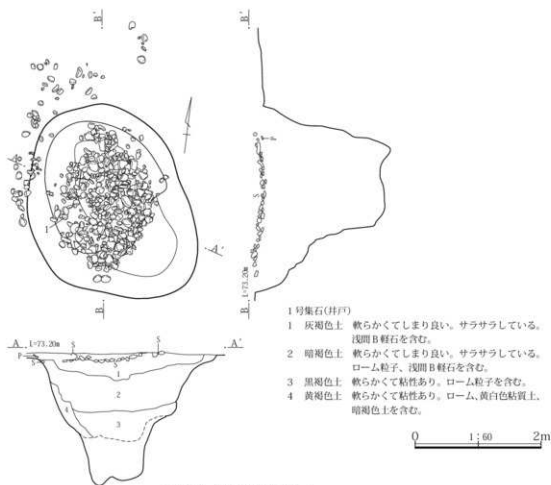


5号井戸

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。壁に沿って石を並べている。内部に石を詰めている。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を含む。

0 1:60 2m

第333図 1区1～5号井戸



第334図 1区1号集石(井戸)

この結果、単独の土坑となるのは次のとおりである。81号土坑は井戸に、102号土坑はその形態から土坑墓の可能性が考えられる。その他、92・119号土坑が存在する。

なお、65・66号土坑からもS字状口縁台付裏の破片が出土しているが、同時期の遺構になるものか判断としない。

次に古墳時代前期以降に属すると思われる土坑は、18・26・37・50・55・57・69・70・75・76・84・85・88・90・92・96・97・99・101・104・105・107・108・110・111・120・125・126・130・132・134・136・139・140・145・165・166・171～173号土坑の計40基である。

長方形を主体とする形態(一部円形も存在)や埋土の状況から土坑墓の可能性が考えられるのは、50・84・85・99・104・111・117・126号土坑の計8基である。人為的埋め戻しが認められたり(50号)、焼土粒子や炭化物が含まれていたりしている。

奈良～平安時代に属すると思われる土坑は、7・14・19・20・25・27・28・30・34～37・40・45・46・51・

52・60～63・66・74・80・86・89・109・123号土坑の計28基である。

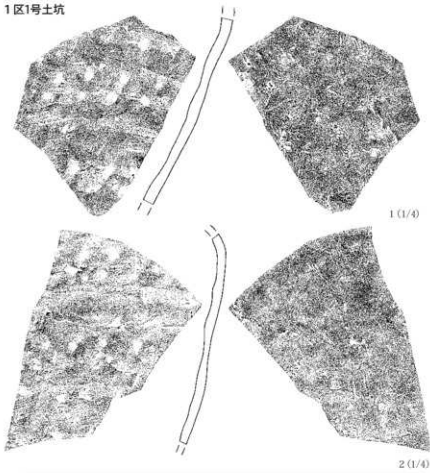
古墳時代の土坑と同様に、長方形を主体とする形態や埋土の状況から土坑墓の可能性が考えられるのは、19・20・27・28・30・35・45・46・51・61・62・67土坑の計12基である。人為的埋め戻しが認められたり(35・45号)、焼土粒子や炭化物が含まれていたりしている。34号土坑も人為的埋土であったが、土坑墓になるものかどうかは判断としない。

中世に属すると思われるのは、1・128号土坑の2基である。

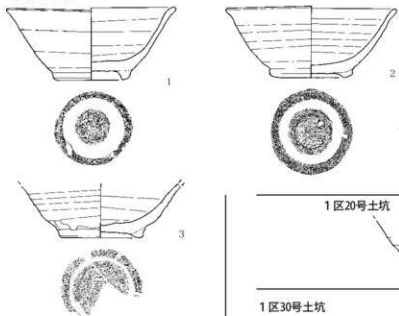
井戸については次のとおりである。

81号土坑が古墳時代前期に属すると思われる。それ以外の井戸は平安時代から中世にかけて構築されたものであろう。2号井戸にはハネツルベがあったものと思われる、内部からは曲物が出土し、5号井戸は石組みの井戸、1号集石の上面からは多量の礫が出土している。

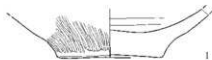
1区1号土坑



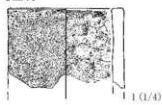
1区19号土坑



1区26号土坑



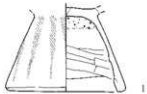
1区4号土坑



1区7号土坑



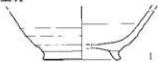
1区15号土坑



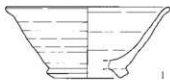
1区18号土坑



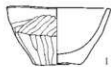
1区20号土坑



1区30号土坑



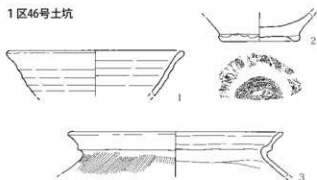
1区42号土坑



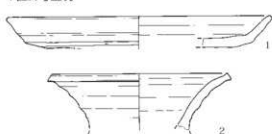
0 1:3 10cm 0 1:4 8cm

第335図 1区1・4・7・15・18～20・26・30・42号土坑出土遺物

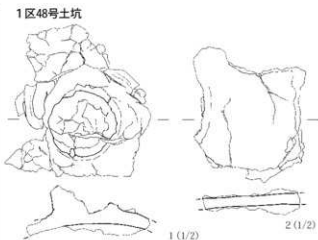
1区46号土坑



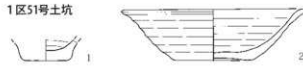
1区50号土坑



1区48号土坑



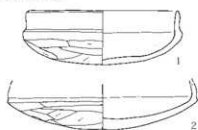
1区51号土坑



1区69号土坑



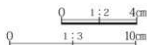
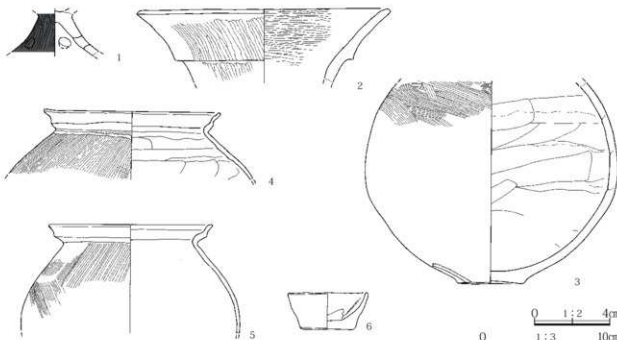
1区70号土坑



1区72号土坑

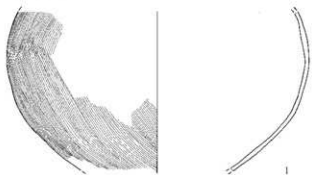


1区81号土坑



第336図 1区46・48・50・51・69・70・72・81号土坑出土遺物

1区92号土坑



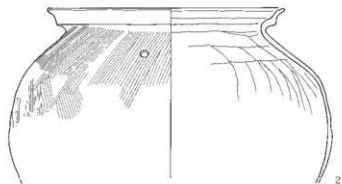
1区94号土坑



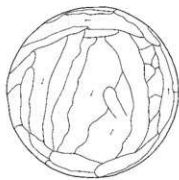
1区102号土坑



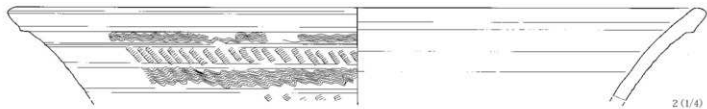
1区103号土坑



1区104号土坑



1区107号土坑



0 1:2 4cm

0 1:4 8cm

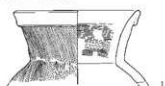
0 1:3 10cm

第337図 1区92・94・102～104・107号土坑出土遺物

1区109号土坑



1区113号土坑



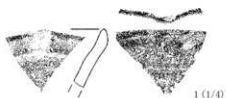
1区119号土坑



1区120号土坑



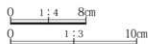
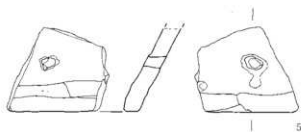
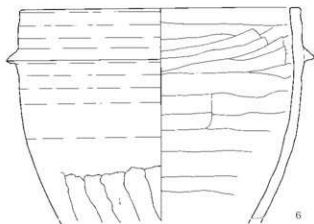
128号土坑



1区143号土坑



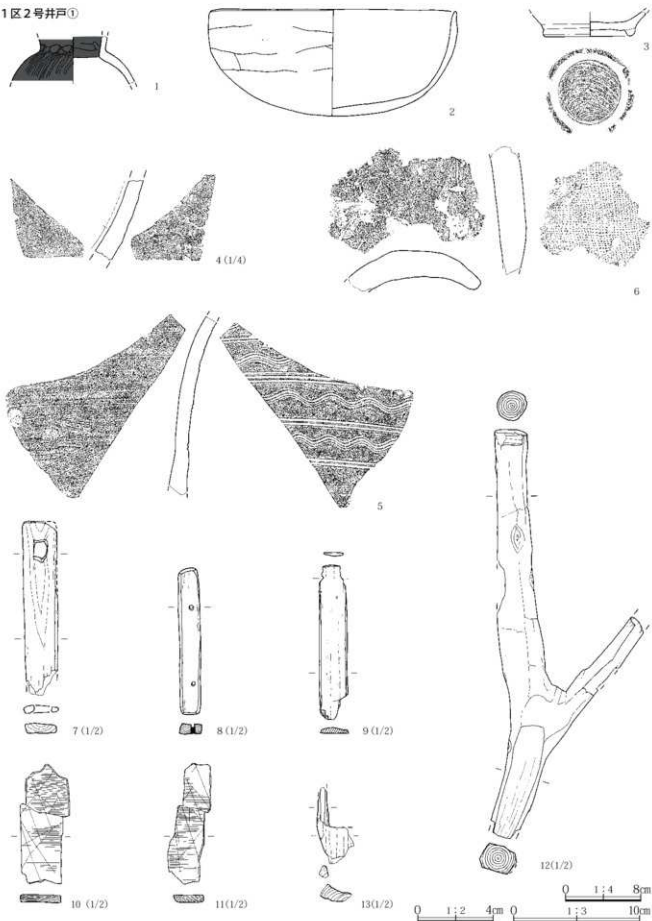
1区1号井戸



第338図 1区109・113・119・120・128・143号土坑、1号井戸出土遺物

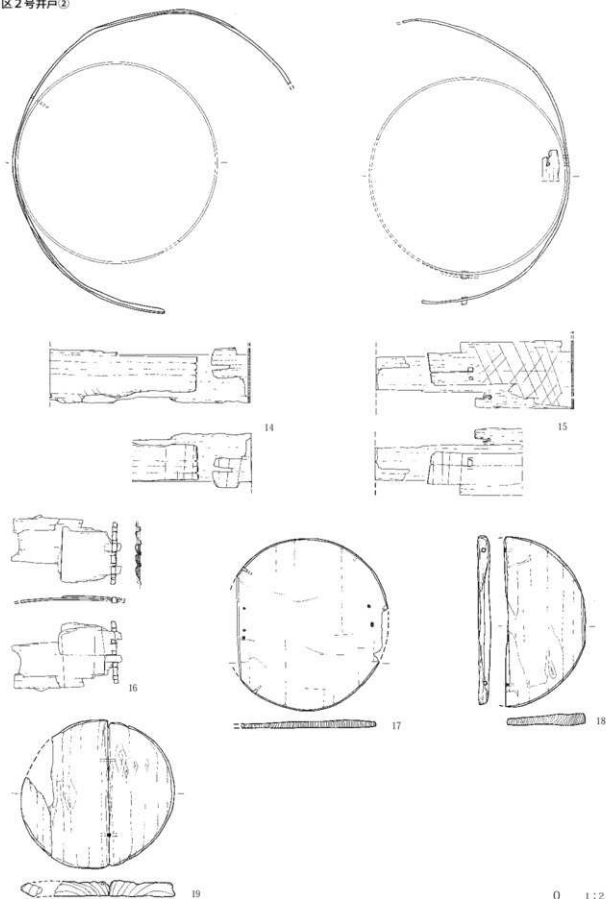


1区2号井戸①



第339図 1区2号井戸出土遺物

1区2号井戸②

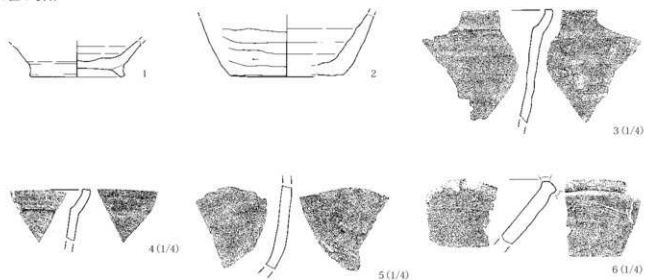


第340図 1区2号井戸出土遺物

1区3号井戸



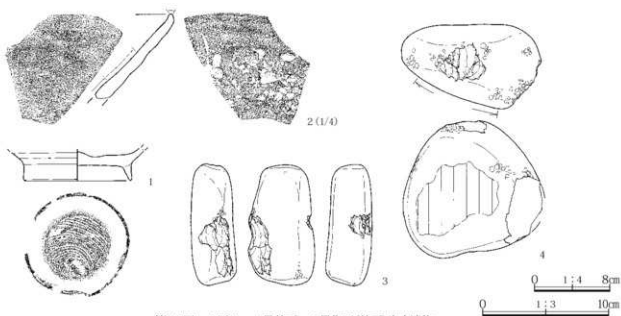
1区4号井戸



1区5号井戸

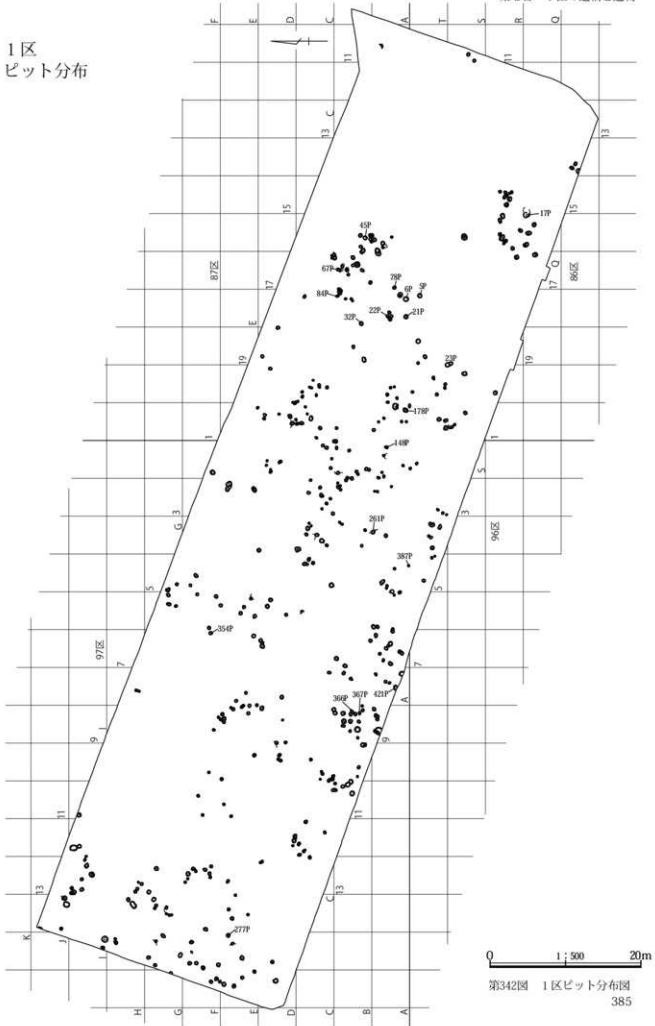


1区1号集石(井戸)



第341図 1区3～5号井戸、1号集石(井戸)出土遺物

1区  
ピット分布



0 1:500 20m

第342図 1区ピット分布図

(4) ビット

1区からは総計437基のビットが検出されている。その分布状況からは、掘立柱建物跡として把握できるものはなかった。

この中で覆土から完形土器や土器の破片がまとまって出土したビットは12基を数える。これら以外にも土器小片が出土したビットもあるが、前記のビットを中心に以下に記載し、他の大多数のビットについては一覧表にまとめる。

5号ビット(第343・363図)

位置 86T-17グリッド

長径55cm・短径52cm・深さ24cmのほぼ円形を呈する。断面は皿状を呈する。土師器甕の口縁部が出土している。

6号ビット(第343・363図、PL.134・300)

位置 87A-17グリッド

長径65cm・短径60cm・深さ29cmのほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦である。壁際から完形の須恵器甕が出土している。

17号ビット(第343・363図、PL.134・300)

位置 86Q-14・15グリッド。23号土坑と重複している。長径79cm・短径69cm・深さ108cmの楕円形を呈するものと思われる。断面はほぼ円筒状を呈し深い。23号土坑との新旧関係は不明である。ほぼ完形の土師器鉢が出土している。

21号ビット(第343・363図、PL.134・300)

位置 87A-17グリッド

長径53cm・短径51cm・深さ31cmのほぼ円形を呈する。底面は段差がある。底面直上から土師器高杯の杯部、小型の鉢が出土している。

22号ビット(第343・363図)

位置 87A-17グリッド。19号ビットに接している。

長径42cm・短径32cm・深さ51cmの楕円形を呈する。須恵器の甕口縁片が出土している。

23号ビット(第343・363図)

位置 86S・T-18・19グリッド。

長径58cm・短径53cm・深さ40cmのほぼ円形を呈する。断面は円筒状である。須恵器の盤が出土している。

32号ビット(第343・363図、PL.134)

位置 87B-17グリッド

長径52cm・短径45cm・深さ24cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。1層下面に甕の胴部破片、直上から須恵器の杯、そしてその上位から須恵器胴部破片が出土している。

45号ビット(第344・363図)

位置 87B-15グリッド。

長径52cm・短径45cm・深さ17cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。土師器の甕が出土している。

67号ビット(第344・363図、PL.134・300)

位置 87B-16グリッド

長径54cm・短径30cm・深さ19cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。覆土から土師器の杯が出土している。

78号ビット(第344・364図、PL.134)

位置 87A-16・17グリッド

長径45cm・短径37cm・深さ70cmの楕円形を呈する。断面は円筒状で、やや深い。甕と須恵器の甕が出土している。

84号ビット(第344・364図)

位置 87B-17グリッド。

長径36cm・短径25cm・深さ34cmの楕円形を呈する。須恵器の蓋が出土している。

148号ビット(第348・364図、PL.135)

位置 97A-1グリッド

長径43cm・短径32cm・深さ13cmの楕円形を呈する。中世と思われる在地系土器の皿が出土している。

178号ビット(第350・364図)

位置 87A-20グリッド。104号住居と重複している。

長径68cm・短径53cm・深さ27cmの方形を呈する。底面は皿状を呈する。覆土は3層に分かれた。土師器の器台が出土している。

261号ビット(第354・364図、PL.300)

位置 97A-3グリッド。143号土坑と重複している。

長径(58)cm・短径45cm・深さ30cmの楕円形を呈するものと思われる。覆土は3層に分かれた。土師器の甕とミニチュア土器が出土している。

277号ビット(第355・364図、PL.136・300)

位置 97E-14グリッド

長径49cm・短径45cm・深さ26cmの楕円形を呈する。敲石が出土している。

1区ビット計測表

ビット番号	グリッド	長径	短径	深さ
1	86P-13・14	67	(41)	39
2	86P-13	56	37	27
3	86P-13	50	29	39
4	87A-17	65	57	39
5	86T-17	55	52	24
6	87A-17	65	60	29
7	86S-10	46	38	13
8	86S-10	39	37	12
9	86T-18	56	56	15
10	87B-18	65	45	37
11	86T-18	52	42	16
12	86T-18・19	33	32	15
13	86R-15	55	39	39
14	86Q-15	72	49	39
15	86Q・R-15	70	50	34
16	86Q-16	65	55	30
17	86Q-14・15	79	69	108
18	87A-17	38	34	30
19	87A-17	50	40	23
20	87A-17	42	38	51
21	87A-17	53	51	31
22	87A-17	42	32	51
23	86S・T-18・19	58	53	40
24	87A-15	47	35	32
25	86R-16	53	51	37
26	86R-15	47	40	24
27	86R-15	22	21	37
28	86R-15	62	26	38
29	86R-15	84	38	49
30	86R-15	32	(29)	36
31	86R-15	38	28	41
32	87B-17	52	45	24
33	86R-14	35	35	21
34	86R-14	43	32	23
35	86R-14	26	24	21
36	86R-14	37	29	41
37	86R-14	30	23	24
38	86R-14	48	38	37
39	86R-14	60	54	27
40	86R-14	58	48	37
41	86R-15	67	43	32
42	86R-15	65	47	39
43	87A-10	(22)	(14)	24
44	87A-10	(33)	(22)	31
45	87B-15	52	45	17
46	87A・B-15	53	45	45
47	87A-15	47	44	30
48	87B-16	42	(24)	36
49	87B-15・16	55	30	41
50	87B-16	(38)	(37)	39
51	87A・B-16	42	37	29
52	87A-15	29	26	39
53	86Q-15	56	49	25
54	87B-18	45	34	24
55	86S-15	71	69	57
56				
57	87A-15	50	49	15
58	87A-16	104	72	48
59	87A-15・16	104	61	67
60	87B-16	34	32	33
61	87B-16	48	38	46
62	87B-16	51	33	44
63	87B-16	54	43	36
64	87B-15	40	38	33
65	87A・B-15	36	35	25
66	87B-16	68	58	64
67	87B-16	54	30	19
68	87B-15	40	34	14

ビット番号	グリッド	長径	短径	深さ
69	87B-15	46	44	25
70	87B-17	23	23	22
71	87B-17	33	27	27
72	87B-17	32	24	39
73	87B-17	(36)	26	31
74	87B-17	35	(8)	46
75	87B-17	48	35	51
76	87B-16	46	32	36
77	87B-16	38	28	29
78	87A-16・17	45	37	70
79	87B・C-16	45	(40)	70
80	87B・C-16	49	(47)	25
81	87C-16	40	29	52
82	87C-16	(24)	(24)	47
83	87B-16・17	34	23	18
84	87B-17	36	25	34
85	87B-17	33	23	27
86	86R-19	52	47	57
87	86T-19	48	36	37
88	86T-19	41	37	39
89	86T-19	37	29	32
90	86T-19	37	32	29
91	86S-20	40	28	33
92	86S-19	63	47	56
93	87C-17	45	30	17
94	87C-19	25	20	15
95	87C-19	30	26	24
96	87C-19	38	32	25
97	87C-19	18	17	15
98	87C-19	33	23	21
99	87C-19	32	30	32
100	87C-19	22	30	21
101	87D-19	41	35	20
102	87D-20	25	23	14
103	87D-20	31	25	36
104	87D-20	30	25	14
105	87C-20	38	26	24
106	87C-20	27	26	28
107	87C-20	25	21	21
108・109	87C-20	65	43	20
110	87C-20	50	32	23
111	87D-20	33	25	23
112	87D-20	29	25	8
113	87C-20	52	40	19
114	87D-20	35	31	17
115	87D-20	39	34	20
116	87C-20	37	26	30
117	87C-20	45	38	33
118	97C-1	47	37	25
119	97B-20	33	32	16
120	97E-2	130	73	43
121	97F-1	60	53	42
122	97C-3	23	22	27
123	97C-3	26	23	11
124	97C-2	30	30	23
125	97C-2	40	33	23
126	97C-2	44	34	8
127	97C-2	53	44	6
128	97B-2	34	32	21
129	97B-2	46	40	27
130	97B-2	24	22	16
131	97B-2	25	22	11
132	97C-2	41	39	29
133	97B-2	38	35	27
134	97B-2	41	36	32
135	97B-1	34	29	24
136	97B-1	36	35	38
137	97B-3	31	23	26

第4章 発掘調査の記録

ビット番号	グリッド	長径	短径	深さ
138	97B-3	33	23	31
139	87A-20	39	35	25
140	87A-20	27	25	23
141	87A-20	32	25	22
142	87A-19	38	33	13
143	96T-1	36	28	10
144	96T-1	32	29	23
145	97A-1	31	26	14
146	97B-1	40	37	26
147	97A-1	31	27	35
148	97A-1	43	32	13
149	87A-20	32	24	21
150	87A-20	27	25	20
151	97B-1	35	30	26
152	97B-1	35	34	23
153	97A-1	43	28	25
154	97A-1	28	25	12
155	97A-2	29	26	15
156	97A-2	30	25	29
157	97A-2	26	22	17
158	87A-19	32	30	10
159	87A-19	24	23	15
160	86T-19	35	30	19
161	86T-20	50	45	78
162	86T-20	53	50	40
163	97B-3	34	30	16
164	87C-19	36	25	16
165	87C-19	39	35	22
166				
167	97B-1	42	30	27
168	97B-1	63	47	23
169	97C-1	28	27	27
170	97B-3	35	30	16
171	96T-2	24	20	13
172	96T-2	30	27	53
173	96T-2	27	22	33
174	96T-2	25	21	10
175	97A-1	39	27	16
176	97C-1	37	32	14
177	97B-2	38	33	26
178	87A-20	68	53	27
179				
180	97C-2	29	24	20
181	97C-2	35	32	30
182	97C-2	34	30	31
183	97J-13	38	38	27
184	97J-13	54	(15)	23
185	97J-13	76	69	16
186	97J-12	40	36	18
187	97J-12	83	60	58
188	97I-10	51	50	30
189	97B-13	49	42	36
190	97B-13	97	55	20
191	97B-12	22	21	20
192	97B-12	34	32	29
193	97C-12	54	49	43
194	97B-14	50	39	33
195	97B-14	30	27	8
196	97I-14	78	76	30
197	97I-14	49	47	31
198	97I-11	90	68	26
199	97I-11	50	48	22
200	97C-1	36	34	32
201	97J-12	49	40	44
202	87A-20	35	26	14
203	97D-1	41	29	58
204	97D-1	23	18	20
205	97D-1	25	25	15
206	97D-1	26	20	20

ビット番号	グリッド	長径	短径	深さ
207	97F-4	58	38	43
208	97F-4	32	32	7
209	97C-4	58	52	18
210	97J-13	63	54	45
211	97E-5	37	34	33
212	97I-12	29	24	24
213	97I-12	37	28	14
214	97I-12	64	50	18
215	97I-12	69	60	33
216	97I-12	40	35	39
217	97B-12	37	37	26
218	97B-12	35	35	26
219	97C-12	48	43	23
220	97C-13	54	43	13
221	97C-13	37	34	21
222	97C-13	30	30	18
223	97C-13	29	25	29
224	97C-13	25	24	9
225	97C-14	32	30	13
226	97F-12	30	28	54
227	97F-12	28	25	19
228	97F-12	53	49	28
229	97F-12	36	27	16
230	97F-12	48	37	25
231	97F-12	51	37	18
232	97F-12	36	34	17
233	97F-12	37	28	21
234	97F-12	44	39	27
235	97B-7	30	24	27
236	97B-7	32	30	12
237	97F-9	30	29	20
238	97C-4	60	59	32
239	97F-8	35	29	25
240	87D-18	46	39	11
241	87D-18	40	38	42
242	87A-20	49	28	23
243	87D-20	80	66	25
244	87D-20	27	22	10
245	87A-19	35	26	40
246	96T-3	44	34	25
247	96T-3	62	37	10
248	96T-3	77	49	35
249	96T-3	47	45	43
250	86S-20	44	38	26
251	96T-4	33	29	30
252	96T-4	22	20	15
253	97F-8	32	28	14
254	97F-8	35	29	12
255	97F-8	43	35	12
256	97E-8	41	37	18
257	97E-8	43	39	19
258	97C-3	75	63	40
259	97C-3	54	49	20
260	86T-20	54	38	44
261	97A-3	(58)	45	30
262	97B-6	52	47	31
263	97E-14	62	49	28
264	97E-14	45	(29)	20
265	97F-14	48	47	32
266	97B-7	45	35	43
267	97B-10	60	55	12
268	97B-10	62	56	23
269	97C-11	38	29	14
270	97D-15	62	54	19
271	97D-14	43	42	65
272	97E-15	41	37	23
273	97B-10	49	43	61
274	97E-15	40	38	22
275	97E-15	47	42	25

## 第2節 1区の遺構と遺物

ビット番号	グリッド	長径	短径	深さ
276	97B-11	64	40	19
277	97E-14	49	45	26
278	97E-13	45	43	44
279	97E-13	40	35	37
280	97E-13	31	27	26
281	97E-13	30	28	22
282	97D-11	50	47	27
283	97D-11	28	21	29
284	97E-12	49	32	47
285	97E-15	50	46	41
286	97E-15	36	32	33
287	97E-15	50	44	24
288	97E-15	42	38	60
289	97E-14	48	46	28
290	97E-14	43	40	47
291	97E-14	50	44	47
292	97E-14	63	41	24
293	97E-15	41	(26)	24
294	97E-14	41	36	39
295	97E-14	47	35	11
296	97E-14	48	39	42
297	97E-14	63	38	31
298	97C-11	46	34	23
299	97E-13	57	42	43
300	97E-14	34	24	28
301	97C-11	52	33	22
302	97E-14	53	42	27
303	97E-5	45	40	8
304	97D-5	50	45	19
305	97E-6	52	46	20
306	97A-5	45	36	19
307	97A-5	24	23	31
308	97A-5	45	45	35
309	97A-4	28	25	20
310	97A-4	33	27	20
311	97A-4	75	45	46
312	97E-5	44	38	34
313	97D-12	34	28	20
314	97D-12	28	25	13
315	97D-9	42	34	32
316	97D-9	31	25	42
317	97E-8	39	39	26
318	97E-8	42	38	22
319	97E-8	35	34	21
320	97D-8	60	46	12
321	97E-7	35	32	17
322	97E-8	32	28	9
323	97E-8	41	34	11
324				
325	97E-8	40	37	10
326	97E-8	27	25	23
327	97E-8	38	35	17
328	97D-9	40	37	29
329	97D-6	38	(35)	8
330	97D-6	46	36	16
331	97D-6	58	50	31
332	97E-8	58	58	30
333	97E-8	43	35	39
334	97E-8	40	33	20
335	97E-8	30	29	20
336	97C-8	52	48	15
337	97E-8	50	45	17
338	97E-8	54	48	28
339	97E-8	73	69	25
340	97E-9	56	52	20
341	97E-9	42	33	20
342	97E-9	42	34	50
343	97E-10	60	47	20
344	97E-5	45	37	20

ビット番号	グリッド	長径	短径	深さ
345	97C-5	57	38	19
346	97C-5	38	30	23
347	97E-5	35	33	28
348				
349	97A-6	43	40	22
350	97A-6	33	26	17
351	97C-7	47	30	13
352	97A-3	46	40	30
353	97D-5	50	47	38
354	97E-6	47	39	25
355	97E-5	43	39	50
356	97E-5	43	42	32
357	97E-5	41	37	43
358				
359	97A-4	30	29	26
360	97E-6	53	43	12
361	97A-6	56	40	23
362	97A-5	47	35	21
363	97E-8	49	29	17
364	97E-8	50	48	58
365	97E-8	45	40	13
366	97E-8	56	33	25
367	97E-8	42	32	32
368	97E-8	42	32	35
369	97E-8	32	28	30
370	97E-9	27	19	14
371	97E-10	33	31	22
372	97C-10	73	34	20
373	97C-9	62	45	36
374	97C-10	45	35	38
375	97C-9	35	33	25
376	97C-9	23	22	24
377	97C-9	25	21	22
378	97C-9	35	32	49
379	97D-9	33	33	18
380	97D-9	46	34	52
381				
382	97C-4	40	37	33
383	97C-3	40	34	10
384	97C-3	53	39	22
385	97E-3	45	45	43
386	97E-2	75	50	25
387	97A-4	28	23	13
388	97D-5	37	34	25
389	97A-5	56	43	33
390	97E-9	40	38	53
391	97C-9	39	29	30
392	97E-9	45	39	50
393	97E-10	33	30	19
394	97E-10	33	28	13
395	97E-10	34	32	26
396	97C-13	40	32	44
397	97C-13	26	17	37
398	97E-8	30	26	18
399	97A-8	35	(18)	50
400	97A-8	36	30	48
401	97A-8	(33)	30	33
402	97A-8	40	30	28
403	97A-8	45	39	40
404	97A-8	45	(40)	16
405	97A-8	51	40	40
406	97D-7	49	44	19
407	96E-4	44	36	25
408	97E-7	49	35	37
409	97C-5	35	(27)	13
410	97E-5	53	41	30
411	97C-4	40	35	13
412	97E-6	42	39	46
413	97A-6	37	34	37



第4章 発掘調査の記録

ピット番号	グリッド	長径	短径	深さ
414	97A-6	48	35	12
415	97A-6	38	27	31
416	97A-6	57	51	12
417	97A-6	39	27	18
418	97A-7	39	29	23
419	97A-7	35	34	30
420	97A-7	35	27	29
421	97A-7	(52)	52	42
422	97A-7	60	(50)	40
423	97A-6	78	41	43
424				
425	97A-6	56	43	30
426	97C-3	43	34	46
427	97C-12	42	37	49
428	97C-11	45	40	45
429	97F-10	36	32	32
430	97C-4	75	43	42
431	97C-4	50	37	45
432	97C-3	62	52	34
433	97B-1	42	37	10
434	97B-1	54	33	25
435	87E-20	32	26	19
436	87D-20	55	45	15
437	87D-20	55	42	16
438	86S-20	30	25	25

354号ピット(第358・364図)

位置 97F-6グリッド。

長径47cm・短径39cm・深さ25cmの楕円形を呈する。覆土は2層に分かれた。土師器の小型壺が出土している。

366号ピット(第359・364図、PL.300)

位置 97B-8グリッド

長径56cm・短径33cm・深さ25cmの楕円形を呈する。敲石が出土している。

367号ピット(第359・364図)

位置 97B-8グリッド

長径42cm・短径32cm・深さ32cmの楕円形を呈する。土師器の小型壺が出土している。

387号ピット(第360・364図、PL.136・300)

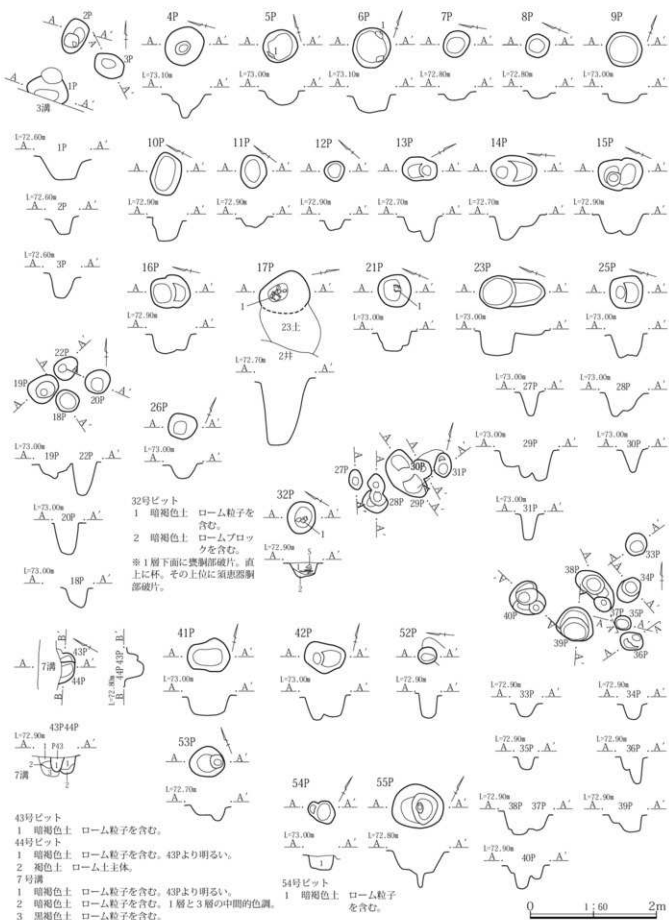
位置 97A-4グリッド

長径28cm・短径23cm・深さ13cmの楕円形を呈する。土師器の杯が出土している。

421号ピット(第361・364図)

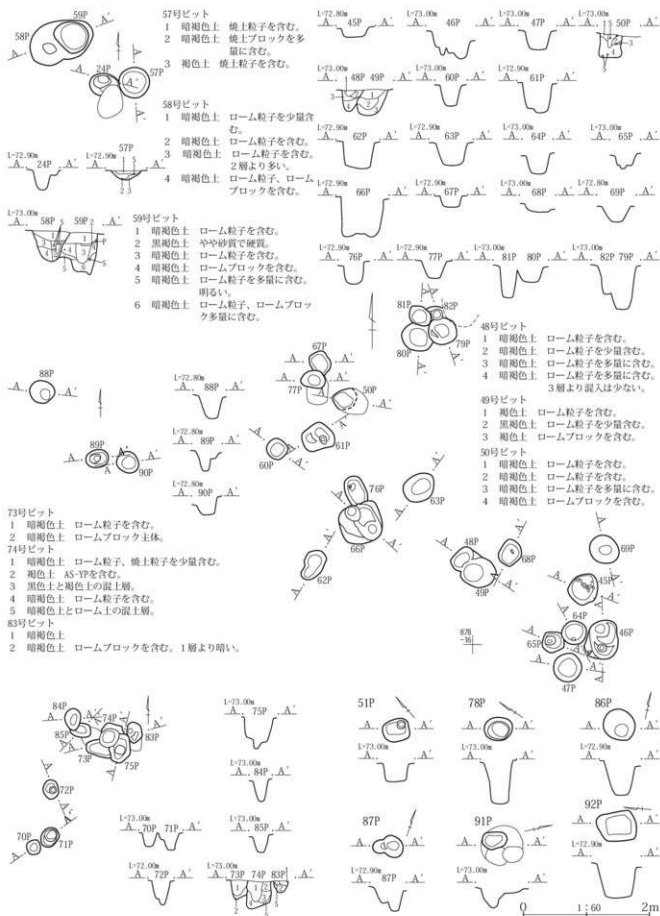
位置 97A-7グリッド。

長径(52)cm・短径52cm・深さ42cmの楕円形を呈するものと思われる。覆土は2層に分かれた。土師器の杯が出土している。

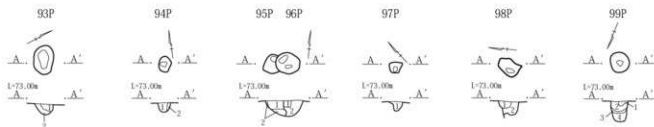


第343図 1区1～23・25～44・52～55号ビット

第4章 発掘調査の記録



第344図 1区24・45～51・57～92号ピット



## 93号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。粘性有り。ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくしてしまいいい。ロームを多量に含む。

## 94号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。ローム粒子を多量に含む。

## 95号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。ロームをやや多く含む。

## 96号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロックをやや多く含む。

## 97号ビット

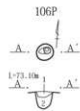
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロック、白色軽石を含む。

## 98号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性有り。ロームブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常に有り。ロームを主体に暗褐色土を含む。

## 99号ビット

- 1 黄褐色土 軟らかくしてしまいいい。粘性有り。ローム粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくして粘性非常に有り。ローム主体の層。
- 4 暗褐色土 軟らかくして粘性非常に有り。ロームブロックを含む。



## 104号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくして粘性非常に有り。ロームを多量に含む。

## 105号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。粘性有り。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。粘性有り。ローム粒子を少量含む。1層より暗い色調。

## 106号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。ローム粒子、白色軽石、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム粒子を含む。

## 100P



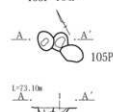
## 101P



## 102P



## 103P 104P



## 100号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を多量に、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。粘性有り。ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常に有り。ローム主体の層。
- 4 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ロームブロック、ローム粒子を含む。

## 101号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

## 102号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム粒子、白色軽石を含む。

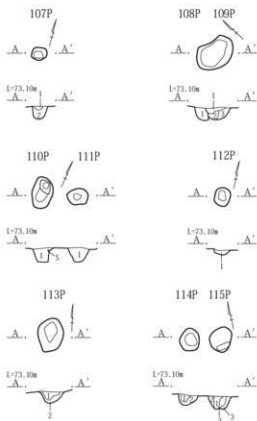
## 103号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまいいい。粘性有り。ローム粒子を含む。1層より暗い色調。

0 1:60 2m

第345図 1区93～106号ビット

第4章 発掘調査の記録



- 114号ビット  
 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。  
 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子、焼土粒子を含む。

- 115号ビット  
 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子、白色軽石を少量含む。  
 2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子をやや多く含む。  
 3 黄褐色土 軟らかくて粘性有り。暗褐色土を含む。

- 116号ビット  
 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロック、白色軽石を含む。  
 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常に有り。ローム粒子を含む。

- 117号ビット  
 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性有り。ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。  
 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常に有り。ロームブロックを少量含む。  
 3 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロックを多量に含む。

- 118号ビット  
 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ローム粒子を少量含む。

- 120号ビット  
 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、白色軽石、焼土粒子を含む。  
 2 黄褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームと暗褐色土の混上。  
 3 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。  
 4 黄褐色土 軟らかくて粘性有り。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混上。

- 107号ビット  
 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石、炭化物粒子を含む。  
 2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子を含む。

- 108号ビット  
 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロック、ローム粒子を含む。

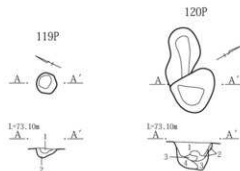
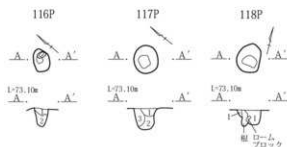
- 109号ビット  
 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、白色軽石を含む。  
 2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子を含む。  
 3 暗褐色土 軟らかい。1・2層よりも暗い色調。

- 110号ビット  
 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性有り。ローム粒子、白色軽石を含む。

- 111号ビット  
 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性有り。ローム粒子、白色軽石を含む。

- 112号ビット  
 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子、白色軽石を含む。

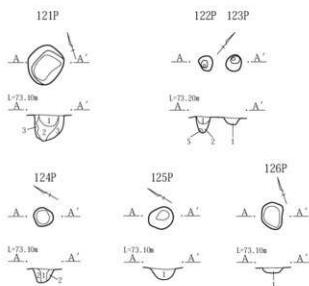
- 113号ビット  
 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロック、白色軽石を含む。  
 2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。焼土粒子、炭化物粒子を含む。



- 119号ビット  
 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。  
 2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子を含む。

0 1:60 2m

第346図 1区107～120号ビット

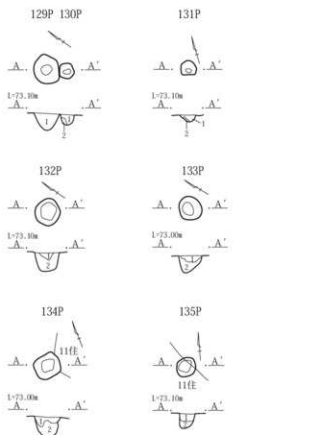


## 126号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。サラサラしている。

## 127号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかい。ロームブロック、白色軽石、炭化物粒子を含む。



## 121号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性有り。ローム粒子を含む。  
3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常に有り。ロームブロックを含む。

## 122号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。サラサラしている。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性有り。

## 123号ビット

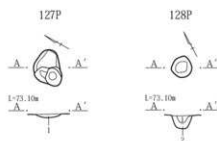
- 1 暗褐色土 軟らかい。ロームブロックを多量に含む。

## 124号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。サラサラしている。  
2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性有り。

## 125号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。サラサラしている。



## 128号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ロームブロックを多量に含む。  
2 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ローム粒子を少量含む。

## 129号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性有り。ロームブロック、ローム粒子を含む。

## 130号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。  
2 黄褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロックを多量に含む。

## 131号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性有り。ローム粒子を含む。  
2 黄褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム主体の層。

## 132号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子を少量含む。  
2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常に有り。

## 133号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロックを含む。  
2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロック、炭化物粒子を少量含む。

## 134号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロックを含む。  
2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロック、炭化物粒子を少量含む。

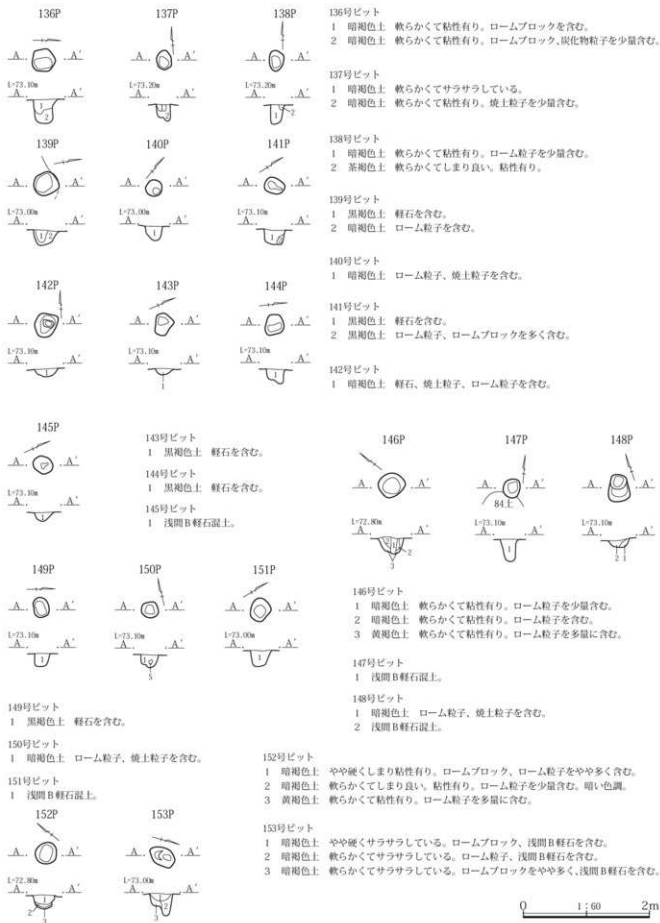
## 135号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロックを含む。  
2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロック、炭化物粒子を少量含む。

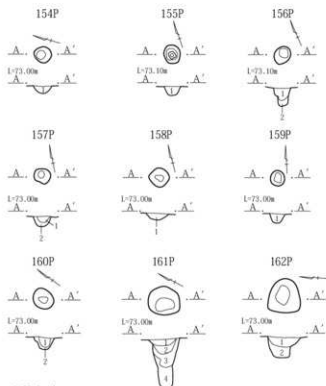
0 1:60 2m

第347図 1区121～135号ビット

第4章 発掘調査の記録



第348図 1区136～153号ビット



160号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームをやや多く含む。

161号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い、粘性有り。ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い、粘性有り。ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い、粘性有り。黄白色粘質土ブロックを含む。

162号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くサラサラしている。ロームブロック、浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を含む。

163号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を少量含む。

164号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム主体の層。

165号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体の層。

166号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくサラサラしている。ローム粒子を少量含む。

167号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。サラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。

168号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。

169号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性有り。ローム粒子を含む。

154号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くサラサラしている。浅間B軽石を含む。

155号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くサラサラしている。浅間B軽石を含む。

156号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くサラサラしている。浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。

157号ビット

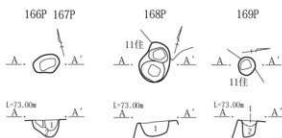
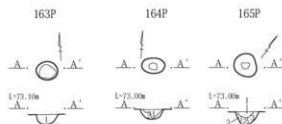
- 1 暗褐色土 やや硬くサラサラしている。ロームブロック、浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。

158号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。

159号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。



170号ビット

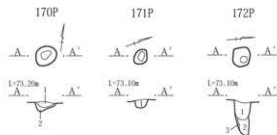
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い、粘性有り。ローム粒子を含む。

171号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。

172号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロック、浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームを含む。

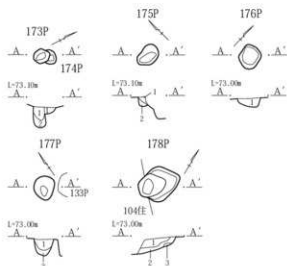


0 1:60 2m

第349図 1区154～172号ビット



第4章 発掘調査の記録

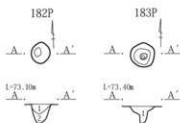


177号ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性有り。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

178号ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム主体の層。



183号ピット

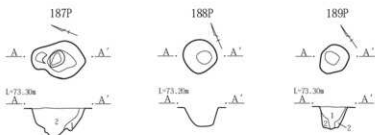
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

184号ピット

- 1 浅間B混土。

185号ピット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。



186号ピット

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

187号ピット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

189号ピット

- 1 暗褐色土 白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

190号ピット

- 1 暗褐色土 白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

191号ピット

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

173号ピット

- 1 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子、浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子を含む。

174号ピット

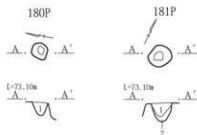
- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。浅間B軽石を含む。

175号ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまりサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。ロームブロックを含む。

176号ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子を含む。



180号ピット

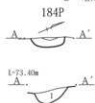
- 1 暗褐色土 やや硬くしまりサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。

181号ピット

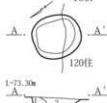
- 1 暗褐色土 やや硬くしまりサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、浅間B軽石を少量含む。

182号ピット

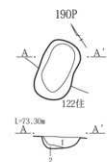
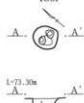
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子を含む。



185P



186P



192P

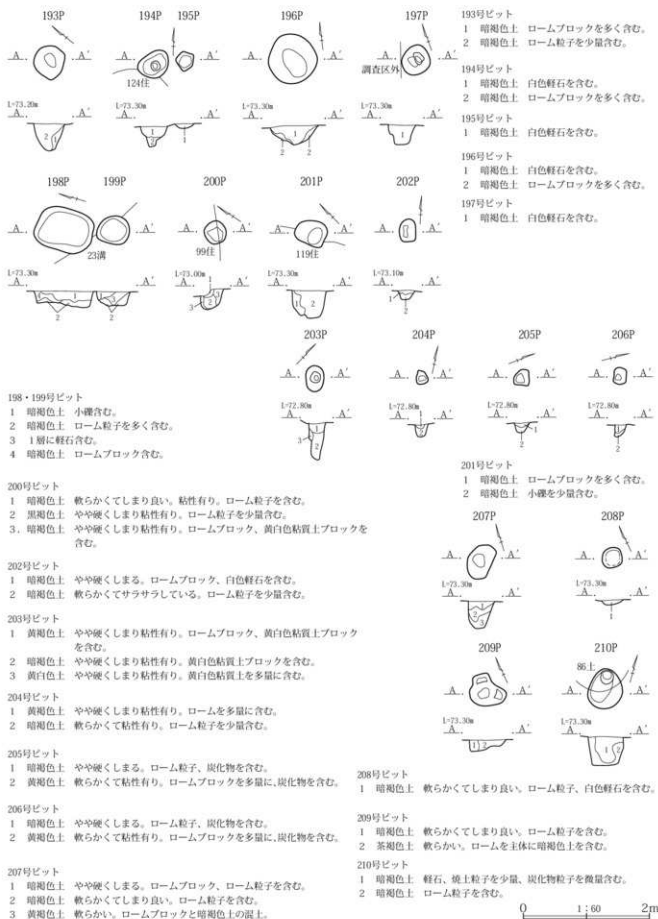


192号ピット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

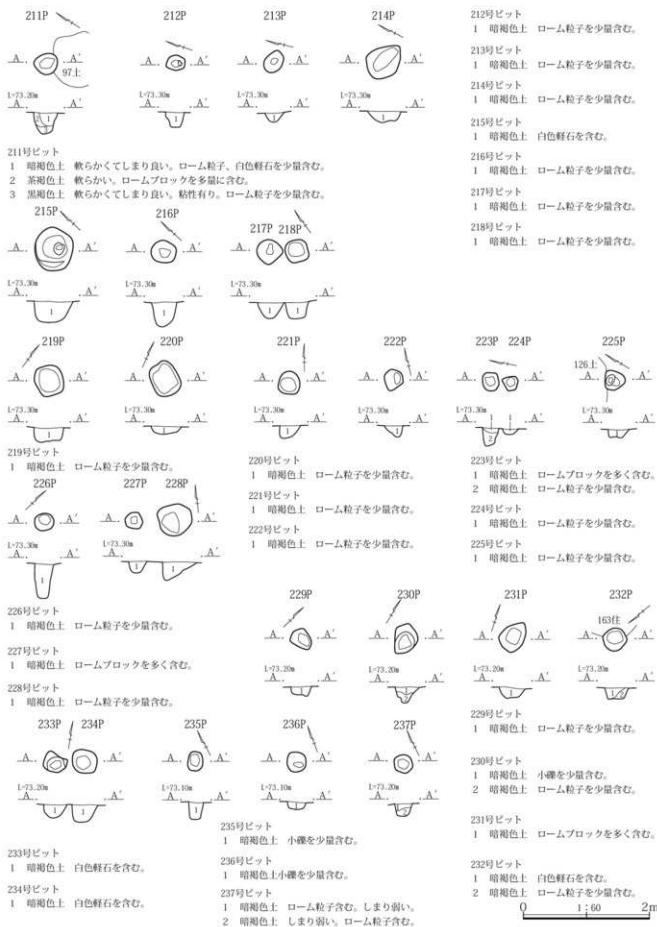


第350図 1区173～178・180～192号ピット



第351図 1区193～210号ピット

第4章 発掘調査の記録



第352図 1区211～237号ピット



238号ピット

1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

239号ピット

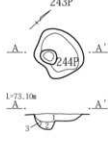
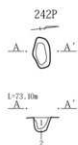
1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロック、焼土粒子を少量含む。

240号ピット

1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子、白色粒子、炭化物粒子を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子を多量に含む。

241号ピット

1 暗褐色土 硬くしまり粘性有り。ローム粒子、白色軽石を含む。  
2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームを主体とする。  
3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロックを少量含む。

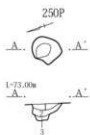
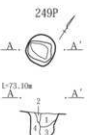
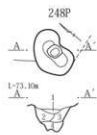
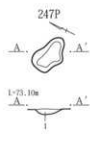
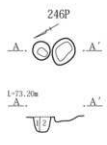


242号ピット

1 暗褐色土 やや硬くしまりサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。  
2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームを多量に含む。

243-244号ピット

1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を多量に、炭化物粒子を少量含む。  
2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロックを多量に含む。  
3 黄褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム主体の層。



245号ピット

1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子を少量含む。  
2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常に有り。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。

246号ピット

1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを含む。

247号ピット

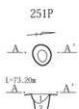
1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ローム粒子、浅間B軽石を含む。

248号ピット

1 暗褐色土 やや硬い。ローム粒子を少量含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロックを含む。  
3 暗褐色土 やや硬くサラサラしている。ローム粒子を少量含む。  
4 暗褐色土 硬くしまり粘性有り。ローム粒子を少量含む。

249号ピット

1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子を少量含む。  
3 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。黄白色粘質土ブロックを含む。  
4 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子を少量含む。



250号ピット

1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。  
2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロックを含む。  
3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。黄白色粘質土ブロックを含む。

251号ピット

1 暗褐色土 軟らかく粘性有り。ローム粒子を含む。  
2 黒褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロックを少量含む。

252号ピット

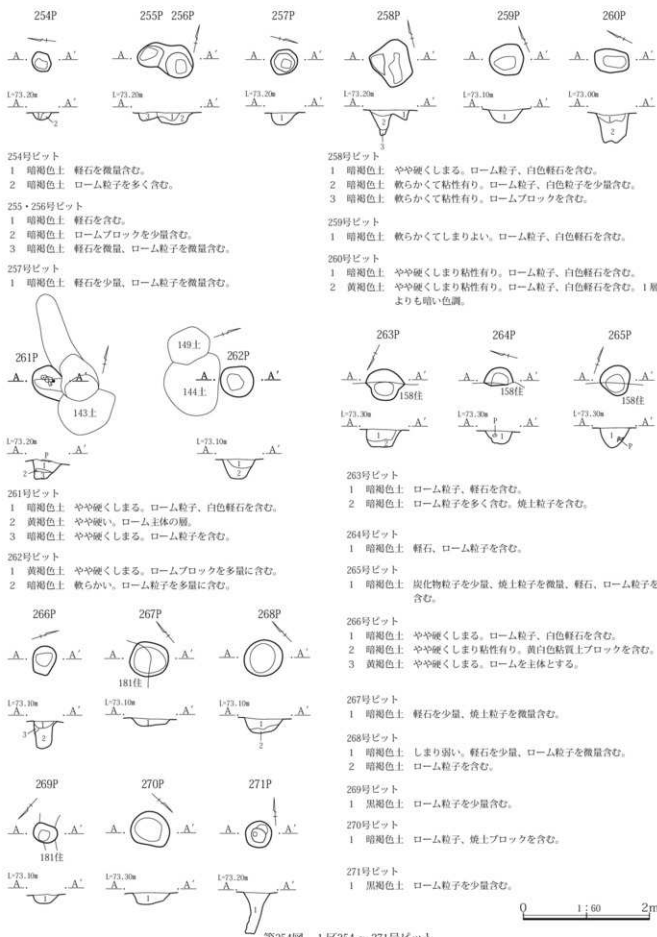
1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。  
2 黄褐色土 軟らかく粘性有り。ロームを含む。

253号ピット

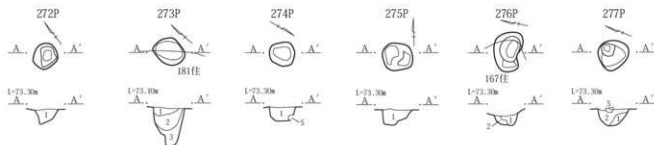
1 暗褐色土 軽石を少量、ローム粒子を微量含む。

0 1:60 2m

第4章 発掘調査の記録



第354図 1区254～271号ビット



## 272号ピット

1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 273号ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。黄白色粘質上ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。黄白色粘質上ブロックを含む。上層より暗い色調。

## 274号ピット

1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 275号ピット

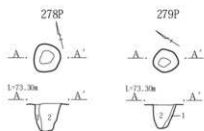
1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 276号ピット

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性有り。ロームブロックを含む。

## 277号ピット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

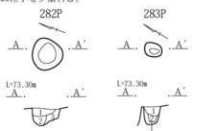


## 278号ピット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 279号ピット

- 1 褐色土 ロームが主体。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

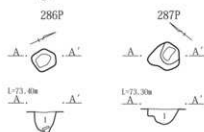
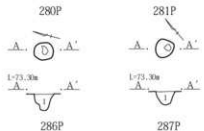
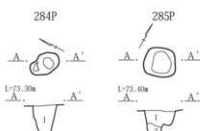


## 280号ピット

1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 281号ピット

1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。



## 282号ピット

- 1 暗褐色土 やや硬く粘性有り。ロームブロック、炭化物粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性有り。ローム粒子をやや多く含む。
- 3 黄褐色土 やや硬く粘性有り。ロームブロック主体の層。

## 283号ピット

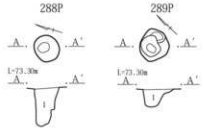
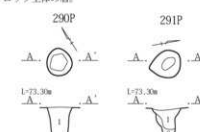
- 1 暗褐色土 やや硬く粘性有り。ロームブロック、炭化物粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性有り。ローム粒子をやや多く含む。
- 3 黄褐色土 やや硬く粘性有り。ロームブロック主体の層。

## 284号ピット

1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 285号ピット

- 1 褐色土 暗褐色ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む。



## 286号ピット

1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 287号ピット

1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 288号ピット

1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 289号ピット

1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 290号ピット

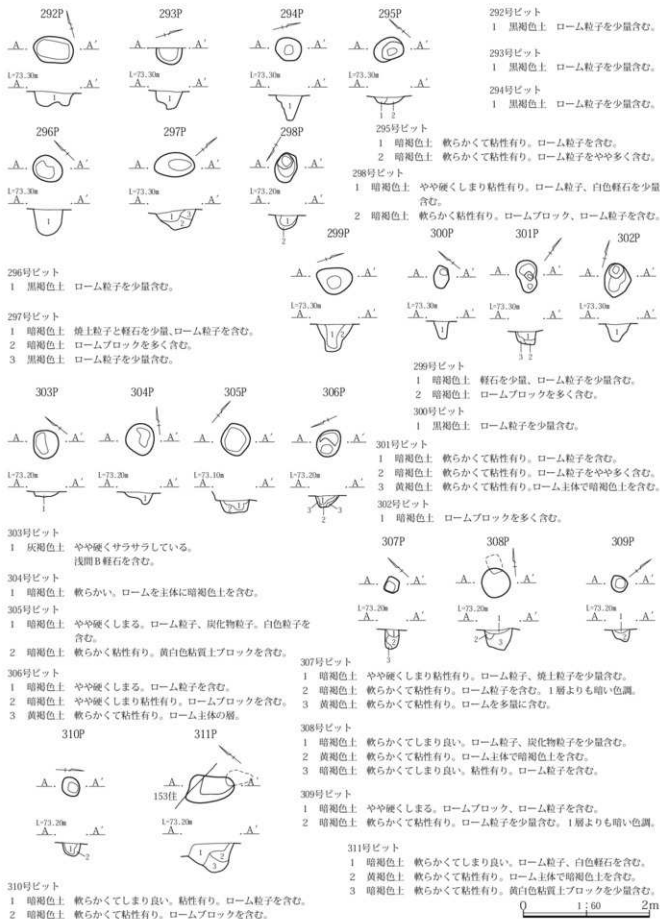
1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 291号ピット

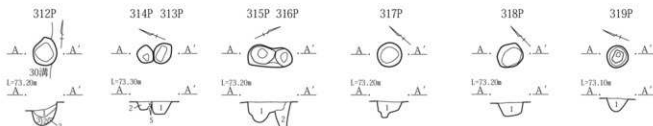
- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

0 1:60 2m

第4章 発掘調査の記録



第356図 1区292～311号ビット

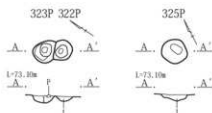


## 312号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム粒子をやや多く含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくして粘性有り。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。

## 313・314号ビット

- 1 黒褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。



## 322号ビット

- 1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 323号ビット

- 1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 325号ビット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。



## 332号ビット

- 1 暗褐色土 粘土粒子を少量、ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 白色軽石を含む。



## 335号ビット

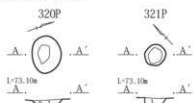
- 1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 336号ビット

- 1 黒褐色土 白色軽石を含む。

## 337号ビット

- 1 黒褐色土 白色軽石を含む。

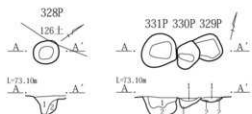


## 320号ビット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

## 321号ビット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。



## 328P

126上

## 330号ビット

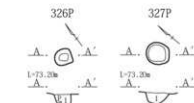
L-73.10m

## 331P

L-73.10m

## 329号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかい。ローム主体の層。



## 317号ビット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。

## 318号ビット

- 1 黒褐色土 白色軽石を含む。

## 319号ビット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

## 326P

L-73.20m

## 327P

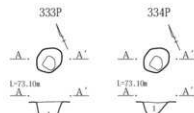
L-73.20m

## 326号ビット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

## 327号ビット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。



## 333号ビット

- 1 黒褐色土 白色軽石を含む。

## 334号ビット

- 1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 338号ビット

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

## 339号ビット

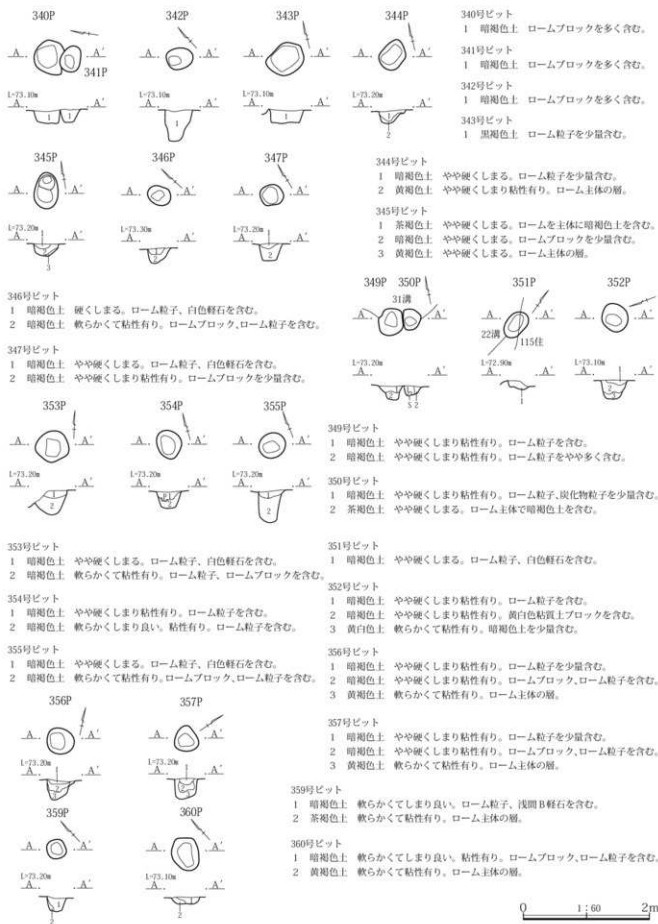
- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

0 1:60 2m

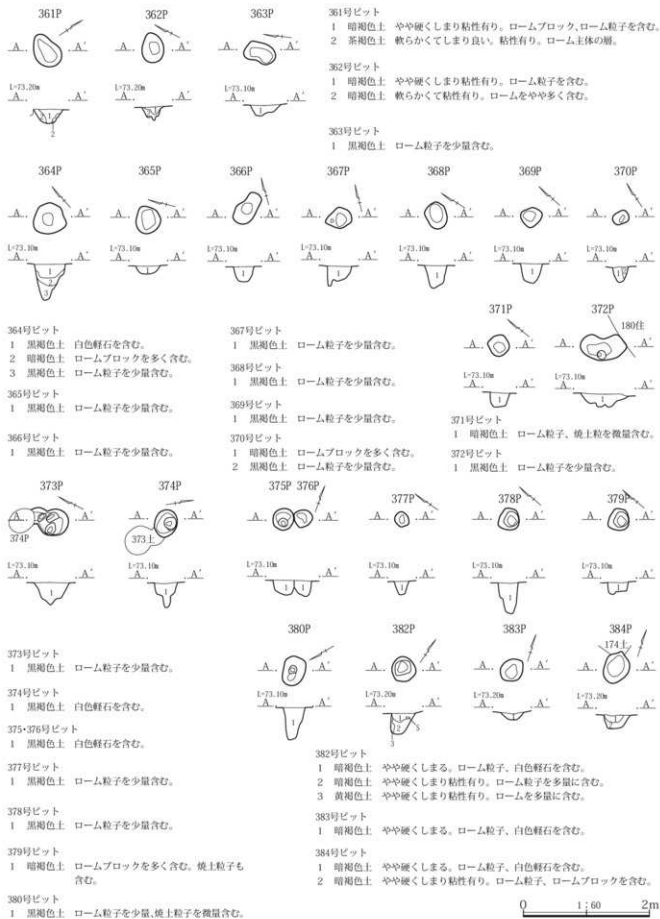
第357図 1区312～323・325～339号ビット



第4章 発掘調査の記録

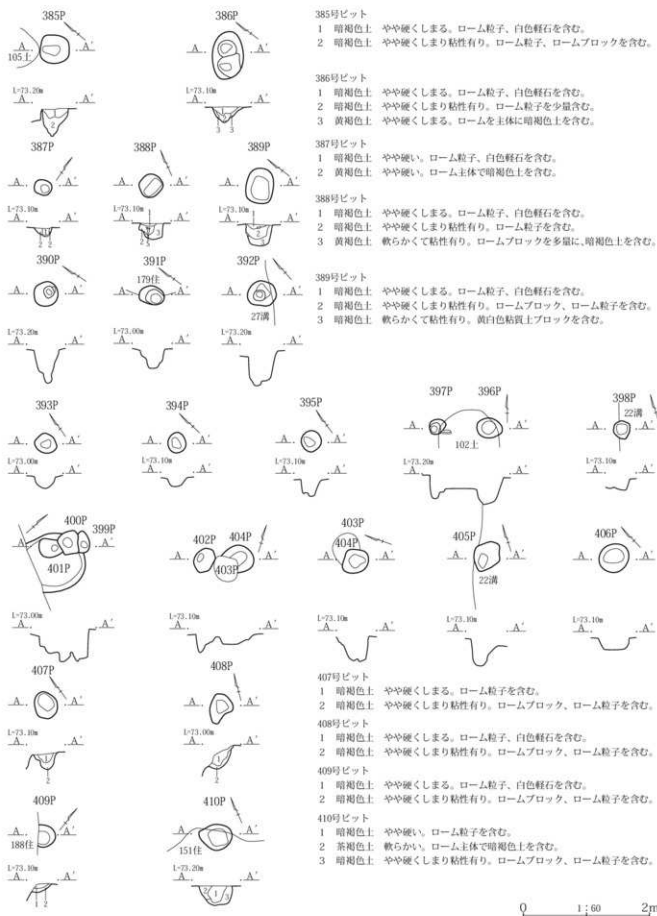


第358図 1区340～347・349～357・359・360号ピット

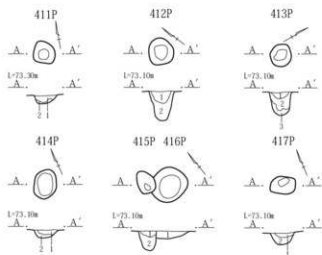


第359図 1区361～380・382～384号ビット

第4章 発掘調査の記録



第360図 1区385～410号ピット



## 414号ビット

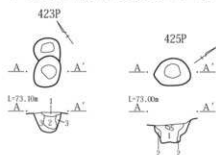
- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム主体で暗褐色土を含む。

## 415号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性有り。ローム粒子を含む。

## 416号ビット

- 1 黄褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム主体で暗褐色土を含む。



## 417号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロック、ローム粒子を含む。

## 418号ビット

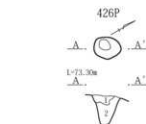
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子を含む。

## 419号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性有り。ロームブロック、ローム粒子を含む。

## 420号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム粒子を含む。



## 421号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム粒子、ロームブロックを含む。

## 422号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム主体の層。

## 423号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム主体の層。

## 411号ビット

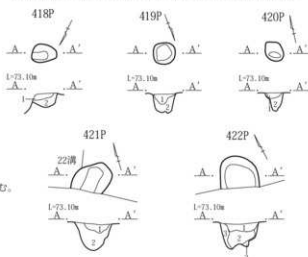
- 1 暗褐色土 やや硬い。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ローム粒子を多量に含む。

## 412号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム粒子を含む。

## 413号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ロームブロックを多量に含む。

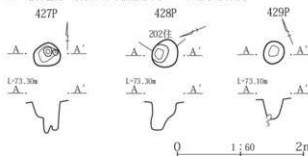


## 425号ビット

- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性有り。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。黄白色粘質土ブロックを含む。

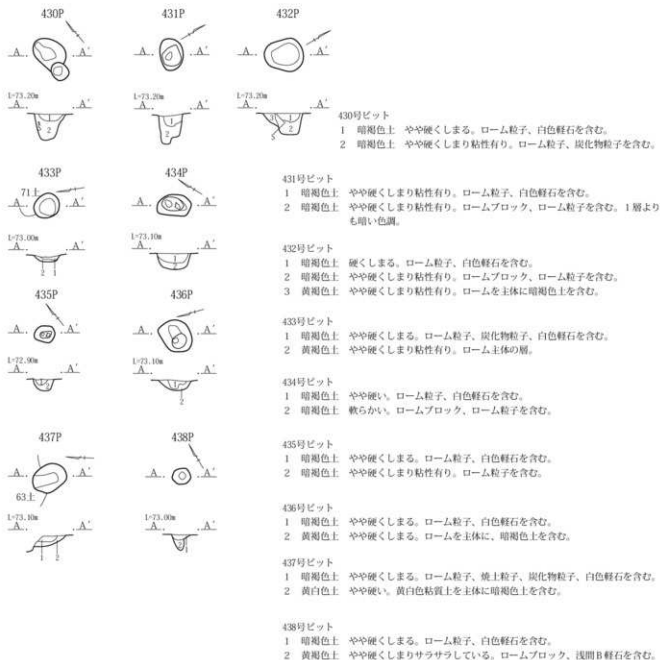
## 426号ビット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくして粘性有り。ローム粒子を含む。



第361図 1区411～423・425～429号ビット

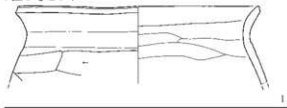
第4章 発掘調査の記録



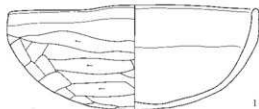
0 1:60 2m

第362図 1区430～438号ビット

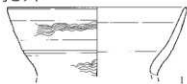
1区5号ビット



1区17号ビット



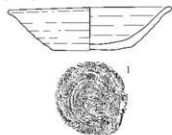
1区22号ビット



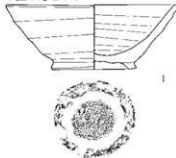
1区23号ビット



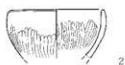
1区32号ビット



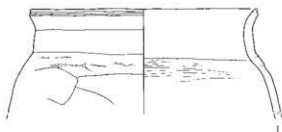
1区6号ビット



1区21号ビット



1区45号ビット



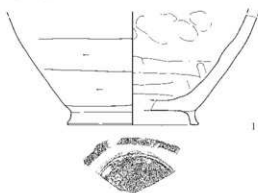
1区67号ビット



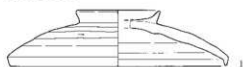
第363図 1区5・6・17・21・22・23・32・45・67号ビット出土遺物

0 1:3 10cm

1区78号ビット



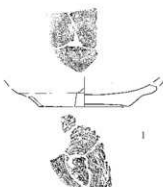
1区84号ビット



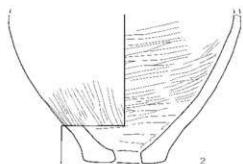
1区261号ビット



1区148号ビット



1区178号ビット



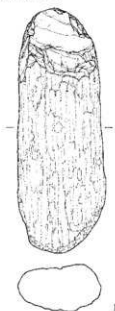
1区354号ビット



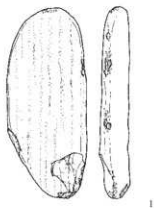
1区367号ビット



1区277号ビット



1区366号ビット



1区387号ビット



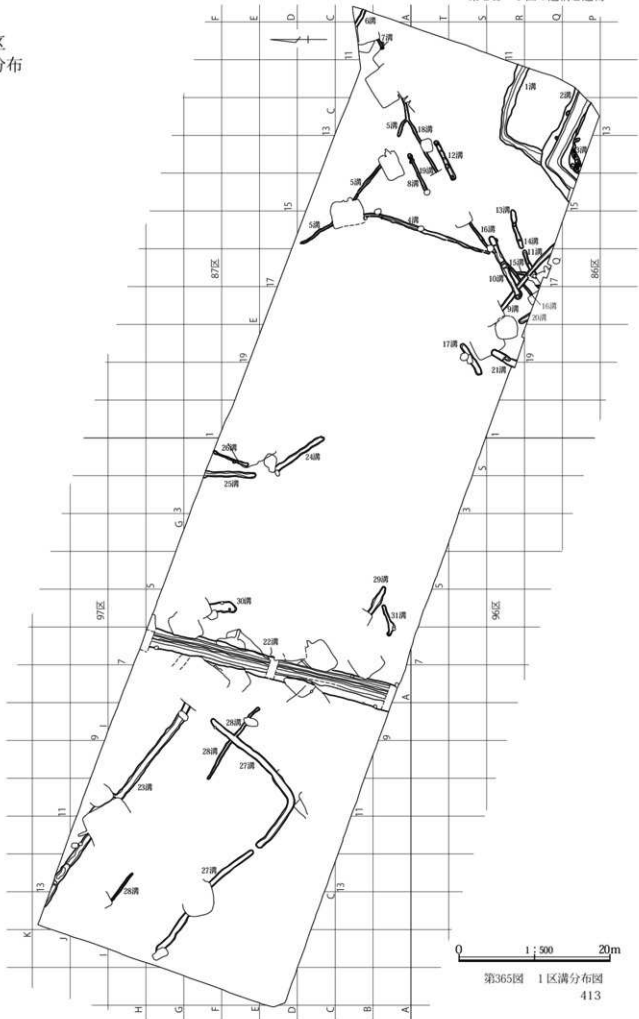
1区421号ビット



第364図 1区78・84・148・178・261・277・354・366・367・387・421号ビット出土遺物

0 1:3 10cm

1区  
溝分布



第365図 1区溝分布図



## (5) 溝

1区からは31条の溝が検出されている。ただしこれらの溝は、調査段階で同一遺構を複数の遺構として認定して番号を付けたりしているために、実際は22条になる。たとえば、7号溝、18号溝、16号溝、19号溝は同一の溝である。11号溝、14号溝も同様である。23号溝と27号溝も一体となった溝になるものと思われる。

30号溝は4世紀代の住居に伴う可能性があるが、断定するまでには至らない。1号溝、2号溝、22号溝は中世に属するものと思われる。その他の溝は古墳時代から平安時代にかけての溝と思われるが断定するまでには至らない。

ここでは、調査番号に乗っ取って事実記載を行い、最後に簡単なまとめで溝の全体を示す。

1・2・3号溝(第366・373図、PL.137・138・300)

**1号溝** 位置 86Q-R-11、86R-12・13、86Q-13グリッド。南端は調査区外に延びる。南端は2号溝と重複して不明となるが、状況から前出と考えられる。東端は調査区域外に延びる。南から約6mで東へほぼ直角に折れて、平面形はL字形。2区中世屋敷に関連する区画溝の可能性が高い。走向方位は南西から北東、直角に東南方向へ折れての走行である。断面形はU字形。底面はやや凸凹する。両端の比高差は30cmで、勾配1.9%で東南へ下向する。上層は黄褐色土で埋まっており、人為的に埋められる。規模は長さ15.5m幅0.7～1.7m深さ11～56cmである。埋没土から(1)の須恵器杯、(2)の手裡ね土器が出土するが混入であろう。状況から中世以降と考えられる。

**2号溝** 位置 86P-11～14、86Q-12～14グリッド。状況から1号溝より後出と考えられ、3号溝と重複するが新旧関係不明。東端・南端とも調査区外に延び、南方の2区2号溝と同一とみられる。東方は3区2号溝へ向かうが、同一かどうか確実ではない。南から4m程で東へ鈍角に折れて、平面形はL字形。2区中世屋敷を区画する溝である可能性が高い。底面はほぼ平坦でわずかに凸凹する。両端の比高差はほとんどなく南西方向へ下向する。底面中央部を中心に底面近くから多量の円礫が投棄され、その後黄褐色土と暗褐色土で互層に埋まり、更に黄褐色土で埋まる。人為的埋没。規模は長さ13.9m幅

3.2～3.7m深さ83～110cmである。礫に混じって在地系土器片口鉢(10)、同火鉢(9)が出土する。その他、土師器・須恵器(1～8)が出土するが混入である。出土遺物から中世に比定される。

**3号溝** 位置 86P-13・14グリッド。北端は1号溝と重複して不明となるが新旧関係不明。南端は調査区外に延びる。南方の2区1号溝が延長線上に位置するが、同一であるか定かではない。南端は一部西に分岐するが、平面形はほぼ直線状。走向方位は南西から北東である。断面形はU字形で浅い。底面は凸凹する。両端の比高差は3cmで、北東へ下向する。埋没土は暗褐色土でロームブロックを含むが、埋没状況不詳。規模は長さ3.3m幅52～56m深さ11～19cmである。平安時代の遺物が若干出土する。時期は定かではない。

**4号溝**(第367図)

**位置** 86R・S-15・16、86T-15、87A・B-15グリッド  
現状では長さ17.4m・幅25～62cm・深さ約30cmを測る。北から南西方向への走行である。61号住居の覆土を掘りこんで構築されていることなどから、5号溝から分岐している可能性が高い。また、65・22・69号住居を壊している。22号住居との関係から判断すると、溝の構築時期は10世紀以降と考えられる。

**5号溝**(第367・374図、PL.138)

**位置** 87A-12～14、87B-14・15、87C-15グリッド  
現状では長さ25m・幅30～50cm・深さ20～34cmを測る。北西から南東方向への走行である。覆土は4層に分かれた。ロームを含んでいる。55・61・84・14・11号住居と重複し、各住居の覆土を掘り込んでいる。4号溝とは87B-15グリッド付近において合流しているものと思われる。また、南東で18号溝と合流している。4世紀代のS字条口縁台付甕が出土しているが、これは59号住居に伴うものである。10世紀以降の構築と思われる。

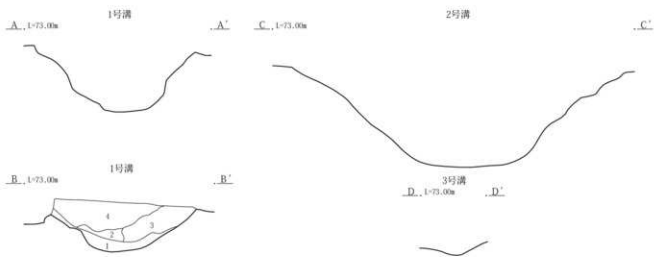
**6号溝**(第368図、PL.138)

**位置** 87B-9・10グリッド

調査区の北東隅から検出された。現状では長さ2.5m・幅約50cm・深さ約30cmを測る。北西から南東方向の走行である。23号住居と重複し、壊している。遺物の出土はなかったが、平安時代以降の構築と思われる。

**7号溝**(第368図)

**位置** 87A-10グリッド



1号溝

- 1 黄褐色土
- 2 にぶい黄褐色土 ややしまり弱くやや粘性あり。
- 3 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含むが、住居からの混入。
- 4 暗褐色土 ややしまりやや粘性あり。ローム粒子を多量に含む。



第366図 1区1～3号溝

現状では長さ1.5m・幅22～40cm・深さ30cmを測る。南西から北東方向への走行と思われる、18号溝の延長の可能性が考えられる。覆土は3層に分かれた。ローム粒子を含んでいる。また23号住居セクションA-A'の中央部の1層とセクションB-B'の1層が7号溝の覆土である可能性が高い。住居の覆土を掘りこんで構築されている。また45号住居は7号溝に壊されているものと思われる。

**8号溝(第367・374図)**

**位置** 86T-13・14グリッド

長さ5.3m・幅30～34cm・深さ38cmを測る。南西から北東方向への走行である。46・57号住居を壊している。覆土から土師器の破片が出土している。南東方向3.5mの所に同規模・同構造の12号溝が存在する。構築時期は不明である。

**9号溝(第369・374図, PL.138・300)**

**位置** 86Q-15・16, 86R-16・17グリッド

長さ11m・幅50～78cm・深さ19cmを測る。北西から南東方向への走行である。覆土は3層に分かれた。ローム粒子を含んでいる。土師器の杯と須恵器の甕の破片が出土している。その他、縄文土器片(加曾利E式)1点が出土。

**10号溝(第369・374図, PL.138)**

**位置** 86R-15～17グリッド

長さ9.1m・幅70～80cm・深さ23cmを測る。北東から南西への走行である。覆土は2層に分かれた。3層は16号溝の覆土になり、16号溝に壊されている。須恵器の甕の破片が出土している。南東約2.3mの所にほぼ併行して走行する11・13・14号溝が存在する。11・13・14号溝は部分的に途切れているものの同一の遺構になるものと思われる、10号溝と一体の遺構であろう。

**11号溝(第369図)**

**位置** 86Q-16・17, 86R-16グリッド

現状では長さ5.4m・幅40～50cm・深さ21cmを測る。遺物の出土はなかった。北東約40cmで14号溝が続いている。走行や規模・形状がほぼ同一であることから、13号溝までを含めた同一の遺構となるものであろう。

**12号溝(第367図, PL.139)**

**位置** 86S・T-13・14グリッド

長さ5.7m・幅48～60cm・深さ56cmを測る。南西から北

東方向への走行である。覆土は3層に分かれたが、人為的埋土である。遺物の出土はなかった。35・57号住居を壊している。北西方向3.5mの所に同規模・同構造の8号溝が存在する。構築時期は不明である。

**13号溝(第369・374図, PL.139)**

**位置** 86R-15グリッド

現状では長さ1.8m・幅約70cm・深さ10cmを測る。覆土は1層でロームを含んでいる。覆土からは土師器の台付甕の台部が出土している。北東から南西への走行で14・11号溝に続くものとなり、一体とした溝になるものと思われる。

**14号溝(第369図, PL.139)**

**位置** 86R-15・16グリッド

現状では長さ3.1m・幅42～58cm・深さ27cmを測る。覆土は3層に分かれた。土師器片が出土している。北東から南西への走行で、13・11号溝に繋がる溝になるものと思われる。

**15号溝(第369図, PL.139)**

**位置** 86R-16グリッド

現状では長さ1.5m・幅30～40cm・深さ14cmを測る。南北走行である。16号溝と重複し、壊されている。覆土は2層に分かれた。ローム粒子・焼土粒子を含んでいる。遺物の出土はなかった。

**16号溝(第369図, PL.138・139)**

**位置** 86Q-17, 86R-16・17, 86S-15・16グリッド

現状では長さ12.5m・幅20～38cm・深さ12cmを測る。南西から北東方向への走行である。10・15号溝を壊している。覆土は2層に分かれた。ロームを含んでいる。土師器の破片が出土している。北東方向に存在する19・18・7号溝とは、走行や規模などがほぼ同一であることから、同一の溝になるものと思われる。

**17号溝(第369・374図)**

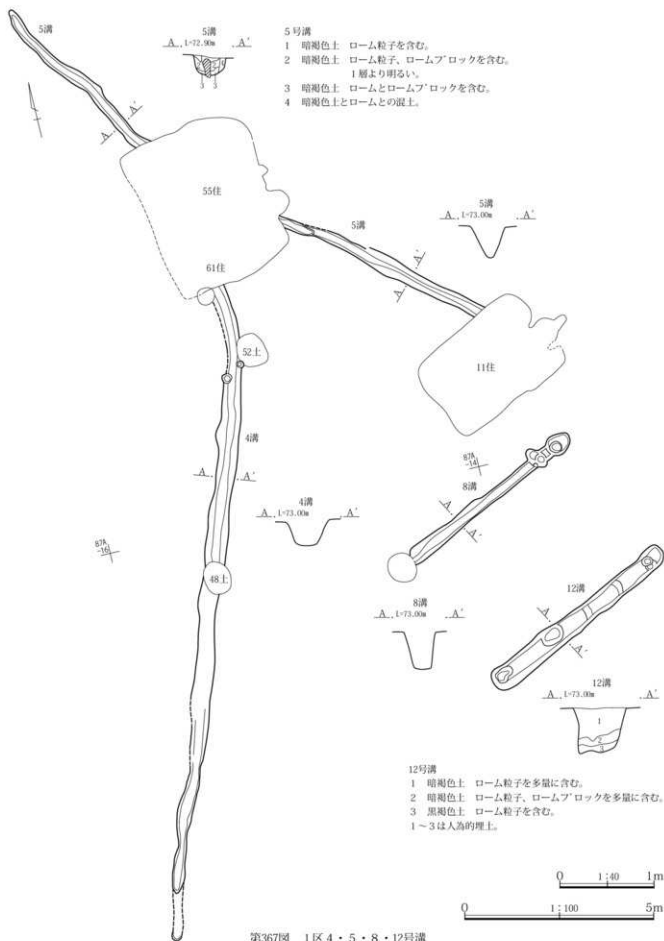
**位置** 86S-18・19グリッド

長さ4.7m・幅約70cm・深さ18cmを測る。北東から南西方向への走行である。45号土坑、3号井戸に壊されている。覆土から須恵器の椀や羽釜が出土している。

**18号溝(第368図, PL.138)**

**位置** 86T-12・13, 87A-12グリッド

現状では長さ6.5m・幅25～41cm・深さ18cmを測る。南西から北東方向への走行である。9号住居の覆土上層を



第367図 1区4・5・8・12号溝

掘り込んでいることなどから、7号溝に繋がるものと思われる。また18号土坑を挟んで19号溝があるが、これとも連続するものであろう。さらに、5号溝が合流している。

19号溝(第368・375図、PL.138)

位置 86T-13・14グリッド

現状では長さ3.2m・幅30～34cm・深さ18cmを測る。南西から北東への走行である。覆土からS字状口縁台付裏の台部が出土しているが、これは57号住居に伴うものであろう。北東の18号溝、さらに南西方向に存在する16号溝と同規模であることから、一連の溝になるものと思われる。

20号溝(第369図)

位置 86Q・R-17、86R-18グリッド

調査区外に伸びているために全容は不明である。現状では、長さ1.9m・幅66cm・深さ22cmを測る。北西から南東方向への走行である。覆土は基本的に3層に分かれた。ロームブロックを多量に含んでいる。土師器片が出土している。

21号溝(第369図、PL.138・139)

位置 86R-18・19グリッド

調査区外に伸びているために全容は不明である。現状では、長さ3.6m・幅92cm・深さ10～12cmを測る。南西から北東に向かってやや深くなっている。遺物の出土はなかった。

22号溝(第370・375図、PL.140)

位置 97A-7～97C-6グリッド。多くの住居と重複するが、状況からそれらより後出である。南北端とも調査区外に伸び、南方の2区15・16号溝と同一とみられる。断面形から2条以上の溝が存在するため、2区15・16号溝とも一致する。北端の断面では東側の溝が後出となるが、南端の断面では逆転しており、上層に更に別の溝が営まれた可能性もある。平面形はほぼ直線状。走向方位は南西～北東。断面形は2条とも逆台形。底面は平坦でやや丸みを持つ。両端の比高差は8cmである。西側の溝はA・B断面で中位まで一気に暗褐色土で埋まっており、人為的に埋められた可能性もある。一部で浅間B軽石層が観察されるが、層位的に一次堆積ではない。規模は長さ6.5m幅56～98m深さ78～102cmである。埋没土から在地系土器鍋鉢類(3・4)、常滑陶器片口鉢(2)が出土

する。出土した中世遺物は14世紀後半から15世紀前半にわたる。

23号溝(第371・375図、PL.139・140)

位置 97F～J-8～13グリッド

現状では長さ約35m・幅80～110cm・深さ26cmを測る。北西から南東方向への走行である。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分かれた。129号住居と重複し、壊している。また95号土坑と重複しているが、土坑が新しい。145号住居に接している。覆土からは土師器の高杯や裏が出土している。その他、縄文土器片(黒浜・有尾式)2点が出土。南西方向約16～18mの所にほぼ併行して走行する27号溝が検出されている。その27号溝が97D～10グリッドでほぼ直角に曲がって北東方向に伸びて23号溝に向かうことから、二つの溝は同一の遺構となっていたものと思われる。これらの溝は隣接する縄貫水道跡までは伸びていないことから、遺跡内で完結しているものであろう。

24号溝(第371図)

位置 97C・D-1グリッド

長さ7.8m・幅54～80cm・深さ10cmを測る。確認面から底面までは浅かった。底面はほぼ平坦である。北西から南西方向への走行である。北西端に64・68号土坑と重複して、壊されている。覆土は2層に分かれた。炭化物粒子・ロームを含んでいる。須恵器の破片が出土している。

25号溝(第371図)

位置 97E・F-1・2グリッド

調査区外に伸びているために全容は不明である。現状では長さ約7m・幅約60cm・深さ14～18cmを測る。北から南方向への走行である。底面は凹凸がある。覆土は3層に分かれた。ロームブロックを含んでいる。土師器片が出土している。

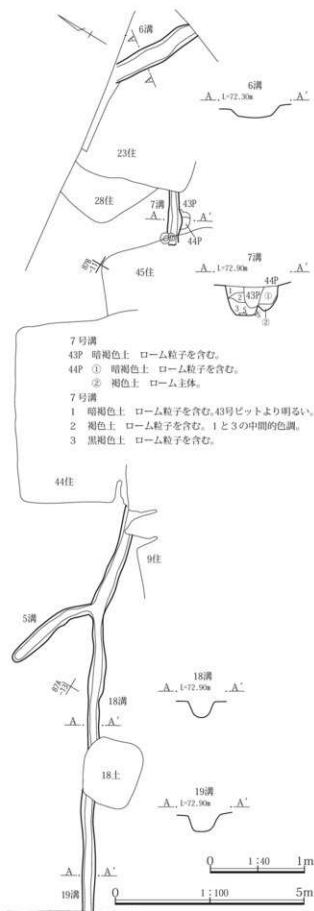
26号溝(第371図、PL.139)

位置 97E・F-1グリッド

現状では長さ5m・幅20～50cm・深さcmを測る。北北東から南南西方向への走行である。90号住居と一部重複し、壊している。覆土は1層である。ロームブロックを含んでいる。土師器片が出土している。

27号溝(第372・375図、PL.141)

位置 97D-9～11、97E-8・9・11・12、97F-8・12・13、97G-14グリッド



第368図 1区5・7・18・19号溝

北西から南東方向へ長さ約27m・幅65～85cm・深さ13～17cmを測る。途中、約70cm途切れている箇所がある。さらに溝は97D-10グリッドにおいてほぼ直角に曲がり、北東方向へ約15m延びる。覆土は2層に分かれた。ロームブロックを多量に含んでいる。北西端で152号土坑と重複、161・196号住居と重複している。196号住居を壊し、161号住居、152号土坑に壊されている。北東方向に存在する23号溝と一体の遺構である。北東隅で約3.2mの開口部が認められる。

## 28号溝(第372図、PL.141)

位置 97E・9、97F-9、97H-12・13グリッド

北西から南東方向への走行であるが、部分的に検出されている。北西部では長さ4.7m・幅約25cm・深さ5cmを測り、南東部分では長さ11.5m・幅25～50cmを測る。覆土からは土師器の破片が出土している。

## 29号溝(第371図)

位置 97A-4・5、97B-5グリッド

現状では長さ約4m・幅60～110cm・深さ11cmを測る。北西から南東方向への走行である。186号住居よりも新しいが、全容は確認できていない。覆土は2層に分かれた。炭化物粒子とロームを含んでいる。土師器片が出土している。底面はやや凹凸がある。

## 30号溝(第371・375図、PL.141)

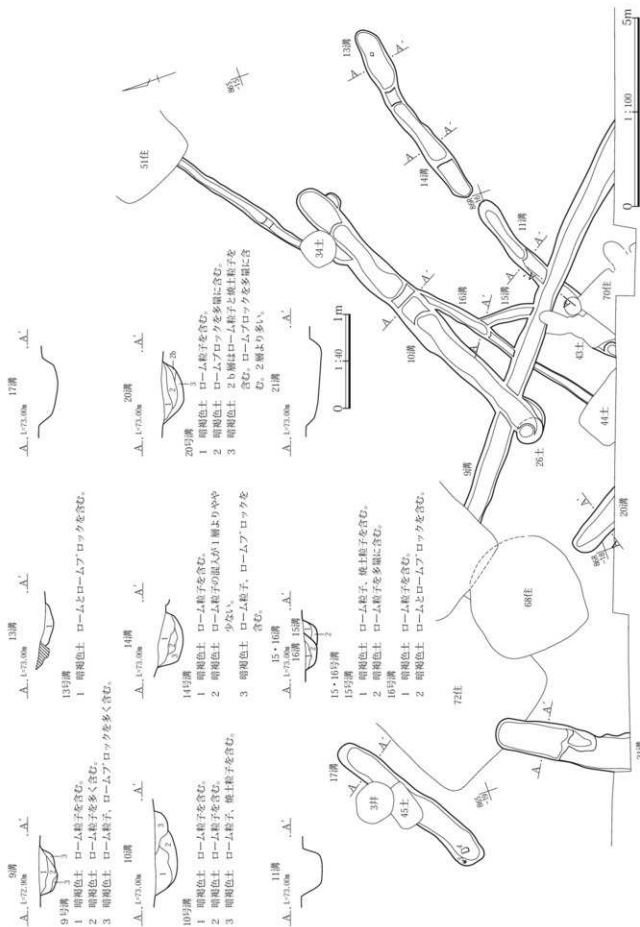
位置 97E・F-5グリッド

現状では長さ3.3m・幅134cm・深さ12～20cmを測る。北から南への走行である。底面は東側に向かってやや深くなっている。覆土は3層に分かれた。ロームを含んでいる。S字状口縁台付甕の台部が出土している。140号住居に壊されていること、覆土から4世紀代の土器が出土していること、さらに溝の形状と東約3mのところから4世紀代の住居である136号住居が存在することなどから、この住居に伴う外周溝になるものであろうか。ただし、住居の北側や東側には溝が認められないことから、断定するまでには至らない。

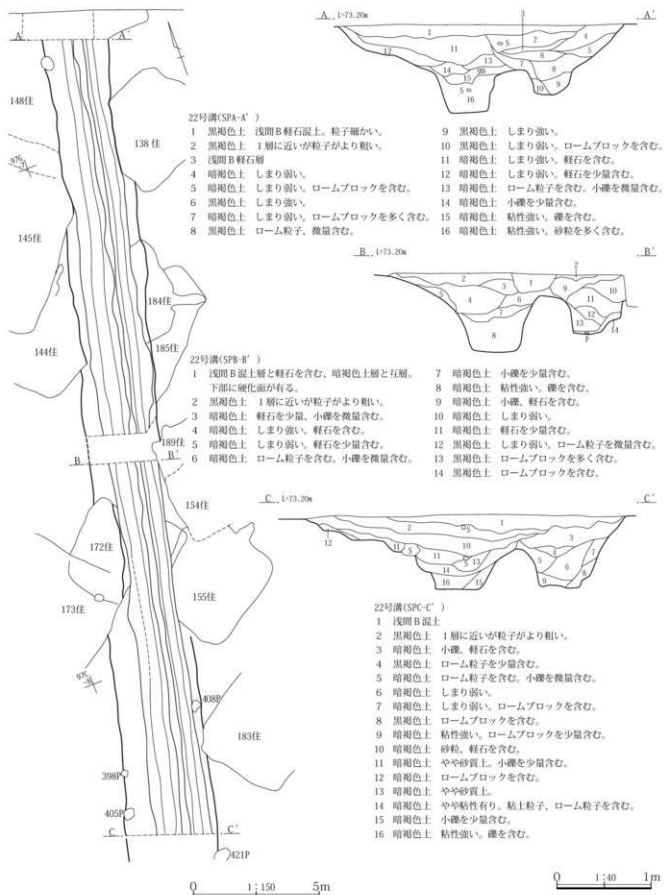
## 31号溝(第371図)

位置 97A-5・6グリッド

長さ約4m・幅40～80cm・深さ13cmを測る。西から東への走行である。覆土は3層に分かれた。ロームを含んでいる。土師器片が出土している。



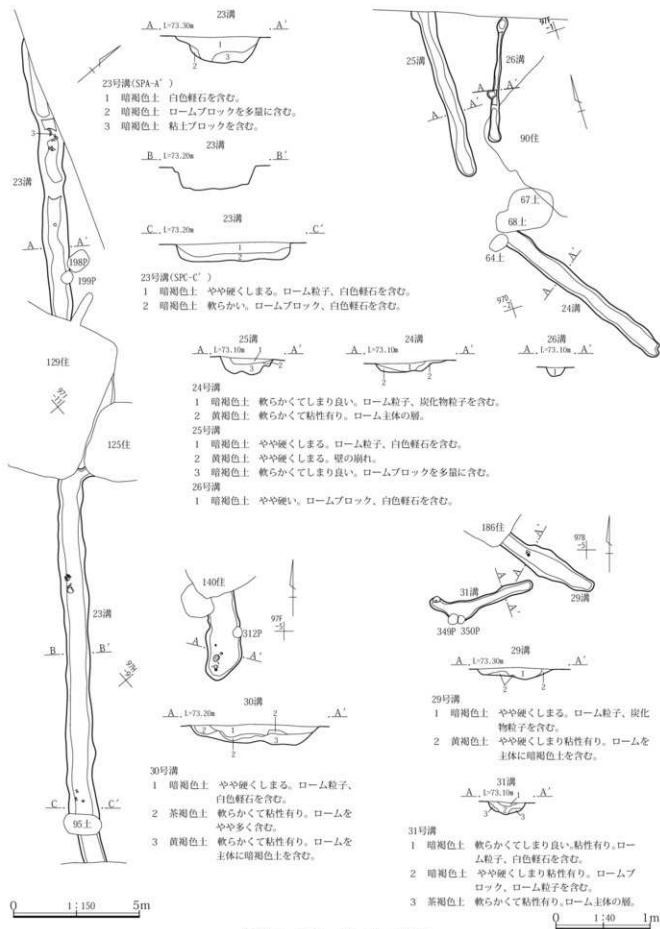
第365図 1区9～11・13～17・20・21号溝



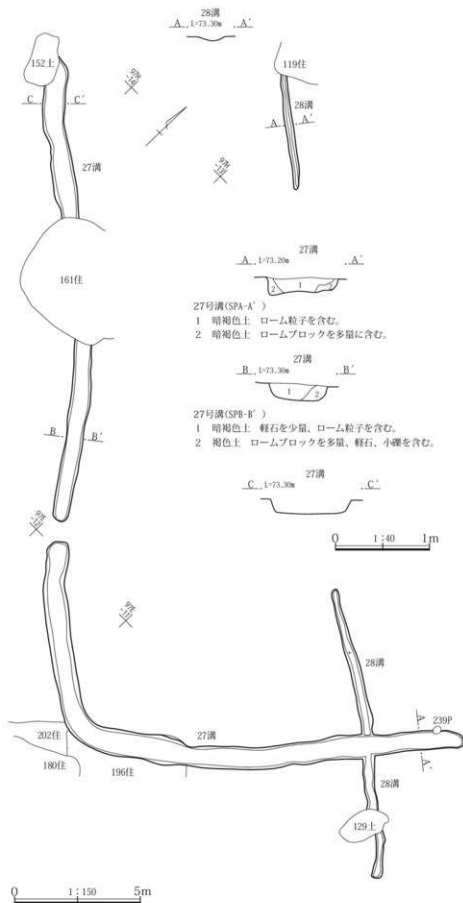
第370図 1区22号溝



第4章 発掘調査の記録



第371図 1区23～26・29～31号溝

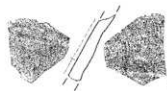
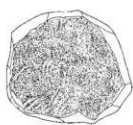
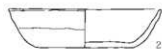
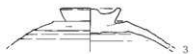


第372図 1区27・28号溝

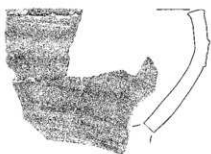
1区1号溝



1区2号溝



10(1/4)



9(1/4)



11(1/4)



12(1/2)

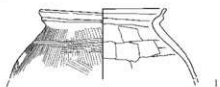
0 1;2 4cm

0 1;4 8cm

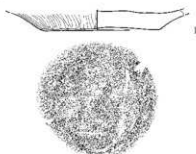
0 1;3 10cm

第373図 1区1・2号溝出土遺物

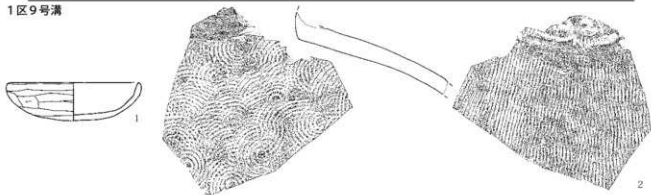
1区5号溝



1区8号溝



1区9号溝



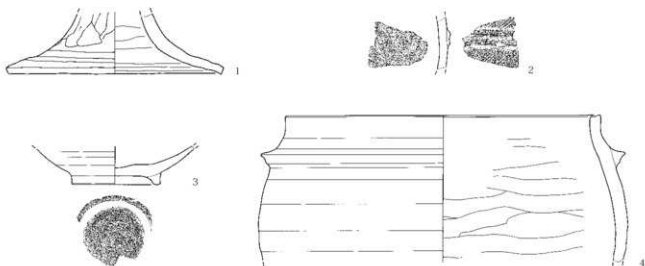
1区10号溝



1区13号溝



1区17号溝



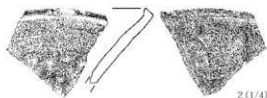
0 1:3 10cm

第374図 1区5・8～10・13・17号溝出土遺物

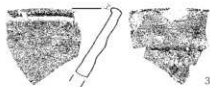
1区19号溝



1区22号溝



2 (1/4)



3 (1/4)

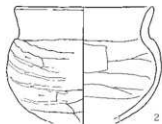
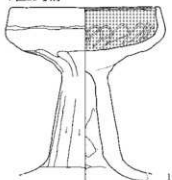


4 (1/4)



5 (1/2)

1区23号溝

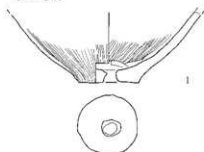


2



3

1区27号溝

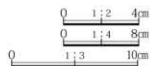


1

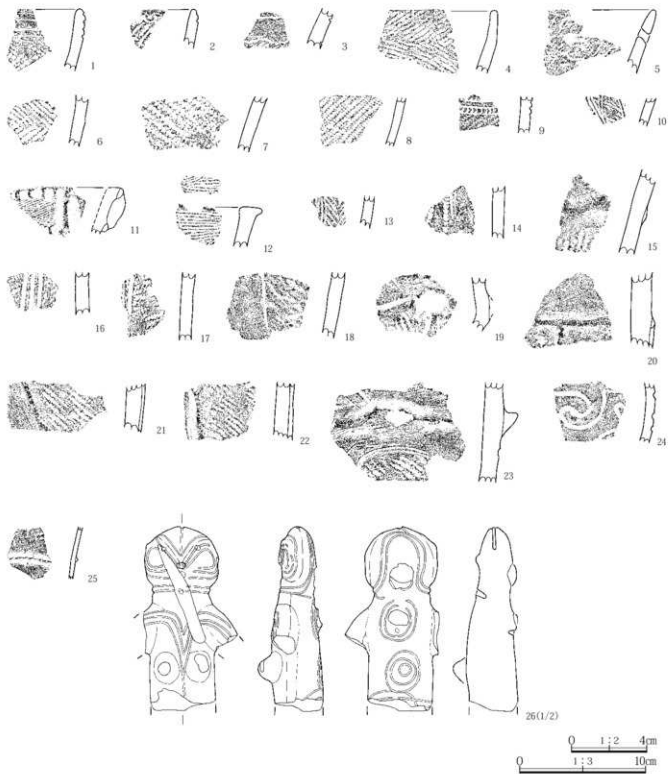
1区30号溝



1



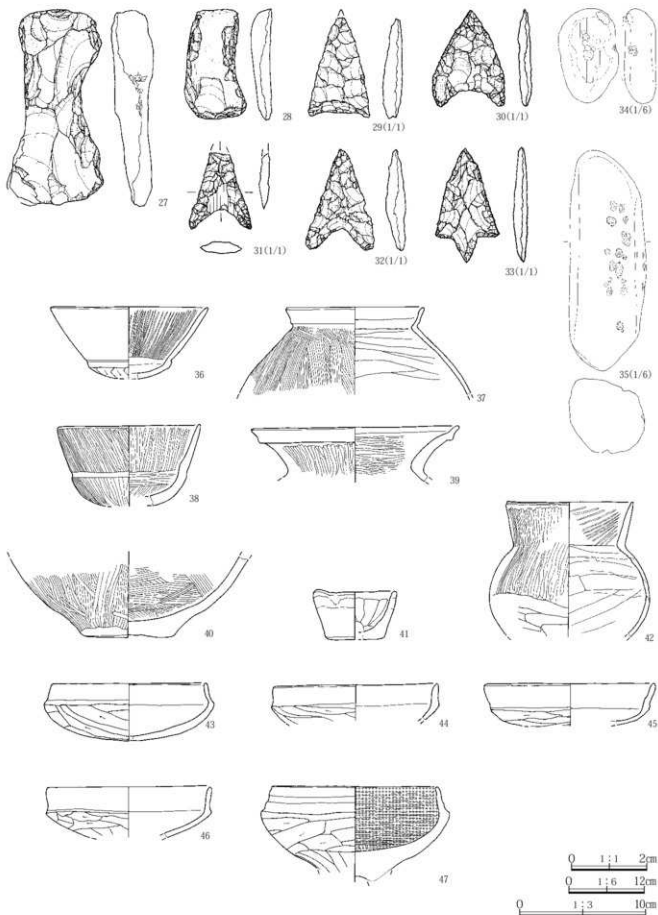
第375図 1区19・22・23・27・30号溝出土遺物



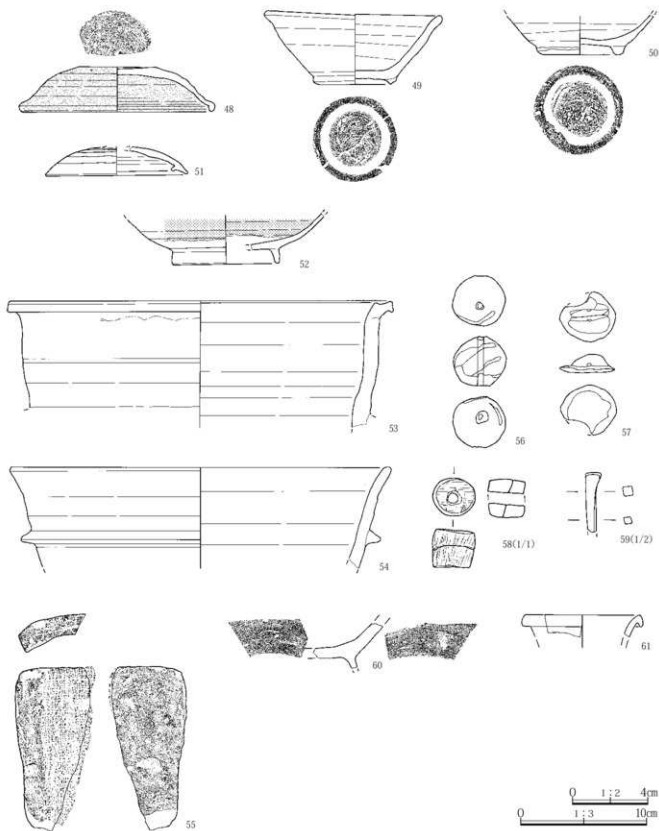
第376図 遺構外出土遺物(1)

## (6) 遺構外出土遺物(第376～378図、PL.300・301)

住居や土坑、溝の覆土中から出土した縄文土器片も遺構外として扱った。縄文時代前期(花積下層式、黒浜・有尾式、諸磯a・b・c式)、中期(勝坂式、加曾利E式)、後期(称名寺式、堀之内式)の土器片が出土している。



第377図 遺構外出土遺物(2)



第378図 遺構外出土遺物(3)



第4章 発掘調査の記録

1区1号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2388回	1	土師器 杯	1/4	口 10.8 高 3.0 底 8.7	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	

1区2号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2388回	1	土師器 杯	口縁部～底部 片	口 11.4 底 7.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第2388回	2	須恵器 甕	口縁部～頸部 片		細砂粒・片岩/還元/灰	口ロ整形、回転右回り。	

1区3号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2388回	1	須恵器 杯	底部～体部下 半片	底 5.6	粗砂粒/還元燻/褐 灰	口ロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

1区4号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2388回	1	土師器 杯	口縁部～体部片	口 18.8 径 16.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(楕下)から底部は手持ちへら削り。	
第2388回	2	須恵器 蓋	13.3 底部片	底 26.8	細砂粒/酸化/にぶ い橙	口ロ整形。	
第2388回	3	須恵器 羽釜	口縁部～胴 部上位片	口 21.8 径 26.6	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	口ロ整形、回転右回りか、跨は貼付。	

1区5号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2388回 PL.261	1	土師器 杯	-1.6・13.3 3/5	口 11.5 高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第2388回	2	土師器 甕	口縁部～胴 部下位片	口 23.4	細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

1区7号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2388回 PL.261	1	土師器 杯	47.0 ほぼ完形	口 10.8 高 3.6	細砂粒多/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第2388回 PL.261	2	土師器 杯	0.7-1.2 口縁部～体部 1/6欠損	口 11.4 高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り。	
第2388回 PL.261	3	土師器 杯	-0.1 1/2	口 11.8 高 3.9	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り。	
第2388回 PL.261	4	土師器 杯	-5.5・2.3 ほぼ完形	口 12.6 高 3.9	細砂粒/良好/灰黄 濁	口唇部は横撫で、口縁部が撫で、体部から底部は手持ちへら削り。内面には螺旋状噴文か、器面磨減のため単位など不鮮明。	
第2388回 PL.261	5	土師器 杯	-0.1	口 14.0 高 3.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は上半が横撫で、下半が撫で、体部から底部は手持ちへら削り。	
第2388回	6	土師器 杯	口縁部～ 体部1/2	口 12.6	細砂粒/良好/明赤 濁	口唇部は横撫で、口縁部は撫で、体部から底部は手持ちへら削り。	
第2388回	7	土師器 杯	3.1 口縁部～底部片	口 12.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、脚に撫での部分を残す。内面撫で。	
第2388回	8	土師器 杯	1.2・1.4 口縁 部～底部片	口 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第2388回	9	土師器 杯	7.0 1/4	口 11.8 高 3.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第2388回	10	土師器 杯	5.1 2/5	口 11.6 高 2.7	細砂粒/良好/明赤 濁	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り、口縁部下にわずかに撫で部分が残る。	内面に煤が噴点状に付着。
第2388回 PL.261	11	須恵器 杯	2.0 2/3	口 16.8 高 4.0 底 15.4	粗・粗砂粒・角閃 /還元/灰	口ロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り。体部中に段を有す。	
第2388回	12	須恵器 甕	6.7 1/4	口 19.0 高 5.0 底 14.2	細砂粒/還元/灰	口ロ整形、回転右回り。底部は手持ちへら削り。	
第2388回 PL.261	13	土師器 高坪	脚部片	脚 16.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	内面に輪積み状の痕がある。脚部はへら削り、裾部は横撫で。内面脚部はへら撫で。	
第2390回 PL.261	14	須恵器 長頸壺	口縁部～ 胴部上位	口 8.8 肩 18.8 頸 5.8	細砂粒/還元/灰	口ロ整形、回転右回り。口縁部は胴部に貼付、頸部凸帯も貼付か。	帯は貼付。
第2390回 PL.261	15	土師器 甕	口縁部～ 胴部上位片	口 21.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第2390回 PL.261	16	土師器 円筒	2.1 基部～ 底1凸部片	底 22.0	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	凸部は貼付、底面は撫で、体部は縦位のハケ目(1cm当たり4本)。	僅かに透孔を確認。

採回番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第239回 PL.261	17	紡錘車	17	厚型	砥石	径4.3	高2.2	49.3	裏面側平坦部周辺を磨行。	
採回 図版	No.	器種 種類	出土位置	残存率		計測値			特徴・状態	
第239回 PL.261	18	鉄製品 釧	覆土	対部先端側 1/4欠		長12.0	幅3.7	厚0.3	重27.7	長期の使用のため対部がすり減っている。先端は破損とみられるがすでに錆化している。
第239回 PL.261	19	鉄製品 釧	覆土	基部側1/4片		長8.7	幅3.5	厚0.4	重40.9	劣化が著しく土砂を巻き込み錆化本体は空洞化しきわめて脆弱なため詳細な形状は不明。

## 1区8号住居出土遺物

採回番号 PL.番号	No.	器種 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要			
第239回 PL.261	1	土師器 杯	-2.4 完形	口12.0 高3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。				
第239回 PL.261	2	土師器 杯	-3.1 土師部/欠損	口11.5 高3.7	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。				
第239回 PL.261	3	土師器 杯	-3.1 1/2	口10.8 高3.5	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削りか、器面磨滅のため単位不明。				
第239回	4	土師器 杯	0 1/3	口11.6 高3.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。				
第239回 PL.261	5	土師器 杯	-2.6~0.7 土師部/破片	口14.6 底11.0	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削りか、器面磨滅のため単位不明。				
第239回	6	須恵器 壺	- 口縁部~ 胴部上半片	口11.0	細砂粒/還元/灰	口縁部整形、回転石回り。頸部と胴部の境にわずかな稜が通る。				
採回 図版	No.	器種 種類	出土位置	残存率	計測値	特徴・状態				
第239回 PL.261	7	鉄製品 刀子	覆土	関~対部2/3	長9.3 幅1.5 厚0.3 重17.5	錆化が進むが内部にわずかに金属鉄がある。棟・刃ともに明確な刃を持つ。茎は関から1cm程度破損し端部は錆化する。				
採回番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第240回 PL.261	8	砥石	8	練砥石	粗粒輝石安山岩	24.5	20.6	4842.4	背面側に光沢を帯びた摩耗面、裏面側中央に凹みがあり、左辺磨滅縁に稜線が形成されており、側縁も砥石として使用されている。	

## 1区9号住居出土遺物

採回番号 PL.番号	No.	器種 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要			
第240回 PL.261	1	土師器 杯	-	口14.2 底11.7	細砂粒・角閃/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第240回	2	土師器 杯	1/3	口11.8 高4.1 底12.6	細砂粒・角閃/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第240回	3	土師器 杯	-	口12.0 底12.7	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第240回	4	土師器 壺	4.5 1/5	口11.6 高16.1 胴17.3	細・粗砂粒・角閃/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部とヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
採回番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第240回 PL.261	5	石製磨道具	カマド	白玉	滑石	径7.0	高0.5	0.4	上下両面に折断面、面を整える程度に研磨。側面中央が膨らみ、縦・横稜線に粗い整形痕を施す。	

## 1区10号住居出土遺物

採回番号 PL.番号	No.	器種 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要			
第240回 PL.261	1	土師器 杯	-0.8 1/2	口11.8 高3.3 底9.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。				
第240回 PL.261	2	須恵器 杯	0.7~0.8 2/3	口11.8 高3.8 底7.0	細砂粒/還元/灰白	口縁部整形、回転石回り。底部は回転石切り無調整。				
採回番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第240回 PL.261	3	砥石	フク土	切り砥石	砥石	4.0	1.8	10.4	四面使用。下端小口部は横位研磨整形。上半部欠損。	

## 1区11号住居出土遺物

採回番号 PL.番号	No.	器種 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第240回 PL.261	1	土師器 杯	0.3 3/4	口16.4 高5.9 底16.8	細砂粒/良好/明赤陶	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。	内外面に保土のものが付着。

## 1区12号住居出土遺物

採回番号 PL.番号	No.	器種 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第240回 PL.262	1	土師器 用	3.7 3/5	口12.0 高6.6 径8.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部上半は撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面底部は撫で。	
第240回 PL.262	2	土師器 小型丸底甕	3.7 口縁部欠損	胴10.8 底3.2	細砂粒/良好/浅黄	外面底部と内面胴部を除き赤色塗彩。口縁部から胴部はヘラ磨き。底部はヘラ削り。内面は口縁部から頸部へラ磨き。	胴部下位に1対の穿孔、径3mm。

第4章 発掘調査の記録

探検番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第240図 PL.262	3	砥石	3	礫砥石	デイスait	13.4	(7.6)	567.4	表裏面に光沢を帯びた研磨面。背面側研磨面は窪む。	

1区14号住居出土遺物

探検番号 PL.番号	No.	器種	類別	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第240図 PL.262	1	須恵器	杯蓋	26.9 1/2	□ 13.8 高 2.7 幅 4.1	細砂粒・角閃/濼元/灰黄褐色	□ロク整形、回転右回り。握みは貼付、天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。		
第240図	2	須恵器	椀	- 1/5	□ 11.0 高 5.4 底 6.3 台 6.6	細砂粒/濼元/灰	□ロク整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転削り。		
探検図版	No.	器種	類別	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第240図 PL.262	3	銅製品	箔片	覆土	-	長 2.3幅 3.5厚 0.35重 9.1		厚さ0.3cmのやや湾曲する長方形の外形で、表面では四方に0.2cmの穴があり三か所の穴では金具の足と見られる金属が充足する。表面では穴は約0.3cmと大きく凹みとなっている。長辺は二次加工か、わずかえぐれた形状を示すが表面が錆化しその加工等の痕跡は観察できない。	

1区15号住居出土遺物

探検番号 PL.番号	No.	器種	類別	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第240図 PL.262	1	土師器	杯	1.8 完形	□ 12.0 高 3.3	細砂粒/良好/橙	□縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	内面に煤が斑点状に付着。	
第241図	2	須恵器	杯蓋	- 1/4	□ 12.8 高 2.3 幅 4.9	細砂粒/濼元/灰黄褐色	□ロク整形、回転右回り。握みは貼付、天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。		
第241図	3	須恵器	杯蓋	- □縁部片	□ 18.6	細砂粒/濼元/灰白	□ロク整形、回転右回りか。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。		
第241図	4	土師器	椀	-2.0 □縁部 -胴部上位片	□ 21.8	細砂粒/良好/明黄褐色	□縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。		
第241図	5	土製品	土練	2/3	長 4.7 孔 0.4 径 1.2 重 5.9	微砂粒/良好/に赤い黄褐色	表面は撫で。		

1区16号住居出土遺物

探検番号 PL.番号	No.	器種	類別	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第241図 PL.262	1	土師器	杯	- 2/3	□ 12.2 高 4.0	細砂粒/良好/橙	□縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。		
第241図 PL.262	2	土師器	杯	- 1/2	□ 11.0 径 10.5	粗・粗砂粒/良好/橙	□縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。		
第241図	3	土師器	杯	2.0 □縁部一体部片	□ 11.6	粗砂粒/良好/に赤い赤褐色	□縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。		

1区17号住居出土遺物

探検番号 PL.番号	No.	器種	類別	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第241図	1	土師器	椀	1.7 □縁部～ 胴部上位片	□ 23.6	細砂粒・黄色粒/良好/に赤い橙	□縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。		
第241図	2	土師器	椀	6.2 □縁部～ 胴部上位片	□ 24.0	粗砂粒・片岩/良好/明赤褐色	□縁部は横撫で、胴部下に撫でが残る。胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。		
第241図	3	土師器	椀	6.2 □縁部～ 胴部上位片		粗砂粒/良好/に赤い黄褐色	□縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。		
第241図	4	須恵器	羽釜	1.6 □縁部～ 胴部上位片	□ 22.4 径 25.2	粗砂粒/酸化/橙	□ロク整形、回転方向不明。跨は貼付、胴部は撫で、内面胴部はヘラ撫で。		
第241図 PL.262	5	須恵器	羽釜	3.0-13.8 □縁部～ 胴部中位片	□ 22.6 径 26.3	細砂粒・角閃/酸化/に赤い黄褐色	跨は貼付、胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。		
第242図 PL.262	6	須恵器	羽釜	1.3-5.0 □縁部～ 胴部下位片	□ 24.4 径 27.6	細砂粒・粗砂粒/酸化/に赤い黄褐色	□ロク整形、回転右回り。跨は貼付、胴部は縦位のヘラ削り後上位を撫で消している。内面は胴部上位にヘラ撫で。		
第242図 PL.262	7	須恵器	羽釜	0-5.0 □縁部～ 胴部下位片	□ 26.2 径 30.0	細砂粒・褐色粒/酸化/に赤い黄褐色	跨は貼付、胴部は縦位のヘラ削り後、中位と下位に横位のヘラ削り。内面はヘラ撫で。		
第242図	8	須恵器	羽釜	1.0 □縁部～ 胴部上半片	□ 23.4 径 27.6	粗砂粒・角閃・片岩/酸化/暗褐色	跨は貼付、□縁部横撫で、胴部斜めのヘラ削り。内面は全面ヘラ撫で。		

1区18号住居出土遺物

探検番号 PL.番号	No.	器種	類別	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第241図	1	須恵器	杯	- 1/3	□ 13.4 高 4.2 底 6.0	細砂粒・角閃/濼元/灰	□ロク整形、回転右回り。底部は回転糸切り後ヘラ削りか。		
第241図	2	須恵器	杯	3.7 1/4	□ 13.5 高 4.2 底 6.0	細砂粒/濼元/灰黄褐色	□ロク整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第242図 PL.262	3	須恵器	皿	10.0 □縁部凹み/穴状	□ 13.6 高 3.0 底 6.5 台 6.5	細砂粒・褐色粒/濼元/灰	□ロク整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。		
第242図	4	須恵器	椀	9.2 底部	底 7.3 台 18.2	細砂粒/濼元/灰黄褐色	□ロク整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。		
第242図	5	土師器	椀	3.6 □縁部～ 胴部中位片	□ 6.1 径 19.7	細砂粒/良好/に赤い橙	外面胴部に輪轆み痕が残る。□縁部から胴部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	内面胴部に腐食のものが付着。	

検回番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第242回 PL.262	6	土師器 甕	11.0 口縁部 →胴部下位片	口 19.5 胴 20.7	細砂粒・褐色粒 良好/にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第243回 PL.262	7	土師器 甕	6.0 口縁部 →胴部中央片	口 17.0 胴 19.2	細砂粒・褐色粒 良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部は上半がハケ目状へら撫で。	

## 1区19号住居出土遺物

検回番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第243回 PL.263	1	土師器 甕	4.0 2/5	口 15.5 高 5.9 胴 9.7	細砂粒・褐色粒 良好/橙	口縁部は斜放射状へら磨き(暗文状)、底部(膝下)は手持ちへら磨き(暗文状)。	口唇部の内外面にごく深い凹線が通る。
第243回	2	土師器 器台?	- 身部小片	口 7.7	微砂粒/良好/暗赤褐色	口縁部横撫で、底部はへら削りか。	内外面とも赤色成彩。
第243回	3	土師器 高環	3.0 胴部上半	-	細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部内面は黒色処理。外面は丁寧な縦位のへら削り、内面はへら撫で。	
第243回 PL.263	4	土師器 甕	- 口縁部→胴部 上位片	口 13.2 胴 19.0	細砂粒/良好/浅黄褐色	口縁部から頸部と頸部下から胴部は縦位のへら磨き。内面は口縁部が横位のへら磨き、胴部はへら撫で。	内外面とも部分的に煤が付着。
第243回 PL.263	5	土師器 甕	- 口縁部→胴部 下位片	口 12.8 胴 18.0	細砂粒・褐色粒 良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

## 1区20号住居出土遺物

検回番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第243回 PL.263	1	土師器 杯	- 3/4	口 10.5 高 3.3	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り。	
第243回 PL.263	2	土師器 杯	- 1/2	口 9.8 高 3.5 底 9.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	内面は全面、外面は一部が漆塗り。
第243回	3	土師器 杯	- 1/4	口 9.5 高 4.5 底 11.0	細・粗砂粒・白色粒 良好/にぶい橙	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第243回	4	土師器 杯	- 口縁部→体部片	口 13.8 底 14.2	細砂粒/良好/にぶい黄橙	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第243回	5	土師器 蓋	- 1/4	口 15.5 高 6.4 底 12.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	縁目は貼付か。口縁部は横撫で、天井部は手持ちへら削り後漆塗へら磨き。内面中央は撫で。	小型鉢、小型の壺、鉢などに伴う蓋か。
第243回 PL.263	6	土師器 鉢	- 口縁部→体部片	口 14.3 底 16.0	細砂粒多/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第243回	7	須恵器 杯	3/5	口 13.1 高 3.3 底 8.6	細砂粒/還元/灰白	口縁部整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第243回	8	土師器 甕	- 口縁部→胴部片	口 14.2 底 19.8	細砂粒・角閃・ガラス質/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横撫で。内面胴部はへら撫で。	

## 1区22号住居出土遺物

検回番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第244回	1	土師器 杯	- 口縁部→体部 1/3片	口 10.9	細・粗砂粒・礫 酸化/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り。	
第244回 PL.263	2	土師器 杯	7.7 凸形	口 11.9 高 3.8	細砂粒/良好/暗赤褐色	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り、口縁部と体部の間に撫で部分が残る。	
第244回 PL.263	3	須恵器 杯	0.5 口縁部/3欠損	口 9.1 高 3.5 底 4.1	細砂粒・褐色粒 酸化/にぶい橙	口縁部整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第244回	4	須恵器 杯	0.5 1/4	口 8.0 高 3.0 底 5.2	細砂粒・褐色粒 酸化/にぶい黄橙	口縁部整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第244回	5	須恵器 杯	- 底部	底 5.1	細砂粒/酸化/浅黄褐色	口縁部整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第244回	6	須恵器 杯	- 口縁部片	口 10.7	細砂粒/酸化/にぶい黄橙	口縁部整形、回転右回りか。	
第244回 PL.263	7	須恵器 壺	20.0/31.0 4/5	口 11.8 高 4.5 底 6.7 台 6.5	細砂粒・角閃/酸化/浅黄褐色	口縁部整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
第244回	8	須恵器 杯	5.5 底部→体部 片	底 7.2 台 8.8	細砂粒/酸化/にぶい黄橙	口縁部整形、回転右回り。高台は貼付、底部は横撫で。	
第244回 PL.263	9	須恵器 羽釜	-0.5 口縁部 羽釜	口 22.8 底 26.8	細砂粒/酸化/にぶい赤褐色	縁は貼付、胴部は縦位のへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第244回	10	須恵器 羽釜	2.6 口縁部→胴部 上位片	口 19.6 底 24.8	細砂粒/酸化/にぶい赤褐色	口縁部整形。縁は貼付、胴部は斜めのへら削り。	
第244回	11	須恵器 壺	3.7 底部片	底 21.6	細砂粒/酸化/灰白	口縁部整形、回転右回りか。	

## 1区23号住居出土遺物

検回番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第244回 PL.263	1	土師器 杯	5.1 5/6	口 12.5 高 3.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	内面漆塗り。

第4章 発掘調査の記録

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第244回 PL.263	2	土師器 杯	3/4	口 12.0 高 3.5	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ 削り。	
第244回 PL.263	3	土師器 杯	1.1 1/2	口 12.4 高 4.2	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ 削り。	
第244回	4	土師器 杯	- 口縁部~底部片	口 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ 削り。	
第244回	5	土師器 杯	4.9 口縁部~体部片	口 12.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削りか、器面 磨滅のため単位など不明。	
第244回	6	土師器 杯	- 口縁部~体部片	口 12.6	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ 削り。	
第244回	7	土師器 杯	4.6 1/3	口 13.8 高 3.9	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ 削り。	
第244回	8	土師器 罍	8.6 口縁部~ 胴部上位片	口 14.8	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラ撫で。	
第244回	9	土師器 罍	3.4 口縁部~ 胴部上位片	口 14.0	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラ撫で。	
第244回	10	須恵器 杯	15.6 1/4	口 15.3 高 4.4 底 13.5 台 10.8	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部と体部下半 は回転ヘラ削り。	
第244回	11	須恵器 杯	10.6 1/3	口 18.2 高 4.5 底 13.8 台 13.2	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削 り、後周回を回転ヘラ削り。	内面に煤または 息が付着、 附着部分は研 磨状態。
第244回	12	土師器 罍	1.5 口縁部~ 胴部上位片	口 13.0	細砂粒・ガラス質 粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で、 口唇部下に凹線が1条走る。	
第244回	13	土師器 罍	3.4・3.6 底部 ~胴部下位片	底 5.3	細砂粒/良好/明黄 褐	底部、胴部ともヘラ削り。内面はヘラ撫で。	

1区24号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第245回	1	須恵器 椀	- 底部	底 6.6 台 5.9	細砂粒・長石/還 元/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転系切り。	

1区25号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第245回 PL.263	1	土師器 杯	-0.4 3/4	口 13.2 高 3.6 底 13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り。	

1区30号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第245回 PL.263	1	須恵器 杯	8.9 3/5	口 13.4 高 4.2 底 5.3	細砂粒・角閃/酸 化/にぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。器面 やや磨滅。	
第245回 PL.263	2	須恵器 椀	8.4 3/5	口 14.2 高 4.9 底 7.6 台 6.2	細砂粒/還元/灰黄 褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転系切り。	

1区31号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第245回 PL.263	1	須恵器 杯	7.6 完形	口 9.7 高 2.7 底 4.4	細・粗砂粒・褐色 粒/酸化/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第245回 PL.263	2	須恵器 杯	8.8 完形	口 8.9 高 2.7 底 5.2	細砂粒/酸化/灰黄 褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	外面口唇部の 一部、内面口 縁部に煤が付 着。磨明面。
第245回 PL.263	3	黒色土器 椀	7.6・8.7 3/4	口 14.7 高 6.0 底 7.5 台 7.2	細・粗砂粒・角閃 粒/酸化/にぶい黄 橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底 部は回転系切りか。内面は放射状ヘラ磨き。	
第245回	4	須恵器 杯	25.9 口縁部~体部片	口 14.3	細・粗砂粒・褐色 粒/酸化/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第245回	5	土師器 罍	2.8 口縁部~頸部片	口 23.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ撫で。内面胴部はヘラ撫で。	内面の口縁部 から頸部に煤 が付着。
第245回	6	土師器 罍	7.9 口縁部~ 胴部上位片	口 16.7	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部は横撫で。	ロクロ襷。

1区32号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第245回 PL.263	1	須恵器 杯	2.0 完形	口 11.5 高 4.2 底 6.3	細・粗砂粒/酸化/	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第245回	2	須恵器 杯	- 底部~体部下半	底 6.7 台 6.2	細砂粒/酸化/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転系切りか。	
第245回	3	須恵器 椀	- 底部~体部下半	底 6.1 台 6.1	細・粗砂粒/酸化 /にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転系切りか。	

## 1区33号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第245例 PL.263	1	土師器 杯	6.7 1/4	口12.1 高 3.5 底 7.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	外面底部に「牛」、内面口縁部に「口」の書画。
第245例	2	土師器 杯	3.8 口縁部～体部片	口11.8 底 8.2	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削りか。	
第245例	3	須恵器 椀	底 6.8 ～体部下	底 5.8	細砂粒・白色粒 還元/灰	口ロコ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
第245例 PL.263	4	須恵器 皿	口縁部1/2 欠損	口12.5 高 2.8 底 7.4 台 6.8	細砂粒/還元/灰黄褐色	口ロコ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	

## 1区34号住居出土遺物

種別番号 No.	種器 種類	出土位置	残存率	計測値	特徴・状態
第245例	鉄製品 刀子			長6.1幅1.6厚0.2重8.6	錆化が進み内部は空洞になっている。形状は不明瞭であるが断面形状等から刀子の破片とみられる。

## 1区35号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第245例	1	土師器 杯	-	口14.0 径 14.2	細砂粒・褐色粒 良好/明赤褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第245例	2	土師器 台付甕	口縁部・胴部 上半片	口13.7 胴 19.0	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部から胴部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	内外面の一部に復が付着。
第245例	3	土師器 台付甕	口縁部～胴部片	口14.3	細砂粒/良好/灰黄褐色	口縁部横撫で、胴部縦位にハケ目(6)、内面胴部は撫で。	
第245例	4	土師器 台付甕	口縁部～胴部 上半片	口13.1	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横撫で、胴部縦位にハケ目(7)、内面胴部はへら撫で。	
種別番号 PL.263	No.	種器 種類	出土位置	残存率	計測値	特徴・状態	
第245例	5	鉄製品 釵	-	刃部片	長5.8幅2.8厚0.3重24.9	錆化が進むが内部に金属鉄がある。一端は破損し全体形状は不明。	

## 1区36号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第246例 PL.263	1	須恵器 杯	0.9 ほぼ完形	口12.6 高 4.1 底 6.2	細・粗砂粒・角閃 酸化/にぶい黄褐色	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第246例 PL.263	2	須恵器 椀	0.5 口縁部～体部 1/5欠損	口12.1 高 5.0 底 6.6 台 5.4	細・粗砂粒/酸化 きみ/黄灰	口ロコ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	外面底部と内面は焼し焼成か。

## 1区38号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第246例 PL.264	1	土師器 杯	2/3	口13.5 高 4.8 径 13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第246例 PL.264	2	土師器 杯	1/2	口13.0 高 4.6 径 13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第246例 PL.264	3	土師器 杯	4/5	口12.3 高 4.2 径 12.2	細・粗砂粒・褐色 粒/良好/にぶい黄褐色	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第246例	4	土師器 杯	15.1 1/2	口13.0 高 5.0 径 13.3	細砂粒/良好/にぶい橙	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第246例	5	土師器 杯	1/3	口12.8 高 3.9 径 12.5	細砂粒/良好/灰黄褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	内面に復付着 箇所あり。
第246例 PL.264	6	土師器 杯	11.8 1/2	口12.8 高 4.0 径 13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第246例 PL.264	7	土師器 杯	口縁部～体部片	口13.9 径 14.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第246例 PL.264	8	土師器 高杯	3.6-10.4 杯身部3/5	口18.0 径 10.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第246例 PL.264	9	土師器 高杯	杯身部	口17.8 径 10.1	細砂粒・粗砂粒 良好/明赤褐色	脚部は貼付。口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。内面底部はへら撫で。	
第246例 PL.264	10	土師器 高杯	～脚部	脚 17.2	細砂粒/良好/橙	杯身はボツ状の突起をもつ形状か。脚部は外面縦位、内面横位にへら削り。基部は内外面とも横撫で。	
第246例 PL.264	11	土師器 台付短頸甕	13/4	口10.0 底 5.4 径 10.7	細砂粒多/良好/にぶい黄褐色	脚部は貼付。口縁部横撫で、胴部(膝下)から底部・脚部は手持ちへら削り。内面胴部はへら撫で、脚部上半は撫で。	
第246例 PL.264	12	土師器 台付甕	2.7 ほぼ完形	口18.6 高 24.1 脚 8.1 胴 20.6	細砂粒/良好/浅黄褐色	脚部は貼付。口縁部は横撫で、胴部はへら削り。上半は外面磨減のため単位不明。胴部は撫で。内面胴部はへら撫で、脚部は撫で。	外面上半に復が付着。内面底部にはオコケ状のものも付着。

第4章 発掘調査の記録

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第246回 PL.264	13	須恵器 杯蓋	- 1/3	口 14.5 高 4.8	細・粗砂粒・角四・ 長石/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転へう削り。				
第246回 PL.264	14	須恵器 杯身	3.6 ほぼ完形	口 12.9 高 3.8 径 14.8	細・粗砂粒・白色 粒/還元/灰	ロクロ整形、回転左回りか。底部は回転へう削り。	底部にへう描き			
第247回 PL.264	15	土師器 甕	- 完形	口 23.0 高 35.3 底 3.0	細・粗砂粒多/良好/ にふい槽	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部と底部はへう削り。内面胴部はへう削り。	口縁部楕円形径20.5×23.3 外面胴部に粘土付着。			
第247回 PL.264	16	土師器 甕	- ほぼ完形	口 21.5 高 38.0 底 5.0	細・粗砂粒・角四/ 良好/にふい赤褐色	口縁部から頸部は横撫で、胴部と底部はへう削り。内面胴部はへう削り。				
第247回 PL.265	17	土師器 甕	- ほぼ完形	口 18.5 高 34.3 底 5.6	細・粗砂粒・霽・ 角四/良好/にふい黄褐色	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへう削り。				
第247回 PL.265	18	土師器 甕	29.3 底部～ 胴部下位1/4欠	口 19.3 高 35.0 底 3.7	細砂粒/良好/にふい 赤褐色	口縁部から頸部は横撫で、胴部と底部はへう削り。内面胴部はへう削り。				
第248回 PL.265	19	土師器 甕	19.5-24.6 底部～ 胴部下位	口 19.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/槽	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう削り。				
第248回 PL.265	20	土師器 甕	8.6 胴部 下半1/3 欠損	口 19.3 高 35.2 底 3.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にふい槽	口縁部から頸部は横撫で、胴部と底部はへう削り。内面胴部はへう削り。	外面胴部下位に擦れた痕跡あり、甕長着時の痕跡か。			
第248回	21	土師器 甕	14.1 口縁部～ 胴部下位片	口 17.4	細・粗砂粒・角四・ 長石/良好/にふい槽	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう削り。				
第248回	22	土師器 甕	12.0-23.5 口縁部～ 胴部下位片	口 21.6	細・粗砂粒・角四/ 良好/槽	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう削り。				
第248回 PL.266	23	土師器 甕	12.0-16.4 3/4	口 23.2 高 23.4 底 10.2	細砂粒/良好/赤褐色	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り後中位から下位は縦位のへう磨き。内面胴部はへう削り後下半に縦位のへう磨き。				
第246回	24	土製品 土鉢	- ほぼ完形	長 8.3 孔 0.4 径 1.2 重 11.8	微砂粒/良好/槽	表面は撫で。				
第246回	25	土製品 土鉢	- 1/2	長 3.4 孔 0.5 径 1.3 重 5.7	微砂粒/良好/にふい 黄褐色	表面は撫で。				
検出番号 図版番号	№	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第246回 PL.266	26	石製品	26	楕円円盤	二ッ岳軽石	10.4	9.2	227.0	背面側に径5cmを測る凹み部。凹み部は敲打後、粗く面整形を施す。	

1区39号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第249回	1	土師器 杯	11.0 体部～ 底部	径 6.4	細砂粒/良好/槽	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへう削り。	
第249回 PL.266	2	土師器 台付甕	5.1 口縁部～ 胴部下位片	口 12.8	微砂粒/良好/にふい 黄褐色	口縁部横撫で、胴部は縦位のハケ目付。内面胴部はへう削り。	内面は頸部から下位に煤が付着。
第249回 PL.266	3	土師器 甕	1.6 口縁部欠損	底 3.4 高 9.8 胴 11.0	微砂粒・ガラス質 粒/良好/にふい赤褐色	口縁部から胴部はへう磨き、底部はへう削り。内面は口縁部から頸部はへう磨き、胴部は撫でか。	胴部中ほどよりやや下位に径6mmの小孔あり。

1区40号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第249回 PL.266	1	土師器 杯	18.8 4/5	口 11.7 高 3.1	細砂粒/良好/にふい 槽	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへう削り。	
第249回	2	土師器 杯	15.6 口縁部～ 底部片	口 12.0 底 9.8	細砂粒/良好/槽	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへう削り。	
第249回 PL.266	3	土師器 杯	- 1/2	口 13.8 高 3.0	細砂粒/良好/灰褐色	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへう削り。	内面底部に煤が付着。
第249回	4	土師器 杯	- 口縁部～底部片	口 16.5 径 13.0	細砂粒/良好/槽	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへう削り。	
第249回	5	須恵器 杯	- 1/2	口 12.8 高 3.8 底 3.8	細・粗砂粒・角四/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第249回	6	黒色土器 短頸壺	33.4 口縁部～ 胴部下位片	口 12.4 胴 20.0	細砂粒・褐色色粒/ 礫化/にふい槽	内面黒色処理。ロクロ整形か、口縁部横撫で、胴部はへう磨き。内面は全面へう磨き。	外面胴部中に帯状に擦れで面不整形不明箇所あり。

1区41号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第249回 PL.266	1	土師器 杯	- 1.6 ほぼ完形	口 11.2 高 3.4	細砂粒多/良好/明 赤褐色	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへう削り。	

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第249回 PL.266	2	土師器 杯	6.2 4/5	□ 11.9 高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第249回 PL.266	3	土師器 杯	3.4 ほぼ完形	□ 11.4 高 3.3	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
第249回 PL.266	4	土師器 杯	-1.4 2/3	□ 12.4 高 3.9	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
第249回 PL.266	5	土師器 杯	1.8-1.9 ほぼ完形	□ 13.0 高 4.7	細砂粒・粗砂粒少 量/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第249回 PL.266	6	土師器 杯	1.8 ほぼ完形	□ 12.1 高 4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第249回 PL.266	7	土師器 杯	- 口縁部~底部片	□ 13.0 横 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第249回 PL.266	8	土師器 杯	-0.4 完形	□ 16.5 高 4.3 横 13.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第249回 PL.266	9	土師器 杯	-0.1~6.2 4/5	□ 16.2 高 3.7 横 13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
第249回 PL.266	10	土師器 甕	-0.1 口縁部 ~胴部上位	□ 22.2	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第249回 PL.266	11	土師器 甕	- 口縁部~胴 部上位片	□ 25.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

## 1区42号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第250回 PL.266	1	土師器 杯	4.3 完形	□ 10.8 高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第250回	2	土師器 杯	1/4	□ 11.7 高 3.3	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は上半が横撫で、下半が撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第250回	3	土師器 盤	6.3 1/3	□ 18.9 高 3.0 横 16.6	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面に煤状のものが斑点状に付着。
第250回	4	土師器 杯	- 口縁部~体部 1/3片	□ 15.0	細砂粒/良好/橙	口唇部は横撫で、口縁部から体部・底部は手持ちヘラ削り。内面は放射状肌文。	内面口唇部にごく細かい凹線が巡る。
第250回 PL.266	5	須恵器 杯	4.2 1/2	□ 14.6 高 4.1 底 11.2 台 10.2	細砂粒・黒灰/還元/灰白	□口ロ整形、回転石回り。高台は取付、底部回転ヘラ削り後撫で。	
第250回	6	須恵器 甕	11.9・14.3 胴部片	頸 14.6 胴 23.7	細砂粒・角閃・長石/還元/灰	□口ロ整形、外面に平行叩き筋、内面は同心円状アケ貝筋が残る。胴部中位は回転ヘラ削り。	
第250回 PL.266	7	土師器 甕	-10.3 口縁部~胴部 上半片	□ 24.5	細・粗砂粒・粗色粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第250回	8	土師器 甕	13.2 口縁部 ~胴部上位片	□ 21.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

## 1区44号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第250回	1	土師器 杯	- 1/4	□ 11.0 高 4.0 横 12.2	細砂粒/良好/にぶい橙	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第250回	2	土師器 杯	- 口縁部~片 底部片	□ 13.7 横 14.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	外面の一部に煤が付着。
第250回	3	土製品 板状品	- 完形	長 4.0 厚 1.1 幅 2.7	細砂粒/良好/橙	不整な扁平形、表裏ともヘラ撫で、表面には直線的な4本の線紋が施されている。	

## 1区45号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第250回	1	土師器 杯	- 1/4	□ 10.2 高 3.3 横 10.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第250回 PL.266	2	土製品 勾玉	完形	長 3.1 厚 7.2 厚 1.2	微砂粒/良好/にぶい黄褐色	表面は撫で。				
検出番号 図版番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第250回 PL.266	3	石製模造品	南東部	白玉	滑石	径0.8	高0.6	0.5	上下両面は折断後、面を整える程度に研磨。側面には縦位の粗い整形を施す。	
第250回 PL.266	4	石製模造品	南東		滑石	径0.8	高0.7	0.5		
第250回 PL.266	5	石製模造品	5	有孔円盤	滑石	2.1	2.1	3.6	衝鋒を研磨・面取り整形。上下両面・側面とも粗い整形痕を残す。	



第4章 発掘調査の記録

1区46号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第250号	1	土師器 台付甕	3.8-6.9 胴部上平片		細砂粒/良好/明黄褐色	胴部横撫で、胴部は履位のハケ目(7)後側に横位のハケ目、内面胴部は撫で。	
第250号	2	土師器 台付甕	- 胴部片	底 6.2 脚 10.6	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	胴部は胴部に拵付。胴部は外面がハケ目(器面磨滅)、内面はへら撫で。	
第250号 PL.266	3	土師器 甕	- 口縁部~胴部 下位片	口 12.2 脚 15.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部は横撫で、胴部は上位が撫で、中位と下位がへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第251号	4	土師器 壺	- 底部	底 12.6	細砂粒・褐色色調/良好/橙	底部に木炭痕が残る。胴部最下位にハケ目。内面はへら撫で。	

1区47号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第251号	1	土師器 杯	- 口縁部~底部片	口 11.7 残 12.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(残下)から底部は手持ちへら削り。	外面残付近と内面底部の一部に煤が斑点状に付着。			
第251号 PL.267	2	黒色土器 皿	3/4	口 13.6 高 3.3 底 6.0 台 6.6	細砂粒/還元/黒(赤地は暗灰)	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。高台は拵付、口縁部から体部は内外面ともへら磨き、底部は回転へら撫で。				
第251号	3	土師器 高坏	- 胴部片		細砂粒/良好/橙	胴部は外面が履位のへら磨き。内面はへら撫で。				
第251号	4	黒色土器 長頸壺	- 口縁部片	口 12.8	細砂粒/酸化/明赤褐色	内面黒色処理。二次被熱を受けているか。ロクロ整形か、内面は横位のへら磨き。				
第251号	5	土師器 甕	- 口縁部~胴部片	口 13.2	微砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横撫で、胴部はハケ目(8)。内面は頸部にハケ目が残る。胴部はへら撫で。				
第251号	6	土師器 短頸壺	4.0 口縁部~胴部上平片	口 12.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。				
検出番号 PL.番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第251号 PL.267	7	磨石	7	楕円型	粗粒輝石安山岩	25.8	16	6530.0	背面側平坦面に摩耗痕。	

1区48号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第251号	1	土師器 鉢	- 口縁部~体部片	口 21.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、体部は手持ちへら削り。	
第251号	2	土師器 甕	- 口縁部~胴部片	口 23.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

1区49号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第251号	1	土師器 杯	1/3	口 11.1 高 3.2 残 10.9	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横撫で、体部(残下)から底部は手持ちへら削り。				
第251号	2	土師器 杯	1/4	口 11.9 残 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(残下)から底部は手持ちへら削り。				
第251号	3	土師器 杯	2.5 口縁部~体部片	口 11.9 残 10.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(残下)から底部は手持ちへら削り。				
第251号	4	土師器 杯	4.8 2/5	口 12.0 高 3.8 残 11.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(残下)から底部は手持ちへら削りか、残下は器面磨滅のため詳細不明。				
検出番号 PL.番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第251号 PL.267	5	石製品	5		二ッ岳軽石	8.6	5.4	64.2	背面側に2ヶ所の集合打痕、中央付近に幅3mmの刀子様刃部によるキズ。	
第251号 PL.267	6	石製品	6		二ッ岳軽石	8.1	5.2	87.0	背面側に幅3mm溝を測り、断面V字状を呈する傷あり。	
第251号 PL.267	7	石製品	7		二ッ岳軽石	7.2	3.1	94.9	側縁に刃なし歯様の線状磨痕あり。	

1区50号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第251号	1	須恵器 杯	1/3	口 13.0 高 3.6 底 6.2	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第251号	2	須恵器 杯	- 底部~体部片	底 5.8	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第251号	3	須恵器 椀	- 底部~体部片	底 5.8 台 5.7	細砂粒・粗砂粒/酸化/にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回りか、底部は回転系切り、高台は拵付。	

## 1区51号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2528号 PL.267	1	土師器 杯	5.2 ほぼ完形	口 11.2 高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。	口縁部に歪みがみられる。
第2528号 PL.267	2	須恵器 杯	4.1 3/5	口 9.5 高 3.5 底 5.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化/赤い橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第2528号 PL.267	3	須恵器 杯	-2.6 口縁部 ～底部片	口 9.6 高 3.0 底 6.2	細砂粒/酸化/赤い 橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第2528号 PL.267	4	土師器 甕	-3.5 4/5	口 23.7 胴 48.6 底 8.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部へヘラ削り。	
第2528号	5	土師器 甕	0.7 口縁部～ 胴部上片	口 20.6	細砂粒/良好/赤い 黄橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2528号	6	須恵器 須恵 罎	8.3 1/4	口 20.4 高 8.0 罎 24.3 底 23.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化/灰黒	口クロ整形、回転右回り、内外面に輪積み痕が残る。罎は貼付、胴部下半はヘラ削り。	
第2528号	7	須恵器 須恵 罎	8.3 胴部上片	口 21.6 罎 26.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化/赤い橙	口クロ整形、回転方向不明。罎は貼付、胴部はヘラ削り、内面胴部はヘラ撫で。	

## 1区52号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要		
第2528号	1	土師器 器台	- 受部下位～ 胴部上片		細砂粒/良好/橙	受部から胴部はヘラ磨き。内面胴部はヘラ撫で。	胴部上に透孔が3カ所。		
第2528号	2	土師器 器台	1.9 胴部片	脚 12.7	細砂粒/良好/赤い 黄橙	外面は履位のヘラ磨き。内面はヘラ撫で。	胴部上に透孔が3カ所。		
第2528号	3	土師器 器台付 付費	9.4 口縁部～ 胴部上片	口 13.8	細砂粒/良好/赤い 黄橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり9.6本)。内面胴部は撫でとヘラ撫で。			
第2528号	4	土師器 甕	6.2 口縁部片	口 16.9	細砂粒/良好/赤い 黄橙	内外面とも赤色塗彩。内外面ともヘラ磨き。			
第2530号	5	土師器 甕	4.3 口縁部片	口 22.6	細砂粒・粗砂粒・ 褐色粒/良好/赤い 橙	口縁部は折り返し、折り返し下縁部に刻み目、口縁部下半はヘラ磨き。胴部は波状文。			
第2530号	6	土師器	9.5 口縁部下半 ～胴部上片		細砂粒/良好/赤い 黄橙	口縁部から胴部は履位ヘラ磨き。内面は口縁部から胴部が横ヘラ磨き。胴部はヘラ撫で。			
第2538号 PL.267	7	手捏ね土器 椀形	-0.1 完形	口 7.3 高 3.8 底 4.5	細砂粒/良好/赤い 黄橙	口縁部から体部は撫で、底部はヘラ撫で。内面は撫で。			
第2538号 PL.267	8	手捏ね土器 椀形	1.1 完形	口 4.6 高 4.3 底 3.6	細砂粒/良好/淡黄 橙	口縁部から胴部は撫で、底部はヘラ撫で。内面は撫で。			
第2538号 PL.267	9	手捏ね土器 椀形	-0.5 2/3	口 5.0 高 4.9 底 4.2	細砂粒/良好/淡黄 橙	体部外面雑な撫で、内面撫で。	体部外面に輪積み痕		
第2538号	10	手捏ね土器 椀形	底部～体部片	底 2.6	細砂粒/良好/淡黄 橙	底部はヘラ撫で、体部は撫で。内面は撫で。			
第2538号	11	手捏ね土器 椀形	23.9 底部～ 胴部下片	底 4.1	細砂粒/良好/赤い 橙	底部はヘラ削り、胴部はヘラ撫で。内面はヘラ撫で。			
種別番号 図版番号 第2538号 PL.267	No	器種	出土位置 形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
	12	砥石	12	扁平礫	細粒輝石安山岩	28.8	23	6100.0	背面側平坦面に光沢面が広がる。線条痕は不明。

## 1区53号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2538号 PL.267	1	土師器 杯	16.7 3/4	口 13.2 径 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2538号	2	土師器 杯	15.6 ～体部片	口 11.5 径 11.8	細砂粒/良好/橙/ 赤い橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2538号	3	土師器 杯	3.2 2/5	口 14.4 高 3.3 径 13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2538号	4	土師器 杯	4.1 1/3	口 13.0 径 13.0	細砂粒/良好/明赤 濁	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2538号	5	土師器 杯	- 口縁部～体部片	口 15.0 径 15.2	細砂粒/良好/赤い 赤濁	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2538号	6	土師器 杯	- 1/3	口 14.0 径 14.2	細砂粒/良好/明黄 濁	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2538号	7	土師器 杯	3.5 1/4	口 13.0 高 3.8 径 14.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	内面に壁が付着。
第2538号	8	土師器 杯	- 口縁部～体部片	口 12.0 径 11.9	細砂粒/良好/明灰 濁	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2538号	9	土師器 杯	- 口縁部～体部片	口 12.8 径 13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2538号	10	土師器 杯	- 口縁部～体部片	口 14.0 径 13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	

第4章 発掘調査の記録

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要			
第253Ⅸ	11	土師器 杯	Ⅰ 口縁部~底 部	口 12.2 底 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。				
第253Ⅸ	12	土師器 杯	Ⅰ 口縁部~底 部	口 12.0 底 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。				
第253Ⅸ	13	土師器 杯	Ⅰ 口縁部~底 部	口 12.0 底 12.3	細砂粒/良好/に 赤い濁	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。				
第253Ⅸ	14	須恵器 杯	Ⅰ 底部~体部 片	底 9.2	細砂粒/還元/濁 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら起し後回転へら削り。				
第253Ⅸ	15	須恵器 罍	Ⅰ 口縁部~制 部片	口 8.6 底 11.0	細砂粒/良好/に 赤い黄橙	内面製部にて輪積み削りが残る。口縁部は横撫で、製部はハケ目(1cmあたり9本)。内面は製部がへら撫で。				
種別番号 図版番号	No.	種器 種類	出土位置	形・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第253Ⅸ PL.267	16	磁石	16	棒状扁平	雲母石英片 岩	16.8	6.6	652.0	小口部下端に打痕・衝撃跡離断、右側縁に打痕。	

1区54号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第254Ⅸ	1	土師器 高杯	1.1~2.9 Ⅰ口縁部片	口 21.8	細砂粒/良好/明黄 橙	内面は赤色塗彩。内外面とも放射状へら磨き(唯文状)。	
第254Ⅸ PL.268	2	土師器 高杯	3.9~4.5 1/3	口 20.8 高 12.4 脚 13.8	細砂粒/良好/に 赤い黄橙	杯身部、製部とも放射状へら磨き。内面は杯身部口縁部が放射状、底部が横位のへら磨き。製部は上半がへら撫で、孔が内方。	脚部中に透孔が内方。
第254Ⅸ PL.268	3	手捏ね土器 鉢形	12.7 Ⅰ口縁部1/2欠損	口 6.8 高 4.9 底 6.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は横撫で、底部は手持ちへら削り。内面体部下に指痕が残る。	
第254Ⅸ PL.268	4	土師器 台付費	5.8~6.1 1/2	口 14.6 高 28.7 脚 9.2 脚 23.0	細砂粒/良好/に 赤い黄橙	脚部端部は内側に折り返し。口縁部は横撫で、製部から脚部上半はハケ目(1cmあたり6本)。内面製部は横撫で。	内面脚部に砂粒を多く含む粘土が貼付。
第254Ⅸ PL.268	5	土師器 台付費	3.9~5.9 Ⅰ口 縁部~製部下位	口 14.6 脚 24.8	細砂粒/良好/に 赤い黄橙	口縁部は横撫で、製部はハケ目(1cmあたり6~8本)、内面製部は横撫で。	
第254Ⅸ	6	土師器 台付費	3.9~5.9 Ⅰ 脚部片	脚 9.6	細砂粒/良好/に 赤い黄橙	端部は内側に折り返し。脚部上半にハケ目(1cmあたり9本)、内面はへら撫で。	
第254Ⅸ	7	土師器 鉢	Ⅰ口縁部~体部 片	口 10.0	細砂粒/良好/に 赤い濁	内外面とも赤色塗彩。外面は縦位のへら磨き、内面は横位のへら磨き。	
第254Ⅸ	8	土師器 壺	Ⅰ口縁部~製部 上1/4欠損	口 13.8	細砂粒/良好/に 赤い黄橙	外面は口縁部中位から製部、内面は口縁部に赤色塗彩。口縁部上位は横撫で、中位から製部はへら磨き。内面は口縁部・製部ともへら磨き。	
第254Ⅸ PL.268	9	土師器 壺	3.7~6.1 Ⅰ口縁部~製部 上1/4欠損	口 11.4 高 15.0 底 5.8 脚 16.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/に赤い黄橙	口縁部上半は横撫で、下半から製部上位はハケ目(1cmあたり8本)、製部中位から下位はへら磨き、底部はへら磨き。内面は口縁部がハケ目後横撫で、製部はへら撫で。	
第254Ⅸ	10	土師器 壺	1.2~4.3 Ⅰ口縁部	口 14.0 底 6.7	細砂粒/良好/に 赤い濁	内外面とも放射状へら磨き。	
第254Ⅸ	11	土師器 壺	6.1~10.3 Ⅰ口 縁部~製部上位片	口 17.0	細砂粒/良好/に 赤い黄橙	口縁部は上半が横撫で、下半がへら磨き、製部はへら磨きか。単位不明。内面製部はへら撫で。	
第254Ⅸ	12	土師器 罍	6.1 Ⅰ口縁部片	口 14.2	細砂粒/良好/に 赤い赤濁	口縁部は上半が横撫で、下半がへら撫で。	
第254Ⅸ	13	土師器 罍	6.1 底部~制 部下位片	底 7.2	細砂粒/良好/に 赤い赤濁	底部はへら削り、製部はへら削り後撫で。内面はへら撫で後底部にへら磨き。	
第254Ⅸ	14	土師器 罍	6.1~6.9 底部 ~製部下位片	底 7.2	細砂粒/良好/に 赤い赤濁	底部はへら削り、製部はハケ目(1cmあたり8本)。内面はへら撫で後へら磨き。	

種別 図版	No.	種器 種類	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第254Ⅸ PL.268	15	鉄製品 鏃	15	対部	長5.0幅3.1厚0.2重10.1			有頭鋼鉄柳葉鏃、錆化が進んでいる。矢柄とみられる植物が錆化し残る。
第254Ⅸ PL.268	16	鉄製品 鏃	16	対部	長4.4幅2.3厚0.2重4.6			有頭鋼鉄柳葉鏃、錆化が進んでいる。矢柄とみられる植物が錆化し残る。

1区55号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第255Ⅸ PL.267	1	須恵器 杯	4.0 完形	口 13.0 高 3.8 底 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第255Ⅸ	2	須恵器 杯	8.8 2/5	口 12.5 高 3.4 底 6.6	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第255Ⅸ	3	須恵器 杯	Ⅰ 口縁部~底 部片	口 13.6 高 3.9 底 6.0	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第255Ⅸ	4	須恵器 杯	1/4	口 12.5 高 3.8 底 5.6	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第255Ⅸ	5	須恵器 杯	Ⅰ 口縁部~底 部片	口 14.1 底 6.0	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付が剥落。	
第255Ⅸ	6	須恵器 椀	0.5 Ⅰ口縁部~ 底部片	口 13.7 高 5.2 底 7.1 台 6.6	細砂粒/還元/濁 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部切り種し技法不明、高台は貼付。	
第255Ⅸ PL.267	7	須恵器 椀	2.1~9.4 1/2	口 14.2 高 5.6 底 7.2 台 6.6	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部撫で、高台は貼付。	
第255Ⅸ	8	須恵器 椀	0.5 底部~体部 台	口 13.7 高 5.2 底 7.1 台 6.6	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2550 PL.267	9	須恵器 椀	- 底部~体部	底 7.0 径 6.6	細砂粒・ガラス質 粒/酸化/にぶい	口ロ整形、回転手回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2550	10	須恵器 椀	- 底部~体部	底 6.8 径 6.0	細砂粒/還元/灰白	口ロ整形、回転手回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2550	11	須恵器 椀	- 底部~体部	底 6.6 径 6.2	細砂粒/還元/灰黄	口ロ整形、回転手回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2550	12	須恵器 椀	- 底部~体部片	底 6.9 径 6.6	細砂粒/還元/灰白	口ロ整形、回転手回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2550	13	土製品 土鏝	ほぼ完形	長 4.3 孔 0.5 径 1.5 重 10.1	微砂粒/良好/にぶ い黄褐色	表面は撫で。	

## 1区56号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2550 PL.267	1	土師器 杯	ほぼ完形	口 11.6 高 4.6 径 12.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへら削り。内面底部へら撫でが残り。	
第2550 PL.267	2	土師器 杯	18.8 3/4	口 11.8 高 4.6 径 12.4	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへら削り。内面底部へら撫でが残り。	内外面撫でし。
第2550	3	土師器 杯	- 口縁部~体部片	口 12.6 径 12.6	細砂粒/良好/灰褐色	口縁部横撫で、体部(椀下)は手持ちへら削り。体部は放射状へら磨き(暗文状)。	外面口縁部の一部に保が付着。
第2550	4	土師器 杯	18.3 1/4	口 13.6 高 3.7 径 14.3	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへら削り。内面底部へら撫で。	
第2550	5	土師器 杯	- 1/4	口 13.8 径 14.6	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへら削り。	
第2550	6	土師器 鉢	3.5~6.1 1/3	口 19.8 高 8.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り。内面は底部から体部へら撫で。	
第2550	7	土師器 鉢	0.3 口縁部~体部片	口 20.5	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部は横撫で、体部へら削り後撫で。内面体部はへら撫で。	
第2550	8	土師器 甕	3.9 口縁部~ 胴部上位片	口 18.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐色	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

検出番号 検収番号	№.	器 種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第2550 PL.267	9	石製模造品	10	管玉	珪質頁岩	3.2	0.9	9.7	径 3mmを測る孔を内側穿孔し。上下両端を破損するほか、火バネした痕跡が残る。	
第2550 PL.267	10	敲石	10	棒状扁平礫	粗粒輝石安山 山岩	19.4	7.3	599.0	小口部・側面に打痕。	

## 1区57号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2560	1	土師器 短頸壺	- 口縁部~体部片	口 6.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で。内面は横位のへら磨き。	
第2560	2	土師器 高杯	- 杯身口縁部~体部片	口 14.4	細砂粒/良好/明赤 褐色	内外面ともへら磨き。	

## 1区58号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2560	1	土師器 杯	- 口縁部~底部片	口 12.6 径 13.4	細砂粒/良好/橙 にぶい	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへら削り。	

## 1区59号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2560 PL.268	1	土師器 器台	-2.9 脚部1/3欠損	口 9.9 高 8.8 脚 14.0	細砂粒/良好/橙	受部、脚部とも縦位のへら磨き。内面は受部に放射状へら磨き、脚部は上半がへら撫で、下半はハケ目がかすかに残る。	脚部中に透孔が4カ所。
第2560	2	土師器 高杯	- 脚部片	脚 12.5	細砂粒/良好/明赤 褐色	脚部は縦位のへら磨き、内面はへら撫で、端部は横撫で。	脚部中に透孔が3カ所。
第2560 PL.268	3	土師器 高杯	- 脚部上位	脚 11.9	細砂粒/良好/橙	脚部は縦位のへら磨き、内面はへら撫で。	脚部中に透孔が3カ所。
第2560 PL.268	4	土師器 台付甕	- 2/3	口 11.4 高 18.1 脚 7.4	細砂粒/良好/浅黄 褐色	口縁部は横撫で、胴部から脚部上半はハケ目(1cmあたり7本)。内面は胴部が撫で、脚部端部は折り返し。	内面脚部に砂粒の多い粘土が貼付。
第2560 PL.268	5	土師器 台付甕	0.2 ほぼ完形	口 12.0 高 21.8 脚 8.6	細砂粒/良好/浅黄 褐色	口縁部は横撫で、胴部から脚部上半はハケ目(1cmあたり8本)。内面は胴部がへら撫で、脚部端部は折り返し。	内面脚部に砂粒の多い粘土が貼付。
第2560	6	土師器 台付甕	- 口縁部~胴部上位片	口 11.0	細砂粒/良好/浅黄 褐色	口縁部は横撫で、胴部は縦位のハケ目(1cmあたり7本)後上位に横位のハケ目。内面は胴部にはへら撫で。	
第2560	7	土師器 台付甕	- 口縁部~胴部上位片	口 10.8	細砂粒/良好/浅黄 褐色	口縁部は横撫で、胴部は縦位のハケ目(1cmあたり7本)後上位に横位のハケ目。内面は胴部にはへら撫で。	
第2560	8	土師器 台付甕	- 脚部	脚 7.0	細砂粒/良好/にぶ い	脚部は内側に折り返し。上半はハケ目(1cmあたり6本)。	内面脚部に砂粒の多い粘土が貼付。

第4章 発掘調査の記録

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第256図	9	須恵器 甕	2.8 底部～胴部下位	底 7.8	細砂粒/良好/浅黄緑	底部はへう削り、胴部はへう磨き。内面はへう撫で。	外面は全体的に鼠が付着。

1区60号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第256図	1	須恵器 杯蓋	4.0 揃み	揃 5.2	細砂粒/還元/灰	口クロ整形、回転方向不明。揃みは貼付。	
第256図	2	須恵器 椀	9.1 底部～体部下位	底 5.8 台 5.0	細砂粒/還元・焼/褐灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	

1区61号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第256図	1	須恵器 杯	21.1 口縁部1/6欠損	口 12.5 高 3.6 底 6.6	細砂粒/酸化/にぶい黄	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第256図	2	須恵器 杯	35.1 底部～体部片	底 6.4	細砂粒/還元/灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第256図	3	須恵器 椀	29.6 底部～体部下位	底 7.5 台 6.6	細砂粒/還元・焼/褐灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	

1区62号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第257図 PL.269	1	須恵器 椀	1.0-3.6 口縁部1/6欠損	口 13.9 高 3.9 底 7.4 台 7.0	細砂粒・褐色粒/酸化/にぶい黄緑	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第257図 PL.269	2	須恵器 椀	3.2-5.2 口縁部1/5欠損	口 16.1 高 6.1 底 7.7 台 7.9	細砂粒/還元・焼/褐色	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第257図	3	須恵器 椀	13.1 1/2	口 16.2 高 5.1 底 6.6 台 3.3	細砂粒・粗砂粒/片岩/還元/灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第257図	4	須恵器 椀	1.8-10.7 1/3	口 15.0 高 5.6 底 7.6 台 7.2	細砂粒・粗砂粒/片岩/還元/灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第257図	5	須恵器 椀	8.3 1/3	口 14.0 高 5.2 台 6.8	細砂粒/還元/灰	口クロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明・高台は貼付。	
第257図 PL.269	6	土師器 甕	6.3-27.5 口縁部～胴部下位	口 13.0 脚 14.2	細砂粒/良好/にぶい赤黒	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	
第257図	7	土師器 台付甕	4.1 胴部	脚 8.5	細砂粒/良好/にぶい黒	胴部内面は黒色化。胴部は貼付、内外面とも横撫で。	
第257図	8	土師器 甕	4.8 口縁部～胴部上位片	口 17.8	細砂粒/良好/にぶい赤黒	内面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	
第257図	9	土師器 甕	13.8 口縁部～胴部上位片	口 18.6	細砂粒/良好/にぶい黒	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	
第257図	10	土師器 甕	4.6-33.5 口縁部～胴部上位片	口 19.5	細砂粒/良好/粗	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	
第257図	11	須恵器 甕	13.1 底部～胴部下位片	底 13.8	細砂粒/還元/灰	口クロ整形、回転右回りか。胴部は下位がへう削り。内面はへう撫でで口クロ痕を消している。	
第257図	12	須恵器 甕	1.0 底部上位片	底 21.0	細砂粒/酸化/にぶい黄緑	口クロ整形、回転方向不明。内面に貫通していない小穴あり(4方所か)。	
第257図	13	須恵器 甕	1.0-5.9 底部下位片	底 18.0	細砂粒/酸化/にぶい黄緑	底部から胴部は口クロ整形、回転方向不明。内面胴部はへう撫で。	
第258図	14	土師器 封蓋	0.8 口縁部～胴部下位片	口 23.4 跨 29.0	細砂粒/良好/にぶい黄緑	跨は貼付、口縁部はへう撫で。内面は口唇部へう撫で、口縁部から胴部はへう撫で。	
検出 図版	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	特 徴 ・ 状 態	
第258図 PL.269	15	鉄製品 紡輪	-	径6.0 厚0.4 茎径0.5 重22.0		紡輪は上下とも欠損、錆化が進んでいる。	

1区63号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第258図 PL.268	1	土師器 高杯	11.0-14.9 杯身部	口 17.2 径 12.2	細砂粒・粗砂粒/良好/粗	胴部とは接合。杯身部は口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへう削り。	
第258図	2	土師器 高杯	- 脚部上半	-	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄緑	杯身底部と脚部はへう磨き。内面は脚部が横撫で。	
第258図	3	土師器 高杯	15.2 胴部片	-	細砂粒/良好/にぶい黒	内面に輪積み痕が残る。脚部はへう磨き、裾部は横撫で。内面脚部はへう撫で。	
第258図 PL.268	4	土師器 杯	8.8 3/5	口 12.0 高 4.6 径 13.0	細砂粒/良好・焼/にぶい黒	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへう削り。内面はやや不規則な放射状へう磨き	
第258図	5	土師器 杯	- 口縁部～体部片	口 13.6	細砂粒/良好/灰黄褐色	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへう削り。	
第258図	6	土師器 直口甕	3.8 口縁部～胴部上位片	口 9.0	細砂粒/良好/にぶい黄緑	内面に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	
第258図	7	土師器 甕	- 口縁部～胴部上位片	口 16.6	細砂粒・粗砂粒/褐色粒/良好/にぶい黄緑	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部は刷毛状の痕跡が残るへう撫で。	

## 1区64号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要			
第258号 PL.269	1	土師器 杯	- 2/5	□ 9.9 高 4.1 横 10.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)は撫で、底部は手持ちへう削り。 内面は底部から体部に撫でる。横撫で。				
第258号	2	土師器 杯	- 2.0 口縁部~底部片	□ 11.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへう削り。				
第258号	3	土師器 杯	- 1/3	□ 14.6 高 3.8 横 14.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへう削り。				
第258号 PL.269	4	土師器 高杯	- 8-7 胴部	脚 16.7	細砂粒/良好/に 赤い橙	胴部はへう削り後一部へう磨き、胴部は横撫で、内面はへう撫で。				
第258号	5	土師器 甕	- 4.7 口縁部~胴部上位置片	□ 23.8	細砂粒/良好/に赤い橙	口縁部から胴部は横撫で、胴部はへう削り。内面は口縁部が横撫で、胴部は縦撫でのへう磨き。				
種別番号 民族番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第258号 PL.269	6	石製模造品	6	管玉	珪質頁岩	4.7	1.1	3.5	径4mmを測る孔を内側穿孔。裏面に火バネ痕。	
第258号 PL.269	7	砥石	7	切り砥石	砥沢石	3.8	4.6	52.0	上端側に孔を内側穿孔。上面を除く5面で研磨。	

## 1区65号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第258号 PL.269	1	須恵器 杯	- 1.4 ほぼ定形	□ 9.6 高 3.4 底 6.2	細砂粒・白色粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は一定方向、体部下位は回転へう削り。	

## 1区66号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第259号 PL.269	1	土師器 杯	- 10.4 定形	□ 12.3 高 4.3	細砂粒/良好/に赤い橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへう削り。	内面に漆が付着か。
第259号	2	土師器 杯	- 6.2 1/3	□ 11.4 高 3.6 最 11.9	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横撫で、下半から体部、底部は手持ちへう削り。	
第259号 PL.269	3	須恵器 杯蓋	- 4.6 定形	□ 11.2 高 3.0	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転左回り。天井部中ほどまでは手持ちへう削り後へう撫で。	
第259号	4	土師器 甕	- 口縁部~胴部上位置片	□ 14.6	細砂粒/良好/に赤い橙	口縁部から胴部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	

## 1区68号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第259号	1	土師器 杯	- 口縁部~体部片	□ 13.4 横 14.4	細砂粒/良好/明黄褐色	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへう削り。	
第259号	2	土師器 甕	- 口縁部~胴部上位置片	□ 14.7	細砂粒/良好/橙	口縁部から胴部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	

## 1区69号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第258号	1	土師器 台付甕	- 0.9 脚部片	脚 8.0	細砂粒/良好/に赤い橙	底部は内側に折返し、上半は八角目。内面は撫で。	内面脚部に砂粒の多い粘土が貼付。

## 1区70号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第259号 PL.269	1	須恵器 椀	- 5.4 口縁部 1/3欠損	□ 15.0 高 5.7 底 6.0	細砂粒/酸化/焼/ に赤い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第259号 PL.269	2	須恵器 椀	- 口縁部1/4欠損	□ 14.2 高 4.9 底 6.7 台 5.4	細砂粒/酸化/焼/ に赤い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第259号 PL.269	3	須恵器 椀	- 1/2	□ 13.2 高 5.6 底 6.2 台 5.6	細砂粒/酸化/焼/ に赤い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第259号	4	土師器 甕	- 口縁部~胴部下位置片	□ 17.9 脚 19.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/暗赤褐色	口縁部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	
第259号	5	須恵器 羽釜	- 4.3 口縁部~胴部上位置片	□ 22.0 脚 23.7	細砂粒/酸化/明赤褐色	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付。	
第259号	6	須恵器 羽釜	- 5.5 跨~胴部下位置片	脚 27.1 脚 26.3	細砂粒/酸化/に赤い黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付。	

## 1区71号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第260号 PL.269	1	須恵器 椀	- 0.1 口縁部1/4欠損	□ 12.8 高 4.9 底 6.7 台 6.0	細砂粒/還元/に赤い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	外面口縁部に砂粒の多い粘土が貼付。 ○の墨書。
第260号	2	土師器 甕	- 3.0 底部~胴部下位置片	底 3.8	細砂粒/良好/に赤い赤褐色	底部は砂吹、胴部はへう削り。内面はへう撫で。	
第260号 PL.269	3	須恵器 甕	- 1/3	□ 30.4 高 31.9 底 18.0 脚 32.4	細砂粒/酸化/褐灰	ロクロ整形、回転右回りか。跨は貼付。胴部下位は横撫で、内面胴部下位はへう撫で。	

第4章 発掘調査の記録

1区72号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2598号 PL.269	1	土師器 出	1.5 4/5	口11.4 高5.4	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部と底部から体部は放射状へう磨き(暗文状)、内面は口縁部が放射状(暗文状)、底部は放射状へう磨き。	
第2598号	2	土師器 器台	脚部上半		細砂粒/良好/不 い黄橙	脚部はへう磨き。内面は受部がへう磨き、脚部はへう磨き。	脚部中に透孔が3カ所。
第2598号	3	土師器 台付甕	口縁部~制 部上位片	口14.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり8本)、内面胴部は撫で。	
第2598号	4	土師器 甕	口縁部片	口12.5	細砂粒/良好/浅黄橙	口唇部は折り返し、口縁部へう磨き。	

1区73号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2600号	1	須恵器 杯	1.5 2/5	口13.8 高3.5 底6.6	細砂粒/還元/灰	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第2600号	2	須恵器 椀	4.5 1/4	口13.8 高5.3 底6.8 台6.0	細砂粒/酸化/褐灰	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2600号	3	須恵器 椀	3.8 底部~体部下平	底7.4 台7.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2600号	4	須恵器 椀	7.2 底部	底6.8 台6.4	細砂粒/酸化/不 い赤黄	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2600号	5	土師器 甕	6.2 口縁部~ 胴部中位片	口12.6 胴14.0	細砂粒/良好/不 い赤黄	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はへう磨り。内面胴部はへう磨り。	
第2600号	6	土師器 甕	5.0~6.0 口縁 部~胴部上半片	口18.4 胴21.2	細砂粒/良好/不 い赤黄	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう磨り。内面胴部はへう磨り。	
第2600号	7	土師器 甕	3.8 口縁部~ 胴部中位片	口20.0 胴21.6	細砂粒/良好/不 い赤黄	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう磨り。内面胴部はへう磨り。	
検出 図版 PL.269	No. 8	鉄製品 釘	出土位置 残存率	計測値	特徴・状態		
			先端側欠損	長5.8幅2.4厚0.6重21.3	頭部は径2.3×2.1、厚0.6cmの丸い傘型で本体は断面ほぼ正方形の角釘、錆化が進んでいる。		

1区74号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2611号	1	土師器 高杯	5.9 脚部	脚7.4	細砂粒/良好/不 い黄橙	脚部から唇部はへう磨き、唇部端部は横撫で。内面はへう磨り。	
第2611号	2	土師器 器台	7.2 脚部上半		細砂粒/良好/ 不い黄橙	脚部はへう磨き。内面はへう磨り。	脚部中に透孔が3カ所。
第2611号 PL.270	3	土師器 壺	1.3 底部~頸部	底7.0 胴26.4	細砂粒/良好/橙	底部はへう磨り、胴部はへう磨き。内面はへう磨り。	
第2611号 PL.270	4	土師器 壺	1.3 底部~体 部胴部上位片	底10.9 胴29.8	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/橙	底部はへう磨り、胴部はハケ目(1cmあたり6本)、内面はへう磨り。	
第2611号	5	土師器 台付甕	-7.3 口縁部 ~胴部下位1/5	口12.7 胴16.0	細砂粒/良好/不 い黄橙	口縁部横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面は胴部が上撫で、中位と下位はへう磨り。	
第2611号	6	土師器 台付甕	6.6 口縁部~ 胴部上位片	口13.9	細砂粒/良好/不 い黄橙	口縁部横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部はへう磨り。	
第2611号	7	土師器 台付甕	胴部下位~ 胴部上半片		細砂粒/良好/灰黄 濁	胴部はハケ目(1cmあたり7本)、胴部は一部ハケ目。内面はへう磨りで後一部へう磨き、脚部は撫で。	

1区75号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2598号	1	須恵器 椀	29.2 底部	底6.1 台6.1	細砂粒/酸化きみ/ 不い黄橙	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付。	

1区76号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2611号	1	須恵器 杯	24.7 底部~体部	底5.7	細砂粒/酸化/褐灰	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内外面横し焼成か。
第2611号	2	須恵器 甕	4.7 胴部片		細砂粒/酸化/不 い黄橙	胴部は平行印痕、内面は同心状アケ貝痕が残る。	

1区77号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2621号 PL.270	1	須恵器 杯	-3.2 2/3	口10.6 高3.0 底5.4	細砂粒/酸化/橙	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第2621号	2	土師器 甕	5.3 口縁部~ 胴部中位片	口20.0 胴22.0	細砂粒・褐色粒/ 良好/不い黄橙	内外面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう磨り。内面胴部はへう磨り。	
第2621号	3	瓦 平瓦	-0.3 一部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	表面は布目痕が残る。側面はへう磨りか、裏面はへう磨り。	

## 1区80号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第262Ⅲ	1	土師器 台付甕	13.0 脚部	脚 9.2	細砂粒/良好/橙	脚部は貼付、脚部はへら削りで、胴部は横撫で。内面は上半が撫で、下半はへら撫で。	
第262Ⅲ	2	黒色土器 検	14.8 底部～ 体部上位	底 8.7 台 7.2	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	内面黒色処理、ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第262Ⅲ	3	須恵器 羽釜	9.2 口縁部～ 胴部上位片	口 31.8 跨 34.4	細砂粒/酸化/明黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付。	
神岡 No.	種器 種類	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第262Ⅲ PL.270	4	鉄製品 釧	1	基部側1/3片	長10.2幅3.5厚0.3重35.1	柄取付部は基部の上半を斜めに折り曲げている。刃中ほどで破損し曲がり、金属鉄が残っている状態で強い曲げられた状況がうかがえる。	

## 1区82号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第263Ⅲ	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口 14.7 底 10.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第263Ⅲ	2	土師器 杯	1/3	口 12.6 高 4.0 底 6.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第263Ⅲ PL.270	3	須恵器 検	3/4	口 12.8 高 5.6 底 6.2 台 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化/きみ/灰黄緑	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第263Ⅲ	4	須恵器 検	1/2	口 14.0 高 5.0 底 6.4 台 6.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第263Ⅲ	5	須恵器 検	口縁部～底部片	口 13.8 底 7.0	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は貼付。	
第263Ⅲ	6	須恵器 検	底部～体部	底 7.0 台 7.0	細砂粒/酸化/焼/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第263Ⅲ	7	須恵器 検	底部片	底 6.7 台 6.8	細砂粒/還元/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第263Ⅲ	8	須恵器 検	底部～体部片	底 7.3 台 6.7	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は貼付。	
第263Ⅲ	9	土師器 甕	0.4 口縁部～ 胴部上位片	口 13.2 胴 15.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第263Ⅲ	10	土師器 甕	22.8 底部～ 胴部下位片	底 11.2	細砂粒/良好/橙	底部と胴部はへら削り。内面はへら撫で。	

## 1区83号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第262Ⅲ	1	須恵器 甕	底部～胴部下 位片	底 16.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	底部と胴部はへら削り。内面はへら撫で。	

## 1区84号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第263Ⅲ	1	土師器 台付甕	14.3 脚部	脚 8.1	細砂粒/良好/灰黄 褐	脚部は貼付、内外面とも横撫で。	
第263Ⅲ	2	土師器 甕	3.9 口縁部～ 胴部中位片	口 20.4 胴 20.4	細砂粒・褐色色粒/ 良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から胴部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第263Ⅲ	3	土師器 甕	4.4 口縁部～ 胴部上位片	口 19.8	細砂粒/良好/にぶ い黄/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から胴部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

## 1区86号住居出土遺物

神岡番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第263Ⅲ	1	土師器 鉢	1/2	口 14.8 高 6.6 底 4.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部はハケ目、内面は底部から体部がへら撫で。	
第263Ⅲ PL.270	2	須恵器 杯	1/4	口 10.2 高 2.9 底 4.8	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第263Ⅲ	3	須恵器 杯	5.0 底部	底 6.4	細砂粒・褐色色粒/ 酸化/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第263Ⅲ PL.270	4	須恵器 検	5.1 3/4	口 11.4 高 4.4 底 6.3 台 6.4	細砂粒/酸化/明黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は貼付。	
第263Ⅲ	5	須恵器 検	12.9 1/3	口 11.0 高 5.1 底 6.6 台 7.0	細砂粒/酸化/明黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は貼付。	
第264Ⅲ	6	土師器 羽釜	2.0 口縁部～ 胴部上位片	口 22.0 跨 24.7	細砂粒・粗砂粒/ 長石/良好/橙	跨は貼付、口縁部は上半が横撫で、下半は撫で、胴部はへら削り。内面は口縁部下半から胴部に撫で。	
第264Ⅲ	7	須恵器 羽釜	15.3 口縁部 ～胴部上位片	口 18.8 跨 22.0	細砂粒・角閃石/ 酸化/にぶい赤褐 ～にぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は断面三角形で、丁寧な貼付。	



#### 第4章 発掘調査の記録

##### 1区87号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第264回 PL.270	1	須恵器 椀	-7.1 1/2	口 13.2 高 5.8 底 5.8 台 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第264回	2	須恵器 椀	4.3 底部～体部	口 5.9 底 5.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元/にぶい黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第264回	3	須恵器 椀	-0.1 底部～体部下	底 7.4 台 6.0	細砂粒/還元/淡黄	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第264回 PL.270	4	土師器 台付甕	8.0 脚部片	脚 10.0	細砂粒/良好/明赤 褐	底部は内側に折り返し。胴部から脚部上半はハケ目(1cmあたり5本)。	内面は底部、 脚部とも砂粒 の多い粘土を 貼付。
第264回 PL.270	5	須恵器 椀	-2.8-15.2 3	口 32.4 高 31.4 底 21.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化/にぶい黄橙	縁は貼付、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で、底部付近に貫通していない小孔あり。	
第264回	6	須恵器 鉢	-11.6 口縁部～体部片	口 30.8	細砂粒/還元/灰オ リーブ	口クロ整形、回転方向不明。	
第264回 PL.270	7	須恵器 甕	0.9 口縁部～ 胴部1位片	口 30.0	細砂粒/還元/暗灰	口縁部は口クロ整形。胴部は明き痕を撫で消している。内面は頸部はへら撫で、胴部はアテ貝殻が残る。	内面は底部、 脚部とも砂粒 の多い粘土を 貼付。
第264回	8	須恵器 甕	-8.8-16.0 口縁部片	口 51.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	口縁部は口クロ整形。	
第264回	9	須恵器 甕	-5.0 胴部～頸部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元/暗灰	口縁部とも頸部に接合。外面は明き痕を撫で消している。内面は同心円状アテ貝殻が残る。	

##### 1区88号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第265回	1	土師器 台付甕	3.1 口縁部～ 胴部下位片	口 12.8 胴 19.6	細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横撫で、胴部は(1cmあたり6本)。内面胴部はへら撫で。	
第265回	2	土師器 甕	0.3 底部片	底 10.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	底部は木炭粒が残る。	

##### 1区89号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第265回 PL.270	1	土師器 杯	-完形	口 12.3 高 3.7 径 11.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第265回	2	須恵器 皿	-2.0-2.5 1/4	口 12.7 高 3.2 底 5.7 台 5.0	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第265回	3	須恵器 椀	5.1 1/4	口 11.9 高 5.4 底 6.8 台 7.0	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第265回	4	須恵器 椀	11.3 底部～体部	底 6.8 台 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	口クロ整形、回転右回りか。底部切り難し技法不明、高台は貼付。	
第265回	5	須恵器 椀	-底部片	底 6.5	細砂粒/酸化/橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第265回	6	須恵器 椀	-口縁部～胴 部1位片	底 5.2 台 5.0	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	口クロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部の内外面に回転糸切り痕が残る。	
第265回	7	土師器 甕	-1.1 口縁部～ 胴部1位片	口 18.6	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第265回	8	土師器 甕	5.4 口縁部～ 胴部1位片	口 21.0	細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第265回	9	土師器 甕	-1.1 口縁部片		細砂粒/良好/橙	外面は基部に4～5本の凹線が巡る。外面はへら磨き、内面はへら撫で。	
第265回 PL.270	10	土師器 器台	-受部～胴部1位	口 7.4	細砂粒/良好/橙	受部は口縁部から横撫で、底部はへら削り後撫で、脚部はへら磨き。内面脚部はへら撫で。	脚部上位に透 孔が3カ所。
第265回	11	土師器 甕	-口縁部下位片	口 17.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は口縁部から胴部にハケ目(1cmあたり6本)内面は胴部へら撫で。	

##### 1区90号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第266回 PL.271	1	土師器 鉢	-1.0 脚部片	口 9.4 高 4.6 底 2.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部はへら磨き、底部は器面磨減のため不明。内面はへら磨き。	
第266回	2	土師器 鉢	1/3	口 9.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部はへら磨き。	
第266回 PL.271	3	土師器 器台	11.0-12.7 3/4	口 13.6 高 7.0 底 4.1	細砂粒/良好/明赤 褐	内外面とも全面的にへら磨き。	
第266回	4	土師器 器台	-受部1位～ 脚部1位	脚 9.8	細砂粒/良好/淡黄 橙	外面と内面の受部は赤色塗彩。脚部はへら磨き、内面脚部はへら撫で。	脚部上位に透 孔が3カ所。
第266回	5	土師器 器台	11.1-16.5 脚部下平片	脚 12.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は赤色塗彩。外面はへら磨き、内面はへら撫で。	脚部中位に透 孔が3カ所。
第266回	6	土師器 高杯	7.3 脚部片	脚 12.2	細砂粒/良好/橙	外面はへら磨き、内面はへら撫で。	脚部上位に透 孔が3カ所。
第266回	7	土師器 高杯	11.6 脚部片	脚 17.9	細砂粒/良好/橙	外面はへら磨き、内面はへら撫で。	脚部上位に透 孔が3カ所。
第266回 PL.271	8	土師器 高杯	5.1 杯身部4/5	口 23.2 × 20.3	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面とも器面磨減のため詳細不明。外面はへら磨きが残る。内面はハケ目後へら磨きか。	口縁部の歪み 大きい。

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第266図 PL.271	9	土師器 高杯	7.0 口縁部～体部片	□ 18.2	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	外面と内面杯身部は赤色塗彩。外面はヘラ磨き、内面は杯 身部からヘラ磨き。脚部はハゲ目。	内面脚部に砂 粒の多い粘土 が貼付。
第266図	10	土師器 高杯	11.6 口縁部 ～体部片	□ 12.8	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	内外面とも赤色塗彩。内外面とも口縁部上半は横位、下半 は縦位のヘラ磨き。	
第266図	11	土師器 台付甕	11.6 口縁部 ～胴部上位片	□ 11.8	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横位で、胴部は縦位ハゲ目後、上位に縦位のハゲ 目(1cmあたり本)、内面胴部は撫で、一部に指痕が残る。	
第266図	12	土師器 台付甕	12.8 口縁部 下半～胴部片	脚 9.0	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	端部は内側に折り返し、胴部から胴部上半はハゲ目(1cm あたり5本)	
第266図 PL.271	13	土師器 台付甕	4.0 杯身部～ 脚部上位	□ 9.6 高 10.6 脚 6.3	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は撫で、胴部はハゲ目後撫で、脚部は撫で、内面口 縁部下半にハゲ目が残る。	
第266図	14	土師器 甕	3.4-19.6 口 縁部～頸部片	□ 25.0	細砂粒/良好/明赤 褐	頸部にボタン状円盤が貼付、3個1組か。内外面ともヘラ磨 き、外面は口縁部下半にハゲ目が残る。	
第266図	15	土師器 甕	27.4-32.1 杯 身部口縁部片		細砂粒/良好/に ぶい黄橙	外面は赤色塗彩。内外面ともヘラ磨き、内面にはハゲ目が 残る。	

## 1区91号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第266図 PL.271	1	土師器 杯	17.5-5.0 ほぼ完形	□ 13.7 高 4.1 横 10.8	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横撫で、底部(横下)は手持ちヘラ削り。	
第266図	2	土師器 杯	6.2 1/2	□ 13.4 横 13.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第266図	3	土師器 杯	9.6 2/3	□ 14.2 高 5.0 横 14.6	細砂粒・白色粒 良好/にぶい赤褐	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第266図 PL.271	4	土師器 杯	19.4 完形	□ 13.1 高 5.6 横 13.5	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第266図 PL.271	5	土師器 杯	0.2 ほぼ完形	□ 14.2 高 5.3 横 14.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第266図 PL.271	6	土師器 杯	7.0-9.6 口縁部/1欠損	□ 14.8 高 5.5 横 15.0	細砂粒/良好/橙 にぶい橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。内 面多底部から体部がヘラ撫で。	
第266図	7	土師器 杯	-0.4-6.3 1/3	□ 14.4 高 5.2 横 14.0	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第266図	8	土師器 杯	- 口縁部～底部片	□ 12.8 横 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第266図 PL.271	9	土師器 杯	11.4-24.4 一部欠損	□ 13.8 高 4.5 横 13.6	細砂粒/良好/橙 にぶい橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。内 面多底部から体部がヘラ撫で。	
第266図	10	土師器 杯	-0.1 2/3	□ 13.8 横 14.3	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第266図 PL.271	11	土師器 杯	-0.3 ほぼ完形	□ 12.6 高 3.9 横 12.7	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	内面口縁部 の一部に泥が付 着。
第266図 PL.271	12	土師器 杯	9.6 完形	□ 13.2 高 4.2 横 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第266図 PL.271	13	土師器 杯	28.8 口縁部 ～体部/1欠	□ 13.0 高 5.3 横 13.0	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。内 面底部はヘラ撫で。	
第267図 PL.271	14	土師器 杯	8.5 完形	□ 9.7 高 3.8 横 10.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	15	土師器 杯	6.8-10.9 完形	□ 11.5 高 4.3 横 11.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	16	土師器 杯	- 口縁部/8欠損	□ 11.1 高 3.8 横 11.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	17	土師器 杯	6.5 完形	□ 12.6 高 4.0 横 12.3	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	18	土師器 杯	6.6-9.5 底部 中央部3.0cm欠	□ 11.2 横 11.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	口縁部に歪み あり。
第267図 PL.271	19	土師器 杯	12.2 口縁部/8欠損	□ 12.1 高 4.5 横 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	20	土師器 杯	-13.0-4.8 2/3	□ 12.4 高 4.0 横 12.6	細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	21	土師器 杯	- 2/3	□ 11.6 高 3.9 横 11.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	22	土師器 杯	105-13.1 ほぼ完形	□ 12.1 高 4.3 横 13.0	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	23	土師器 杯	4.9 口縁部/1欠損	□ 12.0 高 3.4 横 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	24	土師器 杯	5.6 3/4	□ 12.3 高 4.4 横 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	25	土師器 杯	3.8-7.2 4/5	□ 12.3 高 4.0 横 12.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図	26	土師器 杯	10.6 1/2	□ 12.1 高 4.0 横 12.0	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第267図 PL.271	27	土師器 杯	7.4 ほぼ完形	□ 12.3 高 4.3 横 12.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(横下)から底部は手持ちヘラ削り。	

第4章 発掘調査の記録

陣岡番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2678号	28	土師器 杯	4.5 3/4	□12.6 高 4.8 横 12.4	細砂粒/良好・橙 に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部がヘラ撫で。	
第2678号 PL.271	29	土師器 杯	22.8 4/5	□12.4 高 4.0 横 12.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号 PL.271	30	土師器 杯	5.3 [1縁部]1/4欠損	□12.5 高 3.6 横 12.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号	31	土師器 杯	21.8・23.7 1/3	□12.0 横 12.0	細砂粒/良好/に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号 PL.271	32	土師器 杯	6.3・10.2 ほぼ完形	□12.5 高 4.6 横 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号	33	土師器 杯	17.5・19.4 1/2	□12.2 高 3.8 横 11.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号	34	土師器 杯	12.1 1/2	□12.5 高 4.0 横 12.8	細砂粒・褐色粒 良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号	35	土師器 杯	10.6 [1縁部-体部]欠	□11.2 横 11.2	細砂粒/良好/明赤	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号	36	土師器 杯	6.8・7.0 2/5	□12.8 高 4.3 横 12.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号 PL.271	37	土師器 杯	4.3 ほぼ完形	□11.7 高 4.6 横 12.0	細砂粒/良好/に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号 PL.271	38	土師器 杯	5.3 3/4	□11.5 高 4.5 横 11.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラ撫で。	
第2678号 PL.271	39	土師器 杯	12.1 ほぼ完形	□12.3 高 3.9 横 12.1	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号	40	土師器 杯	2.5 1/4	□12.4 横 12.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号 PL.271	41	土師器 杯	7.3・12.1 1/2	□12.5 高 4.6 横 13.0	細砂粒・褐色粒 良好/に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号 PL.272	42	土師器 杯	10.2 ほぼ完形	□12.7 高 4.5 横 12.8	細砂粒/良好/に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号	43	土師器 杯	9.6 [1縁部-底部]欠	□11.2 高 4.0 横 11.0	細砂粒・褐色粒 良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号	44	土師器 杯	10.1 [1縁部-体部]欠	□12.8 横 12.6	細砂粒/良好/浅黄	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号 PL.272	45	土師器 杯	5.2・10.5 4/5	□12.7 高 4.8 横 12.7	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号 PL.272	46	土師器 杯	1.0・6.7 1/2	□13.3 高 4.9 横 13.3	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号 PL.272	47	土師器 杯	17.0 完形	□13.2 高 4.4 横 13.5	細砂粒/良好/明赤	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2678号 PL.272	48	土師器 杯	27.5 2/3	□13.4 高 4.4 横 13.1	細砂粒・粗砂粒 内四石/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号	49	土師器 杯	- 1/2	□12.5 高 3.7 横 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号	50	土師器 杯	6.6・17.5 2/3	□12.2 高 4.0 横 12.6	細砂粒・粗砂粒 片岩/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	51	土師器 杯	2.6・4.6 4/5	□12.9 高 3.6 横 13.9	細砂粒/良好/に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	口縁部の歪みが大きい。
第2688号	52	土師器 杯	3.9 1/3	□14.0 横 14.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	外面の底部に泥が付着。
第2688号 PL.272	53	土師器 杯	-0.6・3.6 4/5	□13.0 高 3.5 横 13.0	細砂粒/良好・橙 に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部がヘラ撫で。	
第2688号 PL.272	54	土師器 杯	6.2・11.3 1/2	□13.6 高 3.8 横 13.9	細砂粒・粗砂粒 長石/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	55	土師器 杯	2.6・6.9 [1縁部]1/4欠損	□12.9 高 3.6 横 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	56	土師器 杯	-1.7 2/3	□13.6 高 4.4 横 13.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラ撫で。	
第2688号 PL.272	57	土師器 杯	11.5 4/5	□13.3 高 4.7 横 13.2	細砂粒/良好/に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラ撫で。	
第2688号 PL.272	58	土師器 杯	9.3 1/2	□13.4 高 4.3 横 13.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラ撫で。	
第2688号 PL.272	59	土師器 杯	8.0 3/4	□13.8 高 3.9 横 13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラ撫で。	
第2688号 PL.272	60	土師器 杯	-0.1・10.7 ほぼ完形	□13.1 高 4.4 横 12.9	細砂粒/良好・橙 に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号	61	土師器 杯	4.8・9.4 1/2	□13.8 高 4.2 横 14.0	細砂粒/良好/に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号	62	土師器 杯	11.4 1/4	□12.1 高 4.0 横 12.0	細砂粒/良好/に赤い	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	63	土師器 杯	12.6 [1縁部]1/5欠損	□12.8 高 4.0 横 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	64	土師器 杯	0.7・7.0 ほぼ完形	□12.7 高 3.7 横 12.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	

種別番号 PL_番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2688号 PL.272	65	土師器 杯	2.4 完全	□12.9 高 4.5 底 12.8	細砂粒/良好/明黄 緑	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	66	土師器 杯	2.8 口縁部~底部片	□13.0 底 13.0	細砂粒/良好/不 明黄	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	67	土師器 杯	9.6 ほぼ完全	□12.4 高 4.4 底 12.9	細砂粒/良好/浅黄 緑	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	68	土師器 杯	- 1/2	□12.8 高 4.7 底 13.8	細砂粒/良好/橙 灰黄	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部がヘラ撫で。	
第2688号 PL.272	69	土師器 杯	3.6 口縁部1/4欠損	□13.0 高 4.8 底 13.0	細砂粒/良好/不 明黄	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラ撫で。	
第2688号 PL.272	70	土師器 杯	6.2 4/5	□12.8 高 4.2 底 12.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面ヘラ撫で。	
第2688号 PL.272	71	土師器 杯	2.8-6.2 体部一部欠損	□13.4 高 4.1 底 13.9	細砂粒/良好/明黄 緑	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	72	土師器 杯	3.6 ほぼ完全	□12.5 高 4.9 底 12.5	細砂粒/良好/明赤 色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	73	土師器 杯	-0.1-4.6 完全	□12.7 高 4.5 底 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	74	土師器 杯	10.2 口縁部~体部片	□12.6 底 13.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	75	土師器 杯	- 2/3	□12.4 高 5.3 底 13.0	細砂粒/良好/不 明色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	76	土師器 杯	10.4-10.9 完全	□12.6 高 4.0 底 12.9	細砂粒/良好/不 明色	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面ヘラ撫で。	
第2688号 PL.272	77	土師器 杯	3.6-9.7 口縁部~底部片	□14.0 底 14.3	細砂粒/良好/赤 褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	78	土師器 杯	7.2 1/3	□12.6 底 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	79	土師器 杯	11.2 ほぼ完全	□12.6 高 3.8 底 12.3	細砂粒/良好/灰 褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	外面は焼し焼 成か。
第2688号 PL.272	80	土師器 杯	4.7 口縁部~体部片	□12.7 底 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2688号 PL.272	81	土師器 杯	4.3 口縁部~体部片	□13.2 底 13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2698号 PL.272	82	土師器 杯	5.7 口縁部~体部片	□13.8 底 14.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2698号 PL.272	83	土師器 杯	- 口縁部~体部片	□12.8 底 13.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	口縁部の一 部に 稜が付着。
第2698号 PL.272	84	土師器 杯	6.3-10.1 2/3	□13.4 高 4.0 底 12.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2698号 PL.272	85	土師器 杯	- 口縁部~体部片	□15.5 底 13.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2698号 PL.272	86	土師器 杯	- 口縁部~体部片	□12.6 底 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2698号 PL.272	87	土師器 鉢	2.9 完全	□13.0 高 8.8 底 15.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内面黒色処理。口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部がヘラ撫で。	
第2698号 PL.272	88	土師器 鉢	28.5 口縁部僅かに欠	□17.6 高 9.5 底 17.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内面黒色処理。口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部がヘラ撫で。	
第2698号 PL.272	89	土師器 鉢	-0.9-13.4 口縁部~体部	□19.9 底 15.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部がヘラ撫で。	
第2698号 PL.273	90	土師器 付知張器	1.0-7.0 肩部 1/2、胴部上位	□13.6 底 13.2	細砂粒多/良好/赤 褐色	胴部は貼付、肩部口縁部は横撫で、胴部から底部はヘラ削り。胴部もヘラ削り。内面胴部は撫で。	
第2698号 PL.273	91	土師器 台付器	5.0-7.2 胴部片	脚 12.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐色	胴部はヘラ削り、肩部は横撫で、内面は胴部がヘラ撫で。	
第2698号 PL.273	92	土師器 高杯	3.9-6.1 3/4	□16.8 高 16.6 底 15.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内面胴部に輪積み痕が残る。杯肩部口縁部は横撫で、底部はヘラ削り。胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2698号 PL.273	93	土師器 有孔鉢	1.3-9.8 ほぼ完全	□19.2 高 10.2 孔 2.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面体部はヘラ撫で。	
第2698号 PL.273	94	土師器 罎	6.6-28.4 胴部~底部片	頸 12.2 胴 14.5	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラ撫で。	
第2698号 PL.273	95	須恵器 杯蓋	12.2 1/2	□13.8 高 4.6 底 14.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロウ口整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
第2698号 PL.273	96	須恵器 短直器	9.3 完全	□12.5 高 7.9 底 7.5 底 14.5	細砂粒・粗砂粒/ 砂質/還元/灰黄 緑	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で、器面磨滅のため単位不明。	
第2708号 PL.274	97	土師器 壺	1.5-9.4 2/3	□22.4 高 27.9 底 6.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で、器面磨滅のため単位不明。	
第2708号 PL.274	98	土師器 罎	4.3-6.5 ほぼ完全	□16.8 高 33.1 底 5.2 底 17.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐色	内外面に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラ撫で。	
第2708号 PL.274	99	土師器 罎	6.4-8.8 1/2	□18.0 高 31.9 底 4.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラ撫で。	
第2708号 PL.274	100	土師器 罎	9.4-17.0 3/4	□19.2 高 19.0 底 3.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラ撫で。	
第2708号 PL.274	101	土師器 罎	0.1-6.3 4/5	□21.6 高 30.5 底 5.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラ撫で。	

第4章 発掘調査の記録

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第271図 PL.273	102	土師器 甕	5.0-18.9 1/2	□17.4 高 26.2 底 7.0	細砂粒・粗砂粒 良好/ぶい黄橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から頸部へヘラ撫で。				
第271図 PL.273	103	土師器 甕	3.2-14.9 口縁部～胴部上半片	□19.9	細砂粒・粗砂粒 良好/ぶい赤	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第271図 PL.273	104	土師器 甕	1.8-18.8 口縁部～胴部上半片	□22.2	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第271図	105	土師器 甕	-1.2-7.0 口縁部～胴部上位	□19.2	細砂粒・粗砂粒・ ガラス質粒/良好/ ぶい赤	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第271図	106	土師器 甕	-0.9-4.7 口縁部～胴部上位	□20.4	細砂粒・粗砂粒・ ガラス質粒/良好/ ぶい赤	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第271図 PL.272	108	土師器 杯	10.9 ほぼ完形	□13.8 高 4.3 底 13.8	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
検出番号 図版番号	No	器 種	出土位置	形 態・素材	石 材	長 寸	幅	重 量 (g)	製作状況・使用状況	備考
第271図 PL.274	107	砥石	107	礫砥石	粗粒輝石安山岩	13.3	8.3	958.4	背面側に縦位の対なるし傷があるほか、小口部上端が崩れされ、砥石として使われている。	
第271図 PL.274	109	カマド石	-		未固結凝灰岩	31.3	17.1	7100.6	ノミ状の整形痕(幅5cm前後)を明顯に残す。厚さ14cmを測る。右辺側を主体に焼変熱変、又ス付着。95と接合。	96付-28 と接合

1区92号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第272図 PL.274	1	土師器 杯	2.4-26.6 口縁部一部欠損	□13.2 高 4.9	細砂粒・角閃石 雲母/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り。内面撫で。	内面わずかに 吸況。口唇部 の欠け顕著
第272図	2	土師器 杯	18.0 1/4	□13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り。内面撫で。	底部に黒灰
第272図 PL.274	3	土師器 杯	- 口縁部一部欠損	□13.0 高 4.4	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り。内面撫で。	内外面にハゼ 器面磨滅
第272図	4	土師器 杯	30.3 1/2	□13.4 高 3.9	細砂粒/良好/ぶい 赤	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り。内面撫で。	内面吸況
第272図 PL.274	5	土師器 杯	31.5-3 口縁部一部欠損	□11.6 高 4.5	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り。内面撫で。	内面にハゼ
第272図 PL.274	6	土師器 杯	2.7-6.8 3/4	□12.2 高 3.7	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り。内面撫で。	器面磨滅 底部に黒灰
第272図	7	土師器 杯	18.5 1/2	□7.2 高 3.4	細砂粒/良好/ぶい 赤	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り。内面撫で。	口縁部外面へ 体部内面塗布
第272図 PL.275	8	土師器 鉢	3.4 口縁部一部欠損	□11.1 高 7.9	細砂粒/良好/ぶい 赤	口縁部横撫で、体部外面横のヘラ削り。底部一方のヘラ磨き。内面撫で。	口唇部磨滅
第272図 PL.275	9	土師器 鉢	4.2-13.0 3/4	□19.4 高 7.8 底 19.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/ぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	有段口縁部
第272図 PL.275	10	土師器 鉢	3.4-5.2 口縁部一部欠損	□9.4 高 6.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部外面横のヘラ削り。内面撫で。	器面磨滅
第272図 PL.275	11	土師器 高杯	-1.7-10.0 3/4	□17.2 高 20.3 脚 18.0	細砂粒/良好/橙	杯身肩部は横撫で、底部から脚部はヘラ削り。杯部は横撫で。内面は杯身底部にヘラ磨き。脚部はヘラ撫で。	
第272図 PL.275	12	土師器 高杯	-1.0 1/2	□16.5 高 17.4 脚 15.5	細砂粒/良好/橙	杯身肩部は横撫で、底部から脚部はヘラ削り。杯部は横撫で。内面脚部はヘラ撫で。	
第272図 PL.275	13	土師器 蓋	- 1/3	□高 1.5 孔 0.5	細砂粒/良好/橙に ぶい赤	内外面赤彩か。器面は丁寧にヘラ磨き。縁目は突帯を貼付後穿孔。	
第272図	14	土師器 甕	-3.2-2.9 口縁部～胴部上半片	□18.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/ぶい黄橙	内面胴部に輪積痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第272図 PL.275	15	土師器 甕	0.9-10.4 口縁部～胴部中心	□15.2 胴 23.0	細砂粒/良好/ぶい 黄橙	口縁部上半は横撫で。下半から胴部はハケ目(1cmあたり7本)、頸部は撫で。内面は口縁部がハケ目、胴部はヘラ撫で。	
検 出 図 版	No	種 類	出土位置	残 存 率	計 測 値	特 徴 ・ 状 態	
第272図 PL.275	16	銅製品 不詳	-	棒状片	長5.6幅0.5厚0.5重9.0	比較的良好な状態。両端が破損する断面円形の棒状金属製品で全体の形状・用途は不明。	

1区93号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第273図	1	土師器 杯	-12.5-2.8 1/3	□12.0 高 4.4 底 10.4	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削りであるが、器面磨滅のため単位不明。	
第273図	2	土師器 杯	5.7 1/2	□11.8 高 4.0 底 10.8	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削りであるが、器面磨滅のため単位不明。	
第273図	3	土師器 杯	4.7 口縁部～底部	□12.2	細砂粒・褐色粒/ 良好/ぶい赤	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第273図	4	土師器 杯	18.5 1/4	□14.7 高 3.8 底 8.2	細砂粒/良好/明赤	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
第273図	5	土師器 高杯	12.5 脚部下位片	脚 15.8	細砂粒/良好/橙	脚部はヘラ削り。杯部は横撫で。内面はヘラ撫で。	

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第273回 PL.275	6	土師器 甕	- 10.2 - 口縁部～胴部 上位片	□14.7	細砂粒・粗砂粒・ 長石・片岩/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第273回 PL.275	7	土師器 甕	- 口縁部～ 胴部上半片	□21.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

## 1区94号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第273回 PL.275	1	土師器 用	6.9 ほぼ完形	□10.6 高 5.8	細砂粒/良好/黄橙	口縁部は縦位のへら削り後部分的にへら 磨き。内面は底部・口縁部とも放射状へら磨き。	
第273回 PL.275	2	土師器 用	5.0 2/3	□11.6 高 6.6 底 1.4	細砂粒/良好/橙	口縁部と体部上半は縦位。下半から底部は横位のへら磨き。 内面も全面へら磨き。	底部に焼 後穿孔(径1.2 cm)
第273回 PL.275	3	土師器 台付甕	25.5 3/4	□12.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、頸部～胴部外面左下方、胴部外面左上方向の3箇ほどのハケ目(1cmあたり6～7本)。胴部内面撫で。 胴部外面右下方のハケ目。胴部天井及び底部内面砂目粘 土で補填。	胴部内面下位 に接合痕
第273回 PL.275	4	土師器 台付甕	6.7-6.9 1/2、胴部下半 欠	□12.4 側 17.7	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6本)、胴部上に横 位の砂粒を観察。内面胴部は撫で。	内面底部と脚 部に砂粒を多 く粘付。C類
第273回	5	土師器 甕	26.7 口縁部～首頸部 片	□14.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	古上段部は横撫で、口縁部は撫で。内面は口縁部下平にハ ケ目が残る。	
第273回	6	土師器 甕	5.0-5.1 口縁部～胴部 上半	□12.8	細砂粒・粗砂粒・ 褐色色/良好/にぶ い黄橙	外面口縁部に輪積みが残る。口縁部はハケ目後撫で、胴 部はへら削り。内面は口縁部がハケ目(1cmあたり5本)、胴 部はへら撫で。	
第273回	7	須恵器 杯	底部～体部片	底 6.0	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部に黒書 「田か」

検出 版	No.	種 器 類 種	出土位置	残存率	計測値	特徴・状態
第273回 PL.275	8	鉄製品 刀子	-	破片	長6.3幅1.3厚0.45重8.6	錆化がすすむが内部にわずかに金属鉄が残る。厚みのある刀子の先端部 部分の破片。先端は細くとなる。

## 1区95号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第273回 PL.276	1	須恵器 杯	7.7 完形	□10.2 高 3.2 底 5.0	細砂粒/酸化/にぶ い橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内外面口唇部 の一部に焼が 付着。取明皿 に使用可。
第273回 PL.276	2	須恵器 杯	2.9 ほぼ完形	□1 9.8 高 2.6 底 6.4	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は撫でか、器面磨滅のため 詳細不明。	
第273回 PL.276	3	須恵器 杯	2.9 完形	□10.4 高 3.5 底 5.1	細砂粒/酸化/にぶ い橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第273回	4	灰輪陶器 椀	- 1/6	□16.2 底 8.4	緻密/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切りか、高台は粘付 が剥落。内面口唇部に凹線が通る。	虎渡山1号室 式用
第274回	5	須恵器 羽釜	-1.2-2.2 口縁部～胴部下位	□24.4 跨 26.8	粗砂粒/酸化/褐灰	ロクロ整形、回転方向不明。跨は粘付、胴部中位から下位 はへら削り。	
第274回	6	須恵器 羽釜	-0.6-6.8 1/4	□20.8 高 23.5 底 9.0 跨 24.9	粗砂粒/酸化/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は粘付、胴部中位から下位 と底部はへら削り。	
第274回	7	須恵器 羽釜	0.2 口縁部～ 胴部中位	□19.8 跨 23.5	粗砂粒/酸化/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。外面胴部に輪積みが残る。 跨は粘付。	
第274回	8	土製品 土師	- 完形	長 5.5 孔 0.5 径 2.2 重 23.0	微砂粒/良好/にぶ い橙	表面は撫で。	

検出 版	No.	種 器 類 種	出土位置	残存率	計測値	特徴・状態
第274回 PL.276	9	銅製品 部方	-	ほぼ完形	長 2.1幅 2.7厚0.3重3.7	錆化が進み表面の仕上げ状況等は不明だが孔の外縁の一部には面取りが みられる。裏面内面3カ所に内形のなだらかな台形状の突起があり脚部の 痕跡とみられる。そのうち2カ所には断面1×2mmの長方形の金属破片が付 着し脚の破片と考えられる。内面は全体に凹凸が多い。内外面とも金属 表面は劣化し艶消し加工痕跡や仕上げ状況観察できない。

## 1区96号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第274回 PL.276	1	土師器 杯	40.4 3/4	□12.0 高 3.5 底 8.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第274回 PL.276	2	土師器 杯	- 完形	□11.8 高 3.2 底 8.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第274回 PL.276	3	土師器 杯	6.6-7.4 2/3	□11.8 高 3.3 底 9.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第274回	4	土師器 杯	- 口縁部～底部片	□11.8 底 8.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第274回	5	土師器 杯	-0.6 1/4	□11.8 高 2.9 底 8.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	

第4章 発掘調査の記録

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2748回	6	土師器 杯	27.3-29.8 1/2	口 10.8 高 3.1 底 8.0	細砂粒/良好/に ぶい焼	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
第2748回	7	土師器 杯	8.1 1/5	口 13.0 高 3.4 底 8.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	外面(体部)に墨 書。判断不能。
第2748回	8	土師器 杯	8.6 1/2	口 11.8 高 3.1 底 9.0	細砂粒/良好/に ぶい焼	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
第2748回	9	土師器 杯	19.2 1/4	口 11.8 高 3.8 底 7.0	細砂粒/良好/に ぶい黄焼	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
第2748回	10	土師器 杯	9.4 1/3	口 11.2 底 8.0	細砂粒/良好/褐	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
第2748回 PL.276	11	須恵器 杯	4.3 3/4	口 12.7 高 2.9 底 8.7	細砂粒・粗砂粒/ 砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第2748回 PL.276	12	須恵器 杯	5.9-17.1 2/3	口 11.9 高 3.7 底 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 長石/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第2748回	13	須恵器 杯	-	口 12.0 高 3.5 底 6.6	細砂粒・粗砂粒/ 長石/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第2748回	14	須恵器 椀	7.4-16.5 底部	底 8.5 台 8.6	細砂粒・粗砂粒/ 長石/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2748回	15	須恵器 椀	9.5 底部	底 8.8 台 9.0	細砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2748回	16	須恵器 杯蓋	-1.8-1.1 1/3	口 15.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化/ぶい焼	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。	
第2748回	17	土師器 台付袋	- 胴部-胴部 下位	脚 8.0	細砂粒/良好/明赤 焼	胴部は貼付か、胴部はヘラ削り、胴部は横撫で、内面胴部はヘラ撫で。	
第2758回	18	土師器 甕	6.3-7.5 口縁部- 胴部上10片	口 13.4	細砂粒/良好/に ぶい赤焼	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2758回	19	土師器 甕	5.3 口縁部- 胴部10片	口 10.8 胴 13.0	細砂粒/良好/に ぶい赤焼	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2758回	20	土師器 甕	2.9-31.9 口縁部- 胴部上10片	口 19.2	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2758回 PL.276	21	土師器 甕	-3.4-18.6 口縁部- 胴部下10片	口 19.4 胴 22.2	細砂粒/良好/橙	内面胴部中に接合痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2758回	22	土師器 甕	11.0 口縁部- 胴部下10片	口 19.4 胴 23.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2758回	23	土師器 甕	2.5-17.3 口縁部- 胴部下10片	口 20.4 胴 21.8	細砂粒/良好/明赤 焼	内面胴部中に接合痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

検出 回数	No.	種 類	出土位置	残存率	計 測 値	特 徴 ・ 状 態
第2758回 PL.276	24	鉄製品 釘	24		長3.3幅2.1厚0.8重5.5	木材(広葉樹)の板目材で厚さ2.5cm以上に打ち込まれた状態で木質とともに錆化するため詳細な形状は不明。
第2758回 PL.276	25	鉄製品 釘	25		長7.3幅0.7厚0.3重9.3	木材(広葉樹)の板目材で厚さ3.5cm以上に打ち込まれた状態で木質とともに錆化するため詳細な形状は不明、一端部を覆う様に布の痕跡が残っている。
第2758回 PL.276	26	鉄製品 刀子	26		長21.8幅1.5厚1.25 重31.9	葉が長く棟側に明顯なマナを有する大型の刀子。錆化は進むが一部オリジナルの表面をのこす。

検出番号 PL.番号	No.	種 類	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第2758回 PL.276	27	砥石	27	礫砥石	粗粒輝石安山岩	20.3	21.7	3678.8	背面側に著しい研磨面。光沢面には線条痕が残る。	
	28	カマド石	カマド		未固結凝灰岩	(42.7)	16.3	7520.0	同上。91住-109と接合。	

1区98号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2768回	1	土師器 杯	4.4 完形	口 10.7 高 2.5 底 11.2	細砂粒/良好/に ぶい赤焼	内面黒色処理。口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第2768回	2	土師器 杯	8.0-20.8 1/3	口 12.0 高 3.6 底 12.0	細砂粒/良好/に ぶい黄焼	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	外面一分に灰 付着。
第2768回	3	土師器 杯	- 1/3	口 12.0 高 3.5 底 12.0	細砂粒/良好/に ぶい赤焼	口縁部横撫で、体部(膝下)は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
第2768回 PL.276	4	土師器 杯	5.4 口縁部1/2欠損	口 12.8 高 4.9 底 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2768回 PL.276	5	土師器 鉢	2.5-6.8 2/3	口 18.7 高 6.8 底 17.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/ぶい焼	内面黒色処理。口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部はヘラ撫で。	
第2768回	6	土師器 甕	0.9-12.1 口縁部- 胴部上10片	口 12.0	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2768回	7	土師器 甕	- 口縁部-胴部 上10片	口 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2768回	8	土師器 甕	- 口縁部-胴部 下位	口 19.6 胴 19.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2768回	9	土師器 甕	底部-胴部上位	底 5.2 胴 17.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/ぶい焼	内面胴部に輪痕み痕が残る。底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラ撫で。	
第2768回	10	土師器 鉢	- 口縁部-体部 上10片	口 16.6	細砂粒/良好/に ぶい黄焼	口縁部は横撫で、体部はハケ目(1cmあたり8本)。内面体部はヘラ撫で。	

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第276回	11	土師器 有孔鉢	底部-体部下位	底 3.6 孔 1.0	細砂粒/良好/橙	底部と体部はヘラ削り。内面はヘラ削り。	

## 1区99号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第276回	1	土師器 杯	7.3 1/5	口 12.4 底 11.6	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横溝で、体部が横で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	外面体部に黒書か。			
第276回	2	土師器 杯	17.4 1/4	口 11.6 高 3.7 底 6.3	細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部横溝で、体部上半部で指痕が残る。下半から底部は手持ちヘラ削り。	外面口唇部の一部に黒が付着。			
第276回 PL.276	3	須恵器 杯	3.8-8.4 ほぼ完形	口 13.5 高 4.1 底 7.8	細砂粒・粗砂粒 還元/灰オリーブ	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。				
第276回 PL.276	4	須恵器 椀	4.3-13.1 口縁部1/3欠損	口 14.0 高 5.6 底 7.0 台 6.5	細砂粒/酸化/にぶ い黄褐色	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。				
第276回 PL.276	5	須恵器 椀	2.5-10.9 口縁部3/4、高台一部欠	口 13.8 高 5.3 底 6.2 台 5.2	細砂粒・粗砂粒 還元/灰オリーブ	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	内外面体部に黒が付着。			
第276回 PL.276	6	須恵器 椀	19.5 口縁部2/3欠損	口 14.4 高 5.3 底 7.7 台 7.2	細砂粒・粗砂粒 還元/浅黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転溝で、高台は貼付。				
第276回 PL.276	7	須恵器 椀	5.7-20.5 口縁部1/3欠損	口 15.0 高 5.2 底 7.2 台 6.4	細砂粒・粗砂粒 還元/灰白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付。				
検出番号 図版番号	№	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第276回 PL.276	8	磁石	8	備磁石	デイスイト	20.3	9.3	1714.1	背面側に著しい研磨面。光沢面に線条状が残る。小口部は敲打使用。	

## 1区100号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第277回 PL.277	1	土師器 杯	3/5	口 8.4 高 3.5 底 8.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横溝で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回 PL.277	2	土師器 杯	11.5 完形	口 12.8 高 4.2 底 13.3	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部横溝で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回	3	土師器 杯	3.7 1/3	口 13.4 底 13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横溝で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回 PL.277	4	土師器 杯	1.5-5.9 3/4	口 12.0 高 4.2 底 12.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横溝で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回	5	土師器 杯	4.7-5.3 3/5	口 12.8 底 13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横溝で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回 PL.277	6	土師器 杯	3.2 ほぼ完形	口 12.0 高 4.3 底 12.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横溝で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回 PL.277	7	土師器 杯	6.8 ほぼ完形	口 12.9 高 4.3 底 13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横溝で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回 PL.277	8	土師器 杯	-0.5 1/2	口 13.8 高 4.4 底 14.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横溝で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回	9	土師器 杯	5.7 1/3	口 12.8 底 13.3	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部横溝で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回 PL.277	10	土師器 杯	5.1 3/4	口 12.2 高 5.8 底 13.5	細砂粒/良好/橙/に ぶい	口縁部横溝で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回 PL.277	11	土師器 罍	3.8 口縁部へ脚部 上位1/3欠損	口 14.6 高 13.8 脚 16.9	細砂粒・粗砂粒 砂岩/良好/にぶい 黄褐色	口縁部から頸部は横溝で、脚部から底部はヘラ削り。内面は底部から脚部へヘラ削り。				
第277回 PL.277	12	土師器 鉢	10.6 3/4	口 10.8 高 9.9 脚 12.4	細砂粒/良好/明黄 褐色	口縁部は横溝で、体部から底部は手持ちヘラ削り。				
第277回 PL.277	13	土師器 杯	-3.9-29.7 4/5	口 10.8 高 7.8 脚 12.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横溝で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部がヘラ削り。				
第277回 PL.277	14	土師器 台付罍	5.4+8.3 3/4	口 12.8 高 15.4 脚 10.2	細砂粒・褐色色粒 良好/黒褐色	脚部は彫削。口縁部と脚部は接合。口縁部と脚部は横溝で、脚部から脚部はヘラ削り。内面は脚部・脚部ともヘラ削り。				
第277回 PL.277	15	土師器 高杯	4.0 縮部欠損	口 18.5 底 7.5	細砂粒/良好/橙	杯身部分は口縁部が横溝で、底部(膝下)がヘラ削り、脚部もヘラ削り。内面脚部はヘラ削り。				
第277回	16	土師器 罍	3.5 口縁部へ脚部 上位1/3欠損	口 14.0 脚 18.6	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横溝で、脚部はヘラ削り。内面脚部はヘラ削り。	外面は全体的に黒が付着。			
第277回	17	土師器 罍	21.2 底部へ脚部 下位	底 5.4	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	底部と口縁部はヘラ削り。内面はヘラ削り。				
第277回 PL.277	18	土師器 罍	- 口縁部へ脚部 下位	口 17.0 脚 22.6	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	内面脚部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横溝で、脚部はヘラ削り。内面脚部はヘラ削り。				
第277回	19	須恵器 罍	2.9-7.9 口縁部へ脚部 上位片	口 23.0	細砂粒/還元/灰白	口縁部はロク口整形。口縁部は断面三角形の凸部によって2段に区画。区画内に波状文が通る。脚部は外面に平行打撃、内面に同心円状アテ具痕が残る。				
検出番号 図版番号	№	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第277回 PL.277	20	石製模造品	-	白玉	滑石	径1.3	高0.6	1.7	上下両面は折断後、面を整える程度に研磨。側面整形は雑で、縦位の粗い整形痕が残る。	
第277回 PL.277	21	石製模造品	-	白玉	滑石	径1.4	高0.8	2.4	上下両面は折断後、面を整える程度に研磨。側面には縦位の粗い整形痕。	



第4章 発掘調査の記録

1区101号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2789号 PL.277	1	須恵器 椀	0.8 I脚部一部欠損	□ 14.6 高 5.6 底 7.0 台 6.0	細砂粒・粗砂粒・ 片岩還元/灰白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2789号 PL.277	2	須恵器 椀	21.2 完形	□ 14.0 高 5.2 底 7.0 台 5.0	細砂粒・粗砂粒・ 長石還元・焼/灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付。	
第2789号 PL.277	3	須恵器 椀	0.7 I脚部2/3欠損	□ 13.0 高 5.2 底 7.0 台 5.5	細砂粒・粗砂粒・ 酸化/にぶい黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2789号 PL.277	4	須恵器 椀	3/5	□ 14.4 高 5.8 底 6.8 台 6.2	細砂粒・粗砂粒・ 酸化/にぶい黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2789号 PL.277	5	須恵器 椀	13.1 1/2	□ 13.8 高 5.5 底 6.0 台 5.2	細砂粒・粗砂粒・ 還元/灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2789号 PL.277	6	須恵器 椀	1.3 2/5	□ 16.6 高 6.5 底 7.6 台 6.6	細砂粒・粗砂粒・ 酸化/にぶい黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2789号 PL.277	7	須恵器 椀	-16.3 2/3	□ 13.6 高 5.1 底 6.4 台 5.4	細砂粒/還元/灰赤 リブ	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第2789号 PL.277	8	土師器 甕	-15.6-17.5 3/4	□ 19.8 高 25.0 底 2.6 台 22.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	内面胴部中に接合痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、 胴部から底部はへう削り。内面は底部から胴部にへう撫で、 上位のへう撫では小口の木目がへく目状に残る。	
第2789号	9	土師器 甕	0-21.9 口縁 部一胴部中位	□ 19.4 脚 21.5	細砂粒/良好/明赤 濁	内外面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部 はへう削り。内面胴部はへう撫で。	
第2789号	10	土師器 甕	0.4-0.7 口縁 部一胴部上平片	□ 18.8	細砂粒/良好/にぶ い赤濁	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴 部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	
検出 図版	No.	種器 種類	出土位置	残存率	計測値	成形・整形の特徴	摘 要
第2789号	11	鉄製品 平注	覆土		長 6.5幅 0.7厚 0.5重 6.4		断面台形状で両端と欠損する、刀子茎破片か。

1区102号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2789号 PL.277	1	土師器 杯	3.3 完形	□ 12.0 高 4.1 最 12.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへう削り。	

1区103号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第2799号 PL.278	1	須恵器 皿	13.5 完形	□ 8.3 高 2.5 底 4.2	細砂粒/酸化/橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。				
第2799号 PL.278	2	須恵器 皿	7.7 完形	□ 8.0 高 2.0 底 5.0	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。				
第2799号 PL.278	3	須恵器 皿	9.1 I脚部1/3欠損	□ 8.1 高 1.7 底 5.6	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。				
第2799号 PL.278	4	須恵器 皿	13.0 I脚部1/2欠損	□ 8.4 高 1.8 底 5.0	細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。				
第2799号	5-1	土師器 甕	-4.1-24.4 口縁 部一胴部上位片	□ 22.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤濁	内外面とも器面磨滅のため整形などは不明。				
第2799号	5-2	土師器 甕	-4.1-24.4 底 部一胴部下位片	底 10.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤濁	底部と胴部はへう削り、器面磨滅のため単位不明。内面は へう撫で。				
第2799号	6	土師器 甕	- 頸部一胴部 上位片		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面と内面口縁部は赤色赤濁、頸部にボタン状円板が貼付、 胴部は削目状赤濁文。				
検出番号 図版番号	No.	種器 種類	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第2799号 PL.278	7	砥石	7	礫砥石	粗粒輝石安山 岩	7.6	5.7	260.8	裏表面に研磨面。背面側研磨面は著しく研ぎ減る。	

1区104号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2799号	1	土師器 杯	4.9 2/5	□ 8.4 高 2.7 底 7.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)上半は撫で、下半から底部は手 持ちへう削り。	
第2799号	2	土師器 杯	8.2 I脚部一底部片	□ 11.2 底 11.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへう削り。	
第2799号 PL.278	3	土師器 杯	2.4 ほぼ完形	□ 12.8 高 4.0 底 13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへう削り。	
第2799号	4	土師器 杯	16.0 1/3	□ 15.0 高 4.8 底 14.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへう削り。	
第2799号	5	土師器 高杯	1.5 脚部片	脚 13.0	細砂粒/良好/明赤 濁	脚部はへう磨き、器部は横撫で。内面脚部はへう撫で。	
第2799号	6	須恵器 杯	22.0 1/2	□ 14.0 高 4.7	細砂粒/還元/灰	口クロ整形、回転右回り。天井部中央は回転へう起しが残 る。その周囲は回転へう削り。	
第2799号	7	土師器 甕	3.2-5.6 口縁 部一胴部上平片	□ 16.8 脚 19.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	
第2799号	8	土師器 甕	-0.1 口縁部 一胴部上位片	□ 19.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへ う撫で。	

種別番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第2798号	9	土師器 甕	1.4・1.6 底部~胴部下位	底	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	底部と胴部はへう削り。内面はへう撫で。				
第2798号	10	土師器 歯蓋	2.1 幅~天 井の寸法	幅 4.0	細砂粒/良好/橙	幅と天井部はへう削り。				
第2798号	11	土製品 土師	20.5 完形	長 5.2 孔 0.4 径 1.8 重 13.0	細砂粒/良好/橙	成形はやや雑。表面は撫で。				
種別番号 図版番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第2798号 PL.278	12	砥石	-	転用砥石	二ッ岳軽石	12.9	10.9	1553.7	表裏面に履位の対ならし傷が残る。素材を面整形して使用。部分的に赤化。カマド袖石等の再利用か。	

## 1区105号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第2800号 PL.278	1	須恵器 椀	-19.2 3/4	口 13.5 高 5.0 底 7.0 台 6.0	細砂粒/酸化に不 い黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。高台は貼付。				
第2800号 PL.278	2	須恵器 椀	1.9 3/4	口 13.1 高 4.7 底 7.2 台 6.6	細砂粒・粗砂粒 片引/還元/橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。高台は貼付。				
第2800号 PL.278	3	須恵器 椀	8.4 1/2	口 13.5 高 5.0 底 7.2 台 6.6	細砂粒/酸化に不 い黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転撫で。高台は貼付。				
第2800号 PL.278	4	須恵器 椀	1.5 3/4	口 14.8 高 5.7 底 7.6 台 6.5	細砂粒・粗砂粒 還元/灰オリーブ	口クロ整形、回転左回りか。底部切り離し技法不明。高台は貼付。	内外面に油煙 が付着。			
第2800号 PL.278	5	灰輪陶器 皿	-3.2 口縁部 大半を欠損	口 14.8 高 3.0 底 7.6 台 7.1	細砂粒・白色釉 還元/灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転撫で。高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式厨。			
第2800号 PL.278	6	灰輪陶器 皿	3.3~8.2 口縁部 一部欠損	口 12.5 高 3.5 底 5.7	微砂粒/還元/灰白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 厨。			
種別番号 図版番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第2800号 PL.278	7	石製品	-	不定形	二ッ岳軽石	14.8	10.8	397.2	背面面に浅い凹み部を作出。凹み部は敲打痕を残す。	
種 別 図 版	No.	種 器 類 種	出土位置	残 存 率	計 測 値	特 徴 ・ 状 態				
第2800号 PL.278	8	鉄製品 刀子	8		長 7.3幅 3.4厚 0.3重 35.0	柄取付部は基部の上半を覆やかに折り曲げている。刃先は研ぎ減りか柄装着部から大きく曲がる。刃部は中ほどで破損し破断面は錆化する				
第2800号 PL.278	9	鉄製品 刀子	9		長 5.2幅 0.8厚 0.3重 3.8	茎と刃先とも欠損する。棒・対照ともに間に有する				
第2800号 PL.278	10	鉄製品 刀子	10		長 5.2幅 0.6厚 0.25重 5.7	錆化が著しく本体は空洞化する。茎の破片				

## 1区106号住居出土遺物

種別番号 図版番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第2800号 PL.278	1	砥石	1	扁平盤	霞質安山岩	10.7	5.9	193.8	小口部上端に敲打痕がある。	
第2800号 PL.278	2	砥石	カマド	楕圓石	粗粒輝石安山岩	23.2	11.1	4584.3	平坦面に狭い側面に光沢面があり、砥石としての機能部と認定した。	

## 1区107号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2800号	1	土師器 杯	- 1/2	口 11.4 高 4.0 底 10.2	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で。体部(膝下)から底部は手持ちへう削り。器面磨滅のため単位不明。	
第2800号	2	土師器 杯	- 口縁部~底部片	口 11.8 底 10.8	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で。体部(膝下)から底部は手持ちへう削り。器面磨滅のため単位不明。	

## 1区108号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2800号	1	土師器 杯	12.0 1/2	杯 10.4 高 4.0 底 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で。体部上半撫で。下半から底部は手持ちへう削り。	
第2800号	2	須恵器 杯	0.4 1/3	口 13.3 高 4.0 底 5.6	細砂粒/酸化/橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部はべた高台状を呈す。	接触か。
第2800号	3	土師器 甕	8.7 口縁部~胴部 上位片	口 24.0	細砂粒・粗砂粒・ ガラス質粒/良好/ 橙	口縁部から頸部は横撫で。胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	

## 1区110号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2800号	1	土師器 台付甕	- 脚部片	脚 10.4	細砂粒/良好/不 い黄橙	底部は内側に折り返し。外面は上位にハゲ目痕がかすかに残る。	脚部の天井と 内面底部に砂 粒を多く含む 粘土が貼付。

第4章 発掘調査の記録

1区111号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種別	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考			
第281区 PL.278	1	土師器 杯	0.7×0.3 ほぼ完成形	□ 10.5 高 3.4 最 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。				
第281区 PL.278	2	土師器 杯	13.2×19.7 ほぼ完成形	□ 10.2 高 3.7 最 10.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。				
第281区 PL.278	3	土師器 杯	8.9 ほぼ完成形	□ 9.8 高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横撫で、下半が撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。				
第281区 PL.278	4	土師器 杯	27.7 1/2	□ 10.0 高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。				
第281区 PL.278	5	土師器 杯	- 3/4	□ 10.3 高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。				
第281区 PL.278	6	土師器 杯	-19.1 4/5	□ 10.0 高 3.3 最 10.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。				
第281区	7	土師器 杯	3.8 1/2	□ 11.1 高 3.3	細砂粒/良好/明赤釉	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	内面の一部に 傷が付着。			
第281区	8	土師器 杯	27.7 1/2	□ 10.6 高 3.9 最 11.0	細砂粒/良好/橙	口唇部は横撫で、口縁部から体部、底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。				
第281区	9	土師器 杯	- 1/3	□ 9.5 最 10.0	細砂粒/良好/橙	口唇部は横撫で、口縁部から体部、底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。				
第281区	10	土師器 杯	13.7 1/2	□ 11.2 最 10.3	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。				
第281区 PL.278	11	土師器 杯	4.0×8.8 3/4	□ 12.8 高 4.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。				
第281区	12	土師器 杯	0.5×0.8 1/4	□ 17.0 高 6.6	細砂粒/良好/明赤釉	外面口縁部下に輪組み痕が残る。口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。				
第281区	13	土師器 杯	- 口縁部～体部欠片	□ 17.1	細砂粒/良好/明赤釉	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。				
第281区	14	土師器 鉢	-4.9 1/5	□ 23.0 高 10.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラ撫で。				
第281区 PL.278	15	土師器 鉢	0.6-1.3 ほぼ完成形	□ 25.9 高 15.0 底 7.5	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	外面口縁部に輪組み痕が残る。口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラ撫で。				
第281区 PL.278	16	土師器 高杯	1.3-5.7 杯身 3.4～胴部上半	□ 12.3 最 10.0	細砂粒/良好/橙	杯身部・胴部は横撫で、底部から脚部はヘラ削り、内面脚部はヘラ撫で。				
第281区 PL.278	17	土師器 台付壺	4.8 完成形	□ 12.2 高 16.4 脚 10.3 胴 13.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部は除付。口縁部と底部は横撫で、脚部から胴部にヘラ削り。内面は胴部がヘラ撫で。				
第281区	18	土師器 甕	21.0×28.4口縁部～胴部下位片	□ 11.0 胴 13.5	細砂粒/良好/明赤釉	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第281区	19	土師器 甕	26.5口縁部～胴部下位片	□ 17.6	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第281区	20	土師器 甕	-20.1×41.2口縁部～胴部下位片	□ 17.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第281区	21	土師器 甕	10.4×18.6口縁部～胴部下位片	□ 18.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第281区	22	土師器 甕	17.0×32.9口縁部～胴部下位片	□ 23.6	細砂粒/良好/明赤釉	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第282区 PL.279	23	土師器 甕	-15.9 口縁部一部欠損	□ 23.1 高 38.9 底 4.2	細砂粒・粗砂粒・角四石/良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、胴部外面縦の2段のヘラ削り、内面横～斜の撫で。底部ヘラ削り。	胴部外面被熱			
第282区	24	土師器 甕	-3.6口縁部～胴部上半片	□ 22.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部に横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第282区 PL.279	25	土師器 甕	-1.9 2/3	□ 19.1	細砂粒・角四石/良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、胴部外面縦～斜のヘラ削り、内面斜のヘラ撫で。	胴部外面広範囲に 灰炭 内面 底色			
第282区	26	土師器 甕	-1.1口縁部～胴部下位片	□ 15.8 胴 17.2	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤釉	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第282区	27	土師器 甕	3.6-21.3口縁部～胴部下位片	□ 20.5 胴 29.0	細砂粒/良好/明赤釉	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第282区	28	土師器 甕	26.1口縁部～胴部下位片	□ 21.6	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。				
第283区 PL.278	29	須恵器 杯蓋	7.4 完成形	□ 10.4 高 3.2 筒 1.8	細砂粒・黒色釉/還元/灰	ロク口整形、回転右回り。杯蓋みは貼付、天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。				
第283区	30	須恵器 長頸壺	7.1 口縁部～頸部	□ 7.3	細砂粒/還元/灰白	ロク口整形、回転右回り。胴部とは接合か。				
検出番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第283区 PL.278	31	紡錘車	No.36	厚型	凝灰質泥岩	径4.2	高2.1	41.7	上面側に軽い線条痕を残す。体部にC字状の、下面側にV字状の線刻がある。体部に縦位整形痕が残る。	

## 1区112号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2804回 PL.279	1	土師器 杯	22.1 1/2	口 12.0 口 3.8 底 13.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐色	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため詳細不明。	
第2804回 PL.279	2	土師器 杯	13.3 1/4	口 12.1 口 4.5 底 12.5	細砂粒/良好/赤い 橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2804回 PL.279	3	土師器(丸) 胴部一部分	22.1 口縁部～ 胴部一部分	口 24.3	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部は撫で。	

## 1区114号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2834回 PL.279	1	土師器 瓶	7.7 底部	底 4.3 底 1.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤い黄褐色	胴部はヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面は撫で。	
第2834回 PL.279	2	土師器 甗	1.1 口縁部・ 胴部一部分	口 10.2 高 10.8 底 2.6 胴 12.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は縦位、胴部は横位のハケ目。内面は口縁部が横位のハケ目、胴部は撫で。	

## 1区115号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2834回 PL.279	1	土師器 杯	9.0 完形	口 10.4 底 10.6	細砂粒/良好/赤い 橙	口縁部横撫で、体部上撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。	

## 1区117号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要			
第2834回 PL.279	1	土師器 杯	11.6 ほぼ完形	口 12.6 高 3.9 底 13.2	細砂粒/良好/良 好/	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第2834回 PL.279	2	土師器 杯	10.4・12.6 口縁部1/8欠損	口 12.4 高 3.6 底 12.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第2834回 PL.279	3	土師器 杯	-1.6・-1.9 1/4	口 11.6 高 4.4 底 12.3	細砂粒/良好/赤い 赤褐色	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り。				
第2834回 PL.279	4	土師器 杯	-6.2-8.4 3/4	口 20.8 高 32.8 底 7.5 胴 31.2	細砂粒/良好/赤い 黄褐色	口縁部から頸部は横撫で、胴部から底部はヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。内面は底部から胴部へ横撫で。				
検出番号 図版番号	No.	種 器 類 種	出土位置 形・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考	
第2834回 PL.279	5	砥石	5	割き砥石	球粒状板岩	14.6	5.2	191.6	四面使用。表面側とも月子刃状器による整形痕が残る。石材感は弱く、やや軟質。中砥。	

## 1区118号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2844回 PL.280	1	土師器 杯	39.3 1/3	口 10.4 高 3.4 底 10.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
第2844回 PL.280	2	土師器 杯	30.6 口縁部・ 底部僅かに欠	口 12.7 高 4.4 底 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2844回 PL.280	3	土師器 杯	27.6 1/4	口 10.6 高 3.8 底 11.0	細砂粒/良好/赤い 橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第2844回 PL.280	4	土師器 杯	41.4 1/3	口 11.8 底 10.3	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
第2844回 PL.280	5	土師器 椀	7.0 口縁部一部分	口 11.8 底 12.8	細砂粒/良好/橙	内面黒色処理。口縁部は横撫で、体部は撫で。	
第2844回 PL.280	6	土師器 鉢	60.8 口縁部一部分	口 20.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口唇部は横撫で、口縁部と体部はヘラ削り。	
第2844回 PL.280	7	土師器 鉢	22.1 口縁部一部分	口 9.2 高 9.8 底 12.2	細砂粒/良好/赤い 橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第2844回 PL.280	8	土師器 短頸壺	27.6 2/3	口 11.2 高 8.7 底 14.0	細砂粒/良好/赤い 橙	口縁部は横撫で、胴部から底部は手持ちヘラ削り。	
第2844回 PL.280	9	土師器 鉢	11.2 完形	口 7.6 高 5.7 底 9.2	細砂粒/良好/赤い 橙	内面黒色処理。口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第2844回 PL.280	10	土師器 壺	14.2 口縁部 ～胴部下位	口 9.8 底 12.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤い赤褐色	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第2844回 PL.280	11	土師器 台付甗	8.0 胴部～胴部下位	胴 11.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤い赤褐色	胴部は胎付か、胴部はヘラ削り、胴部は横撫で。内面は胴部上位が撫で。	
第2844回 PL.280	12	土師器 壺	25.2・35.8 1/2	頸 10.4 胴 17.0	細砂粒・粗砂粒・ 褐色/やや軟質/ 赤い橙	口縁部は横撫で、胴部から底部はヘラ削りか、器面磨滅のため単位不明。	
第2844回 PL.280	13	土師器 壺	27.7・44.8 底 部～胴部下位	底 10.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤い黄褐色	胴部は外面がヘラ削り、内面はヘラ撫で。	
第2844回 PL.280	14	土師器 壺	5.3・33.3 口 縁部一部分	口 18.1 高 33.8 底 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部へヘラ撫で。	
第2844回 PL.280	15	土師器 壺	15.4・21.7 3/4	口 13.6 高 22.9 底 6.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部へヘラ撫で。	
第2844回 PL.280	16	土師器 壺	7.0・12.2 口 縁部～胴部中 位	口 17.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

第4章 発掘調査の記録

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第285図	17	土師器 甕	3.3-25.0 口縁部～胴部 上位片	口 21.2	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。				
第285図	17	土師器 甕	底部～胴部下 半片	底 4.8	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/にぶい 橙	内面胴部に輪積み痕が残る。底部と胴部はへら削り。内面はへら撫で。				
第285図	18	土師器 甕	13.9・18.4 口縁部 ～胴部上位片	口 21.0	細砂粒/良好/灰黄 色	外面に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。				
第285図	19	土師器 甕	10.0-35.6 口縁部 ～胴部上位片	口 19.0	細砂粒/良好/明赤 色	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。				
第285図 PL.280	20	土師器 甕	2.9-31.9 ほぼ完形	口 14.7 高 16.0 底 6.1 胴 16.1	細砂粒・粗砂粒・ 礫/良好/にぶい 橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で、器面磨滅のため単位不明。内面は胴部がへら撫で。				
第285図 PL.280	21	土師器 甕	-3.4-18.6 胴部一部欠損	口 16.5 高 18.5 底 7.2 胴 18.7	細砂粒・粗砂粒・ 良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面は底部から胴部がへら撫で。				
検出番号 図版番号	№	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第285図 PL.280	22	砥石	22	礫砥石	粗粒輝石安 山岩	20.8	(20.2)	4192.5	青面側に光沢を帯びた研磨面を有する。	

1区119号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第283図 PL.280	1	土師器 杯	6.5 2/3	口 12.5 高 4.1 底 13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り。	
第283図 PL.280	2	土師器 杯	-1.4-6.3 3/4	口 17.2 高 6.5	細砂粒/良好/橙	口唇部は横撫で、口縁部と体部はへら削り。口縁部から底部はへら削り、器面磨滅のため単位不明。	
第283図	3	土師器 甕	- 口縁部～胴 部上位片	口 11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第283図	4	土製品 土錫	3.4 先端の 一部欠損	長 5.5 孔 0.5 径 1.4 重 9.7	細砂粒/良好/明黄 色	表面は撫で。	
第283図	5	土師器 甕	- 口縁部片	口 23.4	細砂粒・粗砂粒・ 褐色粒/良好/明黄 色	口唇部内側に粘土結を添付。口縁部はハケ目後断面三角形の凸帯を添付。	

1区120号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第285図	1	土師器 杯	- 口縁部～体 部片	口 13.8 高 14.1	細砂粒/良好/にぶ い 橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第285図	2	須恵器 皿	- 口縁部片	口 16.0	微砂粒/還元/灰白 色	口縁部整形、回転方向不明。	
第285図	3	土師器 高杯	12.3 脚部片		細砂粒/やや軟弱/ 橙	外面はへら削り、内面はへら撫で。	
第285図	4	土師器 甕	-2.8-5.8 口縁部 ～胴部上位片	口 20.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

1区121号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第286図 PL.281	1	土師器 杯	1.7 ほぼ完形	口 10.7 高 3.5 底 11.0	細砂粒/良好/明赤 色	口縁部横撫で、体部(膝下)は撫で底部は手持ちへら削り。	
第286図 PL.281	2	土師器 杯	- 3/4	口 10.9 底 11.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第286図	3	土師器 鉢	- 口縁部～体 部片	口 7.6	細砂粒/良好/橙	口縁部から体部はへら磨き。内面はへら撫で。	
第286図	4	土師器 台付甕	77 口縁部～ 胴部上位片	口 17.8	細砂粒/良好/にぶ い 黄 色	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり8本)。内面胴部は撫で。	
第286図 PL.281	5	土師器 甕	0.7-19.6 口縁部 ～胴部下位	口 13.4 胴 23.4	細砂粒/良好/灰黄 色	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から胴部はへら磨き。内面は口縁部がへら磨き、胴部はへら撫で後一部へら磨き。胴部から脚部上位はハケ目(1cmあたり6本)。内面は胴部がへら撫で、脚部は撫で。	
第286図	6	土師器 台付甕	1.0-5.3 胴部 下半～脚部上半	脚 20.3	細砂粒/良好/にぶ い 黄 色	胴部から脚部上位はハケ目(1cmあたり7本)。内面は胴部がへら撫で、脚部は撫で。	
第286図	7	土師器 台付甕	24.4 脚部～胴部上位	脚 9.2 胴 20.6	細砂粒/良好/にぶ い 黄 色	胴部内側に内側に折り返し。胴部から脚部上位はハケ目(1cmあたり7本)。内面は胴部がへら撫で、脚部は撫で。	

1区122号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第285図	1	土師器 杯	-18.8 1/3	口 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	

## 1区124号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第285図	1	土師器 杯	- 1/4	口13.3 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横撫で、下半が撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第285図	2	土師器 杯	- 口縁部~底部片	口11.4	細砂粒/良好/明黄褐色	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。	

## 1区125号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第286図 PL.281	1	土師器 杯	1.7 完形	口10.9 高 3.6	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部横撫で、中位に弱い段を有する。底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨減
第286図	2	土師器 杯	17.8 口縁部~底部片	口10.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第286図	3	土師器 杯	- 口縁部~底部片	口12.0	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横撫で、中位に段を有する。底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	

## 1区126号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第286図	1	土師器 杯	- 口縁部~体部片	口13.8 径14.2	細砂粒/良好/明黄褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第286図	2	土師器 杯	- 口縁部~底部片	口10.8 径9.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨減のため単位不明。	
第286図	3	土師器 杯	- 口縁部~体部片	口10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り、器面磨減のため単位不明。	

## 1区127号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第287図 PL.281	1	土師器 杯	-0.3 3/4	口12.2 高 4.5	細砂粒/良好/明黄褐色	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	底部磨減
第287図	2	土師器 杯	-7.0 1/3	口11.8	細砂粒・角閃石・雲母/良好/にぶい赤褐色	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	外部平面と内面収戻
第287図	3	土師器 杯	0.6 1/3	口12.0	細砂粒・粗砂粒/良好/明黄褐色	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面剥離
第287図	4	土師器 杯	-0.5 1/3	口12.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横撫で、2段の外縁を作り出す。底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第287図 PL.281	5	土師器 杯	-62.3 完形	口 7.7 高 3.2	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨減
第287図	6	須恵器 蓋	3.7 体部片		細砂粒/還元/灰	口縁部横撫で、体部外面回転ヘラ削り。	
第287図	7	土師器 高杯	-15.5 杯部	口15.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面撫で、内面撫で。	器面剥離
第287図	8	土師器 壺か	2.1 底部片	底 4.6	細砂粒/良好/黄褐色	胴部外面縦の細かなハケ目(1cmあたり8~9本)、内面撫で。	
第287図	9	土師器 壺	5.3 1/3	口18.8 高18.9 底 7.6	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面縦~斜のヘラ削り。内面縦のヘラ磨き。	体部外面下端と内面磨減
第287図	10	土師器 壺	1/3	口18.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横撫で、胴部外面ヘラ削り、内面縦~斜の撫で。	
第287図	11	土師器 壺	0.3-5.3 口縁部~胴部片	口19.6	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面ヘラ削り。	器面磨減顕著
第287図	12	土師器 壺	口縁部~胴部上 体部片	口16.6	細砂粒・粗砂粒・長石/良好/橙	口縁部から胴部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第287図	13	土製品 土埴	-1.5 完形	長 4.9 重 12.8 幅 1.7 孔 1.5	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	器面撫で、端部面取り。	
検出 図版	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	特徴・状態		
第287図 PL.281	14	鉄製品 刀子	-	長8.6幅1.6厚0.3重11.9	横・刃側とも硬やかな間を有する。刃先は間より急激に細くなり研ぎ減りによるものとみられる。刃は3mm程で破損しその破断面は鈍化している。		

## 1区129号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第288図	1	土師器 杯	- 口縁部~底部片	口11.0 高 3.6	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨減 粉っぽい素地
第288図	2	土師器 杯	5.5 口縁部~底部片	口11.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、中位に弱い段を有する。底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨減
第288図	3	土師器 杯	1.3 口縁部~底部片	口11.7	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨減 粉っぽい素地
第288図	4	土師器 杯	- 口縁部~底部片	口11.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨減

## 第4章 発掘調査の記録

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第2889号	5	土師器 鉢	- 上縁部-体部口	□ 9.8	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横撫で、外面中位に段を有する。体部外面斜のヘラ磨き。内面撫で。				
第2889号	6	土師器 器台	2.6 受部-脚部口	□ 7.1	細砂粒/良好/赤い黄褐色	受部内外面及び脚部外面、赤形後縁-斜のヘラ磨き。脚部内面撫で。	脚部内面の片側破損			
第2889号	7	土師器 甕	12.2 上縁部-胴部口	□ 20.0	細砂粒・軽石・角四石/良好/赤い黄褐色	口縁部横撫で、胴部外面縦-斜のヘラ削り、内面縦-斜のヘラ撫で。				
第2889号	8	土師器 甕	5.3 口縁部-胴部口	□ 21.6	細砂粒・軽石/角四石/良好/赤い黄褐色	口縁部横撫で、胴部外面上平縁のヘラ削り、内面撫で。				
第2889号	9	土師器 甕	2.4-16.7 胴部-底部口	底 4.4	細砂粒・軽石/良好/赤い黄褐色	胴部外面縦のヘラ削り、内面横の撫でで、下端は縦の撫で。	胴部内面やや磨減			
第2889号	10	土製品 土師	-21.0 端部欠損	長 4.8 重 820 幅 1.4 孔 0.5	細砂粒/良好/明赤褐色	器面撫で。				
検出 図版	No.	種 器 類 種	出土位置	残存率	計測値	特 徴 ・ 状 態				
第2889号	11	鉄製品 小刀	-	-	長 3.1幅 2.6 厚 0.3 重 6.29	先端が破損する断面薄い三角形の小刀とみられる破片で中央にすでに錆化したひび割れが残っている。				
検出 図版番号	No.	種 器 類 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第2889号	12	磁石	12	扁平塊	雲母石英并 岩	13.9	6.3	436.9	上端側右側縁をノッチ状に敲打。	

## 1区130号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2889号 PL.281	1	土師器 杯	9.1-12.8 2/3	□ 11.2 高 3.4	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第2889号 PL.281	2	土師器 杯	22.0 2/3	□ 10.4 高 3.4	細砂粒/良好/赤い黄褐色	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	底部に黒斑
第2889号	3	土師器 杯	- 上縁部-底部口	□ 10.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	底部に黒斑 器面磨減
第2889号 PL.281	4	土師器 杯	9.1 1/2	□ 15.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面やや磨減
第2889号	5	土師器 甕	19.5 上縁部-胴部口	□ 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、口唇部内面に浅い凹縁を巡らす。胴部外面斜のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。	
第2890号 PL.281	6	土師器 甕	17.5-27.9 1/2	□ 24.2	細砂粒・軽石・角四石/良好/赤い黄褐色	口縁部横撫で、外面中位に段・縁を有し、口唇部内面に1条の凹縁を巡らす。胴部外面斜のヘラ削り、内面横-斜のヘラ撫で。	器面磨減
第2890号	7	土師器 甕	5.6 上縁部-胴部口	□ 21.2	細砂粒/良好/赤い黄褐色	口縁部横撫で、外面中位に段・縁を有し、口唇部内面に1条の凹縁を巡らす。	器面磨減
第2890号	8	土師器 甕	4.4-12.0 上縁部-胴部口	□ 20.8	細砂粒・軽石/良好/赤い黄褐色	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面上平縁、下平縁のヘラ撫で。	
検出 図版	No.	種 器 類 種	出土位置	残存率	計測値	特 徴 ・ 状 態	
第2890号 PL.281	9	鉄製品 刀子	-	-	長 5.9幅 0.95 厚 0.3 重 6.5	茎と刃先とも破損する刀子。錆化により本体は空洞化するが梗・刃先とも図が観察できる。茎の破断面は錆化するが、刃先は錆化後の破損である。	

## 1区131号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2890号 PL.281	1	土師器 杯	1.8 完形	□ 10.0 高 3.2	細砂粒・角四石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面磨減
第2890号 PL.281	2	土師器 杯	1.2 上縁部-底部欠損	□ 11.1 高 3.6	細砂粒・粗砂粒/良好/赤い黄褐色	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面にハゼ
第2890号 PL.281	3	土師器 杯	31.7 2/3	□ 10.9 高 3.4	細砂粒・角四石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨減
第2890号 PL.281	4	土師器 杯	-1.8 完形	□ 10.7 高 3.1	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	底部に黒斑 器面磨減
第2890号 PL.281	5	土師器 杯	-0.4 完形	□ 11.3 高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内外面にハゼ
第2890号 PL.281	6	土師器 杯	1.0 完形	□ 12.3 高 4.7	細砂粒・軽石/良好/黄褐色	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	底部に黒斑 内面の磨減顕著
第2890号 PL.281	7	土師器 杯	1.8 上縁部-底部欠損	□ 14.4 高 7.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部横の手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第2890号	8	土師器 甕	2.9 上縁部-胴部口	□ 24.4	細砂粒・角四石/良好/赤い黄褐色	口縁部横撫で、外面中位に段を有し、口唇部内面に1条の凹縁を巡らせる。胴部外面縦のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。	

## 1区132号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第2890号	1	須恵器 杯	-0.6 1/2	□ 9.9 高 3.2	細砂粒/還元/灰白	口口整形、回転右回り。底部手持ちヘラ削り。	
第2890号	2	須恵器 杯	20.8 1/4	□ 9.8 高 2.9	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白リープ	口口整形、回転方向不明。底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第2890号	3	土師器 杯	22.2 1/4	□ 12.7	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨減 粉っぽい赤地

検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第289図	4	土師器 杯	- 1/3	□ 11.1	細砂粒/やや軟黄 橙	成形・整形の特徴 口縁部横線で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面磨減			
1区133号住居出土遺物										
検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第290図	1	土師器 杯	1/4	□ 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横線で、体部から底部は手持ちへら削り。				
第290図	2	土師器 杯	口縁部～底部片	□ 12.8 横 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横線で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り、器面磨減のため単位不明。				
第290図 PL.281	3	土師器 鉢	7.2-35.2 2/3	□ 14.5 高 9.3	細砂粒・粗砂粒 良好/ぶい黄橙	口縁部に粘土を張り付けた痕跡が残る。体部から底部はへら削りか。内面はへら磨き。				
第290図	4	須恵器 鉢	32.1 口縁部～体部片	□ 12.8	細砂粒・白色粒 還元/灰	口縁口整形、回転右回り。口縁部に波状文が巡る。				
1区134号住居出土遺物										
検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第290図	1	土師器 器台	- 受け部片	□ 9.2	細砂粒/良好/ぶい赤黒	受部口縁部は横線で、底部はへら磨き。内面も同様、底部器面磨減のため単位不明。				
第290図 PL.282	2	土師器 高杯	8.6 胴部	脚 12.3	細砂粒/良好/明赤黒	外面と内面杯身部は赤色塗彩。胴部は外面がへら磨き、内面はへら磨で、一部ハケ目。	胴部上位に透孔が3カ所。			
第290図	3	土師器 甕	35.4 口縁部 ～胴部下位片	□ 13.8 脚 13.0	細砂粒/良好/ぶい赤黒	口縁部横線で、頸部はハケ目。胴部は撫で、内面胴部はへら撫でか。				
第290図	4	土師器 台付甕	一脚部～胴部 下位片	脚 10.2	細砂粒/良好/ぶい赤黒	胴部から胴部はハケ目(1cmあたり8本)。内面は胴部がへら磨き、胴部は撫で、端部にハケ目。				
第290図	5	土師器 高杯	0.7 胴部上半片		細砂粒/良好/ぶい黄橙	外面はへら磨き、内面はへら撫で。	胴部上位に透孔が4カ所。			
第290図 PL.282	6	土師器 台付甕	0.1 一部欠損	□ 18.1 高 29.6 脚 9.3 脚 25.0	細砂粒/良好/ぶい赤黒	胴部上部は内側に折り返し。口縁部は横線で、胴部から胴部上半はハケ目。内面胴部は撫で。				
第290図	7	土師器 甕	胴部上位片		細砂粒/良好/ぶい黄橙	胴部は網目状赤黒文、その下に麻縄文か、ボタン状内板が貼付。				
1区135号住居出土遺物										
検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第290図	1	土師器 台付甕	13.8 胴部	脚 7.1	細砂粒/良好/橙	胴部は内側に折り返し。胴部は外面が上半にハケ目、内面は撫で。				
第290図	2	土師器 甕	口縁部～胴部 上位片	□ 11.8	細砂粒/良好/ぶい黄橙	口縁部から胴部ハケ目が残る。内面は胴部から胴部にへら撫で。				
第290図	3	土師器 甕	27.0 口縁部 ～胴部上位片	□ 14.8	細砂粒/良好/ぶい黄橙	口縁部は横線で頸部から胴部はハケ目。内面口縁部はへら磨き。				
1区136号住居出土遺物										
検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第290図	1	土師器 鉢	1.4 2/5	□ 13.0 高 5.8 底 4.0	細砂粒/良好/ぶい黄橙	口縁部はへら削り、体部と底部はへら磨き。内面底部から体部もへら磨きか。器面磨減のため単位不明。				
第290図	2	土師器 有孔鉢	- 底部片	底 5.0 孔 1.0	細砂粒/良好/浅黄	底部と胴部はへら削りか。器面磨減のため単位不明。				
第290図	3	土師器 甕	口縁部～胴部 上位片	□ 9.6	細砂粒/良好/ぶい黄橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から胴部はへら磨き。内面は口縁部がへら磨き、胴部はへら撫で。				
第290図	4	土師器 器台	5.8 胴部片	脚 12.0	細砂粒/良好/浅黄	外面は赤色塗彩。外面はへら磨き、内面はへら撫で。	胴部上位に上下2段の透孔がある。			
第290図 PL.282	5	土師器 高杯	6.8 胴部～杯 身部下片	脚 14.6	細砂粒/良好/ぶい黄橙	杯身部、胴部ともへら磨き。内面は胴部上半がへら撫で、下半がハケ目。				
第290図	6	土師器 埴	- 1/4	□ 13.4 高 8.3	細砂粒・粗砂粒 良好/ぶい黄橙	口縁部は斜め、体部と底部は横位のへら磨き。内面は口縁部が横位のへら磨き。				
第290図	7	土師器 甕	1.7-6.4 口縁部片	□ 15.1	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部は横線で。				
第291図	8	土師器 台付甕	2.1 口縁部～胴部 上位片	□ 18.8	細砂粒/良好/明黄橙	口縁部は横線で、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部は撫で。				
第291図	9	土師器 台付甕	5.7 胴部下位～胴部 上位	脚 5.0	細砂粒/良好/ぶい黄橙	外面はハケ目、内面は撫で。	内面底部は内側に砂粒を多く含む粘土が貼付。			
第291図	10	土師器 埴	2.0 口縁部～胴部片	□ 9.4	細砂粒/良好/ぶい黄橙	口縁部外面～胴部外面のへら磨き。口縁部内面横のへら磨き。胴部内面横な撫で。	胴部内面に輪積み痕			
第291図 PL.282	11	土師器 甕	1.4-9.4 口縁部 ～胴部上位片	□ 21.0	細砂粒/良好/ぶい黄橙	口縁部はへら磨き、胴部はハケ目後へら磨き。内面も口縁部から胴部へへら磨き。				
第291図 PL.282	12	土師器 甕	胴部片	縦 5.3 厚 1.0 横 5.8 孔 0.2	細砂粒/良好/ぶい黄橙	外面は網目状赤黒文。内面はへら撫ででの製胴部を三角形に打ち欠き上部に穿孔し、ペンタン状に加工。				
第291図 PL.282	13	土師器 甕	2.6 胴部片	径 4.4 × 4.2 厚 0.9	細砂粒/良好/ぶい黄橙	周囲を打ち欠いて円盤状に加工。				
検出番号 図版番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第291図 PL.282	14	石製模造品	-	有孔円盤	滑石	3.9	(2.7)	14.4	筒縁を面取り整形。破損面を刀子状刃器により整形。孔は片側穿孔。背面側孔周辺は穿孔時に弾けている。	



第4章 発掘調査の記録

1区137号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2919号 PL.282	1	土師器 杯	-3.0 1/2	口 11.7 高 3.1 底 10.5	細砂粒・やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り、器面磨滅のため単位不明。	
第2919号 PL.282	2	土師器 杯	ほぼ完成形	口 11.7 高 3.2 底 10.6	細砂粒・粗砂粒/ やや軟質/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り、器面磨滅のため単位不明。	
第2919号 PL.282	3	土師器 罎	2.8 口縁部へ 胴部上位片	口 19.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第2919号 PL.282	4	土師器 罎	3.5-11.5 胴部一部欠損	口 22.1 高 35.0 底 4.2 胴 19.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第2919号 PL.282	5	土師器 罎	5.0-33.2 口縁部 胴部-胴部上位片	口 21.2 底 18.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	内面胴部に接合痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	

1区138号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2929号 PL.283	1	土師器 杯	18.0 完成形	口 8.0 高 2.8 底 7.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第2929号 PL.283	2	土師器 杯	8.2 完成形	口 12.5 高 3.9 底 13.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。内面底部はへら撫で。	
第2929号 PL.283	3	土師器 杯	10.5 完成形	口 12.5 高 4.2 底 13.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第2929号 PL.283	4	土師器 杯	17.8 ほぼ完成形	口 12.4 高 4.1 底 13.1	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第2929号 PL.283	5	土師器 杯	-1.8 ほぼ完成形	口 13.4 高 4.0 底 13.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第2929号 PL.283	6	土師器 杯	7.1 ほぼ完成形	口 12.4 高 4.6 底 13.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。内面底部はへら撫で。	
第2929号 PL.283	7	土師器 杯	0.7-1.3 1/2	口 15.0 高 4.5 底 15.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第2929号 PL.283	8	土師器 杯	1.1 口縁部一部欠損	口 12.4 高 4.5 底 13.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(膝下)は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第2929号 PL.283	9	土師器 杯	14.1 1/3	口 12.6 高 4.1 底 12.8	細砂粒/良好/明黄 橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り、器面磨滅のため単位不明。	
第2929号 PL.283	10	土師器 杯	1.2 完成形	口 12.4 高 4.2 底 12.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第2929号 PL.283	11	土師器 杯	2.7 完成形	口 13.0 高 4.1 底 13.0	細砂粒/良好/内 面焼/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り、内外面とも器面磨滅のため不明。	
第2929号 PL.283	12	土師器 杯	32.2 1/2	口 12.0 高 4.9 底 13.6	細砂粒/良好/濁 橙	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で、内面底ぶはへら撫で。	
第2929号 PL.283	13	土師器 杯	48.4 1/3	口 13.0 高 4.7 底 14.0	細砂粒/良好/濁 橙	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(膝下)は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第2929号 PL.283	14	土師器 杯	13.1-26.0 1/2	口 13.8 高 3.9 底 14.0	細砂粒/良好/濁 橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第2929号 PL.283	15	土師器 杯	2.0-8.8 口縁部一 部、胴部欠	口 17.9 高 5.9 底 17.6	細砂粒・粗砂粒/ 褐色粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第2929号 PL.283	16	土師器 鉢	1.0 口縁部一部欠 損	口 18.4 高 6.9 底 18.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	内外面に輪積み痕が残る。口縁部横撫で、体部上半部でか、器面磨滅のため単位不明。下半部から底部は手持ちへら削り。	内面煤付着。
第2929号 PL.283	17	土師器 鉢	45.6-46.3 3/4	口 12.2 高 11.9 底 14.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り。内面は底部から胴部へら撫で。	
第2929号 PL.283	18	土師器 短直器	-0.3-3.6 1/2	口 11.8 高 10.3 底 15.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部から底部はへら削り。内面は底部から胴部へら撫で。	
第2929号 PL.283	19	土師器 鉢	10.1-47.8 2/3	口 17.8 高 12.3 底 19.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り。内面は底部から胴部へら撫で。	
第2929号 PL.283	20	土師器 高杯	41.0 脚部	脚 12.3	細砂粒/良好/にぶ い赤濁	脚部はへら磨き、頸部は横撫で。内面はへら撫でか。	
第2929号 PL.283	21	土師器 罎	44.6 口縁部へ 胴部上位片	口 9.6	細砂粒/良好/にぶ い赤濁	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら磨き。内面胴部はへら撫で。	
第2929号 PL.283	22	土師器 罎	43.3 1/3	口 6.0 高 7.9 底 3.8 底 8.1	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部と胴部はハケ目後へら磨きと撫で、底部はへら磨き。内面は口縁部からハケ目、胴部はへら撫で。	
第2929号 PL.283	23	土師器 罎	0.7 口縁部一部欠損	口 13.4 高 14.9 底 8.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	外面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部から底部はへら削り。内面は底部から胴部へら撫で。	
第2929号 PL.283	24	土師器 罎	9.8-29.6 底部 胴部下位片	底 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内面黒色処理。底部と胴部はへら削り後胴部にへら磨き。内面はへら磨き。	
第2929号 PL.283	25	土師器 罎	11.5-17.1 口縁 部-胴部上位片	口 11.4	細砂粒/良好/橙	内面黒色処理か。口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第2929号 PL.283	26	土師器 台付罎	2.0-9.6 口縁 部-胴部一部と 脚部下半部欠	口 14.0 底 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤濁	口縁部は横撫で、胴部から脚部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第29329号 PL.283	27	土師器 罎	-0.4-27.4 2/3	口 18.2 高 30.8 底 6.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤濁	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部と底部はへら削り。内面は底部から胴部へら撫で。	
第2939号 PL.283	28	土師器 罎	33.6 胴部上半	口 18.2 高 30.8 底 6.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	内外面に輪積み痕が残る。胴部は外面がへら削り、内面はへら撫で。	

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第293回 PL.284	29	土師器 甕	0.4-32.0 2/3	口 20.0 高 38.2 底 5.5	細砂粒・粗砂粒 良好/ぶい黄橙	口縁部は横撫で、胴部と底部はへう削り、底部に木葉痕が残る。内面は底部から胴部にへう撫で。				
第293回	30	土師器 甕	0.4-0.2 口縁部-胴部1/4の1/2	口 19.6 胴 21.0	細砂粒・粗砂粒 良好/ぶい黄橙	口縁部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。				
第293回 PL.284	31	土師器 甕	9.7-16.6 口縁部-胴部上半	口 19.8 胴 20.2	細砂粒・粗砂粒 良好/ぶい黄橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう磨き。				
第293回	32	土師器 甕	6.7-12.3 底部-胴部下半	底 3.6	細砂粒・粗砂粒 良好/ぶい黄橙	内外面に輪積み痕が残る。底部と胴部はへう削り。内面はへう撫で。				
第293回	33	土師器 甕	15.1 口縁部-胴部上位片	口 16.6	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はへう磨き。内面胴部はへう撫で。				
第294回	34	土師器 甕	1.0-8.3 底部-胴部上半片	口 17.0 胴 23.4	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削りか、器面磨滅のため不明瞭。内面胴部はへう撫で。				
第294回 PL.284	35	土師器 有孔鉢	24.1-43.5 3/4	口 17.6 高 13.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部と底部はへう削り。内面は底部に指頭痕が残る。体部にへう撫で。	底部に径3mmほどの小孔が13以上穿孔。			
第294回 PL.284	36	土師器 甕	0.7-6.4 胴部-頸部欠損	口 21.7 高 25.0 底 8.6	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はへう削り。内面は口縁部が横撫で、胴部が縦位のへう撫で磨き。				
第294回 PL.284	37	土師器 甕	26.9-46.8 2/3	口 17.6 高 24.5 底 11.2 胴 27.2	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部は横撫で、胴部と底部はへう削り、器面磨滅のため不明。内面は底部から胴部にへう撫で。				
第293回 PL.284	38	土製品 土師	13.6 片方の 端部-頸部欠損	長 5.5 孔 0.5 径 4.6 重 13.5	細砂粒/良好/ぶい黄	表面は撫で。				
第293回 PL.284	39	土製品 土師	29.7 ほぼ完形	長 6.0 孔 0.5 径 1.4 重 10.9	細砂粒/良好/灰黄	表面は撫で。				
検出番号 PL.番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第293回 PL.284	40	磁石	-	棒状扁平型	変玄武岩	18.6	5.1	380.0	小口部・側縁に敲痕。	

## 1区139号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第294回	1	土師器 杯	43.4 口縁部-底部片	口 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへう削り、内面撫で。	底部に黒斑 器面磨滅
第294回	2	土師器 杯	1/4	口 11.8 高 2.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへう削り、内面撫で。	
第294回	3	土製品 土師	31.8 完形	長 5.7 重 9.4 幅 1.4 孔 0.5	細砂粒/良好/ぶい黄橙	器面撫で、端部に面取りなし。	器面磨滅

## 1区140号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第294回	1	土師器 杯	- 1/3	口 14.6 高 4.1 径 14.3	細砂粒/良好/黄褐色	内面黒色処理。口縁部横撫で、体部(梗下)から底部は手持ちへう削り、器面磨滅のため単位不明。	
第294回 PL.285	2	土師器 杯	0.5-1.5 3/4	口 13.9 高 4.9	細砂粒/良好/明赤橙	口縁部横撫で、底部手持ちへう削り、内面撫で。	底部に薄く黒斑 内面磨滅
第294回 PL.285	3	土師器 杯	2.4 完形	口 12.0 高 4.5	細砂粒/良好/ぶい黄	口縁部横撫で、外面中位に弱い段を有する。底部手持ちへう削り、内面撫で。	口縁部外面へ 体部内面漆塗 りか
第294回 PL.285	4	土師器 杯	0.6 完形	口 10.6 高 6.6	細砂粒・粗砂粒 雲母/良好/橙	口縁部横撫で、外面中位に稜を有する。内面撫で。	口縁部-底部 外面の一部吸 灰
第294回	5	土師器 高杯	44.8 胴部片		細砂粒/良好/橙	杯部底面へう削り、内面撫で。脚部外面縦のへう削り、内面磨滅の強い指痕。	
第294回 PL.285	6	土師器 鉢	0.4 口縁部-底部片	口 11.4	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	内面黒色処理。口縁部は横撫で、体部と底部は手持ちへう削り、内外面とも器面磨滅のため不明。内面体部はへう撫で。	
第294回 PL.285	7	土師器 有孔鉢	1.2 3/4	口 16.9 高 9.8 底 4.6 孔 2.0	細砂粒・粗砂粒 良好/橙	口縁部横撫で、体部外面斜のへう削り、内面撫で。底部内面の穿孔部周囲に16個の刺突。	体部内面吸灰 体部外面の大 半吸灰 体部 内面中位に帯 状の刺痕

## 1区141号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第295回 PL.285	1	土師器 台付甕	31.4 3/4	口 15.8 高 27.0 脚 8.4	細砂粒・粗砂粒 良好/ぶい黄橙	口縁部横撫で、頸部-胴部外面左下方のハケ目(1cmあたり6-7本)後、横のハケ目。胴部外面左上方向の2段ほどのハケ目。胴部内面撫で、脚部外面右下方向のハケ目。脚部天井及び底部内面砂目粘土で補填。	胴部内面位 部に嵌合痕 胴 部外面下半吸 灰
第295回	2	土師器 台付甕	26.4 口縁部-胴部1/4	口 11.6	細砂粒/良好/ぶい黄橙	口縁部横撫で、頸部-胴部外面左下方、胴部外面左上方向のハケ目(1cmあたり6本)後、横のハケ目。内面撫で。	器面磨滅
第295回	3	土師器 台付甕	26.4 口縁部-胴部1/4	口 18.0	細砂粒・角四石 良好/ぶい黄橙	口縁部横撫で、頸部-胴部外面左下方のハケ目(1cmあたり7-8本)後、横のハケ目。胴部内面撫での撫で。	
第295回	4	土師器 台付甕	30.9 口縁部-胴部1/4	口 16.4	細砂粒・粗砂粒 良好/ぶい黄橙	口縁部横撫で、頸部-胴部外面左下方のハケ目(1cmあたり8-9本)後、横のハケ目。胴部内面撫での撫で。	

第4章 発掘調査の記録

1区142号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第295号 PL.285	1	土師器 杯	0.6 2/3	□ 11.4 高 3.7	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	底部に黒斑
第295号 PL.285	2	土師器 杯	2.5 3/4	□ 10.1 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第295号 PL.285	3	土師器 杯	7.3 2/3	□ 10.8 高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	底部に黒斑
第295号 PL.285	4	土師器 杯	- 2/3	□ 9.9 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨減
第295号 PL.285	5	土師器 杯	- 1/2	□ 11.0 高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面に褐色の 付着物
第295号	6	土師器 杯	6.0 1/3	□ 10.6 高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨減
第295号	7	土師器 杯	30.8 1/3	□ 16.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、間に撫での部分を 残す。内面撫で。	外面撫での部 分に輪積み痕
第295号	8	土師器 杯	10.0 1/3	□ 13.4 高 4.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/黄	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第295号	9	土師器 鉢か	- 口縁部～胴部片	□ 13.0	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	体部外面磨減
第295号	10	土師器 用	- 口縁部～胴部 土片	□ 9.6	細砂粒/良好/淡黄	外面と内面の口縁部は赤色帯彩。口縁部から胴部は縦位の ヘラ磨き。内面口縁部は横位のヘラ磨き、胴部は撫で、一 部に拍頭痕が残る。	

1区143号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第295号 PL.285	1	手捏ね土器 椀形	5.7 完形	□ 3.8 高 2.9 底 2.0	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部内面折り返し。体部外面撫で。	底部に黒斑
第295号 PL.285	2	手捏ね土器 椀形	5.7 完形	□ 6.0 高 3.4 底 3.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	体部外面上平ハゲ目後撫で、下平横方向のハゲ目(1cmあたり 11本)。内面ヘラ撫で。	底部に黒斑
第295号	3	土師器 器台	- 脚部片	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部外面縦～斜のヘラ磨き、内面横のヘラ磨き。穿孔は不明。	
第295号 PL.285	4	土師器 高杯	1.0 2/3	□ 12.7 高 12.1 脚 13.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	杯部外面横～斜のヘラ磨き、内面横のヘラ磨き。脚柱部外 面縦、頸部横のヘラ磨き、内面撫で、基部に横方向のハ ゲ目(1cmあたり9本)。脚部の穿孔は3孔。	
第295号 PL.285	5	土師器 高杯	3.9 脚部片	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	杯部～脚部外面赤彩後ヘラ磨き。脚部内面撫で。脚部の 穿孔は3孔。	脚部内面吸込
第295号 PL.285	6	土師器 台付甕	2.4 1/2	□ 18.2	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、頸部～胴部外面左下方向のハゲ目(1cmあたり 9本)後横のハゲ目。胴部外面左上方向のハゲ目(1cmあたり 4本)。胴部内面撫で。	
第296号	7	土師器 台付甕	1.3 口縁部～胴部 片	□ 15.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横撫で、頸部～胴部外面左下方向のハゲ目(1cmあたり 5本)後横のハゲ目。胴部外面左上方向のハゲ目(1cmあたり 5本)。胴部内面に強い縦の撫で。	
第296号	8	土師器 台付甕	- 口縁部～胴部片	□ 12.8	細砂粒/良好/灰黄 濁	口縁部横撫で、頸部～胴部外面右下方向のハゲ目(1cmあたり 6本)。胴部内面に押し。	
第296号	9	土師器 台付甕	2.1 脚部片	脚 8.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面右下方向のハゲ目(1cmあたり5本)。脚端部折り返し。 脚部天井及び底部内面砂目粘土で補填。	内面磨減。
第296号	10	土師器 甕	5.7 口縁部～胴部片	□ 16.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤濁	口縁部折り返し。口縁部外面赤彩及び口縁部～胴部内面赤彩後 横のヘラ磨き。頸部外面赤彩後縦のヘラ磨き。	
第296号	11	土師器 甕	4.3 口縁部～胴部 片	□ 13.6	細砂粒/良好/明赤 濁	口縁部～胴部外面ハゲ目後縦のヘラ磨き。口縁部内面ヘ ラ磨きか。	口縁部内面～ 胴部外面赤彩、 内面の磨減痕 著

1区144号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第296号	1	土師器 杯	9.0 1/4	□ 14.0	細砂粒/良好/にぶ い赤濁	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面磨減
第296号 PL.285	2	土師器 杯	1.3 口縁部～胴部欠損	□ 15.0 高 4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	口縁部外面～ 内面塗塗り
第296号	3	土師器 甕	5.3 口縁部～ 胴部上半小片	□ 15.0 高 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り、内面胴部はヘラ撫で、 器面磨減のため単位不明。	
第296号 PL.285	4	土師器 甕	9.0 2/3	□ 20.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面横の撫で。	胴部内面下位 に接合痕

1区145号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第296号 PL.286	1	土師器 杯	- 口縁部/欠損	□ 14.6 高 4.1 棧 12.4	細砂粒/良好/徳 明赤濁	口縁部横撫で、体部(棧下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第296号	2	土師器 鉢	9.7 口縁部片	□ 10.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面とも横位のヘラ磨き。	

検出番号 PL. 番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第296図	3	土師器 高杯	4.3 脚部→上半		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	外面はへら磨き、内面はハケ目(1cmあたり7本)。 口縁部は斜め、体部は横位のへら磨き。内面は口縁部、体部とも斜めのへら磨き。	脚部に透孔が3カ所。
第297図	4	土師器 出	口縁部→体部片	□ 17.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横位で、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面は口縁部、体部とも斜めのへら磨き。	
第297図	5	土師器 壺	口縁部片	□ 7.6	細砂粒/良好/にぶい黄緑	外面はハケ目後縦位のへら磨き。内面は横位のへら磨き。	
第297図	6	土師器 台付壺	-1.0 口縁部→ 脚部上位片	□ 18.8	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口縁部は横位で、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部は横位で、	
第297図	7	土師器 台付壺	7.2 口縁部→ 脚部上位片	□ 19.2	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口縁部は横位で、胴部はハケ目(1cmあたり9.8本)。内面胴部は横位で、	
第297図	8	土師器 台付壺	脚部片	脚 8.8	細砂粒/良好/明赤褐色	底部は内側に折り返し。外面上位はハケ目、内面は横位で、指頭痕が残る。	
第297図	9	土師器 壺	口縁部→脚部上位片	□ 9.2	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口縁部から胴部は横位で、胴部はへら磨き。内面は口縁部がへら磨き、胴部はへら磨き。	
第297図 PL. 286	10	土師器 壺	19.6 口縁部→ 脚部下位	□ 9.6 脚 12.2	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口縁部から胴部は横位で、胴部はへら磨き。内面は口縁部がハケ目後へら磨き、胴部はへら磨き。	
第297図 PL. 286	11	土師器 壺	17.3 口縁部→ 脚部中位	□ 13.8 脚 16.9	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口縁部から胴部は横位で、胴部はへら磨き。内面は口縁部がハケ目後へら磨き、胴部はへら磨き。	
第297図 PL. 286	12	土師器 壺	-4.6-5.5 口縁部→ 頸部片	□ 20.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は折り返し。口唇部はハケ目後部分にへら磨き。内面は器面磨滅のため不明。	
第297図	13	土師器 壺	-8.1-2.5 口縁部→ 頸部上位片	□ 13.2	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口唇部は折り返し。口唇部はへら磨き。口縁部は横位で、胴部はへら磨き。内面は口縁部がへら磨き。	
第297図	14	土師器 壺	口縁部片	□ 14.2	細砂粒/良好/にぶい黄緑	内外面とも赤色塗彩。外面は縦位、内面は横位のへら磨き。	
第297図 PL. 286	15	土師器 壺	底部→脚部下半	底 5.2 脚 13.8	細砂粒/良好/にぶい黄緑	底部はへら削り、胴部はハケ目後へら磨き。内面はへら磨き。	
第297図	16	土師器 杯	-0.6 底部片		細砂粒/良好/明赤褐色	外面は手持ちへら削り、内面は横位で。	周面を打ち欠き転用か、用途不明。

## 1区146号住居出土遺物

検出番号 PL. 番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第297図	1	土師器 鉢	5.9-11.6 口縁部→ 体部上位片	□ 18.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部は折り返し。折り返し部分に指頭痕が残る。口縁部下半から体部はハケ目。	
第297図	2	土師器 高杯	13.8 脚部片		細砂粒/良好/にぶい赤褐色	外面はへら磨き、内面は横位で。	脚部に透孔が3カ所。
第297図	3	土師器 高杯	11.1 脚部下半片	脚 13.2	細砂粒/良好/にぶい黄緑	内外面ともへら磨き。	脚部に透孔が3カ所。
第297図	4	土師器 高台	18.9 脚部上半片		細砂粒/良好/明黄褐色	外面はへら磨き、内面は横位で。	脚部に透孔が3カ所。
第297図	5	土師器 壺	6.5 底部→脚部下位	底 5.0	細砂粒/良好/褐灰	底部はへら削り、胴部は横位で、内面はへら磨き。	
第297図	6	土師器 壺	-4.0 底部→脚部下位	底 7.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐色	底部はへら削り、胴部は横位で、内面はへら磨き。	
第297図	7	土師器 台付壺	脚部下位→脚部片	脚 5.5	細砂粒/良好/灰黄褐色	胴部から脚部はハケ目(1cmあたり6本)。内面は胴部がへら磨き。	底部脚部面に砂粒の多い粘土が貼付。
第298図 PL. 286	8	土師器 台付壺	-6.7-9.0 3/4	□ 17.2 高 28.0 脚 10.3 脚 23.4	細砂粒/良好/にぶい黄緑	胴部上部は内側に折り返し。口縁部は横位で、胴部から脚部上位はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部はへら磨き。	底部内外面に砂粒の多い粘土が貼付。

## 1区147号住居出土遺物

検出番号 PL. 番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第298図 PL. 286	1	土師器 杯	-6.2 完形	□ 11.5 高 3.9 脚 10.7	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口縁部横位で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第298図 PL. 286	2	土師器 杯	0.4 完形	□ 12.0 高 4.0 脚 10.7	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横位で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り器面磨滅のため単位不明。	
第298図 PL. 286	3	土師器 杯	2.0 完形	□ 11.3 高 4.2 脚 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横位で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第298図 PL. 286	4	土師器 杯	0 完形	□ 12.7 高 4.2 脚 10.9	細砂粒・粗砂粒/ やや軟質/橙	口縁部横位で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り器面磨滅のため単位不明。	
第298図 PL. 286	5	土師器 杯	4.2 口縁部→一次欠損	□ 14.5 高 5.7 脚 14.4	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口縁部横位で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第298図 PL. 286	6	土師器 皿	-1.8 完形	□ 13.0 高 3.4 脚 10.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横位で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第298図	7	須恵器 杯身	口縁部→体部小片	□ 11.0 脚 13.0	細砂粒/還元/灰	口口整形、回転方向不明。体部はへら削り。	
第298図	8	土師器 壺	18.4 脚部下半片		細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰褐色	胴部に輪積み痕が残る。外面はへら削り、内面はへら磨き。	
第298図	9	土師器 壺	-0.1-22.8 底部→脚部片	底 6.8 脚 28.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	底部と胴部はへら削り、内面はへら磨き。	

第4章 発掘調査の記録

1区148号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2988図	1	土師器 器台	-	口 10.6	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	内外面とも放射状へら磨き。	
第2988図	2	土師器 壺	-34.9 口縁部片	口 10.6	細砂粒/良好/浅黄 橙	内外面とも赤色塗彩。外面はハケ目後へら磨き、内面はへら磨き。	
第2988図 PL.287	3	土師器 用	-1.2-3.6 4.5	口 10.9 高 6.4	細砂粒/良好/橙	体部から口縁部は放射状へら磨き、底部はへら削り。内面口縁部はやや雄塗放射状へら磨き。	
第2988図 PL.287	4	土師器 用	7.4 定形	口 9.0 高 4.2 底 5.2	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は撫で後へら磨き、底部は撫で。内面は口縁部がハケ目後へら磨き、底部はへら撫で。	
第2988図	5	土師器 用	- 口縁部片	口 7.2	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	外面はハケ目後へら磨き、内面はへら磨き。	
第2998図	6	土師器 壺	1.0 底部~胴 部破片	底 12.0	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	底部はへら削り、胴部はへら磨き。内面は底部から体部にへら磨き。	
第2998図	7	土師器 壺	-20.9 底部~胴部1位	底 9.7 胴 37.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/ぶい黄橙	底部はへら削り、胴部はへら磨き。内面は底部にハケ目、胴部はへら撫で。	
第2998図 PL.287	8	土師器 壺	-17.5-5.3 3/4	口 14.9 高 26.9 底 7.5 胴 24.2	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口唇部は折り返し、口縁部はハケ目後へら磨き、胴部はへら磨き。内面口縁部はへら磨き、頸部はハケ目。	
第2998図 PL.287	9	土師器 壺	-13.0-9.2 3/4	口 14.2 高 23.9 底 6.4 胴 22.0	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部は上半に横撫で、下半はへら磨き、胴部はへら削り後撫で。	
第2998図	10	土師器 甕	-5.9 口縁部片		細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口唇部に刺突文が通る。	

1区149号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第2998図	1	土師器 杯	- 口縁部~体部片	口 10.8 底 10.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第2998図	2	土師器 杯	- 口縁部~体部片	口 13.8 底 13.0	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り、器面磨滅のため単位不明。	
第2998図	3	土師器 台付甕	- 口縁部~胴部 上位片	口 12.0	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり11本)。内面胴部はへら撫で。	

1区150号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3000図 PL.286	1	土師器 鉢	- 2/3	口 16.5 高 5.3 径 11.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第3000図	2	土師器 器台	- 受け部小片		細砂粒/良好/ぶ い黄橙	内外面とも赤色塗彩。断面に輪積み痕が残る。内外面ともへら磨き。	
第3000図	3	土師器 器台	- 脚部上位片か		細砂粒/良好/ぶ い黄橙	外面は赤色塗彩か。内外面とも器面磨滅のため不明。	
第3000図	4	土師器 台付甕	18.4 口縁部~胴部片	口 12.2	細砂粒/良好/明赤 橙	口縁部横撫で、頸部~胴部外面左下方向のハケ目(1cmあたり11本)。胴部内面磨の強い撫で。	
第3000図 PL.286	5	土師器 台付甕	-2.1-39.2 胴部~下部欠損	口 14.3 高 20.1 脚 4.3 胴 18.7	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	胴部上部は内側に折り返し、口縁部は横撫で、胴部から脚部上半はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部はへら撫で、脚部は撫で。	底部の内面に 砂粒の多い粘 土が貼付。
第3000図	6	土師器 台付甕	3.9 脚部片	脚 9.4	細砂粒/良好/橙	端部は内側に折り返し、上半はハケ目(1cmあたり5本)、下半は撫で。内面は撫で、指頭痕が残る。	底部脚部面に 砂粒の多い粘 土が貼付。
第3000図 PL.286	7	土師器 壺	-2.1-3.0 口縁 部~胴部1位片	口 14.6	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部は横撫で、胴部はへら磨き。内面胴部はへら撫で。	

1区151号住居出土遺物

種別番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3000図	1	手ねえ土器 椀形	- 1/3	口 6.0 高 2.6 底 4.0	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部は撫で、体部はへら磨き、底部は器面磨滅のため単位不明。内面は撫で。	
第3000図	2	土師器 器台	31.0 脚部上半		細砂粒/良好/明赤 橙	脚部は外面へら磨き、内面はへら撫で。	
第3000図	3	土師器 台付甕	口縁部~胴部 上位片	口 15.0	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部は撫で。	
第3000図 PL.287	4	土師器 台付甕	11.2 脚部~胴部上位	脚 8.0 胴 17.0	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	胴部上部は折り返し、脚部上半から胴部はハケ目(1cmあたり8本)。内面は胴部がへら撫で、脚部は撫で。	
第3000図 PL.287	5	土師器 台付甕	5.0 1/2 脚部 下欠	口 9.8 胴 14.2	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部は横撫で、胴部から脚部はハケ目(1cmあたり8本)。内面胴部は撫で。	
第3000図 PL.287	6	土師器 壺	1.4 口縁部/2欠損	口 11.6 高 20.2 底 6.3 胴 18.8	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部と胴部~底部はへら磨き。内面は口縁部がへら磨き、胴部はへら撫で。	
第3000図	7	土師器 甕	4.4 口縁部片	口 16.0	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	内面は赤色塗彩。口唇部は折り返し、内外面ともへら磨き。	脚部に透孔が 3カ所。
第3000図 PL.287	8	土師器 壺	1.4-5.3 3/4	口 20.3 高 25.8 底 7.3 胴 26.0	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部と胴部、底部はへら磨き。内面は口縁部がへら磨き、頸部にハケ目。底部から胴部はへら磨き。	
第3000図 PL.287	9	土師器 壺	3.1+4.8 口縁 部~胴部下位	口 14.6 胴 23.6	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部と胴部はへら磨き。内面は口縁部がへら磨き、頸部にハケ目、胴部はへら撫でか。	

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形・整形の特徴	摘 要
第30004 PL.287	10	土師器 小型甕	27.0 口縁部～ 胴部下位	□ 10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はへう削り、器面磨滅のため単位不明。内面胴部はへう撫で。	
第30008	11	土師器 甕	24.3 口縁部片	□ 14.0	細砂粒/良好/浅黄橙	内外面とも横撫で、口縁部に1本の凹線が通る。	
第30008	12	土師器 甕	16.8 口縁部～ 胴部片	□ 19.8	細砂粒/良好/に 茶い黄橙	口唇部に刺突線が通る。頸部から胴部はハケ目、内面胴部はへう撫で。	

## 1区152号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形・整形の特徴	摘 要
第30104 PL.288	1	土師器 甕	2.2 口縁部/3次割	□ 10.2 高 10.4 底 3.7 胴 11.6	細砂粒/良好/に 茶い黄橙	口縁部は横撫で、胴部と底部はへう磨き。内面は底部から胴部にへう撫で。	内面胴部中位に稜が付着。
第30104 PL.288	2	土師器 甕	4.7 口縁部/5次割	□ 7.9 高 7.6 底 4.4	細砂粒/良好/に 茶い黄橙	口縁部は横撫で、胴部と底部はへう磨き。内面は口縁部からへう磨き、底部から胴部にへう撫で。	
第30104 PL.288	3	手捏ね土器 杵形	5.7 完形	□ 4.6 高 3.0 底 4.1	細砂粒/良好/焼 黒黒	内面に輪積み筋が残る。口縁部・底部ともへう撫で。内面は撫で。	
第30104 PL.288	4	土師器 台付甕	6.3 1/2	□ 15.2 高 25.7 脚 8.8 胴 22.2	細砂粒/良好/灰 黄橙	胴部底部は内側に折り返し、口縁部は横撫で、胴部から脚部はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部は撫で。	
第30104 PL.288	5	土師器 台付甕	4.8 2/3	□ 10.6 高 19.4 脚 6.8 胴 15.2	細砂粒/良好/に 茶い黄橙	胴部底部は内側に折り返し、口縁部は横撫で、胴部から脚部はハケ目(1cmあたり8本)。内面胴部は撫で。	
第30104 PL.288	6	土師器 台付甕	4.5-6.3 1/2	□ 11.8 高 27.9 脚 9.8 胴 22.2	細砂粒/良好/に 茶い黄橙	胴部底部は内側に折り返し、口縁部は横撫で、胴部から脚部はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部は撫で。	
第30104 PL.288	7	土師器 台付甕	3.9-8.0 3/4	□ 16.2 高 31.6 脚 9.3 胴 25.4	細砂粒/良好/灰 黄橙	胴部底部は内側に折り返し、口縁部は横撫で、胴部から脚部はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部は撫で。	
第30104 PL.288	8	土師器 台付甕	4.8 口縁部～ 胴部.半片	□ 14.6 胴 32.4	細砂粒/良好/に 茶い黄橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6本)。内面胴部は撫で。	
第30104 PL.288	9	土師器 台付甕	3.9-4.8 口縁 部～胴部1/4	□ 15.5 胴 25.0	細砂粒/良好/に 茶い黄橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6本)。内面胴部は撫で。	

## 1区153号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形・整形の特徴	摘 要
第30204 PL.289	1	土師器 高杯	- 杯身部1/6	□ 11.6 底 4.4	細砂粒/良好/明 赤褐	杯身部は胴部と接合。杯身部は口縁部から底部とも内外面ともへう磨き。	
第30204 PL.289	2	土師器 高杯	0.4 杯身部 底部～胴部上半	□ 9.8 底 4.4	細砂粒/良好/に 茶い黄橙	外面と杯身部内面は赤色塗彩。外面はへう磨き。内面は胴部にハケ目。	胴部に透孔が 付着。
第30204 PL.289	3	土師器 盃	- 口縁部片	□ 10.0	細砂粒/良好/黄 橙	外面は縦位、内面は横位のへう磨き。	
第30204 PL.289	4	土師器 盃	4.0-6 口縁 部～頸部	□ 16.6	細砂粒/良好/橙	口唇部に3本1対の棒状凸部がみかけに貼付。口縁部はハケ目後へう磨き。内面もへう磨き。器面磨滅のため単位不明。	

## 1区154号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形・整形の特徴	摘 要
第30204 PL.289	1	須恵器 甕	8.1 2/3	□ 8.6 高 2.1 底 5.4	細砂粒/酸化/に 茶い黄橙	□クロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第30204 PL.289	2	須恵器 甕	10.4 口縁部～底部片	□ 14.0 高 4.9 底 6.8 台 7.6	細砂粒・褐色粒 酸化/に茶い黄橙	□クロ整形。回転右回りか。底部の切り難し技法不明。高台は貼付。	
第30204 PL.289	3	須恵器 樽	14.0 口縁部～体部片	□ 14.2	細砂粒/酸化/に 茶い黄橙	□クロ整形。回転右回りか。	
第30204 PL.289	4	土師器 甕	6.3-15.9 1/3	□ 15.4 高 16.2 底 13.0 胴 17.8	細砂粒・粗砂粒 良好/黒褐	口縁部は横撫で、胴部上位は撫で、中位から底部はへう削り。内面は底部から胴部にへう撫で。	
第30204 PL.289	5	土師器 甕	4.8-20.5 底部～胴部片	□ 9.8 胴 30.4	細砂粒・粗砂粒 良好/に茶い赤褐	胴部は横撫で、胴部から底部はへう削り。内面は底部から胴部にへう撫で。	
第30204 PL.289	6	須恵器 羽釜	3.2-8.7 口縁 部	□ 28.2 跨 31.4	細砂粒・粗砂粒 酸化/赤褐	□クロ整形。回転方向不明。外面胴部に輪積み筋がみかけに残る。跨は貼付。	
第30204 PL.289	7	土師器 羽釜	-2.1-10.2 口縁 部～胴部1/4	□ 27.0 胴 35.4 跨 31.0	細砂粒・粗砂粒 良好/明赤褐	跨は貼付。胴部中位はへう削り。内面は胴部がへう撫で、器面磨滅のため詳細不明。	

## 1区155号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形・整形の特徴	摘 要
第30204 PL.289	1	土師器 杯	-3.9 3/4	□ 13.0 高 4.2 底 13.4	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへう削り。	
第30204 PL.289	2	土師器 杯	51.9 2/3	□ 13.0 高 4.2 底 13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへう削り、器面磨滅のため単位不明。	
第30204 PL.289	3	土師器 杯	11.8 4/5	□ 13.5 高 4.1 底 13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへう削り。	
第30204 PL.289	4	土師器 杯	10.6 3/5	□ 12.3 高 3.7 底 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)は撫で、底部は手持ちへう削り。	
第30204 PL.289	5	土師器 杯	- 1/2	□ 17.6 高 5.9	細砂粒・粗砂粒 良好/明赤褐	内面黒色処理か。口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへう削り、器面磨滅のため単位不明。	
第30204 PL.289	6	土師器 台付鉢	6.3 口縁部～一次割	□ 11.8 高 10.5 脚 8.7 最 14.6	細砂粒・粗砂粒 良好/に茶い黄橙	胴部は貼付。口縁部は横撫で、体部はへう削り、器面磨滅のため単位不明。胴部はへう削り。	

第4章 発掘調査の記録

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第303図	7	土師器 甕	2.9-3.0 底部～胴部下位	底 8.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐色	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラ掻き。	
第303図	8	土師器 高杯	7.4 杯身部片	口 15.8 径 13.0	細砂粒/良好/明赤褐色	杯身部は口縁部横撫で、底部(残下)は手持ちヘラ削り。	
第303図 PL.289	9	土師器 高杯	- 脚部片	脚 16.6	細砂粒/良好/橙	胴部に輪積み痕が残る。脚部はヘラ削り。基部は横撫で。内面は脚部がヘラ掻き。	
第303図	10	土師器 甕	11.8・12.6 口縁部～胴部上1/3	口 15.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ掻き。	
第303図	11	土師器 甕	7.4-28.8 口縁部～胴部上1/3	口 16.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ掻き。	
第303図 PL.290	12	土師器 甕	3.6-28.4 口縁部～胴部下位	口 20.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ掻き。	
第303図 PL.289	13	土師器 甕	3.9-13.2 口縁部～胴部下位片	口 14.8 脚 13.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。器面磨滅のため単位不明。内面胴部はヘラ掻き。	
第303図 PL.290	14	土師器 甕	10.8-39.1 口縁部～胴部上1/3	口	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ掻き。	
第303図 PL.290	15	土師器 甕	2.7-13.8 1/3	口 16.0 高 16.5 底 7.3	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ掻き。	
第303図 PL.290	16	土師器 甕	2.7-28.4 3/4	口 21.0 高 23.7 底 9.5	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。器面磨滅のため単位不明。内面胴部はヘラ掻き。	
第303図	17	土師器 甕か鉢	2.7-3.4 口縁部～胴部上1/3	口 29.8	細砂粒・粗砂粒/ 褐色粒/良好/明赤褐色	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ掻き。	
第303図 PL.290	18	土製品 土鉢	- 3/4, 下端 淵欠損	長 5.9 孔 0.4 径 1.6 重 13.2	細砂粒/良好/橙	内面は撫で。	
第303図 PL.290	19	土製品 部台	10.2 受部～胴部下位	口 8.5	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	受部は横撫、脚部は履位のヘラ磨き。内面はヘラ磨き、脚部もヘラ磨き。	

1区156号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第304図	1	土師器 杯	- 1/3	口 11.6 径 11.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(残下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第304図	2	土師器 杯	- 1/3	口 11.4 径 10.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(残下)から底部は手持ちヘラ削り。	

1区157号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第304図	1	土師器 甕	21.0 口縁部 ～胴部上1/3	口 15.0	細砂粒/良好/橙	外面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ掻き。	

1区158号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第304図	1	土師器 鉢	2.3 口縁部～底面片	口 13.6 径 10.4	細砂粒/良好/明赤褐色	内外面赤色塗彩。口縁部はヘラ磨き、底にハケ目がわずかに残る。体部から底部もヘラ磨き。内面も全面ヘラ磨き。				
第304図 PL.290	2	土師器 器台	- 受部～胴部上1/3	口 8.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	外面は赤色塗彩。受部から胴部はヘラ磨き。内面は受部がヘラ磨き、脚部は撫で。	脚部に透孔が3カ所。			
第304図	3	土師器 甕	14.4 口縁部 下半～胴部上1/3	口 13.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部から胴部はハケ目、胴部はヘラ削り。内面は口縁部にハケ目が残る。胴部はヘラ掻き。				
第304図	4	土師器 甕	8.6 口縁部～胴部片	口 13.4	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部は折り返し。口縁部上半と胴部は横撫で、下半はハケ目。内面は口縁部下半にハケ目。				
検出番号 図取番号	No.	器 種	出土位置	形・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第304図 PL.290	5	砥石	-	磯砥石	デイスイト	20.9	12.5	2919.1	表裏内面に光沢を帯びた研磨面。背面側小口部に幅広いの対ならし傷がある。	

1区159号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第304図	1	須恵器 杯蓋	9.7 1/4	口 13.8	細砂粒/還元/灰白	口縁部整形、回転右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。	

1区160号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第304図	1	土師器 埴	- 1/6	口 12.8 高 6.6	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部は斜放射状ヘラ磨き、体部から体部は器面磨滅のため単位不明。内面口縁部も斜放射状ヘラ磨き。	
第304図	2	土師器 鉢	- 2/3	口 16.0 高 5.6 径 10.5	細砂粒・褐色粒/ 良好/明赤褐色	口縁部横撫で後下半に撫で、体部(残下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第304図 PL.291	3	土師器 甕	- 1/4	口 8.3 高 8.3 底 3.4 脚 10.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横撫で、胴部はハケ目後下半にヘラ磨き。底部はヘラ掻き。内面は口縁部にヘラ磨き、底部から胴部はヘラ掻き。	
第304図 PL.291	4	土師器 台付甕	-1.9～2.4 口縁部～胴部上1/3	口 14.7 脚 22.8	細砂粒/良好/灰黄褐色	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6本)。内面胴部は撫で。	

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3048号	5	土師器 台付甕	6.5-12.5 口縁部 -胴部上1/3位	□ 16.8	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は横撫で、胴部はハゲ目(1cmあたり6本)、内面胴部は撫で。	
第3048号 PL.291	6	土師器 甕	10.0-21.7 口縁部 -胴部1/4位	□ 12.4 胴 21.6	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部折り返し、口縁部上半は横撫で、下半はハゲ目、胴部はへら磨き。内面は口縁部がハゲ目、胴部はへら撫で。	
第3048号	7	土師器 甕	12.0 底部～ 胴部1/3位	底 4.8	細砂粒/良好/明黄 褐色	底部から胴部はへら磨き。内面はへら撫で。	
第3048号	8	土師器 甕	7.9 底部～ 胴部下1/3位	底 4.6	細砂粒/良好/にぶ い褐色	外面は赤色塗彩。底部はへら削り、胴部はへら磨き。内面はへら撫で。	

## 1区161号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3058号 PL.290	1	土師器 杯	15.4 1/2	□ 12.8 高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第3058号	2	土師器 杯	4.3 口縁部～底部	□ 11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。器面磨滅のため単位不明。	
第3058号	3	土師器 杯	2.2 口縁部～底部	□ 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。器面磨滅のため単位不明。	
第3058号	4	土師器 杯	11.7 口縁部～底部	□ 13.4	細砂粒多/良好/に ぶい褐色	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第3058号	5	土師器 杯	6.5 口縁部～底部	□ 13.2 底 10.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第3058号	6	土師器 杯	- 口縁部～底部	□ 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第3058号 PL.290	7	土師器 杯	- 1/3	□ 14.8 高 3.7	細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第3058号	8	土師器 杯	- 口縁部～底部	□ 15.8	細砂粒多/良好/に ぶい褐色	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。器面磨滅のため単位不明。	
第3058号	9	土師器 杯	- 口縁部～底部	□ 13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第3058号	10	土師器 杯	- 口縁部～底部	□ 14.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第3058号	11	土師器 杯	- 口縁部～底部	□ 14.8	細砂粒多/良好/に ぶい褐色	口縁部横撫で、体部から底部はへら削りか、器面磨滅のため単位不明。	
第3058号	12	土師器 杯	- 1/4	□ 12.0 高 3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第3058号	13	土師器 杯	-	□ 9.8 高 3.4	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第3058号 PL.290	14	土師器 杯	14.9 1/2	□ 13.2 高 2.9 底 11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)は撫で、底部は手持ちへら削り。	
第3058号	15	土師器 杯	28.5 1/4	□ 17.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第3058号	16	土師器 杯	15.4 口縁部～体部	□ 18.0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半は手持ちへら削り。	
第3058号	17	須恵器 杯	8.9 1/2	□ 13.8 高 3.2 底 10.2	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り。	
第3058号	18	須恵器 杯	-0.5-0.2 1/3	□ 14.0 高 3.6 底 10.0	細砂粒/還元/褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り。	
第3058号	19	須恵器 短頸蓋	-2.5-10.1 胴部 -胴部一部欠損	□ 11.8	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。胴と凸帯は貼付。	
第3058号	20	土師器 甕	9.0 口縁部～ 胴部上1/3位	□ 14.4	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第3058号	21	土師器 甕	-1.1-2.6 口 縁部-胴部上1/3	□ 23.0 胴 21.6	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部から頸部は横撫で、指頭部が残る。胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	
第3058号	22	須恵器 甕	2.2 口縁部	□ 19.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰褐色	ロクロ整形、回転方向不明。口唇部は折り返し。	
第3058号	23	須恵器 甕	34.6 口縁部	□ 19.0	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。	
検出 版	№	種 類	出土位置	残存率	計測値	特徴・状態	
第3058号 PL.290	24	鉄製品 蓋	瓶方		長8.8幅0.6厚0.5重3.0	長頸部で茎との境は段を持つが縁はなし断面四角の茎は1.5cm程で欠損する。	

## 1区162号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3068号 PL.291	1	土師器 杯	1.9 完形	□ 10.7 高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削り。	
第3068号 PL.291	2	土師器 杯	3.3 ほぼ完形	□ 12.8 高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちへら削りか、器面磨滅のため単位不明。	
第3068号 PL.291	3	土師器 皿	3.4 口縁部/欠損	□ 17.7 高 4.6 底 16.0	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。	
第3068号 PL.291	4	土師器 甕	6.2 口縁部～ 胴部1/4位	□ 22.2 胴 19.6	細砂粒/良好/橙	内面胴部に輪筋が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへら撫で。	



第4章 発掘調査の記録

検出番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第306図 PL.291	5	阿石?	5	扁平円盤	粗粒輝石安山岩	13.6	12.4	846.6	背面側中央に孔1を穿つ。表裏両面とも摩耗。周辺敲打痕。縦文彫磨石に比べ扁平すぎ。黄質。	
第306図 PL.291	6	鉄製品 釘	-	残存率		計測値			特徴・状態	
						長 5.8幅0.5厚0.4重3.3			断面正方形に近い角釘で頭部を欠く。先端に向かい徐々に細くなり端部で急に細くなりとなる	

1区163号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第306図 PL.291	1	土師器 杯	13.3 1/3	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						口 11.4 高 3.3 稜 10.7			細砂粒/良好/明黄褐色	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。
第306図 PL.291	2	土師器 杯	2.2 3/4	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						口 10.6 高 3.8 稜 10.8			細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。
第306図 PL.291	3	土師器 台付壺	10.1 脚部片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						脚 9.4			細砂粒/良好/灰黄褐色	内外面とも横撫で、外面に指頭痕が残る。
第306図 PL.291	4	土師器 高杯	脚部中位片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
									細砂粒/良好/にぶい黄褐色	内面に粘土結着き上げ痕が残る。外面はヘラ削り。
検出番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第306図 PL.291	5	砥石	5	切り砥石	砥石	5.5	3.3	85.7	背面側の孔周辺が溝状に浅く、端部がU字状に窪む。刀子状工具による整形痕が残る。両面側に使い込んだ使用面がある。下端小口部は粗く磨き整形。径3mm(最小径)の孔を両側穿孔する。	

1区164号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第306図 PL.291	1	須恵器 高杯か	- 杯身部 - 一部片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						口 10.8 稜 9.2			細砂粒/還元/灰	口ロク整形、回転方向不明。体部はヘラ撫で。
第306図 PL.291	2	土師器 杯	- 口縁部 - 一部片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						口 11.8 稜 9.9			細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横撫で、体部(稜下)は手持ちヘラ削り。
第306図 PL.291	3	土師器 杯	3.0 ほぼ定形	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						口 13.0 高 3.9 稜 9.4			細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部(稜下)は手持ちヘラ削り。
第306図 PL.291	4	土師器 壺	-1.9 口縁部 - 胴部下位	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						口 18.6			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	内面に輪轆み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。
第306図 PL.291	5	土製品 輪轆	- 一部片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
									細砂粒/良好/橙	表裏ともヘラ磨き、側面は器面磨滅のため不明。
第306図 PL.291	6	土製品 土師	5.2 両端部 欠損力所あり	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						長 5.5 孔 0.5 径 1.5 重 9.2			細砂粒/良好/にぶい橙	表面は撫で。
第306図 PL.291	7	土製品 土師	-3.1 下部欠損	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						長 4.5 孔 0.5 径 1.6 重 9.8			細砂粒/良好/にぶい橙	表面は撫で。

1区166号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第306図 PL.291	1	土師器 台付壺	5.8-6.3 口縁部 - 胴部上位片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						口 17.4			細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6本)、内面胴部は撫で。
第306図 PL.291	2	土師器 壺	4.7-7.2 口縁部 - 胴部上位片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						口 15.6			細砂粒/良好/明赤褐色	内面胴部に輪轆み痕が残る。口縁部はヘラ磨き、胴部はヘラ削り。
第306図 PL.291	3	土師器 壺	10.6 口縁部小片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
									細砂粒/良好/にぶい黄褐色	内外面赤色塗彩。口縁部は折り返し、上半に棒状凸帯が貼付。

1区167号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第306図 PL.291	1	須恵器 瓶	- 口縁部下 - 胴部上位片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
									細砂粒/還元/灰白	口ロク整形、回転右回りか。外面胴部にカキ目。

1区168号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第306図 PL.291	1	土師器 杯	14.0 口縁部-一部片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						口 14.0 稜 14.3			細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横撫で、体部(稜下)は上半が撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。

1区169号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第307図 PL.291	1	土師器 杯	17.8 口縁部 - 一部片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						口 12.0 稜 11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。

1区171号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第307図 PL.291	1	土師器 高杯	0 脚部下半片	計測値		胎土/焼成/色調			成形・整形の特徴	摘要
						脚 11.8			細砂粒/良好/にぶい赤褐色	脚部はヘラ削り、胴部は横撫で。内面脚部はヘラ撫で。

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第307図 PL.291	2	土師器 高杯	-1.7-0.9 胴部基部	脚 18.2	細砂粒/良好/赤褐色	胴部はヘラ削り、基部は横撫で。	脚部の割れ口 状態は著滅 脚部欠損後二 次利用か。			
第307図	3	土師器 甕	32.4 口縁部 ~胴部上位片	口 19.2	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面製部はヘラ撫で。				
第307図	4	土師器 甕	17.2 口縁部 ~胴部上位片	口 22.7	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り、器面磨滅のため不鮮明。内面製部はヘラ撫で。				
検出番号 図版番号	№	器 種	出土位置	形 態・素 材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第307図 PL.291	5	敲石	-	棒状扁平磯	粗粒輝石安山岩	18.9	7.0	726.8	小口部敲打・摩耗、無縁敲打。	

## 1区172号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第307図	1	土師器 杯	1/4	口 12.8 高 3.7 径 12.8	細砂粒/良好/焼 灰黄褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第307図	2	土師器 杯	-	口 14.8 径 13.7	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)は手持ちヘラ削り。	
第307図	3	土師器 高杯	20.2 杯身部 底部~胴部上位	-	細砂粒/良好/橙	杯身部底部と胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

## 1区173号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第307図 PL.292	1	土師器 杯	2.4 3/4	口 12.7 高 4.3 径 11.8	細砂粒/良好/焼 灰黄褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第307図	2	土師器 杯	0.2 1/3	口 12.0 高 3.6 径 12.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第307図 PL.292	3	土師器 杯	1.2 3/4	口 12.8 高 3.8 径 13.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)はヘラ削り後撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
第307図 PL.292	4	土師器 杯	4.4・4.7 2/3	口 13.4 高 3.7 径 13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第307図	5	土師器 杯	-	口 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部はヘラ磨き、内面も同様であるが、体部は器面磨滅のため単位不明。	
第307図	6	土師器 台付甕	14.6 脚部片	脚 12.4	細砂粒/良好/橙	脚部はヘラ削り、基部は横撫で。内面は脚部にヘラ撫で。	
第307図 PL.292	7	土師器 高器種不明	6.7 口縁部3/4欠損	口 17.4 高 6.8 径 1.9	細砂粒/良好/不 い黄褐色	柄目は貼付、天井部はヘラ削り後撫で、口縁部は横撫で。	
第307図	8	須恵器 杯	-	底 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ起し後撫で。	
第307図	9	土師器 甕	3.8 口縁部~ 胴部上位片	口 16.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第307図	10	土師器 甕	-10.7 口縁部 ~胴部上位片	口 19.0	細砂粒・粗砂粒/ ガラス質粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

## 1区174号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第307図	1	土師器 鉢	-	口 17.8	細砂粒/良好/橙	外面は器面磨滅のため単位不明。内面はヘラ磨きか。	

## 1区175号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第307図 PL.292	1	土師器 杯	13.6	口 13.6 高 5.5 径 3.6 径 13.8	細砂粒/良好/焼 にぶい橙	口縁部横撫で、体部(膝下)は撫で、下半に指頭痕が残る、底部はヘラ削り。	
第307図 PL.292	2	土師器 杯	13.6・16.8 3/4	口 12.8 高 3.9 径 12.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	

## 1区177号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第308図	1	土師器 杯	-	口 11.4 高 3.2 径 11.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第308図	2	土師器 杯	-	口 12.0 高 3.3 径 11.6	細砂粒/良好/焼 にぶい赤褐色	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第308図	3	土師器 甕	2.2 口縁部~ 胴部上位片	口 20.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	

第4章 発掘調査の記録

1区178号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3088号 PL.292	1	土師器 台付壺	-0.6 裏部2/5欠損	口 10.6 高 10.9 脚 7.6 胴 11.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部は附付か、脚部端部は内側に折り返し、外面はハケ目(1cmあたり9本)。内面は口縁部のみハケ目、胴部はヘラ撫で、脚部はハケ目。	
第3088号 PL.292	2	土師器 台付壺	2.6 口縁部～ 胴部下位片	口 13.4 胴 19.4	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり9本)。内面胴部に指頭部が残る。	

1区179号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3088号 PL.292	1	土師器 杯	-18.7 完形	口 13.5 高 4.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第3088号 PL.292	2	土師器 杯	0.1・2.7 口縁部一部欠損	口 13.3 高 4.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面のハゼ及び底部外面の磨減顯著 内外面喫炭

1区180号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3088号	1	土師器 脚台	5.0 脚部片	脚 10.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄橙	脚部外面縦のヘラ磨き、内面撫で。脚部の穿孔は4孔。	
第3088号	2	土師器 壺	-5.1 1/3	底 5.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部外面縦の細かなハケ目(1cmあたり8～9本)。内面横のハケ目(1cmあたり7本)。底部中央に窪み。	
第3088号 PL.292	3	手捏ね土師器 椀形	-16.3 口縁部 一部欠損	口 4.9 高 2.8	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部縦な横撫で、体外外面縦かなハケ目後押圧。内面撫で。	底部に黒炭
第3088号	4	土師器 ミニチュア	-2.5 口縁部 ～底部片	口 6.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄橙	口縁部横撫で、底部外面撫で、内面撫で。	
第3088号	5	手捏ね土師器 裏形	底部片	底 3.9	細砂粒/良好/にぶい黄橙	体外外面斜の細かなハケ目。内面指先の撫で。	

1区181号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3088号 PL.292	1	土師器 杯	9.8 完形	口 12.8 高 4.3	細砂粒・軽石/ 良好/明赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第3088号 PL.292	2	土師器 杯	3.1 完形	口 12.8 高 4.7	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面喫炭
第3088号 PL.292	3	土師器 杯	31.9 2/3	口 13.3 高 4.6	細砂粒・軽石/ 良好/にぶい赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面喫炭
第3088号 PL.292	4	土師器 杯	2.0 完形	口 12.9 高 4.4	細砂粒・軽石/ 良好/明赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	口縁部外面～ 内面塗塗りか
第3088号 PL.292	5	土師器 杯	1.1 口縁部一部欠損	口 12.9 高 4.0	細砂粒/良好/赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	口縁部外面～ 内面塗塗りか
第3088号 PL.292	6	土師器 杯	3.1 口縁部一部欠損	口 13.0 高 4.9	細砂粒・軽石/ 良好/明赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	口縁部外面～ 内面塗塗りか
第3088号 PL.292	7	土師器 杯	1.1 口縁部一部欠損	口 14.0 高 5.0	細砂粒/良好/明赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面ヘラ撫で。	口縁部外面～ 内面塗塗りか
第3088号 PL.292	8	土師器 杯	2.9 3/4	口 14.5 高 4.8	細砂粒/良好/にぶい赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面わずかに喫炭
第3088号	9	土師器 杯	-5.3 2/3	口 12.1 高 4.9	細砂粒/良好/にぶい赤陶赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第3088号	10	土師器 杯	1.8 1/2	口 12.5 高 3.6	細砂粒・軽石/ 良好/明赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第3088号 PL.292	11	土師器 杯	1.3 2/3	口 16.7 高 4.6	細砂粒・粗砂粒・ 角四石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面わずかに喫炭
第3088号 PL.292	12	土師器 杯	9.0 1/3	口 10.4 高 4.5	細砂粒/良好/赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で後、粗い放射状のヘラ磨き。	
第3088号 PL.292	13	土師器 杯	12.6 完形	口 10.9 高 4.5	細砂粒/良好/赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で後、粗い放射状のヘラ磨き。	口縁部外面～ 内面塗塗りか
第3088号 PL.292	14	土師器 杯	4.5 口縁部～ 底部の一部欠損	口 11.4 高 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で後、粗い放射状のヘラ磨き。	器面磨減
第3088号 PL.292	15	土師器 杯	5.2 1/2	口 10.8 高 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で後、粗い放射状のヘラ磨き。	
第3088号 PL.292	16	土師器 杯	5.2 完形	口 9.8 高 4.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤陶	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で後、粗い放射状のヘラ磨き。	
第3098号 PL.292	17	土師器 甗	23.0 2/3	口 9.2 高 7.9	細砂粒/良好/明赤陶	口縁部～頸部内外面、細かなハケ目後横のヘラ磨きか。胴部外面横のヘラ磨き、内面撫で。	
第3098号 PL.293	18	土師器 鉢	-2.0/0.5 2/3	口 9.4 高 11.0 底 6.2	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、体外外面は磨減が顯著で整形不明。内面撫で。	体外外面の磨減顯著 底部外面に黒炭
第3098号	19	土師器 鉢	1.2・2.7 1/3	口 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体外外面横～斜のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。	底部外面に黒炭
第3098号 PL.293	20	土師器 甗	1.2 完形	口 17.9 高 10.2 底 6.0 孔 0.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体外外面斜のヘラ削り、内面撫で、底部穿孔は外側から7孔を穿つ。	体外外面下平に黒炭

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第309Ⅸ PL.293	21	土師器 甕	0.5-5.8 胴部~底部欠損	□ 20.8 高 27.0 底 9.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、体部外面縦のヘラ削り後、下半斜のヘラ撫で。 内面上半横、下半斜のヘラ撫で。	
第309Ⅹ PL.293	22	土師器 甕	4.3 胴部~底部欠損	□ 15.9 高 28.0 底 6.1	細砂粒・粗砂粒/ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面撫で。	胴部内面下位に接合痕。胴部外面下半斜熱のためか剥離。
第309Ⅺ	23	土師器 甕	28.1・31.9 口 縁部~胴部片	□ 23.8	細砂粒/良好/ぶい い橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。	口縁部外面に輪積み痕
第309Ⅻ	24	土師器 甕	0.6~1.1 口 縁部~胴部片	□ 21.4	細砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面撫で。	
第309Ⅼ PL.293	25	土師器 甕	0.3 口縁部~胴部片	□ 18.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面撫で、内面横のヘラ撫で。	
第310Ⅰ	26	土師器 甕	0.7 口縁部~胴部片	□ 21.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄橙/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面撫で。	
第310Ⅱ	27	土師器 甕	2.3-5.1 胴部~底部片	底 3.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	胴部外面縦のヘラ削り、下半横の撫で、内面撫で。	胴部内面中位に輪積み痕

## 1区182号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第310Ⅲ	1	土師器 杯	19.5 口縁部~底部片	□ 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り後、間に挟く撫での部分を残す。内面撫で。	

## 1区183号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種類	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第310Ⅳ PL.293	1	土師器 杯	14.2 3/4	□ 11.2 高 4.1 底 10.3	細砂粒・粗砂粒/ やや軟質/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
第310Ⅴ	2	土師器 杯	32.9 口縁部~底部片	□ 12.0	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨滅 粉っぽい赤土
第310Ⅵ	3	土師器 杯	3.9 1/3	□ 11.0 高 4	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨滅 粉っぽい赤土
第310Ⅶ	4	土師器 杯	1.3 口縁部~底部片	□ 12.0	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	器面磨滅 粉っぽい赤土
第310Ⅷ	5	土師器 杯	30.1 1/4	□ 11.4	細砂粒/良好/赤 褐色	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第310Ⅸ	6	土師器 杯	- 口縁部~底部片	□ 11.8	細砂粒/良好/ 赤褐色	口縁部横撫で、口唇部内面に1条の凹線を巡らせる。底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第310Ⅹ PL.293	7	土師器 杯	1.1 1/3	□ 12.8 高 4.1 底 10.8	細砂粒・粗砂粒/ やや軟質/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
第310Ⅺ PL.293	8	土師器 杯	2.6 3/4	□ 11.9 高 4.1 底 10.6	細砂粒・粗砂粒/ やや軟質/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
第310Ⅻ PL.293	9	土師器 杯	0.9 3/4	□ 11.9 高 3.6 底 10.1	細砂粒・粗砂粒/ やや軟質/ぶい い黄橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
第310Ⅼ PL.293	10	土師器 杯	18.2 口縁部 僅かに欠損	□ 12.5 高 4.3 底 11.2	細砂粒・粗砂粒/ やや軟質/橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
第310Ⅽ PL.294	11	土師器 甕	1.7~2.1 3/4	□ 21.7 高 38.1 底 3.5	細砂粒・粗砂粒/ 角閃石/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面上半横、下半斜のヘラ削り。内面横~斜のヘラ撫で。	胴部内面下位に接合痕
第311Ⅰ PL.293	12	土師器 甕	1.5-2.1 胴部 下半から底部一部欠損	□ 17.6 高 30.7 底 5.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦の2段のヘラ削り、内面横のヘラ撫で。	胴部内面下半に輪積み痕
第311Ⅱ	13	土師器 甕	-10.7 口縁部~胴部片	□ 21.8	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/ぶい い赤褐色	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り。内面横のヘラ撫で。	
第311Ⅲ	14	土師器 甕	1.4-2.0 口縁 部~胴部片	□ 16.2	細砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り。内面横~斜のヘラ撫で。	器面磨滅
第311Ⅳ	15	土師器 甕	0.3 口縁部~胴部片	□ 14.7	細砂粒・軽石・角 閃石/良好/ぶい い黄橙	口縁部横撫で、胴部外面横~斜のヘラ削り。内面横のヘラ撫で。	
第311Ⅴ PL.294	16	土師器 甕	1.1-2.2 1/2	□ 17.0 高 32 底 9.0	細砂粒・粗砂粒/ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のヘラ削り、内面上半横のヘラ撫で、下半斜のヘラ撫で。	器面磨滅 胴部外面下端~底部に黒炭。胴部内面中位に輪積み痕
第311Ⅵ	17	土師器 甕	1.9 底部~胴部下 位片	底 7.4	細砂粒・粗砂粒・ 白色粒/良好/ぶ いい橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラ撫で、内外面とも器面磨滅のため不詳。	
第310Ⅷ PL.293	18	土師器 甕	1.0 3/4	□ 15.7 高 24.9 底 4.1	細砂粒・軽石/良 好/ぶいい橙	口縁部横撫で、胴部外面縦の2段のヘラ削り。内面横のヘラ撫で。	胴部内面下位に接合痕

第4章 発掘調査の記録

1区184号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第3111区	1	土師器 土釜	-12.0 I線部～胴部	□ 23.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部横撫で、外面に押圧が残る。胴部外面縦のへら削り。内面撫で。	胴部内外面に 輪積み痕			
第3111区	2	土師器 土釜か	-9.3～4.7 底部片	底 11.6	細砂粒・粗さ理由 良好/にぶい赤褐色	胴部外面斜のへら削り、内面横の撫で。				
検出番号 図版番号	No	種 器 類	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第3121区 PL.294	3	磨石	3	扁平礫	粗粒輝石安 山岩	11.4	10.3	429.5	表裏面とも密く摩耗、部分的に光沢を帯びる。側縁敲打。	
第3121区 PL.294	4	敲石	4	扁平棒状礫	雲母石英片 岩	12.9	6.3	520.1	小口部上端を粗く打ち欠いたのち、エッジを敲打する。	

1区185号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第3121区	1	土師器 壺	1.4 I線部片	□ 13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面撫で後、縦の粗いへら磨き。内面撫で。	
第3121区	2	土師器 付付器	-14.4 I線部片	□ 15.8	細砂粒/良好/浅黄 褐色	口縁部横撫で、頸部～胴部外面左方向のハケ目。	
第3121区 PL.294	3	土師器 壺	-8.4 2/3	底 10.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄褐色	胴部外面に縄文R Lを2段に回転施文。胴部外面は撫でか、内面磨滅が認められ、整形不明。	内面ハゼ顕著

1区186号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第3121区 PL.295	1	土師器 杯	5.0 3/4	□ 12.4 高 4	細砂粒・粗砂粒/ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り。内面撫で。	
第3121区 PL.295	2	土師器 杯	7.8 1/2	□ 12.9 高 4.3	細砂粒/やや軟質/ にぶい黄褐色	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り。内面撫で。	口縁部外面～ 内面塗塗りか 内面ハゼ
第3121区 PL.295	3	土師器 杯	18.9 ほぼ完形	□ 10.8 高 3.5	細砂粒/やや軟質/ 橙 9.6	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへら削り、器面磨滅のため単位不明。	口縁部外面～ 内面塗塗りか
第3121区	4	土師器 杯	10.3 1/4	□ 10.8 高 3.9	細砂粒/良好/橙に ぶい赤褐色	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り。内面へら撫で。	口縁部外面～ 内面塗塗りか
第3121区 PL.295	5	土師器 杯	3.2 1/2	□ 14.1 高 4.5	細砂粒/硬質/にぶ い黄褐色	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り。内面撫で後、粗い放射状へら磨き。	
第3121区	6	土師器 杯	3.0 1/2	□ 12.5 高 4.4	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り。内面撫で。	内面ハゼ 外面磨滅
第3121区	7	土師器 杯	- 1/3	□ 16.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り。内面撫で。	内面磨滅 扇状の表地
第3121区 PL.295	8	土師器 杯	18.9 ほぼ完形	□ 11.6 高 4.1 椀 10.5	細砂粒/やや軟質/ 橙 10.5	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへら削り、器面磨滅のため単位不明。	器面磨滅
第3121区 PL.295	9	土師器 杯	- 3/4	□ 11.4 高 4.1	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り。内面撫で。	器面磨滅
第3121区	10	土師器 皿	15.1 I線部～底部片	□ 22.8	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、底部外面は手持ちへら削りか。	器面の磨滅顕 著
第3121区 PL.295	11	土師器 高杯	18.1 杯身部1/2	□ 14.0 高 14.2	細砂粒・粗砂粒・ 黄褐色/良好/に ぶい橙	内面黒色処理か。口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへら削り、器面磨滅のため単位不明。	器面磨滅
第3121区	12	土師器 高杯	23.2 脚部片		細砂粒/良好/橙	胴部外面縦のへら撫で、端部撫で。脚部内面撫で。	脚部内面に 輪積み痕顕著
第3121区 PL.295	13	須恵器 高杯	8.8 脚部欠損	□ 16.7	細砂粒/還元/硝灰	口縁部整形、回転削り。口縁部下に外縁を持つ。杯底部回転削り後脚部貼付。脚部の透かしは3方の一段透かし。	杯底内面の片 面に自然釉
第3121区 PL.295	14	須恵器 高杯	4.9 脚部	脚 11.0	細砂粒/還元/灰	口縁部整形、回転削り。口縁部下に外縁を持つ。杯底部回転削り後脚部貼付。脚部の透かしは3方の一段透かし。	
第3131区 PL.295	15	土師器 鉢	3.1 I線部一部欠損	□ 10.4 高 9.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面縦のへら削り、内面撫で。底部外面一方のへら撫で。	器面磨滅
第3131区 PL.295	16	土師器 鉢	9.7 完形	□ 10.6 高 12.8	細砂粒/軟質/橙	口縁部横撫で、体部外面縦のへら削り、内面撫で。	器面磨滅 付っぽい表地 底部外面に 黒釉
第3131区 PL.295	17	土師器 鉢	-3.3～23.2 I線部～胴部 一部欠損	□ 17.4 高 14.3	細砂粒・軽石/良 好/明赤褐色	口縁部横撫で、体部外面はへら削りか。内面斜の撫で。	器面の磨滅顕 著
第3131区	18	土師器 罎	1.3～3.9 I線部～胴部片	□ 12.6	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/良好/赤褐色	口縁部横撫で、胴部外面縦のへら削り、内面撫で。	
第3131区 PL.295	19	土師器 罎	19.4 I線部～胴部片	□ 21.2	細砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のへら削り、内面撫で。	

## 1区188号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第3138号 PL.296	1	土師器 杯	2.2・4.1 2/3	□12.8 高 4.2	細砂粒・軽石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちの細かなヘラ撫でか、内面撫で。	口縁部外面へ内面塗りか
第3138号 PL.296	2	土師器 杯	3/4	□11.9 高 4.0 径 11.0	細砂粒・粗砂粒/やや軟質/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨減のため単位不明。	
第3138号 PL.296	3	土師器 杯	— 口縁部~底部片	□11.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で後、粗い放射状ヘラ磨き。	
第3138号 PL.296	4	土師器 鉢	4.7・11.3口縁部- 体部一次損	□11.6 高 12.5	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面横のヘラ削り、底部深いヘラ撫で、内面横のヘラ撫で。	底部外面吸炭
第3138号 PL.296	5	土師器 甕	~1.7-9.1 3/4	□15.7 高 28 底 4.5	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ撫でか、内面横のヘラ撫で。	胴部内面下位に接合痕、胴部外面下半焼熱 上半滑潤
第3138号 PL.296	6	土師器 甕	3.8-11.3 3/4	□18.7	細砂粒・粗砂粒/やや軟質/明赤褐	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面撫で。	胴部内面中位に接合痕、胴部外面下半焼熱

## 1区189号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第3138号	1	土師器 杯	14.4 1/4	□12.8 高 4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	底部の一部吸炭			
第3138号	2	土師器 杯	0.9 1/2	□12.8 高 4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	内面吸炭			
第3138号	3	土師器 杯	— 口縁部~底部片	□13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。				
検出番号 図版番号	No	器 種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第3138号 PL.296	4	石製模造品	—	白玉	滑石	径1.1	高さ (0.2)	0.8	上面は折断後、面を整える程度に研磨。側面には縦位の粗い整形痕。下半部の欠損面は新鮮。	

## 1区191号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第3148号 PL.295	1	土師器 杯	35.3-37.3 口縁部~底部損	□11.1 高 4.2	細砂粒/良好/不い黄橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、間に狭く撫でた部分を残す。内面撫で。	底部に黒灰			
第3148号 PL.295	2	須恵器 杯	19.6 1/3	□ 9.0 高 3.0 底 5.4	細砂粒・粗砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転石回りか。底部はヘラ起し後回転ヘラ削り。				
第3148号 PL.295	3	土師器 台付鉢か	6.3 胴部片	脚 13.8	細砂粒/良好/明赤褐	胴部外面縦のヘラ削り、端面撫で、内面撫で。	内面吸炭			
検出番号 図版番号	No	器 種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第3148号 PL.295	4	石製模造品	—	白玉	滑石	径1.2	高さ (0.4)	0.8	上下端面は折断後、面を整える程度に研磨。側面には縦位の粗い整形痕。下面は階段状に破損、破損面は厚削している。サイズ的には100に類似。	

## 1区193号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第3148号	1	土師器 台付鉢	— 胴部片	脚 9.8	細砂粒/良好/不い黄橙	内外面撫で。脚端部折り返し。	

## 1区194号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第3148号	1	土師器 杯	— 1/4	□13.0	細砂粒/良好/不い赤褐	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
第3148号 PL.295	2	土師器 甕	0.1・1.2 2/3	□12.4	細砂粒・軽石/良好/不い黄橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のヘラ削り、内面斜のヘラ撫で。	口縁部~胴部内面吸炭
第3148号	3	土師器 甕	1.4 口縁部~胴部片	□22.0	細砂粒・軽石/良好/不い黄橙	口縁部横撫で、外面中位に斜い段を有する。胴部外面斜のヘラ削り、内面斜のヘラ撫で。	
第3148号	4	土師器 甕	2.6-9.2 口縁部~胴部片	□21.4	細砂粒・軽石/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面撫で。	器面磨減
第3148号	5	須恵器 甕	1.9 口縁部~胴部片	□21.0	細砂粒/還元/灰	口縁部外面及び胴部外面に弱い凹線を巡らせる。	

## 1区195号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第3158号 PL.297	1	土師器 甕	3/4	□21.3 高 37.0 底 3.0	細砂粒・軽石/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のヘラ削り、内面斜の撫で。胴部外面に2~3条の凹線を巡らせる。胴部外面縦のヘラ削り、下端斜のヘラ削り。内面横のヘラ撫で、底部外面ヘラ削り。	胴部内面下位に接合痕
第3158号 PL.297	2	土師器 甕	3/4	□21.2 高 40.0 底 5.0	細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のヘラ削り、下端横のヘラ削り、胴部内面横のヘラ撫で。底部ヘラ削り。	胴部外面中位に接合痕、胴部内面中位に接合痕

第4章 発掘調査の記録

神回番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第315回 PL.297	3	土師器 甕	口縁部～胴部 片	口 18.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のへら削り、内面斜の撫で。	胴部内面に輪 痕少量、胴部 外面の片割れ 痕

1区196号住居出土遺物

神回番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第314回	1	土師器 用	9.5 1/3	底 4.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐色	体部内外面赤彩後横へ斜のへら磨き。底部に窪み。	底部磨減
第314回 PL.295	2	土師器 鉢	1.7・4.0 3/4	口 14.2 高 9.0 底 3.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部折り返して、横撫で。体部外面上半はハケ目後撫で、 下端斜のへら削り。頸部内面横の粗いへら磨き、体部内面 横のへら撫で。	体部外面及び 口縁部～体部 内面にスボッ ト的な赤彩
第314回	3	土師器 高杯	3.6 脚部片	脚 17.4	細砂粒・軽石/ やや軟質/橙	杯部外面縦のへら磨き。脚部内外面の整形は不明。脚部の 穿孔は3孔。	

1区197号住居出土遺物

神回番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第315回	1	土師器 杯	13.2 口縁部～底部片	口 12.0	細砂粒/良好/明黄 橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	内面磨減
第315回 PL.298	2	土師器 杯	9.5 1/2	口 12.8 高 4.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、口唇部内面に1条の凹線を巡らし、外面 中に弱い稜を有する。底部手持ちへら削り、内面撫で。	内外面吸込 器面磨減
第315回 PL.298	3	土師器 杯	10.9 完形	口 13.5 高 4.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で、中に弱い稜を有する。底部手持ちへら 削り、内面撫で。	口縁部外面へ 内面塗塗りか
第315回 PL.298	4	土師器 杯	8.7 口唇部～底部欠損	口 13.1 高 3.9	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	口縁部外面へ 内面塗塗りか
第315回 PL.298	5	土師器 鉢	8.7 ほぼ完形	口 12.7 高 4.2	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへら削り、器 面磨減のため単位不明。	
第315回 PL.298	6	土師器 杯	8.7 口唇部～底部欠損	口 12.4 高 4.1	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横撫で、体部(椀下)から底部は手持ちへら削り、器 面磨減のため単位不明。	
第315回	7	土師器 鉢	7.5 口縁部～底部片	口 23.2	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で後吸込。	
第315回	8	須恵器 蓋	- 口縁部～体部片	口 10.8	細砂粒/還元/黒灰	口口整形。回転方向不明。体部外面に弱い凹線を1条巡 らす。	
第315回 PL.298	9	土師器 台付鉢	13.5・16.0 2/3	口 9.8 高 15.2 脚 11.4	細砂粒・軽石・角 閃石/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面縦のへら削り、内面撫で。脚部外 面縦のへら削り、端面撫で。	体部内面に 変色部 器面磨 減
第315回	10	土師器 鉢	9.4 口縁部～体部片	口 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面縦のへら削り、内面撫で。	粉っぽい赤地
第316回 PL.298	11	土師器 甕	-13.8 口縁部 ～底部一部欠損	口 19.4 高 39.7 底 3.5	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/良好/明赤褐	口縁部横撫で、胴部外面縦の2段のへら削り、内面横の撫で。	胴部外面に粘 土付着

1区198号住居出土遺物

神回番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要			
第316回 PL.296	1	土師器 杯	-16.8 口縁部～底部欠損	口 10.3 高 3.6	細砂粒・軽石/良 好/明赤褐色	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、間に狭く撫での部 分を残す。内面撫で。	内外面に粘 土付着物			
第316回	2	土師器 杯	-2.1 口縁部～底部片	口 18.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	器面磨減 粉っぽい赤地			
第316回	3	土師器 杯	17.7 口縁部～底部片	口 18.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	内面磨減			
第316回	4	土師器 甕	-12.0・3.6 口縁部～胴部片	口 19.8	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/にぶい 黄橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のへら削り、内面撫で。	器面磨減			
第316回 PL.296	5	土師器 甕	2.1・5.1 3/4	口 22.6	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面縦のへら削り、内面横の撫で。	器面磨減			
第316回 PL.296	6	土師器 甕	-0.5・1.5 3/4	口 21.4	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/良好/橙	口縁部横撫で、胴部外面斜のへら削り、内面横のへら撫で。	胴部内面下位 に段合痕、胴 部外面に粘土 付着 器面磨 減			
神回番号 神回番号 PL.296	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第316回	7	磁石	7	扁平棒状塊	黒色片岩	15.3	(5.8)	361.6	小口上部・側縁に敲打痕・衝撃剥離痕がある。	

1区199号住居出土遺物

神回番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第314回	1	土師器 杯	- 口縁部～底部片	口 9.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	

## 1区200号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器	類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第314号 PL.297	1	土師器	杯	13/4	口 12.1 高 3.0 底 8.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部外面撫で後押圧。内面撫で。底部手持ちへう削り。	
第314号 PL.297	2	須恵器	杯	2-6, 1/2	口 11.7 高 3.5 底 6.1	細砂粒・石英/還元/灰オリーブ	口ロ口整形、回転右回り。底部回転糸切り。	体部外面に黒漆/山田/か
検出 版	No.	種 器	類 種	出土位置	残存率	計測値	成形・整形の特徴	備 考
第314号 PL.297	3	鉄製品	刀子	3		長 12.2幅 1.5厚 0.3重 13.0	横・刃側ともに刃をもつ刀子。茎に本質(広葉樹材)が付着するが残りは悪く樹種・木取りは不明。	

## 1区201号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器	類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第314号 PL.297	1	土師器	杯	ほぼ完形	口 11.9 高 4.2 底 11.2	細砂粒・褐色色/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへう削り。	
第314号 PL.297	2	土師器	杯	2/3	口 12.1	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへう削り。	

## 1区202号住居出土遺物

検出番号 PL.番号	No.	種 器	類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
第314号 PL.297	1	土師器	盃	2/3	口 8.7 高 11.4 底 6.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部折り返して、口縁部内面～側面外面赤彩後、履のへう磨き。口縁部～胴部内面赤彩後履のへう磨き。胴部内面は撫で。	

## 1区十坑

検出 版	図番	種別	器形	出土 位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土 色調	形・成調整等	備考
第335号	1-1	常滑陶器	盃	-	-	-	-	-	体部片	にぶい赤褐 断面は灰色、内面の器表は褐色灰色。外面の器表はにぶい赤褐色。外面は工具を使用した履位撫で。	中世。
第335号	1-2	常滑陶器	盃	-	-	-	-	-	体部片	にぶい赤褐 断面は灰色、内面の器表は褐色灰色。外面の器表はにぶい赤褐色。外面は工具を使用した履位撫で。外面の屈曲部直下は、高い部分の器表が磨滅し、平滑となる。	中世。
第335号	4-1	在来系土師	不詳	-	-	-	-	-	端部片	にぶい赤褐 内面器表の2/3黒褐色。外面の器表は銅鍍。内面器表の色調から推定して使用か。	時期不詳。
検出 番号 PL.番号	No.	種 器	類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考			
第335号	7-1	須恵器	椀	底部片	底 6.4 台 6.0	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。				
第335号	15-1	土師器	土台付盃	脚部片	脚 9.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐	底部は内側に折り返し。外面はハゲ目(広葉樹材)。内面はへう削り。	内面脚部に砂粒の多い粘土が貼付。			
第335号	18-1	土師器	胴部小片			細砂粒/良好/にぶい赤褐	胴部上位は赤色塗彩。胴部中位は格子目状へう磨き。				
第335号	18-2	土師器	鉢	口縁部片	口 12.2	細砂粒/良好/褐色	内外面とも赤色塗彩。外面は横撫でか、内面はへう磨き。				
第335号 PL.298	19-1	須恵器	1椀	3/5	口 13.2 高 5.7 底 6.2 台 5.9	細砂粒・粗砂粒/還元/にぶい黄褐	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。				
第335号	19-2	須恵器	2椀	1/3	口 13.2 高 6.6 底 6.4 台 5.3	細砂粒/還元/褐色	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。				
第335号	19-3	須恵器	3椀	底部～体部片	底 6.0 台 7.0	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。				
第335号	20-1	須恵器	1椀	底部～体部片	底 6.0 台 6.0	細砂粒・粗砂粒/還元/灰黄	口ロ口整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は貼付。				
第335号	26-1	土師器	1盃	底部～体部下位片	底 8.5	細砂粒・粗砂粒/良好/浅黄褐	底部はへう削り、器面磨滅のため単位不明、胴部はへう磨き。内面はへう撫で。				
第335号	30-1	須恵器	1盃	1/5	口 12.8 高 5.6 底 6.0 台 5.2	細砂粒/還元・内面焼成/灰オリーブ	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。				
第335号 PL.298	42-1	土師器	1小壺鉢	口縁部1/3欠損	口 7.8 高 4.7 底 3.7	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部はへう撫で内面底部はへう撫で。				
第336号	46-1	須恵器	1椀	口縁部片	口 13.6	細砂粒/還元/灰	口ロ口整形。				
第336号	46-2	須恵器	2椀	底部～体部下位片	底 6.2 台 5.4	細砂粒/還元/灰	口ロ口整形、回転右回りか、底部は回転糸切り、高台は貼付。	高台端部に焼成時の置台による凹凸有。			
第336号	46-3	土師器	土台付盃	口縁部～胴部上付片	口 16.6	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で、胴部はハゲ目(1cmあたり8本)。内面胴部は撫で。				
検出 版	No.	種 器	類 種	出土位置	残存率	計測値	成形・整形の特徴	備 考			
第336号 PL.298	48-1	鉄製品	不詳	-		長 8.0幅 7.7厚 2.2重 250.6	鍛造鉄製品厚さ0.6～0.8のやや湾曲する板状の破片で、一か所に輪状の突起がこのころが鈍化ひび割れ、彫れにより詳細は不明				
第336号 PL.298	48-2	鉄製品	不詳	-		長 7.2幅 5.4厚 0.6重 104.6	厚さ約0.6cmの鍛造鉄製品の破片。鈍化ひび割れ、彫れにより詳細は不明				
検出 番号 PL.番号	No.	種 器	類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考			
第336号	50-1	須恵器	1高盤か	盤身部片	口 20.6	細砂粒/還元/灰白	口ロ口整形、回転方向不明。底部はへう撫で、外縁部は回転へう削り。				



第4章 発掘調査の記録

神岡番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要				
第336Ⅵ	50.1 2	須恵器 彫か	口縁部片	口 13.7	細砂粒/還元/灰白	口ロ整形、回転方向不明。					
第336Ⅵ	51.1 1	手捏ね土器 椀形か	底部	底 3.6	細砂粒/良好/浅黄	内外面とも撫で。					
第336Ⅵ	51.2 2	須恵器 杯	1/4	口 14.1 高 4.0 底 6.2	細砂粒/還元/灰	口ロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。					
第336Ⅵ	69.1 1	土師器 高杯	脚部片	脚 12.5	細砂粒/良好/黄褐色	外面と杯身部内面は赤色塗彩。脚部は外面がへら磨き。内面は脚部がへら撫で、基部は横撫で。					
第336Ⅵ	70.1 1	土師器 1杯	口縁部	口 11.7 高 4.3 底 12.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。					
第336Ⅵ	70.1 2	土師器 2杯	口縁部下半～ 底部片	残 15.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。					
第336Ⅵ	72.1 1	手捏ね土器 椀形	口縁部3/4欠損	口 4.7 高 3.8	細砂粒/良好/浅黄	内外面とも撫で。					
第336Ⅵ	81.1 1	土師器 高杯	脚部上半片		細砂粒/良好/黄褐色	外面と内面杯身部は赤色塗彩。脚部は外面がへら磨き、内面はへら撫で。	脚部上位に透孔が3カ所。				
第336Ⅵ	81.1 2	土師器 2盃	口縁部片	口 19.5	細砂粒/良好/黄褐色	外面は縦位のへら磨き、内面は横位のへら磨き。					
第336Ⅵ	81.1 3	土師器 3盃	底部～胴部上 片	底 5.3 胴 19.8	細砂粒/良好/橙	内面に輪積み痕が残る。底部と胴部下位はへら削り、中位は撫で、上位はハケ目(1cmあたり8本)。内面はへら撫で。					
第336Ⅵ	81.1 4	土師器 4台付盃	口縁部～胴部 上片	口 13.7	細砂粒/良好/黄褐色	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6本)、内面は胴部がへら撫で。					
第336Ⅵ	81.1 5	土師器 5台付盃	口縁部～胴部 中片	口 12.7 胴 17.0	細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり8本)、内面胴部は撫で。					
第336Ⅵ	81.1 6	手捏ね土器 椀形	2/3	口 6.2 高 2.9 底 4.1	細砂粒/良好/浅黄	外面は撫で、内面はへら撫で。					
第337Ⅶ	92.1 1	土師器 台付盃	胴部片	胴 13.8	細砂粒/良好/浅黄	外面はハケ目(1cmあたり8本)、内面はへら撫で。					
第337Ⅶ	94.1 1	土師器 台付盃	口縁部～底部 片	口 11.7 残 20.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。					
第337Ⅶ	102.1 1	土師器 台付盃	口縁部～胴部 上片	口 12.7	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり8本)、内面胴部は撫で。					
第337Ⅶ PL.298	103.1 1	土師器 1盃	1/2	口 8.4 高 8.8 底 4.8 胴 8.8	細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横撫で、胴部と底部はへら削り後撫で、内面は底部から胴部にへら撫で。					
第337Ⅶ PL.298	103.1 2	土師器 2台付盃	口縁部～胴部 中位	口 18.5 胴 25.4	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり5本)、内面は胴部がへら撫で。	胴部上に焼成後の穿孔が1カ所みられる。				
第337Ⅶ PL.298	104.1 1	土師器 1杯	完形	口 12.6 高 4.3 残 13.6	細砂粒/良好/還元/にぶい橙	口縁部横撫で、体部(膝下)から底部は手持ちへら削り。					
第337Ⅶ	107.1 1	須恵器 1盃	口縁部～胴部 上片	口 22.3	細砂粒/還元/灰	口縁部は口ロ整形、外面は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ貝痕が残る。					
第337Ⅶ	107.2 2	須恵器 2盃	口縁部片	口 53.4	細砂粒/還元/灰	口縁部は口ロ整形、外面は円錐による区画、区内内を上位から波状文、斜交文を交互に施す。					
神岡番号 因版番号	No.	器 種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考	
第338Ⅷ PL.298	109.1 1	磁石	1	棒状礫	粗粒輝石安山岩	17.6	6.9	870.4	小口端部に敲打痕。		
神岡番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘 要		
第338Ⅷ	113.1 1	土師器 1盃	口縁部～胴部 上片	口 9.6	細砂粒/良好/還元/にぶい橙	口唇部は折り返し、口縁部から胴部はハケ目(1cmあたり10本)、内面は口縁部がハケ目、胴部はへら撫で。					
第338Ⅷ PL.298	119.1 1	手捏ね土器 1鉢形	ほぼ完形	口 4.2 高 4.2 底 3.7 底 5.7	細砂粒/良好/にぶい黄褐	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部はハケ目、体部と底部は撫で、内面は撫で。					
第338Ⅷ	120.1 1	土師器 土師台	受部～脚部上 片	口 5.6	細砂粒/良好/浅黄	口縁部は折り返し、受部底部から脚部はへら磨き。内面は受部がへら磨き。					
神岡 因版	因番	種別	器形	出土位置	口径 (長)	底径 (厚)	高さ (厚)	残存	胎土 色調	形・成調整等	備考
第338Ⅷ	128.1 1	在地系土 土器	片口鉢	フク上	-	-	-	片口部片	8灰	還元炎。口縁部は薄い玉縁装をなし、端部丸みを持つ。	目録。
神岡番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘 要		
第338Ⅷ	143.1 1	土師器 台付盃	脚部片	脚 10.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐	脚部端部は内側に折り返し。					
1区1号片戸											
神岡番号 PL.番号	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘 要		
第338Ⅷ	1	土師器 杯	1/3	口 14.8 高 3.5 底 12.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへら削り。					
第338Ⅷ	2	須恵器 杯	底部	底 5.8	細砂粒/還元/黒	口ロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。					
第338Ⅷ	3	須恵器 杯	底部～体部片	底 7.0	細砂粒/還元/灰	口ロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。					
第338Ⅷ	4	灰輪陶器 椀	底部～体部片	底 8.8 台 8.6	微砂粒/還元/灰白	口ロ整形、回転右回り。底部は回転へら撫で、高台は粘付。施釉方法が漆掛け掛け。			大原2号窯式 期。		

種図番号 PL.番号	NO.	種 類	出上位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要				
第3388図	5	須臾器 瓶	胴部小片		細砂粒/還元/灰	内外面とも底部周囲はへら削り。胴部下位に穿孔あり。					
第3388図	6	須臾器 封蓋	口縁部～胴部 下位片	口 22.0 径 24.5	細砂粒/酸化/に 赤い黄粒	口ロク整形、回転方向不明。器は貼付、胴部は下位がへら削り。内面は胴部にへら削り。					
種 図 図 版	西番	種別	器形	出上位置 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎上 色調	形・成調整等	備考	
第3388図	7	在地系土器	不詳	1	-	-	-	体部片	B 灰	外面の器表は褐色。胎上と焼成は還元炎の片口跡に似る。	中世 か。

## 1区2号井戸

種図番号 PL.番号	NO.	種 類	出上位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要				
第3398図	1	赤生土器 壺	胴部～胴部上 位片		細砂粒/良好/浅黄 橙	外面と内面口縁部は赤色塗彩。外面はへら磨き、胴部にボタン状円盤を貼付。内面は口縁部がへら磨き、胴部は撫で。					
第3398図	2	土師器 杯	1/2	口 19.3 高 8.4	細砂粒/酸化/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへら削り。					
第3398図	3	須臾器 椀	底部	底 7.2 径 6.4	細砂粒/酸化/に 赤い黄粒	口ロク整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。					
第3398図	5	須臾器 壺	口縁部片		細砂粒/還元/灰	外面は各2条の凹線により5段以上に区画、区画内は最下段を除き波状文が写る。内面はへら撫で。					
第3398図	6	瓦 丸瓦	破片	厚 2.1	細砂粒・粗砂粒 還元/灰	外面撫で、内面荒目の布目。	器面磨滅				
種 図 図 版	西番	種別	器形	出上位置 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎上 色調	形・成調整等	備考	
第3398図	4	在地系土器	片口跡	-	-	-	-	体部下 位片	A 赤い 濁	器表はにぶい赤褐色。器形悪い。使用により、内面下位の器表は磨滅し、中位以上の器表は平滑となる。	中世。
種 図 図 版	西番	種 別	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	未取り			形・成調整等	備考	

第3398図 PL.299	7	不明木器	(18.5)	3.7	1.1	板目	ほぞ穴長さ(1.7)幅1.5cm。			針葉樹
第3398図 PL.299	8	棒材	15.5	2.2	1.0	板目	表面を貫通する目釘穴2か所。目釘1/2程度残る。取っ手か。			針葉樹
第3398図 PL.299	9	不明製品	16.5	3.0	0.6	板目	表面は断面山形に盛り上がり、裏面平らで錆目立つ。表面は軽微な点穴あり。内端部欠けり込みあり。			針葉樹
第3398図 PL.299	10	不明板材	(12.8)	(5.4)	0.8	板目	幅1ミリほどの横方向のわずかな条線、加工痕か。			モミ属
第3398図 PL.299	11	不明板材	(12.7)	(4.5)	0.8	板目	幅1ミリほどの横方向のわずかな条線、加工痕か。			モミ属
第3398図 PL.299	12	文材	3.8～ 3.3(43.1)			芯持ち	文材の自然木を利用し、軸部は表面を平坦に面取り。柱利用か。			広葉樹・環孔材
第3398図 PL.299	13	柱材?	(8.0)	4.0	1.8	板目	やや丸みのある棒材。大きくなり過ぎ、ほぞ穴か。			クリ
第3408図 PL.299	14	曲物側板	(20.8) (49.0)	内側 (7.2)	0.2	板目	カ/ヒメ材の厚みから二重。接合部三重に復元。滑曲のため、外面は鉛格子、内面は縦方向に筋目を入れる。下端部上1cmほどに釘穴カ/ヒメ材2か所あり。底板などと接合か。			正に接合して二重。ヒノキ科
第3408図 PL.299	15	曲物側板	(21.2) (65.5)	内側 (6.0)	0.2	板目	滑曲のため、内面は縦方向に筋目を入れる。下端部上7ミリほどに釘穴1か所あり、底板などと接合か。			正に接合。針葉樹
第3408図 PL.299	16	曲物側板			0.2	板目	2枚をカバ止める。			破片7点。針葉樹
第3408図 PL.299	17	曲物底板	18.2		1.0	板目	端部に向かい薄くなる。内端部から2cmほどに目釘穴2・3か所あり。部材などと接合か。側部に目釘穴3か所。			正一括取り上げ。針葉樹
第3408図 PL.299	18	曲物底板	(18.0)		1.3	板目	左側部に目釘穴2か所、目釘残る。表面は凸凹、裏面平らで錆目立つ。右端部に向かい比厚。			スギ
第3408図 PL.299	19	曲物底板	15.8		1.8	板目	側部2か所接合により丸板を作る。端部は裏面から斜めに面取り。下部部に四角い穴2か所あり。表面は荒れて丸み、裏面は平ら気味。			針葉樹

## 1区3号井戸

種図番号 PL.番号	NO.	種 類	出上位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
第3411図	1	須臾器 椀	口縁部片	口 12.8	細砂粒/還元/灰白	口ロク整形、回転方向不明。	
第3411図	2	須臾器 椀	底部～体部片	底 7.0 径 6.0	細砂粒/還元/黒	口ロク整形、回転右回りか。柄底部は回転糸切り、高台は貼付。	

## 1区4号井戸

種図番号 PL.番号	NO.	種 類	出上位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要				
第3411図	1	須臾器 椀	底部～体部片	底 7.4 径 7.0	細砂粒/酸化/褐灰	口ロク整形、回転右回り。柄底部は回転糸切り、高台は貼付。					
第3411図	2	須臾器 壺	底部～胴部下 位片	底 8.8	細砂粒/酸化/に 赤い粒	口ロク整形、回転右回りか。底部から胴部下位は回転へら削り。					
種 図 図 版	西番	種別	器形	出上位置 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎上 色調	形・成調整等	備考	
第3411図	3	在地系土器	内耳筒	-	-	-	-	口縁部から体部	A 灰・黒 濁	断面は赤・黄褐色。内面は赤褐色。外面は赤褐色。器形悪く、口縁部は内面・断面下部の段差で、下部の縁も厚。上縁は小さく内湾し、端部は明瞭な線をなして小さく突き出る。外面の断面は縦に縦線が刻み込まれている。	1期

第4章 発掘調査の記録

種 図 図 版	図番	種別	器形	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土 色調	形・成調整等	備考
第341図	4	在地系土器	内耳罎	-	-	-	-	口縁部片	A 灰・黒褐色	断面に片・稜状色、内面黒褐色、外面黄褐色。器壁薄く、口縁部は内面・外面下部の段状突起で、下部の稜も同様。上縁は小さく内湾し、端部は明確な線をなして小さく突き出る。外面の断面は以下は概ね明白状で、内湾部は付け直し部が判る。	I期
第341図	5	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部片	B 灰	底元色。胎土はやや砂っぽく、焼き締まりは強。器壁薄く、口縁部はゆるく内湾し、端部は内面は突き出る。端部内面は丸みを持ち、器表は滑感。端部内面は滑感の弱しく、形状は不明。口縁部内面は黒褐色が判る。調整つ・たものと考えられる。	II・III期
第341図	6	在地系土器	内耳罎	-	-	-	-	体部片	A 灰黄	外面の器表は明白状。外面は厚着。器壁薄く、体部下位は内湾し、外縁は直線状で、	I・II期

1区5号井戸

種図番号 PL. 番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第341図	1	土師器 杯	口縁部～体部片	口 14.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第341図	2	土師器 杯	口縁部～体部片	口 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	

1区1号集石

種図番号 PL. 番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第341図	1	須恵器 輪	底部片	底 8.5 台 8.4	細砂粒/還元/灰	口ロク整形、回転右回り。高台は底部回転糸切り後の貼付。	

種 図 図 版	図番	種別	器形	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土 色調	形・成調整等	備考
第341図	2	在地系土器	片口鉢	-	-	-	-	口縁部から体部片	B 浅黄	断面は浅黄色。器表付近から器表は浅黄色。器壁はやや薄く、口縁部は肥厚しない。口縁部は薄い玉縁状をなし、端部は小さく内湾し、端部は突き出る。口縁部端部の器表は滑感。使用により体部内面下部の器表は滑感。中位は平滑となる。	II期

種図番号  
図版番号

No.	器 種	出土位置	形態・素材	石 材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第341図 PL. 300	3	部編石?	-	柱状礫	変はれぬい	9.5	3.6	281.5	内面縁は加工され、ノッチ状を呈する。エッジは左右両辺とも滑れる。ノッチは対称性を欠いているが、指を掛けてみると、バランスよく配置されていることが分かる。
第341図 PL. 300	4	蔵石	-	楕円礫	粗粒輝石安山岩	10.9	11.0	1050.3	小・部・細縁に縦打痕があるほか、背面面に鋭い摩耗痕がある。

1区ピット

種図番号 PL. 番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第363図	5P	土師器 1罎	口縁部～胴部 上片	口 18.7	細砂粒・粗砂粒/良好/ぶい橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ撫で。	
第363図 PL. 300	6P	須恵器 1罎	完形	口 13.3 高 5.2 底 6.4 台 5.0	細砂粒・粗砂粒/酸化/ぶい黄橙	口ロク整形、回転右回り。底部は回転糸切り高台は貼付。	
第363図 PL. 300	17P	土師器 1鉢	ほぼ完形	口 × 19.3 17.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横撫で、下半は撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第363図 PL. 300	21P	土師器 1高杯	杯身部	口 12.9	細砂粒/良好/黄灰	杯身部が内外面とも赤色顔料。口縁部は横撫で、体部は口径0cmあたり12cm、底径はヘラ磨き。内面は全面的にヘラ磨き。	
第363図	21P	土師器 2鉢	口縁部～体部片	口 7.4	細砂粒/良好/黄灰	口縁部は横撫で、体部はヘラ磨き。内面もヘラ磨き。	
第363図	22P	須恵器 1罎	口縁部片	口 13.9	細砂粒・白色粒/還元/灰	口ロク整形。口縁部は内縁による区画、内縁の上下に波状突起が走る。	
第363図	23P	須恵器 1罎	口縁部～体部片	口 21.5 底 19.8	細砂粒/還元/灰白	口ロク整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第363図	32P	須恵器 1杯	2/3	口 12.6 高 3.4 底 5.9	細砂粒・粗砂粒/還元/灰白	口ロク整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第363図 PL. 300	45P	土師器 1罎	口縁部～胴部片	口 17.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫でで、口内面外面に内縁が走る。胴部外面縁のヘラ削り。内面縁のヘラ磨き。	胴部外面に輪痕み痕
第363図 PL. 300	67P	土師器 1杯	口縁部一部欠損	口 12.2 高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第364図	78P	須恵器 1罎	底部～胴部下片	底 9.8 台 10.0	細砂粒・白色粒/還元/灰	口ロク整形、回転右回り。高台は貼付。胴部下部は回転ヘラ削り。内面はヘラ撫で。	
第364図	84P	須恵器 罎	1/4	口 16.9 高 4.4 幅 6.4	細砂粒/還元/灰	口ロク整形、回転右回り。柄は縦状で、天井部外面回転ヘラ削り後の貼付。	内面に自然輪

種 図 図 版	図番	種別	器形	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土 色調	形・成調整等	備考
第364図	148P	在地系土器	皿	-	(7.1)	-	-	1/4	B にぶい黄橙	底部右回転糸切り無調整。体部は開く。器壁厚い。	中世

種図番号 PL. 番号	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第364図	178P	土師器 1器台	1/4	口 8.4	細砂粒/良好/橙	受部外面上半横、下半縦のヘラ磨き。内面放射状のヘラ磨き。脚部外面縁のヘラ磨き。内面撫で。胴部の穿孔は3孔。	
第364図	261P	土師器 1小空鉢	2/3	口 8.0 高 5.3 底 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部～体部外面縁のヘラ磨き。内面撫での撫で。	体部外面に黒色器面滑感
第364図	261P	土師器 2有孔鉢	体部～底部片	底 6.4 孔 2.5	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	体部外面縁のヘラ磨き。内面横のヘラ磨き。底部穿孔は外面側から。	体部下端に黒色

種別 図版 No.	種別 No.	器種	出上位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況	備考
第364図 PL.300	277P 1	磁石	フク上	扁平棒状	雲母石英片 岩	19.3	7.0	757.7	小口部上端が磨削され、大きく剥離する。	
種別 図版 No.	種別 No.	器種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要	
第364図	354P 1	土師器 土壇か	体部片		細砂粒/やや軟質/橙	体部下平から底部外面へラ削り、内面撫で。			断面磨粉っぽい未地	
種別 図版 No.	種別 No.	器種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	製作状況・使用状況			備考	
第364図 PL.300	366P 1	磁石	-	扁平棒状	黒色片岩	15.0	6.3	293.1	小口部内端・側縁が磨削され、磨削剥離する。	
種別 図版 No.	種別 No.	器種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要	
第364図	367P 1	土師器 小型壺	胴部片		細砂粒、/良好に ぶい黄橙	外面は斜めのヘラ磨き。内面は撫で、頸部に指頭痕が残る。				
第364図 PL.300	387P 1	土師器 1杯	口縁部一部欠損	口 10.0 高 3.4	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。				
第364図	421P 1	土師器 1杯	1/2	口 10.7 高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面に広く撫での部分を残す。内面撫で。				

## 1区1号溝

種別 図版 No.	種別 No.	器種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要
第373図	1	須恵器 杯	底部片	底 4.5	細砂粒/酸化/浅黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。			
第373図	2	手捏ね土器 椀形	口縁部・底部 一部欠損	口 5.5 高 3.0 底 4.8	細砂粒/良好/黄 橙	口縁部と底部はヘラ撫で。内面は撫で。			

## 1区2号溝

種別 図版 No.	種別 No.	器種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要
第373図	1	土師器 壺	口縁部片	口 17.0	細砂粒/良好/赤 い橙	口縁部は折り返し、上平は横位のハケ目後機付突起を貼付、下平は縦位のハケ目。内面はヘラ磨き。			
第373図	2	土師器 杯	1/4	口 11.8 高 3.0 底 7.6	細砂粒/良好/赤 い橙	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。			
第373図	3	須恵器 杯蓋	揃み〜天井部 片	揃 4.8	細砂粒/還元/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。杯蓋は貼付、天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。			
第373図	4	須恵器 皿	1/4	口 12.8 高 2.2 底 6.6 台 5.6	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り離し技法不明、高台は貼付。			
第373図	5	須恵器 杯	底部〜体部片	底 6.2	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。			
第373図	6	須恵器 杯	底部〜体部片	底 5.4	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。			
第373図	7	須恵器 甕	胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元/暗灰	外面は平行甲き痕、内面はアテ具痕が残る。			
第373図	8	須恵器 甕	胴部小片		細砂粒/還元/灰 白	外面は平行甲き痕、内面はアテ具痕が内面ともかすかに残る。			

種別 図版 No.	種別 No.	器種	出上位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土 色調	形・成調整等		備考
第373図	9	在土系 土器	大鉢 フク上	-	-	-	口縁部 から体 部片	A 灰黄 橙	断面と内面器表はこいみ黄、外面器表は灰黄緑色。口縁部は下位で内側に凹曲、口縁部上部は平坦で、内外面器表は突き出る。外面器表は横位磨き。断面は外面の凹曲と器形押しが顕著。		中世。
第373図	10	在土系 土器	片口 鉢	-	-	-	体部片	B 灰白	断面は白味が強く、器表付近から器表は灰色に近い。還元炎、夾雑物少なく、須恵器のような焼き締め。外面は撫で以前に縦位の刷毛目が入る。内面は使用により下部の器表が磨滅し、中位以上が平滑となる。外面上部に横撫でが見える。		中世。
第373図	11	在土系 土器	不詳	-	-	-	体部片	B にこい 黄橙	口縁部外反。下部の器壁厚く、口縁部は次第に薄くなる。		中世か。
種別 図版 No.	種別 No.	器種	出上位置	残存率	計測値		特徴・状態		備考		
第373図 PL.300	12	鉄製品 釘	履土		長 4.5, 幅 0.8 厚 0.5 重 3.3	断面はほぼ正方形の角釘。頭部は薄く伸ばしたのち折り曲げ成型する。頭部より3.5cm程で折れ曲がるが木質等の残存は見られず使用痕跡は確認できない。					

## 1区5号溝

種別 図版 No.	種別 No.	器種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要
第374図	1	土師器 台付甕	口縁部〜胴部 上半片	口 9.6	細砂粒/良好/赤 い黄橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6本)。内面胴部はヘラ撫で。			

## 1区8号溝

種別 図版 No.	種別 No.	器種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			摘要
第374図	1	土師器 甕	底部	底 9.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/ぶい黄橙	底部はヘラ削り、胴部は縦位のヘラ磨き。内面はヘラ撫で。			

第4章 発掘調査の記録

1区9号溝

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3748回 PL.300	1	土師器 杯	ほぼ完成形	口10.2 高3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへう削り。	
第3748回	2	須恵器 裏	胴部上位片		細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰白	口縁部とは接合。外面は平行四辺形、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

1区10号溝

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3748回	1	須恵器 裏	口縁部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元/暗灰	口縁部はロクロ整形。口縁端部は折り面付。口縁部に波状文が施る。	

1区13号溝

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3748回	1	土師器 台付裏	脚部～底部片	脚10.6	細砂粒/良好/赤褐色	脚部は内側に折り返し。外面は上平がへう撫で。内面はへう撫で。	

1区17号溝

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3748回	1	土師器 高杯	脚部片	脚16.7	細砂粒/良好/浅黄褐色	脚部はへう削り、基部は横撫で。内面はへう撫で。	
第3748回	2	土師器 裏	胴部片		細砂粒/良好/橙	凸帯は赤色塗彩。凸帯が貼付、胴部はハゲ目が残る。	
第3748回	3	須恵器 杯	底部～体部片	底7.0 台6.0	細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は貼付。	
第3748回	4	須恵器 羽釜	口縁部～胴部 上半片	口24.4 胴29.2 跨28.6	細砂粒/酸化/灰黄褐色	ロクロ整形、回転方向不明、跨は貼付。内面胴部はへう撫で。	

1区19号溝

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3750回	1	土師器 台付裏	脚部片	脚8.4	細砂粒/良好/橙	端部は内側に折り返し。外面はハゲ目が残る。内面は撫で。	内面脚部に砂粒の多い粘土が貼付。

1区22号溝

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要				
第3750回	1	須恵器 杯	底部～体部片	底5.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。					
検出 番号	西番	種別	器形	出土位置	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土 色調	形・成調調整等	備考
第3750回	2	常滑陶	片口鉢	-	-	-	-	口縁部片	灰褐色	断面は灰褐色。内面器表はふいふ赤褐色。外面器表は明赤褐色。推定直径は30cm前後。口縁部下で若干外反し。口縁端部は内側に大きく突き出る。口縁端部上面は椎かに窪む。体部外面は幾帳面工具による縦直線で、下に研毛状の撫で痕が僅かに残る。	片口鉢 Ⅱ Ⅲ中世
第3750回	3	在地区土器	片口土器	フク上	-	-	-	口縁部片	B 灰	還元炎。器壁は薄く、口縁端部内面は大きく突き出る。突出部先端の器表は磨滅。外面口縁部下は凸帯状に盛り上がる。破片右端に片口部残る。	Ⅱ～ Ⅴ期
第3750回	4	在地区土器	内耳鉢	フク上	-	-	-	体部片	B 灰	還元炎。器壁は厚い。口縁部内面下の段差は明瞭で、口縁部は内湾。	Ⅰ・ Ⅱ期 Ⅴ
検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要				
第3750回	5	土製品 紡錘車	4/3	径4.3	細砂粒・粗砂粒/ 内閃石/良好/にふい黄橙	器面に撫での面跡があることから、転用とは考えられない。					

1区23号溝

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3750回	1	土師器 高杯	杯身部～脚部下位	口11.0 椗12.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にふい黄橙	杯身部内面は黒色処理。口縁部は横撫で、体部は撫で。底部から脚部はへう削り。内面は杯身部の底部から体部に花弁状へう磨き(横文付)。脚部は撫で。	
第3750回	2	土師器 裏	口縁部～胴部下位片	口10.6 胴12.2	細砂粒/良好/にふい橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り、一部へう磨き。内面胴部はへう撫で。	
第3750回	3	土師器 裏	口縁部～胴部上位片	口19.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にふい黄橙	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへう削り。内面胴部はへう撫で。	

1区27号溝

検出番号 PL.番号	NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第3750回	1	土師器 有孔鉢	底部～体部下位	底4.7 底孔1.5	細砂粒/良好/にふい黄橙	底部はへう削り、体部はへう磨き。内面は底部がへう撫で、体部はへう磨き。	

## 1区30号溝

種別番号 PL.番号	NO.	器種	類	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第3758回	1	土師器 台付壺	脚部片		脚 9.6	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	脚部端部は内側に折り返し、脚部上位はハケ目(1cmあたり5本)。	脚部内面に砂粒の多い粘土付着。

## 1区遺構外

種別番号 PL.番号	回	器種	形状	現存	取上番号	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
第3768回 PL.300	1	深鉢	口縁部破片	19住居	粗砂、白色粒、 繊維	にぶい	青	ふっ	平口縁の口縁下に平行沈線を描き、以下の胴部にRとLによる羽状襷文を施す。	黒浜・有尾式
第3768回 PL.300	2	深鉢	口縁部破片	41住居	細砂、繊維	黄褐色	青	ふっ	平口縁の口縁下にコンパス文を描き、以下にLの縄文を施す。	黒浜・有尾式
第3768回 PL.300	3	深鉢	胴部破片	20住居	細砂、繊維	にぶい	青	ふっ	口縁部文様に平行沈線とコンパス文で文様を描く。	黒浜・有尾式
第3768回 PL.300	4	深鉢	口縁部破片	23溝	粗砂、繊維	にぶい	青	ふっ	平口縁の口縁以下にLとRによる羽状襷文を施す。	黒浜・有尾式
第3768回 PL.300	5	深鉢	口縁部破片	194住居	細砂、繊維	黄褐色	青	ふっ	平口縁の口縁以下にLの縄文を施す。口縁下に補綴孔をもつ。	黒浜・有尾式
第3768回 PL.300	6	深鉢	胴部破片	8住居	粗砂、繊維	にぶい	青	ふっ	胴部にLとRによる羽状襷文を施す。	黒浜・有尾式
第3768回 PL.300	7	深鉢	胴部破片	57住居	粗砂、繊維	にぶい	青	ふっ	胴部にRの縄文を施す。	黒浜・有尾式
第3768回 PL.300	8	深鉢	胴部破片	19土坑	粗砂、繊維	にぶい	青	ふっ	胴部にLの縄文を施す。	黒浜・有尾式
第3768回 PL.300	9	深鉢	胴部破片	表土	粗砂	灰黄褐色	青	ふっ	爪形刺突をもつ平行沈線で文様を描き、Lの縄文を施す。	諸磯a式
第3768回 PL.300	10	深鉢	胴部破片	12住居	細砂	青	青	ふっ	口縁部に縦帯および斜位の細い平行沈線で文様を描き、地文にRの縄文を施す。	諸磯a式
第3768回 PL.300	11	深鉢	口縁部破片	60住居	粗砂	暗褐色	青	ふっ	平口縁の口縁下に羽状列と集合沈線による横状矢羽根を描き、縦位の厚付文を配する。	諸磯c式
第3768回 PL.300	12	深鉢	口縁部破片	118住居	粗砂、石英	にぶい	青	ふっ	波状口縁の口唇部および口縁下に集合沈線を描く。	諸磯c式
第3768回 PL.300	13	深鉢	胴部破片	30土坑	粗砂	にぶい	青	ふっ	胴部に平行沈線で縦状矢羽根の文様を描く。	諸磯c式
第3768回 PL.300	14	深鉢	胴部破片	198ピット	粗砂、白色粒、 黒色粒	青	青	ふっ	胴部に結節沈線で文様を描く。	帯坂式
第3768回 PL.301	15	深鉢	胴部破片	97住居	粗砂、白色粒	暗褐色	青	ふっ	口縁部に隆帯と太い沈線で曲線的な文様を描き、胴部にLの縄文を施す。	加曾利E式
第3768回 PL.301	16	深鉢	胴部破片	118住居	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐色	青	ふっ	胴部に3本の懸垂文およびLの縄文を施す。	加曾利E式
第3768回 PL.301	17	深鉢	胴部破片	118住居	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐色	青	ふっ	胴部に懸垂文およびLの縄文を施す。	加曾利E式
第3768回 PL.301	18	深鉢	胴部破片	46住居	粗砂、黒色粒	明褐色	青	ふっ	胴部に懸垂文間を無文帯とし、Lの縄文を施す。	加曾利E式
第3768回 PL.301	19	深鉢	口縁部破片	表土	粗砂、白色粒	黄褐色	青	ふっ	波状口縁の口縁下が無文帯となり、把手が付く。口縁部文様を沈線で区画し、区画内にLの縄文を施す。	加曾利E式
第3768回 PL.301	20	深鉢	胴部破片	表土	粗砂、黒色粒	黄褐色	青	ふっ	口縁部無文帯を区画する隆帯を描き、以下に隆帯の懸垂文をもつ。	加曾利E式
第3768回 PL.301	21	深鉢	胴部破片	8住居	粗砂、細礫	赤褐色	青	ふっ	胴部に縦位の弧状の無文帯を隆帯で区画し、Lの縄文を施す。	加曾利E式
第3768回 PL.301	22	深鉢	胴部破片	93住居	粗砂、細礫	黄褐色	青	ふっ	胴部に縦位の無文帯を隆帯で区画し、Lの縄文を施す。	加曾利E式
第3768回 PL.301	23	深鉢	胴部破片	17住居	粗砂、白色粒	黄褐色	青	ふっ	口縁部無文帯を区画する輪をもつ隆帯を描き、以下に沈線で弧状(凹?)に区画し、区画内にLの縄文を施す。	加曾利E式
第3768回 PL.301	24	深鉢	胴部破片	95住居	粗砂	黄褐色	青	ふっ	胴部に沈線で「J」字文を描く。	称名寺式
第3768回 PL.301	25	深鉢	胴部破片	表土	細砂	黒褐色	良好	良好	刻みをもつ隆帯が巡る。	堀之内式
第3768回 PL.301	26	土鍋	胴へ胴上土	75住居	粗砂、細礫、 石英	黄褐色	良好	良好	胴下平と胸を欠損。胴部を隆帯と沈線および目、鼻、口を刺突で表現。胴部にも刺突あり、首腹は括れ、沈線の表面では横列、縦列で胴部へ大きく凸出する。胸腹には別が凸出して現存し、胴部から腹縁にかけての中央に沈線が有する。この沈線は、乳房上方からV字状となり、両側部へ続く。腹面には、後部部に粗粒の地味砂が残り、胴部中央には輪と円形の沈線、さらに三重の彫形沈線、欠損部付近に細い沈線が認められている。	後期
種別番号 図版番号	No.	器種	形態・素材	使用状況・製作状況		出土位置	石材	長	幅	重さ (g)
第3778回 PL.301	27	打製石斧	分銅型	完成状態。刃部摩耗。側縁は著しく潰れる。		-	硬質泥岩	15.5	7.4	31.5
第3778回 PL.301	28	打製石斧	短冊型	完成状態。刃部摩耗・捨断痕あり。刃部再生による刃部の発達・変形が著しい。		表採	頁岩	8.8	4.9	73.7
第3778回 PL.301	29	石鏃	平基無茎鏃	完成状態。器面を覆う剥離面構成は斜行平行剥離層を呈する。先端部を欠損。		-	チャート	(2.7)	1.7	1.6
第3778回 PL.301	30	石鏃	凹基無茎鏃	完成状態。大型三角鏃。側縁は鋭く内湾、返し部に被く。フク上一括		黒曜石		2.6	1.9	1.3

第4章 発掘調査の記録

種別番号 図版番号	No.	器種	形態・素材	使用状況・製作状況				出土位置	石材	長	幅	重さ (g)
第377図 PL.301	31	石磨	局部磨製石磨	完成状態。潤滑した基部側を研磨。先端部欠損。				表土	黒曜石	Ø.0	1.7	
第377図 PL.301	32	石磨	円基無蓋磨	完成状態。基部を深く抉る。				掘方	赤碧玉	2.7	1.8	1.5
第377図 PL.301	33	石磨	平基有蓋磨	完成状態。左側縁先端に縦位の衝撃割痕。				-	頁岩	3	1.7	1.5
第377図 PL.301	34	凹石	不定形	表裏面に集合打痕、側縁に打痕あり。				-	粗粒輝石安山岩	14.9	9.1	878.9
第377図 PL.301	35	多孔石	楕円礫	表裏面に多孔石の孔としては小さな孔を穿つ。				-	雲母石英片岩	34.4	13	7100.0
種別番号 PL.番号	No.	種別 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴			備考		
第377図	36	土師器 用	3/4	口 12.2	高 5.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、底部はへら削り。内面は口縁部に放射状へら磨き。					
第377図	37	土師器 用	1/4	口 11.0		細砂粒/良好/橙	頸部は凹縁が深る。口縁部から底部は縦位のへら磨き、内面は縦位のへら磨き後体部に横位のへら磨き。					
第377図	38	土師器 台付甕	口縁部～胴部上 位片	口 10.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(0cmあたり6本)、内面は胴部がへら撫で。					
第377図	39	土師器 用	口縁部～頸部片	口 16.2		細砂粒/良好/淡橙	口唇部は横撫で、口縁部は縦位のへら磨き。内面は横位のへら磨き。					
第377図	40	土師器 甕	底部～胴部下位 底	底 7.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部はへら削り、胴部はハケ目(0cmあたり5本)後一部にへら磨き。内面はハケ目。					
第377図	41	手捏ね土器 椀形	1/3	口 6.2 高 3.9 底 4.6		細砂粒/良好/明黄 褐色	外面口縁部に輪積み痕が残る。内外面とも撫で。					
第377図	42	土師器 甕	口縁部～胴部片	口 9.8 側 12.7		細砂粒/良好/淡黄 橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から胴部上半は縦位のへら磨き、体部下半はへら削り。内面は口縁部に斜めのへら磨き、胴部はへら撫で。					
第377図	43	土師器 杯	1/3	口 12.0 高 4.5 底 13.4		細砂粒/良好/橙/ にぶい黄橙	口縁部横撫で、体部(後)下から底部は手持ちへら削り。					
第377図	44	土師器 杯	口縁部～体部片	口 12.7 側 13.1		細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(後)下から底部は手持ちへら削り。					
第377図	45	土師器 杯	口縁部～底部片	口 13.4 側 12.3		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で、体部(後)下から底部は手持ちへら削り。					
第377図	46	土師器 杯	口縁部～底部片	口 12.7 側 13.0		細砂粒/良好/橙	口縁部横撫で、体部(後)下から底部は手持ちへら削り。					
第377図	47	土師器 脚付鉢	鉢身部2/3	口 12.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内面黒色処理。鉢身部は口縁部横撫で、体部(後)下から底部は手持ちへら削り。内面はへら磨き。					
第378図	48	須恵器 蓋	1/4	口 15.0 高 3.5		細砂粒/還元/橙/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央は回転系切り、その周囲は回転へら削り。					
第378図	49	須恵器 甕	2/3	口 13.6 高 5.8 底 6.6 台 5.5		細砂粒/酸化/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。					
第378図	50	須恵器 甕	底部～体部下 半	底 6.9 台 5.6		細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り、高台は貼付。					
第378図	51	須恵器 杯蓋	1/5	口 11.0		細砂粒/還元/灰白	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転へら削り。内面にカエリを有す。					
第378図	52	灰輪陶器 甕	底部～体部下 半片	底 8.2 台 8.0		微砂粒/還元/灰	ロクロ整形、回転方向不明。高台は貼付、体部下位は回転へら削り。撫触方法不明。					
第378図	53	須恵器 甕	口縁部片	口 30.0		細砂粒・粗砂粒/ 角四石/酸化/橙	ロクロ整形。口唇部に輪積み痕が残る。罫は貼付。			胴部下位にくび れをもつ形状で はなく、底面に 3～5か所の孔 をもつタイプ。		
第378図	54	須恵器 甕	口縁部～胴部上 位片	底 29.8 罫 28.4		細砂粒/還元/灰	ロクロ整形。罫は貼付。					
第378図	55	瓦片	一部片			細砂粒・粗砂粒/ 還元/灰オリーブ	表面に布目痕が残る。側面はへら削り。裏面は撫で。					
第378図	56	土製品 玉	完形	長 2.6 重 19.0 幅 2.8 孔 Ø.2		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は撫で。					
第378図 PL.301	57	土師器 ?蓋	3/4	径 4.3 × 高 1.4 底 3.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	積みは貼付か、積み中央部に穿孔の内方所。表裏とも撫で。					
種別番号 図版番号	No.	器種	出土位置	形態・素材	石材	長さ	幅	重さ (g)	製作状況・使用状況		備考	
第378図 PL.301	58	石製模造品	-	白玉	滑石	径1.1	高1.0	1.9	上下両面を研磨整形、側縁に縦位縦線痕を残す。			
種別 図版	No.	種別 器種	出土位置	残存率	計測値		特徴・状態					
第378図 PL.301	59	鉄製品 釘	-	-	長 3.2	幅 0.8	厚 0.5	重 5.5	断面はほぼ正方形の角釘、先端部分が欠く			
種別 図版	器種	種別 器種	出土位置	口径 (長)	口径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土 色調	形・成調整等		備考	
第378図	60	尾張陶 器	片口鉢	-	-	-	底部片	灰	高台端部は欠損。体部外面下部は回転削り。使用により内面の器表は磨滅し、平滑となる。		中世。	
第378図	61	中国磁 器	白磁 甕	(12.2)	-	-	1/8	灰白	口縁は下方に折り返す。素地が灰白色のため、器表はオリーブ灰色。口縁は下方に折り返す。素地が灰白色のため、器表はオリーブ灰色。口縁は下方に折り返す。素地が灰白色のため、器表はオリーブ灰色。		ロ～日 四世	